別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン　リュウコクダイガク 学校法人　龍谷大学								
フリガナ 大学の名称	リュウコクダイガク 龍谷大学　（Ryukoku University）								
大学本部の位置	京都府京都市伏見区深草塚本町67番地								
大学の目的	本学は教育基本法及び学校教育法にしたがい、浄土真宗の精神に基づく大学として、広く知識を授けるとともに、深く専門の諸学科を教授研究し、併せて有為の人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的	建学の精神に基づいて、事業創造とマーケティングの知識と幅広い教養を身につけ、実践的な学びを通じて社会の諸課題を実証的に把握し、市場や地域社会において継続的に新たな価値を創造し提供することのできる人間を育成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次 人	人				
	経営学部 [Faculty of Business Administration] 商学科 [Department of Commerce]	4	160	3年次 2	644	学士（経営学） 【Bachelor of Arts in Business Administration】	経済学関係	令和7年4月 第1年次 令和9年4月 第3年次	京都市伏見区深草塚本町67番地
	計		160	3年次 2	644				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行，名称の変更等）	○龍谷大学 ・経営学部 経営学科　〔定員減〕　（△139） （3年次編入学定員）　〔定員減〕　（△2） ・社会学部 総合社会学科　（450）（令和6年4月届出予定） （3年次編入学定員）　（10） 社会学科　（廃止）　（△210）（令和4年2月報告済み） （3年次編入学定員）　（△5） ※令和7年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和9年4月学生募集停止） コミュニティマネジメント学科　（廃止）　（△153）（令和4年2月報告済み） （3年次編入学定員）　（△3） ※令和7年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和9年4月学生募集停止） 現代福祉学科　（廃止）　（△195）（令和4年2月報告済み） （3年次編入学定員）　（△30） ※令和7年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和9年4月学生募集停止） ・先端理工学部 令和7年4月名称変更予定 環境生態工学課程→環境科学課程（令和6年4月届出済） 環境科学課程　〔定員減〕　（△15）								

同一設置者内における変更状況 （定員の移行， 名称の変更等）	・心理学研究科修士課程 臨床心理学専攻　（20）（令和6年4月届出予定） ・心理学研究科博士後期課程 臨床心理学専攻　（6）（令和6年4月届出予定） ・文学研究科修士課程 臨床心理学専攻　（廃止）　（△10）（令和5年9月報告済み） ※令和7年4月学生募集停止 ・文学研究科博士後期課程 臨床心理学専攻　（廃止）　（△2）（令和5年9月報告済み） ※令和7年4月学生募集停止 ○龍谷大学短期大学部 ・社会福祉学科　（廃止）　（△85）（令和3年12月報告済み） ※令和7年4月学生募集停止 ・こども教育学科　（廃止）　（△135）（令和5年5月報告済み） ※令和7月4月学生募集停止	

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	経営学部 商学科	635科目	28科目	8科目	671科目	125単位	

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	経営学部　商学科	人 8 (8)	人 6 (6)	人 1 (1)	人 0 (0)	人 15 (15)	人 0 (0)	人 406 (198)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	15 (15)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	8 (8)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	15 (15)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	8 (8)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	15 (15)			
	社会学部　総合社会学科	23 (21)	12 (11)	3 (3)	0 (0)	38 (35)	0 (0)	470 (224)	令和6年4月届出予定
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	23 (21)	12 (11)	3 (3)	0 (0)	38 (35)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 17人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	23 (21)	12 (11)	3 (3)	0 (0)	38 (35)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	23 (21)	12 (11)	3 (3)	0 (0)	38 (35)			
	計	31 (29)	18 (17)	4 (4)	0 (0)	53 (50)	0 (0)	― (―)	

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
既設分	文学部　真宗学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	1 (1)	363 (363)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
	文学部　仏教学科	5 (4)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (7)	0 (0)	363 (364)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (4)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (7)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	5 (4)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (7)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	5 (4)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (7)			
	文学部　哲学科	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	353 (353)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
	文学部　歴史学科	9 (10)	9 (7)	1 (1)	0 (0)	19 (18)	0 (0)	390 (389)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (9)	9 (7)	1 (1)	0 (0)	18 (17)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	小計（a ～ b）	9 (10)	9 (7)	1 (1)	0 (0)	19 (18)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	9 (10)	9 (7)	1 (1)	0 (0)	19 (18)			

	学部等の名称	基幹教員 教授	准教授	講師	助教	計	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
既	文学部　日本語日本文学科	4 (5)	4 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	353 (353)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	3 (4)	4 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	小計（a ～ b）	4 (5)	4 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	4 (5)	4 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
	文学部　英語英米文学科	5 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	349 (349)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	5 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (9)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	5 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (9)			
設	経済学部　現代経済学科	13 (15)	15 (12)	4 (4)	0 (0)	32 (31)	0 (0)	416 (416)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	13 (15)	15 (12)	4 (4)	0 (0)	32 (31)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 13人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	13 (15)	15 (12)	4 (4)	0 (0)	32 (31)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	13 (15)	15 (12)	4 (4)	0 (0)	32 (31)			
	経済学部　国際経済学科	12 (12)	6 (4)	2 (2)	0 (0)	20 (18)	0 (0)	434 (435)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 (12)	6 (4)	2 (2)	0 (0)	20 (18)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 10人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	12 (12)	6 (4)	2 (2)	0 (0)	20 (18)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
分	計（a ～ d）	12 (12)	6 (4)	2 (2)	0 (0)	20 (18)			

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
既	経営学部　経営学科	14 (18)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	21 (25)	0 (0)	461 (462)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	14 (18)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	21 (25)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 13人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	14 (18)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	21 (25)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	14 (18)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	21 (25)			
	法学部　法律学科	32 (34)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	47 (49)	0 (0)	489 (489)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	32 (34)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	47 (49)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 17人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	32 (34)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	47 (49)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	32 (34)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	47 (49)			
設	政策学部　政策学科	17 (20)	11 (8)	1 (1)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	450 (450)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	17 (20)	11 (8)	1 (1)	0 (0)	29 (29)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 14人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	17 (20)	11 (8)	1 (1)	0 (0)	29 (29)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	17 (20)	11 (8)	1 (1)	0 (0)	29 (29)			
	国際学部　国際文化学科	9 (15)	16 (10)	1 (1)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	308 (308)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (15)	16 (10)	1 (1)	0 (0)	26 (26)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	9 (15)	16 (10)	1 (1)	0 (0)	26 (26)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
分	計（a ～ d）	9 (15)	16 (10)	1 (1)	0 (0)	26 (26)			

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
既	国際学部　グローバルスタディーズ学科	9 (10)	5 (4)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	248 (248)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (10)	5 (4)	1 (1)	0 (0)	15 (15)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	9 (10)	5 (4)	1 (1)	0 (0)	15 (15)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	9 (10)	5 (4)	1 (1)	0 (0)	15 (15)			
	農学部　生命科学科	6 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	3 (3)	212 (212)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			
設	農学部　農学科	5 (6)	7 (6)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	4 (4)	210 (210)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (6)	7 (6)	2 (2)	0 (0)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	5 (6)	7 (6)	2 (2)	0 (0)	14 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	5 (6)	7 (6)	2 (2)	0 (0)	14 (14)			
	農学部　食品栄養学科	6 (7)	4 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	8 (8)	218 (218)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (7)	4 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (7)	4 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
分	計（ａ～ｄ）	6 (7)	4 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)			

	学部等の名称	基幹教員 教授	准教授	講師	助教	計	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
既	農学部　食料農業システム学科	5 (6)	6 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	211 (211)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (6)	6 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	5 (6)	6 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (13)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	5 (6)	6 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (13)			
	先端理工学部 数理・情報科学課程 知能情報メディア課程 電子情報通信課程 機械工学・ロボティクス課程 応用化学課程 環境科学課程※	43 (52)	31 (21)	12 (13)	6 (6)	92 (92)	16 (16)	218 (218)	※令和6年4月名称変更届出
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	43 (52)	31 (21)	12 (13)	6 (6)	92 (92)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 40人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	43 (52)	31 (21)	12 (13)	6 (6)	92 (92)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	43 (52)	31 (21)	12 (13)	6 (6)	92 (92)			
設	心理学部　心理学科	13 (13)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	21 (21)	1 (1)	334 (334)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	13 (13)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	21 (21)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	13 (13)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	21 (21)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	13 (13)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	21 (21)			
分	計	221 (253)	149 (118)	42 (43)	6 (6)	418 (420)	33 (33)	－ (－)	

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
既設分	龍谷ミュージアム	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	－ (－)	
合計		252 (282)	167 (135)	46 (47)	6 (6)	471 (470)	33 (33)	－ (－)	

職種	専属	その他	計	大学全体
	人	人	人	
事務職員	401 (401)	65 (65)	466 (466)	
技術職員	26 (26)	0 (0)	26 (26)	
図書館職員	17 (17)	4 (4)	21 (21)	
その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
指導補助者	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
計	444 (444)	69 (69)	513 (513)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	220,488.96㎡	154,698.6㎡	0㎡	375,187.56㎡	龍谷大学短期大学部と共用（法令上の必要面積：4,400㎡） （借用地） ○「校舎敷地／専用」内 ・面積：3,418.00㎡ 期間：永代借用 ・面積：292.87㎡ 期間：20年間 ○「その他／専用」内 ・面積：1,681.64㎡ 期間：20年間 ・面積：27,411.00㎡ 期間：20年間
	その他	229,654.31㎡	3,949.68㎡	0㎡	233,603.99㎡	
	合計	450,143.27㎡	158,648.28㎡	0㎡	608,791.55㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	171,124.37㎡ (171,124.37㎡)	86,364.83㎡ (86,364.83㎡)	6,307.07㎡ (6,307.07㎡)	263,796.27㎡ (263,796.27㎡)	龍谷大学短期大学部と共用 （法令上の必要面積：4,150㎡）

教室・教員研究室				
教室	773室	教員研究室	15室	大学全体

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
	経営学部 商学科	399,656〔145,826〕 (393,590〔145,025〕)	28,455〔851〕 (28,323〔848〕)	448〔199〕 (448〔199〕)	16〔16〕 (16〔16〕)	122,398 (122,398)	334 (334)	大学等全体で共用分 ・図書 2,005,279冊[うち外国書589,596]冊 ・電子図書 学部等単位での特定不能なため、大学全体の数 ・学術雑誌 16,575種[うち外国書4,394種] ・電子ジャーナル 8,407種[うち外国書8,345種]
	計	399,656〔145,826〕 (393,590〔145,025〕)	28,455〔851〕 (28,323〔848〕)	448〔199〕 (448〔199〕)	16〔16〕 (16〔16〕)	122,398 (122,398)	334 (334)	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	
	3,997.06㎡	617.06㎡	18,564.91㎡	大学全体

経費の見積及び維持方法の概要

区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
経費の見積り 教員１人当り研究費等		425千円	425千円	425千円	425千円	－ 千円	－ 千円
経費の見積り 共同研究費等		2,314千円	2,314千円	2,314千円	2,314千円	－ 千円	－ 千円
経費の見積り 図書購入費	10,544千円	10,544千円	10,544千円	10,544千円	10,544千円	－ 千円	－ 千円
経費の見積り 設備購入費	8,901千円	8,901千円	8,901千円	8,901千円	8,901千円	－ 千円	－ 千円

図書費には電子ｼﾞｬｰﾅﾙ・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの整備費（運用ｺｽﾄを含む）を含む。

学生１人当り納付金		第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
１年次入学	経営学部	1,101千円	1,101千円	1,101千円	1,101千円	－ 千円	－ 千円
3年次編・転入学	経営学部	－ 千円	－ 千円	1,201千円	1,101千円	－ 千円	－ 千円
3年次編・転入学	（本学学部出身者）	－ 千円	－ 千円	（1,101千円）	（1,101千円）	－ 千円	－ 千円
3年次編・転入学	（本学短大出身者）	－ 千円	－ 千円	（1,051千円）	（1,051千円）	－ 千円	－ 千円
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料，寄付金，補助金，受取利息・配当金収入，雑収入　等					

既設大学等の状況

大学等の名称：龍谷大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部						1.03 ≪0.98≫		（1,2年次）	
真宗学科	4	145	3年次 6	592	学士（文学）	0.98	平成4年度	京都市伏見区深草塚本町67番地	
仏教学科	4	118	3年次 5	482	学士（文学）	1.03 ≪0.98≫	昭和24年度		
哲学科	4	148	3年次 4	600	学士（文学）	1.05 ≪0.99≫	昭和24年度	（3,4年次）	
臨床心理学科	4	－	－	－	学士（文学）	－	平成24年度	京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	※令和5年度より学生募集停止（臨床心理学科）
歴史学科	4	267	3年次 9	1,086	学士（文学）	1.03 ≪0.99≫	昭和24年度		
日本語日本文学科	4	101	3年次 2	408	学士（文学）	1.04 ≪1.00≫	平成4年度		
英語英米文学科	4	101	3年次 2	408	学士（文学）	1.04 ≪1.00≫	平成4年度		
経済学部						1.02 ≪0.99≫		京都市伏見区深草塚本町67番地	※経済学部現代経済学科と国際経済学科は入学時一括募集（600名）を行う
現代経済学科	4	360	3年次 7	1,454	学士（経済学）	1.04 ≪1.01≫	平成18年度		
国際経済学科	4	240	3年次 5	970	学士（経済学）	1.00	平成18年度		
経営学部								京都市伏見区深草塚本町67番地	
経営学科	4	519	3年次 5	2,086	学士（経営学）	1.00	昭和41年度		
法学部								京都市伏見区深草塚本町67番地	
法律学科	4	445	3年次 5	1,790	学士（法学）	1.02 ≪0.99≫	昭和43年度		
理工学部						－		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※令和2年度より学生募集停止（理工学部）
数理情報学科	4	－	－	－	学士（理学）	－	平成元年度		
電子情報学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	平成元年度		
機械システム工学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	平成元年度		
物質化学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	平成元年度		
情報メディア学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	平成15年度		
環境ソリューション工学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	平成15年度		

既設大学等の状況

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
社会学部						1.01 ≪0.99≫		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
社会学科	4	210	3年次 5	850	学士(社会学)	1.04 ≪1.02≫	平成元年度		
コミュニティマネジメント学科	4	153	3年次 3	618	学士(社会学)	1.04 ≪1.02≫	平成16年度		
現代福祉学科	4	195	3年次 30	840	学士(社会福祉学)	0.96	平成28年度		
国際文化学部						―		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※平成27年度より学生募集停止（国際文化学部）
国際文化学科	4	―	―	―	学士(国際文化学)	―	平成8年度		
政策学部								京都市伏見区深草塚本町67番地	
政策学科	4	308	3年次 5	1,242	学士(政策学)	1.02 ≪1.00≫	平成23年度		
国際学部						1.03 ≪0.98≫		京都市伏見区深草塚本町67番地	
国際文化学科	4	372	3年次 20	1,528	学士(国際文化学)	1.03 ≪0.99≫	平成27年度		
グローバルスタディーズ学科	4	135	3年次 10	560	学士(グローバルスタディーズ)	1.05 ≪0.94≫	平成27年度		
農学部						1.00		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
生命科学科	4	90	3年次 8	376	学士(農学)	0.95	平成27年度		
農学科	4	134	3年次 9	554	学士(農学)	0.93	平成27年度		
食品栄養学科	4	80	3年次 4	328	学士(農学)	1.01 ≪1.00≫	平成27年度		
食料農業システム学科	4	134	3年次 9	554	学士(農学)	1.09 ≪1.06≫	平成27年度		
先端理工学部						0.96		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
数理・情報科学課程	4	103	3年次 2	408	学士(理学)	0.99	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
知能情報メディア課程	4	103	3年次 2	408	学士(工学)	1.00	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
電子情報通信課程	4	103	3年次 2	408	学士(工学)	0.98	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
機械工学・ロボティクス課程	4	113	3年次 2	448	学士(工学)	1.00	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
応用化学課程	4	103	3年次 2	408	学士(工学)	0.98	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
環境生態工学課程	4	103	3年次 2	408	学士(工学)	0.82	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
心理学部								（1,2年次） 京都市伏見区深草塚本町67番地 （3,4年次） 京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	※令和5年度開設
心理学科	4	255	―	510	学士（心理学）	1.00	令和5年度		

既設大学等の状況

大学等の名称	龍谷大学大学院								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
修士課程									
文学研究科						0.72		京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	
真宗学専攻	2	20	－	40	修士(文学)	0.57	昭和28年度		
仏教学専攻	2	20	－	40	修士(文学)	0.22	昭和28年度		
哲学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.21	昭和41年度		
教育学専攻	2	7	－	14	修士(教育学)	0.00	平成6年度		
臨床心理学専攻	2	10	－	20	修士(臨床心理学)	1.90	平成24年度		
日本史学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	2.14	昭和41年度		
東洋史学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	1.00	昭和41年度		
日本語日本文学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.85	昭和41年度		
英語英米文学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.28	昭和42年度		
法学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
法律学専攻	2	25	－	50	修士(法学)	0.30	昭和47年度		
経済学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
経済学専攻	2	30	－	60	修士(経済学)	0.26	昭和57年度		
経営学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
経営学専攻	2	30	－	60	修士(経営学)	0.06	昭和57年度		
社会学研究科						0.70		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
社会学専攻	2	10	－	20	修士(社会学)	1.10	平成3年度		
社会福祉学専攻	2	10	－	20	修士(社会福祉学)	0.30	平成3年度		
理工学研究科						－		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※令和6年度より学生募集停止（理工学研究科）
数理情報学専攻	2	－	－	－	修士(理学)	－	平成5年度		
電子情報学専攻	2	－	－	－	修士(工学)	－	平成5年度		
機械システム工学専攻	2	－	－	－	修士(工学)	－	平成5年度		
物質化学専攻	2	－	－	－	修士(工学)	－	平成5年度		
情報メディア学専攻	2	－	－	－	修士(工学)	－	平成19年度		
環境ソリューション工学専攻	2	－	－	－	修士(工学)	－	平成19年度		
実践真宗学研究科								京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	
実践真宗学専攻	3	30	－	90	修士(実践真宗学)	0.23	平成21年度		
政策学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
政策学専攻	2	20	－	40	修士(政策学)	0.87	平成23年度		

	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	農学研究科								滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	食農科学専攻	2	30	－	60	修士(食農科学)	1.20	平成30年度		
	国際学研究科						1.43		京都市伏見区深草塚本町67番地	
	国際文化学専攻	2	7	－	14	修士（国際文化学）	1.07	平成31年度		
	グローバルスタディーズ専攻	2	4	－	8	修士（グローバルスタディーズ）	1.62	平成31年度		
	言語コミュニケーション専攻	2	4	－	8	修士（言語コミュニケーション）	1.87	平成31年度		
	先端理工学研究科								滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※令和6年度開設
	先端理工学専攻	2	100	－	100	修士（理学） 修士（工学）	0.98	令和6年度		
	博士後期課程								京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	
	文学研究科						0.76			
	真宗学専攻	3	5	－	15	博士(文学)	1.13	昭和30年度		
	仏教学専攻	3	5	－	15	博士(文学)	0.40	昭和30年度		
	哲学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	0.00	昭和41年度		
	教育学専攻	3	3	－	9	博士(教育学)	0.11	平成12年度		
	臨床心理学専攻	3	2	－	6	博士(臨床心理学)	2.16	平成24年度		
	日本史学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	2.00	昭和41年度		
	東洋史学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	0.33	昭和41年度		
	日本語日本文学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	1.00	昭和41年度		
	英語英米文学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	0.00	昭和42年度		
	法学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	法律学専攻	3	5	－	15	博士(法学)	0.46	昭和49年度		
	経済学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	経済学専攻	3	3	－	9	博士(経済学)	0.33	昭和60年度		
	経営学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	経営学専攻	3	3	－	9	博士(経営学)	0.00	昭和60年度		
	社会学研究科						0.44		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	社会学専攻	3	3	－	9	博士(社会学)	0.11	平成3年度		
	社会福祉学専攻	3	3	－	9	博士(社会福祉学)	0.77	平成3年度		

既設大学等の状況

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
理工学研究科						—		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※令和6年度より学生募集停止（理工学研究科）
数理情報学専攻	3	—	—	—	博士(理学)	—	平成7年度		
電子情報学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成7年度		
機械システム工学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成7年度		
物質化学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成7年度		
情報メディア学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成21年度		
環境ソリューション工学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成21年度		
政策学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
政策学専攻	3	3	—	9	博士(政策学)	1.77	平成23年度		
農学研究科								滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
食農科学専攻	3	5	—	15	博士(食農科学)	1.26	平成30年度		
国際学研究科						0.83		京都市伏見区深草塚本町67番地	
国際文化学専攻	3	2	—	6	博士（国際文化学）	1.16	平成31年度		
グローバルスタディーズ専攻	3	2	—	6	博士（グローバルスタディーズ）	0.50	平成31年度		
先端理工学研究科									※令和6年度開設
先端理工学専攻	2	10	—	10	博士（理学） 博士（工学）	0.30	令和6年度	滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	

大学等の名称	龍谷大学短期大学部								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍			
短期大学部						0.57		京都市伏見区深草塚本町67番地	
社会福祉学科	2	85	—	170	短期大学士（社会福祉学）	0.60	昭和37年度		
こども教育学科	2	135	—	270	短期大学士（こども教育学）	0.55	平成23年度		

附属施設の概要	名　称：社会科学研究所 目　的：社会科学における各分野の枠にとらわれず、様々な分野の研究者との共同研究を推進することで、新たな社会科学の創造と発展に寄与することを目的とする。 所在地：京都市伏見区深草塚本町67　紫英館2階 設　立：昭和44（1969）年4月 規　模：634.17㎡	
	名　称：世界仏教文化研究センター 目　的：龍谷大学の建学の精神に基づき，仏教を機軸とした国際的な研究拠点を形成し，現代世界の切実な諸課題に応え得る指針を提示することで，国際交流の推進，教育への還元と社会への貢献を目的とする。 所在地：京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1　西黌123研究室、白亜館2階 設　立：平成27（2015）年4月1日 規　模：228.56㎡	
	名　称：人間・科学・宗教総合研究センター 目　的：本学の所有する資源を活かして、人間・科学・宗教に関連する高度な研究成果を国内外に発信し、本学が戦略的に行う研究を推進することを目的とする。 所在地：京都市伏見区深草塚本町67　紫英館2階 設　立：平成13（2001）年9月 規　模：96.22㎡	
	名　称：Ryukoku Extention Center 目　的：各学問分野の発展を基礎に，本学に対する社会的要請に応えるため，本学の教育・研究機能の公開の拠点とすることを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5　REC-HALL 京都市伏見区深草塚本町67　4号館2階 東大阪市荒本北50-5　クリエイション・コア東大阪内 設　立：平成3（1991）年4月 規　模：2,519.25㎡	
	名　称：龍谷ミュージアム 目　的：仏教文化を中心とした学術資料の収集，整理，保存，調査，研究及び展示公開等の博物館活動を継続的に行うとともに，本学における教育・研究の成果を広く社会に公開することを目的とする。 所在地：京都市下京区西中辻通正面下ル丸屋町117 設　立：平成23（2011）年4月 規　模：4,166.99㎡	
	名　称：科学技術共同研究センター 目　的：科学技術及びその関連分野に関する研究・開発を行い、科学技術の創造と発展に寄与し、あわせて研究成果の社会還元を図ることを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5　3号館3階 設　立：平成元（1989）年4月 面　積：28.35㎡	
	名　称：国際社会文化研究所 目　的：地域、社会、福祉、国際文化、国際共生及びその他の人文社会系に関する総合的学術研究並びに国際的研究交流を推進し，これらの分野における学術研究の向上に寄与するとともに研究成果の社会還元をはかることを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5　3号館3階 設　立：平成9（1997）年4月 規　模：26.25㎡	
	名　称：食と農の総合研究所 目　的：食と農に関する農学を中心とした複合的・学際的・国際的な研究を推進する。また、地域社会との連携をも視野に入れた研究を推進し、これらの分野における学術の向上に寄与するとともに研究成果の社会還元を図ることを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5　4号館3階 設　立：平成27（2015）年4月 規　模：55.00㎡	
	名　称：牧農場 目　的：農学部・農学研究科の教育・研究に資することを目的とする。 所在地：滋賀県大津市牧二丁目字牧 設　立：平成27（2015）年4月 規　模：27,411.00 ㎡	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A	1前	○	2			○								6	
		仏教の思想B	1後	○	2			○								6	
		歎異抄の思想Ⅰ	2前			2		○								2	
		歎異抄の思想Ⅱ	2後			2		○								2	
		小計（4科目）	－	－	4	4	0	－			0	0	0	0	0	8	
	言語科目	英語総合1(A)	1前	○	1			○								14	
		英語総合1(B)	1前	○	1			○								15	
		英語総合2(A)	1後	○	1			○								14	
		英語総合2(B)	1後	○	1			○								15	
		英語総合3(A)	2前	○		1		○								11	
		英語総合3(B)	2前	○		1		○				1				10	
		英語総合4(A)	2後	○		1		○								11	
		英語総合4(B)	2後	○		1		○				1				10	
		英語セミナーA1	1前			2		○								2	
		英語セミナーA2	1後			2		○								2	
		英語セミナーB1	2前			2		○								1	
		英語セミナーB2	2後			2		○								1	
		英語セミナーC1	2前			2		○								1	
		英語セミナーC2	2後			2		○								1	
		英語セミナーD1	3前			2		○								1	
		英語セミナーD2	3後			2		○								1	
		英語セミナーE1	2前			2		○								1	
		英語セミナーE2	2後			2		○								1	
		英語セミナーF1	2前			2		○								1	
		英語セミナーF2	2後			2		○								1	
		英語セミナーG1	1前			2		○								1	
		英語セミナーG2	1後			2		○								1	
		英語セミナーH1	3前			2		○								1	
		英語セミナーH2	3後			2		○								1	
		英語セミナーI1	1前			2		○								1	
		英語セミナーI2	1後			2		○								1	
		英語セミナーJ1	3前			2		○								1	
		英語セミナーJ2	3後			2		○								1	
		英語資格試験セミナー	1後			2		○								1	
		海外英語研修	1後			2		○								1	
		ドイツ語Ⅰ	1前	○		2		○								6	
		ドイツ語Ⅱ	1後	○		2		○								6	
		ドイツ語ⅢA	2前	○		1		○								1	
		ドイツ語ⅢB	2後	○		1		○								1	
		ドイツ語ⅢC	2前	○		1		○								1	
		ドイツ語ⅢD	2後	○		1		○								1	
		フランス語Ⅰ	1前	○		2		○								6	
		フランス語Ⅱ	1後	○		2		○								6	
		フランス語ⅢA	2前	○		1		○								1	
		フランス語ⅢB	2後	○		1		○								1	
		フランス語ⅢC	2前	○		1		○								1	
		フランス語ⅢD	2後	○		1		○								1	
		中国語Ⅰ	1前	○		2		○								16	
		中国語Ⅱ	1後	○		2		○								16	
		中国語ⅢA	2前	○		1		○								2	
		中国語ⅢB	2後	○		1		○								2	
		中国語ⅢC	2前	○		1		○								2	
		中国語ⅢD	2後	○		1		○								2	
		スペイン語Ⅰ	1前	○		2		○								6	
		スペイン語Ⅱ	1後	○		2		○								6	
		スペイン語ⅢA	2前	○		1		○								1	
		スペイン語ⅢB	2後	○		1		○								1	
		スペイン語ⅢC	2前	○		1		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	言語科目	スペイン語ⅢD	2後	○		1		○								1	
		コリア語Ⅰ	1前	○		2		○					1			12	
		コリア語Ⅱ	1後	○		2		○					1			12	
		コリア語ⅢA	2前	○		1		○								2	
		コリア語ⅢB	2後	○		1		○								2	
		コリア語ⅢC	2前	○		1		○								2	
		コリア語ⅢD	2後	○		1		○								2	
		ドイツ語セミナーⅠA	2前			2		○								2	
		ドイツ語セミナーⅠB	2後			2		○								2	
		ドイツ語セミナーⅠC	2前			2		○								1	
		ドイツ語セミナーⅠD	2後			2		○								1	
		ドイツ語セミナーⅡA	3前			2		○								1	
		ドイツ語セミナーⅡB	3後			2		○								1	
		ドイツ語セミナーⅡC	3前			2		○								1	
		ドイツ語セミナーⅡD	3後			2		○								1	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	2後			2		○								1	
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	3前			2		○								1	
		フランス語セミナーⅠA	2前			2		○								2	
		フランス語セミナーⅠB	2後			2		○								2	
		フランス語セミナーⅠC	2前			2		○								2	
		フランス語セミナーⅠD	2後			2		○								2	
		フランス語セミナーⅡA	3前			2		○								1	
		フランス語セミナーⅡB	3後			2		○								1	
		フランス語セミナーⅡC	3前			2		○								1	
		フランス語セミナーⅡD	3後			2		○								1	
		フランス語コミュニケーションⅠ	2後			2		○								1	
		フランス語コミュニケーションⅡ	3前			2		○								1	
		中国語セミナーⅠA	2前			2		○								2	
		中国語セミナーⅠB	2後			2		○								2	
		中国語セミナーⅠC	2前			2		○								1	
		中国語セミナーⅠD	2後			2		○								1	
		中国語セミナーⅡA	3前			2		○								1	
		中国語セミナーⅡB	3後			2		○								1	
		中国語セミナーⅡC	3前			2		○								1	
		中国語セミナーⅡD	3後			2		○								1	
		中国語コミュニケーションⅠ	2後			2		○								1	
		中国語コミュニケーションⅡ	3前			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅠA	2前			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅠB	2後			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅠC	2前			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅠD	2後			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅡA	3前			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅡB	3後			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅡC	3前			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅡD	3後			2		○								1	
		スペイン語コミュニケーションⅠ	2後			2		○								1	
		スペイン語コミュニケーションⅡ	3前			2		○								1	
		コリア語セミナーⅠA	2前			2		○								1	
		コリア語セミナーⅠB	2後			2		○								1	
		コリア語セミナーⅠC	2前			2		○								1	
		コリア語セミナーⅠD	2後			2		○								1	
		コリア語セミナーⅡA	3前			2		○								1	
		コリア語セミナーⅡB	3後			2		○								1	
		コリア語セミナーⅡC	3前			2		○								1	
		コリア語セミナーⅡD	3後			2		○								1	
		コリア語コミュニケーションⅠ	2後			2		○								1	
		コリア語コミュニケーションⅡ	3前			2		○								1	
		海外中国語研修講座	2前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	言語科目		ポルトガル語Ⅰ	2前			2		○								1	
			ポルトガル語Ⅱ	2後			2		○								1	
			ポルトガル語ⅢA	3前			2		○								1	
			ポルトガル語ⅢB	3後			2		○								1	
			ロシア語Ⅰ	2前			2		○								1	
			ロシア語Ⅱ	2後			2		○								1	
			ロシア語ⅢA	3前			2		○								1	
			ロシア語ⅢB	3後			2		○								1	
			ラテン語Ⅰ	2前			1		○								1	
			ラテン語Ⅱ	2後			1		○								1	
			ギリシア語Ⅰ	2前			1		○								1	
			ギリシア語Ⅱ	2後			1		○								1	
			ペルシア語Ⅰ	2前			2		○								1	
			ペルシア語Ⅱ	2後			2		○								1	
			トルコ語Ⅰ	2前			2		○								1	
			トルコ語Ⅱ	2後			2		○								1	
			アラビア語Ⅰ	2前			2		○								1	
			アラビア語Ⅱ	2後			2		○								1	
			日本語	1前	○		1		○								4	
			小計（130科目）	－	－	4	223	0	－			0	1	1	0	0	126	
	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	1前	○		2		○								1	
			哲学A	1前	○		2		○								3	
			哲学B	2前			2		○								2	
			倫理学入門	1前	○		2		○								1	
			倫理学A	1前	○		2		○								2	
			倫理学B	2前			2		○								2	
			クリティカル・シンキング	1前	○		2		○								1	
			論理学	2前			2		○								1	
			宗教学入門	1前	○		4		○			1						
			宗教の世界A	1前	○		2		○			1					1	
			宗教の世界B	1後	○		2		○			1					1	
			中国の思想A	1前	○		2		○								1	
			中国の思想B	1後	○		2		○								1	
			芸術の世界A	2前			2		○								2	
			芸術の世界B	2後			2		○								2	
			日本の文学A	1前	○		4		○								2	
			日本の文学B	1後	○		4		○								2	
			日本の文学C	2前			2		○								1	
			アジアの文学A	1前	○		2		○								1	
			アジアの文学B	1前	○		2		○								1	
			西洋の文学A	1前	○		2		○								3	
			西洋の文学B	1後	○		2		○								3	
			文章表現法A	1前	○		2		○								2	
			文章表現法B	1後	○		2		○								2	
			言語と文化	1前	○		2		○								2	
			歴史学入門	2前			2		○								2	
			日本の歴史A	1前	○		4		○								1	
			日本の歴史B	1後	○		4		○								1	
			日本の文化	2後			4		○								1	
			アジアの歴史A	1前	○		4		○								3	
			アジアの歴史B	1後	○		4		○								2	
			アジアの文化	2前			2		○								2	
			西洋の歴史A	1前	○		4		○								1	
			西洋の歴史B	2前	○		2		○								1	
			西洋の歴史C	2後			2		○								1	
			現代世界の歴史A	1前	○		2		○								2	
			現代世界の歴史B	1後	○		2		○								2	
			心理学	1前	○		4		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	心の科学A	1前	○		2		○								2	
			心の科学B	1後	○		2		○								2	
			応用心理学A	2前			2		○								1	
			応用心理学B	2後			2		○								1	
			教育学のすすめA	1前	○		2		○								3	
			教育学のすすめB	1後	○		2		○								3	
			現代社会と教育A	2前			2		○								1	
			現代社会と教育B	2後			2		○								1	
			教育原論A	2前			2		○								1	
			教育原論B	2後			2		○								1	
			学習・発達論A	2前			2		○								3	
			学習・発達論B	2後			2		○								3	
			人文科学セミナー	2通			4		○			1					6	
			大学論	2前			2		○			1					9	オムニバス
			小計（52科目）	－	－	0	126	0	－			1	0	0	0	0	49	
		社会科学系科目	日本国憲法	1前	○		2		○								6	
			法学のすすめ	1前	○		2		○								2	
			政治学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会学のすすめ	1前	○		2		○								2	
			地理学のすすめ	1前	○		2		○			1						
			経済学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			国際学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			文化人類学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会調査のすすめ	1前	○		2		○				1				1	
			社会統計学のすすめ	1前	○		2		○								2	
			人権論A	1前	○		2		○				1					
			人権論B	1後	○		2		○								1	
			現代社会とメディア	2前			2		○								2	
			現代社会と福祉	2前			2		○								1	
			現代社会と法	2前			2		○								1	
			環境と社会	2前			2		○								2	
			平和学A	2前			2		○								2	
			ジェンダー論	2前			2		○								2	
			国際社会論	2前			2		○								2	
			現代社会の諸問題	2前			2		○				1				9	オムニバス
			地域論	2前			2		○			1						
			現代社会と労働	2前			2		○								1	
			社会思想史	2前			2		○								1	
			英語で学ぶ日本の社会A	1前			2		○								1	
			英語で学ぶ日本の社会B	1前			2		○								1	
			データサイエンス・AI入門	1前			2		○								2	
			小計（26科目）	－	－	0	52	0	－			1	1	0	0	0	37	
		自然科学系科目	数学入門	1前	○		2		○								3	
			数学への旅	1前	○		2		○								3	
			確率・統計入門	1前	○		2		○								2	
			微分と積分	1前			4		○								1	
			行列と行列式	1前			4		○								1	
			数理統計学	2前			4		○								1	
			数理と計算	2前			2		○								1	
			数学の世界	2前			4		○								2	
			数理と論証	2前			2		○								1	
			宇宙の科学Ⅰ	1前	○		4		○								1	
			宇宙の科学Ⅱ	2前			2		○								1	
			地球科学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			地球科学	1後			2		○								1	
			物理科学の世界	1前	○		4		○								2	
			時間と空間の科学	1前	○		2		○								2	
			エネルギー入門	2前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	自然科学史Ⅰ	1前	○		2		○								1	
			自然科学史Ⅱ	2前			2		○								2	
			科学論	2前			2		○								2	
			技術論	2後			2		○								1	
			平和学B	2前			2		○								1	
			里山学	1前			2		○								7	オムニバス
			生物科学のすすめ	1前	○		4		○								1	
			生命科学のすすめ	1前	○		2		○								2	オムニバス
			生命科学	1後			2		○								1	
			生態学のすすめ	1前	○		4		○								1	
			人類学のすすめ	1前	○		4		○								1	
			日本の自然	1前			4		○								8	オムニバス
			生命誌	2前			2		○								1	
			植物の自然誌	2前			2		○								2	
			動物の自然誌	2前			2		○								1	
			民族の自然誌	2前			2		○								1	
			人類進化学	2前			2		○								1	
			人間の生物学Ⅰ	2前			2		○								1	
			人間の生物学Ⅱ	2後			2		○								1	
			自然誌実習	2前			4		○								5	オムニバス
			野外観察法	2前			2		○								2	
			環境学	1前	○		4		○								3	
			情報科学入門	2前	○		2		○								1	
			情報科学Ⅰ	2後			2		○								1	
			情報科学Ⅱ	3前			2		○								1	
			情報科学実習	1後			4		○								2	
			小計（42科目）	－	－	0	110	0	－			0	0	0	0	0	37	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2前			2		○								2	
			現代社会とスポーツ	1後			2		○								2	
			スポーツ技術学演習	1前	○		2			○							10	
			人間とスポーツ	1前			2		○								1	
			スポーツと人権・平和	2前			2		○								1	
			スポーツ文化史	2前			2		○								1	
			スポーツ科学最前線	1前			2		○								1	
			小計（7科目）	－	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	12	
			教養教育科目特別講義	1前			2		○				1				8	オムニバス
			English language (Ryukoku Intercultural Program)	1前			12		○								1	
			Lecture (Ryukoku Intercultural Program)	1前			6		○								1	
			Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)	1前			6		○								1	
			小計（4科目）	－	－	0	26	0	－			0	1	0	0	0	9	
専攻科目	基礎科目		情報リテラシー	1前	○		1		○				1					
			社会調査入門	1前	○	2			○			1						
			ベーシックアカウンティングⅠ	1前	○		2		○			1						
			ベーシックマーケティング	1前	○		2		○			1						
			ビジネスケーススタディＡ	1前	○	2			○				1					
			ビジネスケーススタディＢ	1前	○	2			○				1					
			プロジェクト入門	1後	○		2		○			2	1					
			キャリア＆ライフマネジメント	2前	○		2		○				2					オムニバス
			社会調査実践	2前	○		2		○			1					1	
			フレッシャーズゼミ	1前	○		2			○		5	2	1				
			アカデミックスキルズＡ	1後	○	2				○		5	2					
			アカデミックスキルズＢ	2前	○		2			○		5	2					
			小計（12科目）	－	－	8	15	0	－			8	4	1	0	0	1	
	専門科目		ベーシックアカウンティングⅡ	1後			2		○								1	
			流通システム論	1後			2		○			1						
			ビジネスヒストリー入門	1後			2		○				1					
			グローバルビジネスの基礎	1後			2		○			1						
			ワークルール入門	1後			2		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	専門科目	プロジェクト実践	2前			4		○			1	1					共同
		マーケティングリサーチ	2前			2		○			1					1	オムニバス
		コンテンツビジネス実践Ⅰ	2前			2		○								1	
		起業家行動論	2前			2		○				1					
		企業システム論	2前			2		○			1						
		マーケティング論	2前			2		○			1						
		消費者問題論	2前			2		○			1					1	共同
		グローバルビジネス	2前			2		○			1						
		ビジネスヒストリーＡ	2前			2		○				1					
		経営立地論	2前			2		○			1						
		ローカルビジネスのフロンティア	2後			4		○			1	1					共同
		コンテンツビジネス実践Ⅱ	2後			4		○								1	
		デザインマネジメント実践	2後			4		○								1	
		社会データ分析	2後			2		○				1					
		地域企業論	2後			2		○				1					
		京都企業論	2後			2		○			1					2	オムニバス
		事業システム論	2後			2		○								1	
		グローバルストラテジー	2後			2		○			1						
		ソーシャルマーケティング	2後			2		○			1						
		商品開発論	2後			2		○			1						
		ビジネスヒストリーＢ	2後			2		○								1	
		コンテンツビジネス論	2後			2		○								3	オムニバス
		食農ビジネスのフロンティア	3前			4		○			1	1					共同
		地域と企業	3前			4		○				1					
		京都企業の現場	3前			2		○			1						
		デジタルマーケティング	3前			2		○								1	
		空間データ分析	3前			2		○								1	
		ケースで学ぶアカウンティング	3前			2		○								1	
		ソーシャルビジネス論	3前			2		○								1	
		グローバルマーケティング	3前			2		○								1	
		ロジスティクス	3前			2		○								1	
		中小企業経営論	3前			2		○								1	
		地域資源論	3前			2		○			1						
		ビジネスイノベーション	3前			2		○								1	
		ケースで学ぶローカルファイナンス	3後			2		○								1	
		アジア企業経営論	3後			2		○			1						
		ケースで学ぶビジネスヒストリー	3後			2		○				1					
		文献講読Ａ	3後			2		○			1						
		文献講読Ｂ	4前			2		○			1						
		演習Ⅰ	2後～3前	○		4			○		5	4					
		演習Ⅱ（演習研究含む）	3後～4後	○		6			○		5	4					
		経営学基礎論	1前			2		○								1	
		経営情報学Ⅰ	1前			2		○								1	
		簿記入門	1前			2		○								1	
		経営管理論	1後			2		○								1	
		経営データ分析Ⅰ	1後			2		○								1	
		初級商業簿記	1後			2		○								1	
		財務諸表分析入門	1後			2		○								1	
		経営意思決定論	2前			2		○								1	
		経営情報システム論	2前			2		○								1	
		中級商業簿記	2前			2		○								1	
		財務会計入門	2前			2		○								1	
		工業簿記	2前			2		○								1	
		プログラミングⅠ	2後			2		○								1	
		財務会計論	2後			2		○								1	
		プログラミングⅡ	3前			2		○								1	
		スポーツと経済	3前			2		○								1	
		スポーツマネジメント論	3前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	専門科目		スポーツ政策論	3前			2		○								1	
			スポーツマーケティング論	3後			2		○								1	
			Global Understanding and Communication	3後			4		○				1					メディア
			統計学	1後			4		○								1	
			ファイナンス理論	2後			4		○								1	
			アジア経済論A	2後			2		○								1	
			アジア経済論B	2後			2		○								1	
			中国経済論A	2後			2		○								1	
			中国経済論B	2後			2		○								1	
			国際金融論	3前			4		○								1	
			商法	2前			2		○								1	
			民法	2後			2		○								1	
			会社法	2後			2		○								1	
			労働法	3前			2		○								1	
			経済法	3後			2		○								1	
			中国政治論	2後			2		○								1	
			アジア政治論	3後			4		○								1	
			京都市の産業と産業政策	2後			2		○								1	
			上級外国語Ａ（ドイツ）	2前			2		○								2	
			上級外国語Ｂ（ドイツ）	2後			2		○								2	
			上級外国語Ｃ（ドイツ）	2前			2		○								1	
			上級外国語Ｄ（ドイツ）	2後			2		○								1	
			上級外国語Ａ（フランス）	2前			2		○								2	
			上級外国語Ｂ（フランス）	2後			2		○								2	
			上級外国語Ｃ（フランス）	2前			2		○								2	
			上級外国語Ｄ（フランス）	2後			2		○								2	
			上級外国語Ａ（中国）	2前			2		○								2	
			上級外国語Ｂ（中国）	2後			2		○								2	
			上級外国語Ｃ（中国）	2前			2		○								1	
			上級外国語Ｄ（中国）	2後			2		○								1	
			上級外国語Ａ（スペイン）	2前			2		○								1	
			上級外国語Ｂ（スペイン）	2後			2		○								1	
			上級外国語Ｃ（スペイン）	2前			2		○								1	
			上級外国語Ｄ（スペイン）	2後			2		○								1	
			上級外国語Ａ（コリア）	2前			2		○								1	
			上級外国語Ｂ（コリア）	2後			2		○								1	
			上級外国語Ｃ（コリア）	2前			2		○								1	
			上級外国語Ｄ（コリア）	2後			2		○								1	
			職業指導	3通			4		○								1	
			キャリア実習・実習指導	1通			2				○						1	
			キャリア実習・実習指導（大学コンソーシアム京都）	1通			4				○						1	
			小計（104科目）	－	－	0	240	0	－			6	5	0	0	0	56	
	学部共通コース科目	国際関係コース	国際関係論Ⅰ	2後	○		2		○								1	
			地域研究入門	2後	○		2		○								1	
			中国語セミナーⅠA	3前	○		2		○								2	
			中国語セミナーⅠB	2後	○		2		○								2	
			中国語セミナーⅠC	3前	○		2		○								1	
			中国語セミナーⅠD	2後	○		2		○								1	
			中国語セミナーⅡA	3前	○		2		○								1	
			中国語セミナーⅡB	3後	○		2		○								1	
			中国語セミナーⅡC	3前	○		2		○								1	
			中国語セミナーⅡD	3後	○		2		○								1	
			海外中国語研修講座	3前	○		2		○								1	
			ドイツ語セミナーⅠA	3前	○		2		○								2	
			ドイツ語セミナーⅠB	2後	○		2		○								2	
			ドイツ語セミナーⅠC	3前	○		2		○								1	
			ドイツ語セミナーⅠD	2後	○		2		○								1	
			ドイツ語セミナーⅡA	3前	○		2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	ドイツ語セミナーⅡB	3後	○		2		○								1	
			ドイツ語セミナーⅡC	3前	○		2		○								1	
			ドイツ語セミナーⅡD	3後	○		2		○								1	
			フランス語セミナーⅠA	3前	○		2		○								2	
			フランス語セミナーⅠB	2後	○		2		○								2	
			フランス語セミナーⅠC	3前	○		2		○								2	
			フランス語セミナーⅠD	2後	○		2		○								2	
			フランス語セミナーⅡA	3前	○		2		○								1	
			フランス語セミナーⅡB	3後	○		2		○								1	
			フランス語セミナーⅡC	3前	○		2		○								1	
			フランス語セミナーⅡD	3後	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーⅠA	3前	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーⅠB	2後	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーⅠC	3前	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーⅠD	2後	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーⅡA	3前	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーⅡB	3後	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーⅡC	3前	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーⅡD	3後	○		2		○								1	
			コリア語セミナーⅠA	3前	○		2		○								1	
			コリア語セミナーⅠB	2後	○		2		○								1	
			コリア語セミナーⅠC	3前	○		2		○								1	
			コリア語セミナーⅠD	2後	○		2		○								1	
			コリア語セミナーⅡA	3前	○		2		○								1	
			コリア語セミナーⅡB	3後	○		2		○								1	
			コリア語セミナーⅡC	3前	○		2		○								1	
			コリア語セミナーⅡD	3後	○		2		○								1	
			ポルトガル語Ⅰ	3前	○		2		○								1	
			ポルトガル語Ⅱ	2後	○		2		○								1	
			ポルトガル語ⅢA	3前	○		2		○								1	
			ポルトガル語ⅢB	3後	○		2		○								1	
			ロシア語Ⅰ	3前	○		2		○								1	
			ロシア語Ⅱ	2後	○		2		○								1	
			ロシア語ⅢA	3前	○		2		○								1	
			ロシア語ⅢB	3後	○		2		○								1	
			英語セミナーD1	3前	○		2		○								1	
			英語セミナーD2	3後	○		2		○								1	
			英語セミナーG1	3前	○		2		○								1	
			英語セミナーG2	3後	○		2		○								1	
			英語セミナーH1	3前	○		2		○								1	
			英語セミナーH2	3後	○		2		○								1	
			英語セミナーJ1	3前	○		2		○								1	
			英語セミナーJ2	3後	○		2		○								1	
			英語コミュニケーションⅠ	2後	○		2		○								1	
			英語コミュニケーションⅡ	3前	○		2		○								1	
			Intercultural Discussion	3前	○		2		○								1	
			中国語コミュニケーションⅠ	2後	○		2		○								1	
			中国語コミュニケーションⅡ	3前	○		2		○								1	
			ドイツ語コミュニケーションⅠ	2後	○		2		○								1	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ	3前	○		2		○								1	
			スペイン語コミュニケーションⅠ	2後	○		2		○								1	
			スペイン語コミュニケーションⅡ	3前	○		2		○								1	
			フランス語コミュニケーションⅠ	2後	○		2		○								1	
			フランス語コミュニケーションⅡ	3前	○		2		○								1	
			コリア語コミュニケーションⅠ	2後	○		2		○								1	
			コリア語コミュニケーションⅡ	3前	○		2		○								1	
			ヨーロッパ研究A	2後			2		○								1	
			ヨーロッパ研究B	3前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	ヨーロッパ研究C	2後			2		○								1	
			ヨーロッパ研究D	3前			2		○								1	
			東アジア研究A	2後			2		○								1	
			東アジア研究B	3前			2		○								1	
			東南アジア研究A	2後			2		○								1	
			東南アジア研究B	3前			2		○								1	
			北米研究A	2後			2		○								1	
			北米研究B	3前			2		○								1	
			中南米研究A	2後			2		○								1	
			中南米研究B	3前			2		○								1	
			グローバル・サウス研究A	2後			2		○								1	
			グローバル・サウス研究B	3前			2		○								1	
			異文化研究A	2後			2		○								1	
			異文化研究B	3前			2		○								1	
			多文化映像論A	2後			2		○								1	
			多文化映像論B	3前			2		○								1	
			国際関係論Ⅱ	3前			2		○								1	
			現代国際関係史	2後			2		○								1	
			国際ジャーナリズム論	3前			2		○								1	
			グローバル経済史A	3前			2		○								1	
			グローバル経済史B	2後			2		○								1	
			国際金融論	3前			4		○								1	
			国際協力論	2後			4		○								1	
			アジア経済史	3前			4		○								1	
			ヨーロッパ経済史	2後			4		○								1	
			地域経済論	2後			4		○								1	
			アジア経済論A	2後			2		○								1	
			アジア経済論B	2後			2		○								1	
			比較経済論A	3前			2		○								1	
			比較経済論B	2後			2		○								1	
			開発経済学A	2後			2		○								1	
			開発経済学B	2後			2		○								1	
			ヨーロッパ経済論	2後			4		○								1	
			食・農・資源の経済論A	2後			2		○								1	
			食・農・資源の経済論B	2後			2		○								1	
			日本経済史A	3前			2		○								1	
			日本経済史B	3前			2		○								1	
			経済地理学A	3前			2		○								1	
			経済地理学B	2後			2		○								1	
			経済思想史	3前			2		○								1	
			社会調査の技法	3前			2		○								1	
			フィールドワークの技法	2後			2		○								1	
			グローバルビジネス	3前			2		○			1						
			多国籍企業論	2後			2		○								1	
			国際経営戦略論	3前			2		○								1	
			ビジネスヒストリーＡ	3前			2		○				1					
			社会データ分析	2後			2		○				1					
			アジア企業経営論	3後			2		○			1						
			国際法Ⅰ	2後			4		○								1	
			国際法Ⅱ	3前			2		○								1	
			国際法Ⅲ	3後			2		○								1	
			国際私法	3後			4		○								1	
			国際政治論	3後			4		○								1	
			アフリカ政治論A	3前			2		○								1	
			アフリカ政治論B	3前			2		○								1	
			国際取引法	3前			2		○								1	
			開発援助論	2後			2		○								1	
			中東政治論	3前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	アジア政治論	3後			4		○								1	
			中国政治論	2後			2		○								1	
			アメリカ政治論	2後			2		○								1	
			ヨーロッパ政治論	3前			2		○								1	
			国際環境法	2後			2		○								1	
			文化・観光政策	2後			2		○								1	
			比較地域政策論	2後			2		○								1	
			アジアの地域・都市政策	2後			2		○								1	
			欧州の地域・都市政策	3前			2		○								1	
			北米・中南米の地域・都市政策	3前			2		○								1	
			特別演習Ⅰ	2後～3前	○		4			○		1					8	
			特別演習Ⅱ	3後～4前	○		4			○		1					8	
			特別演習Ⅲ	4後	○		4			○		1					8	
			演習Ⅰ	2後	○		2			○							1	
			演習Ⅰ	2後～3前	○		4			○			1				5	
			演習Ⅰ	2後～3後	○		6			○							2	
			演習Ⅱ	3前	○		2			○							1	
			演習Ⅱ（演習研究含む）	3後～4後	○		6			○			1					
			演習Ⅱ（卒業研究含む）	4通	○		4			○							2	
			演習Ⅱ（卒業研究含む）	3後～4後	○		6			○							5	
			演習Ⅲ	3後	○		2			○							1	
			演習Ⅳ（卒業研究含む）	4前～4後	○		6			○							1	
			学部共通特別講義Ａ	2後			2		○								1	
			学部共通特別講義Ｂ	2後			2		○								1	
			学部共通特別講義Ｃ	2後			2		○								1	
			小計（157科目）	－	－	0	360	0	－			3	2	0	0	0	89	
		英語コミュニケーションコース	Oral Communication ⅠA	2後	○		4		○				1				3	
			Oral Communication ⅠB	2後	○		4		○								4	
			Oral Communication ⅡA	3前	○		4		○				1				3	
			Oral Communication ⅡB	3前	○		4		○								4	
			Writing Ⅰ	2後	○		2		○								4	
			Writing Ⅱ	3前	○		2		○								4	
			米国文化Ⅰ	2後	○		2		○								1	
			英国文化Ⅰ	2後	○		2		○								1	
			英国文化Ⅱ	3前	○		2		○								1	
			米国文化Ⅱ	3前	○		2		○								1	
			English in the World	2後			2		○								1	
			文化比較	2後			2		○								1	
			Intensive Reading	2後			2		○								2	
			Reading Fluency	2後			2		○								1	
			Communicative Grammar Ⅰ	2後	○		2		○								1	
			英米事情	3前			2		○								1	
			Business Writing	3前			2		○								1	
			Critical Essay	3前	○		2		○								1	
			Process Writing	3前	○		2		○								1	
			Public Speaking	3前	○		2		○								1	
			Debate and Discussion	3前			2		○								1	
			Dynamics of Expression	3前			2		○								1	
			Communicative Grammar Ⅱ	3前	○		2		○								1	
			Intercultural Discussion	3後	○		2		○								1	
			Global Understanding in English	3前			4		○				1					メディア
			海外研修	2後	○		4		○								1	
			英語資格試験セミナー	3前			2		○								1	
			Forum	3前			2		○								1	
			Seminar Ⅰ	3後	○		2			○			1				3	
			Seminar Ⅱ	4前	○		2			○			1				3	
			卒業研究	4後	○		4			○			1				3	
			学部共通特別講義Ⅰ	3前			4		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	学部共通コース科目	英語コミュニケーションコース	学部共通特別講義Ⅱ	3後			4		○								1	
			学部共通特別講義Ⅲ	3後			2		○								1	
			学部共通特別講義Ⅳ	3後			2		○								1	
			学部共通特別講義Ⅴ	3後			2		○								1	
			小計（36科目）	－	－	0	90	0	－			0	1	0	0	0	13	
		スポーツサイエンスコース	身体運動の生理学	2後	○		2		○								1	
			身体運動の機能解剖学	2後	○		2		○								1	
			身体運動の制御と学習	2後	○		2		○								1	
			現代スポーツ論	2後	○		2		○								1	
			近代スポーツ史	2後	○		2		○								1	
			スポーツ栄養学	2後			2		○								1	
			スポーツと経済	3前			2		○								1	
			スポーツマネジメント論	3前	○		2		○								1	
			エクササイズテクニック	3前			2		○								1	
			スポーツメディア論	3前			2		○								1	
			スポーツ医学	3前			2		○								1	
			スポーツ統計学	3前			2		○								1	
			スポーツ政策論	3前			2		○								1	
			健康スポーツ論	3前			2		○								1	
			体力学	3前			2		○								1	
			フィットネスプログラミングⅠ	3前			2		○								1	
			スポーツ心理学Ⅰ	3前			2		○								1	
			スポーツマーケティング論	3後			2		○								1	
			スポーツ法学	3後			2		○								1	
			バイオメカニクス	3後			2		○								1	
			地域スポーツ論	3後			2		○								1	
			スポーツトレーニング論	3後			2		○								1	
			スポーツ文化論	3後			2		○								1	
			フィットネスプログラミングⅡ	3後			2		○								1	
			スポーツ心理学Ⅱ	3後			2		○								1	
			特別演習Ⅰ	2後～3前	○		4			○							7	
			特別演習Ⅱ	3後～4前	○		4			○							7	
			特別演習Ⅲ	4後	○		4			○							7	
			スポーツサイエンスコース特別講義(水泳)	3後			2		○								1	
			スポーツサイエンスコース特別講義(スポーツビジネス)	3後			2		○								1	
			キャリア入門(スポーツサイエンスコース)	3前	○		2		○								1	
			スポーツキャリア実習	3後	○		2				○						1	
			小計（32科目）	－	－	0	70	0	－			0	0	0	0	0	16	
		環境サイエンスコース	環境学A	2後	○		2		○								1	
			環境学B	3前	○		2		○								1	
			環境と倫理	2後	○		2		○								1	
			環境と経済	2後	○		2		○								1	
			環境と法	2後	○		2		○								1	
			環境管理論Ⅰ	3前	○		2		○								1	
			環境管理論Ⅱ	3後	○		2		○								1	
			環境政策論Ⅰ	2後	○		2		○								1	
			環境政策論Ⅱ	3前			2		○								1	
			コンピュータシステム論	3前	○		4		○								1	
			生態学A	2後	○		2		○								1	
			生態学B	3前	○		2		○								1	
			地球と環境	2後	○		2		○								1	
			環境地理学	2後	○		2		○			1					1	オムニバス
			自然保護論	2後	○		2		○								1	
			化学物質と環境	3前	○		2		○								1	
			シミュレーション技法	3後	○		2		○								1	
			複雑系の科学	3前			2		○								1	
			都市経済論	3前			2		○								1	
			環境史	3後			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	学部共通コース科目	環境サイエンスコース	環境アセスメント論	3前			2		○								1	
			地域環境論	3前			2		○								1	
			気候と気象	2後			2		○								1	
			生物共棲論	3前			2		○								1	
			水界生態論	3前			2		○								1	
			環境フィールドワーク	2後～3前	○		4		○								4	オムニバス
			環境実践研究	3前	○		2				○						1	
			開発経済学A	2後			2		○								1	
			開発経済学B	2後			2		○								1	
			産業技術論	3前			2		○								1	
			国際環境法	2後			2		○								1	
			持続可能な発展概論	2後			2		○								2	オムニバス
			景観・まちなみ保存政策	2後			2		○								2	オムニバス
			環境エネルギー政策	3前			2		○								1	
			演習Ⅰ	2後～3前	○		4			○							4	
			演習Ⅱ	3後～4前	○		4			○							4	
			卒業研究	4後	○		4			○							4	
			学部共通特別講義A	2後			2		○								1	
			学部共通特別講義B	2後			2		○								1	
			学部共通特別講義C	2後			4		○								1	
			小計（40科目）	－	－	0	92	0	－			1	0	0	0	0	30	
諸課程科目			教職コンピュータ基礎	1前				2			○						3	
			商業科教育法Ⅰ	3前				2	○								1	
			商業科教育法Ⅱ	3後				2	○								1	
			教職論	2前				2	○								1	
			学校教育社会学	2前				2	○								1	
			教育課程論	2後				2	○								2	
			特別支援教育概論	2後				2	○								1	
			道徳教育指導法	3後				2	○								1	
			総合的な学習の時間・特別活動論	3前				2	○								1	
			教育の方法と技術(ICT活用含む)	3前				2	○								1	
			生徒・進路指導論	2前				2	○								2	
			教育相談	3前				2	○								1	
			教育実習指導Ⅰ	4前				1	○								2	
			教育実習指導ⅡA	4前				4			○						2	
			教育実習指導ⅡB	4前				2			○						2	
			教職実践演習(中・高)	4後				2		○							2	
			介護等体験	3前				2			○						3	
			真宗学概論	2通				4	○								1	
			仏教学概論	2通				4	○								1	
			真宗教団史	1通				4	○								1	
			勤式	1通				4	○								3	オムニバス
			宗門法規	1前				2	○								1	
			教化法	1通				4	○								4	オムニバス
			(本山教師)仏教史	1前				1	○								2	オムニバス
			(本山教師)宗教概説	1前				1	○								1	
			小計（25科目）	－	－	0	0	59	－			0	0	0	0	0	27	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
合計（671科目）		－	－	16	1422	59	－			8	6	1	0	0	406	

学位又は称号	学士（経営学）	学位又は学科の分野	経済学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
以下の要件を満たし、125単位以上を修得すること。 【教養教育科目】 32単位以上（必修8単位（「仏教の思想」科目:4単位/言語科目:4単位）、選択必修14単位（言語科目:8単位/人文科学系科目:2単位/社会科学系科目:2単位/自然科学系科目:2単位）、選択科目10単位） ※スポーツサイエンスコースのみ 40単位以上（必修8単位（「仏教の思想」科目:4単位/言語科目:4単位）、選択必修14単位（言語科目:8単位/人文科学系科目:2単位/社会科学系科目:2単位/自然科学系科目:2単位）、選択科目18単位） 【専攻科目】 ①69単位以上（学科必修：8単位/学科選択：61単位） ②国際関係コース：77単位以上（学科必修：8単位/学科選択：25単位/学部共通コース科目44単位） ③英語コミュニケーションコース：81単位以上（学科必修：8単位/学科選択：25単位/学部共通コース科目48単位） ④スポーツサイエンスコース：73単位以上（学科必修：8単位/学科選択：25単位/学部共通コース科目40単位） ⑤環境サイエンスコース81単位以上（学科必修：8単位/学科選択：25単位/学部共通コース科目48単位） （履修科目の登録の上限：1年次45単位、2年次44単位、3年次44単位、4年次48単位（年間）） 「学部共通コース」とは、経済学部・経営学部・法学部・政策学部・社会学部（2025年度から参画予定）の学生が学部間を横断して受講可能なコース制度で、4コースを設置している。本コースは、履修を希望する学生の中から選考を行い、2年次後期から各コースに所属し、所属学部の卒業要件に加えて各コースでそれぞれ定める履修要件科目を修得することによって、コースを修了するものである。 本コースは、学生がいずれかに所属することを義務づけているものではなく自由選択コースとして開講している。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A	1前	○	2			○								6	
		仏教の思想B	1後	○	2			○								6	
		歎異抄の思想Ⅰ	2前			2		○								2	
		歎異抄の思想Ⅱ	2後			2		○								2	
		小計（4科目）	－	－	4	4	0	－			0	0	0	0	0	8	
	言語科目	英語総合1(A)	1前	○	1			○								14	
		英語総合1(B)	1前	○	1			○								15	
		英語総合2(A)	1後	○	1			○								14	
		英語総合2(B)	1後	○	1			○								15	
		英語総合3(A)	2前	○		1		○								11	
		英語総合3(B)	2前	○		1		○				1				10	
		英語総合4(A)	2後	○		1		○								11	
		英語総合4(B)	2後	○		1		○				1				10	
		英語セミナーA1	1前			2		○								2	
		英語セミナーA2	1後			2		○								2	
		英語セミナーB1	2前			2		○								1	
		英語セミナーB2	2後			2		○								1	
		英語セミナーC1	2前			2		○								1	
		英語セミナーC2	2後			2		○								1	
		英語セミナーD1	3前			2		○								1	
		英語セミナーD2	3後			2		○								1	
		英語セミナーE1	2前			2		○								1	
		英語セミナーE2	2後			2		○								1	
		英語セミナーF1	2前			2		○								1	
		英語セミナーF2	2後			2		○								1	
		英語セミナーG1	1前			2		○								1	
		英語セミナーG2	1後			2		○								1	
		英語セミナーH1	3前			2		○								1	
		英語セミナーH2	3後			2		○								1	
		英語セミナーI1	1前			2		○								1	
		英語セミナーI2	1後			2		○								1	
		英語セミナーJ1	3前			2		○								1	
		英語セミナーJ2	3後			2		○								1	
		英語資格試験セミナー	1後			2		○								1	
		海外英語研修	1後			2		○								1	
		ドイツ語Ⅰ	1前	○		2		○								6	
		ドイツ語Ⅱ	1後	○		2		○								6	
		ドイツ語ⅢA	2前	○		1		○								1	
		ドイツ語ⅢB	2後	○		1		○								1	
		ドイツ語ⅢC	2前	○		1		○								1	
		ドイツ語ⅢD	2後	○		1		○								1	
		フランス語Ⅰ	1前	○		2		○								6	
		フランス語Ⅱ	1後	○		2		○								6	
		フランス語ⅢA	2前	○		1		○								1	
		フランス語ⅢB	2後	○		1		○								1	
		フランス語ⅢC	2前	○		1		○								1	
		フランス語ⅢD	2後	○		1		○								1	
		中国語Ⅰ	1前	○		2		○								16	
		中国語Ⅱ	1後	○		2		○								16	
		中国語ⅢA	2前	○		1		○								2	
		中国語ⅢB	2後	○		1		○								2	
		中国語ⅢC	2前	○		1		○								2	
		中国語ⅢD	2後	○		1		○								2	
		スペイン語Ⅰ	1前	○		2		○								6	
		スペイン語Ⅱ	1後	○		2		○								6	
		スペイン語ⅢA	2前	○		1		○								1	
		スペイン語ⅢB	2後	○		1		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	言語科目	スペイン語ⅢC	2前	○		1		○								1	
		スペイン語ⅢD	2後	○		1		○								1	
		コリア語Ⅰ	1前	○		2		○					1			12	
		コリア語Ⅱ	1後	○		2		○					1			12	
		コリア語ⅢA	2前	○		1		○								2	
		コリア語ⅢB	2後	○		1		○								2	
		コリア語ⅢC	2前	○		1		○								2	
		コリア語ⅢD	2後	○		1		○								2	
		ドイツ語セミナーⅠA	2前			2		○								2	
		ドイツ語セミナーⅠB	2後			2		○								2	
		ドイツ語セミナーⅠC	2前			2		○								1	
		ドイツ語セミナーⅠD	2後			2		○								1	
		ドイツ語セミナーⅡA	3前			2		○								1	
		ドイツ語セミナーⅡB	3後			2		○								1	
		ドイツ語セミナーⅡC	3前			2		○								1	
		ドイツ語セミナーⅡD	3後			2		○								1	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	2後			2		○								1	
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	3前			2		○								1	
		フランス語セミナーⅠA	2前			2		○								2	
		フランス語セミナーⅠB	2後			2		○								2	
		フランス語セミナーⅠC	2前			2		○								2	
		フランス語セミナーⅠD	2後			2		○								2	
		フランス語セミナーⅡA	3前			2		○								1	
		フランス語セミナーⅡB	3後			2		○								1	
		フランス語セミナーⅡC	3前			2		○								1	
		フランス語セミナーⅡD	3後			2		○								1	
		フランス語コミュニケーションⅠ	2後			2		○								1	
		フランス語コミュニケーションⅡ	3前			2		○								1	
		中国語セミナーⅠA	2前			2		○								2	
		中国語セミナーⅠB	2後			2		○								2	
		中国語セミナーⅠC	2前			2		○								1	
		中国語セミナーⅠD	2後			2		○								1	
		中国語セミナーⅡA	3前			2		○								1	
		中国語セミナーⅡB	3後			2		○								1	
		中国語セミナーⅡC	3前			2		○								1	
		中国語セミナーⅡD	3後			2		○								1	
		中国語コミュニケーションⅠ	2後			2		○								1	
		中国語コミュニケーションⅡ	3前			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅠA	2前			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅠB	2後			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅠC	2前			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅠD	2後			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅡA	3前			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅡB	3後			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅡC	3前			2		○								1	
		スペイン語セミナーⅡD	3後			2		○								1	
		スペイン語コミュニケーションⅠ	2後			2		○								1	
		スペイン語コミュニケーションⅡ	3前			2		○								1	
		コリア語セミナーⅠA	2前			2		○								1	
		コリア語セミナーⅠB	2後			2		○								1	
		コリア語セミナーⅠC	2前			2		○								1	
		コリア語セミナーⅠD	2後			2		○								1	
		コリア語セミナーⅡA	3前			2		○								1	
		コリア語セミナーⅡB	3後			2		○								1	
		コリア語セミナーⅡC	3前			2		○								1	
		コリア語セミナーⅡD	3後			2		○								1	
		コリア語コミュニケーションⅠ	2後			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	言語科目		コリア語コミュニケーションⅡ	3前			2		○								1	
			海外中国語研修講座	2前			2		○								1	
			ポルトガル語Ⅰ	2前			2		○								1	
			ポルトガル語Ⅱ	2後			2		○								1	
			ポルトガル語ⅢA	3前			2		○								1	
			ポルトガル語ⅢB	3後			2		○								1	
			ロシア語Ⅰ	2前			2		○								1	
			ロシア語Ⅱ	2後			2		○								1	
			ロシア語ⅢA	3前			2		○								1	
			ロシア語ⅢB	3後			2		○								1	
			ペルシア語Ⅰ	2前			2		○								1	
			ペルシア語Ⅱ	2後			2		○								1	
			トルコ語Ⅰ	2前			2		○								1	
			トルコ語Ⅱ	2後			2		○								1	
			アラビア語Ⅰ	2前			2		○								1	
			アラビア語Ⅱ	2後			2		○								1	
			日本語	1前	○		1		○								4	
			小計（126科目）	－	－	4	219	0	－			0	1	1	0	0	124	
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	1前	○		2		○								1	
			哲学A	1前	○		2		○								3	
			哲学B	2前			2		○								2	
			倫理学入門	1前	○		2		○								1	
			倫理学A	1前	○		2		○								2	
			倫理学B	2前			2		○								2	
			クリティカル・シンキング	1前	○		2		○								1	
			論理学	2前			2		○								1	
			宗教学入門	1前	○		4		○			1						
			宗教の世界A	1前	○		2		○			1					1	
			宗教の世界B	1後	○		2		○			1					1	
			中国の思想A	1前	○		2		○								1	
			中国の思想B	1後	○		2		○								1	
			芸術の世界A	2前			2		○								2	
			芸術の世界B	2後			2		○								2	
			日本の文学A	1前	○		4		○								2	
			日本の文学B	1後	○		4		○								2	
			日本の文学C	2前			2		○								1	
			アジアの文学A	1前	○		2		○								1	
			アジアの文学B	1前	○		2		○								1	
			西洋の文学A	1前	○		2		○								3	
			西洋の文学B	1後	○		2		○								3	
			文章表現法A	1前	○		2		○								2	
			文章表現法B	1後	○		2		○								2	
			言語と文化	1前	○		2		○								2	
			歴史学入門	2前			2		○								2	
			日本の歴史A	1前	○		4		○								1	
			日本の歴史B	1後	○		4		○								1	
			日本の文化	2後			4		○								1	
			アジアの歴史A	1前	○		4		○								3	
			アジアの歴史B	1後	○		4		○								2	
			アジアの文化	2前			2		○								2	
			西洋の歴史A	1前	○		4		○								1	
			西洋の歴史B	2前	○		2		○								1	
			西洋の歴史C	2後			2		○								1	
			現代世界の歴史A	1前	○		2		○								2	
			現代世界の歴史B	1後	○		2		○								2	
			心理学	1前	○		4		○								1	
			心の科学A	1前	○		2		○								2	

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	心の科学B	1後	○		2		○								2	
			応用心理学A	2前			2		○								1	
			応用心理学B	2後			2		○								1	
			教育学のすすめA	1前	○		2		○								3	
			教育学のすすめB	1後	○		2		○								3	
			現代社会と教育A	2前			2		○								1	
			現代社会と教育B	2後			2		○								1	
			教育原論A	2前			2		○								1	
			教育原論B	2後			2		○								1	
			学習・発達論A	2前			2		○								3	
			学習・発達論B	2後			2		○								3	
			人文科学セミナー	2通			4		○			1					6	
			大学論	2前			2		○			1					9	オムニバス
			小計（52科目）	－	－	0	126	0	－			1	0	0	0	0	49	
		社会科学系科目	日本国憲法	1前	○		2		○								6	
			法学のすすめ	1前	○		2		○								2	
			政治学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会学のすすめ	1前	○		2		○								2	
			地理学のすすめ	1前	○		2		○			1						
			経済学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			国際学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			文化人類学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会調査のすすめ	1前	○		2		○				1				1	
			社会統計学のすすめ	1前	○		2		○								2	
			人権論A	1前	○		2		○				1					
			人権論B	1後	○		2		○								1	
			現代社会とメディア	2前			2		○								2	
			現代社会と福祉	2前			2		○								1	
			現代社会と法	2前			2		○								1	
			環境と社会	2前			2		○								2	
			平和学A	2前			2		○								2	
			ジェンダー論	2前			2		○								2	
			国際社会論	2前			2		○								2	
			現代社会の諸問題	2前			2		○				1				9	オムニバス
			地域論	2前			2		○			1						
			現代社会と労働	2前			2		○								1	
			社会思想史	2前			2		○								1	
			英語で学ぶ日本の社会A	1前			2		○								1	
			英語で学ぶ日本の社会B	1前			2		○								1	
			データサイエンス・AI入門	1前			2		○								2	
			小計（26科目）	－	－	0	52	0	－			1	1	0	0	0	37	
		自然科学系科目	数学入門	1前	○		2		○								3	
			数学への旅	1前	○		2		○								3	
			確率・統計入門	1前	○		2		○								2	
			微分と積分	1前			4		○								1	
			行列と行列式	1前			4		○								1	
			数理統計学	2前			4		○								1	
			数理と計算	2前			2		○								1	
			数学の世界	2前			4		○								2	
			数理と論証	2前			2		○								1	
			宇宙の科学Ⅰ	1前	○		4		○								1	
			宇宙の科学Ⅱ	2前			2		○								1	
			地球科学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			地球科学	1後			2		○								1	
			物理科学の世界	1前	○		4		○								2	
			時間と空間の科学	1前	○		2		○								2	
			エネルギー入門	2前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	自然科学史Ⅰ	1前	○		2		○								1	
			自然科学史Ⅱ	2前			2		○								2	
			科学論	2前			2		○								2	
			技術論	2後			2		○								1	
			平和学B	2前			2		○								1	
			里山学	1前			2		○								7	オムニバス
			生物科学のすすめ	1前	○		4		○								1	
			生命科学のすすめ	1前	○		2		○								2	オムニバス
			生命科学	1後			2		○								1	
			生態学のすすめ	1前	○		4		○								1	
			人類学のすすめ	1前	○		4		○								1	
			日本の自然	1前			4		○								8	オムニバス
			生命誌	2前			2		○								1	
			植物の自然誌	2前			2		○								2	
			動物の自然誌	2前			2		○								1	
			民族の自然誌	2前			2		○								1	
			人類進化学	2前			2		○								1	
			人間の生物学Ⅰ	2前			2		○								1	
			人間の生物学Ⅱ	2後			2		○								1	
			自然誌実習	2前			4		○								5	オムニバス
			野外観察法	2前			2		○								2	
			環境学	1前	○		4		○								3	
			情報科学入門	2前	○		2		○								1	
			情報科学Ⅰ	2後			2		○								1	
			情報科学Ⅱ	3前			2		○								1	
			情報科学実習	1後			4		○								2	
			小計（42科目）	－	－	0	110	0	－			0	0	0	0	0	37	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2前			2		○								2	
			現代社会とスポーツ	1後			2		○								2	
			スポーツ技術学演習	1前	○		2			○							10	
			人間とスポーツ	1前			2		○								1	
			スポーツと人権・平和	2前			2		○								1	
			スポーツ文化史	2前			2		○								1	
			スポーツ科学最前線	1前			2		○								1	
			小計（7科目）	－	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	12	
			教養教育科目特別講義	1前			2		○				1				8	オムニバス
			English language (Ryukoku Intercultural Program)	1前			12		○								1	
			Lecture (Ryukoku Intercultural Program)	1前			6		○								1	
			Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)	1前			6		○								1	
			小計（4科目）	－	－	0	26	0	－			0	1	0	0	0	9	
専攻科目	基礎科目		情報リテラシー	1前	○		1		○				1					
			社会調査入門	1前	○	2			○			1						
			ベーシックアカウンティングⅠ	1前	○		2		○			1						
			ベーシックマーケティング	1前	○		2		○			1						
			ビジネスケーススタディＡ	1前	○	2			○				1					
			ビジネスケーススタディＢ	1前	○	2			○				1					
			プロジェクト入門	1後	○		2		○			2	1					
			キャリア＆ライフマネジメント	2前	○		2		○				2					オムニバス
			社会調査実践	2前	○		2		○			1					1	
			フレッシャーズゼミ	1前	○		2			○		5	2	1				
			アカデミックスキルズＡ	1後	○	2				○		5	2					
			アカデミックスキルズＢ	2前	○		2			○		5	2					
			小計（12科目）	－	－	8	15	0	－			8	4	1	0	0	1	
	専門科目		ベーシックアカウンティングⅡ	1後			2		○								1	
			流通システム論	1後			2		○			1						
			ビジネスヒストリー入門	1後			2		○				1					
			グローバルビジネスの基礎	1後			2		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	専門科目	ワークルール入門	1後			2		○			1						
		プロジェクト実践	2前			4		○			1	1					共同
		マーケティングリサーチ	2前			2		○			1					1	オムニバス
		コンテンツビジネス実践Ⅰ	2前			2		○								1	
		起業家行動論	2前			2		○				1					
		企業システム論	2前			2		○			1						
		マーケティング論	2前			2		○			1						
		消費者問題論	2前			2		○			1					1	共同
		グローバルビジネス	2前			2		○			1						
		ビジネスヒストリーA	2前			2		○				1					
		経営立地論	2前			2		○			1						
		ローカルビジネスのフロンティア	2後			4		○			1	1					共同
		コンテンツビジネス実践Ⅱ	2後			4		○								1	
		デザインマネジメント実践	2後			4		○								1	
		社会データ分析	2後			2		○				1					
		地域企業論	2後			2		○				1					
		京都企業論	2後			2		○			1					2	オムニバス
		事業システム論	2後			2		○								1	
		グローバルストラテジー	2後			2		○			1						
		ソーシャルマーケティング	2後			2		○			1						
		商品開発論	2後			2		○			1						
		ビジネスヒストリーB	2後			2		○								1	
		コンテンツビジネス論	2後			2		○								3	オムニバス
		食農ビジネスのフロンティア	3前			4		○			1	1					共同
		地域と企業	3前			4		○				1					
		京都企業の現場	3前			2		○			1						
		デジタルマーケティング	3前			2		○								1	
		空間データ分析	3前			2		○								1	
		ケースで学ぶアカウンティング	3前			2		○								1	
		ソーシャルビジネス論	3前			2		○								1	
		グローバルマーケティング	3前			2		○								1	
		ロジスティクス	3前			2		○								1	
		中小企業経営論	3前			2		○								1	
		地域資源論	3前			2		○			1						
		ビジネスイノベーション	3前			2		○								1	
		ケースで学ぶローカルファイナンス	3後			2		○								1	
		アジア企業経営論	3後			2		○			1						
		ケースで学ぶビジネスヒストリー	3後			2		○				1					
		文献講読A	3後			2		○			1						
		文献講読B	4前			2		○			1						
		演習Ⅰ	2後～3前	○		4			○		5	4					
		演習Ⅱ（演習研究含む）	3後～4後	○		6			○		5	4					
		経営学基礎論	1前			2		○								1	
		経営情報学Ⅰ	1前			2		○								1	
		簿記入門	1前			2		○								1	
		経営管理論	1後			2		○								1	
		経営データ分析Ⅰ	1後			2		○								1	
		初級商業簿記	1後			2		○								1	
		財務諸表分析入門	1後			2		○								1	
		経営意思決定論	2前			2		○								1	
		経営情報システム論	2前			2		○								1	
		中級商業簿記	2前			2		○								1	
		財務会計入門	2前			2		○								1	
		工業簿記	2前			2		○								1	
		プログラミングⅠ	2後			2		○								1	
		財務会計論	2後			2		○								1	
		プログラミングⅡ	3前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
専攻科目	専門科目		スポーツと経済	3前			2		○								1	
			スポーツマネジメント論	3前			2		○								1	
			スポーツ政策論	3前			2		○								1	
			スポーツマーケティング論	3後			2		○								1	
			Global Understanding and Communication	3後			4		○				1					メディア
			統計学	1後			4		○								1	
			ファイナンス理論	2後			4		○								1	
			アジア経済論A	2後			2		○								1	
			アジア経済論B	2後			2		○								1	
			中国経済論A	2後			2		○								1	
			中国経済論B	2後			2		○								1	
			国際金融論	3前			4		○								1	
			商法	2前			2		○								1	
			民法	2後			2		○								1	
			会社法	2後			2		○								1	
			労働法	3前			2		○								1	
			経済法	3後			2		○								1	
			中国政治論	2後			2		○								1	
			アジア政治論	3後			4		○								1	
			京都市の産業と産業政策	2後			2		○								1	
			上級外国語Ａ（ドイツ）	2前			2		○								2	
			上級外国語Ｂ（ドイツ）	2後			2		○								2	
			上級外国語Ｃ（ドイツ）	2前			2		○								1	
			上級外国語Ｄ（ドイツ）	2後			2		○								1	
			上級外国語Ａ（フランス）	2前			2		○								2	
			上級外国語Ｂ（フランス）	2後			2		○								2	
			上級外国語Ｃ（フランス）	2前			2		○								2	
			上級外国語Ｄ（フランス）	2後			2		○								2	
			上級外国語Ａ（中国）	2前			2		○								2	
			上級外国語Ｂ（中国）	2後			2		○								2	
			上級外国語Ｃ（中国）	2前			2		○								1	
			上級外国語Ｄ（中国）	2後			2		○								1	
			上級外国語Ａ（スペイン）	2前			2		○								1	
			上級外国語Ｂ（スペイン）	2後			2		○								1	
			上級外国語Ｃ（スペイン）	2前			2		○								1	
			上級外国語Ｄ（スペイン）	2後			2		○								1	
			上級外国語Ａ（コリア）	2前			2		○								1	
			上級外国語Ｂ（コリア）	2後			2		○								1	
			上級外国語Ｃ（コリア）	2前			2		○								1	
			上級外国語Ｄ（コリア）	2後			2		○								1	
			職業指導	3通			4		○								1	
			キャリア実習・実習指導	1通			2				○						1	
			キャリア実習・実習指導（大学コンソーシアム京都）	1通			4				○						1	
			小計（104科目）	－	－	0	240	0	－			6	5	0	0	0	56	
	学部共通コース科目	国際関係コース	国際関係論Ⅰ	2後	○		2		○								1	
			地域研究入門	2後	○		2		○								1	
			中国語セミナーⅠA	3前	○		2		○								2	
			中国語セミナーⅠB	2後	○		2		○								2	
			中国語セミナーⅠC	3前	○		2		○								1	
			中国語セミナーⅠD	2後	○		2		○								1	
			中国語セミナーⅡA	3前	○		2		○								1	
			中国語セミナーⅡB	3後	○		2		○								1	
			中国語セミナーⅡC	3前	○		2		○								1	
			中国語セミナーⅡD	3後	○		2		○								1	
			海外中国語研修講座	3前	○		2		○								1	
			ドイツ語セミナーⅠA	3前	○		2		○								2	
			ドイツ語セミナーⅠB	2後	○		2		○								2	

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	ドイツ語セミナーＩC	3前	○		2		○								1	
			ドイツ語セミナーＩD	2後	○		2		○								1	
			ドイツ語セミナーⅡA	3前	○		2		○								1	
			ドイツ語セミナーⅡB	3後	○		2		○								1	
			ドイツ語セミナーⅡC	3前	○		2		○								1	
			ドイツ語セミナーⅡD	3後	○		2		○								1	
			フランス語セミナーＩA	3前	○		2		○								2	
			フランス語セミナーＩB	2後	○		2		○								2	
			フランス語セミナーＩC	3前	○		2		○								2	
			フランス語セミナーＩD	2後	○		2		○								2	
			フランス語セミナーⅡA	3前	○		2		○								1	
			フランス語セミナーⅡB	3後	○		2		○								1	
			フランス語セミナーⅡC	3前	○		2		○								1	
			フランス語セミナーⅡD	3後	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーＩA	3前	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーＩB	2後	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーＩC	3前	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーＩD	2後	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーⅡA	3前	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーⅡB	3後	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーⅡC	3前	○		2		○								1	
			スペイン語セミナーⅡD	3後	○		2		○								1	
			コリア語セミナーＩA	3前	○		2		○								1	
			コリア語セミナーＩB	2後	○		2		○								1	
			コリア語セミナーＩC	3前	○		2		○								1	
			コリア語セミナーＩD	2後	○		2		○								1	
			コリア語セミナーⅡA	3前	○		2		○								1	
			コリア語セミナーⅡB	3後	○		2		○								1	
			コリア語セミナーⅡC	3前	○		2		○								1	
			コリア語セミナーⅡD	3後	○		2		○								1	
			ポルトガル語Ⅰ	3前	○		2		○								1	
			ポルトガル語Ⅱ	2後	○		2		○								1	
			ポルトガル語ⅢA	3前	○		2		○								1	
			ポルトガル語ⅢB	3後	○		2		○								1	
			ロシア語Ⅰ	3前	○		2		○								1	
			ロシア語Ⅱ	2後	○		2		○								1	
			ロシア語ⅢA	3前	○		2		○								1	
			ロシア語ⅢB	3後	○		2		○								1	
			英語セミナーD1	3前	○		2		○								1	
			英語セミナーD2	3後	○		2		○								1	
			英語セミナーG1	3前	○		2		○								1	
			英語セミナーG2	3後	○		2		○								1	
			英語セミナーH1	3前	○		2		○								1	
			英語セミナーH2	3後	○		2		○								1	
			英語セミナーJ1	3前	○		2		○								1	
			英語セミナーJ2	3後	○		2		○								1	
			英語コミュニケーションⅠ	2後	○		2		○								1	
			英語コミュニケーションⅡ	3前	○		2		○								1	
			Intercultural Discussion	3前	○		2		○								1	
			中国語コミュニケーションⅠ	2後	○		2		○								1	
			中国語コミュニケーションⅡ	3前	○		2		○								1	
			ドイツ語コミュニケーションⅠ	2後	○		2		○								1	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ	3前	○		2		○								1	
			スペイン語コミュニケーションⅠ	2後	○		2		○								1	
			スペイン語コミュニケーションⅡ	3前	○		2		○								1	
			フランス語コミュニケーションⅠ	2後	○		2		○								1	
			フランス語コミュニケーションⅡ	3前	○		2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	コリア語コミュニケーションⅠ	2後	○		2		○								1	
			コリア語コミュニケーションⅡ	3前	○		2		○								1	
			ヨーロッパ研究A	2後			2		○								1	
			ヨーロッパ研究B	3前			2		○								1	
			ヨーロッパ研究C	2後			2		○								1	
			ヨーロッパ研究D	3前			2		○								1	
			東アジア研究A	2後			2		○								1	
			東アジア研究B	3前			2		○								1	
			東南アジア研究A	2後			2		○								1	
			東南アジア研究B	3前			2		○								1	
			北米研究A	2後			2		○								1	
			北米研究B	3前			2		○								1	
			中南米研究A	2後			2		○								1	
			中南米研究B	3前			2		○								1	
			グローバル・サウス研究A	2後			2		○								1	
			グローバル・サウス研究B	3前			2		○								1	
			異文化研究A	2後			2		○								1	
			異文化研究B	3前			2		○								1	
			多文化映像論A	2後			2		○								1	
			多文化映像論B	3前			2		○								1	
			国際関係論Ⅱ	3前			2		○								1	
			現代国際関係史	2後			2		○								1	
			国際ジャーナリズム論	3前			2		○								1	
			グローバル経済史A	3前			2		○								1	
			グローバル経済史B	2後			2		○								1	
			国際金融論	3前			4		○								1	
			国際協力論	2後			4		○								1	
			アジア経済史	3前			4		○								1	
			ヨーロッパ経済史	2後			4		○								1	
			地域経済論	2後			4		○								1	
			アジア経済論A	2後			2		○								1	
			アジア経済論B	2後			2		○								1	
			比較経済論A	3前			2		○								1	
			比較経済論B	2後			2		○								1	
			開発経済学A	2後			2		○								1	
			開発経済学B	2後			2		○								1	
			ヨーロッパ経済論	2後			4		○								1	
			食・農・資源の経済論A	2後			2		○								1	
			食・農・資源の経済論B	2後			2		○								1	
			日本経済史A	3前			2		○								1	
			日本経済史B	3前			2		○								1	
			経済地理学A	3前			2		○								1	
			経済地理学B	2後			2		○								1	
			経済思想史	3前			2		○								1	
			社会調査の技法	3前			2		○								1	
			フィールドワークの技法	2後			2		○								1	
			グローバルビジネス	3前			2		○			1						
			多国籍企業論	2後			2		○								1	
			国際経営戦略論	3前			2		○								1	
			ビジネスヒストリーＡ	3前			2		○				1					
			社会データ分析	2後			2		○				1					
			アジア企業経営論	3後			2		○			1						
			国際法Ⅰ	2後			4		○								1	
			国際法Ⅱ	3前			2		○								1	
			国際法Ⅲ	3後			2		○								1	
			国際私法	3後			4		○								1	
			国際政治論	3後			4		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	アフリカ政治論A	3前			2		○								1	
			アフリカ政治論B	3前			2		○								1	
			国際取引法	3前			2		○								1	
			開発援助論	2後			2		○								1	
			中東政治論	3前			2		○								1	
			アジア政治論	3後			4		○								1	
			中国政治論	2後			2		○								1	
			アメリカ政治論	2後			2		○								1	
			ヨーロッパ政治論	3前			2		○								1	
			国際環境法	2後			2		○								1	
			文化・観光政策	2後			2		○								1	
			比較地域政策論	2後			2		○								1	
			アジアの地域・都市政策	2後			2		○								1	
			欧州の地域・都市政策	3前			2		○								1	
			北米・中南米の地域・都市政策	3前			2		○								1	
			特別演習Ⅰ	2後～3前	○		4			○		1					8	
			特別演習Ⅱ	3後～4前	○		4			○		1					8	
			特別演習Ⅲ	4後	○		4			○		1					8	
			演習Ⅰ	2後	○		2			○							1	
			演習Ⅰ	2後～3前	○		4			○			1				5	
			演習Ⅰ	2後～3後	○		6			○							2	
			演習Ⅱ	3前	○		2			○							1	
			演習Ⅱ（演習研究含む）	3後～4後	○		6			○			1					
			演習Ⅱ（卒業研究含む）	4通	○		4			○							2	
			演習Ⅱ（卒業研究含む）	3後～4後	○		6			○							5	
			演習Ⅲ	3後	○		2			○							1	
			演習Ⅳ（卒業研究含む）	4前～4後	○		6			○							1	
			学部共通特別講義Ａ	2後			2		○								1	
			学部共通特別講義Ｂ	2後			2		○								1	
			学部共通特別講義Ｃ	2後			2		○								1	
			小計（157科目）	－	－	0	360	0	－			3	2	0	0	0	89	
		英語コミュニケーションコース	Oral Communication ⅠA	2後	○		4		○				1				3	
			Oral Communication ⅠB	2後	○		4		○								4	
			Oral Communication ⅡA	3前	○		4		○				1				3	
			Oral Communication ⅡB	3前	○		4		○								4	
			Writing Ⅰ	2後	○		2		○								4	
			Writing Ⅱ	3前	○		2		○								4	
			米国文化Ⅰ	2後	○		2		○								1	
			英国文化Ⅰ	2後	○		2		○								1	
			英国文化Ⅱ	3前	○		2		○								1	
			米国文化Ⅱ	3前	○		2		○								1	
			English in the World	2後			2		○								1	
			文化比較	2後			2		○								1	
			Intensive Reading	2後			2		○								2	
			Reading Fluency	2後			2		○								1	
			Communicative Grammar Ⅰ	2後	○		2		○								1	
			英米事情	3前			2		○								1	
			Business Writing	3前			2		○								1	
			Critical Essay	3前	○		2		○								1	
			Process Writing	3前	○		2		○								1	
			Public Speaking	3前	○		2		○								1	
			Debate and Discussion	3前			2		○								1	
			Dynamics of Expression	3前			2		○								1	
			Communicative Grammar Ⅱ	3前	○		2		○								1	
			Intercultural Discussion	3後	○		2		○								1	
			Global Understanding in English	3前			4		○				1					メディア
			海外研修	2後	○		4		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	備考
専攻科目	学部共通コース科目	英語コミュニケーションコース	英語資格試験セミナー	3前			2		○								1	
			Forum	3前			2		○								1	
			Seminar Ⅰ	3後	○		2			○			1				3	
			Seminar Ⅱ	4前	○		2			○			1				3	
			卒業研究	4後	○		4			○			1				3	
			学部共通特別講義Ⅰ	3前			4		○								1	
			学部共通特別講義Ⅱ	3後			4		○								1	
			学部共通特別講義Ⅲ	3後			2		○								1	
			学部共通特別講義Ⅳ	3後			2		○								1	
			学部共通特別講義Ⅴ	3後			2		○								1	
			小計（36科目）	－	－	0	90	0	－			0	1	0	0	0	13	
		スポーツサイエンスコース	身体運動の生理学	2後	○		2		○								1	
			身体運動の機能解剖学	2後	○		2		○								1	
			身体運動の制御と学習	2後	○		2		○								1	
			現代スポーツ論	2後	○		2		○								1	
			近代スポーツ史	2後	○		2		○								1	
			スポーツ栄養学	2後			2		○								1	
			スポーツと経済	3前			2		○								1	
			スポーツマネジメント論	3前	○		2		○								1	
			エクササイズテクニック	3前			2		○								1	
			スポーツメディア論	3前			2		○								1	
			スポーツ医学	3前			2		○								1	
			スポーツ統計学	3前			2		○								1	
			スポーツ政策論	3前			2		○								1	
			健康スポーツ論	3前			2		○								1	
			体力学	3前			2		○								1	
			フィットネスプログラミングⅠ	3前			2		○								1	
			スポーツ心理学Ⅰ	3前			2		○								1	
			スポーツマーケティング論	3後			2		○								1	
			スポーツ法学	3後			2		○								1	
			バイオメカニクス	3後			2		○								1	
			地域スポーツ論	3後			2		○								1	
			スポーツトレーニング論	3後			2		○								1	
			スポーツ文化論	3後			2		○								1	
			フィットネスプログラミングⅡ	3後			2		○								1	
			スポーツ心理学Ⅱ	3後			2		○								1	
			特別演習Ⅰ	2後～3前	○		4			○							7	
			特別演習Ⅱ	3後～4前	○		4			○							7	
			特別演習Ⅲ	4後	○		4			○							7	
			スポーツサイエンスコース特別講義(水泳)	3後			2		○								1	
			スポーツサイエンスコース特別講義(スポーツビジネス)	3後			2		○								1	
			キャリア入門(スポーツサイエンスコース)	3前	○		2		○								1	
			スポーツキャリア実習	3後	○		2				○						1	
			小計（32科目）	－	－	0	70	0	－			0	0	0	0	0	16	
		環境サイエンスコース	環境学A	2後	○		2		○								1	
			環境学B	3前	○		2		○								1	
			環境と倫理	2後	○		2		○								1	
			環境と経済	2後	○		2		○								1	
			環境と法	2後	○		2		○								1	
			環境管理論Ⅰ	3前	○		2		○								1	
			環境管理論Ⅱ	3後	○		2		○								1	
			環境政策論Ⅰ	2後	○		2		○								1	
			環境政策論Ⅱ	3前			2		○								1	
			コンピュータシステム論	3前	○		4		○								1	
			生態学A	2後	○		2		○								1	
			生態学B	3前	○		2		○								1	
			地球と環境	2後	○		2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	学部共通コース科目	環境サイエンスコース	環境地理学	2後	○		2		○			1					1	オムニバス
			自然保護論	2後	○		2		○								1	
			化学物質と環境	3前	○		2		○								1	
			シミュレーション技法	3後	○		2		○								1	
			複雑系の科学	3前			2		○								1	
			都市経済論	3前			2		○								1	
			環境史	3後			2		○								1	
			環境アセスメント論	3前			2		○								1	
			地域環境論	3前			2		○								1	
			気候と気象	2後			2		○								1	
			生物共棲論	3前			2		○								1	
			水界生態論	3前			2		○								1	
			環境フィールドワーク	2後～3前	○		4		○								4	オムニバス
			環境実践研究	3前	○		2				○						1	
			開発経済学A	2後			2		○								1	
			開発経済学B	2後			2		○								1	
			産業技術論	3前			2		○								1	
			国際環境法	2後			2		○								1	
			持続可能な発展概論	2後			2		○								2	オムニバス
			景観・まちなみ保存政策	2後			2		○								2	オムニバス
			環境エネルギー政策	3前			2		○								1	
			演習Ⅰ	2後～3前	○		4			○							4	
			演習Ⅱ	3後～4前	○		4			○							4	
			卒業研究	4後	○		4			○							4	
			学部共通特別講義A	2後			2		○								1	
			学部共通特別講義B	2後			2		○								1	
			学部共通特別講義C	2後			4		○								1	
			小計（40科目）	－	－	0	92	0	－			1	0	0	0	0	30	
諸課程科目			教職コンピュータ基礎	1前				2			○						3	
			商業科教育法Ⅰ	3前				2	○								1	
			商業科教育法Ⅱ	3後				2	○								1	
			教職論	2前				2	○								1	
			学校教育社会学	2前				2	○								1	
			教育課程論	2後				2	○								2	
			特別支援教育概論	2後				2	○								1	
			道徳教育指導法	3後				2	○								1	
			総合的な学習の時間・特別活動論	3前				2	○								1	
			教育の方法と技術(ICT活用含む)	3前				2	○								1	
			生徒・進路指導論	2前				2	○								2	
			教育相談	3前				2	○								1	
			教育実習指導Ⅰ	4前				1	○								2	
			教育実習指導ⅡA	4前				4			○						2	
			教育実習指導ⅡB	4前				2			○						2	
			教職実践演習(中・高)	4後				2		○							2	
			介護等体験	3前				2			○						3	
			真宗学概論	2通				4	○								1	
			仏教学概論	2通				4	○								1	
			真宗教団史	1通				4	○								1	
			勤式	1通				4	○								3	オムニバス
			宗門法規	1前				2	○								1	
			教化法	1通				4	○								4	オムニバス
			小計（23科目）	－	－	0	0	57	－			0	0	0	0	0	24	

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
合計（665科目）		―	―	16	1418	57	―			8	6	1	0	0	402	

学位又は称号	学士（経営学）	学位又は学科の分野	経済学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
以下の要件を満たし、125単位以上を修得すること。 【教養教育科目】 32単位以上（必修8単位（「仏教の思想」科目:4単位/言語科目:4単位）、選択必修14単位（言語科目:8単位/人文科学系科目:2単位/社会科学系科目:2単位/自然科学系科目:2単位）、選択科目10単位） ※スポーツサイエンスコースのみ 40単位以上（必修8単位（「仏教の思想」科目:4単位/言語科目:4単位）、選択必修14単位（言語科目:8単位/人文科学系科目:2単位/社会科学系科目:2単位/自然科学系科目:2単位）、選択科目18単位） 【専攻科目】 ①69単位以上（学科必修：8単位/学科選択：61単位） ②国際関係コース：77単位以上（学科必修：8単位/学科選択：25単位/学部共通コース科目44単位） ③英語コミュニケーションコース：81単位以上（学科必修：8単位/学科選択：25単位/学部共通コース科目48単位） ④スポーツサイエンスコース：73単位以上（学科必修：8単位/学科選択：25単位/学部共通コース科目40単位） ⑤環境サイエンスコース81単位以上（学科必修：8単位/学科選択：25単位/学部共通コース科目48単位） （履修科目の登録の上限：1年次45単位、2年次44単位、3年次44単位、4年次48単位（年間）））	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

「学部共通コース」とは、経済学部・経営学部・法学部・政策学部・社会学部（2025年度から参画予定）の学生が学部間を横断して受講可能なコース制度で、4コースを設置している。本コースは、履修を希望する学生の中から選考を行い、2年次後期から各コースに所属し、所属学部の卒業要件に加えて各コースでそれぞれ定める履修要件科目を修得することによって、コースを修了するものである。
本コースは、学生がいずれかに所属することを義務づけているものではなく自由選択コースとして開講している。

別記様式第２号（その２の１）

大宮学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
教養教育科目	言語科目	ラテン語Ⅰ	2前			1		○								1	
		ラテン語Ⅱ	2後			1		○								1	
		ギリシア語Ⅰ	2前			1		○								1	
		ギリシア語Ⅱ	2後			1		○								1	
		小計（4科目）	－	－	0	4	0	－			0	1	1	0	0	2	
諸課程科目		(本山教師)仏教史	1前				1	○								2	オムニバス
		(本山教師)宗教概説	1前				1	○								1	
		小計（2科目）	－	－	0	0	2	－			0	0	0	0	0	3	
合計（6科目）			－	－	0	4	2	－			0	1	1	0	0	5	

学位又は称号	学士（経営学）	学位又は学科の分野	経済学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
以下の要件を満たし、125単位以上を修得すること。 【教養教育科目】 32単位以上（必修8単位（「仏教の思想」科目:4単位/言語科目:4単位）、選択必修14単位（言語科目:8単位/人文科学系科目:2単位/社会科学系科目:2単位/自然科学系科目:2単位）、選択科目10単位） ※スポーツサイエンスコースのみ 40単位以上（必修8単位（「仏教の思想」科目:4単位/言語科目:4単位）、選択必修14単位（言語科目:8単位/人文科学系科目:2単位/社会科学系科目:2単位/自然科学系科目:2単位）、選択科目18単位） 【専攻科目】 ①69単位以上（学科必修：8単位/学科選択：61単位） ②国際関係コース：77単位以上（学科必修：8単位/学科選択：25単位/学部共通コース科目44単位） ③英語コミュニケーションコース：81単位以上（学科必修：8単位/学科選択：25単位/学部共通コース科目48単位） ④スポーツサイエンスコース：73単位以上（学科必修：8単位/学科選択：25単位/学部共通コース科目40単位） ⑤環境サイエンスコース81単位以上（学科必修：8単位/学科選択：25単位/学部共通コース科目48単位） （履修科目の登録の上限：1年次45単位、2年次44単位、3年次44単位、4年次48単位（年間）） 「学部共通コース」とは、経済学部・経営学部・法学部・政策学部・社会学部（2025年度から参画予定）の学生が学部間を横断して受講可能なコース制度で、4コースを設置している。本コースは、履修を希望する学生の中から選考を行い、2年次後期から各コースに所属し、所属学部の卒業要件に加えて各コースでそれぞれ定める履修要件科目を修得することによって、コースを修了するものである。 本コースは、学生がいずれかに所属することを義務づけているものではなく自由選択コースとして開講している。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A	1前	2			○			1					兼 5
		仏教の思想B	1後	2			○			1					兼 5
		歎異抄の思想Ⅰ	2前		2		○								兼 2
		歎異抄の思想Ⅱ	2後		2		○								兼 2
		小計（4科目）	－	4	4	0	－			1	0	0	0	0	兼 8
	言語科目	英語総合1(A)	1前	1			○			1					兼 13
		英語総合1(B)	1前	1			○			1					兼 14
		英語総合2(A)	1後	1			○			1					兼 13
		英語総合2(B)	1後	1			○			1					兼 14
		英語総合3(A)	2前		1		○								兼 11
		英語総合3(B)	2前		1		○				1				兼 10
		英語総合4(A)	2後		1		○								兼 11
		英語総合4(B)	2後		1		○				1				兼 10
		英語セミナーA1	1前		2		○								兼 2
		英語セミナーA2	1後		2		○								兼 2
		英語セミナーB1	2前		2		○								兼 1
		英語セミナーB2	2後		2		○								兼 1
		英語セミナーC1	2前		2		○								兼 1
		英語セミナーC2	2後		2		○								兼 1
		英語セミナーD1	3前		2		○								兼 1
		英語セミナーD2	3後		2		○								兼 1
		英語セミナーE1	2前		2		○								兼 1
		英語セミナーE2	2後		2		○								兼 1
		英語セミナーF1	2前		2		○								兼 1
		英語セミナーF2	2後		2		○								兼 1
		英語セミナーG1	1前		2		○								兼 1
		英語セミナーG2	1後		2		○								兼 1
		英語セミナーH1	3前		2		○								兼 1
		英語セミナーH2	3後		2		○								兼 1
		英語セミナーI1	1前		2		○								兼 1
		英語セミナーI2	1後		2		○								兼 1
		英語セミナーJ1	3前		2		○								兼 1
		英語セミナーJ2	3後		2		○								兼 1
		英語資格試験セミナー	1後		2		○								兼 1 集中
		海外英語研修	1後		2		○								兼 1 集中
		ドイツ語Ⅰ	1前		2		○								兼 6
		ドイツ語Ⅱ	1後		2		○								兼 6
		ドイツ語ⅢA	2前		1		○								兼 1
		ドイツ語ⅢB	2後		1		○								兼 1
		ドイツ語ⅢC	2前		1		○								兼 1
		ドイツ語ⅢD	2後		1		○								兼 1
		フランス語Ⅰ	1前		2		○			1					兼 5
		フランス語Ⅱ	1後		2		○			1					兼 5
		フランス語ⅢA	2前		1		○								兼 1
		フランス語ⅢB	2後		1		○								兼 1
		フランス語ⅢC	2前		1		○								兼 1
		フランス語ⅢD	2後		1		○								兼 1
		中国語Ⅰ	1前		2		○								兼 18
		中国語Ⅱ	1後		2		○								兼 18
		中国語ⅢA	2前		1		○								兼 2
		中国語ⅢB	2後		1		○								兼 2
		中国語ⅢC	2前		1		○								兼 2
		中国語ⅢD	2後		1		○								兼 2
		スペイン語Ⅰ	1前		2		○								兼 6
		スペイン語Ⅱ	1後		2		○								兼 6

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	言語科目	スペイン語ⅢA	2前		1		○								兼 1
		スペイン語ⅢB	2後		1		○								兼 1
		スペイン語ⅢC	2前		1		○								兼 1
		スペイン語ⅢD	2後		1		○								兼 1
		コリア語Ⅰ	1前		2		○					1			兼 12
		コリア語Ⅱ	1後		2		○					1			兼 12
		コリア語ⅢA	2前		1		○								兼 2
		コリア語ⅢB	2後		1		○								兼 2
		コリア語ⅢC	2前		1		○								兼 2
		コリア語ⅢD	2後		1		○								兼 2
		ドイツ語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 2
		ドイツ語セミナーⅠB	2後		2		○								兼 2
		ドイツ語セミナーⅠC	2前		2		○								兼 1
		ドイツ語セミナーⅠD	2後		2		○								兼 1
		ドイツ語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1
		ドイツ語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1
		ドイツ語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1
		ドイツ語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1
		フランス語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 2
		フランス語セミナーⅠB	2後		2		○								兼 2
		フランス語セミナーⅠC	2前		2		○			1					兼 1
		フランス語セミナーⅠD	2後		2		○								兼 2
		フランス語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1
		フランス語セミナーⅡB	3後		2		○			1					
		フランス語セミナーⅡC	3前		2		○			1					
		フランス語セミナーⅡD	3後		2		○			1					
		フランス語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1
		フランス語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 2
		中国語セミナーⅠB	2後		2		○								兼 2
		中国語セミナーⅠC	2前		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅠD	2後		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1
		中国語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1
		中国語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅠB	2後		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅠC	2前		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅠD	2後		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1
		スペイン語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1
		スペイン語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1
		コリア語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 1
		コリア語セミナーⅠB	2後		2		○								兼 1
		コリア語セミナーⅠC	2前		2		○								兼 1
		コリア語セミナーⅠD	2後		2		○								兼 1
		コリア語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	言語科目		コリア語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1	
			コリア語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1	
			コリア語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1	
			海外中国語研修講座	2前		2		○								兼 1	集中
			ポルトガル語Ⅰ	2前		2		○								兼 1	
			ポルトガル語Ⅱ	2後		2		○								兼 1	
			ポルトガル語ⅢA	3前		2		○								兼 1	
			ポルトガル語ⅢB	3後		2		○								兼 1	
			ロシア語Ⅰ	2前		2		○								兼 1	
			ロシア語Ⅱ	2後		2		○								兼 1	
			ロシア語ⅢA	3前		2		○								兼 1	
			ロシア語ⅢB	3後		2		○								兼 1	
			ラテン語Ⅰ	2前		1		○								兼 1	
			ラテン語Ⅱ	2後		1		○								兼 1	
			ギリシア語Ⅰ	2前		1		○								兼 1	
			ギリシア語Ⅱ	2後		1		○								兼 1	
			ペルシア語Ⅰ	2前		2		○								兼 1	
			ペルシア語Ⅱ	2後		2		○								兼 1	
			トルコ語Ⅰ	2前		2		○								兼 1	
			トルコ語Ⅱ	2後		2		○								兼 1	
			アラビア語Ⅰ	2前		2		○								兼 1	
			アラビア語Ⅱ	2後		2		○								兼 1	
			日本語	1前		1		○			1					兼 3	
			小計（130科目）	－	4	223	0	－			4	1	1	0	0	兼 126	
	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	1前		2		○								兼 1	
			哲学A	1前		2		○								兼 3	
			哲学B	2前		2		○								兼 2	
			倫理学入門	1前		2		○								兼 1	
			倫理学A	1前		2		○								兼 2	
			倫理学B	2前		2		○								兼 2	
			クリティカル・シンキング	1前		2		○								兼 1	
			論理学	2前		2		○								兼 1	
			宗教学入門	1前		4		○			1						
			宗教の世界A	1前		2		○			1					兼 1	
			宗教の世界B	1後		2		○			1					兼 1	
			中国の思想A	1前		2		○								兼 1	
			中国の思想B	1後		2		○								兼 1	
			芸術の世界A	2前		2		○								兼 2	
			芸術の世界B	2後		2		○								兼 2	
			日本の文学A	1前		4		○								兼 2	
			日本の文学B	1後		4		○								兼 2	
			日本の文学C	2前		2		○								兼 1	
			アジアの文学A	1前		2		○								兼 1	
			アジアの文学B	1前		2		○								兼 1	
			西洋の文学A	1前		2		○								兼 3	
			西洋の文学B	1後		2		○								兼 3	
			文章表現法A	1前		2		○								兼 2	
			文章表現法B	1後		2		○								兼 2	
			言語と文化	1前		2		○								兼 2	
			歴史学入門	2前		2		○								兼 2	
			日本の歴史A	1前		4		○								兼 1	
			日本の歴史B	1後		4		○								兼 1	
			日本の文化	2後		4		○								兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	アジアの歴史A	1前		4		○								兼 3	
			アジアの歴史B	1後		4		○								兼 2	
			アジアの文化	2前		2		○			1					兼 1	
			西洋の歴史A	1前		4		○								兼 1	
			西洋の歴史B	2前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史C	2後		2		○								兼 1	
			現代世界の歴史A	1前		2		○								兼 2	
			現代世界の歴史B	1後		2		○								兼 2	
			心理学	1前		4		○								兼 1	
			心の科学A	1前		2		○								兼 2	
			心の科学B	1後		2		○								兼 2	
			応用心理学A	2前		2		○								兼 1	
			応用心理学B	2後		2		○								兼 1	
			教育学のすすめA	1前		2		○								兼 3	
			教育学のすすめB	1後		2		○								兼 3	
			現代社会と教育A	2前		2		○								兼 1	
			現代社会と教育B	2後		2		○								兼 1	
			教育原論A	2前		2		○								兼 1	
			教育原論B	2後		2		○								兼 1	
			学習・発達論A	2前		2		○								兼 3	
			学習・発達論B	2後		2		○								兼 3	
			人文科学セミナー	2通		4		○			2					兼 5	
			大学論	2前		2		○			1					兼 9	オムニバス
			小計（52科目）	－	0	126	0	－			3	0	0	0	0	兼 47	
		社会科学系科目	日本国憲法	1前		2		○								兼 6	
			法学のすすめ	1前		2		○								兼 3	
			政治学のすすめ	1前		2		○								兼 1	
			社会学のすすめ	1前		2		○								兼 2	
			地理学のすすめ	1前		2		○			1						集中
			経済学のすすめ	1前		2		○								兼 4	
			国際学のすすめ	1前		2		○								兼 1	
			文化人類学のすすめ	1前		2		○								兼 1	
			社会調査のすすめ	1前		2		○				1				兼 1	
			社会統計学のすすめ	1前		2		○								兼 2	
			人権論A	1前		2		○				1					
			人権論B	1後		2		○								兼 1	
			現代社会とメディア	2前		2		○								兼 2	
			現代社会と福祉	2前		2		○								兼 1	
			現代社会と法	2前		2		○								兼 2	
			環境と社会	2前		2		○								兼 2	
			平和学A	2前		2		○								兼 2	
			ジェンダー論	2前		2		○								兼 2	
			国際社会論	2前		2		○								兼 2	
			現代社会の諸問題	2前		2		○				1				兼 10	オムニバス
			地域論	2前		2		○			1						
			現代社会と労働	2前		2		○								兼 1	
			社会思想史	2前		2		○								兼 1	
			英語で学ぶ日本の社会A	1前		2		○								兼 1	
			英語で学ぶ日本の社会B	1前		2		○								兼 1	
			データサイエンス・AI入門	1前		2		○								兼 2	
			小計（26科目）	－	0	52	0	－			1	1	0	0	0	兼 43	
		自然科学系科目	数学入門	1前		2		○								兼 3	
			数学への旅	1前		2		○								兼 3	
			確率・統計入門	1前		2		○								兼 2	
			微分と積分	1前		4		○								兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	行列と行列式	1前		4		○								兼 1	
			数理統計学	2前		4		○								兼 1	
			数理と計算	2前		2		○								兼 1	
			数学の世界	2前		4		○								兼 2	
			数理と論証	2前		2		○								兼 1	
			宇宙の科学Ⅰ	1前		4		○								兼 1	
			宇宙の科学Ⅱ	2前		2		○								兼 1	
			地球科学のすすめ	1前		2		○								兼 1	
			地球科学	1後		2		○								兼 1	
			物理科学の世界	1前		4		○			1					兼 1	
			時間と空間の科学	1前		2		○								兼 2	
			エネルギー入門	2前		2		○								兼 1	
			自然科学史Ⅰ	1前		2		○			1						
			自然科学史Ⅱ	2前		2		○			1					兼 1	
			科学論	2前		2		○								兼 2	
			技術論	2後		2		○								兼 1	
			平和学B	2前		2		○			1						
			里山学	1前		2		○								兼 8	オムニバス
			生物科学のすすめ	1前		4		○								兼 1	
			生命科学のすすめ	1前		2		○								兼 3	オムニバス
			生命科学	1後		2		○								兼 2	
			生態学のすすめ	1前		4		○								兼 1	
			人類学のすすめ	1前		4		○			1					兼 1	
			日本の自然	1前		4		○								兼 8	オムニバス
			生命誌	2前		2		○								兼 1	
			植物の自然誌	2前		2		○								兼 2	
			動物の自然誌	2前		2		○								兼 2	
			民族の自然誌	2前		2		○								兼 1	
			人類進化学	2前		2		○			1						
			人間の生物学Ⅰ	2前		2		○			1						
			人間の生物学Ⅱ	2後		2		○			1						
			自然誌実習	2前		4		○			1					兼 4	オムニバス
			野外観察法	2前		2		○								兼 2	
			環境学	1前		4		○								兼 3	
			情報科学入門	2前		2		○								兼 1	
			情報科学Ⅰ	2後		2		○								兼 1	
			情報科学Ⅱ	3前		2		○								兼 1	
			情報科学実習	1後		4		○								兼 2	
			小計（42科目）	－	0	110	0	－			2	0	0	0	0	兼 39	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2前		2		○								兼 2	
			現代社会とスポーツ	1後		2		○								兼 2	
			スポーツ技術学演習	1前		2			○		1					兼 12	
			人間とスポーツ	1前		2		○								兼 1	
			スポーツと人権・平和	2前		2		○								兼 1	
			スポーツ文化史	2前		2		○								兼 1	
			スポーツ科学最前線	1前		2		○			1						
			小計（7科目）	－	0	14	0	－			1	0	0	0	0	兼 14	
			教養教育科目特別講義	1前		4		○				1				兼 8	オムニバス
			特別講座	1後		12		○									
			English language (Ryukoku Intercultural Program)	1前		12		○								兼 1	
			Lecture (Ryukoku Intercultural Program)	1前		6		○								兼 1	
			Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)	1前		6		○								兼 1	
			小計（5科目）	－	0	40	0	－			0	1	0	0	0	兼 9	
専攻科目	専攻科目基礎		情報リテラシー	1前	1			○			1						
			現代のビジネス	1前	2			○				3				兼 2	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専攻基礎科目	簿記入門	1前	2			○			5					兼 3	
		経営と情報	1前	2			○				1	1			兼 1	
		現代の企業会計	1後	2			○			2	1	1				
		現代企業の成り立ち	1後		2		○				1					
		現代社会と企業	1後		2		○								兼 1	
		経営とコンピュータ利用	1後		2		○			1					兼 1	
		マーケティングの基礎	1後		2		○			1					兼 1	
		企業の国際化	1後		2		○			1						
		企業経営の管理	1後		2		○			1						
		日本と世界の経済	1後		2		○								兼 1	
		初級商業簿記	1後		2		○			1	1					
		小計（13科目）	－	9	16	0	－			10	8	2	0	0	兼 10	
	選択必修・選択・学部選択科目	経営管理論	2前		2		○			1						
		経営戦略論	2前		2		○								兼 1	
		国際経営論	2後		2		○			1						
		生産管理論	2前		2		○					1				
		マーケティング論	2後		2		○			1					兼 1	
		マーケティング・リサーチ	3前		2		○			1					兼 1	オムニバス・集中
		人的資源管理論	2前		2		○								兼 1	
		組織行動論	3後		2		○								兼 1	
		経営組織論	3前		2		○								兼 1	
		商品学	2後		2		○								兼 1	
		商品開発論	3前		2		○								兼 1	
		経営学原理	3前		2		○			1						
		中小企業経営論	3前		2		○								兼 1	
		ロジスティクス	2後		2		○								兼 1	
		国際経営戦略論	3前		2		○								兼 1	
		経営立地論	2後		2		○			1						
		アジア企業経営論	3前		2		○			1						
		経営意思決定論	3前		2		○			1						
		経営思想を知る	2前		2		○			1						
		財務会計入門	2前		2		○			1						
		財務会計論	2後		2		○			1						
		中級商業簿記	2前		2		○				1					
		上級商業簿記	2後		2		○				1					
		工業簿記	2前		2		○			1						
		原価計算論	2後		2		○			1						
		管理会計論	3後		2		○			1						
		会計監査論	3後		2		○			1						
		国際会計論	3後		2		○			1						
		キャッシュフロー会計論	3前		2		○				1					
		会計情報解読論	3前		2		○								兼 1	
		財務管理論	2後		2		○			1						
		連結会計論	3前		2		○			1						
		所得税法	3前		2		○			1						
		法人税法	2後		2		○								兼 1	
		証券市場論	3前		2		○					1				
		現代金融論	2後		2		○					1				
		現代銀行論	3後		2		○					1				
		株式会社論	2前		2		○								兼 1	
		企業統治論	2後		2		○			1						
		企業倫理論	2後		2		○			1						
		産業技術論	3前		2		○					1				
		マクロ経済学	3前		2		○								兼 1	
		経済原論	2後		2		○								兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	選択必修・選択・学部選択科目	経営史	2後		2		○								兼 1	
		流通システム論	2後		2		○								兼 1	
		日本経営史	3前		2		○								兼 1	
		日本経済論	2前		2		○								兼 1	
		多国籍企業論	3後		2		○								兼 1	
		国際比較経営史	3前		2		○				1					
		国際比較社会論	3前		2		○				1					
		国際比較経営論	3後		2		○				1					
		国際流通論	3前		2		○								兼 1	
		中国ビジネス論	2後		2		○				1					
		現代中国のビジネス	2後		6		○			1	1					集中・共同
		起業論A	3前		2		○				1					
		起業論B	3後		2		○				1					集中
		経営革新論	3後		2		○								兼 1	
		公共経営論	3前		2		○								兼 1	
		京都企業論	3後		2		○			1						
		環境経営論	3後		2		○								兼 1	
		ものづくりの現場	3前		2		○				1					集中
		地域と企業	3前		4		○				1					集中
		民法	2後		2		○								兼 1	
		商法	2前		2		○								兼 1	
		会社法	2後		2		○								兼 1	
		労働法	3前		2		○								兼 1	
		経済法	3後		2		○			1						
		経営データの分析A	2前		2		○				1	1			兼 1	
		経営データの分析B	2後		2		○				1	1			兼 1	
		経営情報システム論	2前		2		○								兼 1	
		プログラミングおよび実習A1	3前		2		○				1					
		プログラミングおよび実習A2	3後		2		○				1					
		プログラミングおよび実習B1	3前		2		○								兼 1	
		プログラミングおよび実習B2	3後		2		○								兼 1	
		経営情報活用論	2後		2		○					1				
		意思決定の科学	3前		2		○				1					
		地域企業論	2後		2		○				1					
		経営学基礎論	2前		2		○			1						
		ビジネスコミュニケーションA(英)	2前		2		○				1					
		ビジネスコミュニケーションA(中国)	3前		2		○								兼 1	
		ビジネスコミュニケーションB(中国)	3後		2		○								兼 1	
		上級外国語A(ドイツ)	2前		2		○								兼 2	
		上級外国語B(ドイツ)	2後		2		○								兼 2	
		上級外国語C(ドイツ)	2前		2		○								兼 1	
		上級外国語D(ドイツ)	2後		2		○								兼 1	
		上級外国語A(フランス)	2前		2		○								兼 2	
		上級外国語B(フランス)	2後		2		○								兼 2	
		上級外国語C(フランス)	2前		2		○			1					兼 1	
		上級外国語D(フランス)	2後		2		○								兼 2	
		上級外国語A(中国)	2前		2		○								兼 2	
		上級外国語B(中国)	2後		2		○								兼 2	
		上級外国語C(中国)	2前		2		○								兼 1	
		上級外国語D(中国)	2後		2		○								兼 1	
		上級外国語A(スペイン)	2前		2		○								兼 1	
		上級外国語B(スペイン)	2後		2		○								兼 1	
		上級外国語C(スペイン)	2前		2		○								兼 1	
		上級外国語D(スペイン)	2後		2		○								兼 1	
		上級外国語A(コリア)	2前		2		○								兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専攻科目	選択必修・選択・学部選択科目	上級外国語B(コリア)	2後		2		○								兼 1
		上級外国語C(コリア)	2前		2		○								兼 1
		上級外国語D(コリア)	2後		2		○								兼 1
		スポーツと経済	3前		2		○								兼 1
		スポーツマネジメント論	3前		2		○			1					
		スポーツ政策論	3前		2		○								兼 1
		スポーツマーケティング論	3後		2		○			1					
		特講・我が社の経営と京都	3後		2		○			1					兼 2 オムニバス
		特講・映画・文化産業概論	2後		2		○								兼 3 オムニバス
		特講・食農のビジネスフロンティア	3前		4		○			1	1				共同
		実践・グローバル時代の「多様性と調和」のマネジメント	3前		2		○								兼 1
		実践・現場から学ぶ放送メディア論A	2前		2		○								兼 2 オムニバス
		実践・現場から学ぶ放送メディア論B	2後		4		○								兼 3 共同
		実践・消費者問題を考える	2前		2		○			1					兼 1 共同
		実践・クリティカル・シンキング	1後		2		○			1					
		実践・デジタルマーケティングの基礎	2後		2		○								兼 1
		実践・プロジェクト演習	2後		4		○			1	1				共同
		実践・社会課題発見演習	2後		2		○			1	1				共同
		Global Understanding and Communication	3後			4	○				1				メディア
		京都市の産業と産業政策	2後		2		○								兼 1
		フレッシャーズゼミ	1前		2			○		15	6	5			
		基礎演習	1後～2前		4			○		20	8	4			兼 1
		演習	2後～4前		12			○		16	8	4			
		応用演習	3後		2			○		1	1				
		協定特別演習Ⅰ	1後～2前		4			○		1					
		協定特別演習Ⅱ	1後～2前		4			○		1					
		協定特別演習Ⅲ	2後		2			○		1					
		協定特別演習Ⅳ	2後		2			○		1					
		特別講座	1後		12		○								
		アジア政治論	3後		4		○								兼 1
		中国政治論	2後		2		○								兼 1
		アジア経済論A	2後		2		○								兼 1
		アジア経済論B	2後		2		○								兼 1
		中国経済論A	2後		2		○								兼 1
		中国経済論B	2後		2		○								兼 1
		国際金融論	3前		4		○								兼 1
		ファイナンス理論	2後		4		○								兼 1
		統計学	1後		4		○								兼 1
		特別基礎演習	1後～2前		4					2	2	2			
		組織学習論	3前		2					1					
		企業文明論	2後		2							1			
		観光経営論	2前		2						1				
		産業技術史	2前		2										兼 1
		社会的企業論	2後		2						1				
		ソーシャルマーケティング	2後		2					1					
		キャリア実習・実習指導	1通		2					1					
		キャリア実習・実習指導（大学コンソーシアム京都）	1通		4					1					
		小計（145科目）	－	0	338	4		－		23	10	5	0	0	兼 74
	学部共通コース科目 国際関係コース	国際関係論Ⅰ	2後		2		○								兼 1
		地域研究入門	2後		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 2
		中国語セミナーⅠB	2後		2		○								兼 2
		中国語セミナーⅠC	2前		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅠD	2後		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	中国語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1	
			中国語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1	
			中国語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1	
			海外中国語研修講座	2前		2		○								兼 1	集中
			ドイツ語セミナーＩA	2前		2		○								兼 2	
			ドイツ語セミナーＩB	2後		2		○								兼 2	
			ドイツ語セミナーＩC	2前		2		○								兼 1	
			ドイツ語セミナーＩD	2後		2		○								兼 1	
			ドイツ語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1	
			ドイツ語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1	
			ドイツ語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1	
			ドイツ語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1	
			フランス語セミナーＩA	2前		2		○								兼 2	
			フランス語セミナーＩB	2後		2		○								兼 2	
			フランス語セミナーＩC	2前		2		○			1					兼 1	
			フランス語セミナーＩD	2後		2		○								兼 2	
			フランス語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1	
			フランス語セミナーⅡB	3後		2		○			1						
			フランス語セミナーⅡC	3前		2		○			1						
			フランス語セミナーⅡD	3後		2		○			1						
			スペイン語セミナーＩA	2前		2		○								兼 1	
			スペイン語セミナーＩB	2後		2		○								兼 1	
			スペイン語セミナーＩC	2前		2		○								兼 1	
			スペイン語セミナーＩD	2後		2		○								兼 1	
			スペイン語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1	
			スペイン語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1	
			スペイン語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1	
			スペイン語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーＩA	2前		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーＩB	2後		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーＩC	2前		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーＩD	2後		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1	
			ポルトガル語Ⅰ	2前		2		○								兼 1	
			ポルトガル語Ⅱ	2後		2		○								兼 1	
			ポルトガル語ⅢA	3前		2		○								兼 1	
			ポルトガル語ⅢB	3後		2		○								兼 1	
			ロシア語Ⅰ	2前		2		○								兼 1	
			ロシア語Ⅱ	2後		2		○								兼 1	
			ロシア語ⅢA	3前		2		○								兼 1	
			ロシア語ⅢB	3後		2		○								兼 1	
			英語セミナーD1	3前		2		○								兼 1	
			英語セミナーD2	3後		2		○								兼 1	
			英語セミナーG1	3前		2		○								兼 1	
			英語セミナーG2	3後		2		○								兼 1	
			英語セミナーH1	3前		2		○								兼 1	
			英語セミナーH2	3後		2		○								兼 1	
			英語セミナーJ1	3前		2		○								兼 1	
			英語セミナーJ2	3後		2		○								兼 1	
			英語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1	
			英語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1	
			Intercultural Discussion	3前		2		○								兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	中国語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼　1
			中国語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼　1
			ドイツ語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼　1
			ドイツ語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼　1
			スペイン語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼　1
			スペイン語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼　1
			フランス語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼　1
			フランス語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼　1
			コリア語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼　1
			コリア語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼　1
			ヨーロッパ研究A	2後		2		○								兼　1
			ヨーロッパ研究B	3前		2		○								兼　1
			ヨーロッパ研究C	2後		2		○								兼　1
			ヨーロッパ研究D	3前		2		○								兼　1
			東アジア研究A	2後		2		○								兼　1
			東アジア研究B	3前		2		○								兼　1
			東南アジア研究A	2後		2		○								兼　1
			東南アジア研究B	3前		2		○								兼　1
			北米研究A	2後		2		○								兼　1
			北米研究B	3前		2		○								兼　1
			中南米研究A	2後		2		○								兼　1
			中南米研究B	3前		2		○								兼　1
			グローバル・サウス研究A	2後		2		○								兼　1
			グローバル・サウス研究B	3前		2		○								兼　1
			異文化研究A	2後		2		○								兼　1
			異文化研究B	3前		2		○								兼　1
			情報・コミュニケーションの技法	2後		2		○								兼　1
			多文化映像論A	2後		2		○								兼　1
			多文化映像論B	3前		2		○								兼　1
			フィールドワーク実習	3前		2		○								兼　1
			国際関係論Ⅱ	3前		2		○								兼　1
			現代国際関係史	2後		2		○								兼　1
			国際ジャーナリズム論	3前		2		○								兼　1
			グローバル経済史A	2前		2		○								兼　1
			グローバル経済史B	2後		2		○								兼　1
			国際金融論	3前		4		○								兼　1
			国際協力論	2後		4		○								兼　1
			アジア経済史	2前		4		○								兼　1
			ヨーロッパ経済史	2後		4		○								兼　1
			地域経済論	2後		4		○								兼　1
			アジア経済論A	2後		2		○								兼　1
			アジア経済論B	2後		2		○								兼　1
			比較経済論A	2前		2		○								兼　1
			比較経済論B	2後		2		○								兼　1
			開発経済学A	2後		2		○								兼　1
			開発経済学B	2後		2		○								兼　1
			ヨーロッパ経済論	2後		4		○								兼　1
			食・農・資源の経済論A	2後		2		○								兼　1
			食・農・資源の経済論B	2後		2		○								兼　1
			日本経済史A	2前		2		○								兼　1
			日本経済史B	2前		2		○								兼　1
			経済地理学A	2前		2		○								兼　1
			経済地理学B	2後		2		○								兼　1
			経済思想史	3前		2		○								兼　1
			社会調査の技法	2前		2		○								兼　1

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	フィールドワークの技法	2後		2		○								兼 1
			国際経営論	2後		2		○			1					
			多国籍企業論	3後		2		○								兼 1
			国際経営戦略論	3前		2		○								兼 1
			国際比較経営史	3前		2		○				1				
			国際比較社会論	3前		2		○				1				
			アジア企業経営論	3前		2		○			1					
			国際法Ⅰ	2後		4		○								兼 1
			国際法Ⅱ	3前		2		○								兼 1
			国際法Ⅲ	3後		2		○								兼 1
			国際私法	3後		4		○								兼 1
			国際政治論	3後		4		○								兼 1
			アフリカ政治論A	2前		2		○								兼 1
			アフリカ政治論B	2前		2		○								兼 1
			国際取引法	3前		2		○								兼 1
			開発援助論	2後		2		○								兼 1
			中東政治論	3前		2		○								兼 1
			アジア政治論	3後		4		○								兼 1
			中国政治論	2後		2		○								兼 1
			アメリカ政治論	2後		2		○								兼 1
			ヨーロッパ政治論	3前		2		○								兼 1
			国際環境法	3前		2		○								兼 1
			現代中国の法と社会	3前		2		○								兼 1
			文化・観光政策	2後		2		○								兼 1
			比較地域政策論	2後		2		○								兼 1
			アジアの地域・都市政策	2後		2		○								兼 1
			欧州の地域・都市政策	3前		2		○								兼 1
			北米・中南米の地域・都市政策	3前		2		○								兼 1
			特別演習Ⅰ	2後～3前		4			○		2					兼 7
			特別演習Ⅱ	3後～4前		4			○		1					兼 7
			特別演習Ⅲ	4後		4			○							兼 3
			演習	2後～4前		12			○		1	1				
			演習Ⅰ	2後～3前		4			○							兼 6
			演習Ⅰ	2後～3後		6			○							兼 2
			演習Ⅱ	3後～4前		4			○							兼 1
			演習Ⅱ（卒業研究含む）	4通		4			○							兼 2
			演習Ⅱ（卒業研究含む）	3後～4後		6			○							兼 3
			演習Ⅲ	3後		2										兼 1
			演習Ⅳ（卒業研究含む）	4前～4後		6										兼 1
			学部共通特別講義Ⅰ	3通		4		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅱ	3通		4		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅲ	2後		2		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅳ	2後		2		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅴ	2後		2		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅵ	2後		2		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅶ	2後		2		○								兼 1
			小計（163科目）	－	0	384	0	－			4	2	0	0	0	兼 83
		英語コミュニケーションコース	Oral Communication ⅠA	2後		4		○				1				兼 3
			Oral Communication ⅠB	2後		4		○								兼 4
			Oral Communication ⅡA	3前		4		○				1				兼 3
			Oral Communication ⅡB	3前		4		○								兼 4
			Writing Ⅰ	2後		2		○			1					兼 3
			Writing Ⅱ	3前		2		○			1					兼 3
			米国文化Ⅰ	2後		2		○								兼 1
			英国文化Ⅰ	2後		2		○								兼 1

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専攻科目	学部共通コース科目	英語コミュニケーションコース	英国文化Ⅱ	3前		2		○								兼 1
			米国文化Ⅱ	3前		2		○								兼 1
			English in the World	2後		2		○								兼 1
			文化比較	2後		2		○								兼 1
			Intensive Reading	2後		2		○			1					兼 1
			Reading Fluency	2後		2		○								兼 1
			Communicative Grammar Ⅰ	2後		2		○								兼 1
			英米事情	3前		2		○			1					
			Business Writing	3前		2		○								兼 1
			Critical Essay	3前		2		○								兼 1
			Process Writing	3前		2		○								兼 1
			Public Speaking	3前		2		○								兼 1
			Debate and Discussion	3前		2		○								兼 1
			Dynamics of Expression	3前		2		○								兼 1
			Communicative Grammar Ⅱ	3前		2		○								兼 1
			Intercultural Discussion	3後		2		○								兼 1
			Global Understanding in English	3前		4		○				1				メディア
			海外研修	2後		4		○								兼 1 集中
			英語資格試験セミナー	3前		2		○								兼 1 集中
			Forum	3前		2		○								兼 1
			Seminar Ⅰ	3後		2			○		1	1				兼 2
			Seminar Ⅱ	4前		2			○		1	1				兼 2
			卒業研究	4後		4			○		1	1				兼 2
			学部共通特別講義Ⅰ	3前		4		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅱ	3後		4		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅲ	3後		2		○			1					
			学部共通特別講義Ⅳ	3後		2		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅴ	3後		2		○								兼 1
			小計（36科目）	－	0	90	0	－			1	1	0	0	0	兼 13
		スポーツサイエンスコース	身体運動の生理学	2後		2		○								兼 1
			身体運動の機能解剖学	2後		2		○			1					
			身体運動の制御と学習	2後		2		○								兼 1
			現代スポーツ論	2後		2		○								兼 1
			近代スポーツ史	2後		2		○								兼 1
			スポーツ栄養学	2後		2		○								兼 1
			スポーツと経済	3前		2		○								兼 1
			スポーツマネジメント論	3前		2		○			1					
			エクササイズテクニック	3前		2		○								兼 1
			スポーツメディア論	3前		2		○								兼 1
			スポーツ医学	3前		2		○								兼 1
			スポーツ統計学	3前		2		○								兼 1 集中
			スポーツ政策論	3前		2		○								兼 1
			健康スポーツ論	3前		2		○								兼 1
			体力学	3前		2		○								兼 1
			フィットネスプログラミングⅠ	3前		2		○								兼 1
			スポーツ心理学Ⅰ	3前		2		○								兼 1
			スポーツマーケティング論	3後		2		○			1					
			スポーツ法学	3後		2		○								兼 1
			バイオメカニクス	3後		2		○			1					
			地域スポーツ論	3後		2		○								兼 1
			スポーツトレーニング論	3後		2		○			1					
			スポーツ文化論	3後		2		○								兼 1 集中
			フィットネスプログラミングⅡ	3後		2		○								兼 1
			スポーツ心理学Ⅱ	3後		2		○								兼 1
			特別演習Ⅰ	2後～3前		4			○		2					兼 6

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	学部共通コース科目	スポーツサイエンスコース	特別演習Ⅱ	3後～4前		4			○		2					兼 5	
			特別演習Ⅲ	4後		4			○		2					兼 5	
			スポーツサイエンスコース特別講義（水泳）	3後		2		○								兼 1	
			スポーツサイエンスコース特別講義（スポーツビジネス）	3後		2		○								兼 1	
			キャリア入門(スポーツサイエンスコース)	3前		2		○								兼 1	
			スポーツキャリア実習	3後		2				○						兼 1	
			小計（32科目）	－	0	70	0	－			2	0	0	0	0	兼 17	
		環境サイエンスコース	環境学A	2後		2		○								兼 1	
			環境学B	3前		2		○								兼 1	
			環境と倫理	2後		2		○								兼 1	
			環境と経済	2後		2		○								兼 1	
			環境とビジネス	2後		2		○								兼 1	
			環境と法	2後		2		○								兼 1	
			環境管理論Ⅰ	3前		2		○								兼 2	
			環境管理論Ⅱ	3後		2		○								兼 1	
			環境政策論Ⅰ	2後		2		○								兼 1	
			環境政策論Ⅱ	3前		2		○								兼 1	
			コンピュータシステム論	3前		4		○								兼 1	
			生態学A	2後		2		○								兼 1	
			生態学B	3前		2		○								兼 1	
			地球と環境	2後		2		○								兼 1	
			環境地理学	2後		2		○			1					兼 1	オムニバス
			自然保護論	2後		2		○								兼 1	
			化学物質と環境	3前		2		○								兼 1	
			シミュレーション技法	3後		2		○								兼 1	
			複雑系の科学	3前		2		○								兼 1	
			都市経済論	3前		2		○								兼 1	
			環境史	3後		2		○			1						
			環境アセスメント論	3前		2		○								兼 1	
			地域環境論	3前		2		○								兼 1	
			気候と気象	2後		2		○								兼 1	
			生物共棲論	3前		2		○								兼 1	
			水界生態論	3前		2		○								兼 1	
			環境フィールドワーク	3通		4		○								兼 4	オムニバス
			環境実践研究	3前		2				○						兼 1	集中
			開発経済学A	2後		2		○								兼 1	
			開発経済学B	2後		2		○								兼 1	
			産業技術論	3前		2		○								兼 1	
			国際環境法	2後		2		○								兼 1	
			持続可能な発展概論	2後		2		○								兼 2	オムニバス
			景観・まちなみ保存政策	2後		2		○								兼 2	オムニバス
			環境エネルギー政策	3前		2		○								兼 1	
			演習Ⅰ	2後～3前		4			○							兼 4	
			演習Ⅱ	3後～4前		4			○							兼 4	
			卒業研究	4後		4			○							兼 3	
			学部共通特別講義A	2後		2		○								兼 1	
			学部共通特別講義B	2後		2		○								兼 1	
			学部共通特別講義C	2後		4		○								兼 1	
			小計（41科目）	－	0	94	0	－			2	0	0	0	0	兼 31	
諸課程科目			商業科教育法Ⅰ	3前			2	○								兼 1	
			商業科教育法Ⅱ	3後			2	○								兼 1	
			職業指導	3通			4	○								兼 1	
			法学概論	3通			4	○								兼 1	
			日本政治史	3後			4	○								兼 1	
			日本経済史A	2前			2	○								兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
諸課程科目	日本経済史B	2前			2	○								兼 1
	日本法制史A	3前			2	○								兼 1
	日本法制史B	3後			2	○								兼 1
	西洋法制史A	3前			2	○								兼 1
	西洋法制史B	3後			2	○								兼 1
	西洋政治史	3後			4	○								兼 1
	ヨーロッパ経済史	2後			4	○								兼 1
	グローバル経済史A	2前			2	○								兼 1
	グローバル経済史B	2後			2	○								兼 1
	アジア経済史	2前			4	○								兼 1
	経済地理学A	2前			2	○								兼 1
	経済地理学B	2後			2	○								兼 1
	倫理学概論	3前			4	○								兼 1
	心理学概論	3前			4	○								兼 1
	政治学原理	3通			4	○								兼 1
	国際政治論	3後			4	○								兼 1
	国際法Ⅰ	3後			4	○								兼 1
	教職コンピュータ基礎	1前			2			○						兼 3
	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	3前			2	○								兼 1
	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	3後			2	○								兼 1
	社会科・公民科教育法Ⅰ	3前			2	○								兼 1
	社会科・公民科教育法Ⅱ	3後			2	○								兼 1
	日本史概説	3前			4	○								兼 1
	外国史概説	3前			4	○								兼 1
	人文地理学	3前			4	○								兼 1
	自然地理学	3前			4	○								兼 1
	地理学(地誌)	3前			4	○								兼 1
	教職論	2前			2	○								兼 1
	学校教育社会学	2前			2	○								兼 1
	教育課程論	2後			2	○								兼 2
	特別支援教育概論	2後			2	○								兼 1
	道徳教育指導法	3後			2	○								兼 1
	総合的な学習の時間・特別活動論	3前			2	○								兼 1
	教育の方法と技術(ICT活用含む)	3前			2	○								兼 1
	生徒・進路指導論	2前			2	○								兼 2
	教育相談	3前			2	○								兼 1
	教育実習指導Ⅰ	4前			1	○								兼 2
	教育実習指導ⅡA	4前			4			○						兼 2
	教育実習指導ⅡB	4前			2			○						兼 2
	教職実践演習(中・高)	4後			2		○							兼 2
	介護等体験	3前			2			○						兼 3
	真宗学概論	2通			4	○								兼 1
	仏教学概論	2通			4	○								兼 1
	真宗教団史	1通			4	○								兼 1
	勤式	1通			4	○								兼 3 オムニバス
	宗門法規	1前			2	○								兼 1 集中
	教化法	1通			4	○								兼 4 オムニバス
	(本山教師)仏教史	1前			1	○								兼 2 オムニバス/集中
	(本山教師)宗教概説	1前			1	○								兼 1 オムニバス/集中
	生涯学習概論	1前			2	○								兼 1
	図書館情報学概論	1前			2	○								兼 1
	図書館制度・経営論	2後			2	○								兼 1
	図書館サービス概論	1後			2	○								兼 1
	情報サービス論	2前			2	○								兼 1
	情報サービス実習A	2前			1			○						兼 1 集中

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
諸課程科目	情報サービス実習B	2後			1			○						兼 1
	図書館情報資源概論	1後			2	○								兼 1
	図書館情報資源特論	2前			2	○								兼 1
	情報資源組織論	2前			2	○								兼 1
	情報資源組織実習A	2後			1			○						兼 2
	情報資源組織実習B	2後			1			○						兼 2
	児童サービス論	2前			2	○								兼 1
	図書・図書館史	1後			2	○								兼 1
	図書館基礎特論	1後			2	○								兼 1
	図書館サービス特論	2前			2	○								兼 1
	図書館情報技術論	2前			2	○								兼 1
	図書館実習	3前			1			○						兼 1
	図書館施設論	2前			2	○								兼 1
	図書館総合演習	3前			2		○							兼 1
	学校経営と学校図書館	2前			2	○								兼 1
	学校図書館メディアの構成	2前			2	○								兼 1
	学習指導と学校図書館	2後			2	○								兼 1
	読書と豊かな人間性	2後			2	○								兼 1
	情報メディアの活用	2後			2	○								兼 1
	小計（80科目）	－	0	0	196	－			0	0	0	0	0	兼 53
合計（776科目）		－	17	1561	200	－			28	10	5	0	0	兼 446

学位又は称号	学士（経営学）	学位又は学科の分野	経済学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
以下の要件を満たし、125単位以上を修得すること。 【教養教育科目】 32単位以上（必修8単位（「仏教の思想」科目:4単位/言語科目:4単位）、選択必修14単位（言語科目:8単位/人文科学系科目:2単位/社会科学系科目:2単位/自然科学系科目:2単位）、選択科目10単位） ※スポーツサイエンスコースのみ 40単位以上（必修8単位（「仏教の思想」科目:4単位/言語科目:4単位）、選択必修14単位（言語科目:8単位/人文科学系科目:2単位/社会科学系科目:2単位/自然科学系科目:2単位）、選択科目18単位） 【専攻科目】 ①経営コース・組織をリードするモデル 69単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：4単位/モデル必修：6単位/モデル選択必修：8単位/モデル選択12単位/学部選択（演習含む）30単位） ②経営コース・市場と情報を活用するモデル 69単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：4単位/モデル必修：6単位/モデル選択必修：8単位/モデル選択12単位/学部選択（演習含む）30単位） ③経営コース・世界へ羽ばたくモデル 75単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：6単位/モデル必修：4単位/モデル選択必修：8単位/モデル選択18単位/学部選択（演習含む）30単位） ④会計コース 81単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：6単位/コース必修：4単位/コース選択必修：10単位/コース選択（演習含む）52単位） ⑤国際関係コース 77単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：10単位/学部選択：14単位/学部共通コース科目44単位） ⑥英語コミュニケーションコース 81単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：10単位/学部選択：14単位/学部共通コース科目48単位） ⑦スポーツサイエンスコース 73単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：10単位/学部選択：14単位/学部共通コース科目40単位） ⑧環境サイエンスコース 81単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：10単位/学部選択：14単位/学部共通コース科目48単位） （履修科目の登録の上限：1年次45単位、2年次44単位、3年次44単位、4年次48単位（年間）） 「学部共通コース」とは、経済学部・経営学部・法学部・政策学部の学生が学部間を横断して受講可能なコース制度で、4コースを設置している。本コースは、履修を希望する学生の中から選考を行い、2年次後期から各コースに所属し、所属学部の卒業要件に加えて各コースでそれぞれ定める履修要件科目を修得することによって、コースを修了するものである。 本コースは、これらの4学部の学生がいずれかに所属することを義務づけているものではなく自由選択コースとして開講している。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A	1前	2			○			1					兼 5
		仏教の思想B	1後	2			○			1					兼 5
		歎異抄の思想Ⅰ	2前		2		○								兼 2
		歎異抄の思想Ⅱ	2後		2		○								兼 2
		小計（4科目）	－	4	4	0	－			1	0	0	0	0	兼 8
	言語科目	英語総合1(A)	1前	1			○			1					兼 13
		英語総合1(B)	1前	1			○			1					兼 14
		英語総合2(A)	1後	1			○			1					兼 13
		英語総合2(B)	1後	1			○			1					兼 14
		英語総合3(A)	2前		1		○								兼 11
		英語総合3(B)	2前		1		○				1				兼 10
		英語総合4(A)	2後		1		○								兼 11
		英語総合4(B)	2後		1		○				1				兼 10
		英語セミナーA1	1前		2		○								兼 2
		英語セミナーA2	1後		2		○								兼 2
		英語セミナーB1	2前		2		○								兼 1
		英語セミナーB2	2後		2		○								兼 1
		英語セミナーC1	2前		2		○								兼 1
		英語セミナーC2	2後		2		○								兼 1
		英語セミナーD1	3前		2		○								兼 1
		英語セミナーD2	3後		2		○								兼 1
		英語セミナーE1	2前		2		○								兼 1
		英語セミナーE2	2後		2		○								兼 1
		英語セミナーF1	2前		2		○								兼 1
		英語セミナーF2	2後		2		○								兼 1
		英語セミナーG1	1前		2		○								兼 1
		英語セミナーG2	1後		2		○								兼 1
		英語セミナーH1	3前		2		○								兼 1
		英語セミナーH2	3後		2		○								兼 1
		英語セミナーI1	1前		2		○								兼 1
		英語セミナーI2	1後		2		○								兼 1
		英語セミナーJ1	3前		2		○								兼 1
		英語セミナーJ2	3後		2		○								兼 1
		英語資格試験セミナー	1後		2		○								兼 1 集中
		海外英語研修	1後		2		○								兼 1 集中
		ドイツ語Ⅰ	1前		2		○								兼 6
		ドイツ語Ⅱ	1後		2		○								兼 6
		ドイツ語ⅢA	2前		1		○								兼 1
		ドイツ語ⅢB	2後		1		○								兼 1
		ドイツ語ⅢC	2前		1		○								兼 1
		ドイツ語ⅢD	2後		1		○								兼 1
		フランス語Ⅰ	1前		2		○			1					兼 5
		フランス語Ⅱ	1後		2		○			1					兼 5
		フランス語ⅢA	2前		1		○								兼 1
		フランス語ⅢB	2後		1		○								兼 1
		フランス語ⅢC	2前		1		○								兼 1
		フランス語ⅢD	2後		1		○								兼 1
		中国語Ⅰ	1前		2		○								兼 18
		中国語Ⅱ	1後		2		○								兼 18
		中国語ⅢA	2前		1		○								兼 2
		中国語ⅢB	2後		1		○								兼 2
		中国語ⅢC	2前		1		○								兼 2
		中国語ⅢD	2後		1		○								兼 2

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
教養教育科目	言語科目	スペイン語Ⅰ	1前		2		○								兼 6
		スペイン語Ⅱ	1後		2		○								兼 6
		スペイン語ⅢA	2前		1		○								兼 1
		スペイン語ⅢB	2後		1		○								兼 1
		スペイン語ⅢC	2前		1		○								兼 1
		スペイン語ⅢD	2後		1		○								兼 1
		コリア語Ⅰ	1前		2		○					1			兼 12
		コリア語Ⅱ	1後		2		○					1			兼 12
		コリア語ⅢA	2前		1		○								兼 2
		コリア語ⅢB	2後		1		○								兼 2
		コリア語ⅢC	2前		1		○								兼 2
		コリア語ⅢD	2後		1		○								兼 2
		ドイツ語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 2
		ドイツ語セミナーⅠB	2後		2		○								兼 2
		ドイツ語セミナーⅠC	2前		2		○								兼 1
		ドイツ語セミナーⅠD	2後		2		○								兼 1
		ドイツ語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1
		ドイツ語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1
		ドイツ語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1
		ドイツ語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1
		フランス語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 2
		フランス語セミナーⅠB	2後		2		○								兼 2
		フランス語セミナーⅠC	2前		2		○			1					兼 1
		フランス語セミナーⅠD	2後		2		○								兼 2
		フランス語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1
		フランス語セミナーⅡB	3後		2		○			1					
		フランス語セミナーⅡC	3前		2		○			1					
		フランス語セミナーⅡD	3後		2		○			1					
		フランス語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1
		フランス語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 2
		中国語セミナーⅠB	2後		2		○								兼 2
		中国語セミナーⅠC	2前		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅠD	2後		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1
		中国語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1
		中国語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅠB	2後		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅠC	2前		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅠD	2後		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1
		スペイン語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1
		スペイン語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1
		コリア語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 1

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
教養教育科目	言語科目		コリア語セミナーＩB	2後		2		○								兼 1
			コリア語セミナーＩC	2前		2		○								兼 1
			コリア語セミナーＩD	2後		2		○								兼 1
			コリア語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1
			コリア語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1
			コリア語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1
			コリア語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1
			コリア語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1
			コリア語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1
			海外中国語研修講座	2前		2		○								兼 1 集中
			ポルトガル語Ⅰ	2前		2		○								兼 1
			ポルトガル語Ⅱ	2後		2		○								兼 1
			ポルトガル語ⅢA	3前		2		○								兼 1
			ポルトガル語ⅢB	3後		2		○								兼 1
			ロシア語Ⅰ	2前		2		○								兼 1
			ロシア語Ⅱ	2後		2		○								兼 1
			ロシア語ⅢA	3前		2		○								兼 1
			ロシア語ⅢB	3後		2		○								兼 1
			ペルシア語Ⅰ	2前		2		○								兼 1
			ペルシア語Ⅱ	2後		2		○								兼 1
			トルコ語Ⅰ	2前		2		○								兼 1
			トルコ語Ⅱ	2後		2		○								兼 1
			アラビア語Ⅰ	2前		2		○								兼 1
			アラビア語Ⅱ	2後		2		○								兼 1
			日本語	1前		1		○			1					兼 3
			小計（126科目）	－	4	219	0	－			4	1	1	0	0	兼 124
	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	1前		2		○								兼 1
			哲学A	1前		2		○								兼 3
			哲学B	2前		2		○								兼 2
			倫理学入門	1前		2		○								兼 1
			倫理学A	1前		2		○								兼 2
			倫理学B	2前		2		○								兼 2
			クリティカル・シンキング	1前		2		○								兼 1
			論理学	2前		2		○								兼 1
			宗教学入門	1前		4		○			1					
			宗教の世界A	1前		2		○			1					兼 1
			宗教の世界B	1後		2		○			1					兼 1
			中国の思想A	1前		2		○								兼 1
			中国の思想B	1後		2		○								兼 1
			芸術の世界A	2前		2		○								兼 2
			芸術の世界B	2後		2		○								兼 2
			日本の文学A	1前		4		○								兼 2
			日本の文学B	1後		4		○								兼 2
			日本の文学C	2前		2		○								兼 1
			アジアの文学A	1前		2		○								兼 1
			アジアの文学B	1前		2		○								兼 1
			西洋の文学A	1前		2		○								兼 3
			西洋の文学B	1後		2		○								兼 3
			文章表現法A	1前		2		○								兼 2
			文章表現法B	1後		2		○								兼 2
			言語と文化	1前		2		○								兼 2
			歴史学入門	2前		2		○								兼 2
			日本の歴史A	1前		4		○								兼 1

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	日本の歴史B	1後		4		○								兼 1	
			日本の文化	2後		4		○								兼 1	
			アジアの歴史A	1前		4		○								兼 3	
			アジアの歴史B	1後		4		○								兼 2	
			アジアの文化	2前		2		○			1					兼 1	
			西洋の歴史A	1前		4		○								兼 1	
			西洋の歴史B	2前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史C	2後		2		○								兼 1	
			現代世界の歴史A	1前		2		○								兼 2	
			現代世界の歴史B	1後		2		○								兼 2	
			心理学	1前		4		○								兼 1	
			心の科学A	1前		2		○								兼 2	
			心の科学B	1後		2		○								兼 2	
			応用心理学A	2前		2		○								兼 1	
			応用心理学B	2後		2		○								兼 1	
			教育学のすすめA	1前		2		○								兼 3	
			教育学のすすめB	1後		2		○								兼 3	
			現代社会と教育A	2前		2		○								兼 1	
			現代社会と教育B	2後		2		○								兼 1	
			教育原論A	2前		2		○								兼 1	
			教育原論B	2後		2		○								兼 1	
			学習・発達論A	2前		2		○								兼 3	
			学習・発達論B	2後		2		○								兼 3	
			人文科学セミナー	2通		4		○			2					兼 5	
			大学論	2前		2		○			1					兼 9	オムニバス
			小計（52科目）	－	0	126	0	－			3	0	0	0	0	兼 47	
		社会科学系科目	日本国憲法	1前		2		○								兼 6	
			法学のすすめ	1前		2		○								兼 3	
			政治学のすすめ	1前		2		○								兼 1	
			社会学のすすめ	1前		2		○								兼 2	
			地理学のすすめ	1前		2		○			1						集中
			経済学のすすめ	1前		2		○								兼 4	
			国際学のすすめ	1前		2		○								兼 1	
			文化人類学のすすめ	1前		2		○								兼 1	
			社会調査のすすめ	1前		2		○				1				兼 1	
			社会統計学のすすめ	1前		2		○								兼 2	
			人権論A	1前		2		○				1					
			人権論B	1後		2		○								兼 1	
			現代社会とメディア	2前		2		○								兼 2	
			現代社会と福祉	2前		2		○								兼 1	
			現代社会と法	2前		2		○								兼 2	
			環境と社会	2前		2		○								兼 2	
			平和学A	2前		2		○								兼 2	
			ジェンダー論	2前		2		○								兼 2	
			国際社会論	2前		2		○								兼 2	
			現代社会の諸問題	2前		2		○				1				兼 10	オムニバス
			地域論	2前		2		○			1						
			現代社会と労働	2前		2		○								兼 1	
			社会思想史	2前		2		○								兼 1	
			英語で学ぶ日本の社会A	1前		2		○								兼 1	
			英語で学ぶ日本の社会B	1前		2		○								兼 1	
			データサイエンス・AI入門	1前		2		○								兼 2	
			小計（26科目）	－	0	52	0	－			1	1	0	0	0	兼 43	

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	数学入門	1前		2		○								兼 3	
			数学への旅	1前		2		○								兼 3	
			確率・統計入門	1前		2		○								兼 2	
			微分と積分	1前		4		○								兼 1	
			行列と行列式	1前		4		○								兼 1	
			数理統計学	2前		4		○								兼 1	
			数理と計算	2前		2		○								兼 1	
			数学の世界	2前		4		○								兼 2	
			数理と論証	2前		2		○								兼 1	
			宇宙の科学Ⅰ	1前		4		○								兼 1	
			宇宙の科学Ⅱ	2前		2		○								兼 1	
			地球科学のすすめ	1前		2		○								兼 1	
			地球科学	1後		2		○								兼 1	
			物理科学の世界	1前		4		○			1					兼 1	
			時間と空間の科学	1前		2		○								兼 2	
			エネルギー入門	2前		2		○								兼 1	
			自然科学史Ⅰ	1前		2		○			1						
			自然科学史Ⅱ	2前		2		○			1					兼 1	
			科学論	2前		2		○								兼 2	
			技術論	2後		2		○								兼 1	
			平和学B	2前		2		○			1						
			里山学	1前		2		○								兼 8	オムニバス
			生物科学のすすめ	1前		4		○								兼 1	
			生命科学のすすめ	1前		2		○								兼 3	オムニバス
			生命科学	1後		2		○								兼 2	
			生態学のすすめ	1前		4		○								兼 1	
			人類学のすすめ	1前		4		○			1					兼 1	
			日本の自然	1前		4		○								兼 8	オムニバス
			生命誌	2前		2		○								兼 1	
			植物の自然誌	2前		2		○								兼 2	
			動物の自然誌	2前		2		○								兼 2	
			民族の自然誌	2前		2		○								兼 1	
			人類進化学	2前		2		○			1						
			人間の生物学Ⅰ	2前		2		○			1						
			人間の生物学Ⅱ	2後		2		○			1						
			自然誌実習	2前		4		○			1					兼 4	オムニバス
			野外観察法	2前		2		○								兼 2	
			環境学	1前		4		○								兼 3	
			情報科学入門	2前		2		○								兼 1	
			情報科学Ⅰ	2後		2		○								兼 1	
			情報科学Ⅱ	3前		2		○								兼 1	
			情報科学実習	1後		4		○								兼 2	
			小計（42科目）	－	0	110	0	－			2	0	0	0	0	兼 39	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2前		2		○								兼 2	
			現代社会とスポーツ	1後		2		○								兼 2	
			スポーツ技術学演習	1前		2			○		1					兼 12	
			人間とスポーツ	1前		2		○								兼 1	
			スポーツと人権・平和	2前		2		○								兼 1	
			スポーツ文化史	2前		2		○								兼 1	
			スポーツ科学最前線	1前		2		○			1						
			小計（7科目）	－	0	14	0	－			1	0	0	0	0	兼 14	
			教養教育科目特別講義	1前		4		○				1				兼 8	オムニバス
			特別講座	1後		12		○									

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
教養教育科目	教養科目	English language (Ryukoku Intercultural Program)	1前		12		○								兼 1
		Lecture (Ryukoku Intercultural Program)	1前		6		○								兼 1
		Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)	1前		6		○								兼 1
		小計（5科目）	－	0	40	0	－			0	1	0	0	0	兼 9
専攻科目	専攻基礎科目	情報リテラシー	1前	1			○			1					
		現代のビジネス	1前	2			○				3				兼 2
		簿記入門	1前	2			○			5					兼 3
	専攻基礎科目	経営と情報	1前	2			○				1	1			兼 1
		現代の企業会計	1後	2			○			2	1	1			
		現代企業の成り立ち	1後		2		○				1				
		現代社会と企業	1後		2		○								兼 1
		経営とコンピュータ利用	1後		2		○			1					兼 1
		マーケティングの基礎	1後		2		○			1					兼 1
		企業の国際化	1後		2		○			1					
		企業経営の管理	1後		2		○			1					
		日本と世界の経済	1後		2		○								兼 1
		初級商業簿記	1後		2		○			1	1				
		小計（13科目）	－	9	16	0	－			10	8	2	0	0	兼 10
	選択必修・選択・学部選択科目	経営管理論	2前		2		○			1					
		経営戦略論	2前		2		○								兼 1
		国際経営論	2後		2		○			1					
		生産管理論	2前		2		○					1			
		マーケティング論	2後		2		○			1					兼 1
		マーケティング・リサーチ	3前		2		○			1					兼 1 オムニバス・集中
		人的資源管理論	2前		2		○								兼 1
		組織行動論	3後		2		○								兼 1
		経営組織論	3前		2		○								兼 1
		商品学	2後		2		○								兼 1
		商品開発論	3前		2		○								兼 1
		経営学原理	3前		2		○			1					
		中小企業経営論	3前		2		○								兼 1
		ロジスティクス	2後		2		○								兼 1
		国際経営戦略論	3前		2		○								兼 1
		経営立地論	2後		2		○			1					
		アジア企業経営論	3前		2		○			1					
		経営意思決定論	3前		2		○			1					
		経営思想を知る	2前		2		○			1					
		財務会計入門	2前		2		○			1					
		財務会計論	2後		2		○			1					
		中級商業簿記	2前		2		○				1				
		上級商業簿記	2後		2		○				1				
		工業簿記	2前		2		○			1					
		原価計算論	2後		2		○			1					
		管理会計論	3後		2		○			1					
		会計監査論	3後		2		○			1					
		国際会計論	3後		2		○			1					
		キャッシュフロー会計論	3前		2		○				1				
		会計情報解読論	3前		2		○								兼 1
		財務管理論	2後		2		○			1					
		連結会計論	3前		2		○			1					
		所得税法	3前		2		○			1					
		法人税法	2後		2		○								兼 1
		証券市場論	3前		2		○					1			

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	選択必修・選択・学部選択科目	現代金融論	2後		2		○					1				
		現代銀行論	3後		2		○					1				
		株式会社論	2前		2		○								兼 1	
		企業統治論	2後		2		○			1						
		企業倫理論	2後		2		○			1						
		産業技術論	3前		2		○					1				
		マクロ経済学	3前		2		○								兼 1	
		経済原論	2後		2		○								兼 1	
		経営史	2後		2		○								兼 1	
		流通システム論	2後		2		○								兼 1	
		日本経営史	3前		2		○								兼 1	
		日本経済論	2前		2		○								兼 1	
		多国籍企業論	3後		2		○								兼 1	
		国際比較経営史	3前		2		○				1					
		国際比較社会論	3前		2		○				1					
		国際比較経営論	3後		2		○				1					
		国際流通論	3前		2		○								兼 1	
		中国ビジネス論	2後		2		○				1					
		現代中国のビジネス	2後		6		○			1	1					集中・共同
		起業論A	3前		2		○				1					
		起業論B	3後		2		○				1					集中
		経営革新論	3後		2		○								兼 1	
		公共経営論	3前		2		○								兼 1	
		京都企業論	3後		2		○			1						
		環境経営論	3後		2		○								兼 1	
		ものづくりの現場	3前		2		○				1					集中
		地域と企業	3前		4		○				1					集中
		民法	2後		2		○								兼 1	
		商法	2前		2		○								兼 1	
		会社法	2後		2		○								兼 1	
		労働法	3前		2		○								兼 1	
		経済法	3後		2		○			1						
		経営データの分析A	2前		2		○				1	1			兼 1	
		経営データの分析B	2後		2		○				1	1			兼 1	
		経営情報システム論	2前		2		○								兼 1	
		プログラミングおよび実習A1	3前		2		○				1					
		プログラミングおよび実習A2	3後		2		○				1					
		プログラミングおよび実習B1	3前		2		○								兼 1	
		プログラミングおよび実習B2	3後		2		○								兼 1	
		経営情報活用論	2後		2		○					1				
		意思決定の科学	3前		2		○				1					
		地域企業論	2後		2		○				1					
		経営学基礎論	2前		2		○			1						
		ビジネスコミュニケーションA(英)	2前		2		○				1					
		ビジネスコミュニケーションA(中国)	3前		2		○								兼 1	
		ビジネスコミュニケーションB(中国)	3後		2		○								兼 1	
		上級外国語A(ドイツ)	2前		2		○								兼 2	
		上級外国語B(ドイツ)	2後		2		○								兼 2	
		上級外国語C(ドイツ)	2前		2		○								兼 1	
		上級外国語D(ドイツ)	2後		2		○								兼 1	
		上級外国語A(フランス)	2前		2		○								兼 2	
		上級外国語B(フランス)	2後		2		○								兼 2	
		上級外国語C(フランス)	2前		2		○			1					兼 1	

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専攻科目	選択必修・選択・学部選択科目	上級外国語D(フランス)	2後		2		○								兼 2	
		上級外国語A(中国)	2前		2		○								兼 2	
		上級外国語B(中国)	2後		2		○								兼 2	
		上級外国語C(中国)	2前		2		○								兼 1	
		上級外国語D(中国)	2後		2		○								兼 1	
		上級外国語A(スペイン)	2前		2		○								兼 1	
		上級外国語B(スペイン)	2後		2		○								兼 1	
		上級外国語C(スペイン)	2前		2		○								兼 1	
		上級外国語D(スペイン)	2後		2		○								兼 1	
		上級外国語A(コリア)	2前		2		○								兼 1	
		上級外国語B(コリア)	2後		2		○								兼 1	
		上級外国語C(コリア)	2前		2		○								兼 1	
		上級外国語D(コリア)	2後		2		○								兼 1	
		スポーツと経済	3前		2		○								兼 1	
		スポーツマネジメント論	3前		2		○			1						
		スポーツ政策論	3前		2		○								兼 1	
		スポーツマーケティング論	3後		2		○			1						
		特講・我が社の経営と京都	3後		2		○			1					兼 2	オムニバス
		特講・映画・文化産業概論	2後		2		○								兼 3	オムニバス
		特講・食農のビジネスフロンティア	3前		4		○			1	1					共同
		実践・グローバル時代の「多様性と調和」のマネジメント	3前		2		○								兼 1	
		実践・現場から学ぶ放送メディア論A	2前		2		○								兼 2	オムニバス
		実践・現場から学ぶ放送メディア論B	2後		4		○								兼 3	共同
		実践・消費者問題を考える	2前		2		○			1					兼 1	共同
		実践・クリティカル・シンキング	1後		2		○			1						
		実践・デジタルマーケティングの基礎	2後		2		○								兼 1	
		実践・プロジェクト演習	2後		4		○			1	1					共同
		実践・社会課題発見演習	2後		2		○			1	1					共同
		Global Understanding and Communication	3後			4	○				1					メディア
		京都市の産業と産業政策	2後		2		○								兼 1	
		フレッシャーズゼミ	1前		2			○		15	6	5				
		基礎演習	1後～2前		4			○		20	8	4			兼 1	
		演習	2後～4前		12			○		16	8	4				
		応用演習	3後		2			○		1	1					
		協定特別演習Ⅰ	1後～2前		4			○		1						
		協定特別演習Ⅱ	1後～2前		4			○		1						
		協定特別演習Ⅲ	2後		2			○		1						
		協定特別演習Ⅳ	2後		2			○		1						
		特別講座	1後		12		○									
		アジア政治論	3後		4		○								兼 1	
		中国政治論	2後		2		○								兼 1	
		アジア経済論A	2後		2		○								兼 1	
		アジア経済論B	2後		2		○								兼 1	
		中国経済論A	2後		2		○								兼 1	
		中国経済論B	2後		2		○								兼 1	
		国際金融論	3前		4		○								兼 1	
		ファイナンス理論	2後		4		○								兼 1	
		統計学	1後		4		○								兼 1	
		特別基礎演習	1後～2前		4					2	2	2				
		組織学習論	3前		2					1						
		企業文明論	2後		2							1				
		観光経営論	2前		2						1					
		産業技術史	2前		2										兼 1	

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	選択科目	選択必修・学部選択	社会的企業論	2後		2						1					
			ソーシャルマーケティング	2後		2					1						
			キャリア実習・実習指導	1通		2					1						
			キャリア実習・実習指導（大学コンソーシアム京都）	1通		4					1						
			小計（145科目）	－	0	338	4	－			23	10	5	0	0	兼 74	
	学部共通コース科目	国際関係コース	国際関係論Ⅰ	2後		2		○								兼 1	
			地域研究入門	2後		2		○								兼 1	
			中国語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 2	
			中国語セミナーⅠB	2後		2		○								兼 2	
			中国語セミナーⅠC	2前		2		○								兼 1	
			中国語セミナーⅠD	2後		2		○								兼 1	
			中国語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1	
			中国語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1	
			中国語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1	
			中国語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1	
			海外中国語研修講座	2前		2		○								兼 1	集中
			ドイツ語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 2	
			ドイツ語セミナーⅠB	2後		2		○								兼 2	
			ドイツ語セミナーⅠC	2前		2		○								兼 1	
			ドイツ語セミナーⅠD	2後		2		○								兼 1	
			ドイツ語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1	
			ドイツ語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1	
			ドイツ語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1	
			ドイツ語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1	
			フランス語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 2	
			フランス語セミナーⅠB	2後		2		○								兼 2	
			フランス語セミナーⅠC	2前		2		○			1					兼 1	
			フランス語セミナーⅠD	2後		2		○								兼 2	
			フランス語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1	
			フランス語セミナーⅡB	3後		2		○			1						
			フランス語セミナーⅡC	3前		2		○			1						
			フランス語セミナーⅡD	3後		2		○			1						
			スペイン語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 1	
			スペイン語セミナーⅠB	2後		2		○								兼 1	
			スペイン語セミナーⅠC	2前		2		○								兼 1	
			スペイン語セミナーⅠD	2後		2		○								兼 1	
			スペイン語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1	
			スペイン語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1	
			スペイン語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1	
			スペイン語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅠA	2前		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅠB	2後		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅠC	2前		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅠD	2後		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1	
			ポルトガル語Ⅰ	2前		2		○								兼 1	
			ポルトガル語Ⅱ	2後		2		○								兼 1	
			ポルトガル語ⅢA	3前		2		○								兼 1	
			ポルトガル語ⅢB	3後		2		○								兼 1	
			ロシア語Ⅰ	2前		2		○								兼 1	

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	ロシア語Ⅱ	2後		2		○								兼 1
			ロシア語ⅢA	3前		2		○								兼 1
			ロシア語ⅢB	3後		2		○								兼 1
			英語セミナーD1	3前		2		○								兼 1
			英語セミナーD2	3後		2		○								兼 1
			英語セミナーG1	3前		2		○								兼 1
			英語セミナーG2	3後		2		○								兼 1
			英語セミナーH1	3前		2		○								兼 1
			英語セミナーH2	3後		2		○								兼 1
			英語セミナーJ1	3前		2		○								兼 1
			英語セミナーJ2	3後		2		○								兼 1
			英語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1
			英語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1
			Intercultural Discussion	3前		2		○								兼 1
			中国語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1
			中国語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1
			ドイツ語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1
			ドイツ語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1
			スペイン語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1
			スペイン語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1
			フランス語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1
			フランス語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1
			コリア語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1
			コリア語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1
			ヨーロッパ研究A	2後		2		○								兼 1
			ヨーロッパ研究B	3前		2		○								兼 1
			ヨーロッパ研究C	2後		2		○								兼 1
			ヨーロッパ研究D	3前		2		○								兼 1
			東アジア研究A	2後		2		○								兼 1
			東アジア研究B	3前		2		○								兼 1
			東南アジア研究A	2後		2		○								兼 1
			東南アジア研究B	3前		2		○								兼 1
			北米研究A	2後		2		○								兼 1
			北米研究B	3前		2		○								兼 1
			中南米研究A	2後		2		○								兼 1
			中南米研究B	3前		2		○								兼 1
			グローバル・サウス研究A	2後		2		○								兼 1
			グローバル・サウス研究B	3前		2		○								兼 1
			異文化研究A	2後		2		○								兼 1
			異文化研究B	3前		2		○								兼 1
			情報・コミュニケーションの技法	2後		2		○								兼 1
			多文化映像論A	2後		2		○								兼 1
			多文化映像論B	3前		2		○								兼 1
			フィールドワーク実習	3前		2		○								兼 1
			国際関係論Ⅱ	3前		2		○								兼 1
			現代国際関係史	2後		2		○								兼 1
			国際ジャーナリズム論	3前		2		○								兼 1
			グローバル経済史A	2前		2		○								兼 1
			グローバル経済史B	2後		2		○								兼 1
			国際金融論	3前		4		○								兼 1
			国際協力論	2後		4		○								兼 1
			アジア経済史	2前		4		○								兼 1
			ヨーロッパ経済史	2後		4		○								兼 1

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	地域経済論	2後		4		○								兼 1
			アジア経済論A	2後		2		○								兼 1
			アジア経済論B	2後		2		○								兼 1
			比較経済論A	2前		2		○								兼 1
			比較経済論B	2後		2		○								兼 1
			開発経済学A	2後		2		○								兼 1
			開発経済学B	2後		2		○								兼 1
			ヨーロッパ経済論	2後		4		○								兼 1
			食・農・資源の経済論A	2後		2		○								兼 1
			食・農・資源の経済論B	2後		2		○								兼 1
			日本経済史A	2前		2		○								兼 1
			日本経済史B	2前		2		○								兼 1
			経済地理学A	2前		2		○								兼 1
			経済地理学B	2後		2		○								兼 1
			経済思想史	3前		2		○								兼 1
			社会調査の技法	2前		2		○								兼 1
			フィールドワークの技法	2後		2		○								兼 1
			国際経営論	2後		2		○			1					
			多国籍企業論	3後		2		○								兼 1
			国際経営戦略論	3前		2		○								兼 1
			国際比較経営史	3前		2		○				1				
			国際比較社会論	3前		2		○				1				
			アジア企業経営論	3前		2		○			1					
			国際法Ⅰ	2後		4		○								兼 1
			国際法Ⅱ	3前		2		○								兼 1
			国際法Ⅲ	3後		2		○								兼 1
			国際私法	3後		4		○								兼 1
			国際政治論	3後		4		○								兼 1
			アフリカ政治論A	2前		2		○								兼 1
			アフリカ政治論B	2前		2		○								兼 1
			国際取引法	3前		2		○								兼 1
			開発援助論	2後		2		○								兼 1
			中東政治論	3前		2		○								兼 1
			アジア政治論	3後		4		○								兼 1
			中国政治論	2後		2		○								兼 1
			アメリカ政治論	2後		2		○								兼 1
			ヨーロッパ政治論	3前		2		○								兼 1
			国際環境法	3前		2		○								兼 1
			現代中国の法と社会	3前		2		○								兼 1
			文化・観光政策	2後		2		○								兼 1
			比較地域政策論	2後		2		○								兼 1
			アジアの地域・都市政策	2後		2		○								兼 1
			欧州の地域・都市政策	3前		2		○								兼 1
			北米・中南米の地域・都市政策	3前		2		○								兼 1
			特別演習Ⅰ	2後～3前		4			○		2					兼 7
			特別演習Ⅱ	3後～4前		4			○		1					兼 7
			特別演習Ⅲ	4後		4			○							兼 3
			演習	2後～4前		12			○		1	1				
			演習Ⅰ	2後～3前		4			○							兼 6
			演習Ⅰ	2後～3後		6			○							兼 2
			演習Ⅱ	3後～4前		4			○							兼 1
			演習Ⅱ（卒業研究含む）	4通		4			○							兼 2
			演習Ⅱ（卒業研究含む）	3後～4後		6			○							兼 3

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	演習Ⅲ	3後		2										兼 1
			演習Ⅳ（卒業研究含む）	4前～4後		6										兼 1
			学部共通特別講義Ⅰ	3通		4		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅱ	3通		4		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅲ	2後		2		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅳ	2後		2		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅴ	2後		2		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅵ	2後		2		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅶ	2後		2		○								兼 1
			小計（163科目）	－	0	384	0	－			4	2	0	0	0	兼 83
		英語コミュニケーションコース	Oral Communication ⅠA	2後		4		○				1				兼 3
			Oral Communication ⅠB	2後		4		○								兼 4
			Oral Communication ⅡA	3前		4		○				1				兼 3
			Oral Communication ⅡB	3前		4		○								兼 4
			Writing Ⅰ	2後		2		○			1					兼 3
			Writing Ⅱ	3前		2		○			1					兼 3
			米国文化Ⅰ	2後		2		○								兼 1
			英国文化Ⅰ	2後		2		○								兼 1
			英国文化Ⅱ	3前		2		○								兼 1
			米国文化Ⅱ	3前		2		○								兼 1
			English in the World	2後		2		○								兼 1
			文化比較	2後		2		○								兼 1
			Intensive Reading	2後		2		○			1					兼 1
			Reading Fluency	2後		2		○								兼 1
			Communicative Grammar Ⅰ	2後		2		○								兼 1
			英米事情	3前		2		○			1					
			Business Writing	3前		2		○								兼 1
			Critical Essay	3前		2		○								兼 1
			Process Writing	3前		2		○								兼 1
			Public Speaking	3前		2		○								兼 1
			Debate and Discussion	3前		2		○								兼 1
			Dynamics of Expression	3前		2		○								兼 1
			Communicative Grammar Ⅱ	3前		2		○								兼 1
			Intercultural Discussion	3後		2		○								兼 1
			Global Understanding in English	3前		4		○				1				メディア
			海外研修	2後		4		○								兼 1 集中
			英語資格試験セミナー	3前		2		○								兼 1 集中
			Forum	3前		2		○								兼 1
			Seminar Ⅰ	3後		2			○		1	1				兼 2
			Seminar Ⅱ	4前		2			○		1	1				兼 2
			卒業研究	4後		4			○		1	1				兼 2
			学部共通特別講義Ⅰ	3前		4		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅱ	3後		4		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅲ	3後		2		○			1					
			学部共通特別講義Ⅳ	3後		2		○								兼 1
			学部共通特別講義Ⅴ	3後		2		○								兼 1
			小計（36科目）	－	0	90	0	－			1	1	0	0	0	兼 13
		スポーツサイエンスコース	身体運動の生理学	2後		2		○								兼 1
			身体運動の機能解剖学	2後		2		○			1					
			身体運動の制御と学習	2後		2		○								兼 1
			現代スポーツ論	2後		2		○								兼 1
			近代スポーツ史	2後		2		○								兼 1
			スポーツ栄養学	2後		2		○								兼 1

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専攻科目	学部共通コース科目	スポーツサイエンスコース	スポーツと経済	3前		2		○								兼 1
			スポーツマネジメント論	3前		2		○			1					
			エクササイズテクニック	3前		2		○								兼 1
			スポーツメディア論	3前		2		○								兼 1
			スポーツ医学	3前		2		○								兼 1
			スポーツ統計学	3前		2		○								兼 1 集中
			スポーツ政策論	3前		2		○								兼 1
			健康スポーツ論	3前		2		○								兼 1
			体力学	3前		2		○								兼 1
			フィットネスプログラミングⅠ	3前		2		○								兼 1
			スポーツ心理学Ⅰ	3前		2		○								兼 1
			スポーツマーケティング論	3後		2		○			1					
			スポーツ法学	3後		2		○								兼 1
			バイオメカニクス	3後		2		○			1					
			地域スポーツ論	3後		2		○								兼 1
			スポーツトレーニング論	3後		2		○			1					
			スポーツ文化論	3後		2		○								兼 1 集中
			フィットネスプログラミングⅡ	3後		2		○								兼 1
			スポーツ心理学Ⅱ	3後		2		○								兼 1
			特別演習Ⅰ	2後～3前		4			○		2					兼 6
			特別演習Ⅱ	3後～4前		4			○		2					兼 5
			特別演習Ⅲ	4後		4			○		2					兼 5
			スポーツサイエンスコース特別講義（水泳）	3後		2		○								兼 1 集中
			スポーツサイエンスコース特別講義（スポーツビジネス）	3後		2		○								兼 1
			キャリア入門(スポーツサイエンスコース)	3前		2		○								兼 1
			スポーツキャリア実習	3後		2				○						兼 1
			小計（32科目）	－	0	70	0	－			2	0	0	0	0	兼 17
		環境サイエンスコース	環境学A	2後		2		○								兼 1
			環境学B	3前		2		○								兼 1
			環境と倫理	2後		2		○								兼 1
			環境と経済	2後		2		○								兼 1
			環境とビジネス	2後		2		○								兼 1
			環境と法	2後		2		○								兼 1
			環境管理論Ⅰ	3前		2		○								兼 2
			環境管理論Ⅱ	3後		2		○								兼 1
			環境政策論Ⅰ	2後		2		○								兼 1
			環境政策論Ⅱ	3前		2		○								兼 1
			コンピュータシステム論	3前		4		○								兼 1
			生態学A	2後		2		○								兼 1
			生態学B	3前		2		○								兼 1
			地球と環境	2後		2		○								兼 1
			環境地理学	2後		2		○			1					兼 1 オムニバス
			自然保護論	2後		2		○								兼 1
			化学物質と環境	3前		2		○								兼 1
			シミュレーション技法	3後		2		○								兼 1
			複雑系の科学	3前		2		○								兼 1
			都市経済論	3前		2		○								兼 1
			環境史	3後		2		○			1					
			環境アセスメント論	3前		2		○								兼 1
			地域環境論	3前		2		○								兼 1
			気候と気象	2後		2		○								兼 1
			生物共棲論	3前		2		○								兼 1
			水界生態論	3前		2		○								兼 1

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	学部共通コース科目	環境サイエンスコース	環境フィールドワーク	3通		4		○								兼 4	オムニバス
			環境実践研究	3前		2				○						兼 1	集中
			開発経済学A	2後		2		○								兼 1	
			開発経済学B	2後		2		○								兼 1	
			産業技術論	3前		2		○								兼 1	
			国際環境法	2後		2		○								兼 1	
			持続可能な発展概論	2後		2		○								兼 2	オムニバス
			景観・まちなみ保存政策	2後		2		○								兼 2	オムニバス
			環境エネルギー政策	3前		2		○								兼 1	
			演習Ⅰ	2後～3前		4			○							兼 4	
			演習Ⅱ	3後～4前		4			○							兼 4	
			卒業研究	4後		4			○							兼 3	
			学部共通特別講義A	2後		2		○								兼 1	
			学部共通特別講義B	2後		2		○								兼 1	
			学部共通特別講義C	2後		4		○								兼 1	
			小計（41科目）	－	0	94	0	－			2	0	0	0	0	兼 31	
	諸課程科目		商業科教育法Ⅰ	3前			2	○								兼 1	
			商業科教育法Ⅱ	3後			2	○								兼 1	
			職業指導	3通			4	○								兼 1	
			法学概論	3通			4	○								兼 1	
			日本政治史	3後			4	○								兼 1	
			日本経済史A	2前			2	○								兼 1	
			日本経済史B	2前			2	○								兼 1	
			日本法制史A	3前			2	○								兼 1	
			日本法制史B	3後			2	○								兼 1	
			西洋法制史A	3前			2	○								兼 1	
			西洋法制史B	3後			2	○								兼 1	
			西洋政治史	3後			4	○								兼 1	
			ヨーロッパ経済史	2後			4	○								兼 1	
			グローバル経済史A	2前			2	○								兼 1	
			グローバル経済史B	2後			2	○								兼 1	
			アジア経済史	2前			4	○								兼 1	
			経済地理学A	2前			2	○								兼 1	
			経済地理学B	2後			2	○								兼 1	
			倫理学概論	3前			4	○								兼 1	
			心理学概論	3前			4	○								兼 1	
			政治学原理	3通			4	○								兼 1	
			国際政治論	3後			4	○								兼 1	
			国際法Ⅰ	3後			4	○								兼 1	
			教職コンピュータ基礎	1前			2			○						兼 3	
			社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	3前			2	○								兼 1	
			社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	3後			2	○								兼 1	
			社会科・公民科教育法Ⅰ	3前			2	○								兼 1	
			社会科・公民科教育法Ⅱ	3後			2	○								兼 1	
			日本史概説	3前			4	○								兼 1	
			外国史概説	3前			4	○								兼 1	
			人文地理学	3前			4	○								兼 1	
			自然地理学	3前			4	○								兼 1	
			地理学(地誌)	3前			4	○								兼 1	
			教職論	2前			2	○								兼 1	
			学校教育社会学	2前			2	○								兼 1	
			教育課程論	2後			2	○								兼 2	
			特別支援教育概論	2後			2	○								兼 1	

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
諸課程科目	道徳教育指導法	3後			2	○								兼 1	
	総合的な学習の時間・特別活動論	3前			2	○								兼 1	
	教育の方法と技術(ICT活用含む)	3前			2	○								兼 1	
	生徒・進路指導論	2前			2	○								兼 2	
	教育相談	3前			2	○								兼 1	
	教育実習指導Ⅰ	4前			1	○								兼 2	
	教育実習指導ⅡA	4前			4			○						兼 2	
	教育実習指導ⅡB	4前			2			○						兼 2	
	教職実践演習(中・高)	4後			2		○							兼 2	
	介護等体験	3前			2			○						兼 3	
	真宗学概論	2通			4	○								兼 1	
	仏教学概論	2通			4	○								兼 1	
	真宗教団史	1通			4	○								兼 1	
	勤式	1通			4	○								兼 3	オムニバス
	宗門法規	1前			2	○								兼 1	集中
	教化法	1通			4	○								兼 4	オムニバス
	生涯学習概論	1前			2	○								兼 1	
	図書館情報学概論	1前			2	○								兼 1	
	図書館制度・経営論	2後			2	○								兼 1	
	図書館サービス概論	1後			2	○								兼 1	
	情報サービス論	2前			2	○								兼 1	
	情報サービス実習A	2前			1			○						兼 1	集中
	情報サービス実習B	2後			1			○						兼 1	
	図書館情報資源概論	1後			2	○								兼 1	
	図書館情報資源特論	2前			2	○								兼 1	
	情報資源組織論	2前			2	○								兼 1	
	情報資源組織実習A	2後			1			○						兼 2	
	情報資源組織実習B	2後			1			○						兼 2	
	児童サービス論	2前			2	○								兼 1	
	図書・図書館史	1後			2	○								兼 1	
	図書館基礎特論	1後			2	○								兼 1	
	図書館サービス特論	2前			2	○								兼 1	
	図書館情報技術論	2前			2	○								兼 1	
	図書館実習	3前			1			○						兼 1	
	図書館施設論	2前			2	○								兼 1	
	図書館総合演習	3前			2		○							兼 1	
	学校経営と学校図書館	2前			2	○								兼 1	
	学校図書館メディアの構成	2前			2	○								兼 1	
	学習指導と学校図書館	2後			2	○								兼 1	
	読書と豊かな人間性	2後			2	○								兼 1	
	情報メディアの活用	2後			2	○								兼 1	
	小計（78科目）	－	0	0	194	－			0	0	0	0	0	兼 50	

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
合計（770科目）		－	17	1557	198	－			28	10	5	0	0	兼 441

学位又は称号	学士（経営学）	学位又は学科の分野	経済学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
以下の要件を満たし、125単位以上を修得すること。 【教養教育科目】 32単位以上（必修8単位（「仏教の思想」科目:4単位/言語科目:4単位）、選択必修14単位（言語科目:8単位/人文科学系科目:2単位/社会科学系科目:2単位/自然科学系科目:2単位）、選択科目10単位） ※スポーツサイエンスコースのみ 40単位以上（必修8単位（「仏教の思想」科目:4単位/言語科目:4単位）、選択必修14単位（言語科目:8単位/人文科学系科目:2単位/社会科学系科目:2単位/自然科学系科目:2単位）、選択科目18単位） 【専攻科目】 ①経営コース・組織をリードするモデル 69単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：4単位/モデル必修：6単位/モデル選択必修：8単位/モデル選択12単位/学部選択（演習含む）30単位） ②経営コース・市場と情報を活用するモデル 69単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：4単位/モデル必修：6単位/モデル選択必修：8単位/モデル選択12単位/学部選択（演習含む）30単位） ③経営コース・世界へ羽ばたくモデル 75単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：6単位/モデル必修：4単位/モデル選択必修：8単位/モデル選択18単位/学部選択（演習含む）30単位） ④会計コース 81単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：6単位/コース必修：4単位/コース選択必修：10単位/コース選択（演習含む）52単位） ⑤国際関係コース 77単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：10単位/学部選択：14単位/学部共通コース科目44単位） ⑥英語コミュニケーションコース 81単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：10単位/学部選択：14単位/学部共通コース科目48単位） ⑦スポーツサイエンスコース 73単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：10単位/学部選択：14単位/学部共通コース科目40単位） ⑧環境サイエンスコース 81単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：10単位/学部選択：14単位/学部共通コース科目48単位） （履修科目の登録の上限：1年次45単位、2年次44単位、3年次44単位、4年次48単位（年間）） 「学部共通コース」とは、経済学部・経営学部・法学部・政策学部の学生が学部間を横断して受講可能なコース制度で、4コースを設置している。本コースは、履修を希望する学生の中から選考を行い、2年次後期から各コースに所属し、所属学部の卒業要件に加えて各コースでそれぞれ定める履修要件科目を修得することによって、コースを修了するものである。 本コースは、これらの4学部の学生がいずれかに所属することを義務づけているものではなく自由選択コースとして開講している。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

大宮学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経営学部経営学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
教養教育科目	言語科目	ラテン語Ⅰ	2前		1		○								兼 1	
		ラテン語Ⅱ	2後		1		○								兼 1	
		ギリシア語Ⅰ	2前		1		○								兼 1	
		ギリシア語Ⅱ	2後		1		○								兼 1	
		小計（4科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼 2	
	諸課程科目	(本山教師)仏教史	1前			1	○								兼 2	オムニバス/集中
		(本山教師)宗教概説	1前			1	○								兼 1	オムニバス/集中
		小計（2科目）	－	0	0	2	－			0	0	0	0	0	兼 3	
合計（6科目）			－	0	4	2	－			0	0	0	0	0	兼 5	

学位又は称号	学士（経営学）	学位又は学科の分野	経済学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
以下の要件を満たし、125単位以上を修得すること。 【教養教育科目】 32単位以上（必修8単位（「仏教の思想」科目:4単位/言語科目:4単位）、選択必修14単位（言語科目:8単位/人文科学系科目:2単位/社会科学系科目:2単位/自然科学系科目:2単位）、選択科目10単位） ※スポーツサイエンスコースのみ 40単位以上（必修8単位（「仏教の思想」科目:4単位/言語科目:4単位）、選択必修14単位（言語科目:8単位/人文科学系科目:2単位/社会科学系科目:2単位/自然科学系科目:2単位）、選択科目18単位） 【専攻科目】 ①経営コース・組織をリードするモデル 69単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：4単位/モデル必修：6単位/モデル選択必修：8単位/モデル選択12単位/学部選択（演習含む）30単位） ②経営コース・市場と情報を活用するモデル 69単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：4単位/モデル必修：6単位/モデル選択必修：8単位/モデル選択12単位/学部選択（演習含む）30単位） ③経営コース・世界へ羽ばたくモデル 75単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：6単位/モデル必修：4単位/モデル選択必修：8単位/モデル選択18単位/学部選択（演習含む）30単位） ④会計コース 81単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：6単位/コース必修：4単位/コース選択必修：10単位/コース選択（演習含む）52単位） ⑤国際関係コース 77単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：10単位/学部選択：14単位/学部共通コース科目44単位） ⑥英語コミュニケーションコース 81単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：10単位/学部選択：14単位/学部共通コース科目48単位） ⑦スポーツサイエンスコース 73単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：10単位/学部選択：14単位/学部共通コース科目40単位） ⑧環境サイエンスコース 81単位以上（学部必修：9単位/学部選択必修：10単位/学部選択：14単位/学部共通コース科目48単位） （履修科目の登録の上限：1年次45単位、2年次44単位、3年次44単位、4年次48単位（年間））	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

「学部共通コース」とは、経済学部・経営学部・法学部・政策学部の学生が学部間を横断して受講可能なコース制度で、4コースを設置している。本コースは、履修を希望する学生の中から選考を行い、2年次後期から各コースに所属し、所属学部の卒業要件に加えて各コースでそれぞれ定める履修要件科目を修得することによって、コースを修了するものである。

本コースは、これらの4学部の学生がいずれかに所属することを義務づけているものではなく自由選択コースとして開講している。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A	○	龍谷大学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とする。また本講義では、龍谷ミュージアムの展示や視聴覚教材を活用しながら展開する。「人間と宗教」「神々と仏」「あるがままに見る眼」「いのちあるものすべてへの慈愛」「自己中心的に考える人間存在」「支えあってつながっている宇宙」「仏教の思想と龍谷大学の建学の精神」といった観点から、釈尊の生涯と思想を中心に学ぶ。	主要授業科目
		仏教の思想B	○	龍谷大学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とする。また本講義では、龍谷ミュージアムの展示や視聴覚教材を活用しながら展開する。「鎌倉仏教の位置と特質」「真実の探求」「自己を徹底的に見つめる」「現実世界への凝視と安らぎへの願い」「あるがままで受け容れられる世界」「あらゆるものは輝いている」「親鸞の思想と龍谷大学の建学の精神」といった観点から、親鸞の生涯と思想を中心に学ぶ。	主要授業科目
		歎異抄の思想Ⅰ		『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎いた門弟の唯円が、親鸞の真意を伝えようとして著したとされるものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。本講義では、『歎異抄』の前半（第10条まで）に伝えられる親鸞のことばを正確に読んでいき、その真意を把握することを通して、そこに示される親鸞の思想を深く理解する。	
		歎異抄の思想Ⅱ		『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎いた門弟の唯円が、親鸞の真意を伝えようとして著したとされるものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。本講義では、『歎異抄』の後半（第11条以降）に示された、親鸞の教えに対する誤解をただす文章を通して、その中で伝えようとされている親鸞の思想を深く理解する。	
	言語科目	英語総合1(A)	○	本講義は、これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合1(A)」では、英語を読む力を補強することに重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることを目標とする。	主要授業科目
		英語総合1(B)	○	本講義は、これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合1(B)」では、英語を聴く力を補強することに重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることを目標とする。	主要授業科目
		英語総合2(A)	○	本講義は、「英語総合1(A)」に引き続き、さらに英語基礎力の向上を図ることに加え、これまでに習得した英語の知識、能力の上に、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合2(A)」では、英語を読む力を補強することに重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることを目標とする。	主要授業科目
		英語総合2(B)	○	本講義は、「英語総合1(B)」に引き続き、さらに英語基礎力の向上を図ることに加え、これまでに習得した英語の知識、能力の上に、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合2(B)」では、英語を聴く力を補強することに重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることを目標とする。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	英語総合3(A)	○	本講義は、「英語総合1(A)・2(A)」で培った基礎力に積み上げる形で、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合3(A)」では、英語を読む力に加え、英語を書く力の養成にも重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることに加え、専門科目での学習につなげることも目標にする。	主要授業科目
		英語総合3(B)	○	本講義は、「英語総合1(B)・2(B)」で培った基礎力に積み上げる形で、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合3(B)」では、英語を聴く力に加え、英語を話す力の養成にも重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることに加え、専門科目での学習につなげることも目標にする。	主要授業科目
		英語総合4(A)	○	本講義は、「英語総合3(A)」に引き続き、さらに英語基礎力の向上を図ることに加え、これまでに習得した英語の知識、能力の上に、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合4(A)」では、英語を読む力に加え、英語を書く力の養成にも重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることに加え、専門科目での学習につなげることも目標にする。	主要授業科目
		英語総合4(B)	○	本講義は、「英語総合3(B)」に引き続き、さらに英語基礎力の向上を図ることに加え、これまでに習得した英語の知識、能力の上に、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合4(B)」では、英語を聴く力に加え、英語を話す力の養成にも重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることに加え、専門科目での学習につなげることも目標にする。	主要授業科目
		英語セミナーA1		本講義では、TOEIC演習を中心に、日常生活に関するさまざまな情報を英語で収集できる総合的な英語の受信能力の養成を目指す。TOEICはリスニングパート及びリーディングパートで様々な種類の課題が用意されており、総合的な英語の理解力を問う問題構成になっているため、バランスの取れた英語受信能力の強化が可能となる。TOEIC形式の練習問題を繰り返し行うことで、英語資格試験のレベルアップを果たすとともに、自身の英語力を客観的に把握し、継続的な英語学習につなげていくことを目標とする。	
		英語セミナーA2		本講義では、「英語セミナーA1」に引き続き、TOEIC演習を中心に、日常生活に関するさまざまな情報を英語で収集できる総合的な英語の受信能力の養成を目指す。TOEICはリスニングパート及びリーディングパートで様々な種類の課題が用意されており、総合的な英語の理解力を問う問題構成になっているため、バランスの取れた英語受信能力の強化が可能となる。TOEIC形式の練習問題を繰り返し行うことで、英語資格試験のレベルアップを果たすとともに、自身の英語力を客観的に把握し、継続的な英語学習につなげていくことを目標とする。	
		英語セミナーB1		本講義は、現代社会で起きている様々な出来事に関するニュース記事を通して時事英語を習得し、同時に時事問題の理解力を深めることを目指す。海外の新聞やインターネットの記事を読みこなすことによって、英語の文章を一文ごとに丁寧に理解するだけでなく、記事全体の構成なども意識して、文章全体の内容や書き手の意図などを把握することをこころがける。英語の語彙や文法の知識だけでなく、身の回りで起こっている出来事に対する幅広い意見や考え方をも理解することを目標とする。	
		英語セミナーB2		本講義は、「英語セミナーB1」に引き続き、現代社会で起きている様々な出来事に関するニュース記事を通して時事英語を習得し、同時に時事問題の理解力を深めることを目指す。海外の新聞やインターネットの記事を読みこなすことによって、英語の文章を一文ごとに丁寧に理解するだけでなく、記事全体の構成なども意識して、文章全体の内容や書き手の意図などを把握することをこころがける。英語の語彙や文法の知識だけでなく、身の回りで起こっている出来事に対する幅広い意見や考え方をも理解することを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	英語セミナーC1		本講義は、英語母語話者との実践的な会話練習により、海外旅行や留学の際に英語で意思疎通が図れるような基礎的な会話能力の養成を目指す。授業はすべて英語母語話者の教員が担当し、英語のみを使った講義により、日常生活で使える多数の英会話表現を習得する。また、英語を話すときに発音やイントネーションなどを過度に気にすることなく、自身がこれまでの英語学習で身につけた語彙や文法の知識を活用して、相手と積極的に意思疎通を図ろうとする姿勢を身につけることを目標とする。	
		英語セミナーC2		本講義は、「英語セミナーC１」に引き続き、英語母語話者との実践的な会話練習により、海外旅行や留学の際に英語で意思疎通が図れるような基礎的な会話能力の養成を目指す。授業はすべて英語母語話者の教員が担当し、英語のみを使った講義により、日常生活で使える多数の英会話表現を習得する。また、英語を話すときに発音やイントネーションなどを過度に気にすることなく、自身がこれまでの英語学習で身につけた語彙や文法の知識を活用して、相手と積極的に意思疎通を図ろうとする姿勢を身につけることを目標とする。	
		英語セミナーD1		本講義では、英語で書かれた小説や詩を鑑賞することにより、文学作品の背景にある歴史や文化を学びながら、総合的な英語の読解力を高めることを目指す。これまでに慣れ親しんできた教科書の英語とは異なるスタイルの英文を読むことによって、教科書向けに薄められていない生きた英語に触れ、知的な英文を読む際に必要とされる構文把握力、語彙力等を養うことができる。また、単なる文章の訳読ではなく、物語のあらすじや登場人物の感情などを理解し、さらにそれを自分自身の感想として英語で表明できるようになることを目標とする。	
		英語セミナーD2		本講義では、「英語セミナーD1」に引き続き、英語で書かれた小説や詩を鑑賞することにより、文学作品の背景にある歴史や文化を学びながら、総合的な英語の読解力を高めることを目指す。これまでに慣れ親しんできた教科書の英語とは異なるスタイルの英文を読むことによって、教科書向けに薄められていない生きた英語に触れ、知的な英文を読む際に必要とされる構文把握力、語彙力等を養うことができる。また、単なる文章の訳読ではなく、物語のあらすじや登場人物の感情などを理解し、さらにそれを自分自身の感想として英語で表明できるようになることを目標とする。	
		英語セミナーE1		本講義では、映画や音楽の視聴を通して、英語母語話者の自然なスピードの発話を聞き取ることのできる高度なリスニング能力の養成を目指す。映画・ミュージカル・ドラマなどの台詞や、ジャズやポップスなどの歌詞を通じて、英語に親しみ、その文化的背景も確認しながら、英語らしい自然な表現を習得するための基礎を身につける。また、学んださまざまな英語表現を実際に使用してみることで、英語の総合的な運用能力を向上させることを目標とする。	
		英語セミナーE2		本講義では、「英語セミナーE1」に引き続き、映画や音楽の視聴を通して、英語母語話者の自然なスピードの発話を聞き取ることのできる高度なリスニング能力の養成を目指す。映画・ミュージカル・ドラマなどの台詞や、ジャズやポップスなどの歌詞を通じて、英語に親しみ、その文化的背景も確認しながら、英語らしい自然な表現を習得するための基礎を身につける。また、学んださまざまな英語表現を実際に使用してみることで、英語の総合的な運用能力を向上させることを目標とする。	
		英語セミナーF1		本講義では、教員によるきめ細かな添削指導によって、基礎的な英文法をしっかりと身につけ、文法的に正しく、英語らしい文を書く力の養成を目指す。特に日本語を母語とする学生が間違えやすい英文法に焦点を当て、日本人が英語らしからぬ英文を書いてしまう原因を追求する。学生が日本語と英語の文法的な共通点と相違点を理解することで、日本語とは異なる英語的な発想に気づき、英語のルールにしたがった英語らしい文が書けるようになることを目標とする。	
		英語セミナーF2		本講義では、「英語セミナーF1」に引き続き、教員によるきめ細かな添削指導によって、基礎的な英文法をしっかりと身につけ、文法的に正しく、英語らしい文を書く力の養成を目指す。特に日本語を母語とする学生が間違えやすい英文法に焦点を当て、日本人が英語らしからぬ英文を書いてしまう原因を追求する。学生が日本語と英語の文法的な共通点と相違点を理解することで、日本語とは異なる英語的な発想に気づき、英語のルールにしたがった英語らしい文が書けるようになることを目標とする。	
		英語セミナーG1		本講義では、TOEFLやIELTSの演習を中心に、英語圏への留学の準備となるような総合的な英語運用能力の養成を目指す。将来、海外留学を希望する学生に対し、留学前に必要な資格試験の対策や留学後に必要な英語運用能力の向上をサポートする機会を提供する。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのバランスのとれたアクティビティをグループや個人で行い、留学先で実際に英語で授業を受ける際に必要な能力、すなわち、英語で意見を述べたり、知的な質問をしたり、答えたりする力を身につけることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	英語セミナーG2		本講義では、「英語セミナーG1」に引き続き、TOEFLやIELTSの演習を中心に、英語圏への留学の準備となるような総合的な英語運用能力の養成を目指す。将来、海外留学を希望する学生に対し、留学前に必要な資格試験の対策や留学後に必要な英語運用能力の向上をサポートする機会を提供する。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのバランスのとれたアクティビティをグループや個人で行い、留学先で実際に英語で授業を受ける際に必要な能力、すなわち、英語で意見を述べたり、知的な質問をしたり、答えたりする力を身につけることを目標とする。	
		英語セミナーH1		本講義では、日常生活のさまざまな問題について英語で議論を行い、自身の意見を英語で発信できる高度なプレゼンテーション能力の養成を目指す。授業は英語母語話者の教員が担当し、すべて英語でオーガナイズされたグループワークやペアワークを行う中で、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのすべての能力を向上させる機会を得ることができる。これらの知的活動を通して、学生が将来のキャリアや研究、留学のために英語を使用するのに十分な自信を持つとともに、物事を批判的に考えるスキルを身に付けることを目標とする。	
		英語セミナーH2		本講義では、「英語セミナーH1」に引き続き、日常生活のさまざまな問題について英語で議論を行い、自身の意見を英語で発信できる高度なプレゼンテーション能力の養成を目指す。授業は英語母語話者の教員が担当し、すべて英語でオーガナイズされたグループワークやペアワークを行う中で、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのすべての能力を向上させる機会を得ることができる。これらの知的活動を通して、学生が将来のキャリアや研究、留学のために英語を使用するのに十分な自信を持つとともに、物事を批判的に考えるスキルを身に付けることを目標とする。	
		英語セミナーI1		本講義は、音声学に基づく実践的な発音練習によって、英語の音声的な特徴を理解し、英語らしい発音を身につけることを目指す。英語を構成する一つ一つの音について、英語母語話者による発音を聞き、その中に含まれる母音・子音およびプロソディ（韻律的要素）などの音声学的な解説と発音実践を通して、自然な英語音声を身につける機会とする。また、音節やアクセント、イントネーションのパターンを学び、「英語らしい音」につながる基本的な概念を理解することを目標とする。	
		英語セミナーI2		本講義は、「英語セミナーI1」に引き続き、音声学に基づく実践的な発音練習によって、英語の音声的な特徴を理解し、英語らしい発音を身につけることを目指す。英語を構成する一つ一つの音について、英語母語話者による発音を聞き、その中に含まれる母音・子音およびプロソディ（韻律的要素）などの音声学的な解説と発音実践を通じて、自然な英語音声を身につける機会とする。また、音節やアクセント、イントネーションのパターンを学び、「英語らしい音」につながる基本的な概念を理解することを目標とする。	
		英語セミナーJ1		本講義では、目的に応じてさまざまな種類のパラグラフを書いたり、英語でレポートやエッセイが書くことのできるよう高度なライティング能力の養成を目指す。「英語セミナーJ1」では、英語には英語の文章の書き方が存在することを理解し、物語、対比、比較、原因、結果など、さまざまなスタイルの段落の書き方を学習する。また、実際に英語でパラグラフを書く練習を通してアイデアと議論の構造、スタイル、明確な表現などを習得することを目標とする。	
		英語セミナーJ2		本講義では、「英語セミナーJ1」に引き続き、目的に応じてさまざまな種類のパラグラフを書いたり、英語でレポートやエッセイが書くことのできる高度なライティング能力の養成を目指す。「英語セミナーJ2」では、エッセイライティングを中心としたある程度まとまった英語の文章作成能力の向上に重点を置き、実際に300 words程度の英文エッセイを書く練習をすることで、英語における文章の論理展開や段落構成を学び、自身の考えや意見を英語で簡明に表現する技法を習得することを目標とする。	
		英語資格試験セミナー		本講義は、ＴＯＥＦＬ iBT受験の学習を通して、四技能における英語活用能力を向上させる。 授業では、Listening と Reading を中心に四分野全てを取り扱い、テスト受験準備の導入と基本的な英語運用能力の育成を主な目的とする。毎回の授業では、教科書とプリント教材を使用して、テスト受験に必要なスキルを問題の種類別に基本的なものから紹介し、それらを時間の許す限り反復練習する。さらに、講座終了後も、自主学習ができるよう学習方法を学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	海外英語研修		本講義は、英語力に自信のない低年次生向けに海外の協定大学で3週間の語学研修を行い、短期間で効率よく英語力を向上させることを目指す。日本での事前研修の後、現地での少人数の英会話授業で実践的な語学力を養い、また渡航先の歴史や文化について英語で講義を受けて学ぶ。帰国後には英語でレポートを書き、研修の成果を振り返る。一連の研修を通して、言語に対する理解を深め、海外の文化や社会について主体的に考察することができるようになることで、将来の海外留学や継続的な英語学習につなげることを目標とする。	
		ドイツ語Ⅰ	○	本講義では、発音練習からはじめ、話し言葉を中心に基本的表現を習得する。この過程を通して初歩的な文法事項について学ぶ。基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	主要授業科目
		ドイツ語Ⅱ	○	本講義では、正確な発音の習得に努めるとともに、話しことばを中心に基本的表現を習得する。また、書きことばについても注意を向けるようにする。初歩的な文法事項についての学習を一通り終わらせる。 自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができることを目指す。	主要授業科目
		ドイツ語ⅢA	○	本講義では、ドイツ語Ⅰ・Ⅱで培ったドイツ語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。ドイツ語ⅢAでは、特に「聞く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目
		ドイツ語ⅢB	○	本講義では、ドイツ語Ⅰ・Ⅱで培ったドイツ語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。ドイツ語ⅢBでは、特に「話す」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目
		ドイツ語ⅢC	○	本講義では、ドイツ語Ⅰ・Ⅱで培ったドイツ語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。ドイツ語ⅢCでは、特に「読む」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目
		ドイツ語ⅢD	○	本講義では、ドイツ語Ⅰ・Ⅱで培ったドイツ語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。ドイツ語ⅢDでは、特に「書く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目
		フランス語Ⅰ	○	本講義では、発音練習からはじめ、話し言葉を中心に基本的表現を習得します。この過程を通して初歩的な文法事項について学ぶ。基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	主要授業科目
		フランス語Ⅱ	○	本講義では、発音練習からはじめ、話し言葉を中心に基本的表現を習得します。この過程を通して初歩的な文法事項について学ぶ。自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができることを目指す。	主要授業科目
		フランス語ⅢA	○	本講義では、フランス語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。フランス語ⅢAでは、特に「聞く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目
		フランス語ⅢB	○	本講義では、フランス語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。フランス語ⅢBでは、特に「話す」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目
		フランス語ⅢC	○	本講義では、フランス語Ⅰ・Ⅱで培ったフランス語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。フランス語ⅢCでは、特に「読む」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	フランス語ⅢD	○	本講義では、フランス語Ⅰ・Ⅱで培ったフランス語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。フランス語ⅢDでは、特に「書く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目
		中国語Ⅰ	○	本講義では、“ピンイン”による発音の基礎を習得し、中国語の初級文法事項を学ぶ。基本的な言い回しや日常的表現を使って、中国語によるごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	主要授業科目
		中国語Ⅱ	○	本講義では、“ピンイン”による発音と初級文法の基礎を固めながら、初歩的なコミュニケーション能力を養成する。自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができることを目指す。	主要授業科目
		中国語ⅢA	○	本講義では、中国語Ⅰ・Ⅱで培った中国語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上をめざす。中国語ⅢAでは、特に「聞く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目
		中国語ⅢB	○	本講義では、中国語Ⅰ・Ⅱで培った中国語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上をめざす。中国語ⅢBでは、特に「話す」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目
		中国語ⅢC	○	本講義では、中国語Ⅰ・Ⅱで培った中国語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上をめざす。中国語ⅢCでは、特に「読む」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目
		中国語ⅢD	○	本講義では、中国語Ⅰ・Ⅱで培った中国語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上をめざす。中国語ⅢDでは、特に「書く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目
		スペイン語Ⅰ	○	本講義では、発音練習からはじめ、話し言葉を中心に基本的表現を習得する。この過程を通して初歩的な文法事項について学ぶ。基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	主要授業科目
		スペイン語Ⅱ	○	本講義では、正確な発音の習得に努めるとともに、話しことばを中心に基本的な表現を習得する。また、書きことばについても注意を向けるようにします。初歩的な文法事項についての学習を一通りすませる。自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができることを目指す。	主要授業科目
		スペイン語ⅢA	○	本講義では、スペイン語Ⅰ・Ⅱで培ったスペイン語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。スペイン語ⅢAでは、特に「読む」「書く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	主要授業科目
		スペイン語ⅢB	○	本講義では、スペイン語Ⅰ・Ⅱで培ったスペイン語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。スペイン語ⅢBでは、特に「読む」「書く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	主要授業科目
		スペイン語ⅢC	○	本講義では、スペイン語Ⅰ・Ⅱで培ったスペイン語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。スペイン語ⅢCでは、特に「聞く」「話す」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	主要授業科目
		スペイン語ⅢD	○	本講義では、スペイン語Ⅰ・Ⅱで培ったスペイン語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。スペイン語ⅢDでは、特に「聞く」「話す」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	コリア語Ⅰ	○	本講義では、発音練習からはじめ、話し言葉を中心に基本的表現を習得する。この過程を通して初歩的な文法事項について学ぶ。基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	主要授業科目
		コリア語Ⅱ	○	本講義では、正確な発音の習得に努めるとともに、話しことばを中心に基本的表現を習得する。また、書きことばについても注意を向けるようにする。初歩的な文法事項についての学習を一通りすませる。自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができることを目指す。	主要授業科目
		コリア語ⅢA	○	本講義では、コリア語Ⅰ・Ⅱで培ったコリア語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。コリア語ⅢＡでは、特に「聞く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目
		コリア語ⅢB	○	本講義では、コリア語Ⅰ・Ⅱで培ったコリア語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。コリア語ⅢＢでは、特に「話す」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目
		コリア語ⅢC	○	本講義では、コリア語Ⅰ・Ⅱで培ったコリア語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。コリア語ⅢＣでは、特に「読む」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目
		コリア語ⅢD	○	本講義では、コリア語Ⅰ・Ⅱで培ったコリア語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。コリア語ⅢＤでは、特に「書く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストの理解／作成が可能となることを目標とする。	主要授業科目
		ドイツ語セミナーＩA		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「読む」ことを中心に取り扱う。メルヘン、詩、エッセイ、短編小説、ジョーク／コント、メディアのアクチュアルな記事などのドイツ語テキストを素材とし、精読を通してドイツ語の原文を味わう。また、基本文法を復習しながら、さらに中級レベルの文法を学んでいく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		ドイツ語セミナーＩB		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「読む」「書く」ことを中心に取り扱う。メルヘン、詩、エッセイ、短編小説、ジョーク／コント、メディアのアクチュアルな記事などのドイツ語テキストを素材とし、精読を基盤とした「書く」能力の伸長を目指す。また、基本文法を復習しながら、さらに中級レベルの文法を学んでいく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		ドイツ語セミナーＩC		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主にコミュニケーション能力（「話す」「聞く」）の向上を目指す。ドイツの日常生活における会話の基本文例を学び、様々なシチュエーションに応用できるようにする。ドイツ語運用能力の習得が講義の中心である。様々な会話練習によって会話能力を高めるとともにドイツに関する情報をも学べるようにする。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	ドイツ語セミナーＩＤ		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主にコミュニケーション能力（「話す」「聞く」）の向上をはかるとともに、ドイツ語圏の文化への理解を深めることも目指す。まず、ドイツ語圏についての基礎的な知識を学びながら、ドイツの日常生活における会話の基本文例を学び、様々なシチュエーションに応用できるようにする。様々な会話練習によって会話能力を高めるとともにドイツに関する情報をも学べるようにする。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		ドイツ語セミナーⅡＡ		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、「読む」能力の向上を目指す。平易なドイツ語の文章を正確に読むことを通じ、初級で習得した知識を使えるものにする。テクストを論理的に捉え、正しく理解する力を養成する。どんなドイツ語の文章を前にしても、辞書があればゆっくりではあっても正確に理解できるレベルを目指す。 基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		ドイツ語セミナーⅡＢ		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、「読む」「書く」能力の向上を目指す。平易なドイツ語の文章を正確に読むことを通じ、初級で習得した知識を使えるものにする。また、テクストを論理的に捉え、正しく理解する力を養成する。どんなドイツ語の文章を前にしても、辞書があればゆっくりではあっても正確に理解できるレベルを目指す。 基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		ドイツ語セミナーⅡＣ		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主にコミュニケーション能力（「話す」「聞く」）の向上を目指す。日常生活、学生生活におけるさまざまな場面で用いられるドイツ語表現を学ぶ。また、アクチュアルなテーマについてドイツ語でディスカッションできる、ドイツ語コミュニケーション能力の習得を目指す。 基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		ドイツ語セミナーⅡＤ		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主にコミュニケーション能力（「話す」「聞く」）の向上を目指すともに、ドイツ語圏の文化への理解を深めることも目指す。日常生活などさまざまな場面で用いられるドイツ語表現を学ぶ。また、アクチュアルなテーマについてドイツ語でディスカッションできる、ドイツ語コミュニケーション能力の習得を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ		ドイツ語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指し、本講義では、日常生活および社会生活で用いられる様々なドイツ語に触れながら、当該の言語を用いたコミュニケーションに習熟していく。個別の場面・トピックに関連した会話ができるようになることを目指す。	
		ドイツ語コミュニケーションⅡ		ドイツ語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指し、本講義では、テキストや映像資料を用いて、ドイツ語でのコミュニケーション力を身に付けるだけでなくドイツ文化についても取り上げ、異文化への理解を深めることを目指す。	
		フランス語セミナーＩＡ		本講義は、主にコミュニケーション能力（「聞く」）の向上を目指す。 コミュニケーションをはかるうえで重要な要素である、「聞き取ること」と「様々な表現を理解すること」を身につけることを目指す。フランス映画などの映像資料を通して、聞き取りの練習を行う。また、テキスト（映画の登場人物の台詞等）・簡単なシナリオを読み、表現の勉強を行う。見たり、聞いたり、読んだりする会話を、ロールプレイにより再現することにより口頭表現を身に付けていく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	フランス語セミナーＩB		本講義は、主にコミュニケーション能力（「話す」）の向上を目指す。コミュニケーションをはかるうえで重要な要素である、「聞き取ること」と「様々な表現を理解すること」を身につけた上で、自ら発話できることを目指す。フランス映画の鑑賞を通して、聞き取りの練習を行う。また、テキスト（映画の登場人物の台詞等）・簡単なシナリオを読み、表現の勉強を行う。見たり、聞いたり、読んだりする会話を、ロールプレイにより再現することにより口頭表現を身に付けていく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		フランス語セミナーＩC		本講義では、フランス語Ⅰ・Ⅱで学んだフランス語の基礎をしっかり押さえながら、たのしく発展的な学習を行う。フランス語Ⅰ・Ⅱ（そしてⅢ）で学んだ基本的な文法知識や語彙・表現を土台にして、さらに総合的な言語運用能力を高めていくことを目標とする。映像、音声教材を活用して、フランス語で表現できることを少しずつ増やしていく。フランス語で表現できることを増やし、聴き取りの力や読解力を高めることを目指す。	
		フランス語セミナーＩD		本講義では、毎回、受講生一人ひとりが自由に作文を行う。テーマも長さも自由であり、各自のもっている辞書や教科書などを最大限に活用して、失敗をおそれずに、できるだけ豊かな内容の文章作成をめざす。各回の授業では、まず、一人ひとりの作文の添削、読み方の確認などをした上で、それぞれの文章について受講生全員が日本語とフランス語を混ぜながら、簡単なディスカッションを行う。仏検受験や留学を考えている受講生には、作文以外にも、それぞれの目的にあった学習の仕方を適宜指導する。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		フランス語セミナーⅡA		本講義は、「フランス語Ⅲ」あるいは「フランス語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。フランスのCM、歌、映画などのコンテンツを題材に、「聞く」「話す」能力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		フランス語セミナーⅡB		本講義は、「フランス語Ⅲ」あるいは「フランス語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。フランス語の聴き取り能力を高めると同時に、文法及び語彙の知識を深め、「聞く」「話す」能力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		フランス語セミナーⅡC		本講義は、「フランス語Ⅲ」あるいは「フランス語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。「フランス語セミナーⅡA」や「フランス語セミナーⅡB」の内容を踏まえ、フランス語の聴き取り能力を高めると同時に文法及び語彙の知識を深め、「読む」「書く」能力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		フランス語セミナーⅡD		本講義は、「フランス語Ⅲ」あるいは「フランス語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。「フランス語セミナーⅡC」の内容を踏まえ、フランス語の聴き取り能力を高めると同時に文法及び語彙の知識への理解を深め、主として読解力の裏付けを元とした「読む」「書く」能力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		フランス語コミュニケーションⅠ		本講義では、初めてフランス語を学ぶ２年生以上、あるいはもう一度フランス語を最初から学び直したい学生を対象とした、フランス語入門の科目である。授業名には「コミュニケーション」とあるが、限られた時間の中で効率よく外国語を習得する目的上、新たな外国語の学習に不可欠である基本語彙と基礎的な文法知識の獲得を中心にすえ、その応用としてフランス語で表現する練習を重ねていく。フランス語の初等文法の習得、簡単な日本語からフランス語への言い換えを目指すとともに、仏和辞典や問題集やテレビ・ラジオの語学講座を利用し、自らフランス語の勉強を続けていける基礎力を身につけることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	フランス語コミュニケーションⅡ		本講義は、初級文法の重要課題である複合過去時制を会話や読解において確実に使えるようになることを目指す。 授業名の「コミュニケーション」が表すように、教室ではフランス語で会話することに重きを置く。そして、同時に、フランス語の学習に不可欠な基礎的な文法項目と語彙の習得をも十分に意識し、応用力の高いフランス語の習得を目指す。	
		中国語セミナーＩＡ		本講義は、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修済みの学生を対象とした科目である。聞き取りと口頭表現に重点を置いて、中国語でやや高度なコミュニケーションができるようになることを目指す。 また、中国の文化にも触れながら、「中国語らしい表現」にも理解を深める。発音と文法の基礎固めをしながら、会話を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		中国語セミナーＩB		本講義は、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修済みの学生を対象とした科目である。さらに聞き取りと口頭表現に重点を置いて、中国語でやや高度なコミュニケーションができるようになることを目指す。また、中国の文化にも触れながら、「中国語らしい表現」にも理解を深め、会話を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。これにより、中国語検定3級のレベルを習得することができ、日中言語の相違点をよく知り、自律的に時事中国語を学習することができる、また、中国の文化や社会について主体的に考察することを目指す。	
		中国語セミナーＩC		本講義は、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修済みの学生を対象とした科目である。読解力の裏付けのある会話能力の養成を主眼とし、発音と文法の基礎固めをしながら、講読を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		中国語セミナーＩD		本講義は、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修済みの学生を対象とした科目である。これまでの学修内容を踏まえ、読解力の裏付けのある会話能力の養成を主眼とし、発音と文法の基礎固めをしながら、講読を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		中国語セミナーⅡA		本講義は、「中国語Ⅲ」あるいは「中国語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。主として読解力の裏付けを元とした「聞く」「話す」能力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		中国語セミナーⅡB		本講義は、「中国語Ⅲ」あるいは「中国語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。「中国語セミナーⅡA」の内容を踏まえ、主として読解力の裏付けを元とした「聞く」「話す」能力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		中国語セミナーⅡC		本講義は、「中国語Ⅲ」あるいは「中国語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。中国語の総合的なコミュニケーション能力を高めるとともに、中国の文化や習慣、価値観に対する理解を深めることを目指す。 基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		中国語セミナーⅡD		本講義は、「中国語Ⅲ」あるいは「中国語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。「中国語セミナーⅡC」の内容を踏まえ、中国語の総合的なコミュニケーション能力を高めるとともに、中国の文化や習慣、価値観に対する理解を深めることを目指す。 基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		中国語コミュニケーションⅠ		本講義は、中国語の入門講座である。「聞く」「読む」「書く」という三つの基本的な方法で学ぶ。発音のピンイン、声調を習得し、文法の使い方も習う。また、日本語と中国語を比較して、両者の違いも明確にする。中国語の正しい発音をしっかりと身につけ、さらに単語だけでなく、短文を覚えることにより、簡単な自己紹介や自己表現ができるようになる。また実用性のある単語を用いて繰り返し練習し、簡単な会話もできるようになることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	中国語コミュニケーションⅡ		本講義は、中国語の初級講座である。「聞く」「話す」「書く」という三つの基本的な方法で学ぶ。これまでに学習した単語や文法を生かし、さらに新たな内容も習得して、中国語の作文にチャレンジする。また、日中の言語の相違点も明確にして、理解を深める。文章を書くことだけでなく、日常的な会話ができるようになる。また、中国語検定準4級のレベルを身につけることができることを目指す。	
		スペイン語セミナーＩＡ		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「書く」能力の向上を目指す。スペイン語の基本文法をしっかり学び、平易なスペイン語で会話する能力とメールや手紙を書く能力を身に付ける。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		スペイン語セミナーＩＢ		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「読む」能力の向上を目指す。スペイン語の基本文法をしっかり学び、300語程度で書かれたスペイン語の時事問題ニュースの読解を通して、西和辞典を使いel mundoやABCなどのスペイン語新聞を読むことができることを目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		スペイン語セミナーＩＣ		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、「聞く」能力の向上を目指す。コミュニケーション能力の向上を通して、身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを理解できるようになることを目指す。 また、スペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化に親しむとともに、他民族のものの考え方、生き方を理解していく。本講義を通じて、人間としての視野を広げ、他の人、他の民族をよりよく理解できる人間となり、彼らとのコミュニケーションを深める事により、自分自身が豊かになると同時に、社会に何らかの貢献ができる一助となることを目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		スペイン語セミナーＩＤ		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、「聞く」「話す」能力の向上を目指す。身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを理解し、適切なコミュニケーションができるようになることを目指す。 また、スペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化に親しむとともに、他民族のものの考え方、生き方を理解していく。本講義を通じて、人間としての視野を広げ、他の人、他の民族をよりよく理解できる人間となり、彼らとのコミュニケーションを深める事により、自分自身が豊かになると同時に、社会に何らかの貢献ができる一助となることを目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		スペイン語セミナーⅡA		本講義では、特に「読む」能力の向上に力点を置いて学習する。すでに得たスペイン語の基礎的な文法知識を復習するのに加えて、より複雑な新しい文法事項も学び、スペイン語運用能力を実用のレベルまで高めることを目指す。文法事項では、直説法を中心に学習する。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		スペイン語セミナーⅡB		本講義では、特に「読む」「書く」能力の向上に力点を置いて学習する。すでに得たスペイン語の基礎的な文法知識を復習するのに加えて、より複雑な新しい文法事項も学び、スペイン語運用能力を実用のレベルまで高めることを目指す。文法事項では、主に接続法を中心に学習する。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		スペイン語セミナーⅡC		本講義では、特にコミュニケーション能力（「聞く」「話す」）の向上に力点を置いて学習する。これまでに学んだスペイン語の文法知識を土台とし、「聞く」ことを中心とした授業を行う。主に日常生活レベルでのやりとりができる程度のスペイン語力の育成を目指す。また言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		スペイン語セミナーⅡD		本講義では、特にコミュニケーション能力（「聞く」「話す」）の向上に力点を置いて学習する。これまでに学んだスペイン語の文法知識を土台とし、「聞く」「話す」ことを中心とした授業を行う。主に日常生活レベルでのやりとりができる程度のスペイン語力の育成を目指す。また言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	スペイン語コミュニケーションⅠ		本講義では、スペイン語運用能力（聞く・話す・読む・書く）の向上をめざし、スペイン語の基本となる文法を項目別に学ぶとともに、読解力や聴解力についても身につける。本講義での学修を通して、簡単な日常会話が可能なスペイン語によるコミュニケーション能力の獲得を目指す。	
		スペイン語コミュニケーションⅡ		本講義では、『スペイン語コミュニケーションⅠ』で習得した内容をもとに、スペイン語運用能力（聞く・話す・読む・書く）の更なる向上を目指す。文法知識の修得とともに、読解力や聴解力についても身につけることにより、簡単な日常会話が可能なスペイン語力を獲得することを目指す。	
		コリア語セミナーⅠA		本講義では、初級の文法運用と共に読み・聞き・話す・書きの総合的な文の運用能力や基礎会話を身につけることで、身近で経験できる韓国語体験や、韓国人との簡単なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。 会話を中心とした授業を行い、ハングル能力検定試験の3級程度の文法表現や語彙表現を覚えることを目標とする。	
		コリア語セミナーⅠB		本講義では、駅などの公共の場で見つけたハングル表記、韓国ドラマ・映画などで出る簡単な会話を覚える、学習した初級文法を使って場面別の会話練習を行うことにより、身近で経験できる韓国語体験や、韓国人との簡単なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。ハングル能力検定試験の4級程度の文法表現や語彙表現を覚えることを目標とする。	
		コリア語セミナーⅠC		本講義では、実用的なコリア語のコミュニケーション能力（読み、書き、聞き取り、会話等）の総合的な技能の向上を目指す。本講義では、4技能の中でも《話す》に重点をおく。 日常的な場面を想定して、与えられたテーマについてコリア語で話せるように、様々な表現や単語等を修得する。また、韓国の文化や歴史、コリア語の表現にも。その際、リスニングやシャドウイング、ロールプレイ、寸劇等の体験を通して、コリア語の運用能力を高めることを目指す。 コリア語という言語を通して異文化、自文化について考える機会とする。日常の様々な場面を想定し、与えられた主題についてコリア語で話ができるようにする、日韓の文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		コリア語セミナーⅠD		本講義では、実用的なコリア語のコミュニケーション能力（読み、書き、聞き取り、会話等）の総合的な技能の向上を目指す。本講義では、4技能の中でも《聞く》ことに重点をおく。 本講義では、実用的なコリア語の読み、書き、聞き取り、会話等の総合的な技能を高めるとともに、コリア語という言語を通して異文化、自文化について考える機会とする。日常の様々な場面を想定し、与えられた主題についてコリア語で会話ができるようにする。 日韓の文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		コリア語セミナーⅡA		本講義では、実用的なコリア語のコミュニケーション能力（読み、書き、聞き取り、会話等）の総合的な技能の向上を目指す。初級の文法運用とともに、読み・聞き・話す・書きの総合的な文の運用能力や基礎的な会話を身につける。また、ハングル能力検定試験の3級程度の文法表現や語彙表現を習得し、韓国人とのコミュニケーションがとれるようになることを目指す。 コリア語運用能力を実用のレベルまで高め、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		コリア語セミナーⅡB		本講義では、実用的なコリア語のコミュニケーション能力（読み、書き、聞き取り、会話等）の総合的な技能の向上を目指す。特に、駅などの公共の場で見つけたハングル表記や韓国ドラマ・映画などに登場する簡単な会話を題材として、読み・聞き・話す・書きの総合的な文の運用能力や基礎的な会話を身につける。また、ハングル能力検定試験の4級程度の文法表現や語彙表現を習得し、韓国人とのコミュニケーションがとれるようになることを目指す。 コリア語運用能力を実用のレベルまで高め、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		コリア語セミナーⅡC		本講義では、実用的なコリア語のコミュニケーション能力（読み、書き、聞き取り、会話等）の総合的な技能の向上を目指す。この講義では、コリア語を通じて情報を受信する練習を行うとともに、学習した内容を用いたコミュニケーション（情報伝達）の手法についても学ぶ。 コリア語運用能力を実用のレベルまで高め、基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	コリア語セミナーⅡD		本講義では、実用的なコリア語のコミュニケーション能力（読み、書き、聞き取り、会話等）の総合的な技能の向上を目指す。この講義では、様々なスタイルのテキストや音声・動画を用いて、読解・聴解について学習するとともに、コリア語を通じて情報を受信する手法についても学習する。 コリア語運用能力を実用のレベルまで高め、基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		コリア語コミュニケーションⅠ		本講義では、文字の発音と基本的な音韻規則について学び、正確に発音できることに重点を置く。次に、授業計画に沿った各文法事項の理解度をテキストの＜練習＞問題を通じてその都度確認することで文法知識の確実な定着を図る。また、テキストの＜実践会話＞を用いた対話練習などを通じて実践へと繋げていく。さらに、ハングルで自分だけの名刺を作成するなど、テキスト内のアイテムをフルに活用しながら楽しくコリア語学習を進めていく。 簡単な挨拶と自己紹介ができる、基礎語彙を使ったごく簡単な日常会話ができることを目標とする。	
		コリア語コミュニケーションⅡ		本講義では、特に「話す」力に重点を置き、テキスト内の基本的な語彙、文型を確認しつつ、音声資料や教師の発音に倣ってペア、またはグループで対話練習をすることで、より高度なコミュニケーション能力を養うための土台をつくる。また、テキスト内の文法・会話項目だけでなく、必要に応じて韓国・朝鮮の文化、ニュース等も取り上げる。 文字を見ないで疑問、否定、過去、尊敬などの文を組み立てることができる、基本的な会話がスムーズにできるようになることを目標とする。	
		海外中国語研修講座		本講義は、中国語で話しかけたりその返事を聞き取ったりといった実践的な語学力を養うとともに、中国の社会事情や歴史・文化について理解を深めることを目的とし、学内での事前指導を経て、上海師範大学の講師による中国語プログラムを受講する科目である。到達目標として、言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		ポルトガル語Ⅰ		本講義では、はじめてポルトガル語を学ぶ学生を対象に、やさしい会話の教材を用いて、ごく初歩的な単語や表現を学ぶ。何よりもブラジルの言葉と文化に親しむことを第一目標として、言葉だけでなく、歴史や文化に関する事柄にも目を向ける。ことばの学習の合間に、歴史や文化に関する事柄を取り上げ、資料にもとづいて解説する。到達目標として、基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	
		ポルトガル語Ⅱ		本講義では、基本的な会話表現を学ぶ。ブラジルの言葉と文化に親しむことを第一の目標とする。そのため、言葉の学習の合間に、歴史や文化に関する事柄を取り上げ、資料にもとづいて解説する。授業はブラジル中心に進めるが、さらに広い視野からポルトガル語を学べるよう、適宜、ポルトガルの大航海時代や日本の南蛮貿易、キリシタン史などの興味深いエピソードにも触れる。到達目標として、自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができることを目指す。	
		ポルトガル語ⅢA		本講義では、会話表現のみならず、文法をきちんと押さえながら学ぶことによって、「聞いて話す力」と「読んで書く力」を養う。授業はブラジルを中心に進めて行くが、ポルトガルの大航海時代や日本の南蛮貿易、キリシタン史などの興味深いエピソードにも触れる。到達目標として、自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目指す。	
		ポルトガル語ⅢB		本講義では、表現力を高めるうえで欠かせない完了形や未来形、受動態、さらに接続法の使い方を習得するよう努める。会話表現のみならず、文法をきちんと押さえながら学ぶことによって、「聞いて話す力」と「読んで書く力」を養う。授業はブラジルを中心に進めて行くが、ポルトガルの大航海時代や日本の南蛮貿易、キリシタン史などの興味深いエピソードにも触れる。到達目標として、自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目指す。	
		ロシア語Ⅰ		本講義では、ロシア語の基礎文法と簡単な会話を学び、ロシア語で簡単なコミュニケーションがとれる語学力を身に付けることを目指す。また、語学学習だけでなく、映像資料を活用して、ロシア文化やロシア社会についても紹介する機会を設ける。 ロシア語の基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができるようになるとともに、ロシア語圏の人びとの生活・文化などへの理解を深めることを目指す。	
		ロシア語Ⅱ		本講義では、ロシア語の基本的な文法知識を修得し、身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができ、簡単なコミュニケーションがとれる語学力を身に付けることを目指す。また、映像資料を通してロシア文化やロシア社会についても触れる機会を設ける。 外国語の学習を通して、その言語が話されている国に暮らす人々の思考方法だけでなく、生活・文化などへの理解を深めることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	ロシア語ⅢA		本講義では、ロシア語ⅠおよびⅡで学んだ知識を基礎に、ロシア語で書かれた文学作品を題材として、新しい文法事項を学習しながら、平易なロシア語を読解する力を養う。辞書を頼りに、平易なロシア語のテキストが読めるようになることを目指す。学習を通して、単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができるようになることを目指す。	
		ロシア語ⅢB		本講義では、すでに学習したロシア語Ⅰ、Ⅱを基礎にロシア語の会話力をつける。ロシア語の発音練習を通じて、修飾語の表現、単文及び複文における目的や理由の表現、一致・不一致定語、動詞の支配等を学修する。到達目標として、自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目指す。	
		ラテン語Ⅰ		ラテン語は、近代ヨーロッパの言語の原点となる言語であり、この点からすると、ラテン語学習は、専門学問分野の研究にとどまらず、イタリア語、スペイン語、フランス語などはもちろん、英語、ドイツ語等の近代ヨーロッパ語の習得のためにもきわめて有用である。また、ラテン語を使って残された学術文書は膨大にあり、歴史、法律、文学、哲学、宗教、言語、美学等の分野はもちろん、数学、音楽、天文学、生物学、物理学など、われわれが現在学習するあらゆる学問分野において、その基盤となっているラテン語の文書が多く存在する。 こうした文書を直接読みこなすためには、多年にわたる学習を必要とするが、本講義では、その第一歩として、ラテン語の文法を基礎から学び、簡単な文章から読解できるようになることを目指す。	
		ラテン語Ⅱ		ラテン語は、近代ヨーロッパの言語の原点となる言語であり、この点からすると、ラテン語学習は、専門学問分野の研究にとどまらず、イタリア語、スペイン語、フランス語などはもちろん、英語、ドイツ語等の近代ヨーロッパ語の習得のためにもきわめて有用である。また、ラテン語を使って残された学術文書は膨大にあり、歴史、法律、文学、哲学、宗教、言語、美学等の分野はもちろん、数学、音楽、天文学、生物学、物理学など、われわれが現在学習するあらゆる学問分野において、その基盤となっているラテン語の文書が多く存在する。 ラテン語で書かれた文書を読解するためには、多年の学習が必要だが、本講義では、主に「ラテン語Ⅰ」で学習した文法の基礎を踏まえ、辞書を引いて、ラテン語の文章を読解できるようになることを目指す。	
		ギリシア語Ⅰ		本講義では、古典ギリシア語の基礎から出発し、最終的には簡単な文献であれば独力で読めることを目指す。 日本語を含む東洋諸語とも、近代以降の簡略化された西洋諸語とも大きく異なる言語構造に触れることで、世界の新しい切り取りかたを身に付けることを目指す。	
		ギリシア語Ⅱ		本講義では、古典ギリシア語の基礎から出発し、最終的には簡単な文献であれば独力で読めることを目指す。 語学としての古典ギリシア語だけでなく、その歴史的な位置づけや特徴、それを介してもたらされたさまざまな学問・芸術に関する知識の修得を目指す。	
		ペルシア語Ⅰ		本講義では、ペルシア語の基礎を、文字、発音、基礎文法、あいさつにわたって初心者にもわかりやすく一から練習を行う。また、文法を動詞の過去形、現在形の活用まで時間をかけて段階的に学ぶ。同時に日常会話を、あいさつから自己紹介、時間表現、旅行での表現などシチュエーションに分けて無理なく練習する。授業の一環として、イラン音楽文化、生活や社会文化の紹介も行う。ペルシア文字を覚えること、基礎文法を現在形まで理解すること、イランの文化・社会の基礎的特色を理解することを目標とする。	
		ペルシア語Ⅱ		本講義では、ペルシア語Ⅰに続いて、イランなどの国語であり、シルクロードとイスラーム世界の主要言語のひとつであるペルシア語を、ネイティヴ教員による会話の練習を中心に学ぶ。ペルシア語Ⅰで学んだ基礎文法を基に、イラン現地で実際に少しでも話せることを目標に、日常生活や旅行の場面に分けて練習する。その過程で、ペルシア語に多い慣用表現を学ぶ。ペルシア語の基礎文法を理解すること、必要最小限のボキャブラリーを身につけること、イラン人とコミュニケーションしたり、イランに旅行などで滞在した際に必要最低限のペルシア語表現ができること、ペルシア語の簡単な散文や詩を読み、アート面での豊かさを理解することを目標とする。	
		トルコ語Ⅰ		本講義では、トルコ共和国を中心に、世界に6000万人以上の話者がいるとされる現代トルコ語の基礎を学ぶ。実際にトルコ共和国に旅行する際、あるいは日本でトルコ人と出会った際に使える、実用的なトルコ語知識を提供する。同時に、日本人には未だ馴染みの薄いトルコ共和国、あるいはトルコ人に関する情報を、様々な写真・動画・音楽なども交えながら紹介する。 トルコ共和国を旅行する際に有用な会話表現の習得、街の看板やレストランのメニュー、各種施設の案内板やパンフレットなどを最低限理解するための読解能力の獲得により、高度な文法を独学するための土台となる基礎的な文法知識の確立を目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目		トルコ語Ⅱ		本講義は、トルコ語Ⅰの履修者を対象に、現代トルコ語の初級会話能力、及び文章読解能力を提供する。まず、トルコ語Ⅰでは扱いきれなかった文法事項を確認した後に、会話練習と様々な種類の文章の講読を行う。トルコ語の文法を網羅的に理解する、トルコ人との簡単な日常会話を行う能力を習得する、ある程度長い文章の読解能力を身に付ける、トルコ語の辞書の扱いに慣れることを目標とする。	
			アラビア語Ⅰ		アラビア語は、中東と北アフリカで広く使われている言語であるとともに、イスラームという宗教の言語でもある。本講義では、アラビア語学習の基礎として、会話表現と初級文法、そして簡単な文章の読み方について説明する。アラビア文字の表記と発音の仕方を覚え、母音記号の振ってある文の読み書きができるようになること、簡単な会話表現を身につけながら初級文法の基礎を理解できるようになることを目標とする。	
			アラビア語Ⅱ		アラビア語は、中東と北アフリカで広く使われている言語であるとともに、イスラームという宗教の言語でもある。本講義では、アラビア語学習の基礎として、会話表現と初級文法、そして簡単な文章の読み方について説明する。会話表現を例としながらアラビア語の初級文法を身につけること、辞書の使い方を覚えアラビア語の簡単な文章が読めるようになることを目標とする。	
			日本語	○	本講義では、主として1・2年生の留学生を対象として、「日本語によるアカデミックなコミュニケーション活動に主体的に参加することができるようになること」、「社会的、文化的な事柄に対して多角的な見方ができ、協働作業や異文化間における仲介者として行動できるようになること」を到達目標とする。特に専門課程で、学習を円滑に始められるレベルの日本語能力を身につけられるよう、留学生のニーズに基づいた課題を用意し、基本的なスタディ・スキル（学習技術）を身につける活動を扱う。	主要授業科目
	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	○	本講義では、哲学が長らく対象としてきた「私とは何か」ではなく、自分についての「語り」であり、またその語りを限界づける「他者」の構造に特に注目する。私たちは誰もが、他者を巻き込まずして自分を物語ることなど不可能だということ、人は他者なしには生きられない、その「愛と暴力」の構造について、古今の哲学者や文学者、心理学者や歴史家たちの理論やテキストをふまえつつ、深く執拗に考察する。本講義を通じて、告白や自伝という語りの制度の（おもにヨーロッパ的な）変遷を知ること、告白が持つ暴力性を多角的に考察できる知見を身につけることを目標とする。	主要授業科目
			哲学A	○	本講義では、人間的な「自由」、その行為者である「自己」、それに関わる「世界」といった問題を、古代ギリシアに始まる西洋哲学の歴史を概観しつつ考察していく。本講義を通じて、哲学という学問領域の特徴、その独自性を理解する、人間の諸問題に対する様々な哲学的立場や主張を学びその意義を理解する、また、これらの理解を基に自分の考察を明確に論証的に述べることが可能になることを目標とする。	主要授業科目
			哲学B		本講義では紀元前から１７世紀に至る西洋哲学、とくに「世界や自然とは何か？」という問いを巡る自然哲学について講義を行う。つまり、哲学と科学(自然に関する学)とが混然一体となった西洋の自然哲学について解説する。この自然哲学の思想の変遷と共に、各時代の「世界観」ないし「自然観」が変化する様を理解しながら、現在の「世界観」や「自然観」について、それがどのようなものなのかについて考える。また、西洋の自然哲学は、「世界」や「自然」を論ずるとき、同時に、その「世界」・「自然」の中で生きる「人間」、そして「人間の知識・認識」についても論ずる。この点も講義で取り扱う。以上の内容を踏まえて、本講義では21世紀に生きる、われわれの「世界観」・「自然観」について問い直すことはもちろん、世界や自然に対する、われわれの態度が、どのようにあるべきか、この問いについて深く考える。	
			倫理学入門	○	本講義では、異質なものを排除するこの「正常であるべし」という発想がいかに発明され、いかに拡散していったかという歴史的な過程を論じる。また、20世紀前半を席巻した──そして21世紀においても、その外見や構造を変化させながらも、益々洗練された仕方で浸透しつつある──いわゆる優生学(eugenics)を中心に現代史・現代思想史をふりかえることで、「ふつうで自然なプロセス」が抱える問題点を明確にする。現代人の「死生観」を構成している歴史状況や科学技術、公共政策、教育制度、メディア・ネットワークなどについて、大まかな見通しを得ること、また、その上で人や動物の生き死について考え、判断するさいに必要な視点を養うことを目標とする。	主要授業科目
			倫理学A	○	環境汚染や気候変動によって大きな影響を受けるのは、生態系や社会のなかで最も弱い立場にある生物でありひとである。誰が最も環境汚染や気候変動の被害を受けやすいかという観点に立ったアプローチは、社会のなかの不公正な構造を浮き彫りにし、私たち自身の生活のあり方を問うものでもある。持続可能な社会の可能性を探ることは、これから私たちがどのような未来を選択するのかを自らに問いかけることであり、どのひとも取りこぼさない社会を構想することである。本講義では、持続可能性の視点から環境倫理を学び、具体的な事例を手掛かりに倫理的な課題について考察する。本講義を通じて、環境倫理の議論で用いられる概念と理論を学び、環境問題を分析する視点を理解すること、尊重すべき原則と客観的な根拠に基づき、自らの見解をまとめることができることを目標とする。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	倫理学B		本講義では、倫理学とは何か、倫理的問題についてどのように考えるべきなのか、現代の倫理学の理論にはどのようなものがあるのか、といったテーマについて概観する。倫理学の諸理論（功利主義・義務論・徳倫理学・ケアの倫理など）を学ぶことで、様々な倫理的問題のとらえ方を身につける。また、フェミニズムと倫理、ジェンダー論と倫理、現代の倫理思想における「性的差異と共生」について考察する。本講義を通じて、倫理学の諸理論を学ぶことで、倫理学的なものの考え方を知ること、様々な倫理的問題のとらえ方を身につけること、様々な倫理的問題の解決策を深く考えることを目標とする。	
			クリティカル・シンキング	○	大学での学びでは、単に講義内容を理解しておぼえるだけでなく、問題を批判的に考え、探求していくことが大切である。そのために必要となるのが、論理的・批判的な思考力「クリティカルシンキング」である。本講義では、論理的に分析する方法や、その内容を批判的に考えるための方法を学ぶ。具体的な素材を使って演習形式で訓練しながら、論理的・批判的に読み・考え・議論するためのスキルを身につける。	主要授業科目
			論理学		本講義では、伝統的論理学の基礎的な項目の習得を通じて、理性的思考の基礎体力としての論理の意義を論じる。論理には、我々を縛る堅苦しい枠という一般的なイメージが付きまとう。しかし、論理本来の姿とは、個人の偏見や社会の常識といった枠組みを離れ、自由な思考を通じてそれを克服していく創造的な能力なのである。論理学という学問の特徴、その意義を理解し、基本的な知識を習得する。また、対象を論理的な問題として捉えなおし、論理的に解決する実践的な力を獲得する。	
			宗教学入門	○	本科目の目的は、神学（教学）・宗教哲学・実証的宗教（諸）学それぞれにおける宗教事象への問いかけの意義を知ることで、宗教に対する学問的アプローチの基本的事項を学ぶことである。またそれと同時に、世界中の宗教現象を広く扱い、諸文化における宗教の役割や宗教の文化的差異などを学ぶことを通じて、現代における宗教の意義について考察する。はたして宗教は人間にとって必要なのか。非科学的な宗教を信じるなんて、どうかしているのではないか。宗教的な存在、例えば神は、存在するのか。世界にはどのような宗教があるのか。宗教と政治はどのような関係にあるべきなのか。メディアを賑わせている宗教紛争はいったいなぜ起こっているのか。そもそも宗教とは何なのか。──本講義では、こういった問題について、具体的な事例もふまえながら考察する。	主要授業科目
			宗教の世界A	○	本科目の目的は、日本における諸宗教のあり方や人々の宗教意識を考えるなかで、様々な宗教的世界観などについての基本的なことがらを学ぶことである（ただし、本学では他で学ぶ機会の多い仏教については、本科目では基本的に扱わない）。日本語の「宗教」という語には、キリスト教や仏教をはじめとする創唱宗教しか含めず、習慣や風習となっている宗教心の発露（自然宗教）が排除される傾向がある。この屈折の背景には複雑な歴史的経緯が絡んでいるのだが、そこに現代日本のさまざまな病理が潜んでいるのである。本科目では、現代の日本人が一般的に持っている「宗教」観を批判的に考察し、その歴史的由来を問い尋ねることによって、錯綜した「宗教」意識の問題点を浮かび上がらせ、「宗教」への偏見を取り除くことを目指す。	主要授業科目
			宗教の世界B	○	本科目の目的は、世界における諸宗教のあり方や人々の宗教意識を考えるなかで、様々な宗教的世界観などについての基本的なことがらを学ぶことである（ただし、本学では他で学ぶ機会の多い仏教については、本科目では基本的に扱わない）。現代世界においては宗教が再びプレゼンスを高めており、どんな社会問題を理解する際も、宗教的な側面についての知識は欠かせない。しかし、高校までは宗教を学ぶ機会がほとんどなく、学生は偏見に満ちていることが多い。本科目では、そうした偏見を取り除き、宗教についての客観的な知識を身につけることを目指す。	主要授業科目
			中国の思想A	○	本講義では、中学校・高校の国語の授業で触れてきたであろう「論語」について、改めて考察する。『論語』は、前近代中国の学術の根幹を成す書物であり、それゆえに前近代日本でも学術の根幹となり、広く読まれて来た。 『論語』には何が書いてあるのか、本講義では幾つかの章を精読することで、それについて考える。これにより、「古典」の持つ意味について自分なりの見解を持つことをめざす。	主要授業科目
			中国の思想B	○	あらゆる「知」は書物によって伝えられる。つまり、世の中には無数の書物が存在する。無数にあるがゆえ、「分類」が重要となる。数多ある書物を分類することによって「知」は体系化される、と言ってよいかも知れない。 本講義を通じて、前近代中国の図書分類である「四部分類」の誕生過程を追い、その分類が現代日本に及ぼす影響を考察することにより、「図書分類」について自分なりの見解を持つことを目指す。	主要授業科目
			芸術の世界A		芸術のジャンルを一つ、あるいは複数選び、古典的な芸術作品の鑑賞を通じて、音楽、美術、あるいは映像芸術について基礎的な理解と観賞能力を養う。成長社会から成熟社会へのグローバルな変化の中で、芸術を通して人間そのものの複雑さに対する理解を深め、社会人としての豊かな感性と知力を持てるようになることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	芸術の世界B		芸術のジャンルを一つ、あるいは複数選び、最近の動向、あるいは現代の新傾向を紹介しながら、音楽、美術あるいは映像芸術について基礎的な理解と観賞能力を養う。成長社会から成熟社会へのグローバルな変化の中で、芸術を通して人間そのものの複雑さに対する理解を深め、社会人としての豊かな感性と知力を持てるようになることを目標とする。	
			日本の文学A	○	前半では、古今東西のさまざまな文学論・文学作品を参照しつつ、「文学」とは何かについて概観する。文学の枠組みは、時代や場所によって変わるが、文学を成り立たせる根本の構成要素は変わらないことを理解する。後半では、日本文学の代表的なテクストを精読していく。従来の定説に安住せず、作家の実存、時代状況、テクスト構造などに注目することで、新しい読みの地平を拓いていく。そのことを通して、私たちがどこから来て、何者で、どこへ向かおうとしているかを歴史的に問い直し、大学人としての教養を身につけることを目指す。	主要授業科目
			日本の文学B	○	本講義では、「文学」を散文・韻文（物語・小説・和歌など）に限定せず、映像などを含めたハイブリッドなものとして捉え、私たちの身近にあるものを分析対象とする。たとえば、私たちの日常は、情報や広告であふれている。現代の広告の原点である江戸時代の広告を確認し、各年代のポスター・看板・コマーシャルなどを、それが作成された当時や社会を知る資料として位置づける。コマーシャルやキャッチコピーなどを、たんなる商品・消耗品としてではなく、時代や社会を表わす文学資料として扱えるようになることを目的とする。	主要授業科目
			日本の文学C		本講義では、文学とナショナリズムの関係を吟味する。ナショナリズムは国民国家の成立と深く関係している。いっぽう個人の実存に結びつく近代文学も、国民国家の成立と深く関係している。つまり、文学とナショナリズムは、国民国家が生み出した双生児と捉えることができる。両者の関係がもっともホットになる、①明治初年代、②昭和10年代、③現代、に時期を区分し、具体的な作家やテクストを吟味するとともに、ナショナリズムに対する免疫を身につけることを目指す。	
			アジアの文学A	○	アジア各地には多様な文学作品が存在するが、わけても中国とインドの文学は、本国だけでなく周辺諸国に広く伝わった。それらの物語は現代に至るまで、時代のニーズに合わせてたびたび翻案（リライト）されてきた。その意味で、単なる文学作品ではなく、大きな「文学伝統」を形成していると言える。また、世界宗教の一つである仏教の文学もアジア全域に波及し、各国語の説話や芸能の形で親しまれている。本講義では、この三領域の代表的な作品の魅力を、やさしい日本語訳に親しみながら理解することをめざす。ただし、単に作品のあらすじや名場面をなぞるのではなく、それらの物語がアジア各地の社会・文化に及ぼした影響を多面的に把握することを重視する。アジアに広く伝播した主要な文学の内容・特色を理解し、文学がアジア各地で果たしてきた社会的・文化的役割を理解することを目指す。	主要授業科目
			アジアの文学B	○	19世紀以降にアジアの諸国・諸地域で生まれた近現代文学を、二つの視点から考察する。第一の視点は、文学作品が、その地に暮らす人々の感性や考え方、習俗といった文化的特質を、多かれ少なかれ反映していることを踏まえ、文学作品から抜粋したテキストを味読することで、各国・各地域の文化を感じ取る。第二の視点は、これらの文学の多くが、アジアの近代化という大きな社会的変化に呼応する形で書かれ、人々に受容されてきたということを踏まえ、地域ごとに異なる近代化のプロセスにも目を向け、「なぜこの時、この作品が生まれたか」を考察する。この二つの視点を意識して読むことで、アジアの近現代文学が、現実の文化・社会と様々に関わりつつ発展してきたことの理解を深める。授業で取り上げる近現代アジアの主要な文学作品について、その内容・特色を理解し、授業で取り上げる諸作品と、各国・各地域の文化的特質や近代化の過程との関わりを理解することを目指す。	主要授業科目
			西洋の文学A	○	本講義では、「西洋」とはなにか、「文学」とはなにか、文学にあらわれた西洋的なものとは何か、といった問いを（そもそもこうした問いが成り立ちうるのかも含め）、考えてみると同時に、文学作品に対してどのような理論的アプローチが可能かについて概観する。同時に、受講学生には自らの読書遍歴と人間の自己形成とのかかわりについて振り返る機会とする。 文学作品に対してどのようなアプローチが可能か理解すること、文学とは何か、文学を書くこと・読むことにどんな意味があるのか、自分なりの答を見つけること、自らの文学的社会化について考察することを目標とする。	主要授業科目
			西洋の文学B	○	本講義では、文学テクストのいくつかを紹介し、読んでもらいながら、それぞれの文学テクストに対してどのようなアプローチが可能か、どのように読めるか、その魅力、今日性、問題性とは何なのかを考える。紹介された文学作品に対してどんなアプローチが可能か理解するとともに、文学とは何か、文学を書くこと・読むことにどんな意味があるのか、自分なりの答を見つけること、自らの文学的社会化について考察することを目標とする。	主要授業科目
			文章表現法A	○	本講義では、的確で印象的な「日本語」の文章表現力を身につけることを目的とする。説得力のある的確な表現力を体得するため、いくらかの実践的なトレーニングを行う。また、硬軟をとりまぜた課題（テーマ）を設定し、じっさいに受講者に文章を書いてもらい、それを相互批評しながら、みずからの文章表現力を磨く。これにより、書き、読み、伝えることをとおして、基本的なリテラシーを高め、文章表現の愉しさを体感する。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	文章表現法B	○	本講義では、的確で印象的な「日本語」の文章表現力を身につけるため、情報の共有とともに「自己省察を深める」ことを重視する。講義を通じて、「書く・読む・伝える」という三つの力を高めるとともに、自分のあり方を見つめ、それを通じてより良い生き方を考えることをめざす。授業内では、自己省察の営みにつながる三つの課題（テーマ）を設定し、じっさいに文章を作成する。そして、作品を相互批評しながら、自らの文章表現力を磨く。	主要授業科目
			言語と文化	○	本講義では、多岐にわたる初期近代の文化を、主にイギリスの言語と文化を中心とし、（1）恋愛詩と宮廷文化、（2）自然と哲学、（3）宗教と科学と魔術の三つのテーマに焦点を当てて考察する。英語の歴史的背景を理解することによって英語への理解を深めること、言語、文化、歴史の有機的な関連を理解すること、現代的な世界観、価値観のもととなった初期近代の文化を理解することで現代的な世界観を相対化する視点を獲得することを目標とする。	主要授業科目
			歴史学入門		本講義では、日本を含めたユーラシアおよび世界の歴史を横軸（地域）と縦軸（時間）に沿って学ぶと共に，習得した歴史的事象の基礎知識をもとに、歴史学を学ぶ意義について理解を深める。歴史学は過去の事象を暗記する科目ではなく、過去の事象を用いて、人間や社会についての考察を深めるための学問分野である。人間や社会は、いま何故かくあるのかを解き明かす学問という歴史学の性質を、本講義では理解する。歴史学を通して、現代人のものの考え方や現代社会が、どのように捉えなおされるのかということを学ぶ。歴史学が過去の事象を暗記するための学問分野ではなく、過去の事象を用いて、人間や社会に関する考察を行うものであることを説明できること、歴史的な考察によって社会や人間に新たな側面を見出せるということを具体的事例をもとに説明できるようになることを目指す。	
			日本の歴史A	○	現在の日本が、歴史的にいかに形成されたのかを、主に近代日本の政治と軍事との観点から理解していく。近世社会がどのように近代社会につくりかえられていったのか、そうして形成された近代社会はどのような特徴を持っていたのか、そうした近代社会がなぜ、どのように敗戦に至るのかということを概観することで、現代社会の下地を理解する。	主要授業科目
			日本の歴史B	○	現在の日本が、歴史的にいかに形成されたのかを、主に近代から現代にかけての、議会政治の歴史から理解していく。近世社会がどのように近代社会につくりかえられていったのか、そうして形成された近代社会はどのような特徴を持っていたのか、議会制度はどのような過程を経て現在に至り、そこには歴史的にみてどのような問題点がみえてくるのかということを概観することで、現代社会の下地を理解する。	主要授業科目
			日本の文化		日本の出版文化は近世において花開くが、その後、明治以降の近代において、膨大な数の書籍が発行されることとなった。そうした明治以降に発行された書籍の多くは、現在、国立国会図書館デジタルコレクション等のデジタルアーカイブスで閲覧することが可能である。本講義では、近代日本で発行された書籍を通じて、日本の近代文化について造詣を深め、現代社会の基礎となっている近代という時代を多面的に理解する。近代に刊行された書籍それぞれの時代背景を説明できること、またそれぞれが当該時期の社会に与えた影響を考察・説明できること、デジタルアーカイブスを自在に閲覧できるようになることを目指す。	
			アジアの歴史A	○	現代社会に生きる我々が未来に対する指標を得るためには，過去の人々の営みを正確に理解・分析し，それを鏡として活用することが必要不可欠である。国際化が劇的に進行している現在，日本に暮らす我々が周辺諸国のありように対して無関心でいることは到底許されない情況にある。このような観点に基づき，本授業では，わが国と関わりの深い中国とその周縁地域（モンゴル・中央アジアなど）に注目し，古代から前近代に至る当該地域の歴史を，政治・社会・文化など多方面から考察する。中国を含めたアジアの歴史を大局的かつ多面的に理解・把握する能力を養うことを目標とする。	主要授業科目
			アジアの歴史B	○	過去から現在に到る人間の営みが、聖的存在に対する畏怖・憧憬や超克的思惟に発する「宗教（思想を含む）」と共にあったことは異論のないところである。世界各地に形成された宗教は，その時々の政治・社会・文化などに多大な影響を与えてきた。人類の歴史を考えるうえで宗教は不可分の要素として位置づけられる。このような視点に基づき、本講義では東アジア世界に大きな影響を与えた中国の歴史を、宗教（とくに仏教）との関係性に留意しつつ政治・社会・文化など多方面から論じる。古代から前近代に至る中国の歴史を宗教との関係性を踏まえて正確に理解することを目標とする。	主要授業科目
			アジアの文化		本講義では、中国史の一部であるにもかかわらず、日本人にも馴染み深い三国志を題材に、「書かれる形式」によって、如何に内容が変容してゆくか、を追う。例えば、「教科書」「歴史書」「小説」「詩」……これらすべてある意味で「形式」である。また、身近なところで言えば、同じ作品であっても、単行本であるか文庫本であるかで「形式」が異なるということも可能である。そして、「形式」と「内容」は深く結びついている。本講義では、そのことを体感し、「書かれる形式」と「内容」の関係について、自分なりの見解を持つようになることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	西洋の歴史A	○	本講義では、中世封建社会から、帝国主義時代が始まる19世紀末までのヨーロッパの歴史の流れをおおまかにおさえながら、世界経済の発展と近代化・工業化によって民衆の生活がどのように変貌したのかを考える。高校までの授業ではあまり扱われない側面、とくに民衆の生活を取り上げ、ヨーロッパ近代の影の部分、切り捨てられていった部分に光をあてていく。その中で、私たちが生きている現代社会を相対化し、批判的に理解する眼を養う。	主要授業科目
			西洋の歴史B	○	本講義では、ヨーロッパの歴史を、一国あるいは複数の国の文化に焦点を当てながら概観する。その際に、中世から現代までの西洋史の歴史のトピックを取り上げ、政治と社会との関連をつけ、西洋以外の文化との交流、摂取などにも注目する。中世以降の西欧社会と文化にかかわって、一つあるいはそれ以上の時代の特徴を説明することができる、歴史とともに文化や人々の心性も変化していることを認識しその具体例を一つ以上挙げることができる、一国あるいは複数の国民文化がどのようにして形成されてきたのか、具体例を挙げて論じることができる、表現の自由、出版の自由が芸術や学術の興隆とどのような関係あるのか、具体例を挙げて論じることができることを目標とする。	主要授業科目
			西洋の歴史C		本講義では、古代、あるいは中世から近現代までの西洋の歴史で著名な人物を何名か取りあげ、西洋の近代国家の形成と関連させながら、論じることにする。取り上げる人物には、女性に限定するなど、一定の関連性をもたせ、西欧における市民権あるいは民主主義に関わる一つあるいはそれ以上の概念の歴史的起源ないし変遷を説明できる、主権国家あるいは国民国家の形成にかかわって、時代にまたがる主要な変化を一つあるいはそれ以上簡単に説明できる、近代西洋で発展する国民国家が抱えた人権や平和に関する問題や課題について一つか二つ指摘できることを目標とする。	
			現代世界の歴史A	○	本講義では、グローバル／グローバリズム／グローバリゼーションという言葉が席巻する現代世界の構造および深層を理解することを目的として、植民地時代から19世紀後半までのアメリカ合衆国（以下、アメリカ）の歴史を、主に近代ヨーロッパの歴史と可能なかぎり関連づけながら、アメリカ史において現代世界の構造を規定する諸制度や価値観がいかに形成されてきたのかを考察する。そうした知的思考を経て、近代アメリカやヨーロッパのもたらしたさまざまな制度、文化、考え方などの功罪について、事実に基づいて冷静に考える力を養う。	主要授業科目
			現代世界の歴史B	○	アメリカ史を学ぶ上で、「人種」や「エスニシティ」という概念がもった意味を理解することは欠くことができない。本講義では、「移民の国」と形容されることの多いアメリカ合衆国を題材に、様々な移民やマイノリティ集団が自らの「人種」や「エスニシティ」というものをどのように規定していったのか、さらにはそのことがアメリカ社会及び、「人種」・「エスニシティ」という概念とどのような影響関係をもっていたのかということを考察する。特に20世紀前半のアメリカ史の主要な年代的知識を修得しアメリカの歴史についての特質を挙げることができるようになること、国や文化状況が異なれば観点も異なることを認識し、それを尊重することを目標とする。	主要授業科目
			心理学	○	本講義では、われわれ「ヒト」がどのような進化を遂げてきたのか、またその進化の過程でおこった「大脳新皮質の拡大」や「心」の複雑化について科学的なデータを基に理解を深める。具体的には、欲求と動機づけ、感覚と知覚、学習、記憶、言語・思考、感情、パーソナリティ、知能、心の病、心理アセスメント・心理療法、社会行動、家族心理学、心理学の生活への応用、統計等をテーマに「ヒト」とは何か、心理学とは何かを理解し、人間関係を円滑にする手立てについて考える力を養うことを目的とする。	主要授業科目
			心の科学A	○	本講義では、私たちがどのようにして心を発達させてきたのか、について乳幼児の発達を見ることで理解を深める。具体的には、発達の基礎、発達段階、運動・言語・情動・認知の発達等をフロイトやエリクソン，ピアジェと言った著名な研究者の理論から学び、子どもの心の発達に関する基礎知識の習得をめざすとともに、子どもの心の発達に関する知識を利用して、将来どのように子どもと関わっていくかについて考えることを目的とする。	主要授業科目
			心の科学B	○	本講義では、私たちがどのようにして心を発達させてきたのか、について生涯発達の視点から理解を深める。具体的には、愛着、友人関係、発達のつまずき、障害、児童期から老年期までの発達について、ボウルビィやエリクソンと言った著名な研究者の理論から学び、心を育む要因に関する基礎知識の習得をめざすとともに、障害児における心の発達の理解、児童期以降の心の発達の理解を目的とする。	主要授業科目
			応用心理学A		現在，教育・医療・福祉などの領域で用いられている心理臨床の実践や研究の基礎をなす臨床心理学を概観し、この学問領域の全体的な見取り図を得ることをねらいとする。 臨床心理学は心理学の応用的領域に位置し、心理学で得られたさまざまな知見を対人援助に用いることを目的としている。本授業では、①臨床心理学の成り立ちや対象、②心理的アセスメント、③心理学的支援という３つの視点から理解を深める。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	応用心理学B		臨床心理学には多くの観点やテーマがあるが、本授業の前半では、発達臨床心理学に焦点を当て、発達の各時期で顕著となる発達課題や心理的問題の意味を読み解く。後半では、心理的アセスメントやさまざまな分野における心理学的支援について解説し、ワークなども取り入れながら、心理臨床的支援の視点を学ぶ。各時期の発達の様相および生じやすい心理学的問題を理解すること、さまざまな分野での心理学的支援の実際や方法の説明ができることを目標とする。	
			教育学のすすめA	○	本講義では、教育の現代的状況を踏まえながらも、教師や教育実践、道徳教育のあり方などをどのように考えるかという学校教育の基本的な問題に立ち返り、教育思想史、教育人間学といった観点から検討する。これによって教育を多様な視点から学問的に捉えていく。本講義を通じて、学校教育の基本的な問題についての基礎的な知識を身に付けること、教育思想史や教育人間学などのものの見方や考え方を理解すること、現代的状況を踏まえ、教育の基本的な問題を自分なりに考察できることを目標とする。	主要授業科目
			教育学のすすめB	○	本講義では、「教育学のすすめA」からさらに一歩進んで、学校教育に留まらない仕方で教育をより理論的に考える。具体的には、子どもとはいかなる存在か、学ぶとはどういうことか、家族とはどのようなものかといった基本的な問題に立ち返り、発達論や学習論などの教育学の基本的な理論を学ぶ。さらに教育思想史、教育哲学などの観点から多様な教育のあり方を学問的に考察する。子ども、家族、学習のあり方など、学校教育にとどまらない教育学の基本問題についての基礎的な知識を身につけること、発達論や学習論などの教育学の基本的な理論を理解すること、教育思想史、教育哲学などのものの見方や考え方を踏まえて、自分なりに教育について考察できることを目標とする。	主要授業科目
			現代社会と教育A		現代社会において、私たちは流動性のもとで不安に苛まれながら競争へと関与し、絶えず自己を評価し改善することを迫られている。本講義では、いじめ、不登校、発達障害など、教育の現代的な問題や状況を取り上げ、その歴史的・人間学的な検討を通して、現代社会を捉えるいくつかの枠組みを示す。これによって現代を特徴づける人間関係や居場所のあり方などを考えるとともに、よりよい社会に向けてどのような関係が可能かを考察する。現代の教育問題に関して、その歴史や教育学的な捉え方についての基本的な知識を身につけ、様々な教育問題を社会のあり方という観点から多角的に捉えることができることを目指す。	
			現代社会と教育B		現代社会において、私たちは流動性のもとで不安に苛まれながら競争へと関与し、絶えず自己を評価し改善することを迫られている。本講義では、子どもたちの困難（障害や貧困など）と知識・能力のあり方という二つの軸を中心に、現代社会の教育状況を具体的かつ構造的に把握する。その上で社会と教育の関係について多角的に考察する。現代の子どもたちや教育状況に関して、その歴史や教育学的な捉え方についての基本的な知識を身につけるとともに、現代社会の教育状況を構造的に捉えることができること、社会と教育の関係について多角的に考察できることを目標とする。	
			教育原論A		教育をめぐる動向がさまざまな変貌をとげ、教育をめぐるさまざまな言説が競合しているなかで、あらためて、教育について考えたい。子どもが「育つ」ときには、どんな風景がそこに広がっているのか。子どもが「学ぶ」学校とは、どのような場所なのか。そして、教育の思想は社会のあり方をどのように説明し、教育の歴史はどのように展開してきたのか。こうした問いを立てつつ、本講義では、教育の歴史や思想および今日的な状況を、子ども・学校・社会の三つの大きなテーマに配分して解説する。人間の成長や発達、教育の理念や思想など、教育学の基礎的な概念や枠組みを理解することを目指す。	
			教育原論B		本講義では、学校が制度的に整備されてきた歴史的な背景や子どもを表象する仕方の変容、そして、家庭が教育の場所として機能し、家族が教育する役割を担ってきた歴史を説明する。さらに、近代以降の教育に関わるさまざまな思想や実践が展開されてきた歴史をたどり、学校の制度的な展開や教育の思想の歴史を理解したうえで、現代的な教育の課題を検討する。人間の成長や発達，教育の理念や思想など教育学の基礎的な概念や枠組みを理解するとともに、現代的な教育の課題を理解できるようになることを目指す。	
			学習・発達論A		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方について講義を行う。学習・発達論Aでは特に幼児、児童及び生徒の心身の発達過程に重点を置き、ピアジェの認知発達理論、エリクソンの心理社会的発達理論を基礎に、胎生期から青年期までの発達を扱う。また、それぞれの発達段階の特徴を踏まえた上で、学校生活に代表される集団生活や学習の過程について講義するとともに、就学以前に生じる発達に関わる問題についても扱う。発達に関する基礎概念やこれまでの発達心理学を支えてきた理論や各論に至る背景、乳幼児から児童期の終わりまでの上昇過程の変化、青年期における自我同一性の獲得、乳幼児期から幼児期に生じる発達に関わる問題、これらを踏まえた幼児、児童、生徒の学習過程や動機づけについて理解することを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	学習・発達論B		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方について講義をする。学習・発達論Bでは特に幼児、児童及び生徒の学習の過程に重点を置き、学習のしくみや記憶の特徴、メタ認知、学習方略、動機づけなどと共に、授業の過程や学級集団の特徴、教育評価や教育統計について講義を行う。教育心理学の基礎的事実や法則など基本となる内容を教育実践と関連づけて理解すること、教育心理学の新しい話題や知識について理解すること、教育実践に生きる知識、技能、理論について理解することを目指す。	
			人文科学セミナー		人文学、人文科学に関わる諸問題を総合的に検討し、多様な視点から広い意味での文化事象あるいは心理学、教育学の問題を考察することを目的とする。授業は少人数のセミナー方式で行い、受講生の問題発見能力、テキストを読解する能力、プレゼンテーション能力、文章作成能力などを向上させることを目標とする。	
			大学論		（概要）今ある大学はどうしてできたのだろうか、今の学生と昔の学生はどう違うのか、大学とはどういう存在なのか、大学で学ぶとは高校までの学びとどう違うのだろうか、以上のような問いを本講義で考えていくことにする。 進学することは珍しくなく、むしろ普通のことになり、他方では大学を出てもなかなか就職できなくなって大きな社会問題になってきている。このようななかで、今、大学とは何か、あらためて問い直されている。本講義では、前期・後期各5人の教員のチェーン・レクチャーで、龍谷大学の歴史、欧米の大学の理念と歴史、最近の大学改革の理念と動向、大学で学ぶ意味について論じる。大学制度の成立と発展の歴史、龍谷大学の歴史について基礎的な知識を得ること、最近の大学の変化を踏まえ、あるべき大学像について自分なりの考えを述べることができること、龍谷大学で学ぶ意味について、自分なりの考えを述べることができることを目標とする。 （オムニバス方式／全15回）　前期開講分 （29　岡本　健資／3回） 私立大学と建学の精神をはじめ、龍谷大学の歴史や教育について講義する。 （60　中野　寛之／2回） 科学研究と大学、具体的には基礎科学研究やポスドク問題等について講義する。 （77　増田　靖彦／2回） フランスの教育制度と大学入試、高等教育改革と学生生活について講義する。 （116　手嶋　泰伸／3回） 近代日本における教養や、新制大学と教養教育について講義し、大学で学ぶ「教養」について考える。 （122　入谷　秀一／5回） 大学の自由や教養の形成ならびに現代の反知性主義について講義する。 （オムニバス方式／全15回）　後期開講分 （5　竹内　綱史／5回） 大学の自由や教養との関わり，大学で学ぶ意義について講義する。 （78　松居　竜五／2回） 東京大学が果たしてきた役割について講義する。 （106　久保　利久／2回） 米国の大学システムについて講義する。 （123　能美　潤史／3回） 私立大学と建学の精神をはじめ、龍谷大学の歴史や教育について講義する。 （132　村上　亮／3回） 西欧における大学の起源と発展ならびに近代の大学と社会の関係について講義する。	オムニバス方式
		社会科学系科目	日本国憲法	○	憲法の基本原理と日本国憲法に関する基本的な知識を身につける。本講義を通じて、立憲主義など憲法の基本原理と日本国憲法についての基礎的な知識・素養を身に付け、それを基にして憲法に関係する報道、論評等をより良く理解できるようにする。また、日本国憲法に関心を持ち、受講後にさらに自ら進んで学習をするモチベーションを持ち、自ら進んで学習をすることの出来る学習方法を習得できるようにする。	主要授業科目
			法学のすすめ	○	基本的な法的思考を身につける。本講義は、法学入門として明治期から戦後にかけての日本近代法の「あゆみ」(歴史)を学ぶことを目的とする。本講義で取り上げる各テーマに関する法制度の基本的知識を獲得することと法制度の構造を概括的に把握することを目標とする。併せて、法制度の担い手たち(法学者、法曹(裁判官・検察官・弁護士・政治家・官僚等)の考え方や活動を理解し、本講義で取り上げる各テーマに関する法制度がどの様に形成されるのかプロセスを理解する。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	政治学のすすめ	○	政治学の見方に関する基本的知識の修得と現実の政治現象に関して理解する。特に政治を自分事として捉えながら、社会科学的に見つめることができるような力を身につけることをめざす。授業の後半では、現代政治における具体的なイシューを取り上げ、現実政治の課題についても考察する。政治学は、国家や法律、選挙や政党などが連想されがちであるが、本講義ではそうした制度にかかわる事象に加えて、制度とは異なる次元の多様な政治の在り方にも着目する。	主要授業科目
			社会学のすすめ	○	基礎的な社会学の見方や考え方を理解することを目標とする。今まで「当たり前」だと思っていたことが『当たり前』ではないことに、「普通」「常識」だと思っていたことが『普通』『常識』ではないことに気づくのが社会学であると言われている。本講義では、今私たちが生きている社会がどんなものなのか、そこで何が起きているのかを知るために、社会学の考え方や言葉がどのように用いられて来たのかを学ぶ。これにより、現代社会のさまざまなテーマに関心を寄せ、人々の会話や行為を見つめ、社会学のものの見方でその在り様をつかむことを目指す。	主要授業科目
			地理学のすすめ	○	基礎的な地理学の見方や考え方を理解することを目標とする。本講義では地理学の成り立ちや、そのなかで育まれてきた見方や考え方を紹介する。そして、「環境」や「地域」といった普段よく耳にする言葉について、それらが説明する事柄が何なのか、地理学における議論を踏まえながら具体的に考える。また、交通や通信といった技術の変化にも着目しながら、身近な暮らし（生活）が置かれた状況について、地理学の視点から読み説いていく。これらを通じ、地理学の持つ独自の考え方や概念について基礎的な理解を深めるとともに、現代世界における「ひろがり」や「つながり」、そして「まとまり」の本質が何なのかを探る。	主要授業科目
			経済学のすすめ	○	基礎的な経済学の見方や考え方を理解することを目標とする。本講義では、現代国際経済の理論と政策を紹介する。主に、政治と国際貿易政策、先進国と途上国、国際生産要素の移動、国際マクロ経済協力などの観点から分析する。これによって、現状の国際経済におけるグロバリゼーションの短所と長所、及び国際関係の理論と政策を理解することをめざす。	主要授業科目
			国際学のすすめ	○	国際社会の諸問題についての基礎知識を理解することを目標とする。本講義では、国際社会で生じているさまざまな社会現象、国境を越えて取り組むべき社会問題について幅広く学ぶ。新聞やニュースでとりあげられる問題を広い視点で理解し、一つの情報や視点に流されることなく、自ら考える力を身につけることを目指す。	主要授業科目
			文化人類学のすすめ	○	文化人類学的な視点から文化認識や他者認識のあり方を学ぶ。「文化人類学」は、「他者としての世界の民族(集団)や文化・社会に関する知識を整理し、分析することを目的とする学問」である。本講義を通じて「文化人類学」の思考法を身につけることにより、異なった文化(的存在)や社会、制度や組織などに対する粗放なイメージ(偏見)を、確固たる「知識」へと改めること、また、異文化的他者を相対化することで、ひいては自己への認識をも高めることを目標とする。	主要授業科目
			社会調査のすすめ	○	社会調査法の基礎について理解することを目標とする。本講義では、社会調査の意義・目的、データを収集・分析しレポートとしてまとめる社会調査の一連のプロセスの基礎を学ぶ。前半は、質的調査のひとつインタビュー調査を、実際に受講生各自がインタビュー調査を実施し、インタビューレポートを作成することで実践的に学ぶ。後半は、質問紙を用いた統計調査（いわゆるアンケート調査）を中心に学びつつ、実際にシンプルな調査を受講生と共に企画・実施し、収集したデータの分析、調査レポートの書き方について学ぶ。このような社会調査の基礎を身につけることに加え、「調査データにだまされない」力を身につけることを、到達目標とする。	主要授業科目
			社会統計学のすすめ	○	統計学の初歩を理解することを目標とする。本講義では、最初に販売量や株価の変動、経済力や実力の格差などを表す散布度（分散、標準偏差）、平均や標準偏差の異なる試験の成績を比較するための標準化変数と偏差値などの記述統計を学ぶ。そののち、標本の中のデータを使って真の平均、比率、分散、分散比などを推測する方法（推測統計）を学ぶ。また、「データサイエンス」の要素についても取り入れることをめざす。推定・検定を学ぶために必要となる前提的基礎知識と、推定・検定の基本的考え方を理解し、それらについての計算が一通り出来るようになることを目標とする。	主要授業科目
			人権論A	○	人権問題の現状を理解し、それらに向き合う方法について考察する。本講義では、教育の場やアルバイトの場といった身近なところで生じている人権問題を素材に、人権状況の現実を確認するとともに、法制度の活用や運動、政治への働きかけ等によっていかなる解決が可能なのかを考察する。本講義全体を通じて、なぜ、いじめや差別という問題が生じるのか、日本は「人権先進国」といえるのか、について考察する。	主要授業科目
			人権論B	○	人権問題の現状を理解し、それらに向き合う方法について考察する。本講義では、主要な人権問題につき国際的な動向を踏まえつつ、その解決法を探るという観点から、刑事事件の被疑者・被告人、先住民族、外国人、そして労働者にスポットを当てて考察する。本講義を通じて、現実にある人権問題や人権を保障するための基本的な法制度を理解し、様々な人権問題に向き合う方法について考察することができるようになることを目指す。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	現代社会とメディア		現代社会において情報やメディアが果たす役割を理解し、メディア・リテラシーを身につけることを目指す。本講義では、マスメディアを一面的に批判するだけでなく、それらが蓄積したものを私たちが共有し、少数のオルタナティブな当事者の声をどのように捉え、受け止め、表現し、対話に結びつけられるのかについて考察する。マスメディアの現状、歴史と役割を理解するとともに、SNSやコミュニティメディアを含む現在のメディア状況が俯瞰できるようになること、また、ネット時代のメディア・リテラシーを身につけ、ネット情報に翻弄されないために、何が必要かが理解できるようになることを目標とする。	
			現代社会と福祉		現代社会の諸問題を福祉的な視点から考える。本講義では、介護や医療、年金、雇用、生活保護、地方自治などの観点から時事ニュースなどを例に解説するとともに、どのような課題があるのかも考察する。福祉など社会保障をめぐる行政、住民、メディアの「いま」の動きを広く学ぶことで、社会生活に向けて最低限必要な社会保障の教養を身に着けることを目標とする。	
			現代社会と法		現代の社会問題と法との関係を理解する。本講義では、刑事政策の定義や基本原理、刑事政策の基本問題と量刑の基本原理についての理解を深め、刑事司法全体を俯瞰し、理論的かつ批判的に分析する能力を身につけることを目標とする。具体的には、犯罪や非行現象を科学的に分析・理解するための原理や法則を修得すること、刑罰論の諸問題にかかる実践的な知識を身につけること、施設内および社会内の処遇の制度と現状を体験的学習によって理解することで、説得力ある議論を展開する基盤を身につけること、少年非行、薬物依存、触法精神障害などに関する理解を深めることを目指す。	
			環境と社会		様々な環境問題を理解し、その解決のための基本的な考え方を学ぶ。本講義では、環境問題の解明と解決の道を探求する環境社会学について、実例を通して代表的な理論について理解を深めるとともに、研究や発展的学習につなげるための手がかりを提供する。本講義を通じて、環境問題の代表的な問題群が、自然科学的な問題だけでなく、社会制度・経済政策を含んだ複合的なものであることを理解し、かつ身近なものとの連関を通して、自らの生活や地域社会のあり方が大規模な地球環境問題と密接にかかわっていることを理解する。	
			平和学A		受講生が、自分なりの平和概念を身につけることを目標とする。本講義では、国際関係・国際政治に関する基本的な考え方を学習することを通じて、世界各地で相次ぐ武力衝突、つまり戦争や紛争の原因と国際社会の対応について理論、歴史、構造的な側面から注目する。それを踏まえた上で、東アジアの情勢と日本の安全保障について理解を深めるとともに、国際関係を注目する際の姿勢および観点について理解を深めていくことを目指す。	
			ジェンダー論		ジェンダー論的視点から現代社会を見つめなおす。人間の「性」に関わる事柄は、しばしば「当り前」で、「自然」なものと思われているかもしれないが、男らしさや女らしさ、性別による役割分業などは、社会によってつくられたものである。ジェンダー論はこのように社会的につくられた「性」の諸問題を問うものである。本講義ではその基礎的態度を得ることを目的とし、基本的な用語・概念を解説することと共に、現代社会における「性」にかかわる具体的な主題を取り上げ、検討する。ジェンダーの基本概念を理解し説明すること、また、ジェンダーの視点から現代社会の様々な課題に気付き、それらを自らの生と関係付けて考えることができるようになることを目標とする。	
			国際社会論		グローバルな視点や国際的な視点から現代社会の課題や問題を学ぶ。本講義の基本関心は、「ポスト資本主義の行方」にある。つまり、本講義を通じて「資本主義はどこからきて、どこに向かおうとしているのか」について考察する。また、国際政治経済学の観点から、政治（権力）と経済（市場）が相互に依存関係にあると見なした上で、広く深く掘り下げて考察を加える。資本主義以後の新しい社会を構想するに当たって、幅広い知見を総合し、新しい価値観を形成していく素材を提供する。本講義を通じて、多様な価値観を前提に問題解決力を身につけること、また、グローバル化に向き合い、メディアリテラシーを身につけることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	現代社会の諸問題		現代社会の諸問題を捉え、その背景や関係性を理解する。本講義では、日本の現代社会が直面しているさまざまな問題の背景と実態、そしてその現場で問題に向き合う若い世代の起業やNPO等の活動から、問題の解決、政策提言に結びつく糸口を探る。本講義を通じて、社会の課題を発見するために何が必要かを理解し解決方法を検討できるようになること、また、解決の道は賛否や二者択一ではなく、さまざまなグレーゾーンの意見の存在を認め、異なる意見を理解しようと務め、話し合える空間をつくることができるようになることを目指す。 （79　松浦　さと子／全15回） 日本の現代社会が直面しているさまざまな問題の背景と実態、そしてその現場で問題に向き合う若い世代の起業やNPO等の活動から、問題の解決、政策提言に結びつく糸口を探る。 （316　中川　義行／全15回） インターネット技術を用いて展開される商活動について、従来の商取引と比較しながら、歴史や特徴などについて講義を行う。 （オムニバス方式／全15回） （10　妻木　進吾／1回） ヘイトスピーチ問題について講義を行う。 （30　奥野　恒久／5回） 本講義のイントロダクションをはじめ、戦争責任や靖国問題、日本国憲法の平和主義について講義を行う。また、東アジアの未来をテーマとしたまとめと討議を行う （53　田口　律男／1回） 日本近代文学と東アジアの関係（夏目漱石を中心に）について講義を行う。 （81　松島　泰勝／1回） 沖縄の歴史と現在について講義を行う。 （90 八幡　耕一／1回） 東アジアをめぐる国際関係について講義を行う。 （121　中田　裕子／4回） 20世紀初頭の東アジア、安重根と浄土真宗僧侶との関わり（日本仏教と戦争責任）、台湾問題、東アジアの未来について講義を行う。 （182　尾崎　智子／1回） 日本の戦争への道について講義を行う。 （385 村岡　倫／1回） 龍谷大学所蔵コレクションと東アジア（世界最古の地図とモンゴル帝国）について講義を行う。	オムニバス方式
			地域論		リージョナルな事象を実証的に捉え、地域的な課題や問題を考える。本講義では、「地域」を理解するためのいくつかの考え方を学ぶとともに、そうした「地域」を人口から読み解いていくための基礎的知識について解説する。人口などの統計データを用いて、地域の基本的な特徴を把握することができるようになること、また、現代日本の人口にかかわる地域的な問題や課題について、人口などの統計データと関連づけて説明できるようになることを目指す。	
			現代社会と労働		社会科学的視点から労働をめぐる諸問題・諸現実を考える。現在の日本では、ブラック企業、ワーキング・プア、過労死・過労自殺、ハラスメントなどが社会的な問題となっている。また、何らかの事情で働けなくなること、働きつづけることが困難となった場合における保障の問題等もある。本講義では、これらの日本の現状を具体的な事件などから明らかにしながら、ディーセントな労働と生活とは何か、それを実現するにはどうすればいいのかを考察する。本講義を通じて、働くうえで必要となる基本的な経済的・法律的知識を身につけること、ディーセントな労働と生活について、国際基準や外国の事例も参考にしながら理解できるようになることを目標とする。	
			社会思想史		社会のあり方と思想の関連について理解することを目標とする。社会や国家についての考え方は、古代から現代までの多くの人々の思索の継承の上に成り立っている。本講義では、ソクラテス・プラトンから現代にいたるまで、代表的な社会思想の歴史をたどることで、社会や国家について考察しつつ、社会思想史の基本的な知識を修得することを目指す。	
			英語で学ぶ日本の社会A		本講義では、現代の日本社会において生じている様々な課題や問題について考察する。具体的には、家族、性別、人種、仕事、教育、経済、平等等をテーマとして取り上げる。グローバル化の加速や高齢化社会といった状況を踏まえ、上記テーマがどのように変化してきたのかについて、詳しく説明する。なお、本講義は日本人学生及び留学生を対象した国際共修科目であり、原則として英語で提供される。受講にあたっては、TOEFL® ITP500、IELTS™ 5.0、TOEIC®650以上と同等の英語力を有していることを条件とする。 本講義を通じて、日本社会における複雑な状況を理解するための多角的な考察ができるようになることをめざす。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	英語で学ぶ日本の社会B		本講義では、国内外における世界の問題に焦点を当て、日本経済やビジネス環境における概要を説明する。学生は授業で学んだことを分析し、時事問題やニュース記事についてディスカッションやプレゼンテーションを行う。なお、本講義は日本人学生及び留学生を対象した国際共修科目であり、原則として英語で提供される。受講にあたっては、TOEFL® ITP500、IELTS™ 5.0、TOEIC®650以上と同等の英語力を有していることを条件とする。 各種記事や事例を学びつつ、データや統計を用いることで、人々がビジネスにおいてどのように行動し、意思決定を行うのかについて理解するための知識を深めることをめざす。	
			データサイエンス・AI入門		本講義では、データを扱う分野としてのデータサイエンス・AIの基礎的なことを学習し、将来、機械学習などを学習するための準備を行うとともに、社会でビッグデータの処理結果に基づく判断が求められた際に、困らないようにすることを授業目的とする。 データ思考の基礎的な知識・技能を有し、実際の簡単な統計データなどを適切にグラフ化し、それから判断することができること、また、データを扱う上での個人情報などの取り扱い方に関して、注意すべき点を説明できることを到達目標とする。	
		自然科学系科目	数学入門	○	ユークリッドの「原論」に基づく初等幾何は重要な基礎的教養と見なされてきた。数学的論証はあらゆる人類の営みを「正しく」行なうために重要であることは誰もが認めることである。しかしながら、公理系に基づく技巧的な証明法だけを学ぶのは良い学習法ではない。本講義では初等幾何と座標を用いる解析幾何を両方学ぶことにより、平面幾何の基本を身につけることを目指す。	主要授業科目
	教養科目		数学への旅	○	本講義では、3次方程式を解くことをテーマに講義を進める。まず中学・高校で習った２次方程式の復習から始めて、次に因数分解を用いて３次方程式を調べる。複素数について学んだ後に、一般的な３次方程式を解く方法について学ぶ。３次方程式の解き方を通して、興味深い問題を自力で解決し、検証する力を身につけることを目標とする。	主要授業科目
			確率・統計入門	○	本講義では、統計学の初歩と確率の考え方、確率的な分布の基礎について学ぶ。具体的には、「場合の数」の求め方から始め、場合の数の割合である「（離散的な）確率」について学修する。本講義を通じて、確率・統計に関する基礎的なアイデアおよび計算技術の習得を目指す。	主要授業科目
			微分と積分		微分積分学は、自然科学においてだけでなく、金融工学や確率・統計などを勉強する際にも非常に大切な学問である。本講義では、その微分積分学の基礎的な部分に焦点を当てて学修する。本講義を通じて、微分積分学における基礎的なアイデア・計算能力の習得を目指す。	
			行列と行列式		線形代数学は、微分積分学とともに現代文明の基礎となっている数学である。ベクトル空間の間の「線形写像」は「行列」によって表示でき、これによって連立１次方程式は統一的に理解できる。さらに、行列の特徴を表わす「行列式」は面積・体積に関係している。本講義では、これらの簡単な具体例に基づいて学ぶことにより、基本的な計算ができるようになることを目指す。	
			数理統計学		統計学は、金融工学や保険商品の開発、また市場調査など実にさまざまな場面で用いられる。本講義では、数学の基本にあたり、社会科学や情報科学など、各方面の専門科目を学ぶための基礎知識ともなる領域である統計学について、統計学の基礎や統計学に関わる諸理論について学修する。本講義を通じて、統計学における基礎的なアイデアや計算技術の習得を目指す。	
			数理と計算		本講義では、整数と確率に関する問題を題材として取り扱い、論理的思考、計算能力を身につけることを目指す。具体的には各種就職試験において出題される「数的推理」に関する問題を題材として取り扱い、演習および解説を行う。 本講義を通して、各種就職試験において出題されることの多い「数的推理」などの「問題」を正確に解答できるだけでなく、論理的思考、計算能力の獲得を通して、さまざまな学問にも役立つ数学的教養の涵養を目指す。	
			数学の世界		数学の分野の中に物事の「最適化」について考える「オペレーションズリサーチ（OR）」と呼ばれるものがある。例えば、利益を最大にするにはどうすれば良いか、またコストを最小限に止めるにはどうすれば良いか、などはORで取り扱うトピックの一つである。本講義では、最適化を考える上で最も基礎となる「線形計画(linear programming)」という問題を主に扱う。これにより、線形計画法における基礎的な概念の習得を目指す。	
			数理と論証		本講義では、数学における基本的な論証法を学ぶ。整数に関する様々な命題を材料として。通常の「数学」の授業では省略されることの多い論証の部分を中心に学修する。数学における基本的な論証法を学ぶことを通して、「場合分け」などに代表されるように、数学の世界に限らず日常生活のあらゆる場面においても有益であることを認識し、「数学」の学びに対する関心を喚起することを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	宇宙の科学Ⅰ	○	宇宙で生じる自然現象を、観測の立場から宇宙での様々な現象を考察するとともに、さらにその現象について、理論的により深く考察する。本講義を通して、宇宙で生じる自然現象についての理解を深め、テレビ・雑誌・新聞等で報道される宇宙の話題について、関心を喚起させることを目指す。さらに、自然科学に基づく現代的宇宙観を、自分自身の世界観（コスモロジー）を広げ深めるための素材に昇華できることを目指す。	主要授業科目
			宇宙の科学Ⅱ		宇宙の科学Ⅰで学んだ知識を前提とし、天体物理学、宇宙論、地球惑星科学、太陽地球環境学等から、特定の話題を講義する。現代の宇宙科学技術に立脚した、自分なりの宇宙観を確立することを目指す。また、宇宙科学分野の最先端の知見を楽しむことができ、知人と気軽に宇宙に関連する話題について語ることができるようになることを目指す。	
			地球科学のすすめ	○	我々の生きている地球はどのように形作られてきたのか、また、地球上ではどのような現象が発生しているのか、自然科学的観点から、地球の成り立ちと地球の仕組みについて解説する。また、地球上で生じる自然科学的諸現象（地震/火山噴火/台風/温泉湧出など）についてのメカニズム等についても詳しく解説する。本講義を通じて、地球科学の基礎知識をもつことができること、地球についての知識をもとに我々人類のありかたや地球環境問題を考えることができるようになることを目指す。	主要授業科目
			地球科学		私たちの生きている地球は、いったいどのような遍歴を経て、どのように現在に至ったのか？本講義では、地球に起こった出来事を時間の軸に沿って追って行く。個体地球の発達と生命の進化の関わりを解説する、またそれらをひも解く地層や化石の見方、位置づけ、生活環境などとの関係も学習し、壮大な地球と生命の歴史と現在・未来の関連性を考察する。本講義を通じて、我々人間が自然と共存し自然を理解するために、地球と生命の歴史があった上で現在の自然が存在していることを学習できるようになること、さらにはこれからの未来の自然・地球環境についても考えるきっかけを作り、それらを基本とした様々な地球科学に関係する事象について考えられるようになることを目指す。	
			物理科学の世界	○	古代から現代にかけて形成されてきた物理的世界への理解の諸段階を確認しながら、マクロ的・ミクロ的世界を考察する科学的作法を考える。具体的な物理現象を例にとりながら、物理学の原理や法則を説明することができ、また逆に様々な自然現象を物理学的に論じることができるようになることを目指す。	主要授業科目
			時間と空間の科学	○	物理学的な立場から時間と空間の概念を考える。時間と空間に対する無自覚な自分自身の常識や思考の枠組みを自覚化し、それらの概念が覆されていくさまを、アインシュタインの特殊相対性理論を中心として眺めていく。「論理的に思考する力」「問題を発見する力」を身につけ、時間と空間に関する不思議な現象について知人と語ることができるようになることを目指す。	主要授業科目
			エネルギー入門		自然科学を支える最も重要な概念のひとつである『エネルギー』。我々が直面する様々なエネルギー問題を理解するための基礎として、主として物理学的な立場からエネルギー科学の基本とその実際的応用を概説する。エネルギーについての正しい概念とエネルギー問題に対する適切な判断力を持つことができるようになることを目指す。	
			自然科学史Ⅰ	○	現代社会は近代科学の成果によって成立しているといっても過言ではない。こうした近代科学はいつ頃、どのように萌芽し発展してきたのか。古代・中世・近代・現代の自然科学の歴史を概観し、科学の発展とそれに関連する当時の社会の変化を考え、近代科学の前史、誕生、発展を考察する。近代科学の歴史的発展を具体例を交えて説明できるようになることを目指す。	主要授業科目
			自然科学史Ⅱ		自然科学史Ⅰ程度の知識を前提とし、自然科学における特定の分野のこれまでの足跡に触れながら、近代科学の歴史的発展を特定の分野の事例を交えて説明できるようになることを目指す。例えば、日本の江戸時代の科学（自然科学）を講じる場合は、科学に相当する近世までの知的営みをとりあげ、その歴史的変遷の概要をたどるとともに、自然研究の発展がそれを取り巻く文化・社会・自然状況、あるいは人間生活の営為とどのようにかかわりあうものであったかを、具体例を通じて考察する。人類が科学的な知を形成してきた歴史について関心を持つこと、近世日本における自然科学分野の発展について基礎的な知識を得ること、とくに重要と思われる歴史的事象については、経緯、背景や意義までを理解し自分のことばで説明できるようになることを目指す。	
			科学論		科学の営みを社会や文化との関わりから捉えることで、科学と私たちがどのように結びつき、そこにはいかなる問題が潜んでいるのか、そして科学はどうあるべきなのかを考察することを目的とする。具体的例としては、医療やバイオテクノロジーなどの現代的問題を題材にとりあげ、科学と社会の関係性について問い直すことを通し、科学に対する理解を深め、責任ある市民として科学とどのように向き合うべきかを考察し、科学について幅広い観点から理解を深め、科学を適切に判断するリテラシーの涵養を目指す。	
			技術論		技術は科学と結びつき、現代社会に必要不可欠な存在となっている。技術と科学が融合した科学技術は現代および未来の社会にとって魅力ある点を多く備えるが、過剰に利便性を追求するスマートデバイスの開発を牽引する科学技術、生命誕生や長寿に過度に関与する科学技術、軍事兵器の開発や増大に深く関与する科学技術などに目を向けるならば、それらの存在が私たちの社会に良好なものだけをもたらすとは必ずしも言えない。こうした科学技術の発展をこれまでの歴史を通して確認し、かつ科学技術の多面性を種々の事例を通して見て取り、各事例に対する考察や議論を行う。歴史的事例を通じて、現代社会における技術の意義や多面性について自らの見解を論じることができることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	平和学B		科学技術という観点から「平和」を考える。科学技術が現代社会の今後を左右する巨大な力をもつゆえに、私たちはそれらをとりまく様々な可能性に注視する必要がある。科学技術の発展は、主に企業・国・大学の研究機関によって担われてきているが、これらの諸機関が軍事研究に関与する場合、科学技術の発展が直接的もしくは間接的に平和維持に反する事象に利用される可能性がある。これまでの世界と日本の過去の関連事例を振り返り、科学技術・戦争・平和の関係について考察する。科学技術の観点から、平和を維持する、もしくは破壊するメカニズムを具体的に論じること、平和という視点にもとづく科学技術の発展の過去・現在・未来を自らの見解を交えて論じることを目指す。	
			里山学		龍谷大学は2001年に、絶滅危惧種のオオタカの棲む瀬田学舎隣接地の里山（38ha）の大規模造成をやめ、里山を活用した新たな教育・研究と地域社会との連携にむけて動き始めた。以来この里山は「龍谷の森」と呼ばれるようになり、2004-08年には、「里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター」を、2009年からは「里山学研究センター」を開設し、生物多様性・環境計測調査、社会人文科学・地域共生学調査研究により里山の総合研究を行っている。本講座は、それらの研究成果の公開の場でもあり、現場からの声を聴くことで理解を深めることを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （26　牛尾　洋也／1回） 里山の開発の歴史と今日の課題について概説する。 （85　宮浦　富保／1回） 里山の歴史と現状について概説する。 （113　谷垣　岳人／1回） 昆虫と里山について概説する。 （114　丹野　研一／9回） 里山学全般の実習及び総括を行うとともに、里地里山と農業、「里山」という問題、「龍谷の森」を守ること、瀬田地域の里山の歴史、花粉で探る過去の里山環境、農業生産、料理で結ばれる里山と都市、持続可能な新しい企業モデルの実践にかかる講義を行う。 （115　椿原　敦子／1回） 里山とグローバル化について概説する。 （161　上西　実／1回） 伏見稲荷大社で見られる野生動物について概説する。 （278　高柳　敦／1回） 人々の暮らしと野生動物について概説する。	オムニバス方式
			生物科学のすすめ	○	本講義は、本学における生物系講義のなかでも主としてマクロレベル（個体レベル）の生物科学をあつかう。我々をとりまいている生物の世界がどのように形成されてきたのかについて、最近の進化学の立場から解説する。さらに遺伝や人体、環境をふくめた私たちの生活にかかわる生物学を解説し、環境問題・自然保護などに関する実例についても取りあげる。本講義を通じて、生物の多様性と特性を理解し、現在残されている自然を守るための基礎知識を身につけることを目指す。	主要授業科目
			生命科学のすすめ	○	本講義は、本学における生物系講義のなかでも主としてミクロレベル、すなわち細胞や遺伝子など分子レベルの生物科学を取りあつかう。DNA、RNA、タンパク質のはたらきによって、細胞の機能ひいては個体の形や特性がどのように影響を受けるのかといった、細胞生物の規則性を学ぶ。生命科学の視点から様々な学問分野の内容に触れることで、新聞の科学記事が難なく理解できるような基礎知識を習得し、細胞や体内で起こる事象への理解を目指す。 （420　和田　七夕子／全15回） 生命科学の基礎について概説する。主に、生物分類と系統、生命の起源と代謝をはじめ、細胞やウイルス、シグナル伝達、生命の基本単位である細胞とその構成成分、タンパク質の構造と機能、遺伝子をテーマに講義を行う。 （オムニバス方式／全15回） （229　河本　恭子／7回） 生命科学の基礎について概説する。主に、生物分類と系統、生命の起源と代謝をはじめ、細胞やウイルス、シグナル伝達をテーマに講義を行う。 （420　和田　七夕子／全8回） 生命科学の基礎について概説する。主に、生命の基本単位である細胞とその構成成分、タンパク質の構造と機能、遺伝子をテーマに講義を行う。	オムニバス方式 主要授業科目
			生命科学		本講義では、生物学の基礎を復習しながら、特にヒト（自分自身）に関わる生命現象を学ぶ。生命科学関係のニュースが理解できる。自分が生物であり、他の生物も含めたシステムの一部であるという視点を持つことを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	生態学のすすめ	○	生物は、周囲の環境の影響を受け、また周囲の環境にさまざまな影響を与えながら生きている。この生物と環境との関係を明らかにするのが生態学である。私たち人間もこの生態系の構成メンバーの一員であり、生態系からさまざまな恩恵を受けている。本講義では、身近な生き物を例として、生態学の基本的な概念や生態系の機能と環境問題との関連について考える。生態系の現状を知り、生物多様性を保全する取り組みについて理解できることを目標とする。	主要授業科目
			人類学のすすめ	○	本講義では、人間の生物学的な側面に注目し、ヒト以外の霊長類も含めた視点から、その進化の過程を概説する。まずヒト以外の霊長類の進化と適応について学ぶことにより、人類が誕生した背景について理解を深める。内容としては、霊長類の分類や系統、形態的特徴とその機能的意義、進化史、古環境などを取り上げる。ついで、人類の起源とその進化について述べる。主に化石人類を対象とし、現在知られている最古の人類化石から現代人に至る数百万年にわたる進化の道筋を見ていくことで、人類進化に関する基礎的な知識を身につけることを目指す。	主要授業科目
			日本の自然		日本列島の形成やプレートテクトニクス、大気・水環境等の地球環境の背景から、植物・昆虫、水生生物・鳥類・哺乳類など、多角的な視点から日本列島の自然と人間活動による環境破壊、そして自然再生・生態修復の現在を紹介する。さらにフィールドワークを通じて日本の自然への学びを深める。日本の自然が多角的に理解できるようになることを目指す。 （オムニバス方式／全30回） （113　谷垣　岳人／3回） 身近な自然である里山の昆虫相について解説する。 （133　山田　誠／2回） 身近にある温泉について、地球の仕組みの視点から解説する。 （161　上西　実／8回） 日本の川や湖など淡水域に生息する水生生物について、その生態的特徴や分布について解説する。 （189　梶田　学／3回） 鳥類の基本的な特徴（生態や形態）について概説するとともに、身近な野鳥の生活を紹介し、それを通して鳥類の中にある多様性やその進化、人との関わりなどについて解説する。 （269　須藤　明子／3回） 日本の生物多様性の危機と保全について解説する。また、野生動物と人の共存における現状と課題について、具体例を挙げて、最新情報を紹介する。 （300　鶴田　健二／3回） 日本の植生分布を概説し、主に森林についてその変遷と機能を解説する。また、気候変動や林業などの人間活動が森林に及ぼす影響についても紹介する。 （309　内藤　陽子／3回） 地球全体の気候システムにも視野を広げ、その一部である日本の気象の特徴を解説する。 （377　三上　禎次／5回） 日本列島の形成やプレートテクトニクスなどをもとに地質分野の日本の自然を解説する。また日本における火山・地震などの災害と防災についても触れる。	オムニバス方式
			生命誌		「生命誌」は、46億年という長い地球の歴史と共に歩んできた生命の誕生と進化をたどる、旅のような学問分野である。自分が今ここにいられるのはなぜか？自分とは何か？生命とは何か？そして、生きるとはどういう事なのか？本講義では、地球と生命の歴史を学びながら、今ここに在る自分へとつながる壮大なドラマを紹介する。生命の誕生と進化について理解し、自分とは何かを意識し、周辺環境も併せて持続可能な社会を作っていける知識を身に付けることを目標とする。	
			植物の自然誌		本講義では、私たちの暮らしをとりまく植物ワールドについて、文・理の別なく多角的視点から紹介する。植物とはどういうものなのかについて、歴史文化・栽培技術・進化分類・生長生理・食農といった多岐にわたる視点から理解を深める。身近な植物を多くとりあげて解説し、科学的に深く理解することで、より充実した世界観を身につけることを目標とする。	
			動物の自然誌		地球上には多種多様な生物が、様々な環境に生息する。本講義では、生態系の仕組みとともに、動物がどのような生活形態を持ち、そこでどのような行動が見られるのか、解説する。その上で、絶滅が危惧される動物に対して私たちの生活が与える影響についても実例を取り上げて紹介し、保全のためにどのような対策が取られているのかについて学ぶ。動物に見られる、社会・行動・生態などについての基礎的知識を得ること。また、これらの知識を実生活に関連付けられることを目標とする。	
			民族の自然誌		人々は自然をいかにとらえ、利用し、ときに対峙してきたのだろうか？人と自然との関わりを理解するには、さまざまな学問領域を横断する総合的な観点が必要である。本講義では、さまざまな実体験、説明や文献を用いながら、民族自然誌とその周辺領域（自然史や生態学）における基礎的な理論および知見、ならびにそれらと人びとの生活・地域社会との関係を取り扱う。本講義を通じて、民族自然誌の観点から文化・社会および自然を理解する力が向上することを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	人類進化学		本講義では、ヒトになる（ホミニゼーション）とはどういうことかをテーマとして、進化のしくみ、霊長類や人類の特徴と進化史を概観したのち、ヒトを特徴付けるさまざまなトピックを取り上げて、その進化について論ずる。本講義を通じて、私たち現生人類がもつ様々な身体的、社会的特徴が、進化の過程で、いつ、どのように獲得されてきたのか理解する。	
			人間の生物学Ⅰ		わたしたち人間のからだは、生物として環境に適応する進化の過程でつくられてきた。本講義では、人間の解剖学的特徴のうち、筋肉や骨格、内臓の構造や機能について学修する。本講義を通じて、人体の構造と機能について、進化の観点も交えながら理解を深めることを目指す。	
			人間の生物学Ⅱ		生物は、この世界に生れ落ち、成長し、子孫を残すために競争し、うまく生き抜いたものも、やがて年老いて、いつかは死んでいく。本講義では、人間の生物学的側面のうち、外界の情報を受け取ったり、外界からの侵入者を防御する仕組みや、次世代を残すための生殖、成長や老化、死などについて学ぶ。本講義を通じて、人体の構造と機能について、進化の観点も交えながら理解を深めることを目指す。	
			自然誌実習		身近な自然や生き物の観察を通して、「人間と自然との関わり合い」「森林や河川における生態」「地質からみる大地の歴史」をテーマに、野外での臨地講義や実習室での室内実習を行い、自然環境や生き物の生態などへの理解を深めることを目指す。 （オムニバス方式／全30回） 前期開講分 （114　丹野　研一／4回） 稲荷山の照葉樹林と龍谷の森の落葉広葉樹林を観察して、我々をとりまく植物や環境について理解する。 （133　山田　誠／6回） 河川の発生する最初の現象を実際に見ることで、我々が利用している淡水の循環について学ぶ。あわせて、水の簡易調査の様子を見ることで、天然水の水質についての理解を深める。 （161　上西　実／14回） 森林や河川・水田には多種多様な生物が生息している。この実習では実際に目にすることができる生物を観察し、その形態・生態，そしてその他の生物や環境との関わり合いについて理解を深める。 （377　三上　禎次／6回） 身近な自然の中に大地の歴史が刻まれていることを野外観察から理解を深める。 後期開講分 （37　國松　豊／30回） 本講義では、キャンパスから始まって、京都周辺の自然を自分の足で歩き、京都という土地の成り立ちについて実地に体感する。同時に、京都の自然に抱かれた神社仏閣などの文化遺産に触れ、土地の自然環境とその文化との関わりについて考える機会も提供する。また、生物の変異やからだの構造についても学習する。自分たちの暮らす土地の成り立ちや自然環境について理解する素養を養う。	オムニバス方式
			野外観察法		身近な自然生態系（森・川など）、生物（植物・動物等）などの観察と講義により、自然と触れ合う手ほどきをする。自然観察をとおして、自然の構造、また人間活動と自然との関わりを体得し、自然環境保全の手がかりをつかむ。	
			環境学	○	現在、地球上で顕在化している環境問題を広く知り、その原因や影響を探り、どのような対策が行なわれているのかを考えさせる講義。２つのテーマで講義は展開し、一方は、地球の環境問題において切っても切り離せない地球の仕組みの理解を深めることに重点を置き、地球の成り立ちから、大気・水などの循環の仕組み、過去から現在までの地球環境の変遷など、地球環境システムを自然科学の観点から解説するとともに、種々の環境問題を取り上げ、自然科学の観点からそれらの問題について考察する。もう一方は、地球温暖化を中心とした地球環境問題への国内外の取組・対策を取り上げる。地球環境問題に対し、国際社会はどのように対処してきたのか、1970年代から現在に至るまでの経緯を辿るとともに、その解決を目指した取組の成果と課題を概観する。顕在化している環境問題を広く理解し、どのように対策を立てていくべきかを考えることができるようになることを目標とする。	主要授業科目
			情報科学入門	○	コンピュータを単なる道具として使うだけでなく、そのしくみや基本となる概念を学ぶことで、有益な道具として利用可能となる。講義形式で、コンピュータの成り立ちからコンピュータやネットワークの仕組みまでを学ぶ。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	情報科学Ⅰ		情報化社会という言葉が使われるようになってからずいぶん時が過ぎた。今ではあまり聞かなくなったものの、情報化社会がなくなったわけではなく、ますます社会の情報化は進んでいる。特にインターネットに代表される情報通信の分野での発展には目を見張るものがある。ちょっと前まで携帯電話だったものが、今はスマホへと姿を変え、より安易に使えるようになった。 しかし多くの人が、それをただ利用するだけで、その仕組みを知ろうとはしない。そのためITがあれば何でも出来るという幻想をいだいている人も多いように思う。実際には、できることできないことがあり、便利な面も危険な面も持っている。それらを踏まえて付き合っていくことが大切だ。本講義では、コンピュータや情報通信の仕組みを理解し、それらの限界を知ることを目的とする。その上で、現状の利用法に改良を加えたり、新たな活用法を工夫するのに役立るための知識習得をめざす。	
			情報科学Ⅱ		本講義では、コンピュータがどのように作られているか、またコンピュータに残された課題とは何か、といったことについて簡潔に解説し、さらに最先端の研究にふれることで、今後のコンピュータの可能性とその問題点について考える。またProlog・Lisp等の人工知能言語といわれるものを通してその一端をうかがい知る。コンピュータの理論面を知ることで、「コンピュータは万能である」という幻想を捨てて、常に限界をかかえるコンピュータの実像について知る。	
			情報科学実習		コンピュータのしくみを理解するために、簡単なプログラミングの実習を行なう。ここでは、まず逐次実行型のコンピュータを理解する。その上で、イベント駆動型などのプログラミングにも触れて、GUIを用いたより実践的なプログラミング技術も習得する。	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ		近年、急速なテクノロジーの発展や社会情勢の変化に伴う心身の不調など、現代社会がもたらす健康問題の解決策として、心身の健康に関する教育の充実や生涯にわたるスポーツライフの実現の重要性が唱えられている。他方、健康づくりには「運動」と「栄養」、「休養」の三要素が重要であり、これら三要素の質と量などの内容に加え、それぞれの相互の関係により、生体や精神面への効果が異なる。 本講義では、健康およびスポーツ科学の観点から、生涯にわたる心身の健康の保持増進に関わる知見について、日常生活の中で実践し得る基礎理論から概説する。特に、生活習慣病などの身体的な健康問題や精神的な健康問題とスポーツとの関わりを解説することを通して、生涯にわたるスポーツライフを構築するための具体的方策について検討する。	
			現代社会とスポーツ		スポーツは、現代社会において極めて重要な社会現象となっている。私たちは、日常生活の中で遊びや気晴らしとして、レクリエーションとして、競技として、教材として、商品として等、様々なかたちでスポーツと関わっている。本講義では、身の回りで日常的に起こっているスポーツ諸事象の中から、スポーツと社会との関係を知る上での基本的なトピックや「問題点」を選び、スポーツの社会的機能や意義、役割について検討を行う。これにより、スポーツの諸事象における課題について、社会との関わりを考えながらとらえ多角的に考察できること、また、自分のスポーツ実践や観戦なども含めて現代社会とスポーツとの関係を認識し、スポーツを通してよりよい社会を築いていくことに貢献しようとする意欲を持つことを目指す。	
			スポーツ技術学演習	○	スポーツは、「人間の発達」や「人間の可能性」について考え、経験できる活動であり、本演習はこれらを学ぶ唯一の科目である。演習で開設している７種目（テニス・バドミントン・バスケットボール・バレーボール・卓球・フットサル・フィットネス）の中から１種目を選択し、半期間履修することを通して、受講者自らが個人あるいはチームの課題を発見し、それを解決する方法を理論と実践を通して身につける。また、スポーツを科学的に分析し、実践・応用できる能力や人間の発達、可能性について考察できる素養を身につけるとともに、他者との共同作業を行うことを通して、コミュニケーション能力を身に付けることを目指す。	主要授業科目
			人間とスポーツ		スポーツは、これまでの身体活動、すなわち「実践する」他に、「みる」、「支える」、「企画する」など、そのとらえ方が広く拡大、多様化し、パラダイム変換する中で、近年では、健康づくり政策と経済効果、地域の活性化などスポーツのもたらす効果に対する期待が高まっている。本講義では、「競技スポーツ」のみならず、「生涯スポーツ」としてのスポーツについて、発育発達期から成熟期、また中高年期までのライフステージに応じた効果的な運動（スポーツ）と関りについて考察する。また、障がいスポーツや女性スポーツの他、近年、スポーツ界で生じているいじめや暴力、ハラスメントなど、様々な問題、課題等について、スポーツを多角的な視点から考えることで、生涯にわたるスポーツとの関わり方について考える。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	スポーツ科学系科目	スポーツと人権・平和		スポーツは社会に対して大きな影響力を持っているため、スポーツにおける人権侵害や不祥事は、我々に対して、現代社会の問題点を鮮やかに浮き彫りにする。一方で、スポーツにおける先進的取り組みや平和への呼びかけは、その影響力ゆえに、社会を変革するきっかけにもなり得る。 本講義では、スポーツとは何か、スポーツと人権はどのような関係にあるか、スポーツと平和はどのような関係にあるかについて、歴史を踏まえた上で、具体的な事例を通して考察する。スポーツと人権というテーマでは、スポーツ界における人権侵害とその保障、平等の実現という側面と、スポーツによる（スポーツを利用した）人権の擁護という側面の二つの側面から検討する。スポーツと平和というテーマでは、スポーツが平和な国際社会の実現においてどのような意味をもつかを考察する。	
			スポーツ文化史		本講義では、それぞれの時代や社会でスポーツその他の身体文化がどのように位置づけられてきたかについて、国家、権力、階級、植民地主義、経済、教育、民族、宗教・儀礼、マスメディア、ジェンダー、グローバリズムなどとの関わりを視野に入れながら考える。文化論的な観点からスポーツを考察しようとする場合、そこに盛り込まれている意味を読み取ることは、重要な作業である。このような観点から、スポーツをめぐる表象分析のための手がかりとしてスポーツ記事やスポーツ映画などを適宜取り上げる。スポーツという文化を通じて人間・社会への洞察を深め、それぞれのスポーツ現象がどのような社会的基盤のもとに表出しているのかについて論じられるようになることを目指す。	
			スポーツ科学最前線		本講義では、スポーツ科学が何のために、何を研究の対象として、またどんな研究方法で研究がおこなわれているのか、そして、これまでどのようなことが明らかにされているのか、さらにスポーツ科学の今後の課題や展望は何か、これらのことについて広く浅く出来るだけわかりやすく具体的実例を交えておもしろく紹介する。トップアスリートを含めたパフォーマンス向上のための競技スポーツにおいて、今日どのような科学的成果が取り入れられ、またどのような研究手法がとられているか、それらが一般人のスポーツパフォーマンス向上にどのように役立てることができるのかも含め、さまざまな角度から具体的事例をあげて紹介する。スポーツのパフォーマンス分析やトレーニング方法について、より科学的な見方･考え方ができるようになり、スポーツ科学を実践に取り入れる必要性とその方法についての理解を深めることを目標とする。	
	教養科目		教養教育科目特別講義		（概要）キャリア形成に関連する現代社会における諸課題や、それらを取り巻く状況を、労働、人権、法律、DX、グローバルなどの様々な視点から学び、社会および自己への理解を深める。また、社会への理解を深めるとともに自身のキャリアを考え、キャリアプランニング（人生設計）を実践できる力を醸成する。さらに、低年次生向けキャリア教育プログラムや3年次生以上向けのインターンシップへの参加の動機づけのひとつとなる科目として位置付ける。 （オムニバス方式／全15回） （9　秋庭　太／1回） キャリア形成と業界研究について学ぶ。 （30　奥野　恒久／1回） 働くことを人権の視点から考える。 （52　瀧本　眞人／7回） キャリアの描き方、キャリア形成とアセスメント、社会で求められる資質・能力、グローバルの視点から働くことについて考える。 （54　武井　寛／1回） 働くことを労働法の視点から考える （102　川中　大輔／1回） 働くことを社会起業の視点から考える。 （107　小正　浩徳／1回） 働くことを心理学から考える。 （124　野呂　靖／1回） 「建学の精神」・自校史とキャリアについて学ぶ。 （196　金子　あき子／1回） 働くことを食や農のマーケティングの視点で考える。 （421　佐野　彰／1回） 働くことをDXの視点から考える	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要 （経営学部商学科）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	English language（Ryukoku Intercultural Program）		語学（英語）・講義（アメリカ文化）・ボランティア活動（ボランティア活動を通じた語学運用能力と、異文化理解）を組み合わせた海外研修プログラムの語学科目。このプログラムは主に初年次生を対象とし、本学での授業を受講の後、カリフォルニアのバークレーで主にオーラルコミュニケーション能力の向上を目的とした現地の英語プログラムに参加する。	
		Lecture（Ryukoku Intercultural Program）		語学（英語）・講義（アメリカ文化）・ボランティア活動（ボランティア活動を通じた語学運用能力と、異文化理解）を組み合わせた海外研修プログラムの講義科目。このプラグラムは主に初年次生を対象とし、本学での授業を受講の後、カリフォルニアのバークレーにある学生交換協定校による 「Introduction to Contemporary American Society」「Cultural Diversity in American Society and Religion」を英語で受講し、アメリカ社会の現状と多文化共生を理解する。	
		Volunteer（Ryukoku Intercultural Program）		語学（英語）・講義（アメリカ文化）・ボランティア活動（ボランティア活動を通じた語学運用能力と、異文化理解）を組み合わせた海外研修プログラムのボランティア活動科目。このプラグラムは主に初年次生を対象とし、本学での授業を受講の後、カリフォルニアのバークレー地域の小学校、老人福祉施設等でボランティア活動を行い、その活動記録をまとめるとともに英語による最終プレゼンテーションを行う。米国でのボランティアを通して、コミュニティに対する意識を高めるとともに、英語運用能力を高めることを目的とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	基礎科目	情報リテラシー	○	大学における学修に最低限必要とされる以下の4点の情報活用技術を身につけることを目指す。 (1)コンピュータを活用するための基本的なスキルを身につけることができる (2)ワープロソフトを利用して、レポート作成時に必要な機能を修得し、文書のレイアウトや書式を整えることができる (3)表計算ソフトの基本操作・関数を用いてデータを集計表にまとめ、適切なグラフを作成、編集することができる (4) プレゼンテーションソフトを利用して、プレゼンを想定した資料を作成することができる 本科目は、多様な人びととの対話を通じて、共創の基盤となるコミュニケーション能力を身につける科目として位置づける。	主要授業科目
		社会調査入門	○	社会の諸課題の発見・探求・把握、社会の諸課題の解決の仕組みの効果測定など、社会的リアリティに実証的に迫るための方法としての社会調査について、その意義や目的、データを収集・分析しレポートとしてまとめる一連のプロセスの基礎を学ぶ。前半は、質的調査のひとつであるインタビュー調査について、実際に受講生各自がインタビュー調査を実施し、インタビューレポートを作成することで、その基礎を実践的に学ぶ。後半は、質問紙を用いた統計調査（いわゆるアンケート調査）を中心にその基礎を学びつつ、実際にシンプルな調査を企画・実施し、収集したデータの基礎的な分析、調査レポートの書き方について学ぶ。 本科目は、歴史的経緯や地域の多様性を踏まえ、社会の諸課題を実証的に把握する技能を身につける科目として位置づける。	主要授業科目
		ベーシックアカウンティングⅠ	○	会計の体系を理論と実践で学ぶ。企業経営における会計の目的や役割を理解するとともに、その全体的しくみを、損益計算書(PL)・貸借対照表(BS)・キャッシュフロー計算書(CS)における諸勘定科目への具体的な記帳を通して学ぶ。また、各種の会計情報が、企業経営の中で具体的にどのような場面でどのように活用されるのかについての理解を深める。 本科目は、事業創造に関連する知識を幅広く多面的に身につける科目として位置づける。	主要授業科目
		ベーシックマーケティング	○	マーケティングは、企業の主要な活動の一つであり、企業が自社の提供する製品やサービスを市場に受け入れてもらうための様々な施策や仕組みのことを指す。本科目はマーケティングの入門科目として、その活動や基本的な考え方、フレームワークの習得を目的に、環境の分析、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、マーケティング・ミックスであるプロダクト戦略、価格戦略、流通チャネル戦略、プロモーション戦略について学ぶ。 本科目は、マーケティングに関連する知識を幅広く多面的に身につける科目として位置づける。	主要授業科目
		ビジネスケーススタディA	○	経営学初学者向けにニュースや具体的な事例を中心に取り上げ、ビジネスについての興味関心を高めるとともに基礎的な知識の習得を目指す。我々の日常にはグローバルレベルで成功している高度なビジネスが存在しているがその仕組を意識することは少ない。しかし、そのディティールを理解する事ができれば、日常生活そのものを題材としてビジネスについての知識を深めることが可能となる。よって、最新のスタートアップと、確立されたグローバルビジネスの両方をバランスよく取り上げることを重視する。 本科目は、事業創造やマーケティングに関連する知識を幅広く多面的に身につける科目として位置づける。	主要授業科目
		ビジネスケーススタディB	○	経営学を学ぶ初年時の学生を対象とした、「企業経営」の入門的な科目である。さまざまな企業のケーススタディを通して、多様な企業経営のあり方を知るとともに、自分自身はどのような企業に興味があるのか、また企業経営のどのような側面に関心があるのかなど、自己理解を深めることを目的とする。とりわけビジネスケーススタディBでは、地域経済を支えるスモールビジネスやコミュニティビジネス、SDGsを中心とした社会課題の解決を目指すソーシャルビジネス等を取り上げ、現代のビジネスにおける新潮流を理解することを目指す。 本科目は、事業創造やマーケティングに関連する知識を幅広く多面的に身につける科目として位置づける。	主要授業科目
		プロジェクト入門	○	市場における商流、物流、情報流について実践的に学ぶことを目的とし、実際にマーケットの企画と販売にプロジェクトとして４～６人のグループごとに取り組む。プロジェクトを通じて市場分析、商品調達、価格設定、需要予測、ヴィジュアルマーチャンダイジング（VMS）、人員配置、在庫管理といった一連の商業活動について理解を深める。 本科目は、社会の諸課題の解決につながる新しいアイディアを主体的に生み出し、かたちにする科目として位置づける。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	基礎科目	キャリア＆ライフマネジメント	○	（概要）就職活動やキャリア教育にとどまらない、ライフマネジメント全般についての理解を深めることを目的とする。この講義は大きく2つのパートで構成される。 本科目は、多様な人びととの対話を通じて、共創の基盤となるコミュニケーション能力を身につける科目として位置づける。 ＜オムニバス方式／全15回＞ ＜9　秋庭　太／7回＞ 第一のパートは医療、保険、年金、資産管理、家族などの基礎的知識を習得し、キャリア全体についての関心を高めるとともに、周囲の人を守るための社会的技術を習得することを目指す。 ＜13　眞鍋　邦大／8回＞ 第二のパートでは、前半の講義を踏まえ、自身の興味関心とキャリアの関係について理解を深めるとともに、自己実現に向けてのゼミ選択のあり方について学ぶ。	オムニバス方式 主要授業科目
		社会調査実践	○	社会の諸課題の発見・探求・把握、解決策に対する効果測定など、社会的リアリティへアプローチする基礎的な方法について、実践を通して学ぶ。経済的な現象、その背景や基盤ともなる社会的な現象、それらが展開するフィールドなどを設定した上で、リサーチ・デザインとそれに基づく取り組みを行う。あわせて、実践と知識とを往還しながら思考・判断する必要性に気づき、社会の諸課題の発見等に資する基礎的な力を身につけることを目指す。 本科目は、実践と知識を往還しながら思考・判断することで、自ら社会の諸課題を発見・探求する科目として位置づける。	主要授業科目
		フレッシャーズゼミ	○	高校までとは異なる主体的な学修への転換を目的とする大学入門ゼミ。全クラス共通の内容で行う。読み・書き・プレゼン・ディベートといった大学で必要なスキルの基礎を学ぶ。また、教養とは何か、講義と演習の違い、商学科のカリキュラム体系などを知ることで、商学科の4年間で何を学べるかを理解するとともに、大学というものの社会的意義や各々の人生における意味を考えることで、これからの大学生活を充実したものとするための動機づけをはかる。 本科目は、多様な人びととの対話を通じて、共創の基盤となるコミュニケーション能力を身につける科目として位置づける。	主要授業科目
		アカデミックスキルズA	○	フレッシャーズゼミで学んだアカデミックスキルの基礎を発展させ、それをしっかりと身につけるための科目。全クラス共通の内容で行う。問いの立て方、文献やデータベースの調べ方、文献の読み方、アカデミックな文章の書き方、レジュメの作成方法、自らの主張を分かりやすく伝えるプレゼンテーションの仕方、他人の主張への質問・反論の仕方などを学ぶ。特に、自ら問いを立て調べるというインプットの仕方を重点的に学ぶとともに、アカデミックな文章の形式面（文体・注の付け方・文献情報の記し方など）について反復練習することで使いこなせるようにする。 本科目は、多様な人びととの対話を通じて、共創の基盤となるコミュニケーション能力を身につける科目として位置づける。	主要授業科目
		アカデミックスキルズB	○	アカデミックスキルズAの内容を発展させ、さらにそれをしっかりと身につけるための科目。全クラス共通の内容で行う。問いの立て方、文献やデータベースの調べ方、文献の読み方、アカデミックな文章の書き方、レジュメの作成方法、自らの主張を分かりやすく伝えるプレゼンテーションの仕方、他人の主張への質問・反論の仕方などを学ぶ。特に、クリティカル・シンキングを学ぶことで、レポートやプレゼンテーションで自らの主張を論理的に展開することや、他人の主張に対して有効な質問や反論をするといった、アウトプットの仕方を重点的に学び、身につけることを目指す。 本科目は、多様な人びととの対話を通じて、共創の基盤となるコミュニケーション能力を身につける科目として位置づける。	主要授業科目
	専門科目	ベーシックアカウンティングⅡ		「ベーシックアカウンティングⅠ」で得た知識をもとに本科目では企業経営において必要となる会計について実践的に学ぶ。具体的には、事業創造や企業経営において必要となる決算書の作成や融資、税務について取り扱う。また、企業経営者の財産管理や相続税対策、事業承継、個人事業主の税務処理など会計の実務的側面を取り上げ、講義と実習を通じて理解を深める。 本科目は、事業創造に関連する知識を幅広く多面的に身につける科目として位置づける。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目	流通システム論		流通とは、生産と消費の間に横たわる様々なギャップを埋める活動・機能である。それを本業として行うのが流通業であり、個人（最終消費者）を顧客とする（B2C）の小売業と組織（最終消費者以外）を顧客とする（B2B）の卸売業に分かれる。本科目では、流通に関わる現象と流通業の行動を取り上げ、理論的に解説する。中でも、近年の流通において鍵となる小売段階のデジタル化について重点的に取り上げ、今日的な課題について考える。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		ビジネスヒストリー入門		現在のビジネス、それらの実践的な学びに大きな関心を寄せている学生に対して、そこから少し距離をおいてみることの大切さを実感してもらうことを第一に目指す。ビジネスの歴史を学ぶ必要はあるのか、どうすればビジネスの歴史に関心が抱くことができようになるのかを、まず十分に時間をかけて講義する。そのうえでビジネスヒストリーA、Bを聴講するための予備的な知識、年配の人たちにとっては普通の用語であるが、若い人にとっては歴史用語になっているものを中心に講義する。 本科目は、歴史的経緯や地域の多様性を踏まえ、社会の諸課題を実証的に把握する技能を身につける科目として位置づける。	
		グローバルビジネスの基礎		まず、企業経営を把握するための基礎理論を学び、経営学の歴史的な展開を見ていく。その際にフォードやジーメンスなどの欧米の代表的な企業を取り上げてその特徴を解説することで、比較の視点から日本企業の経営管理の理解をめざす。そのうえで、今日のグローバル化する企業経営（ビジネスとマネジメント）の特徴とその課題について考える。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		ワークルール入門		企業はわたしたちの生活に必要な財やサービスを生み出すとともに、働く（そして、賃金を得る）場所を提供している。このような意味で、企業はわたしたちの生活にとって不可欠な存在である。本科目では、とりわけ雇用・労働の問題に焦点をあてて、「ワーク・ルール」（＝働く際に知っておくべき法律等）を学んでいきたい。それは、学生時代に経験することが多いアルバイトにとっても必要な知識である。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		プロジェクト実践		本科目では，グループごとに調査テーマを設定し，そのテーマに取り組む特徴的な企業や事業者を調査・取材し，収集した情報をもとにブックレットの編纂に取り組む。これらの実践を通じて、フレッシャーズゼミおよびアカデミックスキルズで習得した情報収集力や文章表現力の定着を図るとともに、プロジェクトの進め方について体験的に学ぶことを目的とする。 本科目は、実践と知識を往還しながら思考・判断することで、自ら社会の諸課題を発見・探求する科目として位置づける。	共同
		マーケティングリサーチ		ベーシックマーケティングの学びを踏まえ、本科目ではマーケティングリサーチの考え方やフレームワークを学ぶとともに、その手法として定性的、定量的調査方法および分析方法を学ぶ。講義内容に対する理解を深めるため、グループ毎に調査課題を設定し、その調査課題に応じた情報収集、分析、プレゼンテーションを行う。 本科目は、実践と知識を往還しながら思考・判断することで、自ら社会の諸課題を発見・探求する科目として位置づける。 ＜オムニバス方式／全15回＞ ＜7　藤岡　章子／1回＞ プレゼンテーションについて取り扱う。 ＜286　田中　祥司／14回＞ 課題設定、インタビュー項目作成、インタビュー実践、質的データ分析、仮説設定、尺度項目検討、データ分析について取り扱う。	オムニバス方式
		コンテンツビジネス実践Ⅰ		本科目では、放送というメディアが視聴者に情報を発信するプロセスを整理・検証して、多角的な講義を行う。放送という基幹メディアにはジャーナリズムという機能が求められ、政治や行政の動きをチェックし監視する使命を有している。こうしたメディアの実相を正しく認識することが現代社会を理解する入口である。具体的な事例を用いて現代における放送の社会的役割と課題を解説し、情報を読み解く力を育てていく。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目	起業家行動論		不確実性が高く、環境変化が大きなグローバル経済において必要不可欠な役割を果たす起業家について、それぞれの立場から理解を深めることを主目的とする。社会的文脈によるが起業家として行動することは誰しもに勧められることではない。しかし、その特性や役割を社会全体が理解することはその社会の問題解決を広く推進することにつながる可能性が高い。起業家の報酬や、組織と起業家の関係、非営利分野などにおける起業家など、これまで蓄積されてきた起業家についての学術研究と事例を広く取り扱う。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		企業システム論		企業は事業を経営する主体である。企業には多様な形態があり、代表的なのが株式会社である（他には、合名会社、合資会社、合同会社、協同組合などがある）。株式会社は資本主義企業形態のうちで最も発展した形態とされている。本科目では、株式会社を中心とする企業の基本的な仕組みについて学んでいく。企業の所有・支配・統治と企業間の関係について学ぶことを通じて、現代社会における企業の影響力について理解していきたい。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		マーケティング論		マーケティングとは、企業をはじめとする様々な組織体が、自らの市場の創造、維持、拡大を目指して実施する一連の対市場活動である。本科目では、近年になって研究の進展が著しいブランド・マネジメントやサービス・マーケティング、グローバル・マーケティングなど、入門的なマーケティング科目では十分には取り上げられていない分野に焦点をあて、マーケティング的視野の拡大とその体系的理解を深めることを目的とする。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		消費者問題論		企業・経営の活動は、消費者（ないしは顧客）に対して財やサービスを提供する。したがって、学生も当事者（消費者）であるという観点も必要となる。学生も日常的に企業によって提供される財やサービスを購入しているからだ。本科目では、将来も見すえて、学生時代から消費者としての権利と責任を学んでいく。実際に学生がさまざまなトラブルに巻き込まれている事態も生じており、消費者教育は、大学においても課題となっている。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	共同
		グローバルビジネス		グローバルビジネスの主な担い手である多国籍企業は、多様な労働者のみならず、その母国、受入国の多様な利害関係者との複雑な関係をも包摂する。この企業内部のグローバル化に適応した管理方式がさらに国境を越えて外部に働きかけることによってグローバルビジネスはさらに深化していく。このような企業のグローバル化とそのビジネス活動の理解をめざす。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		ビジネスヒストリーA		現在のビジネスや、そこでの常識が、いつ、どこで、何をきっかけに、どのようにして形成されてきたのかについて、単なる論理だけを紹介するのではなく、具体的な歴史的事象とともに講義する。なお、今のビジネスやその世界での常識が主に外国・世界で形成されてきたため、外国のビジネスヒストリー、国際比較・国際関係の視点からのビジネスヒストリー等を中心に講義する。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		経営立地論		空間的な広がりのなか、どこで経済的な活動や事業を展開すれば良いのかについて、問い、考える。そのために、まず古典的な立地論をいくつか取り上げて、その基礎を学ぶ。その上で、競争的な環境下での企業の立地にかかわる行動について、具体例を交えながら理解を深める。あわせて、複数の企業や事業所が特定の地域に集積していることに着目し、それらの効果を学ぶ。以上を踏まえ、立地と地域との関係とともに、そこから生起する社会の諸課題についても理解を深める。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目	ローカルビジネスのフロンティア		日本において、疲弊の進む地方は課題の宝庫であり、ビジネスの手法で課題の解決を目指すローカルビジネスは、今後の日本およびグローバルビジネスに指針を与えるものである。本科目では、全国各地でローカルビジネスに挑戦する実務家や行政関係者をゲストとして招き、講演を通して、課題の捉え方と解決の方策を学ぶとともに、グループワークを通じて、自ら社会課題の解決につながる新たなアイデアを考案し、ビジネスモデルとして具体化することを目的とする。 本科目は、社会の諸課題の解決につながる新しいアイディアを主体的に生み出し、かたちにする科目として位置づける。	共同
		コンテンツビジネス実践Ⅱ		本科目では、「コンテンツビジネス実践Ⅰ」の講義を踏まえて、映像制作の実習を行う。「映像」と「音」のあるメディアから情報を伝える、受け取るには、映像メディアの特性を理解することが前提となる。「映像で伝える」と言っても、起こっていることの全てを映しそのまま伝えるわけではない。どこをどのように切り取るとどのように伝えられるかを理解するために、身近な題材をテーマにして実際に映像作品（5分程度）を制作する。 本科目は、社会の諸課題の解決につながる新しいアイディアを主体的に生み出し、かたちにする科目として位置づける。	
		デザインマネジメント実践		デザインとは対象に向き合う"態度"であり、答えのない問いに自分なりの道筋をつける"主体的かつ創造的な行為"である。本科目では、与えられた課題に対しての立体制作を通じて、答のない問いに向き合う際に必要な観察力、思考力、表現力を習得することを目的とする。講師による講義や講評を通じてデザインの基礎的態度を学び、学生間の講評による相互理解を通じて自身の思考の特徴を理解し、複数課題に取り組むことで学習内容の定着をはかる。 本科目は、社会の諸課題の解決につながる新しいアイディアを主体的に生み出し、かたちにする科目として位置づける。	
		社会データ分析		社会の諸課題の発見・探求・把握、社会の諸課題の解決策の模索など、社会的リアリティに実証的に迫るためには、既存統計データの2次分析など、既存のデータの活用は欠かせない。本科目では、統計データを読み解くことを通して、現代日本社会が抱える諸問題・諸現実をより深く理解し、課題を発見し、解決策を模索する方法について、具体的な事例、具体的なデータの分析を通して実践的に学ぶ。その際、時系列的な比較、国際比較という視点の有効性についても押さえた上で、実践する方法を学んでいく。 本科目は、実践と知識を往還しながら思考・判断することで、自ら社会の諸課題を発見・探求する科目として位置づける。	
		地域企業論		地域企業および地域で活動する起業家の役割と機能を理解することを主目的とする。産業内および地域内のアクターとの相互作用により価値や雇用が創造されていくことを理解するため産業集積、起業家エコシステムや産業クラスター、起業家ネットワーキングなどの理論的アプローチによって、複数の事例を概観する。事例は長期間観察によるITクラスターや伝統的産業集積の歴史的事例と、最新の技術系スタートアップの両方を取り上げる。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		京都企業論		京都には長い歴史を持った「伝統産業」の企業と、戦後になって創業され、急速に成長を遂げてきた「近代産業」の企業が共存している。農業や林業においても特徴的な経営が行われている。本科目では、このような京都にある企業を対象にして、科目担当者による概説的な講義と、外部講師（京都企業の経営者）による講演から学ぶ。加えて、グループワークによって講演いただいた企業のケース分析を行って、京都企業に対する理解を深めていく。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。 ＜オムニバス方式／全15回＞ ＜8　細川　孝／12回＞ 京都の産業と企業について取り扱う。 ＜202　川勝　美早子／1回＞ 島津製作所の歴史について取り扱う。 ＜215　北野　裕子／2回＞ 京都の伝統産業について取り扱う。	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目	事業システム論		企業や組織は事業体として顧客に価値を提供して利益を出し、そして存続していくために必要な諸活動を統括する能力や仕組みを持つ。本科目では現代企業がどのような事業システムの構築を図り、競争優位を確立しようとしているかを考察する。事業システムという価値を提供するトータルなシステムには多くのプレイヤーが介在するため、個別企業の営みだけではなく、多様なプレイヤーが補完しあい、複雑に設計された事業システムについても検討する。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		グローバルストラテジー		現在のグローバリゼーションが進展するなかで、多くの企業が海外進出し、海外でビジネスが実践されている。そのなかで、大企業とベンチャー企業、欧米市場と新興国市場などの違いによってそれらの経営戦略は多様化している。そこで、チャンドラーの提唱した全社的な経営戦略などを体系的に学んだ後に、グローバル競争時代の多様なグローバルストラテジーを分析する。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		ソーシャルマーケティング		ソーシャルマーケティングとは、社会的により望ましい状態を達成するために、ターゲットとなる人々に行動変容を促すマーケティングのことである。典型的には、禁煙やワクチン接種を促すキャンペーンが挙げられる。原義的には、政府機関や非営利組織がその主体となるが、本科目ではそれらに限らず、営利企業が主体となって社会課題の解決を志向するコーズ・マーケティングや、営利企業のマーケティングと社会との調和についても検討する。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		商品開発論		ベーシックマーケティングやマーケティング論の学びを踏まえ、本科目では商品企画の一連のプロセス、すなわち市場および顧客理解のための情報収集、データの分析、想定顧客設定、コンセプト設計、商品・サービス設計、プロモーションなどについて学ぶ。講義内容に対する理解を深めるため、実際に商品企画の課題を設定し、情報収集、分析、企画書の作成、プレゼンテーションを行う。 本科目は、社会の諸課題の解決につながる新しいアイディアを主体的に生み出し、かたちにする科目として位置づける。	
		ビジネスヒストリーB		現在のビジネスや、そこでの常識が、いつ、どこで、何をきっかけに、どのようにして形成されてきたのかについて、ビジネスヒストリーAとは異なる視座、視点、視野から、講義する。そのため、日本のビジネスヒストリー、戦後のビジネスヒストリー、商業やサービス業にも焦点を当てたビジネスヒストリーを中心に講義する。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		コンテンツビジネス論		本科目では、現代における映像文化の拡がりと映画産業の特殊性について理解することを目的に開講される。映画産業は大きく発展してきており、観せたい人・観たい人・作りたい人の三者によってさまざまな展開が見られている。担当教員は映画館等運営、映画祭企画・運営、映像芸術・映像制作教育など映画関連業界とその周辺でのさまざまな勤務・活動経験を持ち、それぞれの立場から映画を文化と産業の両面から考察する。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。 ＜オムニバス方式／全15回＞ ＜150　板倉　一成／4回＞ 海外の映画事情、ヨーロッパ、アジア、アメリカ等の映画や映画祭について取り扱う。 ＜400　由良　泰人／4回＞ 映画のジャンル、映画の歴史、映像表現のハードとメディアについて取り扱う。 ＜403　横地　由起子／7回＞ 映画産業の誕生から発展、映画館興行の変遷、映画製作と映画祭について取り扱う。	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目	食農ビジネスのフロンティア		「食」と「農」は、我々の暮らしを支え、社会経済活動の基盤となる重要な産業である。しかしながら、これらの産業はいま、担い手不足をはじめとしたさまざまな課題を有しており、その解決のためには、従来とは異なる発想によって新たな価値を創造していくことが求められている。本科目では、伝統的な産業に変革をもたらそうとする老舗企業や、領域横断的に革新的なビジネスの構築に挑むベンチャー企業の経営者らを招き、講演を通じて食農ビジネスの最前線を理解するとともに、自らも課題解決の方策を立案することを目指す。 本科目は、社会の諸課題の解決につながる新しいアイディアを主体的に生み出し、かたちにする科目として位置づける。	共同
		地域と企業		本科目は、「現場で学ぶ経営学」をコンセプトに、地元京都を対象に、グループごとにテーマを設定し、調査とプロジェクトの実践を通じて、地域課題の解決の手法を学ぶ。また、年度ごとにテーマを設定し、さまざまな地域をフィールドワークし、多様な実践事例について現場体験を通じて学ぶとともに、フィールドワーク後に事後学習を行うことで、学修成果の定着を図る。 本科目は、社会の諸課題の解決につながる新しいアイディアを主体的に生み出し、かたちにする科目として位置づける。	
		京都企業の現場		本科目では、「京都企業論」の講義を踏まえて、企業訪問を行い京都企業の「現場」について学ぶ。経営者や管理者へのインタビューや工場見学を予定している。企業訪問は経営学の学習の一環としてのものであり、各自が経営学的な知識や関心をもって参加することが求められる。学習の成果はご協力いただいた企業の方に披露する。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		デジタルマーケティング		デジタル化が加速する世界において、企業活動がデジタル化する中、デジタルマーケティングは販促活動、認知活動に必須のツールとなっている。本科目は、デジタルマーケティングに必要な基礎知識および技術を習得することを狙いとする。オンラインのツールを利用した顧客開拓から、データ分析の方法とマーケティングへの応用方法、ホームページの仕組みまで、できる限り具体的な事例を含め、デジタルマーケティングを実践的に学ぶ。 本科目は、社会の諸課題の解決につながる新しいアイディアを主体的に生み出し、かたちにする科目として位置づける。	
		空間データ分析		位置情報を持つ空間データ（地理空間情報）を取り上げ、その入手、利用・加工、分析・考察にかかわる基礎的な知識と技能を、GIS（地理情報システム）を用いながら身につける。空間データは、消費者、生活者、企業等の活動や資源分布の把握だけでなく、それらを取り巻く環境の理解やリスク評価、さらに社会の将来を考える上でも有用である。こうした取り組みを通じ、社会の諸課題を発見・探求する基盤の構築を目指す。 本科目は、実践と知識を往還しながら思考・判断することで、自ら社会の諸課題を発見・探求する科目として位置づける。	
		ケースで学ぶアカウンティング		「ベーシック・アカウンティングⅠ、Ⅱ」で得た知識をもとに、具体的な実践例を取り上げて、アカウンティングの現実的な役割について理解を深めることを目的としている。本科目でのアカウンティングは、貨幣的表現としての会計に加え、サステナブル会計・IR（投資家向け広報活動）・ディスクロージャー（情報公開）・経営管理システムなどを含む。実践に触れるための企業訪問やインタビュー調査、他者と協働するグループワーク、自主性や表現力を養うアクティブラーニングを取り入れる。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		ソーシャルビジネス論		本科目が対象とする「ソーシャルビジネス」は、教育、医療、福祉などの事業を行う組織体や社会的企業等も含めて幅広く捉えている。講義では、非営利・協同組織を概観した上で、生活協同組合（生協）、そして医療・介護サービスを事業として行う医療福祉生協を取り上げて考察する。非営利・協同組織の仕組みや考え方を学ぶことで、営利組織を中心にして発展してきた経営学の知見をさらに豊かにすることが可能になるだろう。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目	グローバルマーケティング		本科目では、企業の国境を超えたマーケティング活動を実証的に分析、理解できるようになることを目標とする。国境を超えてマーケティングを行う際、企業がいかなる困難に直面し、いかにそれらを乗り越えていくのかを学ぶことは、多角的な市場や地域社会への理解につながる。具体的には、標準化―適応化論争など企業活動の国際化に伴う戦略的な意思決定に関する問題を扱う。なお、本科目はマーケティング論を履修した学生を主な受講対象としている。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		ロジスティクス		ロジスティクスは現代の生活にとって不可欠な存在である。近年続発する災害時に道路が寸断され商品の供給が滞ることで日常生活が突如として困難になるように、ロジスティクスが機能しないと我々の生活も企業活動も成り立たなくなる。そのため、ロジスティクスに関する知識の習得・実践を理解することは我々の生活に役立つと考えられる。本科目では、ロジスティクスの基礎的な知識から、実際の企業のロジスティクス戦略まで学習する。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		中小企業経営論		中小企業は全企業数において圧倒的多数を占めており、日本の経済社会の基盤を成しているが、大企業と比べると、その規模が相対的に小さいだけでなく、経営の姿勢やあり方が質的に異なる。具体的には、一般的に経営学で学ぶ組織や戦略、さらに人的資源や財務などは、中小企業ゆえの特質、すなわち「中小企業らしさ」がある。本科目では、日本における中小企業の経営の特質や経営行動について理解を深めるとともに、経営的視点からみた「中小企業らしさ」について総合的に学んでいく。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		地域資源論		どの地域にもその地域特有の経営資源として、農産物や工芸品などの特産品があり、それを支える製造技術や地域のネットワーク、自然環境や歴史があり、これらを地域資源と呼ぶ。本科目では、この地域資源について多角的視点から理解することを目的に開発、生産、流通、販売までの一連の価値創造プロセスを担う事業者とそれを取り巻く歴史、文化、自然環境などについて学際的に学ぶ。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		ビジネスイノベーション		日本の経済社会における中小企業は、全企業数において圧倒的多数を占めており、日本の経済社会の基盤を成すとともに、経済成長や雇用創出、また地域社会の発展などに大きく貢献してきた。しかしその数は年々減少しており、存続が厳しい状況にある。中小企業存続のために必要となるのがビジネスイノベーションである。本科目では、中小企業がビジネスイノベーションを実現するための理論的視点を学習するにとどまらず、その実践と支援について理解を深めていく。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		ケースで学ぶローカルファイナンス		共通価値の実現や地域の持続性向上を支えるという観点でのファイナンスのあり方が理論的にも実務的にも転換点を迎えている。ESG投資やインパクト投資を地域に根ざしたビジネスや課題解決型ビジネスに引きつけていく手法は必ずしも確立しているわけではない。 社会の諸課題を解決するために、新たな領域や価値創造を行っていく上では、新たなファイナンス手法を学び活用していく能力やファイナンススキームをデザインすることが求められる。 本科目では金融機関やファンド事業者などが取り組む具体的な実践をベースに、講義およびグループワークなどを通じて、ファイナンス活用やスキーム構築に必要なリテラシーや能力を獲得することを目的とする。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		アジア企業経営論		本科目では、日本、韓国、中国、台湾、インドの企業経営について、これらの国々の企業がどのように発展してきたのか、そして、今後どのような発展をみせていくのかを、国際貿易および企業の海外進出をキーワードとして分析していく。貿易理論や海外直接投資による発展モデルの理解を基礎として、国際収支等の統計を実践的に解析することによって、グローバル市場における企業の行動を把握・分析する能力の向上を狙う。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目	ケースで学ぶビジネスヒストリー		ビジネスの世界の中で重要な役割を果たしてきた特定の会社や経営者の歴史を学ぶことに主眼を置く。ごく普通の会社がどのようにして日本や世界を牽引する会社へと変貌を遂げたのか、一人の若者がどのようにして日本や世界を代表する経営者にのぼりつめたのかを講義することで、受講生に、キャリア形成のひとつの道筋を見せたいと考えている。またその考えのもと、講義形式の授業にとどめず、受講者個々人が、興味のある会社・経営者、就職したい会社・その経営者などの調査や成果披露も組み込む。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		文献講読A		歴史的経緯や地域の多様性を踏まえ、社会の諸課題を実証的に把握する技能を養成するため、事業創造やマーケティングを理論的な視点から理解を深め、企業行動について抽象化、言語化できる能力を醸成することを目的に、新しいビジネスをスタートさせる手法や、既存企業に挑み新商品・サービスを定着させる方法、市場におけるポジショニング等に関わる論文や書籍を講読する。また、グループワークでは参加者各自がテーマに関わる追加資料を検索・収集し、それをもとに討論と発表を行う。 本科目は、歴史的経緯や地域の多様性を踏まえ、社会の諸課題を実証的に把握する技能を身につける科目として位置づける。	
		文献講読B		歴史的経緯や地域の多様性を踏まえ、社会の諸課題を実証的に把握する技能を養成するため、事業創造やマーケティングを理論的な視点から理解を深め、企業行動について抽象化、言語化できる能力を醸成することを目的に、社会的事業の創造や様々な社会事象、マイクロファイナンス、社会的企業、フェアトレード、ソーシャルイノベーション、ソーシャルケア、環境保護等の事業に関わる文献や論文を講読する。また、グループワークでは参加者各自がテーマに関わる追加資料を検索・収集し、それをもとに討論と発表を行う。 本科目は、歴史的経緯や地域の多様性を踏まえ、社会の諸課題を実証的に把握する技能を身につける科目として位置づける。	
		演習Ⅰ	○	（概要）本演習Iは基礎科目やその他の専門科目での学修を踏まえながら、多様な人びとのアイディアを受容したり、創造した価値を共有したりする態度を発展させることを目指す。 （1　遠藤　明子） 演習Ⅰでは、社会志向のマーケティングと調査実践をテーマとする。2回生後期（第4セメスタ）ではまず、アカデミックスキルズ（パラグラフ・ライティング、研究倫理、データ視覚化など）の学びを踏まえつつ、徐々に関連する理論や事例について学ぶ。3回生前期（第5セメスタ）では、マーケティング・リサーチの基礎を学び、社会志向のマーケティングに関わる調査設計を行う。なお一貫して、ゼミ運営ではデジタル技術を積極的に試し取り入れていく。 （4　鍬塚　賢太郎） 社会の諸事象を空間的な側面を重視しながら捉えるとともに、そうした視点を援用しながら社会課題の発見・探求・把握に資する力を養うことを目指す。そのための基盤を構築するために、立地論や経済地理学の研究内容や手法について理解を深めるとともに、地域調査の方法を学ぶ。また、その実践を通じて、リアリティをもって現実世界を捉えることを試みる。これらを通じて、地域的な多様性のもとで展開する様々な経済活動のあり方への理解を深める。 （6　林　尚毅） まず前半は、グローバルビジネスに関するテキストを精読し、レジュメを作成・報告し、討論する。そのなかでグローバルビジネスとは何かについて考える。また、レジュメやレポートの作成に際し、その表現力の向上をめざす。後半は、グループに分かれてグループごとに関心のあるテーマを決定する。そのテーマに基づいて文献、調査などの研究を行う。 （7　藤岡　章子） 企業や組織が自社の提供する製品やサービスを市場に受け入れてもらうための統合的・総合的活動であるマーケティングについて、書籍や論文の輪読、定性的、定量的データの収集と分析を通じて、理論的な知識の習得を目指す。またグループごとに設定されたマーケティング課題に対する解決策の検討、企画提案とその実行を通じて、様々なマーケティング事象に対して問題設定を行い、その解決策を検討する態度を身につける。 （8　細川　孝） 演習Ⅰでは、株式会社形態の企業だけでなく、協同組合や農業（経営）など、多様な組織について学ぶ。その際に、文献を通じた学習だけでなく、ヒアリングや見学などによって現実の経営についての認識を深めていきたい。担当者の関心は、教育から労働（職業生活）への移行であり、そのためには「異なる世代、異なる階層の人々と連帯して新しい価値を創造する」ような経営学の教育のありようが要請されていると考えている。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目	演習Ⅰ	○	（9　秋庭　太） 新事業創造への関心を高めるため、様々なタイプの経験を積むことを目指す。豊富に存在する起業家のライフストーリーやビジネスモデルなどから初歩的な理解を深める。その後、複数回の起業家育成イベントへの参加およびビジネスプランの作成およびプレゼンテーション、チームビルディングの実践を通じて徐々に体験知を積み上げ、学生個別の興味関心に合わせて、自発的な企業家イニシアチブを取れるマインドセットと知識の習得を意図する。 （10　妻木　進吾） 社会の諸課題の実証的な把握の上で、その解決につながる新しいアイディアを主体的に生み出し、かたちにする力を身につけることを目指す。演習Ⅰでは、問題解決の具体例について学ぶことを通して、さまざまな課題解決の方法を知るとともに、社会の諸課題の実証的な把握の必要性を知る。また、社会課題の実証的な把握の方法について具体的な社会現象を取り上げ、社会調査の手法を軸とした実践を通して身につける。 （11　西川　浩司） 企業のイノベーション活動の事例研究に必要な予備知識の獲得を目指す。具体的には、イノベーション活動の重要性や理論的な知識を習得すること、その知識を、他者に教えるという形で応用できることを目指す。その後、全産業、全時代の企業の活動を概観し、そのなかから、演習Ⅱでおこなうイノベーション活動の事例研究の題材探しを行う。またこの作業を通じて、興味ある業界・会社と出会い、インターンシップへの積極的参加を誘導する。 （13　眞鍋　邦大） 本科目は「事業開発」をテーマとして、地域の担い手である企業や自治体などさまざまな外部主体と連携・協業を積極的に行いながら、プロジェクトの実践を通じて思考力や表現力，また主体性を養うことを目標とする（Project Based Learning＝PBL）。プロジェクトの企画段階にあたる「演習Ⅰ」では、「対話」と「体感」を重視し、実践プロセスの言語化を常に意識することで、事業開発に必要な思考力（考える力）や表現力（伝える力）などの基礎力を身につける。	主要授業科目
		演習Ⅱ（演習研究含む）	○	（概要）本演習Ⅱは演習Ⅰでの学修を踏まえ、演習研究等に取り組むことを通じて、多様な人びとのアイディアの受容や共に創造した価値を共有する態度を発展させるとともに、社会の諸課題の解決に向けた仕組みを主体的に構想したりする態度を向上させることを目指す。 （1　遠藤　明子） 演習Ⅰに引き続き、社会志向のマーケティングと調査実践をテーマとする。3回生後期（第6セメスタ）は前期での調査設計をもとに、実際にデータ収集と分析を行い、スライドによる調査報告を行う。4回生では、これまで学んだ内容を調査報告書という形にまとめることで定着させ、今後のワークキャリアに活かすことを目指す。なお一貫して、ゼミ運営ではデジタル技術を積極的に試し取り入れていく。 （4　鍬塚　賢太郎） 社会の諸事象を空間的な側面を重視しながら捉えるとともに、そうした視点を援用しながら社会課題の発見・探求・把握に資する力を養うことを目指す。そのために、演習Ⅰで構築した基盤等を活かし、空間的な視点をもって地域的な経済事象を把握・探求し、新たな「問い」を自ら発することに取り組む。そして論文執筆に取り組み、自らの「問い」に対する「答え」を得ることを試みる。これらを通じて、地域的な多様性のもとで展開する様々な経済活動のあり方について、自らの理解を深める。 （6　林　尚毅） 前半は、演習Ⅰを継続してグループごとに報告準備を行い、最終的にプレゼンテーションとその内容に対する質疑応答を行う。このプレゼンテーションをゼミの一つの目標にしていて、この作業を通じてグローバルビジネスや国際分業の特徴やその課題などの学習を深める。後半は、卒業論文の作成を目標とする。各自で関心のあるテーマを決定し、その論文テーマに基づいて調査・研究し、卒業論文を作成する。 （7　藤岡　章子） 演習Ⅰでの学びをもとに、マーケティングやブランディングに関する調査研究を行う。また学内外の組織と連携し、グループごとに商品開発やプロモーションといったマーケティング諸活動に取り組み、その成果を報告書にまとめ、学外での研究報告などを行う。これらの活動を通じて、市場に関わる情報を収集し、編集する力、分析する力を養う他、組織的活動としてのマーケティングに対する理解を深める。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目	演習Ⅱ（演習研究含む）	○	（8　細川　孝） 演習Ⅱでは、演習Ⅰでの学習を踏まえて、個人ないしはグループ単位で特定のテーマを決めての報告と論文の執筆を行う。それまでに身につけてきたアカデミック・スキルズを踏まえつつ、それぞれのテーマにそくして研究を進めていくこととする。演習Ⅱでの学習を通じて、「学ぶことを学ぶ」ことが目標である。学ぶことは一生涯にわたって続くことであり、具体的なテーマでの研究を通じて学ぶ力を身につけていきたい。 （9　秋庭　太） 新事業創造のための、課題発見、チームビルディング、仮説構築、リサーチ、プレゼンテーションなどの一連のプロセスを経験し、起業家として行動するための基礎的な知識や技術の習得を目指す。そのうえで、スタートアップファイナンスの特徴や、ビジネススケーリングのためのオペレーションなど実践的知識の習得も視野に入れ、学外の起業家育成イベントへの参加なども経験しながら、経験知、体験知の獲得を目指す。 （10　妻木　進吾） 社会の諸課題の実証的な把握の上で、その解決につながる新しいアイディアを主体的に生み出し、かたちにする力を身につけることを目指す。受講生各自が関心を持つ社会現象を取り上げ、社会調査を軸とした手法によりオリジナルなデータの収集を通してそのリアリティに接近するとともに、そこから浮かび上がる諸課題の解決につながる具体的なアイデアを実証的な根拠をもって提示することを試みる。これらの成果は、課題のありようと解決のアイデアを他者に説得的に提示できる論文として結実させる。 （11　西川　浩司） 演習Ⅰでの学びをもとに、企業のイノベーション活動の事例研究・経営史的研究を個々人で進め、その成果を演習論文に纏めることを目指す。具体的には、企業が、イノベーション活動をすすめる過程において、どのような種類の障壁と出会い、その障壁に対してどのような行動・成果を見せたのかについて、経営史的な手法を用いて明らかにする。また、この過程で、信頼性の高い資料（1次・2次資料）の探し方・見分け方・利用の仕方等についても学ぶ。 （13　眞鍋　邦大） プロジェクトの実践段階にあたる「演習Ⅱ」では、「演習Ⅰ」で養成した基礎力を土台として、プロジェクトの実施，成果の検証，報告等を行い、構想を具現化する力、また課題点を見つけ修正をする力を養う。プロジェクトの対象領域としては、担当教員の専門である「食・農・ローカル」が中心となるが，地域課題や社会課題の解決に資するテーマを広く扱い、実践を通じて、講義科目で修得した知識を身体知に変換していくことを目標とする。	主要授業科目
		経営学基礎論		「経営学」あるいはその中心的な対象たる「企業」に関して考察を深めていくことを目的にしている。具体的には、企業の意義、また企業の内実に迫る戦略、組織、指揮、統制といった「管理（management）」の性格を明らかにして、その内容を整理していく。そのなかでは、現代の経営に差し迫っている問題にも注目して、企業経営やその行動規準に対する影響を確認していきたい。こうした基礎の上に立って、今後企業がどのような課題に対応しなければならないのか、また矛盾を解決しなければならないのか、受講生自身が考え、新たな問題の発見につながることを期待している。	
		経営情報学Ⅰ		コンピュータのハードウェア、ソフトウェアや通信など情報技術（IT）、あるいは情報通信技術（ICT）のめざましい進展に伴い、現代の企業や組織においてはその業種、業態、規模にかかわらずあらゆる場面でコンピュータが活用され、ビジネス自体も大きく変容している。このような変化を理解し、効果的に対応していくためには、コンピュータや情報ネットワークについての基礎的な知識が求められる。そこで、本科目では、まず情報処理の基礎を学び、企業や組織において活用されているIT・ICTを概観する。	
		簿記入門		今日では、簿記の知識と技術なしに企業活動を営むことは、ほとんど不可能である。法人税などの税金を納める場合や、事業資金を銀行から借り入れる場合はもちろん、将来の経営方針を企画・立案する場合にも、簿記の知識と技術が欠かせないからである。簿記の知識と技術は、企業を経営する人たちをはじめ、働くすべての人たちにとって必要不可欠なものである。この講義では、簿記を学ぶうえでどうしても知っておかなければならない基本用語、帳簿のつけ方、決算の仕方、その約束事について学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目	経営管理論		経営学の場合、企業を「点」としてではなく、様々な利害関係者が、自らの経営資源を活用して、自らの力を出し合いながら結合する「領域」「場」であると考える。この講義では、まず、「企業とは何か」「企業とはどういう存在であるのか」という原理的把握から議論をはじめる。そして、いくつかの代表的な「管理」論の学説についてある程度詳しく説明したいと考えている。議論の焦点は、どの管理学説が、どういう戦略的課題を、どのような意味で変革しようとしたのか、にある。これらの点に注目しながら講義に参加してほしい。	
		経営データ分析Ⅰ		本格的な情報化社会に入り、さまざまなアプリケーションソフトウェアを容易に利用できるようになった。中でも、ますます重要性を増しつつあるビジネスでのデータ分析・利用の場面を考えた場合、表計算ソフトウェアはとりわけ重要なツールといえる。本科目では、表計算ソフトウェアとして最もよく使われているExcelの基本的な機能の学習を通して、経営におけるデータ分析のための基礎的能力（データの持つ特徴や問題点などをとらえられる力）を育成していく。データ分析に必要なリテラシ（Excelの表計算機能の使い方、データ分析の考え方と進め方）から始め、データベース機能の利用までを取り上げる。	
		初級商業簿記		簿記は、企業が日常行う経済活動を記録・計算・整理して、財務諸表という形で企業の様々な利害関係者に報告するための技術である。簿記を理解することによって、企業の経理事務に必要な知識だけでなく、財務諸表を読む力や、ビジネスの基本であるコスト感覚も身につく。したがって、簿記は、社会人にとって必要不可欠な知識の一つといえるであろう。本科目では、前期の『簿記入門』で学修した内容をベースに、株式会社向きの基礎的な商業簿記の知識と技術を学ぶ。レベルとしては日本商工会議所が主催する簿記検定試験の3級程度を想定している。	
		財務諸表分析入門		企業がおかれている状況を知るための手がかりの一つとして、企業が作成・公表している財務諸表という報告書がある。財務諸表を利用することで、企業が儲かっているのかどうか、倒産する危険性はないのかどうか、といったことを判断するのに役立てることができる。ただし、財務諸表を利用するためには、会計に関するそれなりの知識や技術の修得が必要である。この講義では、財務諸表を分析するために最低限必要な会計の知識を学ぶほか、実際に企業が公表している財務諸表を利用して、その基本的な分析手法について学ぶ。	
		経営意思決定論		本科目は大きく4つのパートから構成される。Ｐａｒｔ1では、「経営意思決定論のルーツ」としてバーナードの意思決定論を取り上げる。Ｐａｒｔ2では、「経営意思決定論の科学化」の題目の下、バーナードの機会主義的意思決定論を継承したサイモンの理論を取り上げる。続くＰａｒｔ3「経営意思決定論の戦略化」では、サイモンを援用し、後にバーナードの影響を受けたアンソフの経営戦略論を取り上げる。そしてＰａｒｔ4では、バーナードの道徳的意思決定論を受け継いだセルズニックの所論を皮切りに、「経営意思決定論の道徳化」の流れを概観する。	
		経営情報システム論		今日、情報通信技術が企業や組織の活動に大きな影響を与えている。またインターネットを前提とした商品開発、物流、販売など経営の基盤そのものが変わりつつある。そのような環境では情報通信技術、情報ネットワークの知識なしに企業や組織の活動全体を理解することは困難と言える。本科目では、経営の場で用いられている情報通信技術、その活用方法を学修するとともに、各自で現状どのような場所でどのように利用されているかを把握し、学修に重ね合わせて学びを体得していく。	
		中級商業簿記		本科目では、『初級商業簿記』で学修した内容をベースに、株式会社向きの発展的な商業簿記の知識と技術を学ぶ。レベルとしては日本商工会議所が主催する簿記検定試験の2級程度を想定している。特に、現金預金取引、有価証券取引、商品売買取引、有形固定資産取引、リース取引、外貨建取引、株式会社会計等の内容を中心に講義を行う。	
		財務会計入門		株主や債権者といった企業外部の利害関係者は、投資判断や与信判断などの経済的な意思決定を行うために、企業に関する様々な情報を必要としている。企業が外部利害関係者に対して公表する財務諸表は、その作成者である企業の裁量や直感のみによって自由に作成されているものではなく、財務会計という領域で確立されてきた技術や理論を根拠として作成されている。本科目では、今後、より専門性の高い会計科目を受講するための必須の知識である、財務会計の基礎的な技術と理論について学ぶ。	
		工業簿記		本科目の目的は、製造業で用いられる会計の基礎を学ぶことである。日本商工会議所が主催する簿記検定試験2級は、『商業簿記』と『工業簿記』で構成されており、『工業簿記』は製造業で用いられる会計である。工業簿記の理論および実践の理解に必要な専門知識を習得する。工業簿記に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。本講義ではこれら2点を到達目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目	プログラミングⅠ		プログラミング初学者を対象として、Pythonによるプログラミングの基礎を学修する。授業では、経営分野におけるプログラミング学修の意義について説明した後、Pythonによるプログラミングの基礎について学修を進める。本科目により、プログラミングに必要な概念、言語に関する知識、そして基本的なプログラムの作成方法の修得を目指す。これらの知識は、コンピュータの動作する仕組みを理解することだけでなく、社会で求められる論理的思考力、問題解決能力等の修得にも役立つ。	
		財務会計論		財務会計とは、株主、債権者、消費者、従業員、国や地方自治体などの企業をとりまく外部利害関係者に対して、彼らの経済的な意思決定に役立つ情報を提供することを目的とした会計のことである。企業は自らの経営成績、財政状態などに関する会計情報を作成し、これを外部利害関係者に報告するが、企業における会計情報の作成と報告に対しては、その適正性と公正性を確保するために法律または社会的な慣習による規制が加えられている。本科目では、わが国の制度会計の解説を中心とした講義を行う。	
		プログラミングⅡ		本科目では、Pythonによる実践的なプログラミングの知識および技術の修得を目的とする。プログラミングを通して論理的な思考能力を養うとともに、比較的簡単なプログラムを自ら設計・実行することで、コンピュータがどのように動作するのかを把握し説明できる能力を身につける。具体的には、ファイル処理、データ分析、機械学習、アルゴリズムなどについて学修する。本科目を履修することで、（1）プログラムのデータ構造に関する知識、（2）ファイル処理、機械学習などに関する基礎知識、（3）実務での課題を解決するプログラミング力を修得することができる。	
		スポーツと経済		スポーツ経済が射程とすべき範囲は、プロスポーツ、地域スポーツ、学校スポーツ、フィットネス、スポーツファシリティ、スポーツイベントなど、広く複雑である。スポーツは、なぜビジネス化（産業化）されたのか？そして、今後のスポーツ振興については、さらなるビジネス化（産業化）が必要なのだろうか？これらの疑問に答えるためには、成立過程や産業構造を正しく認識することが重要である。そして、現代において産業化されたスポーツが抱える根源的な課題を提示し、今後のスポーツ産業の発展のために必要な方策を検討する。また、本講義においては、民間企業においてスポーツビジネスに携わる実務者をゲストスピーカーとして招き、その経験を基にしたスポーツビジネスの現場の課題や特殊性を講義いただく。	
		スポーツマネジメント論		「するスポーツ」や「みるスポーツ」などのスポーツ参加者やスポーツ観戦者を総称したスポーツ消費者は、マネジメントされたスポーツ活動を楽しんでいる。さまざまなスポーツシーンにおいて、経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を適切に確保し、円滑に活用するために必要なマネジメントが施されているからこそ、スポーツを楽しむことができるのである。つまり、多岐にわたるスポーツの価値を創造し続けるためにはマネジメントは欠かせないのである。本講義では、スポーツマネジメントの概念から実践で求められる新たなマネジメントについて、基礎的知識を得る。	
		スポーツ政策論		スポーツは、世界共通の人類の文化であるとともに、現代社会において多様な意義と役割が期待されており、スポーツ政策は、世界各国でグローバルかつローカルに展開される重要な政策課題の一つとなっている。わが国においては、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を契機に、スポーツに関する施策を総合的に推進するための組織としてスポーツ庁が設置された。わが国のスポーツ政策は、歴史的にも大きく動いている時期にあると考えられる。そのような中で、本講義では、スポーツ指導者、スポーツ行政担当者、教員、社会体育指導者やボランティア等に携わる上で心得るべきスポーツ政策学に係る基礎的事項の習得を目標とし、わが国のスポーツ政策のかかえる諸問題・課題にもふれて理解することを目指す。	
		スポーツマーケティング論		スポーツマーケティングは、スポーツビジネスの発展にともなって出現した概念である。本講義では、大きく「見るスポーツ」と「するスポーツ」で生起するスポーツ消費者のニーズと欲求を満たすために行われているすべての活動をスポーツマーケティングと定義し、スポーツマーケティングの概念から基礎理論について学ぶ。さらに、変化するスポーツマーケティングの事例を通した実践法などの基礎知識を修得するための講義により知識を得る。	
		Global Understanding and Communication		この同時双方型オンライン授業は、Zoomビデオ会議により、授業時間中海外大学の学生と英語での小グループやペアーディスカッションを行い、異文化・国際コミュニケーションや理解を目指す実践的な授業である。ディスカッション時に取り上げるテーマは、教育や大学生活・家族や習慣・伝統文化・ツーリズム・働くこやキャリヤ・人生の意義や宗教・その他、時事問題、参加者が関心を持つトピックス、など。ディスカッション活動の他に、講義によるグローバル化と異文化・国際コミュニケーション及び理解に関する情報や研究を参考にする。	メディア

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目	統計学		統計学の知識は、企業活動の把握・改善、あるいは政策の立案・評価などに欠かすことができない。本科目では、まず記述統計を解説した後、経済現象を数量的に分析したり仮説を検定したりするのに必要な統計的推論の考え方を概説する。最後に、回帰分析の基礎を解説し、回帰係数に関する統計的推論にも言及する。記述統計および数理統計の考え方を一通り理解し、簡単な区間推定・仮説検定が実行できるようになることを目標とする。	
		ファイナンス理論		ファイナンス理論の基礎知識をまず、ファイナンス理論における重要な考え方である割引現在価値、リスクとリターンを中心に理解する。次に投資家の視点から見れば、ファイナンス理論は証券投資論である。ポートフォリオ理論に焦点を当てて学ぶ。特に、均衡における資本資産評価モデル(CAPM)について、厳密さよりも内容を直感的に理解できるように工夫して解説する。最後に、金融機関の視点から見れば、ファイナンス理論は価格付け理論である。デリバティブ理論に焦点を当てて学ぶ。特に、オプションの価格付けモデルについて詳しく説明する。	
		アジア経済論A		インドの経済社会発展について、産業発展、対外経済関係、教育や社会保障など幅広い側面における成果と残された課題を確認し、1991年の政策転換以降、経済成長が実現する一方で人々の生活改善に遅れが目立つという特徴を明らかにするとともに、雇用拡大の遅れ、教育の質の問題、社会保障制度の非効率性といった問題を取り上げて議論する。政治・社会の特質や歴史的経緯、制度的構造といったインドの固有性への理解を深めつつ、経済学の基礎的な考え方や概念を用いて論じる。	
		アジア経済論B		インドの経済社会発展について、経済成長の持続と人々の生活改善を実現するための政策のあり方を議論する。国産化と輸出促進に向けた産業政策、教育や保健といった公共サービスや社会保障制度を拡充しつつ財政赤字削減を目指す財政改革、雇用促進を企図した労働市場自由化、自給を優先してきた農産物市場規制の是正といった主要な政策課題を取り上げ、現実の問題と政策の背景にある経済理論の考え方、インドを取り巻く国際環境の変化を理解した上で、政策の進捗と成果、今後の政策対応の課題について論じる。	
		中国経済論A		成熟化を目指す超大国で形成されようとしている新しい経済基盤の姿を、過去の経済的遺産と成長優先の経済システムのあり方についても目配りしながら、展望することを目指す。開発経済学を基礎に貧困から産業化による富裕化への道のりを回顧しつつ、企業の経済学、産業組織論、そして経営学的枠組みも交えて、彼らの現代的な産業発展のあり方も検討して行く。本科目では、現在の世界経済に占める中国の役割と課題を、国際比較を多用しながら、理解する。貿易、サプライチェーン、直接投資、援助、金融などが主要なテーマとなる。	
		中国経済論B		成熟化を目指す超大国で形成されようとしている新しい経済基盤の姿を、過去の経済的遺産と成長優先の経済システムのあり方についても目配りしながら、展望することを目指す。開発経済学を基礎に貧困から産業化による富裕化への道のりを回顧しつつ、企業の経済学、産業組織論、そして経営学的枠組みも交えて、彼らの現代的な産業発展のあり方も検討して行く。本科目では、中国国内の固有の政治経済的論理と変化を学ぶ。計画経済、体制転換、社会主義市場経済、格差、社会保障、都市化、人口動態などが主要なテーマとなる。	
		国際金融論		貿易だけでなく、国境を越えた経済、金融・投資活動が広く一般化した今日、各国の経済・金融現象は深く結びつき合っている。また一地域で起こった資産バブルやその崩壊とその結果として生じる金融危機は、他地域へ波及（伝染）し、時には世界的不況を引き起こし、私たちの経済活動に大きな影響を与えてきた。こうした現象を正しく理解し、経済・金融現象として何が起こり得るか、そのためにどのような備え（リスク管理）をしたら良いか、そうした知識・理解力は、ビジネスの面でも、また個人の資産形成の面でも大変有益なものになる。	
		商法		商法を「商法」という名前の法律だけではなく、会社法・保険法・手形法・小切手法などを含む概念と捉え、商法の基礎的な知識を修得できるように構成する。ただし、扱うべき範囲が非常に広いため、商法総則と商行為の一部、会社法の一部、手形法を対象とし、その中でも重要と思われる事項の概要について講義する。法律学に関する基礎的・一般的な知識や法律用語などについても、適宜、説明する。	
		民法		民法は、財産法と家族法に分かれるが、本講義では、財産法を中心に講義をする。授業の最後の方で家族法（親族・相続）についても簡単に触れる。 授業概要は次の5点となり、「契約法」、「物権法」、「事務管理・不当利得」、「不法行為」、そして「親族、相続」となる。なお、経営学部でも公務員志望者であれば、民法はその必須科目となる。民法の学習を通じて法的思考＝リーガルマインドの基礎を身につける。公務員試験にも対応できる能力を涵養することを到達目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目	会社法		実務・就活で役に立つ会社法の基礎的知識を習得することを目的とする。まず具体的事例を解きながら、会社法を講義する。具体的には会社の設立、経営・事業活動、資金調達、情報開示、M&Aなど、会社法の全般を講義する。進め方は次の3点になる。テキストおよび判例の解説をする。具体的事例問題を解く。正誤問題（一問一答型）を毎回、解く。公認会計士試験（企業法＝会社法・商法・金融商品取引法）といった難関国家試験を目指す人への一助ともする。	
		労働法		少なくない学生においては、在学中に就職活動をおこない、卒業後は民間企業で勤めることになる。この場合において、様々に生起する労使間のトラブルについて、法的にはどのようなアプローチがとられているのか、あるいはとられる必要があるのか、こうした観点から、現行制度の枠組みや基本的な権利義務関係について理解することは極めて重要である。本講義では、労働契約法、労働基準法や労働組合法など、日本の労働法制の柱となる枢要な制度のあらましを知るとともに、日々惹起する様々な課題－賃金、労働時間、休暇休日休憩、解雇、労働組合ーについて考えていくこととする。	
		経済法		独禁法を中心に、日本の経済法制度の理論及び内容理解をはかることを目的とする。もともと、独禁法は、市場経済の効率性達成や革新の誘因付与のための競争維持を狙いとするものである。競争維持・促進→消費者利益と国民経済の健全な発展という観点から経済関連法を整理する事で、現代社会での望ましい制度等を考える事ができる。市場経済での企業活動ルールを規定した独禁法を中心とする競争法理解が法的・社会的に重要になっている。独禁法規定の違法類型を基礎に、経済についての見方、公権力行使や公・私の企業活動のあり方について法的側面から考える能力を得てもらえればと考えている。	
		中国政治論		本科目の主な目的は、中華世界という視点から中国（中華人民共和国）を捉えたうえで、現代中国の政治のあり方を考察し、その特徴と現状を理解することにある。現代中国の政治、そして中国と香港・マカオ、台湾との関係について、基本的な知識と理論的な分析のための視座を提供することで、受講生には現代中国の行方を展望する手掛かりを身につけてもらう一助としたい。本科目では、まずは現代中国の政治の歴史的な歩み、それを動かす制度やアクター、そして中国の軍事、対外関係について紹介する。さらに、「一国二制度」の下にある香港・マカオとの関係を確認し、民主化を達成した台湾との比較を交えながら、現代中国の政治の特徴と現状を説明する。	
		アジア政治論		慰安婦合意（2015年）の「反故」に加えて徴用工問題の「浮上」、さらには安全保障や経済への波及などによって、1965年に国交を正常化して以来、日韓両国が積み上げてきた土台が揺るがされている。一方で、若年層、特に女子の間では、韓国に親しみを感じる人が多く、K・POPやK文学の人気が高まっている。そもそも、日韓関係の良さ／悪さ、あるいは二国間関係の変化についてどのように同定／測定するのか。2020年代初頭の日韓関係は2000年代と比べて悪化したのか。日韓関係は日中関係より悪いのか。さらに、二国間関係の性格の差や変化をもたらす要因は何なのか。日韓関係や韓国について、SNSなどでは個人的な感想や陰謀論が散見されるが、本科目では、史実、理論、実証的知見に基づいて「アカデミックに」理解する。	
		京都市の産業と産業政策		京都市産業観光局の各部署の幹部職員が講師となり、毎回テーマ（分野）を変えた講義を聴くことで「京都市の産業と産業政策」について、その全容を学ぶ科目である。本講義では、京都市産業観光局と連携し、京都市の産業の現状（特徴）、課題、その解決と振興のために京都市がどのような取組を進めているかについて、毎回、異なる担当部署の幹部から説明を聴くことで、地域産業の現状を把握し、京都市に代表される地方自治体の地域産業政策について学ぶ。	
		上級外国語Ａ（ドイツ）		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「読む」ことを中心に取り扱う。メルヘン、詩、エッセイ、短編小説、ジョーク／コント、メディアのアクチュアルな記事などのドイツ語テキストを素材とし、精読を通してドイツ語の原文を味わう。また、基本文法を復習しながら、さらに中級レベルの文法を学んでいく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		上級外国語Ｂ（ドイツ）		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「読む」「書く」ことを中心に取り扱う。メルヘン、詩、エッセイ、短編小説、ジョーク／コント、メディアのアクチュアルな記事などのドイツ語テキストを素材とし、精読を基盤とした「書く」能力の伸長を目指す。また、基本文法を復習しながら、さらに中級レベルの文法を学んでいく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目	上級外国語Ｃ（ドイツ）		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主にコミュニケーション能力（「話す」「聞く」）の向上を目指す。ドイツの日常生活における会話の基本文例を学び、様々なシチュエーションに応用できるようにする。ドイツ語運用能力の習得が講義の中心である。様々な会話練習によって会話能力を高めるとともにドイツに関する情報をも学べるようにする。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		上級外国語Ｄ（ドイツ）		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主にコミュニケーション能力（「話す」「聞く」）の向上をはかるとともに、ドイツ語圏の文化への理解を深めることも目指す。まず、ドイツ語圏についての基礎的な知識を学びながら、ドイツの日常生活における会話の基本文例を学び、様々なシチュエーションに応用できるようにする。様々な会話練習によって会話能力を高めるとともにドイツに関する情報をも学べるようにする。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		上級外国語Ａ（フランス）		本講義は、主にコミュニケーション能力（「聞く」）の向上を目指す。 コミュニケーションをはかるうえで重要な要素である、「聞き取ること」と「様々な表現を理解すること」を身につけることを目指す。フランス映画などの映像資料を通して、聞き取りの練習を行う。また、テキスト（映画の登場人物の台詞等）・簡単なシナリオを読み、表現の勉強を行う。見たり、聞いたり、読んだりする会話を、ロールプレイにより再現することにより口頭表現を身に付けていく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		上級外国語Ｂ（フランス）		本講義は、主にコミュニケーション能力（「話す」）の向上を目指す。コミュニケーションをはかるうえで重要な要素である、「聞き取ること」と「様々な表現を理解すること」を身につけた上で、自ら発話できることを目指す。フランス映画の鑑賞を通して、聞き取りの練習を行う。また、テキスト（映画の登場人物の台詞等）・簡単なシナリオを読み、表現の勉強を行う。見たり、聞いたり、読んだりする会話を、ロールプレイにより再現することにより口頭表現を身に付けていく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		上級外国語Ｃ（フランス）		本講義では、フランス語Ⅰ・Ⅱで学んだフランス語の基礎をしっかり押さえながら、たのしく発展的な学習を行う。フランス語Ⅰ・Ⅱ（そしてⅢ）で学んだ基本的な文法知識や語彙・表現を土台にして、さらに総合的な言語運用能力を高めていくことを目標とする。映像、音声教材を活用して、フランス語で表現できることを少しずつ増やしていく。フランス語で表現できることを増やし、聴き取りの力や読解力を高めることを目指す。	
		上級外国語Ｄ（フランス）		本講義では、毎回、受講生一人ひとりが自由に作文を行う。テーマも長さも自由であり、各自のもっている辞書や教科書などを最大限に活用して、失敗をおそれずに、できるだけ豊かな内容の文章作成をめざす。各回の授業では、まず、一人ひとりの作文の添削、読み方の確認などをした上で、それぞれの文章について受講生全員が日本語とフランス語を混ぜながら、簡単なディスカッションを行う。仏検受験や留学を考えている受講生には、作文以外にも、それぞれの目的にあった学習の仕方を適宜指導する。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		上級外国語Ａ（中国）		本講義は、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修済みの学生を対象とした科目である。聞き取りと口頭表現に重点を置いて、中国語でやや高度なコミュニケーションができるようになることを目指します。 また、中国の文化にも触れながら、「中国語らしい表現」にも理解を深めていきます。発音と文法の基礎固めをしながら、会話を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		上級外国語Ｂ（中国）		本講義は、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修済みの学生を対象とした科目である。「上級外国語Ａ（中国）」の内容を踏まえ、さらに聞き取りと口頭表現に重点を置いて、中国語でやや高度なコミュニケーションができるようになることを目指します。また、中国の文化にも触れながら、「中国語らしい表現」にも理解を深め、会話を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。 中国語検定3級のレベルを習得することができる。これにより、日中言語の相違点をよく知り、自律的に時事中国語を学習することもできるし、また、中国の文化や社会について主体的に考察することを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目	上級外国語C（中国）		本講義は、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修済みの学生を対象とした科目である。読解力の裏付けのある会話能力の養成を主眼とし、発音と文法の基礎固めをしながら、講読を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		上級外国語D（中国）		本講義は、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修済みの学生を対象とした科目である。これまでの学修内容を踏まえ、読解力の裏付けのある会話能力の養成を主眼とし、発音と文法の基礎固めをしながら、講読を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		上級外国語A（スペイン）		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「書く」能力の向上を目指す。スペイン語の基本文法をしっかり学び、平易なスペイン語で会話する能力とメールや手紙を書く能力を身に付ける。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		上級外国語B（スペイン）		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「読む」能力の向上を目指す。スペイン語の基本文法をしっかり学び、300語程度で書かれたスペイン語の時事問題ニュースの読解を通して、西和辞典を使いel mundoやABCなどのスペイン語新聞を読むことができることを目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		上級外国語C（スペイン）		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、「聞く」能力の向上を目指す。コミュニケーション能力の向上を通して、身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを理解できるようになることを目指す。 また、スペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化に親しむとともに、他民族のものの考え方、生き方を理解していく。本講義を通じて、人間としての視野を広げ、他の人、他の民族をよりよく理解できる人間となり、彼らとのコミュニケーションを深める事により、自分自身が豊かになると同時に、社会に何らかの貢献ができる一助となることを目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		上級外国語D（スペイン）		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、「聞く」「話す」能力の向上を目指す。身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを理解し、適切なコミュニケーションができるようになることを目指す。 また、スペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化に親しむとともに、他民族のものの考え方、生き方を理解していく。本講義を通じて、人間としての視野を広げ、他の人、他の民族をよりよく理解できる人間となり、彼らとのコミュニケーションを深める事により、自分自身が豊かになると同時に、社会に何らかの貢献ができる一助となることを目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		上級外国語A（コリア）		本講義では、初級の文法運用と共に読み・聞き・話す・書きの総合的な文の運用能力や基礎会話を身につけることで、身近で経験できる韓国語体験や、韓国人との簡単なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。 会話を中心とした授業を行い、ハングル能力検定試験の3級程度の文法表現や語彙表現を覚えることを目標とする。	
		上級外国語B（コリア）		本講義では、駅などの公共の場で見つけたハングル表記、韓国ドラマ・映画などで出る簡単な会話を覚える、学習した初級文法を使って場面別の会話練習を行うことにより、身近で経験できる韓国語体験や、韓国人との簡単なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。ハングル能力検定試験の4級程度の文法表現や語彙表現を覚えることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門科目		上級外国語Ｃ（コリア）		本講義では、実用的なコリア語のコミュニケーション能力（読み、書き、聞き取り、会話等）の総合的な技能の向上を目指す。本講義では、4技能の中でも《話す》に重点をおく。 日常的な場面を想定して、与えられたテーマについてコリア語で話せるように、様々な表現や単語等を修得する。また、韓国の文化や歴史、コリア語の表現にも。その際、リスニングやシャドウイング、ロールプレイ、寸劇等の体験を通して、コリア語の運用能力を高めることを目指す。 コリア語という言語を通して異文化、自文化について考える機会とする。日常の様々な場面を想定し、与えられた主題についてコリア語で話ができるようにする、日韓の文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
			上級外国語Ｄ（コリア）		本講義では、実用的なコリア語のコミュニケーション能力（読み、書き、聞き取り、会話等）の総合的な技能の向上を目指す。本講義では、4技能の中でも《聞く》ことに重点をおく。 本講義では、実用的なコリア語の読み、書き、聞き取り、会話等の総合的な技能を高めるとともに、コリア語という言語を通して異文化、自文化について考える機会とする。日常の様々な場面を想定し、与えられた主題についてコリア語で会話ができるようにする。 日韓の文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
			職業指導		職業指導（進路指導・キャリア教育）は、生涯学習時代において、自己を生かす能力を養い自己実現のできる生き方を目指す「生き方指導」としてその重要性を高めている。本講義は職業指導の基礎理論とその技術および方法を学ぶことによって、今日必要とされる職業指導のあり方を自ら描き実践できる力を付けることを目的とする。 職業的発達理論に基づくキャリア教育をデザインできる能力を付ける。特に変動社会といわれる現代社会における進路指導が実践できる能力を付けることを到達目標とする。	
			キャリア実習・実習指導		「キャリア実習・実習指導」は、龍谷大学独自の教育プログラムである「RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム」における社会現場での実体験をとおして、大学における学びの意義を認識し、学生の自立とキャリア形成を支援する科目である。講義においては、普段は関わることが少ない他学部・学科の学生との交流により、多様な価値観にふれることができる。また、プログラムに積極的に取り組むことで課題発見力や主体性、発信力や傾聴力といった社会で求められる様々な能力を身に付けることができる。	
			キャリア実習・実習指導 （大学コンソーシアム京都）		「キャリア実習・実習指導（大学コンソーシアム京都）」は、大学コンソーシアム京都が窓口となって実施する実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムである。講義においては、普段は関わることが少ない他大学の学生との交流により、多様な価値観にふれることができる。キャリア教育プログラムとしての側面も有し、単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、「社会人基礎力の育成」をも目的としている。	
	学部共通コース科目	国際関係コース	国際関係論Ⅰ	○	国際関係論とは、国際関係の政治的、経済的、文化的な諸側面を、政治学、経済学、社会学、歴史学などの個別科学（ディシプリン）を援用しながら学際的、多専門的、複合科学的に分析しようとする20世紀に誕生した知的アプローチである。そして、アジアやヨーロッパといった地域における政治的、経済的、社会的な諸事象の関係性に注目しながら、地域を一つのまとまりとして分析しようとする学際的、多専門的、複合科学的な学問領域である地域研究と「双子の学問」の関係にあるといえる。 本科目の目的は、地域研究とともに、既存のディシプリンを援用しながら研究対象の諸相を複合科学的に読み解こうとする国際関係論という学問の基礎を学ぶことにある。具体的には、まず国際関係論という学問の成立と展開について考察し、次いで戦後国際政治史を概観する。その後、PKO、安全保障、ODA、国際開発、ゲーム理論といった国際関係論の個別テーマについて検討する。	主要授業科目
			地域研究入門	○	本科目は、初めて地域研究を学ぶ学生を対象とした入門レベルの授業である。地域研究とは、政治学や経済学といった個別科学が細分化されすぎており、ヨーロッパ中心主義的であるという反省のもと、第２次世界大戦中に米国において萌芽し、その後世界各地で開花してきた地域における個々の事象の関係を重視し、地域を一つのまとまりとして分析しようとする複合科学的、学際的、総合的な学問領域のことである。 本科目では、個別の地域研究の内容には踏み込まず、まず、地域研究の史的展開と主要な手法について学ぶ。次いで、政治学、人類学、歴史学、経済史学、心理学などの古典から地域研究の理論的基礎を学ぶ。そして、最後に、補足のために、現代の地域研究に深く関連するいくつかのキーワードを取りあげて考察する。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	中国語セミナーＩＡ	○	本講義は、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修済みの学生を対象とした科目である。聞き取りと口頭表現に重点を置いて、中国語でやや高度なコミュニケーションができるようになることを目指す。 また、中国の文化にも触れながら、「中国語らしい表現」にも理解を深める。発音と文法の基礎固めをしながら、会話を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			中国語セミナーＩＢ	○	本講義は、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修済みの学生を対象とした科目である。さらに聞き取りと口頭表現に重点を置いて、中国語でやや高度なコミュニケーションができるようになることを目指す。また、中国の文化にも触れながら、「中国語らしい表現」にも理解を深め、会話を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。これにより、中国語検定3級のレベルを習得することができ、日中言語の相違点をよく知り、自律的に時事中国語を学習することができる、また、中国の文化や社会について主体的に考察することを目指す。	主要授業科目
			中国語セミナーＩＣ	○	本講義は、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修済みの学生を対象とした科目である。読解力の裏付けのある会話能力の養成を主眼とし、発音と文法の基礎固めをしながら、講読を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			中国語セミナーＩＤ	○	本講義は、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修済みの学生を対象とした科目である。これまでの学修内容を踏まえ、読解力の裏付けのある会話能力の養成を主眼とし、発音と文法の基礎固めをしながら、講読を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			中国語セミナーⅡＡ	○	本講義は、「中国語Ⅲ」あるいは「中国語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。主として読解力の裏付けを元とした「聞く」「話す」能力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			中国語セミナーⅡＢ	○	本講義は、「中国語Ⅲ」あるいは「中国語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。「中国語セミナーⅡA」の内容を踏まえ、主として読解力の裏付けを元とした「聞く」「話す」能力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			中国語セミナーⅡＣ	○	本講義は、「中国語Ⅲ」あるいは「中国語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。中国語の総合的なコミュニケーション能力を高めるとともに、中国の文化や習慣、価値観に対する理解を深めることを目指します。 基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			中国語セミナーⅡＤ	○	本講義は、「中国語Ⅲ」あるいは「中国語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。「中国語セミナーⅡC」の内容を踏まえ、中国語の総合的なコミュニケーション能力を高めるとともに、中国の文化や習慣、価値観に対する理解を深めることを目指します。 基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			海外中国語研修講座	○	本講義は、中国語で話しかけたりその返事を聞き取ったりといった実践的な語学力を養うとともに、中国の社会事情や歴史・文化について理解を深めることを目的とし、学内での事前指導を経て、上海師範大学の講師による中国語プログラムを受講する科目である。到達目標として、言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	ドイツ語セミナーＩＡ	○	本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「読む」ことを中心に取り扱う。メルヘン、詩、エッセイ、短編小説、ジョーク／コント、メディアのアクチュアルな記事などのドイツ語テキストを素材とし、精読を通してドイツ語の原文を味わう。また、基本文法を復習しながら、さらに中級レベルの文法を学んでいく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	主要授業科目
			ドイツ語セミナーＩＢ	○	本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「読む」「書く」ことを中心に取り扱う。メルヘン、詩、エッセイ、短編小説、ジョーク／コント、メディアのアクチュアルな記事などのドイツ語テキストを素材とし、精読を基盤とした「書く」能力の伸長を目指す。また、基本文法を復習しながら、さらに中級レベルの文法を学んでいく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	主要授業科目
			ドイツ語セミナーＩＣ	○	本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主にコミュニケーション能力（「話す」「聞く」）の向上を目指す。ドイツの日常生活における会話の基本文例を学び、様々なシチュエーションに応用できるようにする。ドイツ語運用能力の習得が講義の中心である。様々な会話練習によって会話能力を高めるとともにドイツに関する情報をも学べるようにする。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	主要授業科目
			ドイツ語セミナーＩＤ	○	本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主にコミュニケーション能力（「話す」「聞く」）の向上をはかるとともに、ドイツ語圏の文化への理解を深めることも目指す。まず、ドイツ語圏についての基礎的な知識を学びながら、ドイツの日常生活における会話の基本文例を学び、様々なシチュエーションに応用できるようにする。様々な会話練習によって会話能力を高めるとともにドイツに関する情報をも学べるようにする。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	主要授業科目
			ドイツ語セミナーⅡＡ	○	本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、「読む」能力の向上を目指す。平易なドイツ語の文章を正確に読むことを通じ、初級で習得した知識を使えるものにする。テクストを論理的に捉え、正しく理解する力を養成する。どんなドイツ語の文章を前にしても、辞書があればゆっくりではあっても正確に理解できるレベルを目指す。 基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			ドイツ語セミナーⅡＢ	○	本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、「読む」「書く」能力の向上を目指す。平易なドイツ語の文章を正確に読むことを通じ、初級で習得した知識を使えるものにする。また、テクストを論理的に捉え、正しく理解する力を養成する。どんなドイツ語の文章を前にしても、辞書があればゆっくりではあっても正確に理解できるレベルを目指す。 基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			ドイツ語セミナーⅡＣ	○	本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主にコミュニケーション能力（「話す」「聞く」）の向上を目指す。日常生活、学生生活におけるさまざまな場面で用いられるドイツ語表現を学ぶ。また、アクチュアルなテーマについてドイツ語でディスカッションできる、ドイツ語コミュニケーション能力の習得を目指す。 基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			ドイツ語セミナーⅡＤ	○	本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主にコミュニケーション能力（「話す」「聞く」）の向上を目指すとともに、ドイツ語圏の文化への理解を深めることも目指す。日常生活などさまざまな場面で用いられるドイツ語表現を学ぶ。また、アクチュアルなテーマについてドイツ語でディスカッションできる、ドイツ語コミュニケーション能力の習得を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	フランス語セミナーＩＡ	○	本講義は、主にコミュニケーション能力（「聞く」）の向上を目指す。 コミュニケーションをはかるうえで重要な要素である、「聞き取ること」と「様々な表現を理解すること」を身につけることを目指す。フランス映画などの映像資料を通して、聞き取りの練習を行う。また、テキスト（映画の登場人物の台詞等）・簡単なシナリオを読み、表現の勉強を行う。見たり、聞いたり、読んだりする会話を、ロールプレイにより再現することにより口頭表現を身に付けていく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	主要授業科目
			フランス語セミナーＩＢ	○	本講義は、主にコミュニケーション能力（「話す」）の向上を目指す。コミュニケーションをはかるうえで重要な要素である、「聞き取ること」と「様々な表現を理解すること」を身につけた上で、自ら発話できることを目指す。フランス映画の鑑賞を通して、聞き取りの練習を行う。また、テキスト（映画の登場人物の台詞等）・簡単なシナリオを読み、表現の勉強を行う。見たり、聞いたり、読んだりする会話を、ロールプレイにより再現することにより口頭表現を身に付けていく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	主要授業科目
			フランス語セミナーＩＣ	○	本講義では、フランス語Ⅰ・Ⅱで学んだフランス語の基礎をしっかり押さえながら、たのしく発展的な学習を行う。フランス語Ⅰ・Ⅱ（そしてⅢ）で学んだ基本的な文法知識や語彙・表現を土台にして、さらに総合的な言語運用能力を高めていくことを目標とする。映像、音声教材を活用して、フランス語で表現できることを少しずつ増やしていく。フランス語で表現できることを増やし、聴き取りの力や読解力を高めることを目指す。	主要授業科目
			フランス語セミナーＩＤ	○	本講義では、毎回、受講生一人ひとりが自由に作文を行う。テーマも長さも自由であり、各自のもっている辞書や教科書などを最大限に活用して、失敗をおそれずに、できるだけ豊かな内容の文章作成をめざす。各回の授業では、まず、一人ひとりの作文の添削、読み方の確認などをした上で、それぞれの文章について受講生全員が日本語とフランス語を混ぜながら、簡単なディスカッションを行う。仏検受験や留学を考えている受講生には、作文以外にも、それぞれの目的にあった学習の仕方を適宜指導する。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	主要授業科目
			フランス語セミナーⅡＡ	○	本講義は、「フランス語Ⅲ」あるいは「フランス語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。フランスのCM、歌、映画などのコンテンツを題材に、「聞く」「話す」能力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			フランス語セミナーⅡＢ	○	本講義は、「フランス語Ⅲ」あるいは「フランス語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。フランス語の聴き取り能力を高めると同時に、文法及び語彙の知識を深め、「聞く」「話す」能力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			フランス語セミナーⅡＣ	○	本講義は、「フランス語Ⅲ」あるいは「フランス語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。「フランス語セミナーⅡA」や「フランス語セミナーⅡB」の内容を踏まえ、フランス語の聴き取り能力を高めると同時に文法及び語彙の知識を深め、「読む」「書く」能力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			フランス語セミナーⅡＤ	○	本講義は、「フランス語Ⅲ」あるいは「フランス語セミナーⅠ」を履修済みの学生を対象とした科目である。「フランス語セミナーⅡC」の内容を踏まえ、フランス語の聴き取り能力を高めると同時に文法及び語彙の知識への理解を深め、主として読解力の裏付けを元とした「読む」「書く」能力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	スペイン語セミナーＩＡ	○	本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「書く」能力の向上を目指す。スペイン語の基本文法をしっかり学び、平易なスペイン語で会話する能力とメールや手紙を書く能力を身に付ける。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			スペイン語セミナーＩＢ	○	本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「読む」能力の向上を目指す。スペイン語の基本文法をしっかり学び、300語程度で書かれたスペイン語の時事問題ニュースの読解を通して、西和辞典を使いel mundoやABCなどのスペイン語新聞を読むことができることを目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			スペイン語セミナーＩＣ	○	本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、「聞く」能力の向上を目指す。コミュニケーション能力の向上を通して、身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを理解できるようになることを目指す。 また、スペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化に親しむとともに、他民族のものの考え方、生き方を理解していく。本講義を通じて、人間としての視野を広げ、他の人、他の民族をよりよく理解できる人間となり、彼らとのコミュニケーションを深める事により、自分自身が豊かになると同時に、社会に何らかの貢献ができる一助となることを目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	主要授業科目
			スペイン語セミナーＩＤ	○	本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、「聞く」「話す」能力の向上を目指す。身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを理解し、適切なコミュニケーションができるようになることを目指す。 また、スペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化に親しむとともに、他民族のものの考え方、生き方を理解していく。本講義を通じて、人間としての視野を広げ、他の人、他の民族をよりよく理解できる人間となり、彼らとのコミュニケーションを深める事により、自分自身が豊かになると同時に、社会に何らかの貢献ができる一助となることを目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	主要授業科目
			スペイン語セミナーⅡＡ	○	本講義では、特に「読む」能力の向上に力点を置いて学習する。すでに得たスペイン語の基礎的な文法知識を復習するのに加えて、より複雑な新しい文法事項も学び、スペイン語運用能力を実用のレベルまで高めることを目指す。文法事項では、直説法を中心に学習する。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			スペイン語セミナーⅡＢ	○	本講義では、特に「読む」「書く」能力の向上に力点を置いて学習する。すでに得たスペイン語の基礎的な文法知識を復習するのに加えて、より複雑な新しい文法事項も学び、スペイン語運用能力を実用のレベルまで高めることを目指す。文法事項では、主に接続法を中心に学習する。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			スペイン語セミナーⅡＣ	○	本講義では、特にコミュニケーション能力（「聞く」「話す」）の向上に力点を置いて学習する。これまでに学んだスペイン語の文法知識を土台とし、「聞く」ことを中心とした授業を行う。主に日常生活レベルでのやりとりができる程度のスペイン語力の育成を目指す。また言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			スペイン語セミナーⅡＤ	○	本講義では、特にコミュニケーション能力（「聞く」「話す」）の向上に力点を置いて学習する。これまでに学んだスペイン語の文法知識を土台とし、「聞く」「話す」ことを中心とした授業を行う。主に日常生活レベルでのやりとりができる程度のスペイン語力の育成を目指す。また言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	コリア語セミナーＩＡ	○	本講義では、初級の文法運用と共に読み・聞き・話す・書きの総合的な文の運用能力や基礎会話を身につけることで、身近で経験できる韓国語体験や、韓国人との簡単なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。 会話を中心とした授業を行い、ハングル能力検定試験の3級程度の文法表現や語彙表現を覚えることを目標とする。	主要授業科目
			コリア語セミナーＩＢ	○	本講義では、駅などの公共の場で見つけたハングル表記、韓国ドラマ・映画などで出る簡単な会話を覚える、学習した初級文法を使って場面別の会話練習を行うことにより、身近で経験できる韓国語体験や、韓国人との簡単なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。ハングル能力検定試験の4級程度の文法表現や語彙表現を覚えることを目標とする。	主要授業科目
			コリア語セミナーＩＣ	○	本講義では、実用的なコリア語のコミュニケーション能力（読み、書き、聞き取り、会話等）の総合的な技能の向上を目指す。本講義では、4技能の中でも《話す》に重点をおく。 日常的な場面を想定して、与えられたテーマについてコリア語で話せるように、様々な表現や単語等を修得する。また、韓国の文化や歴史、コリア語の表現にも。その際、リスニングやシャドウイング、ロールプレイ、寸劇等の体験を通して、コリア語の運用能力を高めることを目指す。 コリア語という言語を通して異文化、自文化について考える機会とする。日常の様々な場面を想定し、与えられた主題についてコリア語で話ができるようにする、日韓の文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			コリア語セミナーＩＤ	○	本講義では、実用的なコリア語のコミュニケーション能力（読み、書き、聞き取り、会話等）の総合的な技能の向上を目指す。本講義では、4技能の中でも《聞く》ことに重点をおく。 本講義では、実用的なコリア語の読み、書き、聞き取り、会話等の総合的な技能を高めるとともに、コリア語という言語を通して異文化、自文化について考える機会とする。日常の様々な場面を想定し、与えられた主題についてコリア語で会話ができるようにする。 日韓の文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			コリア語セミナーⅡＡ	○	本講義では、実用的なコリア語のコミュニケーション能力（読み、書き、聞き取り、会話等）の総合的な技能の向上を目指す。初級の文法運用とともに、読み・聞き・話す・書きの総合的な文の運用能力や基礎的な会話を身につける。また、ハングル能力検定試験の3級程度の文法表現や語彙表現を習得し、韓国人とのコミュニケーションがとれるようになることを目指す。 コリア語運用能力を実用のレベルまで高め、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			コリア語セミナーⅡＢ	○	本講義では、実用的なコリア語のコミュニケーション能力（読み、書き、聞き取り、会話等）の総合的な技能の向上を目指す。特に、駅などの公共の場で見つけたハングル表記や韓国ドラマ・映画などに登場する簡単な会話を題材として、読み・聞き・話す・書きの総合的な文の運用能力や基礎的な会話を身につける。また、ハングル能力検定試験の4級程度の文法表現や語彙表現を習得し、韓国人とのコミュニケーションがとれるようになることを目指す。 コリア語運用能力を実用のレベルまで高め、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	主要授業科目
			コリア語セミナーⅡＣ	○	本講義では、実用的なコリア語のコミュニケーション能力（読み、書き、聞き取り、会話等）の総合的な技能の向上を目指す。この講義では、コリア語を通じて情報を受信する練習を行うとともに、学習した内容を用いたコミュニケーション（情報伝達）の手法についても学ぶ。 コリア語運用能力を実用のレベルまで高め、基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	コリア語セミナーⅡD	○	本講義では、実用的なコリア語のコミュニケーション能力（読み、書き、聞き取り、会話等）の総合的な技能の向上を目指す。この講義では、様々なスタイルのテキストや音声・動画を用いて、読解・聴解について学習するとともに、コリア語を通じて情報を受信する手法についても学習する。 コリア語運用能力を実用のレベルまで高め、基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	主要授業科目
			ポルトガル語Ⅰ	○	本講義では、はじめてポルトガル語を学ぶ学生を対象に、やさしい会話の教材を用いて、ごく初歩的な単語や表現を学ぶ。何よりもブラジルの言葉と文化に親しむことを第一目標として、言葉だけでなく、歴史や文化に関する事柄にも目を向ける。ことばの学習の合間に、歴史や文化に関する事柄を取り上げ、資料にもとづいて解説する。到達目標として、基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	主要授業科目
			ポルトガル語Ⅱ	○	本講義では、基本的な会話表現を学ぶ。ブラジルの言葉と文化に親しむことを第一の目標とする。そのため、言葉の学習の合間に、歴史や文化に関する事柄を取り上げ、資料にもとづいて解説する。授業はブラジル中心に進めるが、さらに広い視野からポルトガル語を学べるよう、適宜、ポルトガルの大航海時代や日本の南蛮貿易、キリシタン史などの興味深いエピソードにも触れる。到達目標として、自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができることを目指す。	主要授業科目
			ポルトガル語ⅢA	○	本講義では、会話表現のみならず、文法をきちんと押さえながら学ぶことによって、「聞いて話す力」と「読んで書く力」を養う。授業はブラジルを中心に進めて行くが、ポルトガルの大航海時代や日本の南蛮貿易、キリシタン史などの興味深いエピソードにも触れる。到達目標として、自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目指す。	主要授業科目
			ポルトガル語ⅢB	○	本講義では、表現力を高めるうえで欠かせない完了形や未来形、受動態、さらに接続法の使い方を習得するよう努める。会話表現のみならず、文法をきちんと押さえながら学ぶことによって、「聞いて話す力」と「読んで書く力」を養う。授業はブラジルを中心に進めて行くが、ポルトガルの大航海時代や日本の南蛮貿易、キリシタン史などの興味深いエピソードにも触れる。到達目標として、自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目指す。	主要授業科目
			ロシア語Ⅰ	○	本講義では、ロシア語の基礎文法と簡単な会話を学び、ロシア語で簡単なコミュニケーションがとれる語学力を身に付けることを目指す。また、語学学習だけでなく、映像資料を活用して、ロシア文化やロシア社会についても紹介する機会を設ける。 ロシア語の基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができるようになるとともに、ロシア語圏の人びとの生活・文化などへの理解を深めることを目指す。	主要授業科目
			ロシア語Ⅱ	○	本講義では、ロシア語の基本的な文法知識を修得し、身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができ、簡単なコミュニケーションがとれる語学力を身に付けることを目指す。また、映像資料を通してロシア文化やロシア社会についても触れる機会を設ける。 外国語の学習を通して、その言語が話されている国に暮らす人々の思考方法だけでなく、生活・文化などへの理解を深めることを目指す。	主要授業科目
			ロシア語ⅢA	○	本講義では、ロシア語ⅠおよびⅡで学んだ知識を基礎に、ロシア語で書かれた文学作品を題材として、新しい文法事項を学習しながら、平易なロシア語を読解する力を養う。辞書を頼りに、平易なロシア語のテキストが読めるようになることを目指す。学習を通して、単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができるようになることを目指す。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	ロシア語ⅢB	○	本講義では、ロシア語ⅠおよびⅡで学んだ知識を基礎に、ロシア語での会話力をつける。主に、ロシア語の発音練習を通じて、修飾語の表現、単文及び複文における目的や理由の表現、一致・不一致定語、動詞の支配等を学修する。到達目標として、自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目指す。	主要授業科目
			英語セミナーD1	○	本講義では、英語で書かれた小説や詩を鑑賞することにより、文学作品の背景にある歴史や文化を学びながら、総合的な英語の読解力を高めることを目指す。これまでに慣れ親しんできた教科書の英語とは異なるスタイルの英文を読むことによって、教科書向けに薄められていない生きた英語に触れ、知的な英文を読む際に必要とされる構文把握力、語彙力等を養うことができる。また、単なる文章の訳読ではなく、物語のあらすじや登場人物の感情などを理解し、さらにそれを自分自身の感想として英語で表明できるようになることを目標とする。	主要授業科目
			英語セミナーD2	○	本講義では、「英語セミナーD1」に引き続き、英語で書かれた小説や詩を鑑賞することにより、文学作品の背景にある歴史や文化を学びながら、総合的な英語の読解力を高めることを目指す。これまでに慣れ親しんできた教科書の英語とは異なるスタイルの英文を読むことによって、教科書向けに薄められていない生きた英語に触れ、知的な英文を読む際に必要とされる構文把握力、語彙力等を養うことができる。また、単なる文章の訳読ではなく、物語のあらすじや登場人物の感情などを理解し、さらにそれを自分自身の感想として英語で表明できるようになることを目標とする。	主要授業科目
			英語セミナーG1	○	本講義では、TOEFLやIELTSの演習を中心に、英語圏への留学の準備となるような総合的な英語運用能力の養成を目指す。将来、海外留学を希望する学生に対し、留学前に必要な資格試験の対策や留学後に必要な英語運用能力の向上をサポートする機会を提供する。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのバランスのとれたアクティビティをグループや個人で行い、留学先で実際に英語で授業を受ける際に必要な能力、すなわち、英語で意見を述べたり、知的な質問をしたり、答えたりする力を身につけることを目標とする。	主要授業科目
			英語セミナーG2	○	本講義では、「英語セミナーG1」に引き続き、TOEFLやIELTSの演習を中心に、英語圏への留学の準備となるような総合的な英語運用能力の養成を目指す。将来、海外留学を希望する学生に対し、留学前に必要な資格試験の対策や留学後に必要な英語運用能力の向上をサポートする機会を提供する。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのバランスのとれたアクティビティをグループや個人で行い、留学先で実際に英語で授業を受ける際に必要な能力、すなわち、英語で意見を述べたり、知的な質問をしたり、答えたりする力を身につけることを目標とする。	主要授業科目
			英語セミナーH1	○	本講義では、日常生活のさまざまな問題について英語で議論を行い、自身の意見を英語で発信できる高度なプレゼンテーション能力の養成を目指す。授業は英語母語話者の教員が担当し、すべて英語でオーガナイズされたグループワークやペアワークを行う中で、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのすべての能力を向上させる機会を得ることができる。これらの知的活動を通して、学生が将来のキャリアや研究、留学のために英語を使用するのに十分な自信を持つとともに、物事を批判的に考えるスキルを身に付けることを目標とする。	主要授業科目
			英語セミナーH2	○	本講義では、「英語セミナーH1」に引き続き、日常生活のさまざまな問題について英語で議論を行い、自身の意見を英語で発信できる高度なプレゼンテーション能力の養成を目指す。授業は英語母語話者の教員が担当し、すべて英語でオーガナイズされたグループワークやペアワークを行う中で、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのすべての能力を向上させる機会を得ることができる。これらの知的活動を通して、学生が将来のキャリアや研究、留学のために英語を使用するのに十分な自信を持つとともに、物事を批判的に考えるスキルを身に付けることを目標とする。	主要授業科目
			英語セミナーJ1	○	本講義では、目的に応じてさまざまな種類のパラグラフを書いたり、英語でレポートやエッセイが書くことのできるよう高度なライティング能力の養成を目指す。「英語セミナーJ1」では、英語には英語の文章の書き方が存在することを理解し、物語、対比、比較、原因、結果など、さまざまなスタイルの段落の書き方を学習する。また、実際に英語でパラグラフを書く練習を通してアイデアと議論の構造、スタイル、明確な表現などを習得することを目標とする。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	英語セミナーJ2	○	本講義では、「英語セミナーJ1」に引き続き、目的に応じてさまざまな種類のパラグラフを書いたり、英語でレポートやエッセイが書くことのできる高度なライティング能力の養成を目指す。「英語セミナーJ2」では、エッセイライティングを中心としたある程度まとまった英語の文章作成能力の向上に重点を置き、実際に300 words程度の英文エッセイを書く練習をすることで、英語における文章の論理展開や段落構成を学び、自身の考えや意見を英語で簡明に表現する技法を習得することを目標とする。	主要授業科目
			英語コミュニケーションⅠ	○	（英文）In this class students will research and talk about current events and cultural trends. After the teacher has introduced a topic, students will research and prepare presentations and discussions about them. （和訳）本講義では、学生は時事問題や文化的傾向について調査し、ディスカッションを行う。教員が話題を紹介した後、学生はそれに関するプレゼンテーションやディスカッションに向けて準備していく。	主要授業科目
			英語コミュニケーションⅡ	○	（英文）In this lecture, in order to proactively improve English proficiency, we will thoroughly analyze the grammatical structure, semantic relationships, cultural background, etc. of the language we learn in class, and improve our overall English proficiency. （和訳）本講義では、 積極的に英語能力を向上させるために、 授業で学ぶ言語の文法構造、意味関係、文化的背景などを徹底的に分析し、総合的な英語力を向上させていく。	主要授業科目
			Intercultural Discussion	○	（英文）This class deals with the difficulties of communicating between cultures. The need for awareness of cultural differences is a must in this era. we will consider how to interact with people from other cultures, while keeping an open mind, and flexible thinking patterns. In addition, we will look closely at concepts that are truly important in this era: global development, the environment, and education. This class is conducted entirely in English and is open to international students from outside the course. （和訳）本講義では、文化間のコミュニケーションの難しさを扱う。この時代において、文化の違いを認識する必要性が必須となり、広い心と柔軟な思考パターンを保ちながら、異文化の人々とどのように交流するかを考えていく。 さらに、この時代に重要な「国際開発」「環境」「教育」の概念にも迫る。この授業はすべて英語で行われ、コース外からの留学生も参加できる科目である。	主要授業科目
			中国語コミュニケーションⅠ	○	本講義は、中国語の入門講座である。「聞く」「読む」「書く」という三つの基本的な方法で学ぶ。発音のピンイン、声調を習得し、文法の使い方も習う。また、日本語と中国語を比較して、両者の違いも明確にする。中国語の正しい発音をしっかりと身につけ、さらに単語だけでなく、短文を覚えることにより、簡単な自己紹介や自己表現ができるようになる。また実用性のある単語を用いて繰り返し練習し、簡単な会話もできるようになることを目指す。	主要授業科目
			中国語コミュニケーションⅡ	○	本講義は、中国語の初級講座である。「聞く」「話す」「書く」という三つの基本的な方法で学ぶ。これまでに学習した単語や文法を生かし、さらに新たな内容も習得して、中国語の作文にチャレンジする。また、日中の言語の相違点も明確にして、理解を深める。文章を書くことだけでなく、日常的な会話ができるようになる。また、中国語検定準4級のレベルを身につけることができることを目指す。	主要授業科目
			ドイツ語コミュニケーションⅠ	○	ドイツ語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指し、本講義では、日常生活および社会生活で用いられる様々なドイツ語に触れながら、当該の言語を用いたコミュニケーションに習熟していく。個別の場面・トピックに関連した会話ができるようになることを目指す。	主要授業科目
			ドイツ語コミュニケーションⅡ	○	ドイツ語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指し、本講義では、テキストや映像資料を用いて、ドイツ語でのコミュニケーション力を身に付けるだけでなくドイツ文化についても取り上げ、異文化への理解を深めることを目指す。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	スペイン語コミュニケーションⅠ	○	本講義では、スペイン語運用能力（聞く・話す・読む・書く）の向上をめざし、スペイン語の基本となる文法を項目別に学ぶとともに、読解力や聴解力についても身につける。本講義での学修を通して、簡単な日常会話が可能なスペイン語によるコミュニケーション能力の獲得を目指す。	主要授業科目
			スペイン語コミュニケーションⅡ	○	本講義では、『スペイン語コミュニケーションⅠ』で習得した内容をもとに、スペイン語運用能力（聞く・話す・読む・書く）の更なる向上を目指す。文法知識の修得とともに、読解力や聴解力についても身につけることにより、簡単な日常会話が可能なスペイン語力を獲得することを目指す。	主要授業科目
			フランス語コミュニケーションⅠ	○	本講義は、初めてフランス語を学ぶ２年生以上、あるいはもう一度フランス語を最初から学び直したい学生を対象とした、フランス語入門の科目である。授業名には「コミュニケーション」とあるが、限られた時間の中で効率よく外国語を習得する目的上、新たな外国語の学習に不可欠である基本語彙と基礎的な文法知識の獲得を中心にすえ、その応用としてフランス語で表現する練習を重ねていく。フランス語の初等文法の習得、簡単な日本語からフランス語への言い換えを目指すとともに、仏和辞典や問題集やテレビ・ラジオの語学講座を利用し、自らフランス語の勉強を続けていける基礎力を身につけることを目標とする。	主要授業科目
			フランス語コミュニケーションⅡ	○	本講義は、初級文法の重要課題である複合過去時制を会話や読解において確実に使えるようになることを目指す。 授業名の「コミュニケーション」が表すように、教室ではフランス語で会話することに重きを置く。そして、同時に、フランス語の学習に不可欠な基礎的な文法項目と語彙の習得をも十分に意識し、応用力の高いフランス語の習得を目指す。	主要授業科目
			コリア語コミュニケーションⅠ	○	本講義では、文字の発音と基本的な音韻規則について学び、正確に発音できることに重点を置く。次に、授業計画に沿った各文法事項の理解度をテキストの＜練習＞問題を通じてその都度確認することで文法知識の確実な定着を図る。また、テキストの＜実践会話＞を用いた対話練習などを通じて実践へと繋げていく。さらに、ハングルで自分だけの名刺を作成するなど、テキスト内のアイテムをフルに活用しながら楽しくコリア語学習を進めていく。 簡単な挨拶と自己紹介ができる、基礎語彙を使ったごく簡単な日常会話ができることを目標とする。	主要授業科目
			コリア語コミュニケーションⅡ	○	本講義では、特に「話す」力に重点を置き、テキスト内の基本的な語彙、文型を確認しつつ、音声資料や教師の発音に倣ってペア、またはグループで対話練習をすることで、より高度なコミュニケーション能力を養うための土台をつくる。また、テキスト内の文法・会話項目だけでなく、必要に応じて韓国・朝鮮の文化、ニュース等も取り上げる。 文字を見ないで疑問、否定、過去、尊敬などの文を組み立てることができる、基本的な会話がスムーズにできるようになることを目標とする。	主要授業科目
			ヨーロッパ研究A		前半では、ユダヤ教の根幹にある思想とその文化の特質について理解するために、聖書やタルムード等のユダヤ教のテクスト的伝統と冠婚葬祭や年中行事等の儀礼について解説しながら、離散ユダヤ文化に特有の歴史認識や対他者関係の基本的な特徴について概観する。後半では、離散したユダヤ人がヨーロッパ・キリスト教世界において、居住地域の文化や社会との葛藤に満ちた接触を通じて、独自の文化をいかに発展させてきたかを、主としてユダヤ人社会の内部の視点から辿る。	
			ヨーロッパ研究B		ヨーロッパの学知は二つの思想的源泉をもっている。ひとつは古代ギリシアを端緒とする神話と哲学であり、もうひとつはヘブライに由来するユダヤ教とキリスト教である。 本講義では、そのうちの前者（神話と哲学）に焦点を当て学修していく。前半では、ヨーロッパの哲学思想の起源を代表するテクストを概観するとともに、二十世紀以降に現れたその優れた解釈を参照する。後半では、具体的なトピックを立て、近現代のヨーロッパにおける哲学思想の議論を参照する。この二つの手続きを通じて、自ら考えるための知的引き出しをつくり、増やすとともにその実践についても検討する。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	ヨーロッパ研究C		本講義では、スペインの歴史、文化や社会を取り上げて、ヨーロッパの多文化性・多民族性について学ぶ。歴史・文化・芸術・経済・政治の諸側面から学ぶことを通して、ヨーロッパの南西に位置するスペインの現代社会と文化のありようについて、理解を深めることを目指す。	
			ヨーロッパ研究D		ヨーロッパ史研究において、16・17世紀は「宗派の時代」と呼ばれている。それは、この時代にルター派や改革派といったプロテスタント諸宗派が生み出され、キリスト教諸宗派の並立状態が当時のヨーロッパ社会全般に深く影響を及ぼしたからである。このような時代に宗派と権力闘争が分かち難く結びつき、多くのヨーロッパ諸国で宗派をめぐる争いが引き起こされ、社会の分裂もしくは統合が促されていった。このような宗教をめぐる対立は、現在の社会においても克服されえない課題となっている。本講義で取り扱うハプスブルク家が治めていた中欧でも、カトリックとプロテスタントとの対立が激化し、三十年戦争（1618～1648）という国際的な宗教戦争にまで発展してしまう。なぜ、宗派対立が激化したのか。そして、宗派対立とその後の宗教政策が中欧諸国にいかなる影響を及ぼしたのか。最終的にそれらが私たちの時代にどうつながっているのか。このような問題について、中世から近現代までの歴史的な出来事をたどりながら、ヨーロッパ社会とキリスト教（教会）との関係を考察していく。	
			東アジア研究A		中国はこの四十年の間で、政治、経済、文化の諸側面で急激な変化をし、目覚しい社会発展を遂げてきた。特に21世紀に入ってから、中国はWTOの加盟、長年の高度経済成長、遂に世界第二の経済大国になった。一方、経済格差、環境ないし各種の社会問題も目立つようになった。また、中国と日本は悠久の交流史をもつ縁の深い隣国で、現在、第2・第3の経済大国として切っても切れないほど緊密な関係を築いていた。近年、尖閣諸島や中国の海洋進出などの問題をめぐり、両国間の関係が紆余曲折の状態にある。しかし、日中関係は深い相互依存の関係にあるため、これから更なる経済的、文化的、人的交流の流れが変わることはなく、より強化されていくだろう。 本授業では、現代中国の社会文化およびその変化をより深く理解するため、中国の社会文化の実状をいくつかの内容に分けて、映像資料を活用し、分かりやすく講義する。講義内容は現代中国の政治体制、民族構成、漢民族の社会文化の多様性、また、現在における宗教文化、年中行事、食文化、通過儀礼に関連する状況や問題、およびそれらに関わる漢民族の文化習俗について学ぶ。さらに、祖先祭祀の再興、「両岸四地」と呼ばれる中国大陸、台湾、香港、マカオという中華世界の関係、海外華僑と故郷、日中社会・経済関係などの内容も取り入れながら、視覚的に紹介する。	
			東アジア研究B		人はみな、なんらかの集団の中に属しながら生活をしている。集団を構成する人々はみな、自分とは違う背景をもっている。背景の違いは文化の違いを生み、文化の違いは、時に衝突の原因をつくる。しかし、きちんとした理解がある場合、「文化の違い」を知ることは「学び」にもなる。本授業では、この集団をすこし大きくとらえ、日本と韓国・朝鮮の「文化の違い」について学ぶ。日本と韓国・朝鮮の「文化の違い」について考えるために、両国の歴史・地理、宗教を始め、言語や芸能、食文化、生活習慣など、幅広く学んでいく。そして、「文化の違い」がもたらす、「衝突」や「学び」を考察し、「文化の違う相手を理解する」ことを学ぶ。	
			東南アジア研究A		「東南アジア」と呼ばれる地域は、宗教や文化、民族もさまざまで、経済発展の度合いや政治体制の異なる国々から成り立っている。本講義では、東南アジアの地域としての特徴や歴史を理解したうえで、各国が直面する課題について学ぶことを目的としている。政治学的なアプローチが中心となるが、東南アジアの多様な文化についても写真や映像などを通して紹介する予定である。前半では、東南アジアの歴史を概観するとともに、東南アジアの政治や社会を理解する際に役に立つ視点について解説していく。その後、各国がたどってきた発展過程について学んでいく。東南アジアについての基本的な知識を得ることだけではなく、それぞれの事例について国際社会の変化と関連付けて考えられるようになることを目標とする。	
			東南アジア研究B		本講義の主要テーマは、東南アジア諸国・地域の政治経済に関する知識を培い、理解を深めることである。具体的には、ASEANに加盟する主要国の経済がたどってきた発展過程について解説し、現在各国の経済が抱える問題、ASEANという組織が「ASEAN経済共同体」の形成を通じて加盟東南アジア諸国の経済開発に関して担うべき課題について論じる。 まず、東南アジアという地域、そこに位置する国々の経済と政治について、そしてそれら国々の大半が加盟するASEANという組織の歴史と意思決定、政策実施の仕組みについて、基本的な知識を身につけることを目指す。次いで、それら諸国・地域が現在抱える経済開発の課題について考え、今後を展望する考察力を養う。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	北米研究Ａ		本講義では、アメリカ合衆国の歴史の中で特に重要と思われる出来事を取り上げながら、多文化社会の形成過程を考察し、「アメリカとは何か」「アメリカ文化とは何か」について理解する。民族や移民をめぐるアメリカ社会の今日的課題についても取り上げる。	
			北米研究Ｂ		本講義では、北アメリカ社会に遍在している「小さな博物館」は歴史的に生み出され、現在もアメリカ社会に息づいている「生きた」存在である。この「小さな博物館」を通して、アメリカ社会の過去、現在、未来を考察する。人種差別撤廃運動、移民排斥運動、女性解放運動、その他の社会改革運動の背景とその遺産について理解を深める。	
			中南米研究Ａ		本講義では、主にメキシコ・中米・カリブ地域の政治、経済をメインに学習していく。アメリカ合衆国への不法移民の問題は年々、大きな問題となっている。不法移民する多くの人々は中米地域から来る人々である。現在、中米地域は政治的にも経済的にも非常に不安定で、貧しい生活に加え、治安の悪化によって日常生活さえも成り立たなくなり、必要に迫られて祖国を去る人が増えている。そうした社会問題の根源には何が存在するのかをじっくりと考察していく。またメキシコ、中米地域の政治や経済は良くも悪くも隣国のアメリカ合衆国との関係によって成り立っている。こうしたメキシコ・中米地域の現代の状況を理解するため、国家の成り立ち、現代に至るまでどのような歴史をたどりながら、政治、経済をメインに学習していく。注目すべきトピックを挙げて、メキシコ・中米地域の知識を深めることを目指す。	
			中南米研究Ｂ		本講義では主に南米地域の政治、経済を中心に取り扱っていく。 南米は天然資源に恵まれ、人口増加も著しい地域で、今世紀さらなる発展が見込まれる地域の一つであるが、最近南米では政治システムが不安定になり、経済発展が妨げられている。その要因は格差や貧困、治安の悪化などによって民衆の生活が成り立たなくなっており。ここ数年、各地でデモや暴動が頻発している。 現代の問題を理解するには、南米地域の国家の成り立ち、現代に至るまでどのような歴史をたどってきたのかを理解する必要がある。南米は国によって政治体制が大きく異なり、その点が非常に興味深いものとなっている。 他方、南米にはブラジルを中心として日系人がたくさん住んでおり、日本との関係性もきわめて深いものがある。 このようなトピックをいくつか取り上げて、南米地域の政治、経済、社会情勢等への理解を深めるとともに、南米と日本との関係性についても理解を深めることを目的とする。	
			グローバル・サウス研究Ａ		本講義では、世界各地にのこる風変わりで不思議な風習や習俗、お祭りなどに目を向け、世界の多様で豊かな文化や伝統を一瞥する。そしてそうした多様で豊かな先住民文明が近代の営利一辺倒社会の展開の中で失われていった過程を辿り、今日の南北問題のもっとも根源的な問題点を検討していく。 一般的に言われる「南北問題」とは違って、ヒトとヒトの関わりやヒトと営利・商品・自然の関わりを「根っこから見直す」講義で、今までとは少し異なった視点から歴史的な問題の本質を世界史的・文明史的に学ぶ。南北問題や先住民問題への理解の深化だけでなく、新たな視点で、歴史や文化・環境の問題への理解を深めることを目指す。	
			グローバル・サウス研究Ｂ		世界ではＩＬＯが「最悪の形態の児童労働」と規定するような、信じられないような過酷な労働形態を押しつけられて、つらい悲しい思いをしている子供たちがたくさんいる。子供たちのそうした苦境が、私たち日本人の毎日の「あたりまえな生活や日用品」と決して無縁なものではない事実・現実について、この講義では考えを深めていく。また、現代世界の大多数を占める「貧しい」国々の、特に先住民や多くの子供たちの信じられないような苦境へのまなざしを通して心を大きく動かし、自分の生き方と今後のグローバル共生社会の在り方について真剣に考える姿勢を身に付ける。	
			異文化研究Ａ		本講義では、は国境を越えて広まり、世界中の若者を魅了し、時には政治の壁をも突き崩した大衆文化（ポップカルチャー）をテーマに、欧米のポップカルチャー（大衆文化）、映画とポップミュージック（大衆音楽）に焦点を当て、個々の現象が発生した社会的な背景を織り交ぜながら解説する。「激動の時代」と称される1960年代中盤から70年代後半までの社会の変容が映画や音楽にもたらした影響に留意する。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	異文化研究Ｂ		本講義では、異文化研究の手法の一つとして「デジタルストーリーテリング」（以下「DST」と記す）をとりあげる。DSTとは写真とナレーションで構成された短い映像作品を、映像制作の専門家ではない「普通の人」がパソコンなど身近な機材を使ってつくる実践のことである。少人数のワークショップで、ストーリーづくりから編集作業、上映までをおこなうのが特徴だ。本講義では、世界各地で取り組まれているDSTの事例について学びつつ、文化研究分野への応用可能性について考えていく。また、授業において実際に作品づくりに取り組んでいく中で、デジタルコンテンツを制作・公開していくための知識や技術を身につけていく。	
			多文化映像論Ａ		本講義では、映像作品で「他者」と出会い、各々の自明を相対化し、それによって「共に生きる社会」の基本「自らを相対化する視点」「『他者』への敬意」を養うことを目指す。また、映像の読み解き方を考えることで、巷間溢れる扇情的、非知性的メディア報道を批判的に認識する英知を培うことを目的とする。	
			多文化映像論Ｂ		本講義では、講師の制作した映画の制作背景を知ることで、実践的な参与観察型ドキュメンタリー映画の制作手法を学び、映像表現における可能性と限界を理解することをめざす。また、参与観察型ドキュメンタリー映画の理論と方法論について学びながら、多文化理解のための映像メディアリテラシー力を養う。	
			国際関係論Ⅱ		国際社会において、平和と安全を守ることは常に大きな課題である。第2次世界大戦の後には、国際連合を中心にする集団安全保障システムがつくられたが、充分に機能することはなかった。しかしその代わりに、国際社会の現実に即した形で、さまざまな試みがなされてきたのである。本講においては、国際社会の平和と安全を守るためのさまざまなシステムについて、考察を加えていくこととしたい。	
			現代国際関係史		第二次世界大戦後から約半世紀の間は米ソ超大国が対立する、いわゆる「冷戦の時代」だった。それは「第三世界」の諸地域が植民地支配からの独立を果たし、新しい国家をつくろうとしていた時期に重なる。大国間の冷戦的対立は新興独立諸国にどのような影響を与えてきたのだろうか。 この授業ではこうした観点から、アメリカとソ連の冷戦的思考の形成と介入的行動の諸事例を取り上げつつ、その影響を受けてきた「第三世界」諸地域の歴史を概観する。さまざまな地域の冷戦期における独立過程や政治的状況を学び、途上国の貧困問題など現在の国際的諸問題を理解するための視野を広げ、考察を深める機会とする。	
			国際ジャーナリズム論		情報が国境を越えていく過程でニュース・メディアは重要な役割を果たしてきた。今日においても、情報のグローバル化を背景に、国際ニュースに対する需要は高まる一方である。本講義では、19世紀後半から冷戦時代、そして現在に至るまでの国際ニュース報道の変容について、その時々の国際情勢を絡めながら論ずる。併せて、世界規模での情報発信源として依然巨大な力を持つアメリカ合衆国におけるニュース・メディアの現状と課題を概説する。	
			グローバル経済史Ａ		近年、歴史学において「グローバルヒストリーGH」の視座が市民権を得た。中学・高校段階でも「歴史総合」において、世界と日本の相互的関係を主軸としている。GHとは、統一された視点から時間・空間・テーマに長大な幅をもたせ、近代や欧米の相対化を果たし、諸地域間の相互関連・相互影響を重視する。その結果、政治・戦争・宗教といった従来のテーマに加え、疫病・環境・人口・生活水準など日常に近い新たなテーマが発掘されている。 本科目では、古代から産業革命まで、欧米とアジアの経済交流を主な対象とする。	
			グローバル経済史Ｂ		近年、歴史学において「グローバルヒストリーGH」の視座が市民権を得た。中学・高校段階でも「歴史総合」において、世界と日本の相互的関係を主軸としている。GHとは、統一された視点から時間・空間・テーマに長大な幅をもたせ、近代や欧米の相対化を果たし、諸地域間の相互関連・相互影響を重視する。その結果、政治・戦争・宗教といった従来のテーマに加え、疫病・環境・人口・生活水準など日常に近い新たなテーマが発掘されている。 本科目では、20世紀から現代まで、覇権国家の交替と経済活動の発展を学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	国際金融論		貿易だけでなく、国境を越えた経済、金融・投資活動が広く一般化した今日、各国の経済・金融現象は深く結びつき合っている。また一地域で起こった資産バブルやその崩壊とその結果として生じる金融危機は、他地域へ波及（伝染）し、時には世界的不況を引き起こし、私たちの経済活動に大きな影響を与えてきた。こうした現象を正しく理解し、経済・金融現象として何が起こり得るか、そのためにどのような備え（リスク管理）をしたら良いか、そうした知識・理解力は、ビジネスの面でも、また個人の資産形成の面でも大変有益なものになる。	
			国際協力論		国際協力業界（国際協力機構(JICA)、NGOなど）での実務経験のある教員が、その経験を活かして、国際協力の理論と実際の姿について講義する。国際協力の仕組みと実際の活動について、オンライン（原則オンデマンド）かつアクティブ・ラーニング型授業の形式で体系的に学びます。本講義では、経済学が国際協力にいかに応用できるかという観点を重視している。一連の講義を通じて、①国際社会（特に開発途上国）で起こっている諸問題とその原因、そして、問題解決に向けた国際協力の仕組みや活動内容について理解を深めること、②国際協力の世界的な潮流（マクロ）と、現場のリアリティ（ミクロ）の双方を把握した上で、政府援助機関、国際機関、NGO、民間企業、市民社会組織、ボランティアといった様々な国際協力アクターが果たす役割を理解すること、③国内外の社会課題の解決のために、我々はどのような取り組みをすべきかを実践を通じて検証することを目的とする。	
			アジア経済史		最近、グローバルヒストリーという言葉を聞くようになった。巨視的に歴史を見ることはこれまでも行われていたが、今言われる「グローバルヒストリー」には「地球史」を書こうという壮大な意図がある。本講義では、経済史を軸としたグローバルヒストリーにかかわる議論を紹介していく。その上で、重要なカギとなるアジア経済の発展について講義していく。	
			ヨーロッパ経済史		現代世界の起源はイギリス産業革命（１８世紀後半）に求められる、と言っても決して誇張ではない。産業革命の成立によって資本主義は世界経済となり、今日の経済発展を達成した。科学技術のめざましい発達もその副産物である。だが一方で、資本主義の全世界的な拡大と浸透は、侵略と植民地支配・奴隷貿易・二度にわたる世界大戦等にみられるように、人類に筆舌に尽くしがたい痛苦と惨劇をもたらした。 本講義の前半は、現代資本主義の問題としてナチス・ドイツを取り上げ、第二次世界大戦の実態を資本主義と戦争経済の視角から考察する。 後半は、イギリス産業革命に焦点を当て、資本主義の発生を歴史的に捉える。同時に宗教改革や市民革命の歴史的な役割を検証し、近代世界システム成立の構造を解明する。 以上、本講義の目的は、世界の過去と現代を往還しながら、今日の支配的な経済システムである資本主義の核心的な問題に迫ることにある。	
			地域経済論		本講義では、琉球、太平洋諸島という島嶼社会における地域経済について具体的に検討していく。現在、地域間格差が問われ、地域振興の必要性が主張されているが、政府が振興開発を実施すれば地域は経済自立するのであろうか。これらの島々では経済自立を目指して振興開発が実施されたが、環境問題、社会問題、経済依存等、様々な問題が山積するようになった。 本講義ではその原因を明らかにし、問題解決のために実践されている住民参加型の取り組みについて考察する。	
			アジア経済論Ａ		インドの経済社会発展について、産業発展、対外経済関係、教育や社会保障など幅広い側面における成果と残された課題を確認し、1991年の政策転換以降、経済成長が実現する一方で人々の生活改善に遅れが目立つという特徴を明らかにするとともに、雇用拡大の遅れ、教育の質の問題、社会保障制度の非効率性といった問題を取り上げて議論する。政治・社会の特質や歴史的経緯、制度的構造といったインドの固有性への理解を深めつつ、経済学の基礎的な考え方や概念を用いて論じる。	
			アジア経済論Ｂ		インドの経済社会発展について、経済成長の持続と人々の生活改善を実現するための政策のあり方を議論する。国産化と輸出促進に向けた産業政策、教育や保健といった公共サービスや社会保障制度を拡充しつつ財政赤字削減を目指す財政改革、雇用促進を企図した労働市場自由化、自給を優先してきた農産物市場規制の是正といった主要な政策課題を取り上げ、現実の問題と政策の背景にある経済理論の考え方、インドを取り巻く国際環境の変化を理解した上で、政策の進捗と成果、今後の政策対応の課題について論じる。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	比較経済論Ａ		金融恐慌や大量失業、貿易・通貨摩擦など、一人ひとりの技能や努力によっては解決できない問題がある。それらが経済の仕組みや政策決定メカニズム・社会構造によって生じていると意識したとき、異なる経済体制を比較し、体制の改革を考えることが重要なテーマとなる。 金融危機後も、資本主義システムがグローバルな社会・政治的変動を規定しているが、同時に、その限界についても論争が続いている。経済学・経済政策の限界だけでなく、経済体制や国際システムの移行期における、政治経済体制を革新する各地の試みに注目し、それらを深く考察するための知識を提供する。 本科目では、古典編として、資本主義と社会主義の比較、豊かな国と貧しい国の比較を取り上げ、経済体制の変革がもたらす可能性を学ぶ。	
			比較経済論Ｂ		金融恐慌や大量失業、貿易・通貨摩擦など、一人ひとりの技能や努力によっては解決できない問題がある。それらが経済の仕組みや政策決定メカニズム・社会構造によって生じていると意識したとき、異なる経済体制を比較し、体制の改革を考えることが重要なテーマとなる。 世界金融危機後も、資本主義システムがグローバルな社会・政治的変動を規定しているが、同時に、その限界についても論争が続いている。経済学・経済政策の限界だけでなく、経済体制や国際システムの移行期における、政治経済体制を革新する各地の試みに注目し、それらを深く考察するための知識を提供する。 本科目では、発展編として、1980年代から現代に至るまでの現実的事象を、資本主義の多様性としてとらえ、また帝国主義からグローバリゼーションにおよぶ国際的展開について学ぶ。	
			開発経済学Ａ		開発経済学は、発展途上国が直面する諸問題を分析し、経済発展のプロセスを解明することにより、望ましい開発政策を提示すべく、発展を遂げてきた学問分野である。各国の経済発展、国際情勢等の変化とともに、開発思想、開発政策、そのもととなる理論的枠組みは大きく進化し、「開発」の意味は、単なる「一国の経済発展」から「人々の幸せ」へ、より広く、深化した概念となり、また、扱うテーマも多岐にわたっている。 本科目では、開発経済学の学説史的考察（第2次世界大戦後の開発経済学黎明期から今日までの開発経済学の主要な理論枠組み、考え方の変遷を紹介）および途上国が抱える社会・経済的な課題について論ずる。	
			開発経済学Ｂ		開発経済学は、発展途上国が直面する諸問題を分析し、経済発展のプロセスを解明することにより、望ましい開発政策を提示すべく、発展を遂げてきた学問分野である。各国の経済発展、国際情勢等の変化とともに、開発思想、開発政策、そのもととなる理論的枠組みは大きく進化し、「開発」の意味は、単なる「一国の経済発展」から「人々の幸せ」へ、より広く、深化した概念となり、また、扱うテーマも多岐にわたっている。 本科目では、開発経済学の主要な理論や考え方、途上国が直面する各種課題について国際機関の統計を用いたデータ分析やグループディスカッションを通じて理解を深める。	
			ヨーロッパ経済論		欧州連合（EU）の歴史には1980年代が「eurosclerosis」時代として知られている。1980年代まで貿易面では規制緩和がすすんで、自由貿易協定の目標がほぼ完成できたが、EUの目的であった共通市場を実施するまで必要な改革が先送りになった。しかし、1990年代に入るとEMU（Economic and Monetary Union - 経済通貨統合）が共通市場のため必要なエレメントとして実施されて、中東欧への拡大は旧ソ連ブロックの民主主義発展のための大きな刺激となり、またEU城内の政治的な統合を深めるプロセスが始まった。政治的なプロジェクト、欧州憲法は2005年５月に行われたオランダとフランスの国民投票の結果で拒否されたが、通貨統合と拡大プロセスが比較的にスムーズに実施されている。最近まで両プロジェクト（通貨統合および拡大）が大きな困難なく順調に行ったが、ギリシャをはじめ欧州の公債および信用危機により大きな影響を与えられた。今でもこの問題は多くの研究者から注目されている。 この講義では、欧州経済統合の諸問題―経済統合のコスト・ベネフィット、EU共同機関、EU共同政策、欧州通貨統合等、EU拡大を取り上げる。	
			食・農・資源の経済論Ａ		私たちの命を支える源である食べ物の大半が農業の営みを通じて生産される。農業は太陽エネルギーを化学エネルギーに変換し、私たちの食料を生産する役割を担うのみではなく、地球や地域の自然資源の適切な利用と管理に大きな役割を果たし、環境の持続性に貢献している。本講義では、受講者が卒業後、企業、行政、ＮＰＯ等多様な分野で活動する際に最低限必要な食料・農業・資源の社会・経済領域の理論及び諸事象に関する知見をSDGsと関連させて理解し、市民としての関わり方について自分が生活する場を参照しながら説明できるようになることを目標とする。 本科目では、自らの食を振り返ることから始め、日本及び世界の食と農の諸事情について主に事例を通して学ぶ。例として、高度に工業化した食料生産、有機農業や地産地消／農福連携などの身近な取り組みを扱う。講義科目であるが、学期中に京都近辺の農園を実際に訪問し、私たちの食の生産現場に触れる機会を持つ。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	食・農・資源の経済論Ｂ		私たちの命を支える源である食べ物の大半が農業の営みを通じて生産される。農業は太陽エネルギーを化学エネルギーに変換し、私たちの食料を生産する役割を担うのみではなく、地球や地域の自然資源の適切な利用と管理に大きな役割を果たし、環境の持続性に貢献している。本講義では、受講者が卒業後、企業、行政、ＮＰＯ等多様な分野で活動する際に最低限必要な食料・農業・資源の社会・経済領域の理論及び諸事象に関する知見をSDGsと関連させて理解し、市民としての関わり方について自分が生活する場を参照しながら説明できるようになることを目標とする。 本科目では、生命と地域の視点から食・農・環境の問題を主に歴史および政治経済的分析を通して学ぶ。具体的には、国連食糧農業機関をはじめとしたグローバルな枠組み、多国籍企業など民間セクターと国家等の公的セクターの役割、グローカルな食と農のシステム構築、スマート農業の技術の特色と課題などについて、教科書を用いて学ぶ。	
			日本経済史Ａ		ケインズは「経済学者は未来に向けた目的のために、過去の光に照らして、現在を研究しなければならない」と主張したが、経済史は、まさにこの光源たる「過去」を史料にもとづいて究明する学問であり、日本経済史では、それを日本経済に即して明らかにしていく。19世紀後半から20世紀半ばまでの日本経済史についての基本的な知識を習得するとともに、戦前期日本の経済発展の大きな背景となる近代植民地帝国としての歩みについても基本的な知識を身につける。 本科目では、政治史的な内容が加味され、大日本帝国憲法の施行から戦後の占領期までの日本帝国の歩みを扱う。	
			日本経済史Ｂ		ケインズは「経済学者は未来に向けた目的のために、過去の光に照らして、現在を研究しなければならない」と主張したが、経済史は、まさにこの光源たる「過去」を史料にもとづいて究明する学問であり、日本経済史では、それを日本経済に即して明らかにしていく。19世紀後半から21世紀半ばまでの日本経済史についての基本的な知識を習得するとともに、戦前期日本の経済発展の大きな背景となる近代植民地帝国としての歩みについても基本的な知識を身につける。 本科目では、19世紀後半～20世紀半ば（幕末維新期から戦時期まで）のオーソドックスな通史を扱う。	
			経済地理学Ａ		経済地理学は、人文地理学の一分野であり、経済現象を地域と空間によって把握し、経済財を生産・利用する際（特に、都市の商業活動）の立地・配置・機能・変化を解明する。 本科目は、経済地理学の理論編である。最初に，経済地理学の目的と対象、その歴史を概略する。その後の講義では、産業別に経済地理学の理論である，産業の立地論と，産業の主たる場である都市の歴史的発展と産業立地の変化を示す。具体的には、農業、工業、流通・サービス業別に立地論の研究の考え方、その研究方法を実例を示して理解させるようにする。	
			経済地理学Ｂ		経済地理学は、人文地理学の一分野であり、経済現象を地域と空間によって把握し、経済財を生産・利用する際（特に、都市の商業活動）の立地・配置・機能・変化を解明する。 本科目では、実践編として、日本の商業政策（例として大規模小売店舗立地法）の評価を学ぶ。特に都市の商業活動に着目して、経済地理学が実際の社会の問題にいかに対処できるのか、具体例を示す。まず、都市の立地を説明する理論を概説する。次に、日本の流通政策と都市政策により、大型店の規制と商店街問題がいかに扱われてきたかを説明する。日本の話だけではなく、都市問題の先進地といわれるイギリスの事例を示して、最後に、日本の商業政策の問題点をまとめる。	
			経済思想史		「経済思想史」は特定の時代・国に焦点を当てて、その経済的な思考の変遷や特徴を指摘していく。「経済学史」を通史（時間順の概観）とすれば、「経済思想史」はその特定問題研究ということになるだろう。また、近接の分野に社会思想史・科学史がある。またマクロ経済学・経済史などに多くの関連項目がある。 この授業の狙いは、過去の経済学者たちが苦慮してきた二項対立化する歴史過程を概観することで、現在の問題を理解するためのヒントを見いだそうというものである。歴史でありながらも現在的な視点をもって臨むことが不可欠になる。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	社会調査の技法		今日の社会における人々の生活や意識、価値観を的確に知り、分析する上で社会調査の技法に関する知識は不可欠なものである。本講義では、社会調査の意義と目的、量的調査法の基礎知識や調査票の作成方法，量的調査の分析に必要な基礎知識、および質的調査の特徴や実施方法について理解することを目的としている。その過程で、調査票の作成や簡単な分析などを実際に行うことを試みる。さらに、官公庁・研究者・企業などが実施しているさまざまな社会調査についての知識を持ち、必要に応じてこれらを利用できるようにする。また，社会調査における倫理や個人情報の保護，近年の社会調査を取り巻く様々な課題についての理解を深めるようにする。 本講義の学習内容は、2年次以降の調査系科目のレポートとゼミ活動において活用できる基礎素養となり、さらには社会調査に関する高度な科目を学習するための土台となる。本講義は在学中のアカデミア訓練だけでなく、卒業後の社会人スキルとしても役立つ。そのために、講義を通して、確実に知識の定着が図ることができるようになることを目指す。	
			フィールドワークの技法		本講義では、フィールドワークを通じて自分で調べる技術を習得し、今後のそれぞれの社会生活に生かすことを目指す。 フィールドワークと聞いてあなたは何をイメージするだろうか。フィールドワークとはあるテーマの現場、自分の関心事の現場（フィールド）に飛び込み・身を投じる技法であるとともに、「問い」について自分の実感から、少しでも理解する試みであり実践である。最近では、経済学以外の分野でも社会学、政治学、歴史学、地理学等において情報収集を行う際の調査方法の一部がフィールドワークと呼ばれることが増えてきた。 本講義では、地域研究の議論等から経済学におけるフィールドワークの有効性について学んでく。フィールドワークは、現場を「歩いて、見て、聞く」こと、そして様々な手法や理論などの理解を深めていくことが大切である。またフィールドワークは、料理やスポーツのように、学びと実践が、セットである学問としての技法だ。本講義では、地域経済等を題材とする中で、地域の歴史や人びとの暮らしと経済の課題を学びつつ、自分自身がよりよく生きるためのヒントを得ることができる。 この講義では、社会調査を行うという技法を経験的に学ぶという視点から、まず「フィールドワークとは何か」「実際にフィールドワークを行うにはどうすればよいか」といったフィールドワークの基本的考え方や、具体的な「観察」「聞き取り」「体験」と「フィールドノート」の書き方といった手法や、作法、手続きなどを学ぶ。座学での学修を踏まえ、実際に身近な現場（フィールド）を相談し設定して、フィールドワークを体験し、体験後は、その結果をまとめ報告するという一連の流れを経験する。 フィールドワークの体験後は、実習の計画、報告、最終レポート成果を発表し、フィールドワークの経験をまとめて発表する。このことを通して、調査内容をまとめる能力の構築を目指す。	
			グローバルビジネス		グローバルビジネスの主な担い手である多国籍企業は、多様な労働者のみならず、その母国、受入国の多様な利害関係者との複雑な関係をも包摂する。この企業内部のグローバル化に適応した管理方式がさらに国境を越えて外部に働きかけることによってグローバルビジネスはさらに深化していく。このような企業のグローバル化とそのビジネス活動の理解をめざす。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
			多国籍企業論		国境を越えた経済活動や企業のグローバル化は以前にも増して加速しており、多国籍企業はその主要な推進主体の一つである。 ICT革命とその発展に伴う情報通信社会の拡充、深化を背景に、多国籍企業は世界のあらゆる国や地域への海外進出を果たし、進出先での様々な法規制や地理的、文化的慣習等を克服するだけではなく、逆に上手く活用することで飛躍的な発展を実現した。さらに、多国籍企業は自らの活動基盤をインターネット空間に構築することで、柔軟性に富んだ組織の統合、分割、再編を推し進めていった。その結果、GAFAに代表されるデジタル多国籍企業をはじめとする多様な事業活動を行う多国籍企業が台頭するようになった。 このような多国籍企業の行動は、単に経済的側面だけに留まらず、政治や社会、文化等、私たちの生活に関する諸側面に対して強い影響力を及ぼすことから、その解明は極めて重要な課題となっている。 本講義では、まず多国籍企業に関する基本概念と理論、多国籍企業と国際投資の史的変遷について概説を行う。それから、多国籍企業による国際分業、貿易取引の展開、研究開発、技術移転、アウトソーシング、戦略的提携、オフショアリング、リショアニング、知的財産取引、国際標準化活動、移転価格税制、国際課税改革、ISDS条項等をはじめとする多国籍企業に関する活動や諸問題について説明を行い、さらに詳細な説明が必要であれば具体的事例を取り上げて講義を進める。これらを通じて、グローバル化の推進主体である多国籍企業の全容について理解を深める。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	国際経営戦略論		21世紀に入って、日米の多国籍企業は、グローバルなアウトソーシング（業務の海外委託）、国際的な企業間関係、世界価値連鎖（GVC）などの新たな経営戦略を展開しています。経済成長が著しい新興経済諸国（BRIC)の多国籍企業、韓国のサムスン電子、中国のレノボ社、台湾のTSMCが台頭し、これまでの日・米のグローバル競争に新たなプレイヤーとして成長している。日米・アジアの多国籍企業のグローバルな活動が日本のみならず、世界の雇用・労働市場、社会生活に大きな影響を及ぼすまでに至っている。本講義では日本の多国籍企業だけではなく、アメリカやアジアの多国籍企業の経営戦略とはどのようなものか、その中でも日米・アジアのICT企業が国際競争にどのように対応するのかについて関連する知識を幅広く身につける科目として位置付ける。	
			ビジネスヒストリーA		現在のビジネスや、そこでの常識が、いつ、どこで、何をきっかけに、どのようにして形成されてきたのかについて、単なる論理だけを紹介するのではなく、具体的な歴史的事象とともに講義する。なお、今のビジネスやその世界での常識が主に外国・世界で形成されてきたため、外国のビジネスヒストリー、国際比較・国際関係の視点からのビジネスヒストリー等を中心に講義する。本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
			社会データ分析		社会の諸課題の発見・探求・把握、社会の諸課題の解決策の模索など、社会的リアリティに実証的に迫るためには、既存統計データの2次分析など、既存のデータの活用は欠かせない。本科目では、統計データを読み解くことを通して、現代日本社会が抱える諸問題・諸現実をより深く理解し、課題を発見し、解決策を模索する方法について、具体的な事例、具体的なデータの分析を通して実践的に学ぶ。その際、時系列的な比較、国際比較という視点の有効性についても押さえた上で、実践する方法を学んでいく。本科目は、実践と知識を往還しながら思考・判断することで、自ら社会の諸課題を発見・探求する科目として位置づける。	
			アジア企業経営論		本講義では、日本、韓国、中国、台湾、インドの企業経営について、これらの国々の企業がどのように発展してきたのか、そして、今後どのような発展をみせていくのかを考察していく。国際貿易および企業の海外進出を通して、それらの国々の経済およびその国の企業がどのような競争力を獲得し発展してきたか、という視点から考察を進めていく。	
			国際法Ⅰ		軍事侵攻で市民の命が奪われる。安住の地を求めてわずかな荷物で海を渡る。島の領有権争いで緊張が高まる。── 心配な国際ニュースが日々流れている。そのような問題に一定の解決を与える法、それが「国際法」である。国際法は主に、国々が結ぶ「条約」と、多くの国が同様の行動を重ねることにより生まれる「慣習国際法」から構成されている。 本講義では国際法の基本事項を学ぶ。数多くの法律科目があるが、そのうちで世界共通の法は国際法のみである。学んだことはそのまま世界でも通用することになる。講義を通して、このようにスケールの大きな法の面白さに触れることができる。そして国際問題について、感情論や力勝負ではなく法に基づいたより冷静な分析ができるようになる。	
			国際法Ⅱ		本講義は、国際法を英語（および補足的に日本語）で解説していく。国際社会の秩序を維持するために、世界共通の法である国際法が必要となる。そのため、日本だけでなく世界中の大学で「国際法」という科目がある。しかし、日本語で学ぶだけでは他国の人々と国際法の問題について意見を交わせない。そこで講義では、国際法を英語で学び、他国の人々と議論したり、自分の意見を対外発信したりする力を養っていく。英語のトレーニング法や英文の書き方なども指導していく。	
			国際法Ⅲ		本講義では、国際社会において現実に生じた事件および事例を取り上げ、参加者全員で議論・討論をしていく。 そのため、本講義では、授業への主体的かつ積極的な参加が求められる。単なる参加ではなく、大量の予習および議論を通じて、各学生の法的思考の養成および弁論・説得の技術の向上を目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	国際私法		日本人と外国人が結婚する場合、日本企業と外国企業が売買契約を締結する場合、日本に住む在日外国人が外国旅行中に交通事故で負傷した場合など、外国と関係がある私法上の法律関係（渉外的法律関係と呼ぶ）においては、純粋の国内的な法律関係とは異なる、次のような特別な法律問題が生じる。 1. これらの事件についてどこの国で裁判を行うのか？ 2. 結婚ができるかなどの問題について、どの国の法を適用するか？ 3. すでに外国で判決が下されていれば、その外国判決はわが国で効力を持つか？ これらの問題を扱うのが国際私法である。この講義では国際私法について基本概念と仕組み、基本的な規律内容を解説していく。	
			国際政治論		1945年、戦争の惨禍を繰り返さぬよう平和のための国際機構として国際連合が設立された。他方、広島と長崎に原爆が投下されたのは同年8月。以来７８年間、私たちは核兵器という地球を破滅させうる兵器がなくならない世界を生きている。 この授業は第二次世界大戦後から現在にいたる国際政治の歴史的展開を把握することをつうじて、今の世界情勢について各自がその認識や考察を深めることをめざす。 さしあたり、以下の３つの点に着目しつつ進めていく。 ①戦後国際平和のための国際連合の設立とそれが果たしてきた役割 ②核軍備競争をともなった東西冷戦対立とその後の「核なき世界」への模索 ③脱植民地化から南北問題、そして現代世界のグローバリゼーションと格差の問題 これらをふまえて、私たちの世界が今どのような変化のなかにあるのか、これからの国際平和と安全の維持のためにはどのような思考や努力が必要となるのか考えていく。今日の国際関係を広い視野から理解し、深く考察する力をつける機会にしたい。	
			アフリカ政治論Ａ		本講義は、植民地化以後の近現代アフリカの政治、特に国内政治の入門科目である。授業の内容を一時間毎にできるだけ完結させること、テーマを一応時系列的に配置すること、毎時間の授業の組み立てを論理的なものにし、重要なポイントを常に明確化すること、視覚的にアフリカを捉えるためにOHCやビデオを適宜用いること等、この授業には、「まったく初めてアフリカの政治を学ぶ者」を受講者として念頭においたいくつかの細かい配慮がなされている。 また、本講義は入門の講義であり、その内容自体は概論的で平易なものといえるかもしれない。しかし、教員が単に知識を学生に一方的に伝授するというのではなく、たえず受講者が教員とともに主体的かつ積極的に思考するよう求められるという意味で、かなり要求度の高いチャレンジングな授業である。	
			アフリカ政治論Ｂ		本講義では、国際社会がアフリカ政治に及ぼしてきた影響についてテーマごとに事例を選び、映像を用いながら講義形式で授業を進めていく。「アフリカ政治論A」に引き続き、植民地化以後の近現代アフリカの政治、特に国内政治を学ぶ入門科目である。	
			国際取引法		本講義では、国際経済活動を規律する国際法規則を解説する。国際経済活動は、日本の企業活動だけでなく私たちの日常生活にも大きな影響を与える。そのため、講義の内容は、これから社会に出る皆さんにとって不可欠の知識を提供する。授業では、教科書的な知識のみならず国際経済について今何が起こっているのかについて説明し、それを国際法の観点からどのように評価できるかについて考えていく。	
			開発援助論		かつてに比べかなり改善されたとはいえ、世界には依然として広く貧困が残るとされる。世界銀行による最新の推計によれば、1日あたり2ドル未満という貧困ライン以下で暮らす人々の割合は、世界全人口の10%、その数は7億3600万人に達するという。一般的な印象では、これらの人々は、飢餓や貧困のなか、医療・福祉・教育などの公共サービスを十分に受けられない苦しい生活を強いられているように見える。しかし、はたして世上に流布するこのような印象は、実態と合っているのだろうか。本講義は、開発途上国に暮らす貧困層の実態を知ることから始め、貧困解消のために国際社会がどのような援助ができるかを再検討する。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	中東政治論		本科目は、現代国際社会で注目を集め続けている中東諸国の政治について、ナショナリズムやイスラーム、パレスティナ問題、そして近年の政治変動などに焦点を当てつつ、理解を深めることを目的とする。また、国際社会における中東諸国の位置づけについても考察するため、域外との関係についても論じるものとする。	
			アジア政治論		慰安婦合意（2015年）の「反故」に加えて徴用工問題の「浮上」、さらには安全保障や経済への波及などによって、1965年に国交を正常化して以来、日韓両国が積み上げてきた土台が揺るがされている。一方で、若年層、特に女子の間では、韓国に親しみを感じる人が多く、K・POPやK文学の人気が高まっている。そもそも、日韓関係の良さ／悪さ、あるいは二国間関係の変化についてどのように同定／測定するのか。2020年代初頭の日韓関係は2000年代と比べて悪化したのか。日韓関係は日中関係より悪いのか。さらに、二国間関係の性格の差や変化をもたらす要因は何なのか。日韓関係や韓国について、SNSなどでは個人的な感想や陰謀論が散見されるが、本科目では、史実、理論、実証的知見に基づいて「アカデミックに」理解する。	
			中国政治論		本科目の主な目的は、中華世界という視点から中国（中華人民共和国）を捉えたうえで、現代中国の政治のあり方を考察し、その特徴と現状を理解することにある。現代中国の政治、そして中国と香港・マカオ、台湾との関係について、基本的な知識と理論的な分析のための視座を提供することで、受講生には現代中国の行方を展望する手掛かりを身につけてもらう一助としたい。本科目では、まずは現代中国の政治の歴史的な歩み、それを動かす制度やアクター、そして中国の軍事、対外関係について紹介する。さらに、「一国二制度」の下にある香港・マカオとの関係を確認し、民主化を達成した台湾との比較を交えながら、現代中国の政治の特徴と現状を説明する。	
			アメリカ政治論		本講義では、大きな問題を抱えるアメリカ政治の現状を理解するため、政治制度と具体的な争点の双方からアメリカ政治を検討する。 アメリカという国のユニークな沿革や基本的な統治構造を押さえたうえで、人種や宗教といった同国における伝統的な問題をはじめ、移民や教育・格差をめぐる政治、銃規制や人工妊娠中絶などの社会争点、世界を動かすその財政・金融および外交政策、医療や科学や環境をめぐるイデオロギー対立といった様々な側面からアメリカ政治への理解を深める。	
			ヨーロッパ政治論		近現代を中心に、ヨーロッパ政治の発展と動揺について学ぶ。とりわけ、〈デモクラシー〉という概念をふまえてヨーロッパ政治を見ていく。 戦後ヨーロッパ政治の特徴的な概念について自分の言葉で説明できるようになることに加え、戦後政治の変化について、概要を自分の言葉で説明できるようになることを目指す。	
			国際環境法		地球環境の保護及び保全は、21世紀の国際社会における人類共通の重要課題であり、この問題に取り組むためのさまざまな法が存在している。この講義は、国際法において環境に関係している分野、いわゆる「国際環境法」を概観することを目的とするものである。具体的には、講義の前半において、国際環境法の全体像を把握するために、その歴史を俯瞰したのちに、国際環境法の重要な部分を構成する国際環境保護の主要条約を解説することとする。これらの知識を得てから、講義の後半において、国際環境法に関する基本原則や問題点を学習していく。	
			文化・観光政策		都市間競争の時代を迎えた現在、各都市固有の「文化」やそれを基盤に展開する「観光」は今後の地域再生を考えていく上できわめて重要な政策の対象となっている。本講義では、前半部において芸術文化マネジメントや文化産業の可能性といった文化政策を論じ、後半部において環境資源の最適な利用や地域社会の文化の保全・活用が重要なテーマとなっている観光政策を論じる。最後に、その両者をつなぐ「まちづくり」の観点から、今後の地域における文化・観光政策を総合的に論じる。	
			比較地域政策論		地域政策は、地域の課題を把握して多面的なアプローチをしながらその解決策をはかる政策のことである。本講義では、地域政策の基本的な理論的枠組みを論じるとともに、国内外の事例から、地方創生の主要テーマである「まち」「ひと」「しごと」を軸とした地域政策を比較政策的な視点から論じていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	アジアの地域・都市政策		多様な歴史と文化を持つアジア地域は、近年急激な経済発展が進む一方で、環境破壊、経済格差、災害等による人間の安全保障が脅かされている。本講義では、アジアの歴史や地域性を概観しながら、アジアの都市／地域の特徴や課題、福祉、環境などの各都市政策を把握した上で、アジアの持続可能な発展のためにはどのような都市・地域政策が進められるべきかを学ぶことを目的としている。また、アジアの都市／地域政策の様々なアクターである地域行政から、国際機関、ＮＧＯ／ＮＰＯ、住民組織などの持続可能な都市づくりの実践事例の調査や発表、議論を通して具体的なアジアの都市・地域政策の手法を学んでいく。	
			欧州の地域・都市政策		本講義は、欧州連合（EU）を中心とするヨーロッパの地域・都市政策の系譜・現状・展望について多角的な視点から議論する。都市と建築、そして都市空間を舞台に展開される様々なアクティビティ（活動）、社会的包摂と空間再生の統合的アプローチを切り口として、現代ヨーロッパ都市の実像・群像に迫る。本講義の前半部では、欧州都市を理解するためのいくつかの視点を示し、近代から現代にかけての多様な都市再生の取り組みを紹介しながら、都市間競争に直面する欧州都市において都市の意味がどのように変容しつつあるのかを解説する。後半部では、具体的な事例を通して、「都市のかたち」を読み解いていく。各都市のダイナミックな変貌を紹介することで、ヨーロッパにおける都市の意味、そして都市に住むことの意味を考察する。	
			北米・中南米の地域・都市政策		本講義は、アメリカ合衆国および南北アメリカ大陸における地域・都市政策について講義するものである。アメリカ合衆国では都市政策は州法となる。したがって、州ごとによって大きく、その政策は異なる。また、日本とは異なり、自治体の裁量が大きい。そのような制度の背景を理解すると同時に、また、その課題・制約等も理解できるような講義を行うことに努める。アメリカ合衆国の地域・都市政策を包括的に理解することは難しい。そのために、基本、事例を提示して、それらの制度内容、背景を講義することを目的とする。加えて、本講義ではアメリカ合衆国にとらわれずに、南北アメリカの興味深い都市・地域政策についても紹介する。特にブラジルのクリチバ市、ブラジリア市の都市・地域政策について、重点的に講義でも取り上げていく。	
			特別演習Ｉ	○	特別演習Ｉでは、特定の国・地域の社会・文化・歴史・政治などをテーマに取り上げ、対象となる国や地域の歴史や文化などを考察していく。 （3　國重　裕） フェアトレードという言葉を聞いたことがある人も多いかと思うが、途上国への支援を「チャリティー」としてではなく、生産者（途上国の農家）も販売者も消費者もトリプル・ウィンになる「ソーシャルビジネス」について、このゼミでは学ぶ。 同時に、奴隷貿易から始まって現在に至る「南北格差」が生まれた歴史を紐解き、現在を生きるわたしたちの立ち位置について考えていく。 （17　安藤　真次郎） スペインは古代より文明の十字路として栄えた国である。古代ローマ、キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教などの多種多様な宗教的文化的要素から成り立っている。またメキシコやペルーをはじめとするラテンアメリカ諸国は、先住民文化とヨーロッパ文化が衝突、融合して独特な文化を形成している。このように、スペインやラテンアメリカ諸国は日本と歴史的社会的にも、また宗教的文化的にも大きく異なっている。年齢、性別、人種、宗教、趣味嗜好など多種多様な価値観を内包する社会となった現代において、私たち日本人がスペインやラテンアメリカから「多様性」について学べることが多くある。 （31　落合　雄彦） 本ゼミナールの研究テーマは「アフリカ地域研究」である。地域研究というのは、政治学や経済学といった既存の学問が硬直的かつ細分化されすぎているという認識のもと、地域を一つの圏（スフィア）としてとらえ、その地域における諸事象の関係性に注目しながら、地域を複合科学的、学際的、あるいは総合的に分析しようとする、主に第２次世界大戦後に発展してきた知的アプローチとなる。したがって、アフリカ地域研究を学ぶ本ゼミナールにおいても、私たちはある特定の学問（たとえば経済学や法学）のみに依拠してアフリカを考察するということはしない。あくまで私たちの究極的な目的は、政治、経済、歴史、社会、文化、開発、紛争、貧困、難民、環境といった諸側面とその相互連関に注目しながら、アフリカという地域文化圏を多角的かつ総合的に考察する。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	特別演習Ⅰ	○	（46　佐藤　和弘） 本ゼミナールでは、ヨーロッパの中央に位置し、国境を９カ国の国々と分け合っているドイツを中心にドイツ語圏（スイス・オーストリア・ルクセンブルク・リヒテンシュタインなど）の文化の諸相をテーマ別に学ぶ。 （55　竹内　真彦） 日本において「国際」と言った場合、それは日本と他の国々との関係にしかならない。 つまり、国際関係を考える際、「日本」という視点は必須になる。 このゼミでは「日本とは何か？」ということを根底に置きながら、世界のありようについて考えていきたい。 （71　廣瀬　純） フランス語圏・イタリア語圏の政治、経済、社会、文化、芸術などについて研究していく。 （88　安田　圭史） スペイン語圏（スペイン、ラテンアメリカ）諸国の社会や文化を、項目別に学び、それらの国々についての基礎的知識を身につけることを目標とする。 （94　伊藤　貴祥） コリア語圏、主に韓国の社会、文化、地理、歴史などについて広く学ぶ。 （104　許　秀美） 本授業では、この集団をすこし大きくとらえ、日本と韓国・朝鮮の「文化の違い」について学ぶ。日本と韓国・朝鮮の「文化の違い」について考えるために、両国の歴史・地理・宗教を始め、言語や芸能、食文化、生活習慣など、幅広く学んでいく。そして「文化の違い」がもたらす、「衝突」や「学び」を考察し、「文化の違う相手を理解する」ことについて考える。	主要授業科目
			特別演習Ⅱ	○	特別演習Ⅱは、特別演習Ⅰを基礎とした発展的な科目であり、学生各自が特定の国・地域の社会・文化・歴史・政治などをテーマとして掲げ、卒業研究として結実させるべく、研究テーマや問題意識・関心のある事柄をより一層深化させることを目指す。 （3　國重　裕） フェアトレードという言葉を聞いたことがある人も多いかと思うが、途上国への支援を「チャリティー」としてではなく、生産者（途上国の農家）も販売者も消費者もトリプル・ウィンになる「ソーシャルビジネス」について、このゼミでは学ぶ。同時に、奴隷貿易から始まって現在に至る「南北格差」が生まれた歴史を紐解き、現在を生きるわたしたちの立ち位置について考えていく。 （17　安藤　真次郎） スペインは古代より文明の十字路として栄えた国である。古代ローマ、キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教などの多種多様な宗教的文化的要素から成り立っている。またメキシコやペルーをはじめとするラテンアメリカ諸国は、先住民文化とヨーロッパ文化が衝突、融合して独特な文化を形成している。このように、スペインやラテンアメリカ諸国は日本と歴史的社会的にも、また宗教的文化的にも大きく異なっている。年齢、性別、人種、宗教、趣味嗜好など多種多様な価値観を内包する社会となった現代において、私たち日本人がスペインやラテンアメリカから「多様性」について学べることが多くある。 （31　落合　雄彦） 本ゼミナールの研究テーマは「アフリカ地域研究」である。地域研究というのは、政治学や経済学といった既存の学問が硬直的かつ細分化されすぎているという認識のもと、地域を一つの圏（スフィア）としてとらえ、その地域における諸事象の関係性に注目しながら、地域を複合科学的、学際的、あるいは総合的に分析しようとする、主に第２次世界大戦後に発展してきた知的アプローチとなる。したがって、アフリカ地域研究を学ぶ本ゼミナールにおいても、私たちはある特定の学問（たとえば経済学や法学）のみに依拠してアフリカを考察するということはしない。あくまで私たちの究極的な目的は、政治、経済、歴史、社会、文化、開発、紛争、貧困、難民、環境といった諸側面とその相互連関に注目しながら、アフリカという地域文化圏を多角的かつ総合的に考察する。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	特別演習Ⅱ	○	（46　佐藤　和弘） 本ゼミナールでは、ヨーロッパの中央に位置し、国境を９カ国の国々と分け合っているドイツを中心にドイツ語圏（スイス・オーストリア・ルクセンブルク・リヒテンシュタインなど）の文化の諸相をテーマ別に学ぶ。 （55　竹内　真彦） 日本において「国際」と言った場合、それは日本と他の国々との関係にしかならない。つまり、国際関係を考える際、「日本」という視点は必須になる。このゼミでは「日本とは何か？」ということを根底に置きながら、世界のありようについて考えていきたい。 （71　廣瀬　純） フランス語圏・イタリア語圏の政治、経済、社会、文化、芸術などについて研究していく。 （88　安田　圭史） スペイン語圏（スペイン、ラテンアメリカ）諸国の社会や文化を、項目別に学び、それらの国々についての基礎的知識を身につけることを目標とする。 （94　伊藤　貴祥） コリア語圏、主に韓国の社会、文化、地理、歴史などについて広く学ぶ。 （104　許　秀美） 本授業では、この集団をすこし大きくとらえ、日本と韓国・朝鮮の「文化の違い」について学ぶ。日本と韓国・朝鮮の「文化の違い」について考えるために、両国の歴史・地理・宗教を始め、言語や芸能、食文化、生活習慣など、幅広く学んでいく。そして「文化の違い」がもたらす、「衝突」や「学び」を考察し、「文化の違う相手を理解する」ことについて考える。	主要授業科目
			特別演習Ⅲ	○	本演習は、特別演習Ⅰ・Ⅱを基礎とした発展的な科目であり、学生各自の研究テーマや問題意識と関心のあることがらを一層拡大・深化させていきながら、卒業論文作成を完成させる。 （3　國重　裕） フェアトレードという言葉を聞いたことがある人も多いかと思うが、途上国への支援を「チャリティー」としてではなく、生産者（途上国の農家）も販売者も消費者もトリプル・ウィンになる「ソーシャルビジネス」について、このゼミでは学ぶ。 同時に、奴隷貿易から始まって現在に至る「南北格差」が生まれた歴史を紐解き、現在を生きるわたしたちの立ち位置について考えていく。 （17　安藤　真次郎） スペインは古代より文明の十字路として栄えた国である。古代ローマ、キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教などの多種多様な宗教的文化的要素から成り立っている。またメキシコやペルーをはじめとするラテンアメリカ諸国は、先住民文化とヨーロッパ文化が衝突、融合して独特な文化を形成している。このように、スペインやラテンアメリカ諸国は日本と歴史的社会的にも、また宗教的文化的にも大きく異なっている。年齢、性別、人種、宗教、趣味嗜好など多種多様な価値観を内包する社会となった現代において、私たち日本人がスペインやラテンアメリカから「多様性」について学べることが多くある。 （31　落合　雄彦） 本ゼミナールの研究テーマは「アフリカ地域研究」である。地域研究というのは、政治学や経済学といった既存の学問が硬直的かつ細分化されすぎているという認識のもと、地域を一つの圏（スフィア）としてとらえ、その地域における諸事象の関係性に注目しながら、地域を複合科学的、学際的、あるいは総合的に分析しようとする、主に第２次世界大戦後に発展してきた知的アプローチとなる。したがって、アフリカ地域研究を学ぶ本ゼミナールにおいても、私たちはある特定の学問（たとえば経済学や法学）のみに依拠してアフリカを考察するということはしない。あくまで私たちの究極的な目的は、政治、経済、歴史、社会、文化、開発、紛争、貧困、難民、環境といった諸側面とその相互連関に注目しながら、アフリカという地域文化圏を多角的かつ総合的に考察する。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	特別演習Ⅲ	○	（46　佐藤　和弘） 本ゼミナールでは、ヨーロッパの中央に位置し、国境を９カ国の国々と分け合っているドイツを中心にドイツ語圏（スイス・オーストリア・ルクセンブルク・リヒテンシュタインなど）の文化の諸相をテーマ別に学ぶ。 （55　竹内　真彦） 日本において「国際」と言った場合、それは日本と他の国々との関係にしかならない。 つまり、国際関係を考える際、「日本」という視点は必須になる。 このゼミでは「日本とは何か？」ということを根底に置きながら、世界のありようについて考えていきたい。 （71　廣瀬　純） フランス語圏・イタリア語圏の政治、経済、社会、文化、芸術などについて研究していく。 （88　安田　圭史） スペイン語圏（スペイン、ラテンアメリカ）諸国の社会や文化を、項目別に学び、それらの国々についての基礎的知識を身につけることを目標とする。 （94　伊藤　貴祥） コリア語圏（主に韓国）に関する基礎知識を「特別演習Ⅱ」で身につけた。その続きとして、卒業研究論文の作成に挑む。 （104　許　秀美） 本授業では、この集団をすこし大きくとらえ、日本と韓国・朝鮮の「文化の違い」について学ぶ。日本と韓国・朝鮮の「文化の違い」について考えるために、両国の歴史・地理・宗教を始め、言語や芸能、食文化、生活習慣など、幅広く学んでいく。そして「文化の違い」がもたらす、「衝突」や「学び」を考察し、「文化の違う相手を理解する」ことについて考える。	主要授業科目
			演習Ⅰ	○	本演習では、経済学の視点から、国際関係の政治的・経済的・文化的な側面をテーマとして取り上げ、考察することを目的とする。 （27　大原　盛樹） アジアを中心とする新興国、発展途上国の社会と経済を研究していく。そして、変転する世界の中で日本の進む路を探る。新興国に挑む企業や政府機関に対して「それは役に立つ！」と思ってもらえるアイデアを生み出し、提言していく。オリジナリティのある、大学生らしい知的な社会貢献を目指す。	主要授業科目
			演習Ⅰ	○	本演習では、社会科学系の学問（経営学・政治学・法律学）の視点から、国際関係の政治的・経済的・文化的な側面をテーマとして取り上げ、考察することを目的とする。 （11　西川　浩司） 企業のイノベーション活動の事例研究に必要な予備知識の獲得を目指す。具体的には、イノベーション活動の重要性や理論的な知識を習得すること、その知識を、他者に教えるという形で応用できることを目指す。その後、全産業、全時代の企業の活動を概観し、そのなかから、演習Ⅱでおこなうイノベーション活動の事例研究の題材探しを行う。またこの作業を通じて、興味ある業界・会社と出会い、インターンシップへの積極的参加を誘導する。 オリジナリティのある、大学生らしい知的な社会貢献を目指す。 （65　橋口　豊） 21世紀の国際政治は、グローバリゼーションの下での格差の拡大、地球環境問題の深刻化、テロの頻発などさまざまな問題を抱えている。そして、日本の政治も国際政治から大きな影響を受けていると言える。ゼミでは、今日の国際政治の諸問題について分析し、そのことを通して日本が国際社会といかに関わっていくべきなのか、ということについても考えていきたいと思う。 （69　濱中　新吾） 実証的なデータ分析の方法を身につけることは議論や主張の説得力を増し、その信憑性を高めることだろう。こうしたことを実感してもらうことが演習のねらいである。濱中研究室では国際政治、具体的には安全保障や民族紛争、権威主義体制下の政治といったトピックスをテーマにして研究を進めてもらうことになるが、その前段階として計量政治分析の技術に習熟してもらう必要がある。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	演習Ⅰ	○	（80　松尾　秀哉） かつてヨーロッパは「人権と福祉の大陸」として憧れの対象だった。しかし、その後、イギリスのEU離脱、各国のポピュリズムの台頭、ギリシャの財政危機など、現在のヨーロッパは動揺している。これらの要因は複雑で正解はないが、個人やグループでその要因を考えるゼミである。希望次第では、他国、他地域の問題も取り上げて、全体として比較政治学的観点での分析も試みたいとも思う。まず合同報告会に向けた準備と並行して、基本文献の読解を進め、読解力、レジュメの作成、プレゼンテーションや議論、質疑の仕方（コミュニケーション力）に慣れる。その後、個人のテーマについて、ゼミ合宿、他大学との合同ゼミなどを通じて報告していく。チームワークを高めて、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高め、演習Ⅰでは最終的に「ゼミ論（ゼミで一冊の研究論文集を作成する）」の執筆を目指す。これは卒業論文のミニバージョンになる。また3回生前期では、合同ゼミ合宿に向けて、共通のテーマについて全員が調べ、議論して準備することもある。さらに希望者は、演習Ⅱで、個人で「卒業論文」の執筆を目指す。これらを通じて、社会人として通用する組織人としてのマナー、リサーチ、プレゼン能力を高めたいと考えている。 （89　山田　卓平） 国際ニュースが日々流れている。そのような問題に一定の解決を与える法、それが「国際法」である。国際法は主に、国々が結ぶ「条約」と、多くの国が同様の行動を重ねることにより生まれる「慣習国際法」から構成されている。 本演習では、このような「国際法」を学んでいく。法学部では数多くの法律科目があるが、そのうちで世界共通の法は国際法だけである。学んだことは、そのまま世界で通じるわけだ。本演習で、このようにスケールの大きな法の面白さに触れることができる。そして、上記のような諸問題について、感情論や力勝負ではなく、法に基づいたより冷静な分析ができるようになる。 （112　瀬畑　源） 本演習では、日本近現代政治史に関するテキストの講読とディスカッションを通じて、専門知識を習得し、自分の主張を論理的に展開できる力を身につけることを目的とする。ゼミ生の関心の幅に応じて、読む文献を考えながら進めていく。演習Ⅰでは、基本文献の輪読、歴史資料の分析などを行い、基礎力を身に着ける。毎回のゼミでは報告者を決めて、ディスカッションを行います。グループワークを行うこともある。	主要授業科目
			演習Ⅰ	○	本演習では、社会科学系諸学を統合する政策学の視点から、国際関係の政治的・経済的・文化的な側面をテーマとして取り上げ、学生各自の研究テーマを深化させ、卒業研究として結実させることを目指す。 （16　阿部　大輔） 本演習は、「都市・地域にはどのような魅力・問題があるのか」「そもそも、よい都市とはどのような都市か」「よりよい都市を実現するためにどのような解決策がありうるのか」といった基礎的な問いかけに対する洞察を深めることを目的とする。都市を理解するためには、（1）都市空間を経験しそれを読解すること、（2）国内外でどのような取り組みがなされているか最新事例について理解を深めること、が重要である。そこで、4セメの前半では、（1）については身近な建築や公共空間、地区（界隈）の調査、（2）については文献読解を中心に進め、空間構成の基礎を学ぶ。後半では地区レベルのリサーチと分析を踏まえた小規模な設計課題を行う。そして、都市問題の把握と解決に向けた具体的な空間像の提案のために、5セメでは関西圏の建築系ゼミのアーバンデザインの合同設計演習「都市アーキピスト会議」に参加する。ここでの成果物は次年度内に書籍として出版する予定である。続く6セメでは日本建築学会近畿支部主催の設計コンペ「アーバンデザイン甲子園」に参加し、新たな空間設計の理念・手法を検討する。フィールド調査やまちづくり支援活動は演習Ⅰの期間中、随時実施する。 （293　地頭所　里紗） 今日、グローバル化が進行し企業の活動も，私たちの生活も国際化している。そのような状況下，グローバルなフィールドで徹底的に考え抜き，実践し，そして再び考え，やり遂げる力を身につける場にしたい。演習では，国際経営，国際マーケティング，国際経営戦略，異文化マネジメント，グローバル・イノベーション，地域ビジネス研究など国際ビジネスに関連するテーマで受講生の興味のあることを研究する。	主要授業科目
			演習Ⅱ	○	本演習では、「演習Ⅰ」での学修を踏まえ、経済学の視点から、国際関係の政治的・経済的・文化的な側面をテーマとして取り上げ、学生各自の研究テーマを一層進化させ、卒業研究として結実させることを目指す。 （27　大原　盛樹） 本演習は、演習Ⅰを基礎とした発展的な科目であり、まずは、卒業論文作成を念頭に置きながら、学生各自の研究テーマや問題意識と関心のあることがらを一層拡大・深化させていく。最後には、卒業論文を完成させることを目的とし、論文作成指導を行う。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	演習Ⅱ（演習研究含む）	○	本演習では、「演習Ⅰ」での学修を踏まえ、経営学の視点から、国際関係の政治的・経済的・文化的な側面をテーマとして取り上げ、学生各自が設定した研究テーマに基づき、成果を卒業研究として取り纏めることを目指す。 （11　西川　浩司） 演習Ⅰでの学びをもとに、企業のイノベーション活動の事例研究・経営史的研究を個々人で進め、その成果を演習論文に纏めることを目指す。具体的には、企業が、イノベーション活動をすすめる過程において、どのような種類の障壁と出会い、その障壁に対してどのような行動・成果を見せたのかについて、経営史的な手法を用いて明らかにする。また、この過程で、信頼性の高い資料（1次・2次資料）の探し方・見分け方・利用の仕方等についても学ぶ。	主要授業科目
			演習Ⅱ（卒業研究含む）	○	本演習では、「演習Ⅰ」での学修を踏まえ、社会科学系諸学を統合する政策学の視点から、国際関係の政治的・経済的・文化的な側面をテーマとして取り上げ、学生各自が設定した研究テーマに基づき、成果を卒業研究として取り纏めることを目指す。 （16　阿部　大輔） 本演習は、「都市・地域にはどのような魅力・問題があるのか」「そもそも、よい都市とはどのような都市か」「よりよい都市を実現するためにどのような解決策がありうるのか」といった基礎的な問いかけに対する洞察を深めつつ、卒業論文・卒業制作を進める。 （293　地頭所　里紗） 今日、グローバル化が進行し企業の活動も，私たちの生活もどんどん国際化している。そのような状況下，グローバルなフィールドで徹底的に考え抜き，実践し，そして再び考え，やり遂げる力を身につける場にしたい。演習では，国際経営，国際マーケティング，国際経営戦略，異文化マネジメント，グローバル・イノベーション，地域ビジネス研究など国際ビジネスに関連するテーマで受講生の興味のあることを研究する。	主要授業科目
			演習Ⅱ（卒業研究含む）	○	本演習では、「演習Ⅰ」での学修を踏まえ、法律学・政治学の視点から、国際関係の政治的・経済的・文化的な側面をテーマとして取り上げ、学生各自の研究テーマを深化させ、成果を卒業研究として取り纏めることを目指す。 （65　橋口　豊） 21世紀の国際政治は、グローバリゼーションの下での格差の拡大、地球環境問題の深刻化、テロの頻発などさまざまな問題を抱えている。そして、日本の政治も国際政治から大きな影響を受けていると言える。ゼミでは、今日の国際政治の諸問題について分析し、そのことを通して日本が国際社会といかに関わっていくべきなのか、ということについても考えていきたい。 （69　濱中　新吾） 実証的なデータ分析の方法を身につけることは議論や主張の説得力を増し、その信憑性を高めることだろう。こうしたことを実感してもらうことが演習のねらいである。濱中研究室では国際政治、具体的には安全保障や民族紛争、権威主義体制下の政治といったトピックスをテーマにして研究を進めてもらうことになるが、その前段階として計量政治分析の技術に習熟してもらう必要がある。 （80　松尾　秀哉） かつてヨーロッパは「人権と福祉の大陸」として憧れの対象だった。しかし、その後、イギリスのEU離脱、各国のポピュリズムの台頭、ギリシャの財政危機など、現在のヨーロッパは動揺している。これらの要因は複雑で正解はないが、個人やグループでその要因を考えるゼミである。希望次第では、他国、他地域の問題も取り上げて、全体として比較政治学的観点での分析も試みる。まず合同報告会に向けた準備と並行して、基本文献の読解を進め、読解力、レジュメの作成、プレゼンテーションや議論、質疑の仕方（コミュニケーション力）に慣れる。その後、個人のテーマについて、ゼミ合宿、他大学との合同ゼミなどを通じて報告していく。チームワークを高めて、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めるとともに、共通のテーマについて全員が調べ、議論する。これらの学修を踏まえ、最終的には各人が「卒業論文」の執筆を目指す。これらを通じて、社会人として通用する組織人としてのマナー、リサーチ、プレゼン能力を高めたいと考えている。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	国際関係コース	演習Ⅱ（卒業研究含む）	○	（89　山田　卓平） 国際ニュースが日々流れている。そのような問題に一定の解決を与える法、それが「国際法」である。国際法は主に、国々が結ぶ「条約」と、多くの国が同様の行動を重ねることにより生まれる「慣習国際法」から構成されている。本演習では、このような「国際法」を学んでいく。法学部では数多くの法律科目があるが、そのうちで世界共通の法は国際法だけである。学んだことは、そのまま世界で通じるわけだ。本演習で、このようにスケールの大きな法の面白さに触れることができる。そして、上記のような諸問題について、感情論や力勝負ではなく、法に基づいたより冷静な分析ができるようになる。 （112　瀬畑　源） 本演習では、日本近現代政治史に関するテキストの講読とディスカッションを通じて、専門知識を習得し、自分の主張を論理的に展開できる力を身につけることを目的とする。ゼミ生の関心の幅に応じて、読む文献を考えながら進めていく。毎回のゼミでは報告者を決めて、ディスカッションを行う。グループワークを行うこともある。	主要授業科目
			演習Ⅲ	○	本演習では、「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」での学修を踏まえ、経済学の視点から、国際関係の政治的・経済的・文化的な側面をテーマとして取り上げ、学生各自の研究テーマを一層進化させ、卒業研究として結実させることを目指す。 （27　大原　盛樹） 本演習は、「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」を基礎とした発展的な科目であり、まずは、卒業論文作成を念頭に置きながら、学生各自の研究テーマや問題意識と関心のあることがらを一層拡大・深化させていく。最後には、卒業論文を完成させることを目的とし、論文作成指導を行う。	主要授業科目
			演習Ⅳ（卒業研究を含む）	○	本科目では、「演習Ⅲ」までの学修を踏まえ、経済学の視点から、国際関係の政治的・経済的・文化的な側面をテーマとして取り上げ、学生各自が設定した研究テーマに基づき、成果を卒業研究として取り纏めることを目指す。 （27　大原　盛樹） 本演習は、２年生後期から３年生後期まで開講される演習Ⅰ・Ⅱを基礎とし、これまで学んできたことを卒業論文として完成させることを目的としている。卒業論文作成にあたり、学生自身でテーマ設定を行い、担当教員が論文作成指導を実施しながら完成を目指す。	主要授業科目
			学部共通特別講義Ａ		かつて個人の権利は国内問題とされており、外国人保護に関するルールが発展していたことを除けば、国際的に取り上げられることはほとんどなかった。しかし現在では、人権の保障は国際社会全体の問題として考えられるようになっており、国家は、自国の管轄権下にあるすべての個人に対して、国際的に認められた一定の人権水準を保障するよう求められている。この講義においては、特に日本における具体的事例を参照しながら、外国人保護のための国際ルールや、人権の国際的保障制度について概観し、またその問題点について考察を行う。	
			学部共通特別講義Ｂ		現在、この地球上で2週間に一つ言語が消滅していると言われている。「ことば」を失うということは固有の文化が消えていくことに等しい現象である。この現状を目の当たりにして、私たちは一体何ができるのであろうか。私たちは「ことばに対する感性」を研ぎ澄ませなければならない。 みなさんは大学に入るまでに英語以外の外国語を学校で学習したことはあるだろうか。「はい」と答えることができた人は何人くらいいるだろう。これまでの外国語学習履歴を振り返ってみると、現在の日本の初等・中等教育段階においては、外国語としてはほぼ英語しか学ぶことができないのが現状だということがわかる。なぜかというとこれが日本の言語文化であり、学校教育における言語政策だからだ。グローバル化の中、英語の習得は確かに重要なことだ。しかし、私たちを取り巻く言語環境は近年急速に多言語化している。このような状況の変化にも関わらず、日本の小・中・高の公立学校では英語以外の外国語を学習する機会がほとんど与えられていない。言い換えると日本の学校教育においては、英語以外の「外国語を学ぶ権利」が極端に制限されている。 日ごろ、私たちは日本語を「国語」と呼んでいるが、そもそも「国語」とは一体何だろうか。また、標準語とは、公用語とは、さらに「ことばを学ぶ権利」とはどのようなものなのだろう。次から次と疑問がわいてくる。本講義では、このような疑問を出発点として、世界各地の言語文化・言語政策について学んでいく。	
			学部共通特別講義Ｃ		私たちが生活する環境において、色彩の果たす役割は大きく、またそれは、必要不可欠な構成要素となっている。そして色彩は、様々な領域で研究の対象となっている。社会活動においてこれらの研究成果は、実際に多様なところで活用されている。授業では、各領域の研究成果を幅広く紹介することにより、生活に役立つ色彩の基礎を学んでいく。また造形的な見識も合わせて、理解を深めてほしいと思う。人のおこなう表現の本質を探り、個々に考えることが本講座のねらいである。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	英語コミュニケーションコース	Oral Communication ＩA	○	（英文）In this class, students will develop their English language and communication skills for further study in the English Communication Course and study abroad. We will do in-class speaking and related exercises on topical themes using the textbook, Evolve. The goal is to develop speaking fluency, familiarity and ability to use common spoken expressions, and further develop knowledge of vocabulary.There will also be weekly out-of-class textbook assignments completed online as homework.Regular summary tests will also be given.Finally, there will be a semester-long assignment. This will involve outside extensive reading and in-class presentation. （和訳）この授業では、英語コミュニケーションコースでのさらなる学習や留学に向けて、英語力とコミュニケーション力を伸ばす。教科書『Evolve』を使用し、時事的なテーマについてクラス内でスピーキングや関連するエクササイズを行う。目標は、スピーキングの流暢さ、一般的な会話表現への慣れと使用能力、語彙の知識をさらに深めることである。また、毎週の宿題として、教科書の授業外の課題をオンラインで行う。定期的にまとめのテストも行う。最後に、学期を通した課題を出す。この課題には、外部での多読とクラス内でのプレゼンテーションが含まれる。	主要授業科目
			Oral Communication ＩB	○	（英文）In this class, students will practice and improve their speaking, reading and listening skills. Students will work together in small groups to solve problems, including describing pictures, telling stories, describing their home towns, dreams and daily activities.We will visit Global Commons and talk to non-Japanese here in Japan as well as link and communicate with non-Japanese via the Internet.We will especially practice narrative, the ability of students to tell a series of events (true or fictional) and ask questions to their friends.This class is also open to international students who are not native English speakers. （和訳）この授業では、スピーキング、リーディング、リスニングの練習と上達を目指す。少人数のグループに分かれ、絵の説明、物語、自分の故郷、夢、日々の活動などを話し、問題を解決していく。グローバル・コモンズを訪れ、日本にいる外国人と話したり、インターネットを通じて外国人とつながったり、コミュニケーションをとる。特に、一連の出来事（事実あるいは架空）を語ることで、友達話術を身につける。このクラスは、英語を母国語としない留学生にも開かれている。	主要授業科目
			Oral Communication ⅡA	○	（英文）In this class, students will further develop their English language and communication skills for continued study in the English Communication Course. This includes broadening knowledge and awareness of foreign and Japanese culture.In order to prepare for study in Seminar we will focus on two main activities this semester. The first is continued out-of-class and in-class study and tests using the Evolve 2 text book used in OCIA in order to actively practice and develop communication and language skills. The second will be on online presentation and video sharing activities with students overseas in order to practice communication and learn about each others' cultures. （和訳）この授業では、英語コミュニケーションコースで引き続き学習するための英語力とコミュニケーション能力をさらに伸ばす。これには、外国文化や日本文化についての知識や認識を深めることも含まれる。ゼミナールでの学習に備えるため、今学期は主に2つの活動に重点を置くこととする。1つ目は、OCIAで使用しているテキスト「Evolve 2」を使用した授業外・授業内の学習とテストを継続し、コミュニケーション能力と言語能力を積極的に練習・向上させることである。2つ目は、海外の学生とのオンライン・プレゼンテーションやビデオ共有の活動で、コミュニケーションを実践し、お互いの文化を学ぶことである。	主要授業科目
			Oral Communication ⅡB	○	（英文）In this class, students will practice and improve their speaking and listening skills. We will investigate about real-world problems like the environment, energy, and economic crisis. We will also investigate about other countries through the Internet & books, and make presentations in groups or to the whole class. Students will speak to non-Japanese at Global Commons and link up with people abroad via the Internet.As we go along we will also attempt to improve our grammar and vocabulary knowledge.We will also continue to discuss graded readers and other fictional texts (movies etc) to expand our English knowledge and understanding. （和訳）この授業では、スピーキングとリスニングの練習を行う。環境、エネルギー、経済危機など、現実に起きている問題について調べる。また、インターネットや本で海外について調べ、グループやクラス全体でプレゼンテーションを行う。グローバル・コモンズで外国人と話したり、インターネットで海外の人とつながったりする。また、文法や語彙の上達も目指す。英語の知識と理解を深めるために、グレーデッドリーダーズやその他のフィクションテキスト（映画など）についてディスカッションを行う。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	英語コミュニケーションコース	Writing　I	○	本講義では、自分の考えを英語である程度のまとまった文章にすることができるようになることを目標とする。その際、日本語を介入させずに、できるだけ直接英語で考えるように練習を行う。トピックの絞り方、センテンスの組み立て方、論理の展開の仕方などを学び、整ったパラグラフを作成できるようにする。授業内では、英文を書くテクニックに加え、必要に応じて文法の復習、語彙の拡充を行う。テキストでは、できるだけ多くのmodel／sample　writingに触れることによって、英語の典型的な文章と、日本語の文章の書き方や発想の違いなどを発見できるようにする。様々なアクティビティーを通してトピックや内容の構想を練り、英文の推敲や校正の能力を高めることを目指す。	主要授業科目
			Writing　II	○	本講義では、Writing I で学んだことを土台に、より長いテキストを書けるようにする。身近なトピックについてエッセイを書くことから始め、最終的には、自分の主張を読者にしっかり伝えることができるような文章（アカデミック・ライティング）を作成することを目標とする。授業内では、英語の文章を書くテクニックに加えて、必要に応じて文法の復習、語彙の拡充を行う。様々なアクティビティーを通じてトピックや内容の構想を練り、完成度の高い作品を創り出すことを目指す。	主要授業科目
			米国文化 I	○	（英文）This class is meant to give students an introduction to the culture of the US. Culture grows out of history and values, so we shall look at those two points in American Culture. Students will gain the tools to achieve a basic understanding of American culture, American history, American English, and the values of the people of the USA. Students will improve critical thinking skills, and the ability to use English to discuss the topics in class. Students will also improve vocabulary skills needed to discuss the topics in the class. （和訳）この授業は、学生にアメリカの文化を紹介することを目的としている。文化は歴史と価値観から発展するので、アメリカ文化における2つのポイントを見ていくことにする。学生は、アメリカ文化、アメリカの歴史、アメリカ英語、アメリカ国民の価値観についての基本的な理解を達成するための手段を身につけることを目指す。クリティカル・シンキング（批判的思考）のスキルや、授業で扱うトピックについて英語でディスカッションする能力を高める。また、授業中のトピックについて議論するために必要な語彙力も向上させる。	主要授業科目
			英国文化 I	○	（英文）This class will cover basic aspects of British society, including geography, some history, the people, languages, food, entertainment, and similar aspects. This class is conducted entirely in English.Students will gain a basic knowledge of Britain, which they can use in future classes. （和訳）この授業では、地理、歴史、人々、言語、食べ物、娯楽など、イギリス社会の基本的な特徴を学ぶことを目指す。この授業はすべて英語で行われる。学生はイギリスについての基本的な知識を得ることができ、今後の授業に活用することができる。	主要授業科目
			英国文化II	○	（英文）At first, this class will continue to look at basic aspects of British life. There will then be exploration of the political system, largely through a film. Then students will explore the regions of Britain. Following some weeks of learning, students will engage in a group project concerning one region. Aspects to be covered will include geography, economics, culture, history and language.Students will increase their knowledge of Britain, and be able to compare British society with Japanese society. （和訳）この授業ではまず、イギリス生活の基本的な側面について学ぶ。その後、主に映画を通して政治体制について、学びを深める。また、イギリスの地域について学びを深めることを目標とする。数週間の学習の後、学生はある地域に関するグループ・プロジェクトに取り組む。地理、経済、文化、歴史、言語などが含まれる。学生はイギリスについての知識を深め、イギリス社会と日本社会を比較できるようになることを目指す。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	英語コミュニケーションコース	米国文化Ⅱ	○	（英文）This class is meant to give students an introduction to 20th and 21st century culture, in English. The first half of the semester we will consider some historical trends of the 20th century. Then we will study about cultural and social themes that are more related to today. Students will gain critical thinking skills. Students will gain information to understand American Popular culture. Students will gain information to understand race relations. Students will learn more about American Cultural influence around the world. Students will improve writing skills and vocabulary in order to express what they have discovered in their study of America. （和訳）この授業は20世紀と21世紀の文化を英語で紹介することを目的とする。学期の前半は、20世紀の歴史的傾向について学ぶ。その後、現代に関連した文化的・社会的テーマについて学ぶ。クリティカル・シンキングのスキルを身につけるとともに、アメリカの大衆文化や人種関係を理解するための情報を得ることを目指す。また、アメリカ文化が世界に与える影響について学び、アメリカについての学習で発見したことを表現するために、ライティングスキルと語彙力を向上させる。	主要授業科目
			English in the World		本講義は、辺境の地の小さな民族の話していた言葉である英語が一体どのようにして今日の国際語に発展するに至ったのか、世界各国で使われている「英語」の実際はどのようなものなのか、そして英語が世界の歴史、すなわち政治・社会・生活・文化などに与えてきた影響はどのようなものなのかなど、世界における英語の姿と、その歴史的背景について学ぶ。リーディングや講義、ディスカッションなどを加え、動画や音声を用いて様々な英語や使用されている状況について、実際に教室内で触れられるようにすることを目標とする。	
			文化比較		（英文）Appreciating and getting along with other cultures first requires an awareness of one's own culture, as well as culture in general. In this class, students will develop a better understanding of their own values, beliefs and behavior while also exploring various aspects of other cultures. ・Students will examine and compare Japan with different countries and cultures. ・Students will analyze and think critically about different topics and social issues. ・Students will further develop their ability to communicate in English. （和訳）異文化を理解し、うまく付き合うには、まず自国の文化や一般的な文化に対する認識が必要となる。この授業では、異文化の様々な側面を探求しながら、自分自身の価値観、信念、行動に対する理解を深めることを目指す。 ・日本と異なる国や文化について調べ、比較する。 ・さまざまなトピックや社会問題を分析し、批判的に考える。 ・英語でのコミュニケーション能力をさらに伸ばす。	
			Intensive Reading		（英文）This class will help the students improve their ability to deepen their understanding of reading on a given topic. Readings will be taken from the text as well as additional readings provided by the instructor in printed format or online. Students will be able to read with greater ease, speed, and confidence. They will gain strategies to help them have a deeper understanding of the materials they read, and experience delving deeper into the topics from various points of view. （和訳）この授業では、与えられたトピックに関するリーディングの理解を深める能力を向上させることを目指す。リーディングは、テキストからだけでなく、講師が印刷物またはオンラインで提供する追加リーディングも使用する。受講生は、より簡単に、より速く、より自信を持って読むことができるようになる。また、読んだ内容をより深く理解するための戦略を身につけ、様々な視点からトピックを深く掘り下げる。	
			Reading Fluency		（英文）This class will help the students improve their reading ability over a broad range of reading materials. Readings will be taken from the text as well as additional materials provided by the instructor. Students will be able to read a variety of materials with greater ease, speed, and confidence. They will better understand how to start reading something completely unfamiliar, and have strategies to help them cope with new content. （和訳）この授業では、読解力向上を目指す。リーディングは、テキストと講師が提供する追加教材を使用する。学生は、様々な教材をより簡単に、より速く、より自信を持って読むことができるようになる。全く馴染みのないものを読み始める方法をよりよく理解し、新しい内容に対処するための戦略を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	英語コミュニケーションコース	Communicative Grammar Ⅰ	○	本講義では、英語でコミュニケーションをとるために必要な基本的な文法項目を学び、英語による発話を理解するために必要なリスニング能力、専門的な英文にも対応できる読解力の育成を目指す。また、TOEIC形式の問題を解きながら、英語力を向上させることを目標とする。基本的な文法事項を学び、そしてそれを実際の発話で使用できるようになることを目指す。語彙の強化も図る。語学研修や留学、海外旅行に一人で行けるだけの英語力を身につけることがこの授業の最終的な目標となる。	主要授業科目
			英米事情		英語圏には優れた文学が数多く存在する。多くの人が必ず読むものであり、英語を学ぶ上で知っておくべき教養である。本講義では、そのような作品を読み上げるのではなく、映画などの映像をとおして考え方に触れることを目標とする。また、リスニングの練習も併せて行う。そして、自分の感じたことや意見を述べ、他の人の感想や意見に対してディスカッションできるようになることを最終的な目標とする。	
			Business Writing		（英文）This class focuses on writing in English in a business environment, specifically on writing emails and letters to communicate with clients and colleagues in English. We will learn set phrases, grammatical patterns, and writing styles that will help you to write professional, understandable, and helpful communication in English.Students will improve their Business English vocabulary, as well as e-mail writing process and editing skills. （和訳）この授業では、ビジネス環境における英語でのライティング、特にクライアントや同僚と英語でコミュニケーションをとるためのEメールや手紙の書き方の向上を目指す。専門的で、理解しやすく、役に立つコミュニケーションを英語で書けるよう、決まったフレーズ、文法パターン、ライティングスタイルを学ぶ。ビジネス英語の語彙を増やし、Eメールの書き方や編集のスキルも向上させる。	
			Critical Essay	○	（英文）The purpose of this class is two-fold. Initially, the purpose will be to teach students how to structure and organize a written paragraph. Then the focus will shift to teaching students how to structure and organize a multiple-paragraph essay. In the first half of the semester, students will cover topics such as topic sentences, transitional expressions, major points and minor details, and writing a two-part conclusion. In the second half of the semester, students will learn how to write a much longer piece of work, called an essay, which is constructed from five cohesive paragraphs: an introductory paragraph, three body paragraphs, and a concluding paragraph. （和訳）本講義では、英語で評論を執筆するにあたっての技法を学ぶ。その目的は2つあり、まず、パラグラフの構成と整理の仕方を学ぶ。その後、複数段落からなるエッセイの構成と書き方を学ぶ。前半では、トピックセンテンス、移行表現、主要なポイントと詳細、2部構成の結論の書き方などのトピックを扱う。学期後半には、序論・本論・結論から構成されるエッセイと呼ばれる、より長い作品の書き方を修得することを目指す。	主要授業科目
			Process Writing	○	（英文）This class is designed to help students develop strategies to increase their fluency in writing in English. As students already have a number of grammar & academic writing courses, this class aims at building comfort & confidence in English writing by making it interesting and enjoyable. Numerous studies show that quantity of writing does improve quality. Thus, it is primarily a creative writing course, encouraging students to develop the desire to write through exploring their minds and themes in their own lives and hearts. Students should increase writing fluency as well as consciousness about the writing process. （和訳）この授業は、より優れた英作文を作成できるようになるための戦略を身につけることを目的とする。文法やアカデミック・ライティングのコースはすでに数多く開講しているため、このクラスでは、英語のライティングを興味深く、楽しく学ぶことで、ライティングに慣れ親しみ、自信をつけることを目指す。ライティングの量が質を向上させることは、数多くの研究によって証明されている。 従って、このクラスは主にクリエイティブ・ライティングのコースであり、学生が自分の心や人生や心の中のテーマを探求することを通して、書く意欲を育むことを目指す。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	英語コミュニケーションコース	Public Speaking	○	（英文）The class aims to give learners strategies for becoming more successful public speakers by exposing them to different speech structures and presentation styles. In addition, students will learn to organize and produce speeches across a range of speech types. Thus, through this experience students will begin develop a deeper awareness of the criteria of successful communication with their peers in a presentation setting. Students will also learn to integrate the process of writing speeches with the criteria of evaluating speeches, while they learn to set their own performance goals, as they progress through the class. （和訳）この授業では、様々なスピーチの構成やプレゼンテーション・スタイルに触れることで、人前で話すことをより成功させるための戦略を身につけることを目指す。また、様々なタイプのスピーチを構成して作り出すことを学ぶ。このような経験を通して、学生はプレゼンテーションの場で仲間とのコミュニケーションを成功させるための基準について、より深い認識を持つようになる。また、スピーチを書くプロセスとスピーチを評価する基準を統合することを学び、クラスが進むにつれて、自分自身のパフォーマンス目標を設定することを学ぶ。	主要授業科目
			Debate and Discussion		（英文）In Western culture, debate is appreciated as one of the most important tools used for shaping and guiding society. By arguing through issues of our day we hope to analyze, weigh and choose the best of many possible paths to take. This class will help students think and talk about global problems of our age. Debate and Discussion is an intermediate to advanced class in English conversation. Its focus is on helping students understand the basic vocabulary and structure of debates so that they can express themselves on a variety of personal, popular and global issues. The level of discussion and the difficulty of the issues will depend upon students'abilities, and will be adapted accordingly. （和訳）西洋文化では、ディベートは社会を形成し導くための最も重要なツールのひとつとして評価されている。 現代の問題について議論することによって、分析し、比較し、より良いものを選択できるようにする。この授業では、現代のグローバルな問題について考え、話し合うことを目指す。ディベート&ディスカッションは英会話の中級から上級となる。ディベートの基本的な語彙と構造を理解し、個人的な問題、一般的な問題、世界的な問題など、さまざまな問題について自己表現ができるようになることに重点を置く。ディスカッションのレベルや問題の難易度は生徒の能力によって異なるため、適宜対応を行う。	
			Dynamics of Expression		（英文）Knowledge without application is of little value. Effective application is dependent upon one's ability to express oneself: to give life and force to one's feelings and ideas. In this class students will explore ways to effectively express themselves in English in a variety of situations ranging from complaining in a restaurant to campaigning for political office. The class will be very interactive and student-centered, allowing students to develop their own creative and expressive abilities. （和訳）応用を伴わない知識は、ほとんど価値がない。効果的な応用は、自分自身を表現する力を身につけることができる。この授業では、レストランでのクレームから政治家の選挙運動まで、様々なシチュエーションを想定し、英語で効果的に自己表現する方法を学ぶことを目指す。この授業は、学生が自分自身の創造力や表現力を伸ばすことができるよう、学生主体の対話型で行う。	
			Communicative Grammar Ⅱ	○	本講義では、Communicative Grammar Ⅰで学んだ内容をより発展させ、英語でコミュニケーションをとるために必要な基本的な文法項目を学び、英語による発話を理解するために必要なリスニング能力、専門的な英文にも対応できる読解力の育成を目指す。また、TOEIC形式の問題を解きながら、英語力を向上させることを目標とする。基本的な文法事項を学び、そしてそれを実際の発話で使用できるようになることを目標とする。語彙の強化も図る。語学研修や留学、海外旅行に一人で行けるだけの英語力を身につけることがこの授業の最終的な目標である。	主要授業科目
			Intercultural Discussion	○	（英文）This class deals with the difficulties of communicating between cultures. The need for awareness of cultural differences is a must in this era. In this year's course, we will consider how to interact with people from other cultures, while keeping an open mind, and flexible thinking patterns. In addition, we will look closely at concepts that are truly important in this era: global development, the environment, and education. This course requires lots of commitment in terms of out-of-class study and is only for serious English learners. （和訳）この授業では、文化間のコミュニケーションの難しさを学ぶ。文化の違いを認識することは、この時代には必須となる。オープンマインドと柔軟な思考パターンを保ちながら、異文化の人々とどのように交流するかを学ぶ。さらに、この時代に真に重要な概念である、グローバルな開発、環境、教育についても詳しく学ぶ。授業外での学習という点で、多くのコミットメントを必要とし、真剣に英語を学ぶ人のための授業である。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	英語コミュニケーションコース	Global Understanding in English		この同時双方型オンライン授業は、Zoomビデオ会議により、授業時間中海外大学の学生と英語での小グループやペアーディスカッションを行い、異文化・国際コミュニケーションや理解を目指す実践的な授業である。ディスカッション時に取り上げるテーマは、教育や大学生活・家族や習慣・伝統文化・ツーリズム・働くことやキャリア・人生の意義や宗教・その他、時事問題、参加者が関心を持つトピックス、などである。ディスカッション活動の他に、講義によるグローバル化と異文化・国際コミュニケーション及び理解に関する情報や研究を参考にする。	メディア
			海外研修	○	（英文）In the spring and summer vacation, students are able to study abroad in a number of English-speaking countries. This is a golden opportunity to improve your English, and truly experience all elements of another culture. Students are strongly encouraged to take this chance, as early in their English Communication Course studies as possible. （和訳）春休みと夏休みに、英語圏の国に留学する。これは英語を上達させ、異文化のあらゆる要素を真に体験することを目指す最良の機会である。英語コミュニケーションコースに所属してなるべく早い時期での受講を強く奨励する。	主要授業科目
			英語資格試験セミナー		本講義は、ＴＯＥＦＬ iBT受験の学習を通して、四技能における英語活用能力を向上させる。 授業では、Listening と Reading を中心に四分野全てを取り扱い、テスト受験準備の導入と基本的な英語運用能力の育成を主な目的とする。毎回の授業では、教科書とプリント教材を使用して、テスト受験に必要なスキルを問題の種類別に基本的なものから紹介し、それらを時間の許す限り反復練習する。さらに、講座終了後も、自主学習ができるよう学習方法を学ぶ。	
			Forum		本講義では、現代のグローバル社会が直面している課題、温暖化問題や、生物多様性の保全、臓器移植、人工授精等を取り上げつつ、英語のヒヤリング、議論、発表能力の向上を目指す。なお、ゲストスピーカーとして、社会活動家、外交官、企業家も招く予定である。講義の内容（英語）を理解し、質問する能力を高める。	
			Seminar Ⅰ	○	Seminar Ⅰでは、主に英語圏（イギリス・アメリカなど）の国・地域の文化・歴史などを対象に、各自の問題関心に基づき、テーマを設定し、考察を深める。 （12　ホワイト　ショーン・アラン） （英文）This class will complete authentic English language readings and lectures on global topics and culture and intercultural communication.We will also complete topical writing assignments to develop our language, communication, intercultural, and other practical skills. （和訳）このクラスでは、グローバルなトピックや文化、異文化間コミュニケーションに関する本格的な英語リーディングや講義を行う。また、語学力、コミュニケーション力、異文化理解力、その他実践的な能力を養うために、時事的なライティングの課題を行う。 （24　今村　潔） 日本語と英語とを多角的に比較研究し、それぞれの文化がどの様に言葉の中に現れているかを考える。それぞれの言葉による物の見方の違い、考え方の違いを学ぶ。英語圏だけではなく、広く文化の違いも見ることを目標とする。Seminar Ⅰ・Ⅱと続けて一つのまとまった論文を書くことになる。Ⅰでは、研究のための調査が中心になる。まとめ方や論文の書き方、全体の構成のとらえ方などを身につけ、言葉や文化に関して学んだ後にディスカッションを行う。 （87　メベッド　シェリフ） （英文）This class will investigate film and written texts.The goal will be to find some information concerning the core of English speaking countries. We will further improve critical thinking skills by considering what is important within various texts, and how these might reflect society and political trends. （和訳）このクラスでは、映画や文章を調査し、英語圏の核心に関する情報を見つけることを目標とする。様々なテキストの中で何が重要なのか、また、それらが社会や政治の動向をどのように反映しているのかを考えることで、批判的思考力をさらに高める。 （91　ロザーティ　サイモン） （英文）This class will examine aspects of British society, covering a different topic each week.Students will increase their knowledge of British society, and make comparisons with Japan and other countries. They will learn to express themselves on abstract topics. （和訳）このセミナーでは、各自がテーマを設定し、イギリス社会の諸側面について調査し、日本や他国との比較研究を行うとともに、考察を深める。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	英語コミュニケーションコース	Seminar Ⅱ	○	Seminar Ⅰを基礎とした発展的な科目であり、卒業研究を念頭に置きながら、学生各自の研究テーマや問題関心のある事柄を一層拡大・深化させていく。 （12　ホワイト　ショーン・アラン） （英文）This class will complete authentic English language readings and lectures on global topics and culture and intercultural communication.We will also complete topical writing assignments to develop our language, communication, intercultural, and other practical skills. （和訳）このクラスでは、グローバルなトピックや文化、異文化間コミュニケーションに関する本格的な英語リーディングや講義を行う。また、語学力、コミュニケーション力、異文化理解力、その他実践的な能力を養うために、時事的なライティングの課題を行う。 （24　今村　潔） 日本語と英語とを多角的に比較研究し、それぞれの文化がどの様に言葉の中に現れているかを考える。それぞれの言葉による物の見方の違い、考え方の違いを学ぶ。英語圏だけではなく、広く文化の違いも見ることを目標とする。Seminar Ⅰで各自が決めた卒論のテーマについて、さらに詳しく検討を重ねて、実際に卒論を書き始める。 （87　メベッド　シェリフ） （英文）This class will continue to investigate film and written texts.The goal will be to find some information concerning the core of English speaking countries. We will further improve critical thinking skills by considering what is important within various texts, and how these might reflect society and political trends. （和訳）このクラスでは、映画や文章を調査し、英語圏の核心に関する情報を見つけることを目標とする。様々なテキストの中で何が重要なのか、また、それらが社会や政治の動向をどのように反映しているのかを考えることで、批判的思考力をさらに高める。 （91　ロザーティ　サイモン） （英文）This class will examine aspects of British society, covering a different topic each week.Students will increase their knowledge of British society, and make comparisons with Japan and other countries. They will learn to express themselves on abstract topics. （和訳）このセミナーでは、各自がテーマを設定し、イギリス社会の諸側面について調査し、日本や他国との比較研究を行うとともに、考察を深める。	主要授業科目
			卒業研究	○	本科目は、Seminar Ⅰ・Ⅱの学びを基礎とした発展的な科目であり、学生各自の研究テーマや問題意識と関心のあることがらを一層拡大・深化させていきながら、卒業研究を完成させる。 （12　ホワイト　ショーン・アラン） （英文）For this class one major project will be completed during the semester--an approximately 4,000-word academic paper or other individually-produced English-language project on a topic of your interest and choice. （和訳）このクラスでは、学期中に約4,000語の学術論文または自身が興味のあるトピックに関する個人研究レポートとして、卒業研究を完成させることを目指す。 （24　今村　潔） 本講義では、日本語と英語とを多角的に比較研究し、それぞれの文化がどの様に言葉の中に現れているかを考える。それぞれの言葉による物の見方の違い、考え方の違いを学び、英語圏だけではなく、広く文化の違いも見ることを目標とする。最終的にはSeminar Ⅰ・Ⅱで書き始めた卒論を完成させることを目指す。 （87　メベッド　シェリフ） （英文）Students will write a graduation thesis, which is based on the study of one or more texts. Those texts could be literary, film, or even graphic novels (manga etc). （和訳）学生は、1つまたは複数のテキストの研究に基づいて卒業論文を執筆する。それらのテキストは文学、映画、あるいはグラフィック・ノベル（漫画など）である。 （91　ロザーティ　サイモン） （英文）This is a class for independent study on a topic of interest to the student. The topic must be related to the UK, but may also involve other countries. （和訳）学生が興味のあるトピックについて、自主的に研究する。トピックは主として英国に関連したものでならないが、他の国に関するものでも問題ない。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	英語コミュニケーションコース	学部共通特別講義Ⅰ		本講義では、教材を用いて日記をつけ、その上で、自らの体験に基づいたエッセイを記し、文章の技法を学びながら、自らの声を磨き上げ、課題を見出すことを目指す。書くこと、読むこと、語り合うことを重視した実践を行う。最終回にはファイナルアサインメントを集めた文集の合評会を行う。また、書いたものをシェアし、互いの作品をコメントし合うグループワークを重視する。対面での交流の中で、他者を理解し、同時に自らを見出していく、ダイナミックな過程を体験する。さらには、現在、世界が直面する戦争、気候変動等の切迫した問題について読んだり聞いたりしながら、わたしたちの視野に取りこむことを目指す。ルールを守り、お互いを信頼、尊重しあえる場を作り、建設的コメントを提供するコミュニケーション能力を身につける。	
			学部共通特別講義Ⅱ		（英文）In this class students will learn to closely observe objects, particularly flowers. They will use English to describe these objects as exactly as possible, thus improving their English vocabulary and fluency. They will then draw the objects. They will share their artwork with other students. They will then describe the effect that their own work, and that of others, has on them. This will help students discuss art and other aspects of culture in English. （和訳）この科目では、英語で視覚芸術分析を学ぶ科目である。講義では、植物のデッサンを題材に、観察分析した内容を英語で表現することで、英語運用能力の向上をはかります。また、受講者が描画したデッサンを共有し、受講者相互での作品批評も行う。講義での取り組みを通して、芸術・文化に関する批評を英語でできるようになることを目指す。	
			学部共通特別講義Ⅲ		本講義では、日本のアニメを英語で視聴し、日本語の表現がどのように英語になるのかを学ぶことで、日本語から英語への変換が素早くできるようにすることを目指す。また、普通の速度の英語が聞き取れる能力を身につける。	
			学部共通特別講義Ⅳ		本講義では、天文学に関するテーマを英語で理解して4つの技能を高め、英語力の向上を目指す。地球から見た月、太陽、太陽系の惑星、銀河、宇宙などの様々な基本的な知識を英語で通読したり、映像資料等を活用したり、天文学について調べた内容の発表を行う。	
			学部共通特別講義Ⅴ		（英文）This class looks at the various levels of communication that take place in addition to simple language and the miscommunications that can take place between various cultures, races, religious, gender and ethnic identities. Through examining the interactions of different cultures from around the world and from within Japanese society itself, students will learn both the vocabulary of communication theory and the practical lessons of how to navigate successfully and peacefully in our complex world. Through discussions and examples from video and textbook, students will connect their own experience to communication realities and theory. It helps students learn how to navigate both academic texts and a variety of social situations. （和訳）この授業では、単純な言語だけでなく、様々な文化、人種、宗教、性別、民族的アイデンティティの間で起こりうるミスコミュニケーションなど、様々なレベルのコミュニケーションに注目する。世界各国、そして日本社会における異文化の相互作用を考察することで、コミュニケーション理論の語彙と、複雑な世界をいかにうまくナビゲートするかという実践的な教訓の両方を学ぶことを目指す。ディスカッションやビデオや教科書の例を通して、学生は自分の経験とコミュニケーションの現実や理論を結びつける。アカデミックなテキストと様々な社会的状況の両方をナビゲートする方法を学ぶ。	
		スポーツサイエンスコース	身体運動の生理学	○	競技スポーツで最良のパフォーマンスを発揮することや健康・体力の維持・増進を目的とした活動での成果を得るためには、スポーツや運動に密接に関連する生体の諸機能について理解し、その知識を応用することが重要である。本講義では、からだの構造と機能について解説し、生体の諸機能に関する基礎的知識の習得を目指す。その上で、運動によってどのような生理的応答が起こるのか、それがなぜ何のために起こるのかについての理解を深める。これらを通して、からだについて理解し、応用できる素地を養成することを目指す。	主要授業科目
			身体運動の機能解剖学	○	機能解剖学はスポーツやフィットネスのためのトレーニング、動作分析、リハビリテーションを科学的に行うための基本となる科目である。スポーツウエアやシューズを始め、さまざまなスポーツ用具の開発やデザインを行うためにも機能解剖学の知識が必要である。関節や骨格の基本構造を学び、さまざまな筋肉の働きを知って、身体運動がどのようにして生じるかを学ぶことは、スポーツバイオメカニクス、トレーニング論、スポーツ医学、スポーツ生理学、体力学、トレーニングエクササイズ実習等の基礎となる。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	スポーツサイエンスコース	身体運動の制御と学習	○	コップを掴む、ペンで文字を書く、ボールにバットを当てるなど、我々の日常動作やスポーツ場面でみられる運動技能は、複雑にみえる身体運動によって実現されている。本講義では、主としてスポーツ心理学の立場からスポーツや身体運動における事象をとらえ、「ヒトがどのようにして自身の身体を動かしているのか」という運動制御と、「ヒトはどのようにして巧みな運動技能を学習するのか」という運動学習について考える。特に、スポーツにおける熟達差や熟達化について、心理学や認知科学および神経科学などの観点より解説することを通して、スポーツにおける運動技能と、その習熟について発展的に検討する。	主要授業科目
			現代スポーツ論	○	スポーツは、現代社会を構成する重要な領域の1つとして認知され、その役割を担っている。しかし近年、スポーツ界から発せられる時事的諸問題（トラブル、事故、不祥事等）が数多く新聞やネット等で報道されている現状にある。本講義では、スポーツがもつ可能性を自覚し、スポーツを取り巻く状況や問題について把握するために、現代スポーツを巡る諸問題について、その原因や背景等にもふれる。これにより、今後の課題を明確に把握できるようになることを目的とする。	主要授業科目
			近代スポーツ史	○	本講義の前半では、「近代スポーツ」が誕生したイギリスの19世紀から20世紀初頭の状況に着目し、スポーツがなぜ、どのようにしてイギリスにおいて醸成されたのかを、同時代の思想、政治、経済などの背景をふまえて論じ、またその後のアメリカを含めたスポーツをめぐる動向について理解を深めることを目的とする。講義の後半では、このスポーツがどのようにして世界各国に広がったのかについて、また、外来文化としてのスポーツや体操が近代日本においてどのように受容され、展開していったのかについて論じる。	主要授業科目
			スポーツ栄養学		健康スポーツ実践者からアスリートまでの領域で、種目別、時期別、トレーニング内容等先行研究の紹介やチームサポート実例を通して解説していく。特に、選手は一般人に比べ活動量や食事量も多い。より良く食事を摂取してもらうために、運動生理学や栄養学や調理学等の知識を生かして、食品の選び方や食べ合わせ、アスリート用サプリメントにいたるまでの知識を身につけることを目指す。また、簡易な作業によりエネルギー消費量と食事摂取状況を把握し、自身の課題について考える。	
			スポーツと経済		スポーツ経済が射程とすべき範囲は、プロスポーツ、地域スポーツ、学校スポーツ、フィットネス、スポーツファシリティ、スポーツイベントなど、広く複雑である。スポーツは、なぜビジネス化（産業化）されたのか？そして、今後のスポーツ振興については、さらなるビジネス化（産業化）が必要なのだろうか？これらの疑問に答えるためには、成立過程や産業構造を正しく認識することが重要である。そして、現代において産業化されたスポーツが抱える根源的な課題を提示し、今後のスポーツ産業の発展のために必要な方策を検討する。また、本講義においては、民間企業においてスポーツビジネスに携わる実務者をゲストスピーカーとして招き、その経験を基にしたスポーツビジネスの現場の課題や特殊性を講義いただく。	
			スポーツマネジメント論	○	「するスポーツ」や「みるスポーツ」などのスポーツ参加者やスポーツ観戦者を総称したスポーツ消費者は、マネジメントされたスポーツ活動を楽しんでいる。さまざまなスポーツシーンにおいて、経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を適切に確保し、円滑に活用するために必要なマネジメントが施されているからこそ、スポーツを楽しむことができるのである。つまり、多岐にわたるスポーツの価値を創造し続けるためにはマネジメントは欠かせないのである。本講義では、スポーツマネジメントの概念から実践で求められる新たなマネジメントについて、基礎的知識を得る。	主要授業科目
			エクササイズテクニック		本講義では、各種のエクササイズテクニックを実際に身体を使ってデモンストレーション能力を身に付けると同時に、各エクササイズについての解剖学やバイオメカニクスやトレーニング理論からの理解を深めていく。また、各種の分析機器を用いて実際に発揮している力を調べたり、パワーの特性を確かめたりしながら、客観的データに基づいた指導ができることを目指す。	
			スポーツメディア論		本講義は、今私たちが目の当たりにしている近代スポーツの文化がどのようにして形成されてきたのかという問題について、新聞・ラジオ・映画・テレビ・インターネットなどのメディア文化とスポーツの関係史という視点から概観していくことを目的としている。したがって、本講義はいわゆる狭義のジャーナリズム論を講じてスポーツの「あるべき姿」を考えていくことよりも、メディア文化との関わりによってスポーツ文化がどのように形作られているのか、その現実としてのありようをより広い視野で考えていくことに主眼を置く。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	スポーツサイエンスコース	スポーツ医学		本講義では、運動・スポーツの現場や、日常生活で起こりうる内科的、外科的障害や外傷について臨床医学的、特にリハビリテーション医学的に解説する。同時に、その治療法や対処方法について学ぶ。スポーツ医学に必要な解剖、生理学を総合的に学習し理解を深めることから始め、生活習慣病を含めた内科的疾患やスポーツ外傷、障害の画像の見方、治療方法を学ぶ。さらに、心電図の見方や運動負荷試験の見方、注意点を学び、理解を深める。	
			スポーツ統計学		実験や調査、観察などにより研究を進め、意義ある研究結果を残したい場合、適切な研究手法を用いなければならない。すなわち、適切な研究計画のもとで測定値を取得し、そして、得られたデータは数理の世界のルールに従って正しく処理されなければならないのである。本講義では、卒業論文などの研究計画を念頭に、研究計画の立て方から統計学に基づくデータ処理の基礎を講義し、データ解析演習によってデータ処理の実践力を養成する。	
			スポーツ政策論		スポーツは、世界共通の人類の文化であるとともに、現代社会において多様な意義と役割が期待されており、スポーツ政策は、世界各国でグローバルかつローカルに展開される重要な政策課題の一つとなっている。わが国においては、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を契機に、スポーツに関する施策を総合的に推進するための組織としてスポーツ庁が設置された。わが国のスポーツ政策は、歴史的にも大きく動いている時期にあると考えられる。そのような中で、本講義では、スポーツ指導者、スポーツ行政担当者、教員、社会体育指導者やボランティア等に携わる上で心得るべきスポーツ政策学に係る基礎的事項の習得を目標とし、わが国のスポーツ政策のかかえる諸問題・課題にもふれて理解することを目指す。	
			健康スポーツ論		近年、飽食や運動不足による生活習慣病の危険性が増加し、健康への関心とその対策の必要性が高まっていることから、厚生省（現：厚生労働省）は1978年に第一次国民健康づくり対策、1988年に第二次国民健康づくり対策を進め、各種基盤の整備等を推進してきた。さらに、2007年に「新健康フロンティア戦略」、2008年度からは40～74歳を対象とした特定健康診査とその後の保健指導が義務付けられるようになるなど「健康に対する努力を応援する社会システムの構築」が進んでいる。2013年度からは国民の健康増進を総合的に推進していくため「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動（健康日本21（第二次））」がスタートした。 本講義では、健康づくりについて、行政、および地域における具体的な施策と課題について学ぶ。	
			体力学		競技力向上を意図した基礎体力や専門的体力のトレーニング、あるいは健康・体力づくりを意図したトレーニングにおいて重要なことは、体力要素の測定と評価から目標を設定し、各種プログラムの実施による成果の把握とその評価を行うことと言える。特に競技スポーツにおいては、スポーツ種目の特性やパフォーマンスとの関係を考慮した体力要素の測定・評価が重要となる。本講義では、体力を構成する各要素の中で数量化できる要素を対象として、その測定項目とからだの構造・機能との関係および正確な測定法について解説し、測定により得られた数値から体力要素とスポーツ競技力の向上や健康の維持・増進のための身体運動との関係について検討する。また、客観的な評価手法についての理解と実践力を身に付けてもらうよう課題設定による測定と評価の実習も取り入れ、スポーツ活動の場面で応用し得る技量の獲得を目指す。	
			フィットネスプログラミングⅠ		日本人の死因の上位を占める、がん、心疾患、脳血管疾患や、近年増加の一途をたどる糖尿病はいずれも生活習慣病と言われている。なぜなら食生活や運動、喫煙、飲酒、ストレスなどの生活習慣が深く関係しているからである。これらの生活習慣病を予防するためには生活習慣を見直すことが必要不可欠であり、その中でも運動の効果は特に注目されている。本講義では、健康の維持・増進および体力の向上を目的とした運動処方作成のための基礎的理論を解説するとともに、ウォーキングやランニング、各種トレーニングの効果についても学修する。	
			スポーツ心理学Ⅰ		スポーツにおけるメンタルトレーニングは、応用スポーツ心理学の知識や理論をもとに行われている。本講義では、応用スポーツ心理学の理論について理解を深め基本的なメンタルトレーニングの技法について学ぶ。これにより、以下について理解を深めることを目指す。 1.スポーツ活動への参加やパフォーマンスに心理的な要因がどのように影響するかについて理解する。 2.スポーツ活動への参加が心理的スキルの向上にどのように影響するかについて理解する。 3.スポーツ心理学やメンタルトレーニングの知識を応用してどのようにコーチングや教育へ応用するかについて理解する。 4.スポーツの競技特性や各個人に合ったメンタルトレーニングについて考察する。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	スポーツサイエンスコース	スポーツマーケティング論		スポーツマーケティングは、スポーツビジネスの発展にともなって出現した概念である。本講義では、大きく「見るスポーツ」と「するスポーツ」で生起するスポーツ消費者のニーズと欲求を満たすために行われているすべての活動をスポーツマーケティングと定義し、スポーツマーケティングの概念から基礎理論について学ぶ。さらに、変化するスポーツマーケティングの事例を通した実践法などの基礎知識を修得するための講義により知識を得る。	
			スポーツ法学		スポーツの場面では、法的に検討しなければならないことがたくさんある。スポーツの試合中、練習中に事故が起きてケガをしてしまった場合、誰かに治療費を請求できるのか。できるとしたら、誰に対して、どういう理屈でいくら請求できるのか。大学スポーツに真剣に取り組んでいる学生や、今後、スポーツ関連企業への就職など、スポーツにかかわる仕事をしようと思っている学生が、トラブルに巻き込まれたとき、法律的な視点があれば、自分の身を守ることができる。また、そもそもトラブルが起こらないようにふるまうことができる。本講義では、スポーツの現場でトラブルが起こらないようにするためにはどうしたらよいか、そして残念ながらトラブルが起きてしまったときの対処法を考察する。	
			バイオメカニクス		スポーツバイオメカニクスとは、スポーツにおける身体運動を、力学的視点から研究する分野である。今日、スポーツバイオメカニクスは、トップ選手のより効率的なフォームの追求や、選手の能力を最大限に引き出すための用具・用品の開発をはじめ、トレーニング機器の開発やトレーニング効果の分析等々に利用されている。スポーツバイオメカニクスを深く理解し、スポーツテクニックやトレーニングの改善のために使いこなすには、物理学（力学）や数学の基本的な知識が不可欠となり、そこを避けていたのではいつまでたっても感覚的・経験的な思考の域を出ることはできない。本講義では、ツールとしての「３次元動作解析」というバイオメカニクスの手法に焦点を当て、アプリケーションソフトウエアを用い、実際に３次元動作分析の作業を行いながら、バイオメカニクスの基礎理論を学ぶ。	
			地域スポーツ論		国および地方公共団体が取り組むスポーツ行政は、国民の健康増進や体育・スポーツの普及・振興に大きな役割を果たしていることを研究報告及び事例をとおして説明する。本講義では、生涯スポーツ、中等教育のスポーツ指導に必要な法律・政令、その他の法規の範囲内で行われる体育・スポーツの普及・振興のための活動とその仕組みについて、特に「地域のスポーツ」に焦点をあてることにより、スポーツの役割と課題について取り組む。	
			スポーツトレーニング論		トレーニングの方法論を理論的に理解し、考えることは、トレーニングの現場における現実的な課題を正確に把握し、効果的なアプローチを探るために極めて有効となる。また、トレーニングを効果的に進めるためには、周辺のコントロールするべきさまざまな条件についても、もらさず把握することが必要である。それによって、経験や伝統や勘やその場の思いつきだけで行うトレーニングよりもより確実に成果を上げる可能性が高くなる。科学的なトレーニング方法とは、有名コーチや、有名選手のトレーニング方法を真似ることではない。さまざまなレベルの現実的な条件のもとでの選手やチームの事実を直視し、そのスポーツの特性を十分把握した上で、最も合理的な方法論を過去の方法にとらわれずに追求することによってのみ、飛躍的な成果を上げるトレーニング方法が見つけることができる。	
			スポーツ文化論		現代社会ではスポーツが身近に存在する。テレビや新聞などのマスメディアでは、毎日、スポーツ関連のニュースが報道されている。オリンピックやワールドカップなどの国際大会では、アスリートの活躍が社会に熱狂を生み、その輝きが我々に勇気を与えてくれる。また、体育の授業ではスポーツが教材として扱われ、課外活動としてスポーツ系の部活動、地域のスポーツクラブなど、我々は様々なスポーツに親しむ機会を持っている。 スポーツをする、見る、支えると様々な関わりがあるが、本講義では、スポーツを「調べる」ことから、スポーツを深く知り、様々な疑問について考える。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	スポーツサイエンスコース	フィットネスプログラミングⅡ		健康は、運動と密接に関係していることが明らかになってきている。そのため生活習慣病の予防や体力の向上など、健康づくりとしての運動が重要視され、習慣的に運動する人が増加している。このような状況の中、様々なニーズに対応して運動プログラムを処方し、指導できる人材の育成にも注目が集まっている。本講義では、各種トレーニングについて、その強度や量およびエクササイズテクニックの難易度などを体験するとともに、指導方法についても学習する。また、様々な体力測定を行い、そのデータを評価することについても学修する。	
			スポーツ心理学Ⅱ		スポーツ・運動心理学は、競技スポーツから健康づくりのスポーツまで非常に幅広い対象者を心理学的に扱った領域である。競技スポーツにおける主なトピックは競技力向上のための心理学である。一般的には、「メンタルトレーニング」と呼ばれている。さらに、スポーツ活動を行ううえで欠かせない、凝集性やコミュニケーションなどについてもこの領域に含まれている。一方、健康づくりのための心理学は、運動を実践することによる心理的効果などのトピックを中心に行われている。また、この領域ではコーチングに関する研究やその実践方法などについても盛んに行われている。そこで、本講義では、スポーツにおける凝集性、コーチングに関する心理学、健康づくりのための心理学という３つの側面から展開する。	
			特別演習Ⅰ	○	本演習では、スポーツサイエンスコース開講科目での学修を踏まえながら、学生各自の研究テーマや問題意識・関心のある事柄を一層拡大・深化させていく。その取組をとおして特別演習Ⅱおよび卒業論文作成のために必要な基礎的知識の修得を目指す。 （45　佐々木　浩雄） 本演習では、「スポーツのこれまで」を知り、同時にスポーツという現象の分析をとおして人間・社会・文化への理解・洞察を深めていくこと、そして「スポーツのこれから」を考える力を養っていくことを目的とする。毎週のゼミでは、スポーツに関する事象の分析や論文等の要約・論評、プレゼンテーション、ディスカッションをおこない、読解力、批判力、論理的なものの考え方、論文の書き方などを身につけながら、スポーツを見る眼を磨く。 （82　松永　敬子） 本演習では、①クラブ・サークル組織などが、活動を通じてどのように成果を達成していくのか？強いだけでなく応援してもらえるチームとは？というスポーツ組織のマネジメントについて学ぶ。②プロスポーツクラブや本学サークルの公式戦・交流試合、そして地域貢献活動をはじめとする多岐にわたる事業を通じて、どのように成果を得るのか？さらに、観客・ファンやスポンサー企業をより多く獲得するための戦略について考える。③「スポーツ×地域活性化」を軸に、地域や社会の課題を産公学と連携することで解決に導くための戦略やしくみづくりについて考える。またそのための実践活動および企業研究にも取り組む。 （131　松畑　尚子） 本演習では、みなさん自身の身近な問題意識に基づくスポーツの公共的問題（社会で解決すべきと認識された問題）について、政策、行政、財政、法などの多角的な観点から問題研究を行う。例えば、国や地域のスポーツ振興策、学校体育・運動部活動、スポーツ事故対策、アンチ・ドーピング制度など、スポーツの推進に関する多様な社会的諸事象について、その仕組みや問題・課題、さらにはその改善策を考える。 （179　小川　雅志） 本演習では、トレーニング、コーチング、コンディショニング、運動能力測定・評価、リハビリテーション、障害予防、動作分析、戦術分析、トレーニング機器・スポーツ用具開発等々について、常に現場におけるスポーツ実践とのかかわりを大切にしながら学びます。　それらを通じて、これからのスポーツ現場に必要とされるさまざまな最新テクノロジーを理解し使いこなせる技能を高めることを目指す （206　川端　浩一） 本演習では、スポーツ生理学に関する図書や研究成果（論文）から、スポーツの実践に必要な基礎知識の習得とともに、ヒトの機能を測る（測定）実習と得られた情報の客観的な整理や分析を行います。また、受講者の興味関心に応じた研究成果についても共に学んでいきます。 これらを通して，スポーツ生理学の基礎知識の理解とそれをどう活かすかを考え，科学するこころや研究を行なう素養を身につけることを目指します. （266　鈴木　啓央） 本演習では、疑問から出発し、人間が自分の身体を想い通りに動かすときのメカニズムやその学習理論を学ぶ。そして、ここでの知見をスポーツ場面での運動技能に応用する。例えば、「熟達したスポーツ選手と初心者の運動技能にはどのような違いがあるのか」また「どのような練習をすれば選手の運動技能が向上しやすいのか」などについて、ビデオカメラをはじめとした様々な機材を用いて人間の振る舞いを計測し、さらにコンピューターを用いて定量的に分析する。これにより、科学的な知見をスポーツ指導場面へと汎用できる素養を高めることを目指す。 （397　山田　弥生子） 本演習では、スポーツをしている時のこころの動きや、スポーツを通したこころの変化や成長を、スポーツ心理学ではどのように捉えているのかを学び、考え、そして論理的に検討していくことを目指す。併せて、スポーツメンタルトレーニングの現場についても学び、スポーツ心理学を通して人間のこころの面白さ、奥深さに触れる。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	スポーツサイエンスコース	特別演習Ⅱ	○	特別演習Ⅰを基礎とした発展的な科目であり、卒業論文作成を念頭に置きながら、学生各自の研究テーマや問題意識・関心のある事柄を一層拡大・深化させていく。 （45　佐々木　浩雄） 本演習では、「特別演習Ⅰ」の内容を踏まえて、スポーツの歴史学・文化論的研究を行うためのより実践的な方法を学習する。特に、研究の対象をいかに規定するか、また、どのような方法論を用いるかを課題としてレポートを作成して討論を行い、最終的に各自の興味関心に基づいた研究テーマを卒業研究として実践する。 （82　松永　敬子） 本演習では、「特別演習Ⅰ」での学びを基礎として、スポーツ（レジャー・レクリエーション）、中でも地域スポーツの領域に多面的に関わるさまざまな現象をマネジメントの視点から専門的に分析するためのノウハウを深く習得する。さらに、ゼミ活動の実践の場や卒業研究に必要な基礎知識を習得する。 （131　松畑　尚子） 本演習では、「特別演習Ⅰ」で学んだ内容を基礎として、主として政策学的研究方法を用いた卒業論文作成のための基礎知識の習得及び実践的な能力を養うことを目標とする。スポーツの実践を通じて身につけたスキルを活かし、各自の問題意識に基づくテーマの設定、情報収集・分析、進行状況等のプレゼンテーションとディスカッションを通して研究を深める。これにより、日本さらには世界のスポーツ政策のあるべき姿を考え創造していくこと、また、スポーツを通してよりよい社会を築いていくことに貢献することを目指す。 （179　小川　雅志） 本演習では、「特別演習Ⅰ」で学んだ内容を基礎として、さら実際のコーチングやトレーニングで求められる課題解決のための実践的なテクノロジーの活用方法を習得していきます。そして、コーチングやトレーニング指導のための能力の向上を目指す。 （206　川端　浩一） 本演習では、「特別演習Ⅰ」で培ったスポーツ生理学（運動生理学）研究に基づく多くの知見を，多様な目的を有する人たちに実践（応用）してもらう，活かしてもらう内容を検討し，卒業研究に繋げることを目指す。. （266　鈴木　啓央） 本演習では、「特別演習Ⅰ」で培った知見に基づき、ヒトの運動制御や運動学習、また巧みな運動技能を研究するための実践的な能力を修得する。加えて、上記の事柄について個々人の理解や興味、疑問をより深め、各々の研究テーマを探索する。最終的には、各々の研究テーマに基づき実験・分析を行い、卒業研究に繋げる。 （397　山田　弥生子） 本演習では、「特別演習Ⅰ」で扱われたトピックをさらに深く学習する。さらに、社会心理学や運動学習などについても理解を深める。最終目的には、スポーツ心理学の周辺領域における理論を網羅し実際のスポーツ現場でどのように応用するかについて探求する。また卒業研究に必要な統計学や研究方法についても展開する。	主要授業科目
			特別演習Ⅲ	○	本演習では、3年生後期から4年生前期に開講される「特別演習Ⅱ」での学びをとおして、自らの興味関心を前提にテーマ設定を行い、卒業研究としてまとめていく。卒業研究にあたっては、学生自身が設定したテーマに基づき、担当教員が指導を実施しながら完成を目指す。	主要授業科目
			スポーツサイエンスコース 特別講義（水泳）		本講義では、水泳・水中運動に関する講義により科学的理解を深め、基本技術や指導手順などの学修を通じて、水泳・水中運動の楽しさを体感する。そして、健康づくりのための水泳・水中運動の実践指導を安全で、かつ効率的に進められる知識と技術を備えた指導者になることを目指す。水泳・水中運動は、ヒトの運動形態の一つである。浮力、水の抵抗、熱が奪われやすいなどの水の特性を利用し、陸上での運動では得られない効果を享受することができる。例えば、浮力によって、骨や関節が重力から開放されることにより、肥満者、高齢者、障害のある人など低体力者が運動可能になる。また、水の抵抗は、移動速度の約二乗に比例して増大するので、高体力者から低体力者まで個人に合った運動負荷が得られる。さらに、体の熱が奪われやすいということは、暑熱環境下での運動に適しているだけでなく、短時間で多くのエネルギーを消費することができるため、運動不足の解消、健康の保持増進に有効な運動形態であるといえる。しかし、泳力の過信や不注意などによる水の事故は、後を絶たない。水中での自己保全能力の獲得や水難救助法についての危機管理に関する理解も必要である。	
			スポーツサイエンスコース 特別講義（スポーツビジネス）		スポーツビジネス全般について実践的に学ぶことを目的とする。特に、経営戦略・マーケティング戦略の実践事例を通じて、現状のスポーツ市場と企業の動向およびマーケティング戦略の変遷を分析し、スポーツ産業が今後さらに発展していくために必要な課題を明らかにする。 また、どのようなコンセプトに基づいて製品・サービスが開発され、価格政策・流通政策・プロモーション政策が展開されるのか、具体的な事例をもとに、市場変化に対応するマーケティング手法について検討を行う。	
			キャリア入門（スポーツサイエンスコース）	○	本講義は、スポーツサイエンスコースの学生のキャリア形成・支援の第一段階として開設する。 本講義を修得した後、「スポーツキャリア実習」の履修を想定し、キャリア形成の足がかりとして、社会人基礎力および基本的なスキルや知識を得ることを目指す。	主要授業科目
			スポーツキャリア実習	○	本実習は、スポーツ分野におけるキャリア形成・支援を目的として設置する。スポーツサイエンスコースが指定する企業・団体等を実習先とし、実習先での獲得目標の設定後、就業体験を通して学びを深める。また、体験したスポーツキャリア実習の成果の発表をまとめ、授業において報告する。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	環境サイエンスコース	環境学A	○	講義の前半では、地球の環境問題において切っても切り離せない地球の仕組みの理解を深めることに重点を置き、地球環境システムを自然科学の観点から解説する。講義の後半では、種々の環境問題を取り上げ、自然科学の観点からそれらの問題について、なぜ起こるのか、どのような影響が現れているのかを解説する。身近な環境問題から地球規模の環境問題がどこでどのように顕在化しているのか、なぜ起っているのか、多くの環境問題の原因・メカニズムやその影響を理解することを目標とする。	主要授業科目
			環境学B	○	本講義では、地球環境問題及び国内の環境問題の歴史と現状を概観し、それらに対して取られてきた国内外の政策について基礎的な解説を行う。毎回の講義で知識の習得チェックを行うと同時に、それぞれの講義に関連するニュースを学生間で交換し、最新情報への関心と環境関連情報へのアクセスの習熟も促す。環境問題の歴史と現状、それらに対する国内外の政策について基礎的な知識を習得し、最新の環境情報を収集し正確に理解できるようになることを目標とする。	主要授業科目
			環境と倫理	○	環境と倫理について考えることは、人類そのものの存在を考え直すことでもある。この講義では、環境を巡る倫理問題を扱いながら、人間観の再検討を行っていきたいと考えている。現代における様々な地球環境の問題についての知識と理解を身に付ける。それらについて、倫理という観点から考察できるようにする。そして、環境倫理を基にして、人間そのものについて新たな観点から考察するための基盤を形成する。	主要授業科目
			環境と経済	○	本講義では、環境問題を解決するための経済的な手法を学んでいく。そもそも「環境」とは何か、なぜ環境問題が発生したのか、問題を解決する方法はどのようなものがあるのか、また問題を事前に防ぐ方法はないのかなどについて、気候変動問題や身近なごみ問題などの事例を取り上げ、それぞれの問題に適した解決方法について考える。講義の最初は、環境経済学の基礎を配布した資料ベースで学ぶ。基礎を一通り抑えた後は、国や自治体の環境政策を事例に取り上げながら、分析する。各自関心を持っている環境問題について、最も適した政策を検討し、具体的な実践案が提案できることを目標とする。	主要授業科目
			環境と法	○	公害・環境問題は、経済成長に伴って生じた新しい問題であり、それをめぐる環境法も新しい分野であって、それまでの法体系（民法・行政法・国際法等）でいえば、その複数にまたがるものである。しかし、新しい問題とはいえ、地球温暖化問題などにみられるように、もはや地球や人類の命運を左右する問題となっている。どのような問題が発生しているか、その問題についてどのような法的な解決が用意され、また、どのような法的解決が望ましいのか、などについて受講生と共に考えたい。 学生が、まず、環境法の基本理念・基本原則、公害環境汚染の規制、公害・環境訴訟（民事と行政）の概略を理解した上で、さらに、個別分野について、原発被害に関する法、廃棄物処理に関する法、地球環境保護に関する法の概略を理解できるようになることを目標とする。	主要授業科目
			環境管理論Ⅰ	○	経済活動を営む企業等には、法規制を遵守するのみでなく、社会的責任を自覚して主体的に環境保全のための行動を計画し、実行し、さらにそれを評価して次なる計画に反映させることが求められている。 本講義は、気候変動問題、廃棄物問題、生物多様性問題などに対応する企業のマネジメントや経営戦略について講義を進める。環境問題に対する企業のマネジメントや経営戦略を理解し、評価できるようになることを目標とする。	主要授業科目
			環境管理論Ⅱ	○	企業を取り巻く環境問題と環境経営の実践に焦点をあて、環境マネジメントシステムの国際標準であるISO14001を取り上げ、持続可能な発展に資する環境経営の道筋と具体的取組について考察する。また、企業が環境マネジメントシステムISO14001を活用して、組織を取り巻く内外の課題と利害関係者のニーズから自らのリスクと機会を洗い出し事業活動に落とし込み、対応すること、さらに関連する環境法規への対応と環境規制ビジネスについて事例を紹介しながら解説する。その他、再生可能エネルギー普及、洋上風力、バイオガス、蓄電池の最新動向などを紹介する。 受講者の環境・エネルギー問題に関する包括的な教養と問題解決への実践力を養い、将来、企業や行政機関、NPOの環境・エネルギー分野でのリーダーとしての力量を備えることを目標とする。	主要授業科目
			環境政策論Ⅰ	○	自治体における公害対策から本格化した日本の環境政策は、公害防止と被害の抑止においては一定の効果を上げたものの、生活スタイルや企業の経営戦略を持続可能なものへと転換するには十分ではなかった。現在の環境政策の試みは、こうした過去の環境政策に関する知識がなければ理解を深められない。 この講義では、日本の環境法・政策の歴史と現在の法体系、地域における制度の運用について解説する。講義参加者は、これらの解説を聞いたうえで、日本の環境政策の到達点、近い将来に予見される（望まれる）生活スタイルの変化や企業活動の変化について考察し、グループワークで意見交換する。日本の環境政策の歴史と現在直面する課題について理解し、自分なりに説明することができるようになることを目標とする。	主要授業科目
			環境政策論Ⅱ		人類の経済活動が地球環境に与える影響、逆に地球環境の変化が私たちの暮らしに与える影響など、近年ますます多くのメディアで語られるようになってきた。 本講義では、気候変動（地球温暖化）、海洋汚染、森林破壊、生物多様性の喪失など、人類の経済活動の影響によって深刻化し、人類の経済活動そのものの持続可能性を脅かす問題に焦点を当て、その現状を概観したうえで、問題解決のための対策・政策をグローバル、ナショナル、ローカルのそれぞれの視点から学び、考察する。講義で学んだ地球環境問題の現状とそれに対する各種政策についての理解を深め、理解したことを自分なりに説明できるようになることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	環境サイエンスコース	コンピュータシステム論	○	この科目は、環境シミュレーションなどにおいて扱う道具としてのコンピュータについて知ることを目的とする。コンピュータシステムのことをよく理解し、ただ道具として、よく分からないままに利用するのではなく、信頼できる道具として活用できるようになることを目指している。近年はコンピュータを単独の機械として利用するよりも、それらをネットワークなどで相互に接続し、複数のコンピュータをひとつのシステムとして利用することが多い。そのためコンピュータの仕組みだけでなく、ネットワークや複数のコンピュータを組み合わせたシステムについても解説する。受講生には、簡単なシステムの設計について考えられるようになることを目標とする。	主要授業科目
			生態学A	○	地球上に生息する野生生物は非常に多種多様で、これまでに記載された種は現在、約175万種といわれている。ところが未知の生物はそれよりもはるかに多く、300万種～1億1100万種に及ぶと推計されている(UNEP)。これらの生物がどのような営みをし、生物相互にどのような関係があるのか、そして生物と環境の関係を明らかにしようとするのが生態学である。我々人間もこの生態系の構成メンバーの一員であり、生態系から様々な恩恵を受けている。しかしながら、近年の急激な人口増加や消費拡大のため、生態系への負荷が大きくなってきている。一方、この生態系の変化が私たち人間にとっても、さまざまな負の影響を与え始めている。これがいわゆる環境問題である。この環境問題の解決のためには、生態系から我々が受けている恩恵（自然の恵み）や、我々自身が生態系の一員であることを再認識する必要がある。 この講義では、身近な生き物を例として、生態学の基本的な概念や、生態系の機能と環境問題との関連について紹介し、生態学の基礎を学ぶ。生態系における生物の役割を包括的に理解することを目標とする。また、陸上から海洋まで幅広い生態系における生物の生活に目をむけ、生物多様性の重要性を理解する。	主要授業科目
			生態学B	○	地球上には驚くほど多様な生物が相互に影響し合いながら共存している。そうした多様性がどのように生まれ、どのようにして激しい生存競争の中で共存しているのか？ を理解するためには、多様性を生み出したメカニズムである「生物の進化」について知る必要がある。生物の形質（例えば、鳥の羽やカメの甲羅など）は、まるで個々の目的に合うように最適にデザインされているかのように見える。しかし現在では、これらの形質は、自然選択により長い年月をかけて形作られたものだということがわかっている。また、近年では「生物の保全」に関する問題が多く取り上げられている。その中には、ヒトの活動による生物の大量絶滅が含まれており、保全活動の重要性が増している。その一方で、誤った保全活動も存在しており、これは生物に関する基礎知識の欠落に由来する部分が大きい。 この講義では、どのように生物が互いに関わり合いながら、現在の形質を作り、生態系を構成しているかを多様な例を示しながら解説する。加えて、生物の環境適応の過程である進化の基礎を学び、保全における生物多様性の重要性について考えてもらう。	主要授業科目
			地球と環境	○	「生物圏」とは地球上で生物が生活する区域のことであり、気圏－水圏－地表-地殻上部が相当する。それは地球全体から見たら表層部のごく一部にすぎないが、「生命の星・地球」を特徴づける存在となっている。地球上の生物は、気圏・水圏・地圏の無機的環境と、他の生物の有機的環境との、相互作用を通して進化してきた。そして地球の物性もまた、生物の存在により他の太陽系惑星にはない特異性を有している。たとえば、地球の大気組成はたいへん酸化的であるが、これは光合成する生物が作り上げてきたものである。生物圏は「地球の地球たるゆえん」とも言える。長い地球の歴史の中で生物と地球環境はどのように変遷し、それは地球環境の移り変わりとどのように関わっているのかを学習する。 本講を通じて、地球環境と人類の現在と未来を考えるための独自の視座を涵養する。"生命の星・地球"の歴史性と天体としての特異性を理解する。地球環境の歴史を俯瞰することで、人類の文化・文明を持続させる方法について考察する力を身につける。	主要授業科目
			環境地理学	○	人間とそれを取り巻く世界との「関係」に着目しながら、「環境」について考える。そのために、人間や人間社会のあり方が、環境に対する人々の理解やその利用に、少なからぬ影響を及ぼしていることへの理解を深める。具体的には、地理学における環境論をベースとしながら、環境を大きく自然環境、建造環境、社会環境とに分けて捉える。自然だけでなく、人間が作り上げた都市といった物理的な環境、そして制度や慣行といった社会的な環境もまた、人間と環境との関係を理解する上で見逃せないからであり、われわれの生活は、こうした環境の複雑な重なりあいのなかで成立しているからである。あわせて、本講義では「環境」を記録し理解し、それをベースに次のアクションを起こすためのツールとして、「地図」の重要性についても学ぶ。地図は個別事象への理解だけでなく、俯瞰的な視点も提供してくれる。そのため、多様なステークホルダーが深くかかわる「環境」を理解し、そこで生じる様々な課題や問題を解決していく上で欠かせないものである。具体的には、紙地図だけでなく、デジタル地図とそれを支える地理情報システム（GIS）をとりあげ、その基礎的な仕組みと利用方法について学ぶ。あわせて、資源へのアクセスにかかわる問題をとりあげて、GISを利用する方法を学ぶ。そして、これを通じて人間と環境との関係が生み出す様々な「課題」についても考えたい。 （オムニバス方式／全15回） （4　鍬塚　賢太郎／13回） イントロダクション、環境の認知、技術と環境、「発見」と資源の利用、人々と建造環境、人々と社会環境、資源の利用とアクセシビリティ、GISの仕組みとデータ、GISを用いた分析、まとめ （133　山田　誠／2回） 人々と自然環境（温泉と環境、温泉と資源）	オムニバス方式 主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	環境サイエンスコース	自然保護論	○	人間は自然を利用しなければ生きて行けない。自然の利用の仕方を間違えると自然は劣化する。また、人間の影響でバランスが崩れた自然は自ら劣化してしまうこともある。その結果、人間が困ることも生じる。自然保護は、このような自然と人間の基本的な関係から生じる問題を防ぐために、近代になって急速に発達した考え方である。現在、野生動物による様々な被害が大きな社会問題となっている一方で、絶滅の恐れのある動物の種類も減少せず、保護しなければならない野生動物も少なくない。これらの問題は、自然保護の問題を理解するのに適した課題である。そこには、単なる自然と人間との関係だけでなく、人と人との関係も大きく関係する。そのような複雑な内容を含む自然保護をどう論じるのか、そのために必要な情報や社会的背景を通して解説する。 自然保護を論じる時の、自然科学的知識・情報が果たす役割と社会的背景・実態を把握することの役割について、また、日本において自然保護、とくに野生動物の保全のために採られている法制度について、更には、自然保護思想の基板となる様々な環境思想、自然観および動物観について理解することを到達目標とする。	主要授業科目
			化学物質と環境	○	環境問題といわれるものは、基本的には地球上にある化学物質が、人間あるいはその他(生態系など)にとって不都合な状態で存在する時に意識されるものである。この観点から環境問題を紐解くと、物質がどのように発生し、移動し、変化していくのか、そしてその内容や速さがどのようなものなのかを、まず理解する必要がある。 本講義では、環境問題についてのいくつかの例を取り上げ、物質がどのように地球環境中を動き変化していくのかを解説するとともに、それを理解するための基本的な考え方や、環境を保全するための社会インフラについて講義する。環境問題といわれるものの本質を理解し、その対策や解決方法を科学的な根拠をもとに提示できるようになることを到達目標とする。	主要授業科目
			シミュレーション技法	○	シミュレーションという言葉は、日常生活の中でも耳にすることがあり、なんとなく知っている人も多いだろう。しかし、きちんとした言葉で説明するとなると、案外難しい。シミュレーションは、実際にはなかなか確かめることができない事柄を単純なモデルを作ることで実験的に確かめることと言えそうだ。例えば、飛行機の翼を設計するには、翼の回りをどのように空気が流れるかを知ることが必要になるが、設計の段階で実際に飛ばして確かめることはできない。そのため、風洞実験と呼ばれる方法を使って、シミュレーションを行う。しかしながら、コンピュータの進歩とともに、上記のような実験を、コンピュータを使って数値的に計算して知ることができるようになってきた。 この講義では、コンピュータを使ったシミュレーションを中心に、そのモデルや計算方法などを知ることを目的とする。それらを学ぶことは、今後自分が何かのシミュレーションを必要とするときに有用である。	主要授業科目
			複雑系の科学		自然科学の手法を用いて複雑な自然現象を理解するためには、現象を基本的な要素に分解し、各要素の法則性から元の現象を理解しようとすることが一般的である。ところが、ある自然現象を構成する要素が多い場合、それぞれの要素が互いに強く影響を及ぼしあうことにより、各要素単独では見られない性質が生み出されることがある。このような系を複雑系と呼ぶ。 本講義では、物理法則に基づいて具体的な自然現象を記述する基礎方程式を導き、それを解くという流れの中で自然現象を理解する手法を説明する。次に、複雑系の例として、手計算で基礎方程式を解けない場合に数値計算プログラムを用いて基礎方程式を解く方法を学び、得られた数値データを図にすることで複雑な自然現象を理解する手法を説明する。適宜、基礎物理、および必要となる数学の復習も授業の中で行う。ある自然現象を簡単な要素に分解し、その現象を記述する基礎方程式を導き解けるようになることを目標とする。	
			都市経済論		本講義では、ミクロ経済学を用いて都市・地域経済およびそれに関連する交通・環境の問題を考察する。「各地域の経済活動はどのように測られるべきか」「都市にはなぜ人々や企業が集積するのか」「交通や物流を経済学的に分析する際に何が焦点になるのか」を主なテーマに据えて、講義時間を考慮しながら、議論を進めていく。ミクロ経済学・公共経済学の知見を活かして、都市・地域・交通の問題を経済学的に考察する力を習得する。	
			環境史		国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）の議論内容に象徴されるように、現代社会は環境問題にどのように向き合い、どのように解決するかを求められている。その環境問題への対応を考える際に重要な点の一つは科学技術の活用である。例えば、エネルギー源の問題は、やみくもに再生可能エネルギーを追究すれば解決するものではなく、既存の化石燃料エネルギーを環境への負荷を減じて活用することも重要な課題であり、それらのためにはタービンや酸化物の除去をめぐる科学技術は不可欠である。また、世界的動向のなかでは原子力の活用も温暖化対策で有用なエネルギー源と考えられ、小型炉や高速炉の研究や実用化が探られている。 こうした環境と科学技術、もしくは環境と技術の関係性を、人類の歴史から確認し、環境にかかわる科学技術の多面性を種々の事例を通して見て取り、各々の事象や事例に対する考察や議論を行う。過去および現代の社会における環境と技術の関係について自らの見解で論じることができるようになることを目指す。	

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	環境サイエンスコース	環境アセスメント論		本講義では、環境アセスメントについて法的側面から扱う。全体を通じて、人間が持続可能な社会を構築していくために環境アセスメントが果たす役割の重要性を示し、制度趣旨や変遷、現状および今後の課題について受講生に伝えると共に、これからの在るべきアセスメントについて考えるための基本的な視座を提供する。講義の具体的な進め方は以下のとおりである。 まず日本の環境影響評価法について、環境基本法における位置付けを確認した上で、概要を学ぶ。その際、法学部以外の学部学生にも理解しやすいように配慮する。次に、自治体における環境影響評価条例について、法との関係や具体例も踏まえて学ぶ。続けて、欧米で導入されている戦略的環境アセスメント（ＳＥＡ）の概要を学び、日本への導入を検討する際の課題を考える。次に、視野を世界に転じ、世界のアセスメント制度について幾つか具体例を学ぶ。その後、令和２年の温暖化対策推進法改正に伴う近時の論点について触れる。続けて環境アセスメント制度が実際にどのように機能しているかについて、気候変動訴訟の場、明治外苑再開発の事例、京都における具体的な事例（講義当時の状況を踏まえて事例を選ぶ予定）を通じて学ぶ。講義の後半には、受講者による調査結果の発表の場を設ける。	
			地域環境論		長い歴史的過程のなかで育まれてきた固有の文化や生業、世界観をもつ地理的まとまりを「地域」と捉え、そこにある環境がどのように形成されたのか、国内外の事例とともに読み解く。また、それらの地域環境は、気候変動や不均衡な人口増減、国際関係の緊張の中でどのような影響をうけているのかについて事例を紹介する。以上を踏まえて、講義の後半では自身の足元の地域環境について読み解き、今後どのような変化が想定されるのか、そして今、自身はそれに対してどうあるべきなのかについて考える。	
			気候と気象		日本は四季の移り変わりが鮮明で、年間を通して様々な気象や気候の変化を感じ、時として豪雨、台風、強風、猛暑、豪雪といった激しい天気となり、災害に至る場合もある。特に、最近では豪雨や台風による災害が激甚化しているのではないかと思えるような場面が増えてきている。気象災害から自分の身の安全を守ったり、社会的な被害を軽減して災害を防いだりするためには、まずは災害を起こすような気象現象そのものを理解することが大切である。また、日々の天気予報で発表される防災情報がどのようにして作られているのか、どのようにして伝えられているのか、といった気象情報に関する理解も必要である。そして、地球温暖化が着実に進行している中で、近い将来には、気候変動の影響で気象災害がますます激しくなることが懸念される。そういった気候変動と気象の変化についても考える。 気象や気候の変化の特徴や仕組みについて正しく理解することで、天気予報で発表される防災情報の意味を理解し、将来の地球温暖化の影響について自ら考えることができるように、必要な知識や考え方を身に着けることを目標とする。また、豪雨や台風といった激しい現象に接した時に、適切な行動を取ることができるような素地を身に着けられることを目指す。	
			生物共棲論		陸上はもちろん、極地から深海の底まで、およそ地球のあらゆる場所で、数千万種におよぶ生物が様々な生活をしている。生物は独立して生きているのではなく、お互いのつながりの中で生きており、そのつながりが生態系を構成している。人間もHomo sapienceという生物の一種であり、他の生物がいなくては生きていけない。人間の食べ物はほぼ全て他の生物の体であり、呼吸に必要な酸素を生み出しているのは植物である。また、人間の身体には多くの細菌が共棲している。近年、人間の生活が生態系の持続性の危機（環境問題）を引き起こしている。人間も生態系の中で生きている以上、環境問題を理解してそれに対処していくことは、人間の責務である。 本講義では、個々の生物の活動から生態系の成り立ちを概観して、生態系の持続可能性という観点から環境問題を理解する。	
			水界生態論		この講義では、河川・湖沼、そして水田など、淡水域の生態系について学ぶ。水界生態系の構造や機能を捉える上で必要となる、物質生産、生物の営み、生物の種多様性などについて理解を深める。水界生態系の基礎的な知識を得、理解できるようになることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	環境サイエンスコース	環境フィールドワーク	○	以下のとおり、定められた実習全てに参加し、レポートを書くことにより単位が認定される。なお、各実習の実施に際しては、事前説明会、事後報告会を実施するほか、授業初回に実習全体のガイダンスを実施する。 （オムニバス方式／全30回） （43　櫻井　次郎／3回） ①廃棄物関連施設調査（9月予定、京都府環境保全公社・関連企業等視察、日帰り）：実習回数1回・事前説明会１回、企業の生産活動から排出される廃棄物の処理・リサイクル現場を視察し、その発生抑制、減量について考える。 （113　谷垣　岳人／8回） ③「龍谷の森」実習（5～6月、10～11月、瀬田キャンパス「龍谷の森」、日帰り）：実習回数2回・事前説明会１回 里山である「龍谷の森」の自然資源利用の歴史および現代的な保全管理について学ぶ。 （114　丹野　研一／8回） ②竹林整備（4～5月および12月、大山崎町、日帰り）：実習回数２回・事前説明会１回 近年、里山に人の手が入らなくなり荒廃が著しい。本実習では京都府大山崎町の天王山において、放置竹林での竹の除伐を行い、山の手入れの方法を実践学習する。 （133　山田　誠／11回） ④地熱資源視察（8月もしくは9月、大分県別府市～九重町、2泊3日）：実習回数1回・説明会2回 大分県別府市で温泉の地熱資源としての利用について視察を行う。また、温泉排水の環境影響に関する視察も行う。 地熱を用いた発電所の見学を行い、あわせて周辺の自然環境（火山・温泉・湿地など）について視察する。 以上の実習を通じて環境問題についての理解を深め、発生のメカニズム、解決方策を考えることができるようになる。	オムニバス方式 主要授業科目
			環境実践研究	○	講義時間以外に国内外の団体が開催するプログラムやエコツアーなどに一定期間参加して単位を修得する。自らが環境保全活動や環境問題に関するする研究やプログラムを実践し、活動終了後、環境サイエンスコースにおける講義で自らの体験を口頭発表し、その報告書を提出する。 実践の概要は次の通りとする。 〈実施期間〉 2週間程度（実践期間が２週間に満たない場合でも計画時の実践内容によって適宜判断する） 〈手続き〉 実践前に必ず計画書を教学部に提出し、環境サイエンスコース運営委員会で承認を受けてから出発すること。 〈実践研究の相手先〉 １．報酬のないもの ２．受け入れ側が明確な企業、行政、NPO, NGO団体など 例：１）国内・海外インターシップ、２）社会活動ボランティア、３）国内・国外エコツアー等自らが問題意識を持ち、環境保全活動の計画から実践までを学ぶ。	主要授業科目
			開発経済学A		開発経済学は、発展途上国が直面する諸問題を分析し、経済発展のプロセスを解明することにより、望ましい開発政策を提示すべく、発展を遂げてきた学問分野である。各国の経済発展、国際情勢等の変化とともに、開発思想、開発政策、そのもととなる理論的枠組みは大きく進化し、「開発」の意味は、単なる「一国の経済発展」から「人々の幸せ」へ、より広く、深化した概念となり、また、扱うテーマも多義にわたっている。 本科目では、開発経済学の学説史的考察（第2次世界大戦後の開発経済学黎明期から今日までの開発経済学の主要な理論枠組み、考え方の変遷を紹介）および途上国が抱える社会・経済的な課題について論ずる。	
			開発経済学B		開発経済学は、発展途上国が直面する諸問題を分析し、経済発展のプロセスを解明することにより、望ましい開発政策を提示すべく、発展を遂げてきた学問分野である。各国の経済発展、国際情勢等の変化とともに、開発思想、開発政策、そのもととなる理論的枠組みは大きく進化し、「開発」の意味は、単なる「一国の経済発展」から「人々の幸せ」へ、より広く、深化した概念となり、また、扱うテーマも多義にわたっている。 本科目では、開発経済学の主要な理論や考え方、途上国が直面する各種課題について国際機関の統計を用いたデータ分析やグループディスカッションを通じて理解を深める。	
			産業技術論		技術進歩は、イノベーション、つまり新商品の創出や生産方法の革新を通じて、企業の開発、製造、流通システムに影響し、産業や経済、社会活動のあり方を変革してきた。この講義では、そのような変革をもたらす基礎としての産業技術を扱う。講義の前半では、20世紀における垂直統合型のビッグビジネスを念頭におき、研究開発主導型と市場主導型のイノベーションを対比させ、アメリカや日本における戦争･軍事とイノベーションの関係やキャッチアップ型のイノベーションを検証し、一国資本主義的な枠組みのもとでの産業技術と技術革新の仕組みを確認する。その中で、労働・安全の関係、軍事技術と民生技術の関係についても考察する。講義の後半では、冷戦終結後のグローバル資本主義の時代において、新自由主義国家の役割、オープン･イノベーションやデジタル･イノベーション、サービス･イノベーションの特徴を説明する。リーマン･ショック以降のドイツのインダストリー4.0やIoT、DXの展開も検証する。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	環境サイエンスコース	国際環境法		地球環境の保護及び保全は、21世紀の国際社会における人類共通の重要課題であり、この問題に取り組むためのさまざまな法が存在している。この講義は、国際法において環境に関係している分野、いわゆる「国際環境法」を概観することを目的とするものである。具体的には、講義の前半において、国際環境法の全体像を把握するために、その歴史を俯瞰したのちに、国際環境法の重要な部分を構成する国際環境保護の主要条約を解説することとする。これらの知識を得てから、講義の後半において、国際環境法に関する基本原則や問題点を学習していく。国際環境法の全体像を把握するとともに、国際環境保護の主要条約や国際環境法の基本原則を説明できるようになることを目標とする。	
			持続可能な発展概論		1992年の地球サミットにおいて、「持続可能な発展：sustainable development」が世界共通の目標として設定され、それまで相反するものとされてきた「自然環境」と「経済発展」の調和というチャレンジがスタートした。日本でも、戦後の急激な高度成長期以降経済成長重視の政策が進められてきたが、60年代の公害問題や90年代のバブルとその崩壊、そして喫緊の課題である極端な少子高齢化社会といった諸問題を経験してきた現在、「環境・経済・社会」という国・地域を規定する3つの要素の調和を確保する「持続型」の政策や価値観が必要であるという認識が広がっている。特に近年では、国際社会共通のゴールとなる「SDGs（持続可能な開発目標）」の取り組みが社会全体で進んでおり、龍谷大学も率先して取り組む姿勢を打ち出している。 本講義では、この「持続可能な発展」の理論と実践について、国内外の文献や先進事例の検討から、また、龍谷大学の特徴である仏教の視点も踏まえつつ学ぶ。 ＜オムニバス方式／全15回＞ ＜29　岡本　健資／1回＞ 仏教の視点から見る「持続可能性」と「共生」について取り扱う。 ＜83　的場　信敬／14回＞ イントロダクション、持続可能な発展の歴史と類型・概念の主要素、日本の地域開発の歴史、公害の歴史、新たな地域開発の視点、SDGsのテーマ、全体のまとめについて取り扱う。	オムニバス方式
			景観・まちなみ保存政策		景観とは、人間をとりまく環境のながめであり、環境をながめる人々の地域自治の表現として、持続可能なまちづくりや地域づくりの礎となる。本講義は、景観の構成要素を自然、土地利用、都市構造、建造物等の有形のもの、生産活動、生活等の人間活動の双方の観点から把握し、それぞれに関してどのような各種施策が適用されているのか、これらにはどのような課題があるのかという問題について学ぶことを目的とする。地域における景観は、地域の社会経済的特徴に深く関連する問題である。劇的に変容する地域景観の背景には、必ず、高齢化や過疎化のみならず、地域における産業構造の転換やコミュニティ等の変化があるはずである。 本講義は、美しい形としての風景とその保存を対象に置くものではなく、地域の現状に着目し、地域の実態としての景観問題を認識し、その変化と地域の社会経済的特徴との相互関係について理解を深める。また、景観の保全が地域の再編あるいは再生に対してどのような影響を与えうるのかという点について国内外の事例を確認するとともに、景観の保全と新たな創出の可能性について考え、地域景観に関連した法制について学び、課題を抽出すること、地域景観の保全等に関する国内外の事例を理解すること、地域景観の保全と新たな創出の可能性について論じることができるようになることを目標とする。 ＜オムニバス方式／全15回＞ ＜16　阿部　大輔／8回＞ 景観政策の展開、国内の事例研究（京都市、横浜市等）、海外の事例研究（パリ、ロンドン、バルセロナ等）、外部講師講演について取り扱う。 ＜68　服部　圭郎／7回＞ 文化的景観、都市の景観コントロール、景観まちづくりの展開、国内の事例研究（今井町、伊根町等）、海外の事例研究（チャールストン等）、外部講師講演について取り扱う。	オムニバス方式
			環境エネルギー政策		気候変動問題、エネルギー問題、環境破壊などを背景に、これまでの化石燃料をベースにしたエネルギー供給体系から、再生可能エネルギーを中心に据えた新たなエネルギー政策へと世界の主流は大きく変わりつつある。具体的には、欧州やアメリカにおけるグリーンニューディール、グリーンジョブと言われる再生可能エネルギーと経済・雇用対策を結びつけた新しい環境エネルギー政策やパリ協定を受けた再エネへの投資の加速と化石燃料からの投資撤退（ダイベストメント）が加速している。日本でも首相の所信表明演説のなかで、カーボンニュートラル宣言が行われ、脱炭素社会に向けて国の環境エネルギー政策にも変化が現れ始めている。一方でロシアのウクライナ侵攻によって世界的なエネルギー危機、日本でもそれに伴うエネルギー価格高騰などの問題が起こっている。こうした新たなエネルギー問題と脱炭素の両立について検討を行う必要がある。 そこで本講義では、気候変動やエネルギー問題などの、環境エネルギー政策の背景、手法、効果などについて学ぶとともに、日本国内における環境エネルギー政策の変遷、現状、課題について比較分析を行う。各国との比較から日本の環境エネルギー政策の特徴や現状について理解すること。自分なりのエネルギー政策の方向性や考え方を持つことができるようになることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	環境サイエンスコース	演習Ⅰ	○	（概要）本演習Ⅰでは、環境サイエンスコース開講科目における学修を踏まえ、自然環境や自然と共生する社会システムに関する関心を高め、自然の観察や実験、資料収集の方法を習得し、楽しみながら学ぶ態度を発展させることを目指す。 （43　櫻井　次郎） この演習は、環境問題に対する（1）政策の仕組み、（2）政策が形成されるプロセス、（3）政策の適用実態について、前半はテキストの輪読を通じて考察し、後半は自分で定めたテーマについて調べたことの発表とディスカッションを通じて考察を深める。前半のテキスト輪読では、担当教員から出された課題への回答とそれに基づくディスカッションを行う。後半の各自のテーマに関する調査は文献調査だけでなく関係企業やNGOなどへの訪問・ヒアリング調査が求められる。後半のテーマ研究は、グループワークとなる可能性もある。このような学習と調査を通じて、関心ある環境問題に関するガバナンスの課題を現場の視点から学ぶことを目的とする。関心ある環境問題に関するガバナンスの特徴と課題について理解し、説得力ある説明ができるようになること。 （113　谷垣　岳人） 街の喧騒を離れ、初夏の里山を歩く。すると賑やかな鳴き声が聞こえてくる。オオルリが木のてっぺんで高らかに鳴き、キビタキは梢を飛び回り餌を探す。南国で冬を越した鳥たちだ。水場近くには獣の足跡、タヌキのようだ。マルハナバチやミツバチは花から花へと飛び回る。このように自然の中では、生き物たちがそれぞれの環境に応じて生活している。この講義では、実際に野外に出て自然を観察する方法を紹介する。さらに私たちの暮らしが生物多様性の恵みに支えられていることや、その持続可能な利用について学ぶ。キーワードは日本の自然・季節感・生き物付加価値米・地産地消、そして多様な生物と共に暮らす持続可能な社会が挙げられる。演習での学びを通して、身近な生物の不思議を発見できる。私たちの暮らしが生物の豊かさに支えられていることへの理解を深めることを目指す。 （114　丹野　研一） 本講義は、植物を理解し、観る目を養うことを目的としている。また、具体的な利用活用の事例として、教員の行っている日本国内にこれまでなかった皮性小麦（古代系小麦）を普及する活動を実施する。講義項目としては、街路樹や森林の植物観察を行い、実験室や畑で品種改良に関わるいくつかの技術と作業・調査を実践する。また、考古遺跡から出土する植物遺存体を顕微鏡観察して、当時の暮らしや植生を推定するなど、古環境研究も体験してもらう。植物文化や食文化に関する情報発信ができるようになることを目指す。 （133　山田　誠） 本演習の前半では，情報収集の方法，野外調査の方法，データ解析の方法など，環境調査研究のために必要な基本的な手法を学習していく。後半では、環境研究の実践として、文献の輪読や実際の環境問題に関する取り組みを体験することで、環境研究について学んでいく。輪読では、関連する書籍を読み，各自が担当するパートをについてまとめたものを発表し、全員でその内容について議論することで、プレゼンテーションやディスカッションの基礎について学ぶ。なお、本演習では水とかかわりの深い環境問題を主に取り扱う。調査研究の手法の基礎について学びながら、水に関わる環境問題について深く理解する。	主要授業科目
			演習Ⅱ	○	（概要）本演習Ⅱでは、演習Ⅰおよび環境サイエンスコース開講科目での学修を踏まえ、自らの関心に基づき文献調査や実地調査を行い、ゼミ発表と他のゼミメンバーとの意見交換を通して自らのアイデアを客観的に捉えなおし、環境に関する諸課題を解決する仕組みを主体的に構想する能力の向上を目指す。 （43　櫻井　次郎） これまでの講義や演習で関心を持った環境問題の中から卒論の対象とする問題を各自で選び、それに対する国・自治体の政策、NGOや企業など各主体の取組み、問題が発生するメカニズム、歴史的・文化的背景、直面する課題などについて、文献調査及び自治体・ＮＧＯ・企業・専門家などへのヒアリング調査などを通じて自分なりに整理し、ゼミ報告を行い、卒業論文を執筆します。卒業論文を最後まで書き終えること。そのプロセスを通じて、テーマとして選んだ環境問題の歴史、社会的・文化的背景、現在直面する課題についての理解を深めると同時に、情報入手方法に習熟し、問題を整理して自分の考えを文章で表現する能力を向上させること。 （113　谷垣　岳人） この演習は、演習Ⅰをさらに深める内容である。演習Ⅰに引き続き、野外で身近な生物を観察する。さらに、興味を持った生物の生態や環境問題について、自ら問題意識を持ち、文献調査や実地調査を行い、文章にまとめて報告する。最終的に自らの研究テーマについて卒業論文としてまとめる。自ら問題を発見し解決方法を考えることができる。 （114　丹野　研一） 本講義は、演習Ⅰをベースにしてその内容を一層深めるものである。食、農、植物にまつわる現状や環境問題を認識し、その発展や解決にむけての調査や議論、研究、発表などに取り組み、卒業研究・卒業論文のための準備を行う。食、農、植物にまつわる現状や環境問題を理解し、その発展や解決のために必要な知識、手法の基礎を身につける。 （133　山田　誠） 本演習では、演習Ⅰに引き続き、水とかかわりの深い環境問題を主に取り扱い、関心を持った問題について、文献や実地調査を行い、文章にまとめて報告する。また、発表形式でも報告する。発表形式の報告では、全員で議論を行い、受講生同士の意見交換を行う。卒業論文執筆に向けて自分の関心テーマを見つけ、調査や資料収集などの準備を行い、文章にまとめ報告できるようになる。また、発表形式でも、自分の関心の対象について意見を発表できるようになる。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部共通コース科目	環境サイエンスコース	卒業研究	○	2年生後期から3年生前期にて配当される演習Ⅰで学んだことをベースに、3年生後期から4年生前期で履修する演習Ⅱの学びをとおして、自らの興味関心を前提にテーマ設定を行い、環境サイエンスコースでの学びの集大成として、卒業論文を作成する。また、論文の作成途中で中間発表、完成段階では発表会の場を設け、受講生同士でも学びを深める場を提供する。	主要授業科目
			学部共通特別講義A		環境問題に関して、市民としての必要な要素を備え、その役割を果たせるような市民を目指す教育が必要不可欠である。その取り組みとしては、科学的な知識とその理解のための協働的な普及、啓蒙活動が鍵を握ると考えられ、「サイエンスコミュニケーション」の重要性が指摘されている。 講義では、環境をめぐるコミュニケーション活動を中心に、複雑な環境問題の様相や多様な自然と人間のかかわりなどを、学生主体の探究的な活動の中で、事例の紹介と分析を通じて多角的に理解を深める。義務教育段階での理科や社会科の学習過程に基づいて、グループで環境に関する様々な実験・観察活動を体験し、実験・体験教室の実践プログラムの開発を通じて、環境問題の理解や環境コミュニケーションについて考察する。	
			学部共通特別講義B		人間を取り巻く環境を理解していく上で、「どこで」といった位置に関する情報は不可欠なものである。近年、こうした空間データはGPSを内蔵するスマートフォンの普及からもわかるように爆発的に増大している。本講義では、こうした人間を取り巻く環境を把握する上で欠かせない空間データについて、それを利活用するために必要な知識や技法を座学だけでなく実際に作業するなかで学ぶ。 本講義では、空間データを利用・活用するための知識や技法を習得する。環境情報に関する基礎的なリテラシーを向上させることを念頭に、1）様々な空間的事象を地理情報システム（GIS）を用いて把握するための基礎的な知識を修得すること、2）空間データを視覚化（地図化）する基礎的な手法を修得すること、3）空間データを分析・解析する基礎的な手法を修得すること、を具体的な到達目標とする。	
			学部共通特別講義C		本講義では、海外における地球環境問題の原因や解決策について深く理解し、学生の環境への意識と学習意欲を高め、多様な主体と連携して問題解決する能力を養成する。また、討論会の実施を通じて教育効果を一層向上させ、国際的な理解を促進する。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
諸課程科目	教職コンピュータ基礎		社会の情報化が進むなかで、教育現場においても情報化が進んでいる。また、生徒は情報化社会で育ってきており、教員よりも情報機器に慣れていることが多い。こうしたことを背景として、教育に携わるためには、最低限の知識と技術を身につけることが重要になっている。この科目では、上記の目標を達成するために、情報機器の操作を身につけることが目的であるが、単に「操作できる」ことにとどまらず、コンピュータをきちんと理解して、それを活用するという「正しい使い方」を身につけることを目標とする。	
	商業科教育法Ⅰ		高等学校でのビジネス・商業教育の現状、意義、変遷を理解し、商業科教員に必要な専門教育の捉え方、専門科目の内容と指導方法、評価方法について学習する。特に、「新小中学校学習指導要領」改訂に伴う入学生徒の変化を見据え、また「新高等学校学習指導要領」を踏まえた商業教育について触れる。	
	商業科教育法Ⅱ		商業科教育法Ⅰの成果を踏まえ、高等学校商業科各分野について、生徒の主体的・対話的で深い学びを定着・向上させるための授業研究をおこなう。授業では、思考力・判断力・表現力等の定着、育成に必要な指導（ICTの活用含む）について、講義、発表、模擬授業を取り入れ、より質の高い授業実践力を身に付けることをねらいとする。	
	教職論		学校をめぐる様々な課題や今日の教育改革の中で求められている「教師像」について考察し、教職の意義、教師の役割・職務内容などへの理解を深め、「教師とは何か」、「教職とは何か」を考える。教師としての個人的力量や学校組織・社会とのつながりのなかで教育活動に取り組んでいる教師という仕事を実態に即してとらえることにより、学生自らが望ましい教師像を描き、教職への意欲を高めていくことを支援する。	
	学校教育社会学		学校教育の構造・機能・意味を社会学的に読み解くことを講義の到達目標とする。学校文化・組織の社会学、及び教育問題を社会学の観点から、らせん形に講義内容を編成することで上述の目標を達成することができるようにしたい。具体的には、「学校教育とは何か」「現代社会と教育」「学校文化・組織」「いじめ問題」「不登校問題」「教師の多忙」等のテーマを取り扱う。また、あわせて諸外国の事情や対応についても学んでいく。	
	教育課程論		すべての教育活動には目的があり、その目的を遂行するには、綿密な計画が必要となる。学校における教育活動の計画（全体）が、教育課程であるといえる。本科目では、教育課程について生徒の視点ではなく、教師（指導者）の視点で捉えて解説する。学校現場における教育課程の重要性について認識し、様々な教育問題への興味・関心を深める。学校現場の状況及び国の政策について学ぶことにより、今後の教育が目指していくべき方向性について考える。	
	特別支援教育概論		インクルーシブ教育を進めるために必要な基本的原理や制度、子どもの発達や障害種別による支援等について、具体的な事例や教育実践を通じて学び合う。特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒一人ひとりが持つねがいや要求を理解し、彼らの意欲を引き出し、自信と喜びを伴う能力と人格の統一的発達を目指す教育指導・支援のあり方について考察する。実践事例を基にした受講生によるグループ討論や支援計画づくり等の演習を適宜行い、特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の立場に立った特別支援教育の担い手としての自覚を養う。	
	道徳教育指導法		道徳の時間を指導する教員としての力量を付けることを大きなねらいとし、「道徳の時間」における指導の方法、資料の発掘と活用、ねらいの絞り方、授業展開の工夫等について、できるだけ教育現場での実践を教材にしながら講義を進める。同時に実際に「道徳の時間」の指導案を作成し、授業をおこなうことで、実践的な指導力を付ける。	
	総合的な学習の時間・特別活動論		特別活動ならびに総合的な学習の時間は各教科教育や道徳教育、家庭・地域や関係機関と相互に関連して営まれている。本講義では、特別活動ならびに総合的な学習の意義を理解し、指導計画の作成や指導の在り方を学ぶ。具体的には、特別活動における現状と課題について考察し、学級活動・生徒会活動・学校行事の特質を理解し、教育課程全体で取り組む指導の在り方を理解する。また、総合的な学習については、総合的な学習で培う資質・能力を理解し、実践する上での留意点や探求型の学習指導法を学び、総合的な学習の時間のあり方について考察する。	

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（経営学部商学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
諸課程科目	教育の方法と技術(ICT活用含む)		学校教育は、板書を中心とした従来型の授業が中心であるが、視聴覚メディアを活用した授業も各地で実施されている。この講義では、まず授業の設定方法について概観した後、視聴覚メディアを活用した教育方法について講義する。講義では、「授業の設計方法について概観し指導案を作成する」「各種メディアやICT機器の特性について考察し授業での活用方法について学ぶ」「教育におけるメディア・リテラシーの重要性について学ぶ」「プレゼンテーション理論・技法について学び教育への応用を考える」「教育現場で著作権に配慮することの重要性について学ぶ」を取り上げる。	
	生徒・進路指導論		本講義では、まず生徒指導・進路指導の本質的な意義や原理を説明した上で、様々な具体的な問題事象を取り上げ、その原因・背景・対処について実証的な考察を加える。そして、生徒指導を行う上で教員が個人として、また組織の一員としてどのような資質や能力が必要であり、どのような役割が求められ、どのような法令の知識が必要かについて、教育実践に結びつくように講義を行う。	
	教育相談		学校現場では保護者対応や不登校、いじめなど心の問題を1つの要因とする様々な事象が発生している。スクールカウンセラーが学校に配置されるようになった今日、教師自身も心理学カウンセリング的素養が必要である。なぜなら現在の児童・生徒や保護者に対する教育には、教師の人間性に豊かさや、柔軟な姿勢、援助法を身につけておかなければ、学校で起こる様々な問題に対応できない。本講義では、教育活動における心理的・カウンセリング的な基礎的態度と具体的な対応のあり方について理解を深めていきたい。	
	教育実習指導Ⅰ		教育実習は、教職課程の総仕上げとしての位置付けを持つ。実習生にとっては、生涯忘れ得ぬ感動を得る機会である。同時に、実習校及び実習校の生徒にとっても絶対に有意義なものでなければならない。そのために実習生は、教師として必要な最低限の見識と能力を備えている必要がある。3年次までに修得した教職課程に関連する科目を基盤として、教師として必要な責任の自覚を促し、教育実習に関する実務的内容を教授するのが目的である。	
	教育実習指導ⅡＡ		「高等学校での教育実習」に参加することが中心となり、「高等学校での3週間実習」が原則である。教育実習は、教師としての在り方を実践的に学ぶ場である。たとえ教育実習生とはいえ、教壇に立つ以上は指導者としての責任が求められるので、常に学問的に探求する姿勢を貫きながら、同時に生徒の発達の援助者としての真摯な取組を期待する。なお、実習前に直前指導、実習後に事後指導として個人面談を行う。	
	教育実習指導ⅡＢ		「高等学校での教育実習」に参加することが中心となり、「高等学校での2週間の実習」が原則である。教育実習は、教師としての在り方を実践的に学ぶ場である。たとえ教育実習生とはいえ、教壇に立つ以上は指導者としての責任が求められるので、常に学問的に探求する姿勢を貫きながら、同時に生徒の発達の援助者としての真摯な取組を期待したい。なお、実習前に直前指導、実習後に事後指導として個人面談を行う。	
	教職実践演習（中・高）		本講義は、教職課程科目の履修や教職課程外での様々な活用を通じて身に付けた資質能力が、教員としての最小限必要な資質能力として有機的に統合・形成されたかについて最終的に確認することを目的とする。この意味で、全学年を通じた総仕上げとしての位置付けを持つ。テーマとしては、本科目の趣旨を踏まえ、教員として求められる①使命感や責任、教育的愛情等に関する事項②社会性や対人関係能力に関する事項③生徒理解や学校経営等に関する事項④教育内容等の指導力に関する事項の4つを中心に展開する。	
	介護等体験		障がい者や高齢者等に対する介護、介助、これらの人々との交流等を行うことは、人として生きる権利を尊重しつつ、社会の一員として生活することを自覚できる人間形成をめざす教育に携わろうとする教職希望者にとって、欠かすことのできない社会的体験である。「介護等体験」では、特別支援（盲・聾・養護）学校や社会福祉施設での多様な体験の中でボランティア意識をより高めるとともに、その後の広範な社会的活動の実践に繋げる。	
	真宗学概論		浄土真宗の開祖である親鸞の思想を中心に、真宗の基本的知識を学ぶ。親鸞思想が、仏教の思想的潮流の中でいかなる位置にあるのかを確認しながら、親鸞思想の基礎的内容を体系的に講義し、本願寺派の教師資格に求められる真宗教義の基本構造についての理解を深める。	
	仏教学概論		仏教を体系的に理解することを目標に、釈尊の生涯が意味するところを説明し、仏教が「真理の宗教」とされる理由・仏教が説く縁起の思想について講義する。原始仏教から部派仏教、そして大乗仏教へと講義し、インドから中国仏教・日本仏教へと展開する過程で仏教が宗派仏教として広まった内容を解説する。本講義を通して私たち個々人にとっての仏教とは何なのか、さらに現代における仏教の意義を考察することをめざす。	
	真宗教団史		親鸞によって開かれた浄土真宗の教えは、その門弟や子孫によって受け継がれ、現在まで継承されている。その展開には、教団という組織の存在や、時代背景が大きく関連している。本講義では、親鸞の生涯をはじめとして、大谷廟堂の建立、第三代宗主覚如や第八代宗主蓮如の活躍などを中心に、本願寺教団がどのように誕生し、今日に至るまでいかなる発展を遂げたのかについて、時代背景を踏まえつつ考えていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（経営学部商学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
諸課程科目	勤式		（概要）浄土真宗本願寺派僧侶として、寺院活動を進める上での必須の一つが勤式である。本講義では、寺院における日常勤行・法要儀式の荘厳・作法等、及び住職として必要な基本姿勢を身につけることを重点的に学修する。 （オムニバス方式／全30回） （303　寺本　聖史／8回） 基本作法（合掌礼拝等）の指導のほか、御文章（聖人・流・末代無智・信心獲得）についての講義、音楽理論・本願寺派の声明や読経作法の指導を行う。 （324　楢本　昌広／10回） 葬儀規範や葬場勤行の指導を行うほか、本願寺の報恩講を教授する。 （386　桃園　裕成／12回） 勤式を学ぶ心得と年間講義概要のガイダンスの講義、基本作法（合掌礼拝等）の指導の他、荘厳、正信偈の出拠・歴史、読誦の説明を行う。	オムニバス方式
	宗門法規		本科目は、浄土真宗本願寺派教師の資格取得に必要な単位として開設されているが、必ずしも寺院関係者に限定されることなく、幅広く受講される状況にある。このため、浄土真宗本願寺派（西本願寺）という宗教団体は、どのような目的を持っているのか、また、どのような組織で、どのような活動を展開しているのかという点を中心に、宗教法人法及び浄土真宗本願寺派の定める規則（宗門法規）等をもとに学修する。	
	教化法		（概要）宗教においては、その教えを正確に他の人々に伝え、教化伝道していくことの重要性があることはいうまでもない。特に、浄土真宗は、聞法が中心であり、それ故に布教伝道が重要視されている。本科目では、その布教伝道の理論を浄土真宗の法義に基づき、考察していく。現在の布教現場にあたっては、一体何が問題であり課題であるのか、このような布教伝道の現代的課題を考慮しながら、理論面と共に実践的側面の習得を目指す。 （オムニバス方式／全30回） （192　加藤　真悟／5回） 主に教化伝道の理論と実践について担当する。浄土真宗の教化伝道について、浄土真宗の教義に焦点をあてて講義を進める。 （315　中川　大城／6回） 主に宗門の教化伝道について担当する。同朋運動や門信徒会運動、宗門の組織教化など、浄土真宗の聞法について講義を進める。 （381　宮部　雅文／10回） 主に教化伝道の理論及び実践について担当する。教化伝道の理論では、生きる意味や仏教の目的、社会における宗教の役割に焦点をあてて講義する。 （417　和氣　秀剛／9回） 主に教化伝道の理論及び実践について担当する。教化伝道の実践では、法話布教の作法や法話原稿の作成方法などを指導する。	オムニバス方式
	（本山教師）仏教史		（概要）本科目では、本願寺派教師資格課程科目である「仏教史」について、主としてインド仏教から日本仏教への歴史的展開を講義する。具体的には釈尊滅後の仏典結集、大乗仏教への展開、南アジア、東アジア（中国・朝鮮半島・日本）への仏教伝来、大蔵経の成立等に関する基礎的な内容を取り扱う。 （オムニバス／全8回） （98　内田　准心／5回） 主にインド・中国における仏教の歴史的展開を中心に釈尊滅後の仏典結集、大乗仏教の展開、インドから中国への仏教東漸のあゆみについて取り扱う。 （124　野呂　靖／3回） 主に日本における仏教の歴史的展開を中心に、仏教伝来以降の各時代区分における歴史的事象をトピックにあげ、取り扱う。	オムニバス方式
	（本山教師）宗教概説		本講義では、本願寺派教師資格課程科目である「宗教概説」として位置付けられている。主に、浄土真宗・親鸞教義・親鸞教学の豊かな学びに資するべく、世界の諸宗教について講義する。 具体的には、原始宗教・民族宗教・世界宗教のカテゴリーに分類し、その特徴等を概観しつつ、個々の宗教の基本的な内容を紹介する。	

令和7年4月現在

学校法人龍谷大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和6（2024）年度				令和7（2025）年度				
学部・学科等	入学定員	編入学定員	収容定員	学部・学科等	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
龍谷大学				龍谷大学				
文学部				文学部				
真宗学科	145	3年次 6	592	真宗学科	145	3年次 6	592	
仏教学科	118	3年次 5	482	仏教学科	118	3年次 5	482	
哲学科	148	3年次 4	600	哲学科	148	3年次 4	600	
歴史学科	267	3年次 9	1,086	歴史学科	267	3年次 9	1,086	
日本語日本文学科	101	3年次 2	408	日本語日本文学科	101	3年次 2	408	
英語英米文学科	101	3年次 2	408	英語英米文学科	101	3年次 2	408	
経済学部				経済学部				
現代経済学科	360	3年次 7	1,454	現代経済学科	360	3年次 7	1,454	
国際経済学科	240	3年次 5	970	国際経済学科	240	3年次 5	970	
経営学部				経営学部				
経営学科	519	3年次 5	2,086	経営学科	380	3年次 3	1,526	定員変更（△139） 3年次編入学定員の変更（△2）
				商学科	160	3年次 2	644	学部の学科の設置（届出）
法学部				法学部				
法律学科	445	3年次 5	1,790	法律学科	445	3年次 5	1,790	
社会学部				社会学部				
社会学科	210	3年次 5	850		0	3年次 0	0	令和7年4月学生募集停止
コミュニティマネジメント学科	153	3年次 3	618		0	3年次 0	0	令和7年4月学生募集停止
現代福祉学科	195	3年次 30	840		0	3年次 0	0	令和7年4月学生募集停止
				総合社会学科	450	3年次 10	1,820	学部の学科の設置（届出）
政策学部				政策学部				
政策学科	308	3年次 5	1,242	政策学科	308	3年次 5	1,242	
国際学部				国際学部				
国際文化学科	372	3年次 20	1,528	国際文化学科	372	3年次 20	1,528	
グローバルスタディーズ学科	135	3年次 10	560	グローバルスタディーズ学科	135	3年次 10	560	
農学部				農学部				
生命科学科	90	3年次 8	376	生命科学科	90	3年次 8	376	
農学科	134	3年次 9	554	農学科	134	3年次 9	554	
食品栄養学科	80	3年次 4	328	食品栄養学科	80	3年次 4	328	
食料農業システム学科	134	3年次 9	554	食料農業システム学科	134	3年次 9	554	
先端理工学部				先端理工学部				
数理・情報科学課程	103	3年次 2	416	数理・情報科学課程	103	3年次 2	416	
知能情報メディア課程	103	3年次 2	416	知能情報メディア課程	103	3年次 2	416	
電子情報通信課程	103	3年次 2	416	電子情報通信課程	103	3年次 2	416	
機械工学・ロボティクス課程	113	3年次 2	456	機械工学・ロボティクス課程	113	3年次 2	456	
応用化学課程	103	3年次 2	416	応用化学課程	103	3年次 2	416	
環境生態工学課程	103	3年次 2	416	環境科学課程	88	3年次 2	356	名称変更 定員変更（△15）
心理学部				心理学部				
心理学科	255	3年次 10	1,040	心理学科	255	3年次 10	1,040	
龍谷大学　合計	**5,138**	**175**	**20,902**	**龍谷大学　合計**	**5,036**	**147**	**20,438**	

令和6（2024）年度			
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
龍谷大学大学院			
文学研究科			
真宗学専攻（M）	20	ー	40
仏教学専攻（M）	20	ー	40
哲学専攻（M）	7	ー	14
教育学専攻（M）	7	ー	14
臨床心理学専攻（M）	10	ー	20
日本史学専攻（M）	7	ー	14
東洋史学専攻（M）	7	ー	14
日本語日本文学専攻（M）	7	ー	14
英語英米文学専攻（M）	7	ー	14
法学研究科			
法律学専攻（M）	25	ー	50
経済学研究科			
経済学専攻（M）	30	ー	60
経営学研究科			
経営学専攻（M）	30	ー	60
社会学研究科			
社会学専攻（M）	10	ー	20
社会福祉学専攻（M）	10	ー	20
国際学研究科			
国際文化学専攻（M）	7	ー	14
グローバルスタディーズ専攻（M）	4	ー	8
言語コミュニケーション専攻（M）	4	ー	8
実践真宗学研究科			
実践真宗学専攻（M）	30	ー	90
政策学研究科			
政策学専攻（M）	20	ー	40
農学研究科			
食農科学専攻（M）	30	ー	60
先端理工学研究科			
先端理工学専攻（M）	100	ー	200

令和7（2025）年度				
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
龍谷大学大学院				
文学研究科				
真宗学専攻（M）	20	ー	40	
仏教学専攻（M）	20	ー	40	
哲学専攻（M）	7	ー	14	
教育学専攻（M）	7	ー	14	
	0	ー	0	令和7年4月学生募集停止
日本史学専攻（M）	7	ー	14	
東洋史学専攻（M）	7	ー	14	
日本語日本文学専攻（M）	7	ー	14	
英語英米文学専攻（M）	7	ー	14	
法学研究科				
法律学専攻（M）	25	ー	50	
経済学研究科				
経済学専攻（M）	30	ー	60	
経営学研究科				
経営学専攻（M）	30	ー	60	
社会学研究科				
社会学専攻（M）	10	ー	20	
社会福祉学専攻（M）	10	ー	20	
国際学研究科				
国際文化学専攻（M）	7	ー	14	
グローバルスタディーズ専攻（M）	4	ー	8	
言語コミュニケーション専攻（M）	4	ー	8	
実践真宗学研究科				
実践真宗学専攻（M）	30	ー	90	
政策学研究科				
政策学専攻（M）	20	ー	40	
農学研究科				
食農科学専攻（M）	30	ー	60	
先端理工学研究科				
先端理工学専攻（M）	100	ー	200	
心理学研究科				研究科の設置（届出）
臨床心理学専攻（M）	20	ー	40	研究科の設置（届出）

令和6（2024）年度			
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
文学研究科			
真宗学専攻（D）	5	ー	15
仏教学専攻（D）	5	ー	15
哲学専攻（D）	2	ー	6
教育学専攻（D）	3	ー	9
臨床心理学専攻（D）	2	ー	6
日本史学専攻（D）	2	ー	6
東洋史学専攻（D）	2	ー	6
日本語日本文学専攻（D）	2	ー	6
英語英米文学専攻（D）	2	ー	6
法学研究科			
法律学専攻（D）	5	ー	15
経済学研究科			
経済学専攻（D）	3	ー	9
経営学研究科			
経営学専攻（D）	3	ー	9
社会学研究科			
社会学専攻（D）	3	ー	9
社会福祉学専攻（D）	3	ー	9
国際学研究科			
国際文化学専攻（D）	2	ー	6
グローバルスタディーズ専攻（D）	2	ー	6
政策学研究科			
政策学専攻（D）	3	ー	9
農学研究科			
食農科学専攻（D）	5	ー	15
先端理工学研究科			
先端理工学専攻 （D）	10	ー	30
龍谷大学大学院　合計	**456**	**ー**	**1,006**

令和7（2025）年度				
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
文学研究科				
真宗学専攻（D）	5	ー	15	
仏教学専攻（D）	5	ー	15	
哲学専攻（D）	2	ー	6	
教育学専攻（D）	3	ー	9	
	0	ー	0	令和7年4月学生募集停止
日本史学専攻（D）	2	ー	6	
東洋史学専攻（D）	2	ー	6	
日本語日本文学専攻（D）	2	ー	6	
英語英米文学専攻（D）	2	ー	6	
法学研究科				
法律学専攻（D）	5	ー	15	
経済学研究科				
経済学専攻（D）	3	ー	9	
経営学研究科				
経営学専攻（D）	3	ー	9	
社会学研究科				
社会学専攻（D）	3	ー	9	
社会福祉学専攻（D）	3	ー	9	
国際学研究科				
国際文化学専攻（D）	2	ー	6	
グローバルスタディーズ専攻（D）	2	ー	6	
政策学研究科				
政策学専攻（D）	3	ー	9	
農学研究科				
食農科学専攻（D）	5	ー	15	
先端理工学研究科				
先端理工学専攻 （D）	10	ー	30	
心理学研究科				研究科の設置（届出）
臨床心理学専攻 （D）	6	ー	18	研究科の設置（届出）
龍谷大学大学院　合計	**470**	**ー**	**1,038**	

令和6（2024）年度			
学部・学科	入学定員	編入学定員	収容定員
龍谷大学短期大学部			
社会福祉学科	85	―	170
こども教育学科	135	―	270
龍谷大学短期大学部　合計	**220**	**―**	**440**

令和7（2025）年度				
学部・学科	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
				令和7年4月学生募集停止
	0	―	0	令和7年4月学生募集停止
	0	―	0	令和7年4月学生募集停止
龍谷大学短期大学部　合計	**0**	**―**	**0**	

京都府・滋賀県内における位置関係図



龍谷大学　大宮学舎

京都市下京区七条通大宮東入
大工町 125 番地の 1

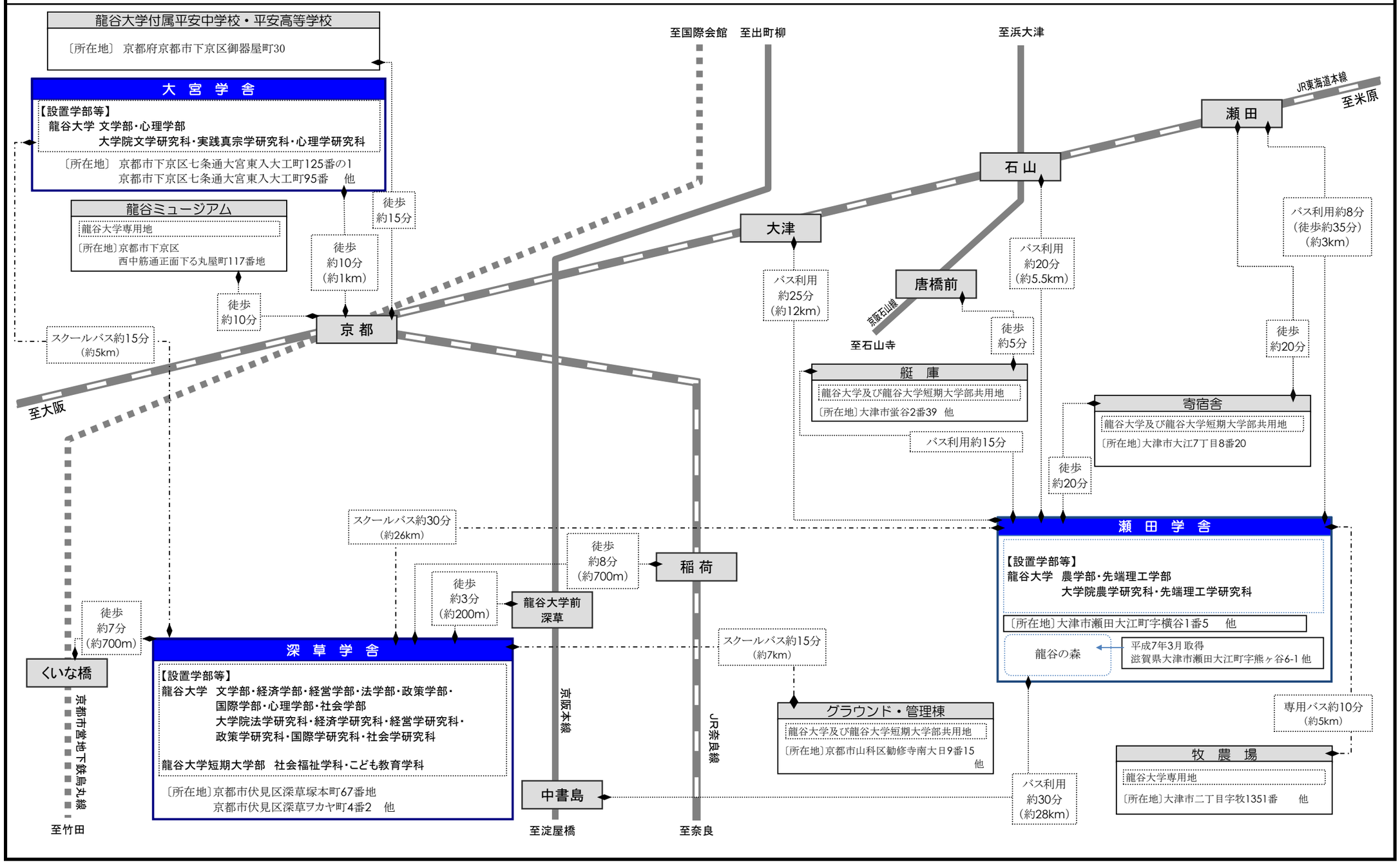
龍谷大学　深草学舎

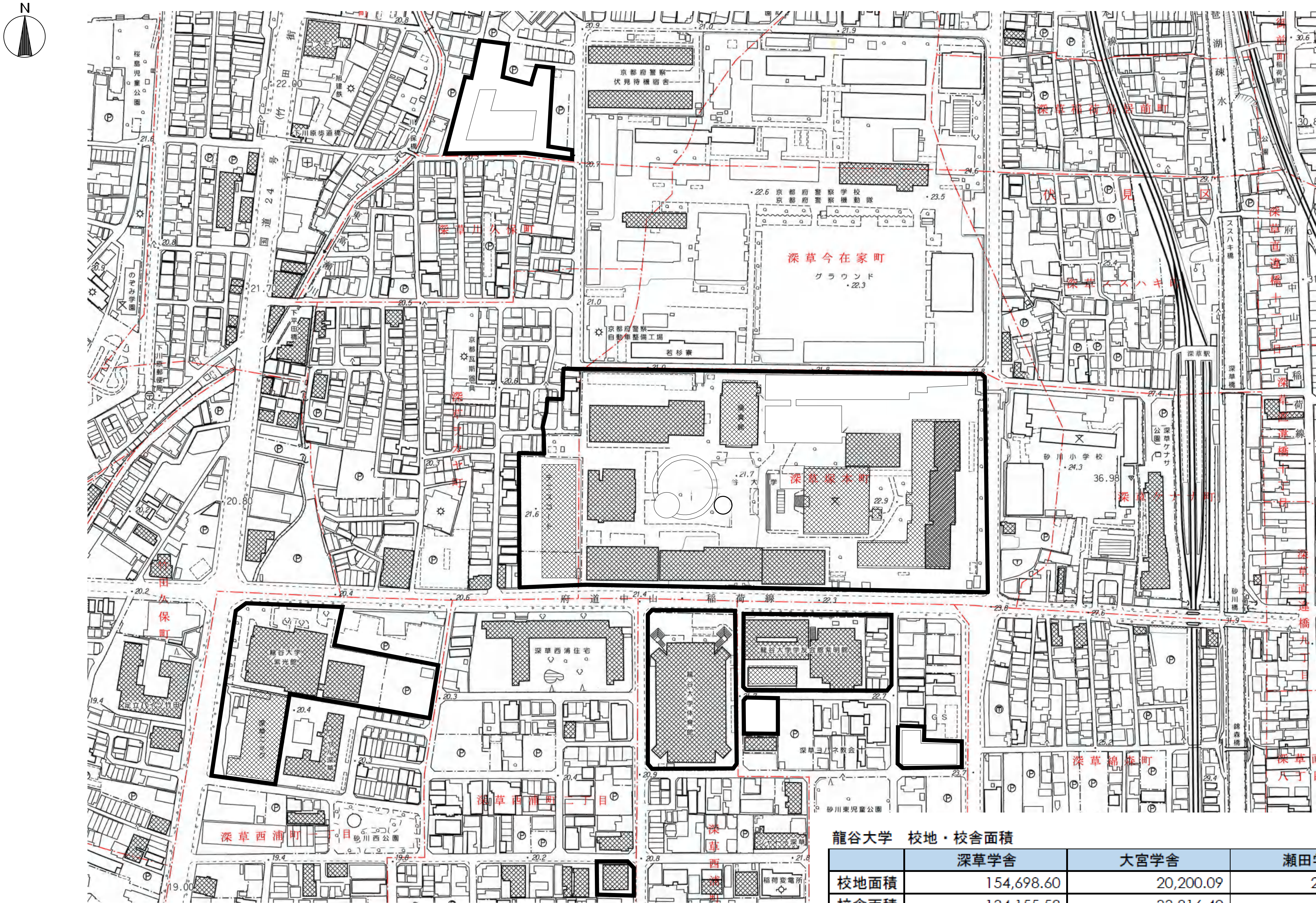
京都市伏見区深草塚本町 67 番地

龍谷大学　瀬田学舎

滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1 番 5

最寄り駅からの距離や交通機関の概要





龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,155.58	33,816.40	95,824.29

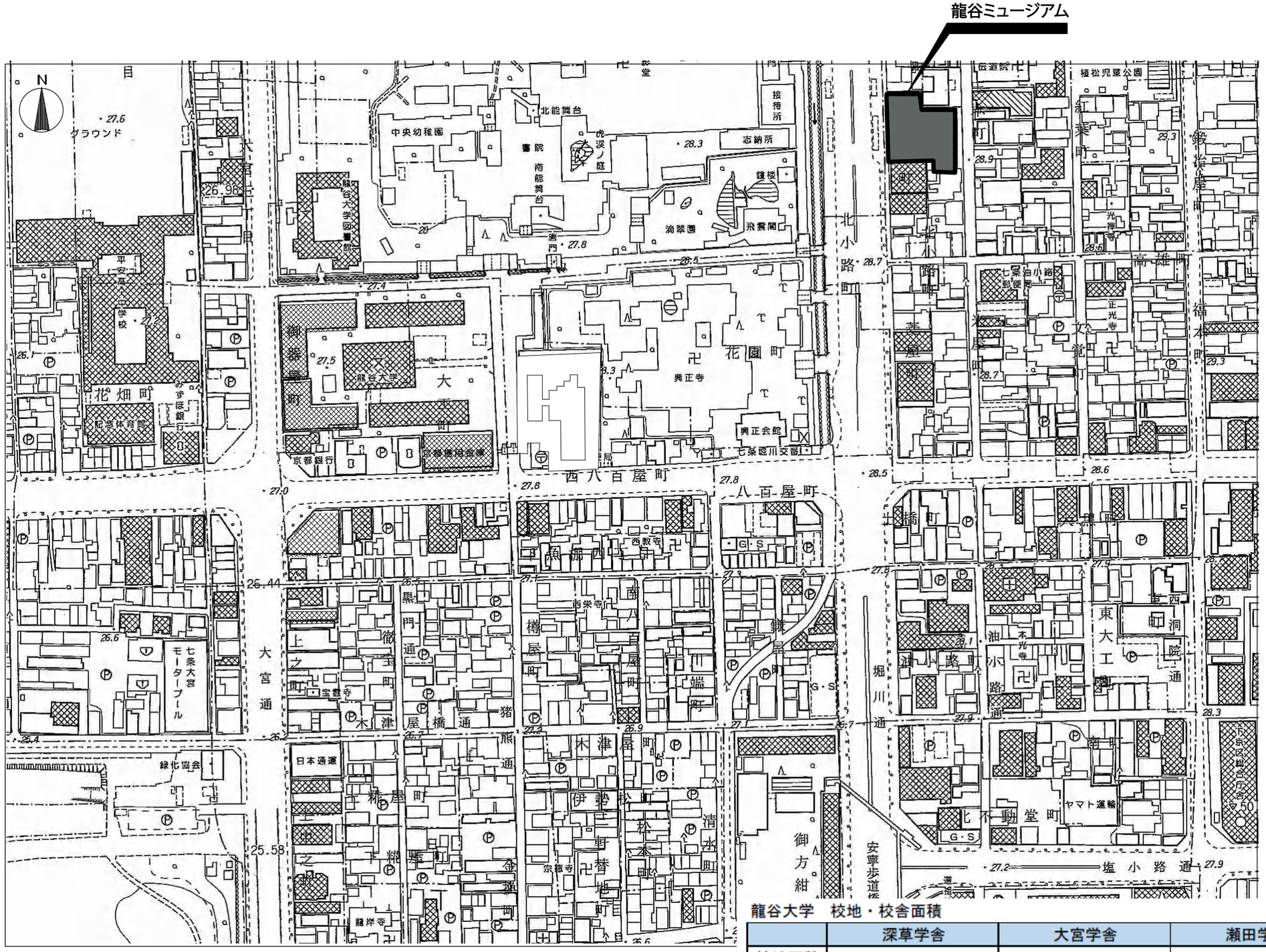
設計名称	学校法人　龍谷大学　深草学舎　校地・校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称　付近見取図 縮　尺	図面番号



龍谷大学　校地・校舎面積　　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,155.58	33,816.40	95,824.29

設計名称	学校法人　龍谷大学　大宮学舎　校地・校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称	付近見取図
				縮　尺	図面番号



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,155.58	33,816.40	95,824.29

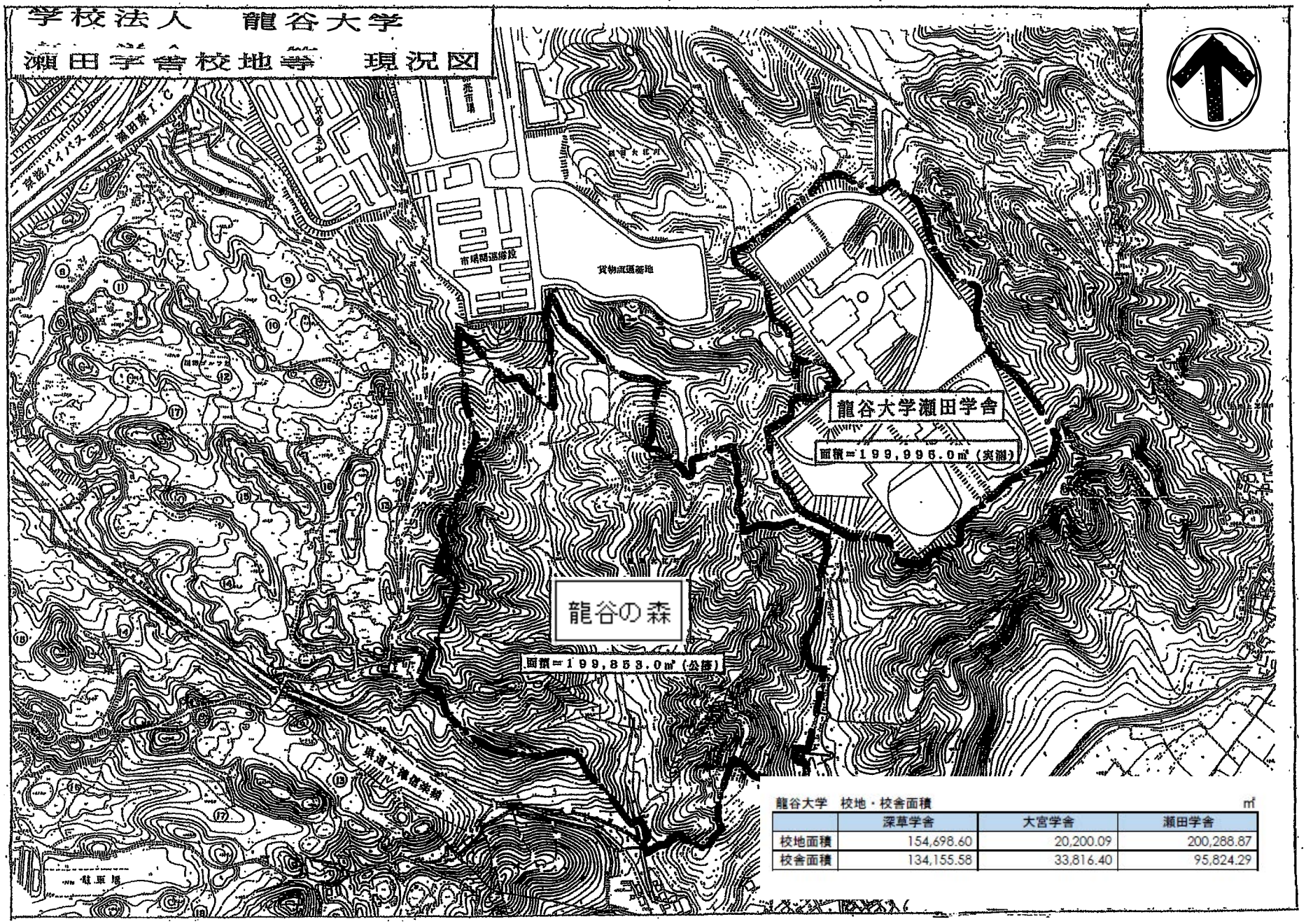
設計名称	学校法人　龍谷大学　大宮学舎　校地・校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称	付近見取図
				縮　尺	
				図面番号	

龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,155.58	33,816.40	95,824.29

設計名称	学校法人　龍谷大学　南大日校地（運動場）校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称	付近見取図
				縮　尺	図面番号

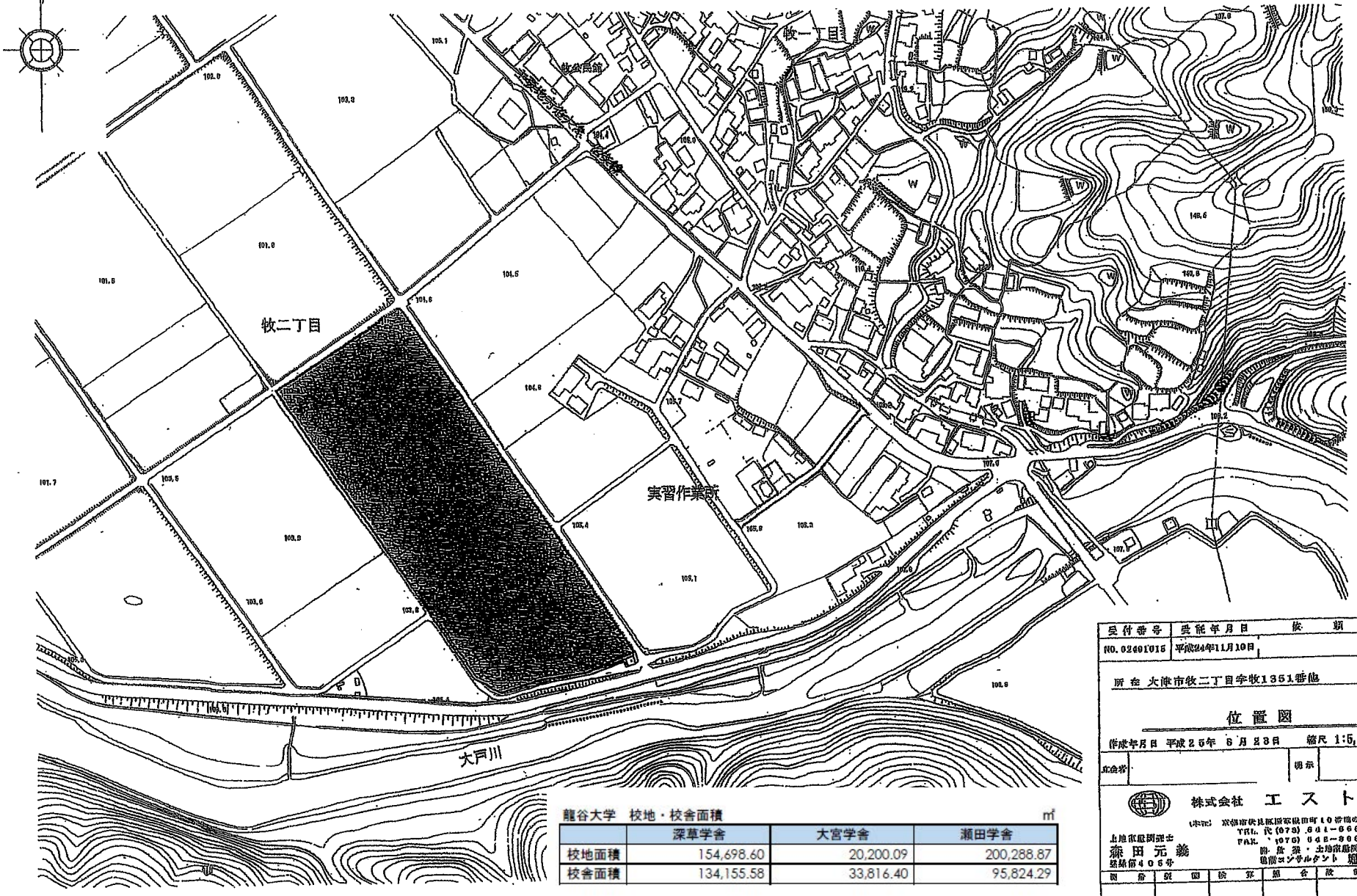


龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,155.58	33,816.40	95,824.29

位置図

所在：大津市牧二丁目字牧１３５１番他



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,155.58	33,816.40	95,824.29

受付番号	受託年月日	依頼者
NO. 02401016	平成24年11月10日	様

所在 大津市牧二丁目字牧1351番他

位置図

作成年月日 平成25年 6月23日　縮尺 1:5,000

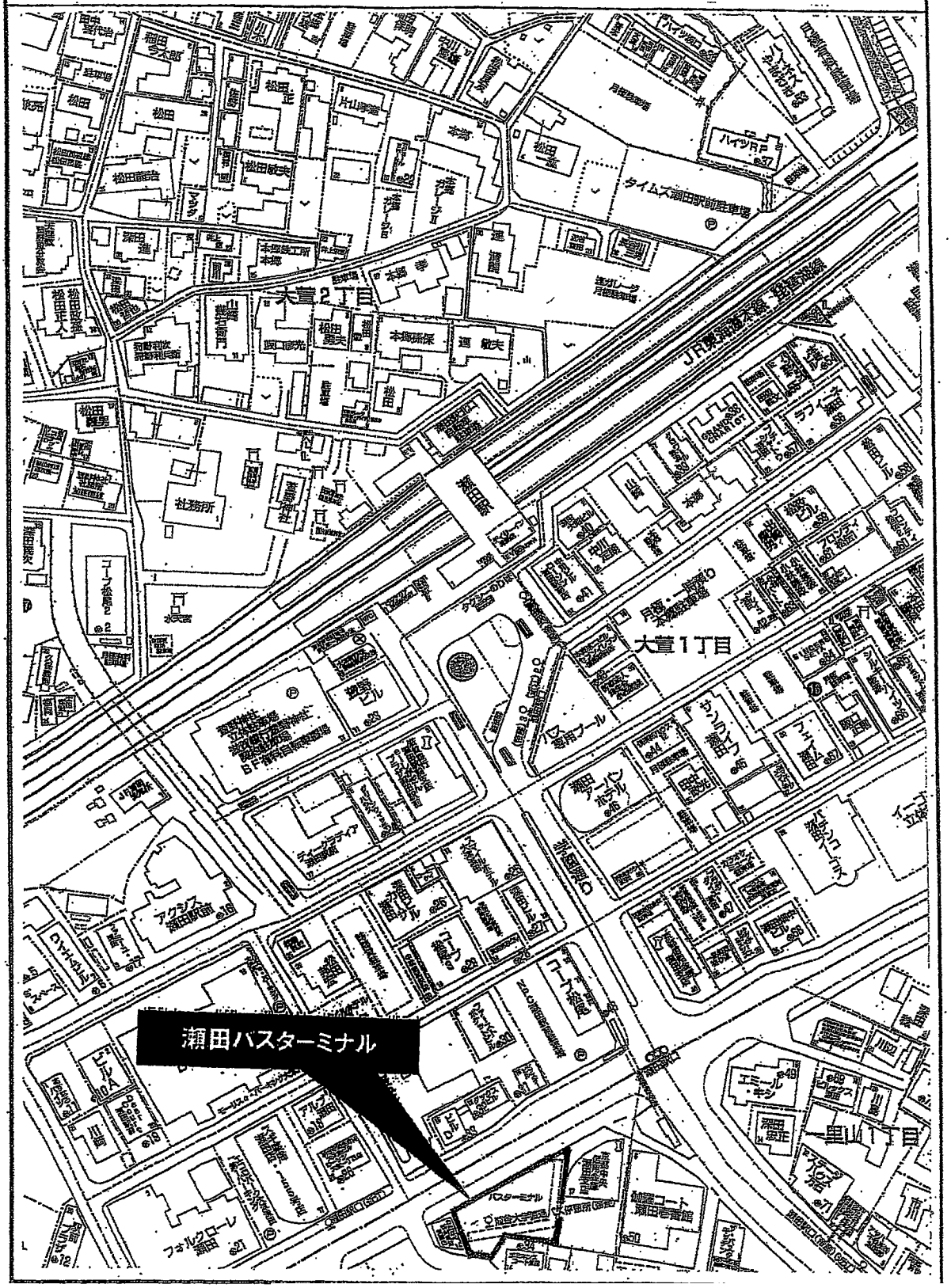
立会者	指示

株式会社 エスト
〒520-0806 滋賀県大津市打出浜10番地の1
TEL. 代(077)521-6660
FAX. (077)521-6660
土地家屋調査士 藤田元義
登録第406号
測量・建築・土地家屋調査士事務所
担当コンサルタント 堀江 郁夫

図番	縮尺	検算	照合	検印	担当者印

図面 - 8

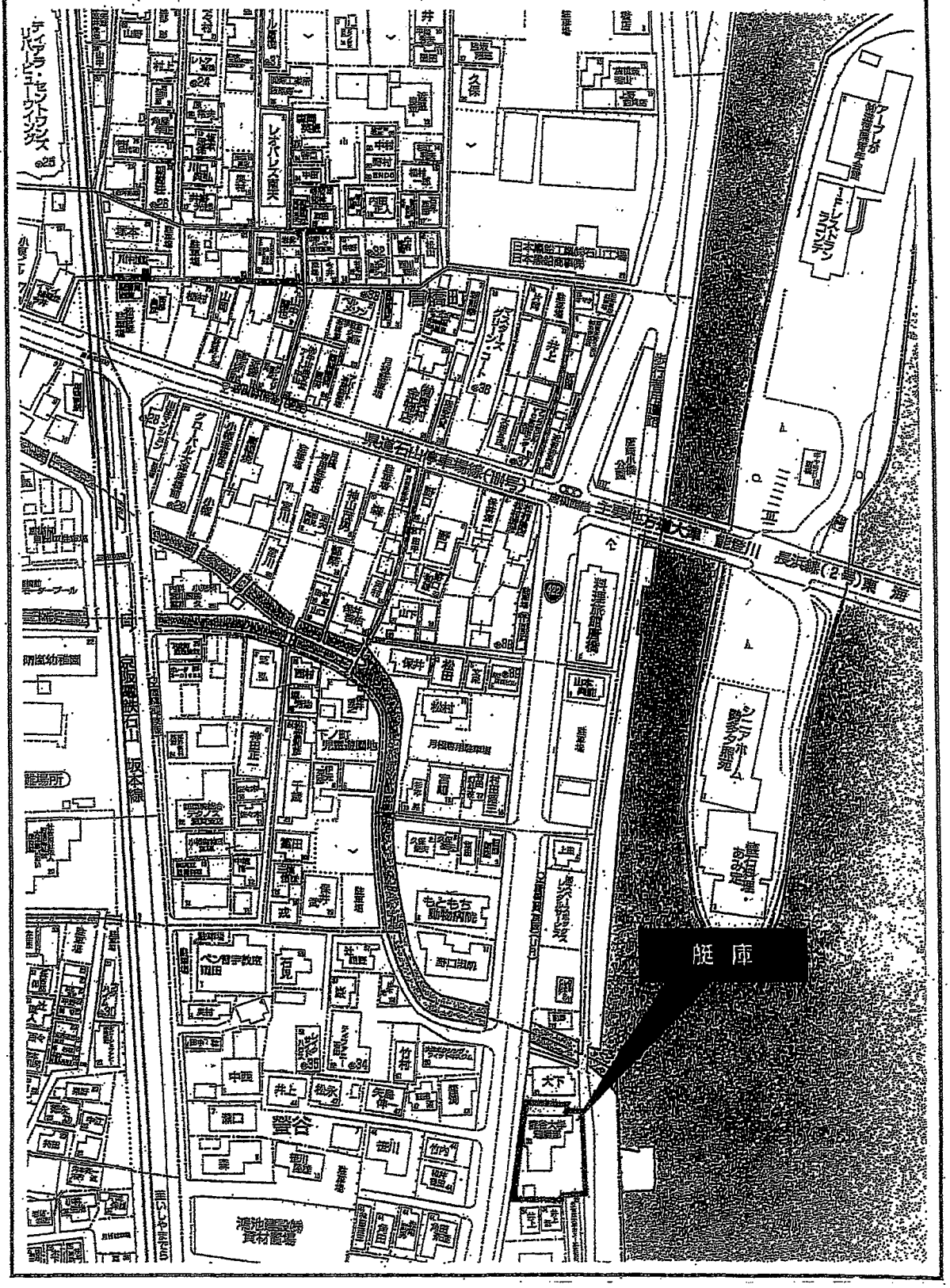
瀬田バスターミナル近隣図



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,155.58	33,816.40	95,824.29

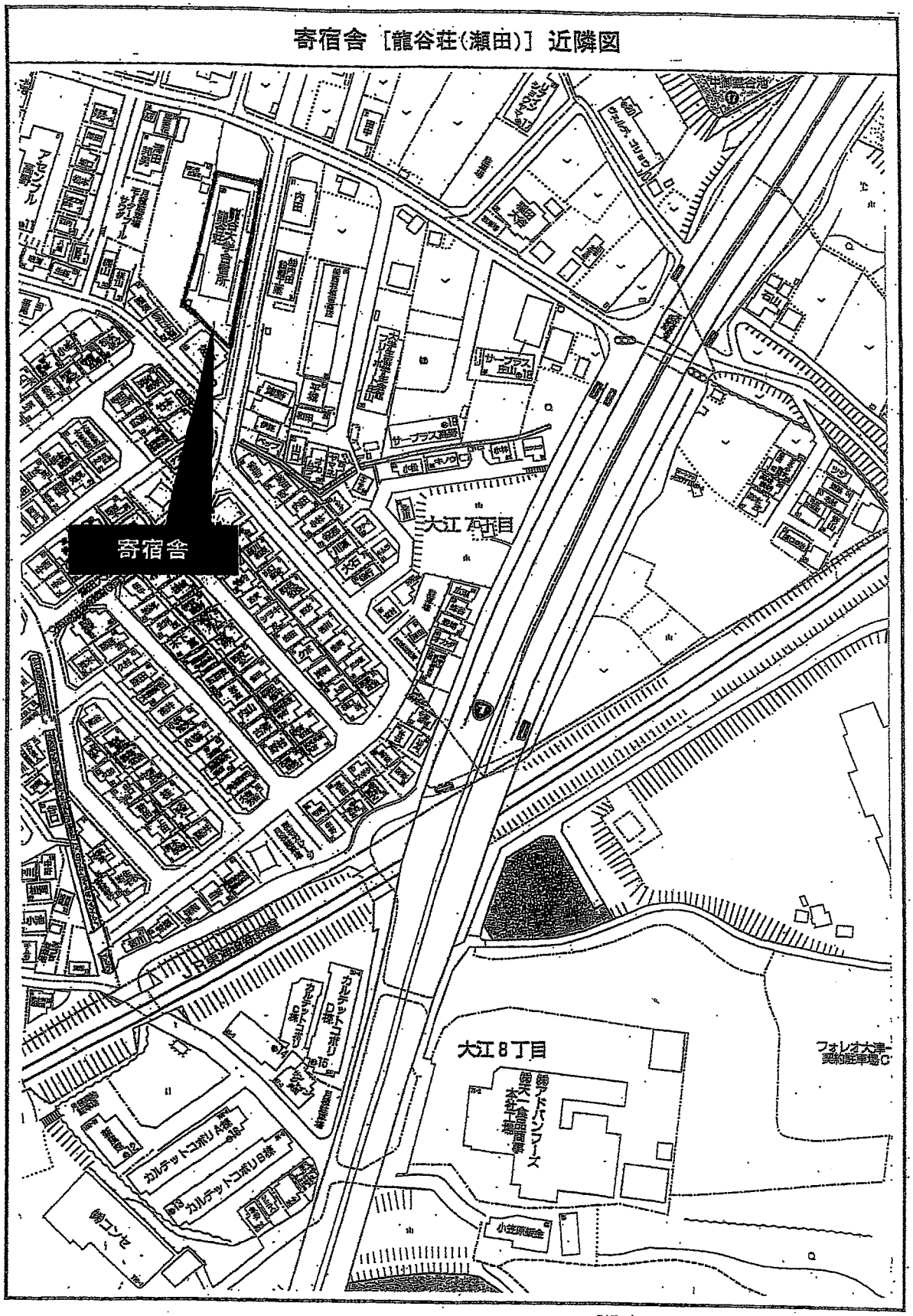
艇庫近隣図



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,155.58	33,816.40	95,824.29

寄宿舎［龍谷荘(瀬田)］近隣図



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,155.58	33,816.40	95,824.29

○龍谷大学学則

昭和24年２月21日

設置認可

第１章　総則

第１条　本学は教育基本法及び学校教育法にしたがい,浄土真宗の精神に基づく大学として,広く知識を授けるとともに,深く専門の諸学科を教授研究し,併せて有為の人材を養成することを目的とする。

第１条の２　本学は教育研究の向上をはかり,前条の目的を達成するため,自らの点検・評価を行う。

２　前項の目的を達成するため,点検の項目,実施体制は別に定める。

第２条　本学に次の学部を置き,各学部にはそれぞれに掲げる学科,課程及び専攻を置く。

学部	学科・課程	専攻
文学部	真宗学科	
	仏教学科	
	哲学科	哲学専攻
		教育学専攻
	歴史学科	日本史学専攻
		東洋史学専攻
		仏教史学専攻
		文化遺産学専攻
	日本語日本文学科	
	英語英米文学科	
経済学部	現代経済学科	
	国際経済学科	
経営学部	経営学科	
	商学科	
法学部	法律学科	
社会学部	総合社会学科	
政策学部	政策学科	
国際学部	国際文化学科	
	グローバルスタディーズ学科	

農学部	生命科学科	
	農学科	
	食品栄養学科	
	食料農業システム学科	
先端理工学部	数理・情報科学課程	
	知能情報メディア課程	
	電子情報通信課程	
	機械工学・ロボティクス課程	
	応用化学課程	
	環境科学課程	
心理学部	心理学科	

第２条の２　各学部の教育理念・目的は，次のとおりとする。

学部名	教育理念・目的
文学部	建学の精神に基づいて，人文学の知的体系の研究・教授を通じ，現代社会の複雑な変化や諸問題に，自己を見失うことなく積極的・主体的に対応しつつ，社会に貢献できる教養及び専門性を備えた人間を育成することを目的とする。
経済学部	建学の精神に基づいて，経済学が培ってきた基礎的理論や社会の経済的諸現象を論理的に分析する能力を修得し，さらに国際的・地域的な多様性を理解して，課題の発見と解決に努める人間を育成することを目的とする。
経営学部	建学の精神に基づいて，経営学の理論を修得させることに加えて，実践的かつ実学的素養を身につけさせることを教育理念とする。また，激しい時代の変化に対応でき，社会から信頼される経営人を育成することを目的とする。
法学部	建学の精神に基づいて，日本国憲法の理念を基礎に，法学と政治学の教育・研究を通じて，広い教養と専門的な知識をもって主体的に行動し，鋭い人権感覚と正義感のもとに自ら発見した問題を社会と連携して解決できる，自立的な市民を育成することを目的とする。
社会学部	建学の精神に基づいて，多様な価値観が錯綜する現代におい

	て，人が営む共同体である「社会」のあり方を学び，人と人，人と組織や社会との関わり方やそこで発生する諸問題の分析・解決の視点と手法を身につけた人間を育成することを目的とする。
政策学部	建学の精神に基づいて，共生の哲学を基礎に，政策学の教育と研究を通じて広い教養と専門的な知識を身につけ，社会の持続可能な発展のために主体的に行動するとともに，自ら発見した問題を社会と連携して解決できる，公共性を深く理解し，高い市民性を持つ自立的な人材を育成することを目的とする。
国際学部	建学の精神に基づいて，異文化への理解と敬意を深めるとともに，自文化についての発信力を養い，グローバル化が加速する時代において，柔軟な思考と批判的精神をもって対応できるコミュニケーション能力と問題解決能力を備えた人間を育成することを目的とする。
農学部	建学の精神に基づいて，人類が直面する「食」と「農」に関する国内外の諸問題に対して真摯に向き合い，農学の立場から正しい判断ができる力を備えた，持続可能な社会の実現に貢献しうる人の育成を目的とする。
先端理工学部	建学の精神に基づいて，自然・社会と科学との調和を重視し，幅広い教養と理工学の各専門分野における基礎知識・技能を身に着け，持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った技術者・研究者を育成することを目的とする。
心理学部	建学の精神に基づいて，現代社会が抱える諸課題に対し，心理学の教育と研究を通じて得られる対人支援や良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ，主体的かつ実践的に対応できる人間を育成することを目的とする。

第３条　本学に大学院を置く。大学院の学則は別にこれを定める。

２　本学に留学生別科を置く。留学生別科については別に定める。

第４条　本学学部の収容定員は，次のとおりとする。

学部・学科・課程・専攻			入学定員	編入学定員	収容定員
文学部	真宗学科		145名	6名	592名
	仏教学科		118名	5名	482名
	哲学科	哲学専攻	74名	2名	300名
		教育学専攻	74名	2名	300名
	歴史学科	日本史学専攻	81名	3名	330名
		東洋史学専攻	74名	2名	300名
		仏教史学専攻	65名	2名	264名
		文化遺産学専攻	47名	2名	192名
	日本語日本文学科		101名	2名	408名
	英語英米文学科		101名	2名	408名
	小計		880名	28名	3,576名
経済学部	現代経済学科		360名	7名	1,454名
	国際経済学科		240名	5名	970名
	小計		600名	12名	2,424名
経営学部		経営学科	380名	3名	1,526名
		商学科	160名	2名	644名
		小計	540名	5名	2,170名
法学部		法律学科	445名	5名	1,790名
社会学部	総合社会学科		450名	10名	1,820名
政策学部		政策学科	308名	5名	1,242名
国際学部	国際文化学科		372名	20名	1,528名
	グローバルスタディーズ学科		135名	10名	560名
	小計		507名	30名	2,088名

農学部	生命科学科	90名	8名	376名
	農学科	134名	9名	554名
	食品栄養学科	80名	4名	328名
	食料農業システム学科	134名	9名	554名
	小計	438名	30名	1,812名
先端理工学部	数理・情報科学課程	103名	2名	416名
	知能情報メディア課程	103名	2名	416名
	電子情報通信課程	103名	2名	416名
	機械工学・ロボティクス課程	113名	2名	456名
	応用化学課程	103名	2名	416名
	環境科学課程	88名	2名	356名
	小計	613名	12名	2,476名
心理学部	心理学科	255名	10名	1,040名
合計		5,036名	147名	20,438名

第５条　本学学部の修業年限は４年とし，８年を超えて在学することはできない。

第６条　本学学部に４年以上在学し，所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し，学長は各学部教授会の議を経て卒業を認定する。ただし，学長は，所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については，３年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては別にこれを定める。

２　学長は，前項により卒業の認定を受けた者に対し，卒業証書及び本学学位規程に定める学士の学位を授与する。

３　卒業認定の時期は，学年末とする。ただし，学長が特別の事情があると認める者に対しては，学期の末とすることができる。

第７条　削除

第２章　通則

第１節　学年・学期・休業日

第８条　学年は，４月１日に始まり翌年３月31日に終る。

第９条　学年を原則として次の２学期に分ける。

第１学期　４月１日から９月30日まで

第２学期　10月１日から翌年３月31日まで

第10条　休業日は，次のとおりとする。

⑴　日曜日

⑵　「国民の祝日に関する法律」に規定する休日

⑶　創立記念日（５月21日）

⑷　春期休業，夏期休業及び冬期休業（当該年度の学年暦において定める。）

２　前項の休業日については，事情により変更することがあり，授業を行うことができる。

３　臨時の休業については，学長がそのつど定める。

第２節　学籍の取得，喪失，異動

第11条　入学は，毎学年の始めとする。ただし，特別の事情のある場合は，学期の始めとすることができる。

第12条　次の各号の１に該当する者は，学部第１学年に入学することができる。ただし，必要と認めたときは，高等学校卒業程度の選抜試験を行う。

⑴　高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者

⑵　通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）

⑶　外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずるもので文部科学大臣の指定した者

⑷　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

⑸　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

⑹　文部科学大臣の指定した者

⑺　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

⑻　本学において，個別の入学資格審査により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，18歳に達した者

第13条　本学の第３年次及び第２年次に転入学又は編入学を希望する者については，選考の上これを許可することがある。

２　第３年次に入学できる者は，次の各号の１に該当する者とする。

⑴　大学に２年以上在学した者

(2)　短期大学を卒業した者

(3)　高等専門学校を卒業した者

３　第２年次に入学できる者は，次の各号の１に該当する者とする。

(1)　大学に１年以上在学した者

(2)　短期大学を卒業した者

(3)　高等専門学校を卒業した者

第14条　第19条の規定により本学を中途退学をした者が，再び入学を願出たときは，その事情を調査のうえ，入学を許可することがある。

第14条の２　第20条第１項第１号により除籍された者が，再び入学を願出たときは，その事情を調査のうえ，入学を許可することがある。

第14条の３　前３条の規定により入学した者の在学すべき年数及び在学し得る年数については，第６条及び第５条の規定にかかわらず教授会が定める。

第15条　入学志願者は，所定の書式にしたがい入学願書，履歴書及び修学証明書を提出しなければならない。

第16条　入学の許可を得た者は，所定の入学誓書，保証書及び住民票記載事項証明書を指定の期日までに提出しなければならない。

第17条　保証人は１名とする。

２　保証人は,その学生の在学中にかかる一切の事件について責任を負わなければならない。

３　保証人が死亡したとき又はその資格を失ったときは,新たに保証人を定めて保証書を提出しなければならない。

４　保証人が転居等をしたときは，ただちにその旨を届けなければならない。

第18条　学生が疾病又はその他の事由により，３月以上修学を中止しようとするときは，学長の許可を得て１学期間又は１学年間休学することができる。

２　休学中の者が引き続き休学を希望するときは，休学期間の延長をすることができる。

３　休学期間は連続して２年，通算して４年を超えることはできない。

４　休学期間は在学期間に算入しない。

第18条の２　休学した者が復学しようとするときは，所定の様式により，学長に願出なければならない。

第18条の３　削除

第18条の４　本学先端理工学部において，第３年次及び第２年次に転課程を希望する者については，先端理工学部教授会の議を経て，これを許可することがある。

２　第３年次に転課程できる者は，先端理工学部に２年以上在学した者とする。

３　第２年次に転課程できる者は，先端理工学部に１年以上在学した者とする。

第19条　疾病又はその他の事由で退学しようとするときは，保証人と連署して願出なければならない。

第19条の２　外国の大学又は短期大学等で学修することを志願する者は，学長の許可を得て留学することができる。

第20条　学生が次の各号の１に該当するときは，これを除籍する。

(1)　定められた期間内に学費を納入しない者

(2)　第５条に定める期間に修了できない者

(3)　第18条に定める休学期間を終えても復学できない者

２　前項に規定するほか，死亡したときも除籍する。

第３節　受験料，学費（入学金・授業料・実験実習料・実習料・留学実習料）及びその他納付金

第21条　入学試験の受験料・併願審査料は，別に定める。

第22条　学費は，次のとおりとする。

（単位　円）

	金額															備考
	文学部（歴史学科文化遺産学専攻を除く。）	文学部歴史学科文化遺産学専攻	経済学部法学部	経営学部	政策学部	社会学部	国際学部国際文化学科	国際学部グローバルスタディーズ学科	農学部生命科学科農学科	農学部食品栄養学科	農学部食料農業システム学科	先端理工学部数理・情報科学課程	先端理工学部知能情報メディア課程電子情報通信課程機械工学・ロボティクス課程応用化学課程	先端理工学部環境科学課程	心理学部	
入学金	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	編入学生及び転入学生の入学金は，160,000円を減免する。ただし，本学出身者（短期大学部出身者含む）が本学

																へ編入学する場合又は本学の学生が転学部，転学科，転課程及び転専攻する場合は，入学金全額を免除する。再入学生の入学金は，全額免除とする。
授業料	1,061,000	1,096,900	1,061,000	1,101,000	1,061,000	1,157,000	1,116,000	1,231,000	1,409,000	1,439,000	1,259,000	1,409,000	1,459,000	1,499,000	1,267,000	入学初年度(1年次)の授業料は260,000円を減免する。本学短期大学部出身者が本学へ編入学する場合は，編入初年度及び2年度目(3年次・4年次)の授業料をそれぞれ50,000円減免する。
実験実習料	－	－	－	－	－	－	－	－	143,600	193,600	35,900	143,600	143,600	143,600	－	
実習料	－	－	－	－	15,000	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
留学実習料	－	－	－	－	－	－	－	200,000	－	－	－	－	－	－	－	

２　前項のほか，教職課程及び教育実習等実習を履修する者の履修料及び実習費については，学費等納入規程に定めるところによる。

第22条の２　学年の中途で退学する者は，当該学期分の学費は納入しなければならない。

２　停学期間においても，学費は納入しなければならない。

第22条の３　休学者の学費は，当該学期の休学在籍料を納入しなければならない。休学在籍料は，年額100,000円とする。

第22条の４　本節に規定するほか，受験料，学費及びその他の納付金については別に定める学費等納入規程による。

第４節　懲戒

第23条　学生が本学の秩序を乱し，その他学生の本分に反した場合，その内容，軽重等を考慮し，別に定める学生懲戒規程により，次の懲戒を加える。

(1)　戒告

(2)　停学

(3)　退学

第24条　削除

第３章　教育課程

第１節　通則

第25条　文学部，経済学部，経営学部，法学部，社会学部，政策学部，国際学部，農学部，先端理工学部及び心理学部の教育課程における授業科目は，専攻科目と教養教育科目とし，学修方法によりそれぞれ必修科目，選択必修科目，選択科目に区分する。

２　前項に規定するほか，経済学部，経営学部，法学部，社会学部及び政策学部の教育課程に，専攻科目として学部共通コース科目を置く。

３　前２項に規定するほか，各学部において，教育上必要があるときは寄付講座科目等を設けることができる。

４　第54条に規定する外国人留学生のために，前３項に規定する授業科目の他に，日本語科目を置く。

第25条の２　授業は，講義，演習，実験，実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

２　前項の授業は，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

３　第34条の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち，前項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

第26条　各授業科目の単位数を定めるにあたっては，１単位の授業科目につき45時間の学修を必要とする内容をもつものとして構成し，次の基準によって計算する。

(1)　講義及び演習については，15時間から30時間までの範囲で教授会が定める時間の授業をもって１単位とする。

(2)　実験，実習及び実技については，30時間から45時間までの範囲で教授会が定める時間の授業をもって１単位とする。

(3)　１つの授業科目について，講義，演習，実験，実習又は実技のうち２以上の方法の併用により行う場合については，その組み合わせに応じ，前２号に規定する基準を考慮して教授会が定める時間の授業をもって１単位とする。

２　前項の規定にかかわらず，卒業論文，卒業研究，特別研究等の授業科目については，これらの学修の成果を評価して単位を認定することが適切と教授会が認める場合には，これらに必要な学修等を考慮して，単位数を定めることができる。

第26条の２　各授業科目の授業は，原則として15週にわたる期間を単位として行うものと

する。ただし，教育上必要があり，かつ，十分な教育効果をあげることができると教授会が認める場合は，この限りでない。

第27条　授業科目を履修し，その試験に合格した者には所定の単位を与える。

第28条　試験は100点を満点とし，60点以上を合格とする。

第29条　本学において教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法及び同法施行規則に定める単位を修得しなければならない。

２　本学各学部において取得できる教育職員免許状の種類は，次のとおりとする。

学部	学科・課程	教科	免許状の種類
文学部	真宗学科	宗教	中学校教諭一種免許状
	仏教学科		高等学校教諭一種免許状
	哲学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
	歴史学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
	日本語日本文学科	国語	中学校教諭一種免許状
			高等学校教諭一種免許状
	英語英米文学科	英語	中学校教諭一種免許状
			高等学校教諭一種免許状
経済学部	現代経済学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
	国際経済学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
経営学部	経営学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
		商業	
	商学科	商業	
法学部	法律学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状

		公民	
社会学部	総合社会学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
政策学部	政策学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
国際学部	国際文化学科	英語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	グローバルスタディーズ学科	英語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
農学部	生命科学科	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
		農業	高等学校教諭一種免許状
	農学科	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
		農業	高等学校教諭一種免許状
	食品栄養学科	栄養教諭一種免許状	
	食料農業システム学科	農業	高等学校教諭一種免許状
先端理工学部	数理・情報科学課程	数学	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
		情報	高等学校教諭一種免許状
	知能情報メディア課程	情報	高等学校教諭一種免許状
	電子情報通信課程	工業	高等学校教諭一種免許状
	機械工学･ロボティクス課程	工業	高等学校教諭一種免許状
	応用化学課程	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	環境科学課程	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
心理学部	心理学科	公民	高等学校教諭一種免許状

第29条の２　削除

第２節　開設科目

第30条　本学各学部で開設する授業科目及び単位数は，別表１のとおりとする。

第30条の２　経済学部，経営学部，法学部，社会学部及び政策学部において，学部共通コース科目として開設する授業科目及び単位数は，別表２のとおりとする。

第31条　本学において，日本語及び日本事情に関する科目として開設する授業科目及び単位数は，別表３のとおりとする。

第32条　本学において，教育職員免許状取得に関する科目として開設する授業科目は，別表４のとおりとする。

２　削除

第33条　文学部，国際学部，農学部及び先端理工学部において，博物館学芸員資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表６のとおりとする。

第33条の２　本学において，本願寺派教師資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表７のとおりとする。

第33条の３　削除

第33条の４　削除

第33条の５　削除

第33条の６　本学において，図書館司書資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表10のとおりとする。

第33条の７　本学において，学校図書館司書教諭資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表11のとおりとする。

第33条の８　農学部食品栄養学科において，栄養士資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表12のとおりとする。

第33条の９　農学部食品栄養学科において，管理栄養士受験資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表13のとおりとする。

第33条の10　農学部食品栄養学科において，食品衛生管理者及び食品衛生監視員資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表14のとおりとする。

第33条の11　社会学部総合社会学科において，社会福祉士受験資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表15のとおりとする。

第33条の12　社会学部総合社会学科において，精神保健福祉士受験資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表16のとおりとする。

第33条の13　心理学部において，公認心理師受験資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表17のとおりとする。

第３節　履修方法

第34条　本学各学部において，卒業の認定を受けるために必要な単位数は以下のとおりとする。

(1)　文学部

真宗学科　124単位以上

仏教学科　124単位以上

哲学科　124単位以上

歴史学科　124単位以上

日本語日本文学科　124単位以上

英語英米文学科　124単位以上

(2)　経済学部

現代経済学科　124単位以上

国際経済学科　124単位以上

(3)　経営学部

経営学科　125単位以上

商学科　125単位以上

(4)　法学部

法律学科　124単位以上

(5)　社会学部

総合社会学科　124単位以上

(6)　政策学部

政策学科　124単位以上

(7)　国際学部

国際文化学科　124単位以上

グローバルスタディーズ学科　124単位以上

(8)　農学部

生命科学科　124単位以上

農学科　124単位以上

食品栄養学科　124単位以上

食料農業システム学科　124単位以上

(9)　先端理工学部

数理・情報科学課程　124単位以上

知能情報メディア課程　124単位以上

電子情報通信課程　124単位以上

機械工学・ロボティクス課程　124単位以上

応用化学課程　124単位以上

環境科学課程　124単位以上

(10)　心理学部

心理学科　124単位以上

2　授業科目等の学修にあたっては,各学部教授会が定める教育課程に従い,履修すること。

3　履修しようとする授業科目については必ず履修登録をしなければならない。

4　国際学部グローバルスタディーズ学科については,本条第1項第7号に定める単位数に加え，別に定める英語運用能力測定テストの基準スコアを取得しなければならない。

第35条　開設科目について，学生の専攻との関係で，教授会が教育上有益であると認めるときは，当該授業科目の区分以外の区分に係る授業科目として履修させることがある。

第36条　教授会が教育上有益と認めるときは，他学部専攻科目を，当該学部専攻科目として履修させることができる。

2　教授会が必要と認めるときは,前項の規定とは別に他の学科･課程･専攻の専攻科目を,当該学科・課程・専攻の専攻科目として履修させることができる。

第37条　教授会が教育上有益と認めるときは，学生に他大学の授業を履修させることができる。

2　前項の規定により履修した授業科目について修得した単位については,教授会の議に基づき，第38条第2項の規定により認定した単位数と合わせて60単位を限度として認定する。

3　前項の規定は，第19条の2により学生が外国の大学等に留学する場合に準用する。

第38条　教授会が教育上有益と認めるときは，学生が入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）を本学において修得したものとして認定することができる。

2　前項の単位認定は，編入学の場合を除き，前条第1項及び第3項により認定した単位と合わせて60単位を限度として認定する。

3　前2項の既修得単位の取扱いについては，別に定める。

第39条　第13条の規定により編入学した者が，編入学の条件となった学校において修得し

た単位は，本学において修得したものとして認定することができる。

２　前項の規定において，認定すべき授業科目，単位数等必要な事項はそのつど教授会が個別に定める。

第40条　本節に規定するほか授業科目の配当年次等，履修すべき科目等履修に必要な事項は，各学部履修要項で定める。

第41条　削除

第42条　削除

第43条　削除

第44条　削除

第45条　削除

第46条　削除

第47条　削除

第48条　削除

第49条　削除

第50条　削除

第51条　削除

第52条　削除

第53条　削除

第４章　外国人留学生・科目等履修生等

第54条　外国人で，大学において教育を受ける目的をもって入国し，本学に入学を志願する者があるときは，選考のうえ，外国人留学生として入学を許可することができる。

第55条　削除

第56条　本学以外の機関等の長で，その職員等を本学に派遣して特定の事項について研修又は研究させることを希望する者のある時は,受託研修員又は受託研究員として入学を許可することがある。

第56条の２　本学において，特定の事項について研究することを志願する者があるときは,学術研究生として入学を許可することがある。

第57条　削除

第58条　削除

第58条の２　一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは，科目等履修生として履修を許可することがある。

２　科目等履修生に対し，学則第27条の規定を準用し単位を認定する。

第59条　他の大学の学生で，本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは，当該他大学との協議に基づき，科目等特別履修生として履修を許可することがある。

第60条　外国人留学生，受託研修員，受託研究員，学術研究生，科目等履修生及び科目等特別履修生については，別に定める。

第５章　公開講座

第61条　教授会で必要と認めたときは公開講座を開設する。ただし，公開講座規程は別にこれを定める。

第６章　職員組織

第62条　本学に学長，事務局長，副学長，学部長及び総務局長を置く。

２　学長は，校務をつかさどり，所属職員を統督する。

第62条の２　本学に専任の教育職員（教授，准教授，講師，助教及び助手），事務職員（事務員，医務員，技能員，守衛及び用務員）及び学医を置く。

２　事務組織に関する規程は別に定める。

第７章　教授会・評議会・事務協議機関

第63条　教授会は各学部に置き，専任の教授，准教授，講師，助教，助手をもって組織する。ただし，教授会の議により構成員を変更することができる。

第64条　教授会は次の各号を審議決定する。ただし，全学的に決定を要する事項を除く。

(1)　学生の入学，卒業及び課程の修了

(2)　学位の授与

(3)　前２号に掲げるもののほか，教育研究に関する重要な事項で，教授会の審議決定が必要なものとして学長が定めるもの

２　前項第３号に基づく事項は，次のとおりとする。

(1)　教育職員の人事に関する事項

(2)　学部長及び評議員の選考に関する事項

(3)　研究及び教授に関する事項

(4)　教育課程の編成，履修の方法及び試験に関する事項

(5)　学業評価に関する事項

(6)　学生の退学，休学，復学及び留学に関する事項

(7)　学生の補導厚生に関する事項

(8)　学部内諸規程の制定改廃に関する事項

(9)　学位称号に関する事項

(10)　その他学部における重要な事項

3　教授会は，前２項に規定するもののほか，学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項並びに学長から諮問された事項について，審議決定することができる。

第65条　評議会は，学長，事務局長，副学長，総務局長，学部長，学長室長，各学部の教授会から選出された者各２名及び事務職員の中から選出された者11名をもって構成する。

第66条　前条に規定する役職者以外の評議員の任期は２年とする。ただし，重任を妨げない。

第67条　評議会は，次の各号の事項を審議決定する。

(1)　学長の選考基準に関する事項

(2)　学則の改正及び大学内規の制定改廃に関する事項

(3)　学部，学科・課程その他重要な施設の設置廃止に関する事項

(4)　学部，その他学内諸機関の連絡・調整に関する事項

(5)　職員の採用及び昇任についての基準に関する事項

(6)　職員の休職に関する事項

(7)　職員の定年に関する事項

(8)　職員の処分の審査に関する事項

(9)　名誉教授の承認に関する事項

(10)　給与に関する事項

(11)　予算・決算に関する事項

(12)　その他大学における重要事項

第68条　削除

第69条　事務協議機関は，事務遂行に必要な事項について協議する。

第８章　付属施設

第70条　本学に次の付属施設を置く。

(1)　図書館

(2)　世界仏教文化研究センター

(3)　社会科学研究所，科学技術共同研究センター，国際社会文化研究所，食と農の総合研究所

(4)　人間・科学・宗教総合研究センター

(5)　Ryukoku Extension Center

(6)　龍谷ミュージアム

(7)　診療所

２　前項付属施設に関する規程は別に定める。

付　則

第71条　省略

付　則（昭和50年９月26日第４条改正）

この学則は，昭和51年度の入学生から適用する。

付　則（昭和51年２月23日第19条，第20条改正）

この学則は，昭和51年２月23日から施行する。

付　則（昭和51年３月24日第22条改正）

この学則は，昭和51年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定は，昭和49年度以前の入学者及び昭和50年度並びに昭和51年度の編入学者，転入学者には適用しない。

付　則（昭和51年３月９日第10条，第22条，第30条，第31条改正，第19条の２，第54条新設）

この学則は，昭和52年４月１日から施行する。

付　則（昭和53年３月24日第22条改正）

この学則は，昭和53年４月１日から施行する。

付　則（昭和54年２月９日第２節，第13条，第22条，第26条，第30条，第33条，第34条，第37条，第38条，第41条，第42条，第65条，第68条改正）

第１条　この学則は，昭和54年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定は，昭和54年度以降の入学者から適用する。

付　則（昭和55年４月１日第12条，第３節，第21条，第22条，第26条の２改正）

第１条　この学則は，昭和55年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定は，昭和49年度以前の入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和56年４月１日第12条，第18条，第22条，第37条，第41条改正，第18条の２新設）

第１条　この学則は，昭和56年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定は，昭和49年度以前の入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和57年４月１日第16条，第22条，第29条，第33条，第34条，第37条，第41条，第42条改正）

第１条　この学則は，昭和57年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定中昭和

49年度以前入学者の授業料及び昭和56年度以前入学者の施設費については，なお従前の規定を適用する。

2　第33条，第34条，第41条及び第42条の改正規定は，昭和56年度以前の入学者については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和58年４月１日第４条，第18条，第22条，第22条の３，第27条，第30条，第33条，第34条，第37条，第38条，第41条，第42条改正，第27条の２新設）

この学則は，昭和58年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定は，昭和49年度以前入学生については，なお従前の規定を適用し，第30条第１項第３号及び第４号（宗教教育学，教育方法学を除く。），第33条第１項第３号，第34条第３号，第37条第１項第３号及び第４号，第38条第３号，第41条第１項第３号，第42条第３号の改正規定は，昭和57年度以前入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和59年４月１日第18条，第22条，第30条，第33条，第34条改正）

この学則は，昭和59年４月１日から施行する。ただし，第30条第１項第４号，同号オの（ア），第33条第１項第４号，第34条第４号の改正規定は，昭和58年度以前入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和60年４月１日第２条，第22条第１項，第41条第１項第４号，第42条第４号，第57条，第59条，第60条，第65条，第68条改正，第54条第２項追加）

第１条　この学則は，昭和60年４月１日から施行する。ただし，第２条第２項は，留学生別科設置認可の日（昭和59年12月20日）から適用する。

第２条　第41条第１項第４号及び第42条第４号の改正規定は，昭和58年度以後の入学者から適用する。

付　則（昭和60年６月27日第21条，第30条，第31条，第33条，第34条，第35条，第37条，第38条，第39条，第41条，第42条及び第43条改正）

第１条　この学則の第21条は，昭和60年６月27日から施行する。

第２条　この学則の第30条第１項第１号，第31条，第33条第１項第１号，第34条第１号，第35条，第37条第１項第１号，第38条第１号，第39条，第41条第１項第１号，第42条第１号及び第43条は，昭和61年４月１日より施行する。ただし，昭和60年度以前の入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和61年３月26日第22条，第30条，第33条，第34条，第37条，第38条，第41条，第42条，第65条及び第68条改正）

第１条　この学則は，昭和61年４月１日から施行する。

第２条　第４条の規定にかかわらず昭和61年度から昭和74年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
文学部	仏教学科	真宗学専攻	90人
		仏教学〃	90
	哲学科	哲学〃	50
		教育学〃	50
	史学科	国史学〃	50
		東洋史学〃	50
		仏教史学〃	50
	文学科	国文学〃	50
		英文学〃	50
	社会学科	社会学〃	60
		社会福祉学〃	60
	小計		650
経済学部経済学科			500
経営学部経営学科			500
法学部法律学科			500
合計			2,150

２　前項の規定については，前条の規定にかかわらず期間付入学定員関係学則の変更が，文部大臣により認可された日（昭和60年12月25日）から施行する。

第３条　第30条第１項第３号，第33条第１項第３号，第34条第１項，第34条第３号，第37条第１項第３号第４号，第38条第１項，第38条第３号，第41条第１項第３号，第42条第１項及び第42条第３号の改正規定は，昭和61年度入学生から適用する。

付　則（昭和61年７月31日第22条第１項改正）

第１条　この学則は，昭和61年７月31日から施行し，昭和62年度入学生から適用する。

第２条　昭和61年度以前の入学者については，なお従前の規定による。ただし，昭和62年度以降の授業料については，この改正規定を適用する。

付　則（昭和63年４月１日全部改正）

１　この学則は，昭和63年４月１日から施行する。

2　昭和62年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が決めるところにより，この学則に定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（抄）（平成元年４月１日第２条，第４条，第７条，第２章第３節，第22条，第３章，第29条，第31条～第34条，第４章，第56条，第60条，第62条，第63条，第70条，別表１～別表３，別表５～別表８，別表11改正，別表９，別表10新設）

1　この学則は，平成元年４月１日から施行する。

2　昭和63年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が決めるところにより，この学則に定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第４条の規定にかかわらず平成元年度から平成11年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
文学部	仏教学科	真宗学専攻	90名
		仏教学〃	90名
	哲学科	哲学〃	50名
		教育学〃	50名
	史学科	国史学〃	50名
		東洋史学〃	50名
		仏教史学〃	50名
	文学科	国文学〃	50名
		英文学〃	50名
	小計		530名
経済学部		経済学科	470名
経営学部		経営学科	470名
法学部		法律学科	480名
理工学部		数理情報学科	100名
		電子情報学科	80名
		機械システム工学科	80名
		物質化学科	80名

	小計	340名
社会学部	社会学科	120名
	社会福祉学科	80名
	小計	200名
合計		2,490名

付　則（平成２年３月27日第22条第１項，第29条，第32条，別表５～別表８，別表11改正，第29条の２，別表13新設）

１　この学則は，平成２年４月１日から施行する。

付　則（平成３年３月25日第22条，第29条第２項，別表１―１，別表２―１，別表３―１，別表４，別表５～別表８，別表10～別表11，別表13改正）

１　この学則は，平成３年４月１日から施行する。

２　平成２年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が決めるところにより，この学則に定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　第４条の規定にかかわらず平成３年度から平成11年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
文学部	仏教学科	真宗学専攻	120名
		仏教学〃	120名
	哲学科	哲学〃	90名
		教育学〃	90名
	史学科	国史学〃	80名
		東洋史学〃	80名
		仏教史学〃	80名
	文学科	国文学〃	100名
		英文学〃	100名
	小計		860名
経済学部		経済学科	600名
経営学部		経営学科	600名
法学部		法律学科	600名

理工学部	数理情報学科	115名
	電子情報学科	90名
	機械システム工学科	90名
	物質化学科	90名
	小計	385名
社会学部	社会学科	220名
	社会福祉学科	120名
	小計	340名
合計		3,385名

付　則（平成４年３月21日第２条第１項，第４条，第６条第１項，第６条第２項，第22条，第29条第２項，第34条第１項第１号，第65条，第70条第１項，別表４～別表８改正，第１条の２新設，第７条削除）

１　この学則は，平成４年４月１日から施行する。ただし，第６条第２項については，平成３年７月１日から施行する。

２　平成３年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が決めるところにより，この学則に定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　第６条第２項の規定は，学校教育法第68条の２第１項の改正により平成３年度以前の卒業生についても適用する。

４　第４条の規定にかかわらず平成４年度から平成11年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
文学部	真宗学科		120名
	仏教学科		120名
	哲学科	哲学専攻	90名
		教育学専攻	90名
	史学科	国史学専攻	80名
		東洋史学専攻	80名
		仏教史学専攻	80名
	日本語日本文学科		100名

	英語英米文学科	100名
	小計	860名
経済学部	経済学科	600名
経営学部	経営学科	600名
法学部	法律学科	450名
	政治学科	150名
	小計	600名
理工学部	数理情報学科	115名
	電子情報学科	90名
	機械システム工学科	90名
	物質化学科	90名
	小計	385名
社会学部	社会学科	220名
	社会福祉学科	120名
	小計	340名
合計		3,385名

付　則（平成４年５月25日第21条改正）

この学則は，平成４年５月25日から施行する。

付　則（平成５年３月25日第４条，第９条，第10条第２項，第21条，第22条，第25条第１項，第25条第２項，第26条，第26条の２，第30条～第36条，第38条第２項，第４章，第59条，第60条，別表１―１～別表13改正，第58条の２新設，第34条第３項追加）

1　この学則は，平成５年４月１日から施行する。

2　平成４年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成６年３月24日第22条第１項，第22条の３，第60条，第62条，第７章，第65条，第67条，第69条，別表１～別表８改正，第33条の２，第62条の２，別表11新設，第58条削除）

1　この学則は，平成６年４月１日から施行する。

2　第62条及び第65条の副学長に関する規定は，学校法人龍谷大学寄附行為の変更が文部大臣により認可された日（平成６年５月12日）から施行する。

3　平成５年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成７年３月27日第22条第１項，第22条の３，第25条第３項，第31条，別表１～別表７改正）

1　この学則は，平成７年４月１日から施行する。

2　平成６年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成８年３月25日第２条第１項，第４条，第22条第１項，第25条第１項，第30条～第33条の２，第34条第１項第１号及び同項第４号，第65条，別表１～別表５改正，別表７，別表８，別表11繰下・改正，別表９，別表10繰下，別表７新設，第34条第１項第７号追加）

1　この学則は，平成８年４月１日から施行する。

2　平成７年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第４条の規定にかかわらず平成８年度から平成11年度までの入学定員は，次のとおりとする。

	学部・学科等		入学定員
文学部	真宗学科		111名
	仏教学科		111名
	哲学科	哲学専攻	87名
		教育学専攻	87名
	史学科	国史学専攻	77名
		東洋史学専攻	77名
		仏教史学専攻	77名
	日本語日本文学科		96名
	英語英米文学科		97名

	小計	820名
経済学部	経済学科	560名
経営学部	経営学科	560名
法学部	法律学科	425名
	政治学科	135名
	小計	560名
理工学部	数理情報学科	115名
	電子情報学科	90名
	機械システム工学科	90名
	物質化学科	90名
	小計	385名
社会学部	社会学科	220名
	社会福祉学科	120名
	小計	340名
国際文化学部	国際文化学科	360名
合計		3,585名

付　則（平成９年３月25日第４条，第17条第１項，第22条第１項，第29条第２項，第33条，第34条第１項第１号～第３号，別表１～別表４，別表９，別表11，別表12改正，第２条の２，第36条の２新設，第68条削除）

１　この学則は，平成９年４月１日から施行する。

２　平成８年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　第４条の規定にかかわらず平成９年度から平成11年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科・専攻			入学定員	編入学定員	入学定員
			昼間・昼間主コース		夜間主コース
文学部	真宗学科		111名		60名
	仏教学科		111名		60名
	哲学	哲学専攻	87名		15名

	科	教育学専攻	87名		15名
	史学科	国史学専攻	77名		15名
		東洋史学専攻	77名		15名
		仏教史学専攻	77名		15名
	日本語日本文学科		96名		20名
	英語英米文学科		97名		20名
	小計		820名		235名
経済学部		経済学科	560名		100名
経営学部		経営学科	560名		100名
法学部	法律学科		425名		
	政治学科		135名		
	小計		560名		
理工学部	数理情報学科		115名		
	電子情報学科		90名		
	機械システム工学科		90名		
	物質化学科		90名		
	小計		385名		
社会学部	社会学科		220名		
	社会福祉学科		120名		
	小計		340名		
国際文化学部		国際文化学科	360名	50名	
合計			3,585名	50名	435名

付　則（平成10年３月26日第２条第１項，第４条，第22条第１項，第29条第２項，第34条第１項第６号，別表５，別表６，別表９，別表10改正）

１　この学則は平成10年４月１日から施行する。

２　平成９年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　第４条の規定にかかわらず平成10年度から平成11年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科・専攻			入学定員	編入学定員	入学定員
			昼間・昼間主コース		夜間主コース
文学部	真宗学科		111名		60名
	仏教学科		111名		60名
	哲学科	哲学専攻	87名		15名
		教育学専攻	87名		15名
	史学科	国史学専攻	77名		15名
		東洋史学専攻	77名		15名
		仏教史学専攻	77名		15名
	日本語日本文学科		96名		20名
	英語英米文学科		97名		20名
	小計		820名		235名
経済学部		経済学科	560名		100名
経営学部		経営学科	560名		100名
法学部		法律学科	425名		
		政治学科	135名		
		小計	560名		
理工学部	数理情報学科		115名		
	電子情報学科		90名		
	機械システム工学科		90名		
	物質化学科		90名		
	小計		385名		
社会学部	社会学科		220名	30名	
	地域福祉学科		140名	30名	
	臨床福祉学科		130名	30名	
	小計		490名	90名	
国際文化学部		国際文化学科	360名	50名	
計			3,735名	140名	435名

付　則（平成11年３月25日第22条第１項，別表２，別表４，別表５改正，第33条の３，別表13新設）

1　この学則は平成11年４月１日から施行する。

2　平成10年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成12年３月23日第６条第１項，第22条第１項，第34条第１項第６号，第37条第１項，第37条第２項，第38条第２項，別表３～別表７，別表９，別表10改正）

1　この学則は，平成12年４月１日から施行する。

2　平成11年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第６条の改正規定は，短期大学，高等専門学校及び専修学校専門課程からの編入学者には適用しない。また，再入学者及び転入学者で，平成12年３月31日以前の期間が，本学の修業年限に通算される者には適用しない。

4　第37条第２項及び第38条第２項の改正規定は，教授会が認めた場合に限って，平成11年度以前の入学生に対しても適用できるものとする。

5　第４条の規定にかかわらず平成12年度から平成16年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科・専攻			昼間・昼間主コース						夜間主コース
			入学定員					編入学定員	入学定員
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度		
文学部	真宗学科		111名	91名	91名	91名	91名		60名
	仏教学科		111名	91名	91名	91名	91名		60名
	哲学科	哲学専攻	87名	72名	72名	57名	57名		15名
		教育学専攻	87名	72名	72名	57名	57名		15名
	史学科	国史学専攻	77名	62名	62名	52名	52名		15名
		東洋史学専攻	77名	62名	62名	52名	52名		15名
		仏教史学専攻	77名	62名	62名	52名	52名		15名
	日本語日本文学科		96名	86名	86名	61名	61名		20名
	英語英米文学科		97名	87名	87名	62名	62名		20名
	小計		820名	685名	685名	575名	575名		235名

経済学部		経済学科	500名	500名	445名	445名	445名		100名
経営学部		経営学科	500名	500名	445名	445名	445名		100名
法学部		法律学科	380名	380名	340名	340名	340名		
		政治学科	120名	120名	110名	110名	110名		
		小計	500名	500名	450名	450名	450名		
理工学部	数理情報学科		115名	115名	115名	115名	107名		
	電子情報学科		90名	90名	90名	90名	85名		
	機械システム工学科		90名	90名	90名	90名	85名		
	物質化学科		90名	90名	90名	90名	85名		
	小計		385名	385名	385名	385名	362名		
社会学部	社会学科		220名	220名	220名	220名	155名	30名	
	地域福祉学科		140名	140名	140名	140名	120名	30名	
	臨床福祉学科		130名	130名	130名	130名	115名	30名	
	小計		490名	490名	490名	490名	390名	90名	
国際文化学部		国際文化学科	360名	360名	360名	360名	360名	50名	
合計			3,555名	3,420名	3,260名	3,150名	3,027名	140名	435名

付　則（平成13年３月23日第２条の２第１項及び同条第２項，第４条，第12条第３号～第６号，第13条第１項及び同条第２項，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第34条第１項第３号，第36条第１項及び同条第２項，第36条の２，第70条第１項第１号，別表１～別表７，別表９，別表10，別表12改正，第33条の４，別表14新設，第13条第３項追加）

1　この学則は，平成13年４月１日から施行する。

2　平成12年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　経営学部夜間主コース在学生の学費については，第22条夜間主コースを適用する。

4　第29条第２項の理工学部数理情報学科，電子情報学科の高等学校一種免許状「情報」については，平成12年度入学生から適用する。

5　第４条の規定にかかわらず平成13年度から平成16年度までの入学定員は，次のとおり

とする。

学部・学科・専攻			昼間・昼間主コース					夜間主コース
			入学定員				編入学定員	入学定員
			平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度		
文学部	真宗学科		91名	91名	91名	91名		60名
	仏教学科		91名	91名	91名	91名		60名
	哲学科	哲学専攻	72名	57名	57名	57名		15名
		教育学専攻	72名	57名	57名	57名		15名
	史学科	国史学専攻	62名	52名	52名	52名		15名
		東洋史学専攻	62名	52名	52名	52名		15名
		仏教史学専攻	62名	52名	52名	52名		15名
	日本語日本文学科		86名	61名	61名	61名		20名
	英語英米文学科		87名	62名	62名	62名		20名
	小計		685名	575名	575名	575名		235名
経済学部		経済学科	445名	445名	445名	445名		100名
経営学部		経営学科	445名	445名	445名	445名		
法学部		法律学科	340名	340名	340名	340名		
		政治学科	110名	110名	110名	110名		
		小計	450名	450名	450名	450名		
理工学部	数理情報学科		115名	115名	115名	107名		
	電子情報学科		90名	90名	90名	85名		
	機械システム工学科		90名	90名	90名	85名		
	物質化学科		90名	90名	90名	85名		
	小計		385名	385名	385名	362名		
社会学部	社会学科		220名	220名	220名	155名	30名	
	地域福祉学科		140名	140名	140名	120名	30名	
	臨床福祉学科		130名	130名	130名	115名	30名	
	小計		490名	490名	490名	390名	90名	

国際文化学部	国際文化学科	360名	360名	360名	360名	50名	
合計		3,260名	3,150名	3,150名	3,027名	140名	335名

付　則（平成14年３月25日第22条第１項，第25条第１項，第38条第１項及び同条第２項，第70条第１項第４号及び同条同項第５号，別表１，別表３～別表７，別表９改正，第70条第１項第３号追加，第33条の３，別表13削除）

１　この学則は，平成14年４月１日から施行する。ただし，第70条第１項の改正規定は，人間・科学・宗教総合研究センター規程の施行日（平成13年９月27日）から適用する。

２　平成13年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　文学部夜間主コース生（平成13年度以前の入学者）及び経営学部夜間主コース在学生の学費については，第22条夜間主コース（経済学部）を適用する。

４　別表５（第30条関係）(2)の改正規定については，平成13年度入学生から適用する。

５　別表９（第32条関係）(5)の改正規定については，平成13年度入学生から適用する。

６　前項の規定にかかわらず平成14年４月１日現在理工学部に在籍する者が旧教育職員免許法によって教育職員免許状を取得する場合は，以下の表を適用する。

	授業科目	単位数
教職に関する科目	教育原論	4
	発達と教育	4
	教育制度論	2
	教育情報技術演習	1
	教育情報処理基礎講座	1
	数学科教育法	4
	工業科教育法	4
	理科教育法	4
	道徳教育の研究	2
	教育指導論Ⅰ	2
	教育指導論Ⅱ	2
	教育実践研究Ⅰ	1
	教育実践研究Ⅱ	2

	教育実践研究Ⅲ	2
	教育社会学	4
	同和教育論	2
教科に関する科目	職業指導	4

付　則（平成15年３月26日第２条第１項，第２条の２第１項及び同条第２項，第４条，第22条第１項及び同条第３項，第25条第１項，第29条第２項，第34条第１項第２号，同条同項第４号及び同条同項第５号，第36条の２，別表２～別表７，別表９，別表12改正，第33条の５，別表15新設，第22条第２項追加）

１　この学則は，平成15年４月１日から施行する。

２　平成14年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　経済学部夜間主コース及び経営学部夜間主コースについては，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

４　第22条の規定にかかわらず，平成14年度以前入学生の学費については，次のとおりとする。ただし，文学部社会人特別コース入学試験による入学生については，この限りではない。

①昼間・昼間主コース生

文学部夜間主コース生（平成14年度の入学者）

（単位：円）

	文学部 経済学部 経営学部 法学部 国際文化学部	理工学部	社会学部
入学金	200,000	200,000	200,000
授業料	731,000	949,000	731,000
実験実習料	―	143,600	35,900
施設費	200,000	280,000	200,000

②文学部夜間主コース生（平成13年度以前の入学者）

経済学部・経営学部の夜間主コース在学生

（単位：円）

入学金	50,000
授業料	657,000
施設費	180,000

5　第22条の規定にかかわらず，第２年次，第３年次又は第４年次に入学（編入学，転入学，再入学）する場合は，前項の規定を適用する。ただし，文学部夜間主コース（文学部社会人特別コース入学試験による入学生は除く）については，第２年次の場合は前項第１号を，第３年次，第４年次の場合は前項第２号を適用させる。

6　第34条第１項第４号の改正規定については，平成13年度入学生から適用させる。

7　第４条の規定にかかわらず平成15年度から平成16年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科・専攻			昼間・昼間主コース			夜間主コース
			入学定員		編入学定員	
			平成15年度	平成16年度		入学定員
文学部	真宗学科		91名	91名		60名
	仏教学科		91名	91名		60名
	哲学科	哲学専攻	57名	57名		15名
		教育学専攻	57名	57名		15名
	史学科	国史学専攻	52名	52名		15名
		東洋史学専攻	52名	52名		15名
		仏教史学専攻	52名	52名		15名
	日本語日本文学科		61名	61名		20名
	英語英米文学科		62名	62名		20名
	小計		575名	575名		235名
経済学部		経済学科	445名	445名		
経営学部		経営学科	445名	445名		
法学部		法律学科	340名	340名		
		政治学科	110名	110名		
		小計	450名	450名		

理工学部	数理情報学科		100名	100名		
	電子情報学科		80名	80名		
	機械システム工学科		80名	80名		
	物質化学科		80名	80名		
	情報メディア学科		80名	80名		
	環境ソリューション工学科		80名	80名		
	小計		500名	500名		
社会学部	社会学科		220名	155名	30名	
	地域福祉学科		140名	120名	30名	
	臨床福祉学科		130名	115名	30名	
	小計		490名	390名	90名	
国際文化学部		国際文化学科	360名	360名	50名	
合計			3,265名	3,165名	140名	235名

付　則（平成16年３月12日第２条第１項，第４条，第12条第１号，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第34条第１項第６号，別表１～別表７，別表９改正）

１　この学則は平成16年４月１日から施行する。

２　平成15年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　第22条の規定にかかわらず，平成14年度以前入学生の学費については，次のとおりとする。ただし，文学部社会人特別コース入学試験による入学生については，この限りではない。

①　昼間・昼間主コース生

文学部夜間主コース生（平成14年度の入学者）

（単位：円）

	文学部 経済学部 経営学部 法学部 国際文化学部	理工学部	社会学部
入学金	200,000	200,000	200,000

授業料	731,000	949,000	731,000
実験実習料	―	143,600	35,900
施設費	200,000	280,000	200,000

② 文学部夜間主コース生（平成13年度以前の入学者）

経済学部・経営学部の夜間主コース在学生

（単位：円）

入学金	50,000
授業料	657,000
施設費	180,000

4 第22条の規定にかかわらず，第３年次又は第４年次に入学（編入学，転入学，再入学）する場合は，前項の規定を適用する。ただし，文学部夜間主コース（文学部社会人特別コース入学試験による入学生は除く）については，第３年次の場合は前項第１号を，第４年次の場合は前項第２号を適用する。

5 前項の規定にかかわらず，再入学の場合，本学出身者（短期大学部出身者含む）が本学へ編入学する場合又は本学の学生が転学部，転学科及び転専攻する場合は，入学金全額を免除する。

付 則（平成17年３月25日第22条第２項，第22条の３，第65条，別表１，別表３～別表６，別表９改正）

1 この学則は平成17年４月１日から施行する。

2 平成16年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3 第22条の規定にかかわらず，平成14年度以前入学生の学費については，次のとおりとする。ただし，文学部社会人特別コース学生については，この限りではない。

①昼間・昼間主コース生

文学部夜間主コース生（平成14年度の入学者）

（単位：円）

	文学部 経済学部 経営学部 法学部 国際文化学部	理工学部	社会学部

授業料	731,000	949,000	731,000
実験実習料	―	143,600	35,900
施設費	200,000	280,000	200,000

②文学部夜間主コース生（平成13年度以前の入学者）

経済学部・経営学部の夜間主コース在学生

（単位：円）

授業料	657,000
施設費	180,000

4　第22条の規定にかかわらず，第４年次に再入学する場合は，前項の規定を運用する。ただし，文学部社会人特別コース学生はこの限りではない。

付　則（平成18年３月27日第２条第１項，第４条，第12条第６号～第８号，第29条第２項，第34条，別表１～別表７，別表９改正，第33条の６及び第33条の７新設，第12条第５号，別表16，別表17追加）

1　この学則は平成18年４月１日から施行する。

2　平成17年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　経済学部経済学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規程を適用する。

付　則（平成18年12月21日第62条の２第１項，第63条改正）

この学則は，平成19年４月１日から施行する。

付　則（平成19年３月27日第４条，第22条第１項及び同条第２項，第４節，第23条，第25条第１項，第29条第１項及び同条第２項，第33条，第33条の４，第34条第１項第１号，別表１～別表７，別表９，別表11，別表12改正，第23条第１号～第３号追加，第２条の２，第24条，第36条の２削除）

1　この学則は平成19年４月１日から施行する。

2　平成18年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　文学部昼間主コース及び夜間主コースについては，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（平成20年３月26日第４条，第25条，別表１～別表７，別表９改正，第２条の２新設，第３条第２項追加，第２条第２項削除）

1　この学則は平成20年４月１日から施行する。

2　平成19年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成21年３月26日第26条第１項第１号及び同条同項第２号，同条第２項，第34条第１項第３号，別表１～別表４，別表６，別表７改正，第26条第１項第３号追加）

1　この学則は平成21年４月１日から施行する。

2　平成20年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第34条第１項第３号の改正規定については，平成20年度入学生から適用する。

付　則（平成22年３月24日第２条の２第１項，第25条第２項及び同条第３項，第30条，第31条～第33条の２，第33条の４～第33条の７，第70条第１項第５号，別表１改正，別表８，別表11，別表12，別表14～17繰上，別表９，別表10繰上・改正，第30条の２，別表２新設，第25条第２項，第70条第１項第５号追加，別表２～別表７，別表13削除）

1　この学則は平成22年４月１日から施行する。

2　平成21年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成22年４月28日第21条改正）

この学則は平成22年５月20日から施行する。

付　則（平成23年３月28日第２条，第２条の２，第４条，第22条第１項及び同条第３項，第22条の３，第25条第１項及び同条第２項，第29条第２項，第30条の２，第34条第１項第４号，第65条，別表１～別表５，別表７改正，第34条第１項第８号追加，第22条第２項削除）

1　この学則は平成23年４月１日から施行する。

2　平成22年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　文学部社会人特別コースについては，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

4　文学部社会人特別コースの在学生の学費等については，次のとおりとする。

（単位：円）

授業料	施設費	休学在籍料
365,500	100,000	100,000

5　法学部政治学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規程を適用する。

付　則（平成24年３月26日第２条，第４条，第29条第２項，第34条第１項第１号，別表１，別表４，別表６，別表８，別表10改正，第29条の２，第32条第２項，別表５削除）

1　この学則は平成24年４月１日から施行する。

2　平成23年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　文学部史学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

4　経済学部については，変更後の規定にかかわらず，平成24年度の教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（平成25年３月25日第22条第１項，別表１，別表２改正）

1　この学則は，平成25年４月１日から施行する。

2　平成24年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第22条中の施設費にかかる改正規定については，平成25年度の編入学生から適用する。

付　則（平成25年５月27日第26条の２改正）

この学則は平成25年５月27日から施行し，平成25年４月１日から適用する。

付　則（平成26年３月28日第６条第１項，第34条第１項第５号，別表１，別表２改正）

1　この学則は平成26年４月１日から施行する。

2　平成25年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成26年３月28日第２条，第２条の２，第４条，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第33条の４，別表１，別表４，別表７改正，第33条の８，第33条の９，別表12，別表13新設，第34条第９号及び同条第10号追加）

この学則は，平成27年４月１日から施行する。

付　則（平成26年12月15日別表１改正）

この学則は，平成27年４月１日から施行する。

付　則（平成26年12月15日第２条，第４条，第29条第２項，第34条第１項第６号，別表１，別表４改正）

この学則は平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成27年３月25日第２条，第２条の２，第４条，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第33条の４，第34条第１項，第64条第１項，第70条第１項，別表１，別表２，別表４，別表７改正，第33条の10，別表14新設，第62条第２項，第64条第２項及び同条第３項追加）

1　この学則は平成27年４月１日から施行する。

2　平成26年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　国際文化学部については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（平成27年３月25日別表１，別表４改正，第33条の５，別表９削除）

この学則は，平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成27年３月25日別表１改正）

この学則は，平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成27年３月25日別表１改正）

この学則は，平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成27年４月20日第21条改正）

この学則は，制定日（平成27年４月20日）から施行する。

付　則（平成27年４月20日第４条改正）

この学則は，平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成27年12月10日第４条改正）

この学則は，平成29年４月１日から施行する。

付　則（平成28年３月23日第２条の２，第65条改正，付則（平成27年３月25日）旧第２項繰下，第33条の11，第33条の12，別表15，別表16新設，付則（平成27年３月25日）第２項追加）

1　この学則は，制定日（平成28年３月23日）から施行し，平成27年４月１日から適用する。

2　第33条の11の改正規定については，平成21年度以降の入学生及び編入学生から適用す

る。

3　第33条の12の改正規定については，平成24年度以降の入学生及び編入学生から適用する。

付　則（平成28年３月23日第２条，第２条の２，第４条，第２章第３節，第22条第１項，第22条の４，第29条第２項，第33条の11，第33条の12，第34条第１項第６号，別表１，別表４，別表15，別表16改正）

1　この学則は，平成28年４月１日から施行する。

2　平成27年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　平成27年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成29年３月22日第65条，別表１，別表２改正）

1　この学則は，平成29年４月１日から施行する。

2　平成28年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　平成28年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成30年３月22日第22条第２項，第25条第１項，第70条第１項第３号，別表１，別表２，別表４改正，第33条の13，別表17新設）

1　この学則は，平成30年４月１日から施行する。

2　平成29年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　平成29年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成30年３月22日第29条第２項，別表４改正）

この学則は平成31年４月１日から施行する。

付　則（平成30年12月20日第２条，第２条の２，第４条，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第33条の４，第34条第１項，第36条第１項及び同条第２項，第67条第１項第３号，別表１，別表４，別表７改正）

1　この学則は，平成32年４月１日から施行する。

2　理工学部数理情報学科，電子情報学科，機械システム工学科，物質化学科，情報メディア学科，環境ソリューション工学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（平成31年３月20日別表１，別表２，別表14改正，第34条第４項追加）

1　この学則は，平成31年４月１日から施行する。ただし，別表１政策学部開設科目（第30条関係）第１号中，特別講座に係る改正規定は，平成23年度入学生から適用する。

2　平成30年度以前の入学生については，前項ただし書きを除き，なお従前の規定による。

3　平成30年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成31年３月20日別表４改正）

この学則は平成31年４月１日から施行する。

付　則（平成31年３月20日第22条第１項改正）

1　この学則は，平成31年４月１日から施行する。

2　平成30年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

付　則（平成31年３月20日第４条改正）

この学則は，平成32年４月１日から施行する。

付　則（平成31年３月20日別表１，別表４改正，第13条の２新設）

この学則は，平成32年４月１日から施行する。

付　則（令和元年５月23日第４条改正）

この学則は，令和２年４月１日から施行する。

付　則（令和元年７月26日第22条第１項改正）

この学則は，令和２年４月１日から施行し，令和２年度入学生から適用する。

付　則（令和２年３月19日第２条の２，第29条第２項，第33条，別表１，別表２，別表４，別表６，別表15，別表16改正，第33条の14，別表18新設，別表５削除）

1　この学則は，令和２年４月１日から施行する。

2　令和元年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　令和元年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和３年３月16日別表１，別表２，別表７，別表15，別表16改正，第25条の２新設）

1　この学則は，令和３年４月１日から施行する。

2　令和２年度以前の入学生については，第25条の２の改正規定を除き，なお従前の規定による。

3　令和２年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和３年３月16日第４条改正）

この学則は，令和４年４月１日から施行する。

付　則（令和３年12月20日第33条，別表１改正，第33条の４，別表８削除）

1　この学則は，令和４年４月１日から施行する。

2　令和３年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　令和３年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和４年３月15日第29条第２項，第34条第４項，別表１，別表２，別表４改正，第18条の４新設，第13条の２削除）

1　この学則は，令和４年４月１日から施行する。

2　令和３年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　令和３年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和４年３月15日第２条，第４条，第22条第１項，第29条第２項，第34条第１項第８号，別表１改正）

1　この学則は，令和５年４月１日から施行する。

2　農学部植物生命科学科及び資源生物科学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（令和３年12月20日第２条及び第２条の２，第４条，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第33条の13，別表１，別表４，別表７，別表17改正，第34条第１項第10号追加）

1　この学則は，令和５年４月１日から施行する。

2　令和４年度以前の入学生については，なお従前の規程による。

3　文学部臨床心理学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（令和４年７月14日別表１改正）

1　この学則は，制定日（令和４年７月14日）から施行し，令和４年４月１日から適用する。

2　改正規定にかかわらず，令和３年度以前に修得した科目の名称は，なお従前の規定による。

付　則（令和５年３月22日第10条第１項第４号，第22条の３，第65条，別表１，別

表２，別表４改正，第10条第１項第５号及び同項第６号，第18条の３削除）

１　この学則は，令和５年４月１日から施行する。

２　令和４年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

３　令和４年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和６年３月27日第３節，第22条第１項，第22条の３，別表１及び別表２，別表４改正）

１　この学則は，令和６年４月１日から施行する。

２　令和５年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

３　令和５年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

４　第22条の３の改正規定は，令和５年度以前の入学生についても適用する。

付　則（令和６年３月27日第２条，第４条，第22条第１項，第29条第２項，第34条第１項第９号，別表１改正）

１　この学則は，令和７年４月１日から施行する。

２　令和６年度以前の入学生については，なお従前の規程による。

３　令和６年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

４　先端理工学部環境生態工学課程については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則(令和6年3月27日第2条，第4条，第22条第1項，第25条第2項，第29条第2項，第30条の2，第33条の11，第33条の12，第34条第1項第3号，同項第5号，別表1，別表2，別表4，別表7，別表15及び別表16改正，第33条の14，別表18削除)

１　この学則は，令和7年4月1日から施行する。

２　令和6年度以前の入学生については，なお従前の規程による。

３　令和6年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

４　社会学部社会学科，社会学部コミュニティマネジメント学科及び社会学部現代福祉学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

別表１

文学部開設科目（第30条関係）

(1)　教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3(A)	1
英語総合3(B)	1
英語総合4(A)	1
英語総合4(B)	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2
英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2
英語セミナーC2	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2
英語セミナーF1	2
英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
英語セミナーH1	2

英語セミナーH2	2
英語セミナーI1	2
英語セミナーI2	2
英語セミナーJ1	2
英語セミナーJ2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
ドイツ語ⅢC	1
ドイツ語ⅢD	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
フランス語ⅢC	1
フランス語ⅢD	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
中国語ⅢC	1
中国語ⅢD	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
スペイン語ⅢC	1
スペイン語ⅢD	1

コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
コリア語ⅢC	1
コリア語ⅢD	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
ドイツ語セミナーⅠC	2
ドイツ語セミナーⅠD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠC	2
フランス語セミナーⅠD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーⅠA	2
中国語セミナーⅠB	2
中国語セミナーⅠC	2
中国語セミナーⅠD	2
中国語セミナーⅡA	2

中国語セミナーⅡB	2	
中国語セミナーⅡC	2	
中国語セミナーⅡD	2	
中国語コミュニケーションⅠ	2	
中国語コミュニケーションⅡ	2	
スペイン語セミナーⅠA	2	
スペイン語セミナーⅠB	2	
スペイン語セミナーⅠC	2	
スペイン語セミナーⅠD	2	
スペイン語セミナーⅡA	2	
スペイン語セミナーⅡB	2	
スペイン語セミナーⅡC	2	
スペイン語セミナーⅡD	2	
スペイン語コミュニケーションⅠ	2	
スペイン語コミュニケーションⅡ	2	
コリア語セミナーⅠA	2	
コリア語セミナーⅠB	2	
コリア語セミナーⅠC	2	
コリア語セミナーⅠD	2	
コリア語セミナーⅡA	2	
コリア語セミナーⅡB	2	
コリア語セミナーⅡC	2	
コリア語セミナーⅡD	2	
コリア語コミュニケーションⅠ	2	
コリア語コミュニケーションⅡ	2	
海外中国語研修講座	2	
ポルトガル語Ⅰ	2	
ポルトガル語Ⅱ	2	
ポルトガル語ⅢA	2	
ポルトガル語ⅢB	2	
ロシア語Ⅰ	2	

ロシア語Ⅱ	2	
ロシア語ⅢA	2	
ロシア語ⅢB	2	
ラテン語Ⅰ	1	
ラテン語Ⅱ	1	
ギリシア語Ⅰ	1	
ギリシア語Ⅱ	1	
ペルシア語Ⅰ	2	
ペルシア語Ⅱ	2	
トルコ語Ⅰ	2	
トルコ語Ⅱ	2	
アラビア語Ⅰ	2	
アラビア語Ⅱ	2	
哲学入門	2	
哲学A	2	
哲学B	2	
倫理学入門	2	
倫理学A	2	
倫理学B	2	
クリティカル・シンキング	2	
論理学	2	
宗教学入門	4	
宗教の世界A	2	
宗教の世界B	2	
中国の思想A	2	
中国の思想B	2	
芸術の世界A	2	
芸術の世界B	2	
日本の文学A	4	
日本の文学B	4	
日本の文学C	2	

アジアの文学A	2	
アジアの文学B	2	
西洋の文学A	2	
西洋の文学B	2	
文章表現法A	2	
文章表現法B	2	
言語と文化	2	
歴史学入門	2	
日本の歴史A	4	
日本の歴史B	4	
日本の文化	4	
アジアの歴史A	4	
アジアの歴史B	4	
アジアの文化	2	
西洋の歴史A	4	
西洋の歴史B	2	
西洋の歴史C	2	
現代世界の歴史A	2	
現代世界の歴史B	2	
心理学	4	
心の科学A	2	
心の科学B	2	
応用心理学A	2	
応用心理学B	2	
教育学のすすめA	2	
教育学のすすめB	2	
現代社会と教育A	2	
現代社会と教育B	2	
教育原論A	2	
教育原論B	2	
学習・発達論A	2	

学習・発達論B	2	
人文科学セミナー	4	
大学論	2	
日本国憲法	2	
法学のすすめ	2	
政治学のすすめ	2	
社会学のすすめ	2	
地理学のすすめ	2	
経済学のすすめ	2	
経営学のすすめ	2	
国際学のすすめ	2	
文化人類学のすすめ	2	
社会調査のすすめ	2	
社会統計学のすすめ	2	
人権論A	2	
人権論B	2	
現代社会とメディア	2	
現代社会と福祉	2	
現代社会と法	2	
環境と社会	2	
平和学A	2	
ジェンダー論	2	
国際社会論	2	
現代社会の諸問題	2	
地域論	2	
企業と会計	2	
現代社会と労働	2	
社会思想史	2	
英語で学ぶ日本の社会A	2	
英語で学ぶ日本の社会B	2	
データサイエンス・AI入門	2	

数学入門	2	
数学への旅	2	
確率・統計入門	2	
微分と積分	4	
行列と行列式	4	
数理統計学	4	
数理と計算	2	
数学の世界	4	
数理と論証	2	
宇宙の科学Ⅰ	4	
宇宙の科学Ⅱ	2	
地球科学のすすめ	2	
地球科学	2	
物理科学の世界	4	
時間と空間の科学	2	
エネルギー入門	2	
自然科学史Ⅰ	2	
自然科学史Ⅱ	2	
科学論	2	
技術論	2	
平和学B	2	
里山学	2	
生物科学のすすめ	4	
生命科学のすすめ	2	
生命科学	2	
生態学のすすめ	4	
人類学のすすめ	4	
日本の自然	4	
生命誌	2	
植物の自然誌	2	
動物の自然誌	2	

民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4
野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
教養教育科目特別講義	4
特別講座	12
放送大学科目	4
English language （Ryukoku Intercultural Program）	12
Lecture （Ryukoku Intercultural Program）	6
Volunteer （Ryukoku Intercultural Program）	6

(2) 専攻科目

① 真宗学科

授業科目	単位数
真宗学概論A1	2
真宗学概論A2	2
真宗学の世界A	2
真宗学の世界B	2

真宗学概論B1	2
真宗学概論B2	2
浄土教理史A	2
浄土教理史B	2
真宗教学史A	2
真宗教学史B	2
真宗伝道学A	2
真宗伝道学B	2
真宗聖典学A	2
真宗聖典学B	2
浄土教概論	2
比較思想論	2
教理史特殊講義A1	2
教理史特殊講義A2	2
教理史特殊講義B1	2
教理史特殊講義B2	2
教学史特殊講義A1	2
教学史特殊講義A2	2
教学史特殊講義B1	2
教学史特殊講義B2	2
教義学特殊講義A1	2
教義学特殊講義A2	2
教義学特殊講義B1	2
教義学特殊講義B2	2
真宗文献特殊講義A	2
真宗文献特殊講義B	2
伝道学特殊講義A1	2
伝道学特殊講義A2	2
伝道学特殊講義B1	2
伝道学特殊講義B2	2
社会実践特殊講義A	2

社会実践特殊講義B	2
教理史講読A1	2
教理史講読A2	2
教理史講読B1	2
教理史講読B2	2
教理史講読C1	2
教理史講読C2	2
教学史講読A1	2
教学史講読A2	2
教学史講読B1	2
教学史講読B2	2
教義学講読A1	2
教義学講読A2	2
教義学講読B1	2
教義学講読B2	2
教義学講読C1	2
教義学講読C2	2
教義学講読D1	2
教義学講読D2	2
教義学講読E1	2
教義学講読E2	2
伝道学講読A1	2
伝道学講読A2	2
伝道学講読B1	2
伝道学講読B2	2
伝道学講読C1	2
伝道学講読C2	2
真宗学基礎演習ＩA	2
真宗学基礎演習ＩB	2
真宗学基礎演習ⅡA	2
真宗学基礎演習ⅡB	2

教理史演習ＩA	2
教理史演習ＩB	2
教学史演習ＩA	2
教学史演習ＩB	2
教義学演習ＩA	2
教義学演習ＩB	2
伝道学演習ＩA	2
伝道学演習ＩB	2
教理史演習ⅡA	2
教理史演習ⅡB	2
教学史演習ⅡA	2
教学史演習ⅡB	2
教義学演習ⅡA	2
教義学演習ⅡB	2
伝道学演習ⅡA	2
伝道学演習ⅡB	2
卒業論文	4
布教伝道論Ⅰ	2
布教伝道論Ⅱ	2
文書伝道論Ⅰ	2
文書伝道論Ⅱ	2
真宗教団史	4
哲学概論	2
宗教学概説A	2
宗教学概説B	2
宗教史A	2
宗教史B	2
キャリア形成論	2
放送大学科目	30
特別講座	30

② 仏教学科

授業科目	単位数
仏教学概論A1	2
仏教学概論A2	2
仏教学概論B1	2
仏教学概論B2	2
仏教聖典学概論A	2
仏教聖典学概論B	2
仏教文化学概論A	2
仏教文化学概論B	2
インド哲学概論A	2
インド哲学概論B	2
インド仏教教学史A	2
インド仏教教学史B	2
中国仏教教学史A	2
中国仏教教学史B	2
日本仏教教学史A	2
日本仏教教学史B	2
仏教学特殊講義A1	2
仏教学特殊講義A2	2
仏教学特殊講義B1	2
仏教学特殊講義B2	2
仏教学特殊講義C1	2
仏教学特殊講義C2	2
仏教学特殊講義D1	2
仏教学特殊講義D2	2
仏教学特殊講義E1	2
仏教学特殊講義E2	2
仏教学特殊講義F1	2
仏教学特殊講義F2	2
仏教学特殊講義G1	2
仏教学特殊講義G2	2

仏教学特殊講義H1	2
仏教学特殊講義H2	2
仏教学特殊講義I1	2
仏教学特殊講義I2	2
仏教学特殊講義J1	2
仏教学特殊講義J2	2
仏教学基礎演習A	2
仏教学基礎演習B	2
仏教学基礎演習C	2
仏教学基礎演習D	2
仏教漢文入門A	2
仏教漢文入門B	2
仏教学講読A1	2
仏教学講読A2	2
仏教学講読B1	2
仏教学講読B2	2
仏教学講読C1	2
仏教学講読C2	2
仏教学講読D1	2
仏教学講読D2	2
仏教学講読E1	2
仏教学講読E2	2
仏教学講読F1	2
仏教学講読F2	2
仏教学講読G1	2
仏教学講読G2	2
仏教学講読H1	2
仏教学講読H2	2
仏教学講読I1	2
仏教学講読I2	2
仏教学演習 I	4

仏教学演習Ⅱ	4
卒業論文	4
インドの仏教と文化A	2
インドの仏教と文化B	2
仏教と異思想A	2
仏教と異思想B	2
現代アジアの仏教と社会A	2
現代アジアの仏教と社会B	2
サンスクリット語仏典入門A1	2
サンスクリット語仏典入門A2	2
サンスクリット語仏典入門B1	2
サンスクリット語仏典入門B2	2
パーリ語仏典入門A	2
パーリ語仏典入門B	2
チベット語仏典入門A1	2
チベット語仏典入門A2	2
チベット語仏典入門B1	2
チベット語仏典入門B2	2
仏典情報研究論A	2
仏典情報研究論B	2
仏教美術（イコノロジー）入門A	2
仏教美術（イコノロジー）入門B	2
アジアの仏教と文化	2
日本の仏教と文化	2
仏教と日本の文化A	4
仏教と日本の文化B	2
仏教と日本の文化C	2
仏教と日本の文化D	2
仏教漢文の世界A	2
仏教漢文の世界B	2
古都の仏教	2

世界の仏教	2
仏教と人生の課題	2
哲学概論	2
宗教学概説A	2
宗教学概説B	2
宗教史A	2
宗教史B	2
キリスト教神学	2
キャリア形成論	2
放送大学科目	30
特別講座	30

③　哲学科

専攻	授業科目	単位数
哲学	哲学概論	2
	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	哲学特殊講義(A)A	2
	哲学特殊講義(A)B	2
	哲学特殊講義(B)A	2
	哲学特殊講義(B)B	2
	哲学特殊講義(C)A	2
	哲学特殊講義(C)B	2
	哲学特殊講義(D)A	2
	哲学特殊講義(D)B	2
	哲学特殊講義(E)A	2
	哲学特殊講義(E)B	2
	哲学基礎演習ＩA	2
	哲学基礎演習ＩB	2
	哲学基礎演習ⅡA	2

	哲学基礎演習ⅡB	2
	哲学講読A1	2
	哲学講読A2	2
	哲学講読B1	2
	哲学講読B2	2
	哲学講読C1	2
	哲学講読C2	2
	哲学講読D1	2
	哲学講読D2	2
	哲学講読E1	2
	哲学講読E2	2
	哲学講読F1	2
	哲学講読F2	2
	哲学講読G1	2
	哲学講読G2	2
	哲学講読H1	2
	哲学講読H2	2
	哲学講読I1	2
	哲学講読I2	2
	哲学講読J1	2
	哲学講読J2	2
	哲学演習ＩA	2
	哲学演習ＩB	2
	哲学演習ⅡA	2
	哲学演習ⅡB	2
	卒業論文	4
	古代哲学史	2
	中世哲学史	2
	近世哲学史A	2
	近世哲学史B	2

	現代哲学史	2
	科学哲学	2
	社会哲学	2
	現代倫理学特論	2
	美学概説	2
	キリスト教神学	2
	聖書研究	2
	論理学特論	2
	形而上学特論	2
	現代哲学特論	2
	社会学概説	4
	日本史A	2
	日本史B	2
	東洋史A	2
	東洋史B	2
	西洋史	4
	社会事業概説	4
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	地理学（地誌）	4
	法学概論	4
	政治学原理	4
	経済原論	4
	心理学概論	2
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	30
	特別講座	30
教育学	教育学概論	2
	教育制度論	2
	教育史（西洋）	2

	教育哲学	2
	教育史（日本）	2
	教育とジェンダー	2
	教育心理学	2
	特別支援教育論	2
	教育社会学概論	2
	教育学特殊講義(A)A	2
	教育学特殊講義(A)B	2
	教育学特殊講義(B)A	2
	教育学特殊講義(B)B	2
	教育学特殊講義(C)A	2
	教育学特殊講義(C)B	2
	教育学特殊講義(D)A	2
	教育学特殊講義(D)B	2
	教育学特殊講義(E)A	2
	教育学特殊講義(E)B	2
	教育学特殊講義(F)A	2
	教育学特殊講義(F)B	2
	教育学特殊講義(G)A	2
	教育学特殊講義(G)B	2
	教育学特殊講義(H)A	2
	教育学特殊講義(H)B	2
	教育学特殊講義(I)A	2
	教育学特殊講義(I)B	2
	教育学特殊講義(J)A	2
	教育学特殊講義(J)B	2
	教育学特殊講義(K)A	2
	教育学特殊講義(K)B	2
	教育学基礎演習ＩA	2
	教育学基礎演習ＩB	2

	教育学基礎演習ⅡA	2
	教育学基礎演習ⅡB	2
	教育学講読A1	2
	教育学講読A2	2
	教育学講読B1	2
	教育学講読B2	2
	教育学講読C1	2
	教育学講読C2	2
	教育学講読D1	2
	教育学講読D2	2
	教育学演習ⅠA	2
	教育学演習ⅠB	2
	教育心理学演習ⅠA	2
	教育心理学演習ⅠB	2
	教育学演習ⅡA	2
	教育学演習ⅡB	2
	教育心理学演習ⅡA	2
	教育心理学演習ⅡB	2
	卒業論文	4
	人間科学概論	2
	社会教育概論	4
	生涯学習概論	2
	社会教育論	2
	比較教育学	2
	異文化間教育学	2
	教育行政学A	2
	教育行政学B	2
	社会教育計画	4
	社会教育特講Ⅰ	4
	社会教育特講Ⅱ	4

	社会教育特講Ⅲ	4
	教育心理学研究法	2
	矯正教育論Ⅰ	2
	矯正教育論Ⅱ	2
	学習心理学	2
	発達心理学	2
	認知心理学	2
	心理学史	2
	現代社会論	4
	環境教育学	2
	共生教育学	2
	教育メディア論	2
	社会調査統計法	2
	経済原論	4
	法学概論	4
	政治学原理	4
	教育情報処理演習	2
	地理学（地誌）	4
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	日本史A	2
	日本史B	2
	東洋史A	2
	東洋史B	2
	西洋史	4
	社会学概説	4
	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	社会事業概説	4

	文化人類学概論	4
	キリスト教神学	2
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	30
	特別講座	30

④　歴史学科

専攻	授業科目	単位数
日本史学	史学概論A	2
	史学概論B	2
	史学概論C	2
	史学概論D	2
	史学概論E	2
	日本史概説ⅠA	2
	日本史概説ⅠB	2
	日本史概説ⅡA	2
	日本史概説ⅡB	2
	日本宗教史A	2
	日本宗教史B	2
	日本史学特殊講義(A)A	2
	日本史学特殊講義(A)B	2
	日本史学特殊講義(B)A	2
	日本史学特殊講義(B)B	2
	日本史学特殊講義(C)A	2
	日本史学特殊講義(C)B	2
	日本史学特殊講義(D)A	2
	日本史学特殊講義(D)B	2
	日本史学特殊講義(E)A	2
	日本史学特殊講義(E)B	2
	日本史学特殊講義(F)A	2
	日本史学特殊講義(F)B	2

	日本史学特殊講義(G)A	2
	日本史学特殊講義(G)B	2
	日本史学特殊講義(H)A	2
	日本史学特殊講義(H)B	2
	日本史学特殊講義(I)A	2
	日本史学特殊講義(I)B	2
	日本史学特殊講義(J)A	2
	日本史学特殊講義(J)B	2
	日本史学特殊講義(K)A	2
	日本史学特殊講義(K)B	2
	日本史学講読A1	2
	日本史学講読A2	2
	日本史学講読B1	2
	日本史学講読B2	2
	日本史学講読C1	2
	日本史学講読C2	2
	日本史学講読D1	2
	日本史学講読D2	2
	日本史学講読E1	2
	日本史学講読E2	2
	日本史学講読F1	2
	日本史学講読F2	2
	日本史学講読G1	2
	日本史学講読G2	2
	日本史学講読H1	2
	日本史学講読H2	2
	日本史学基礎演習ⅠA	2
	日本史学基礎演習ⅠB	2
	日本史学基礎演習ⅡA	2
	日本史学基礎演習ⅡB	2

	日本史学演習Ⅰ	4
	日本史学演習Ⅱ	4
	卒業論文	4
	日本文化史Ⅰ	2
	日本文化史Ⅱ	2
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	地理学（地誌）	4
	歴史地理学	4
	考古学（日本）A	2
	考古学（日本）B	2
	民俗学（日本）A	2
	民俗学（日本）B	2
	美術史（日本）A	2
	美術史（日本）B	2
	史料学（日本）A	2
	史料学（日本）B	2
	古文書学A	2
	古文書学B	2
	古文書学入門A	2
	古文書学入門B	2
	社会事業史	4
	西洋史	4
	法学概論	4
	政治学原理	4
	経済原論	4
	東洋史A	2
	東洋史B	2
	社会学概説	4
	倫理学概論	2

	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	30
	特別講座	30
東洋史学	史学概論A	2
	史学概論B	2
	史学概論C	2
	史学概論D	2
	史学概論E	2
	東洋史概説Ⅰ	4
	東洋史概説Ⅱ	4
	インド仏教史A	2
	インド仏教史B	2
	西域仏教史A	2
	西域仏教史B	2
	中国仏教史A	2
	中国仏教史B	2
	東洋史学特殊講義(A)A	2
	東洋史学特殊講義(A)B	2
	東洋史学特殊講義(B)A	2
	東洋史学特殊講義(B)B	2
	東洋史学特殊講義(C)A	2
	東洋史学特殊講義(C)B	2
	東洋史学特殊講義(D)A	2
	東洋史学特殊講義(D)B	2
	東洋史学特殊講義(E)A	2
	東洋史学特殊講義(E)B	2
	東洋史学特殊講義(F)A	2
	東洋史学特殊講義(F)B	2

	東洋史学特殊講義(G)A	2
	東洋史学特殊講義(G)B	2
	東洋史学特殊講義(H)A	2
	東洋史学特殊講義(H)B	2
	東洋史学講読(A)	4
	東洋史学講読(B)	4
	東洋史学講読(C)A	2
	東洋史学講読(C)B	2
	東洋史学講読(D)A	2
	東洋史学講読(D)B	2
	東洋史学講読(E)A	2
	東洋史学講読(E)B	2
	東洋史学講読(H)	4
	東洋史学講読(I)A	2
	東洋史学講読(I)B	2
	東洋史学文献読解入門A	2
	東洋史学文献読解入門B	2
	東洋史学基礎演習Ⅰ	4
	東洋史学基礎演習Ⅱ	4
	東洋史学演習Ⅰ	4
	東洋史学演習Ⅱ	4
	卒業論文	4
	西洋史	4
	中国文化史Ⅰ	2
	中国文化史Ⅱ	2
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	考古学（アジア）A	2
	考古学（アジア）B	2
	民俗学（アジア）A	2

	民俗学（アジア）B	2
	美術史（アジア）A	2
	美術史（アジア）B	2
	史料学（アジア）A	2
	史料学（アジア）B	2
	文化人類学概論	4
	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	地理学（地誌）	4
	日本史A	2
	日本史B	2
	法学概論	4
	政治学原理	4
	社会学概説	4
	経済原論	4
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	30
	特別講座	30
仏教史学	史学概論A	2
	史学概論B	2
	史学概論C	2
	史学概論D	2
	史学概論E	2
	仏教史概説A1	2
	仏教史概説A2	2
	仏教史概説B1	2
	仏教史概説B2	2
	仏教史学入門A	2
	仏教史学入門B	2

	仏教文化史概論A	2
	仏教文化史概論B	2
	インド仏教史A	2
	インド仏教史B	2
	西域仏教史A	2
	西域仏教史B	2
	中国仏教史A	2
	中国仏教史B	2
	日本仏教史A1	2
	日本仏教史A2	2
	日本仏教史B1	2
	日本仏教史B2	2
	仏教美術史A	2
	仏教美術史B	2
	仏教史学特殊講義A1	2
	仏教史学特殊講義A2	2
	仏教史学特殊講義B1	2
	仏教史学特殊講義B2	2
	仏教史学特殊講義C1	2
	仏教史学特殊講義C2	2
	仏教史学特殊講義D1	2
	仏教史学特殊講義D2	2
	仏教史学特殊講義E1	2
	仏教史学特殊講義E2	2
	仏教史学特殊講義F1	2
	仏教史学特殊講義F2	2
	仏教史学特殊講義G1	2
	仏教史学特殊講義G2	2
	仏教史学特殊講義H1	2
	仏教史学特殊講義H2	2

	仏教史学特殊講義I1	2
	仏教史学特殊講義I2	2
	仏教史学講読A1	2
	仏教史学講読A2	2
	仏教史学講読B1	2
	仏教史学講読B2	2
	仏教史学講読C1	2
	仏教史学講読C2	2
	仏教史学講読D1	2
	仏教史学講読D2	2
	仏教史学講読E1	2
	仏教史学講読E2	2
	仏教史学講読F1	2
	仏教史学講読F2	2
	仏教史学講読G1	2
	仏教史学講読G2	2
	仏教史学講読H1	2
	仏教史学講読H2	2
	仏教史学基礎演習ＩA	2
	仏教史学基礎演習ＩB	2
	仏教史学基礎演習ⅡA	2
	仏教史学基礎演習ⅡB	2
	仏教史学演習ＩA	2
	仏教史学演習ＩB	2
	仏教史学演習ⅡA	2
	仏教史学演習ⅡB	2
	卒業論文	4
	西洋史	4
	人文地理学	4
	自然地理学	4

	地理学（地誌）	4
	真宗史A	2
	真宗史B	2
	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	日本史A	2
	日本史B	2
	東洋史A	2
	東洋史B	2
	法学概論	4
	政治学原理	4
	社会学概説	4
	経済原論	4
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	30
	特別講座	30
文化遺産学	文化遺産学基礎演習A	2
	文化遺産学基礎演習B	2
	文化遺産学基礎演習C	2
	文化遺産学基礎演習D	2
	文化遺産学演習ＩA	2
	文化遺産学演習ＩB	2
	文化遺産学演習ⅡA	2
	文化遺産学演習ⅡB	2
	卒業論文	4
	文化遺産学概論A	2
	文化遺産学概論B	2
	考古学実習	2
	文化遺産学概説	4

	文化財実習	2
	日本史概説ⅠA	2
	日本史概説ⅠB	2
	日本史概説ⅡA	2
	日本史概説ⅡB	2
	東洋史概説Ⅰ	4
	東洋史概説Ⅱ	4
	仏教史概説A1	2
	仏教史概説A2	2
	仏教史概説B1	2
	仏教史概説B2	2
	史学概論A	2
	史学概論B	2
	史学概論C	2
	史学概論D	2
	史学概論E	2
	文献史学特殊講義A	2
	文献史学特殊講義B	2
	考古学特殊講義A	2
	考古学特殊講義B	2
	美術史特殊講義A	2
	美術史特殊講義B	2
	文化財科学特殊講義A	2
	文化財科学特殊講義B	2
	文化財行政特殊講義A	2
	文化財行政特殊講義B	2
	古文書学講読A	2
	古文書学講読B	2
	文化財資料講読A	2
	文化財資料講読B	2

	日本考古学講読A	2
	日本考古学講読B	2
	文化財科学講読A	2
	文化財科学講読B	2
	建築史概論	2
	工芸史概論	2
	博物館概論	2
	生涯学習概論	2
	博物館経営論	2
	博物館資料論	2
	博物館資料保存論	2
	博物館展示論	2
	博物館情報・メディア論	2
	西洋史	4
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	歴史地理学	4
	地理学（地誌）	4
	社会学概説	4
	経済原論	4
	法学概論	4
	政治学原理	4
	哲学概論	2
	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	8
	特別講座	30

⑤　日本語日本文学科

授業科目	単位数
日本文学概論A	2
日本文学概論B	2
日本語学概論A	2
日本語学概論B	2
日本文学史（古典）A	2
日本文学史（古典）B	2
日本文学史（近代）A	2
日本文学史（近代）B	2
情報出版学概論A	2
情報出版学概論B	2
日本語教育概論A	2
日本語教育概論B	2
古典文学特殊講義(A)A	2
古典文学特殊講義(A)B	2
古典文学特殊講義(B)A	2
古典文学特殊講義(B)B	2
古典文学特殊講義(C)A	2
古典文学特殊講義(C)B	2
古典文学特殊講義(D)A	2
古典文学特殊講義(D)B	2
古典文学特殊講義(E)A	2
古典文学特殊講義(E)B	2
古典文学特殊講義(F)A	2
古典文学特殊講義(F)B	2
近代文学特殊講義(A)A	2
近代文学特殊講義(A)B	2
近代文学特殊講義(B)A	2
近代文学特殊講義(B)B	2
近代文学特殊講義(C)A	2
近代文学特殊講義(C)B	2

情報出版学特殊講義(A)A	2
情報出版学特殊講義(A)B	2
情報出版学特殊講義(B)A	2
情報出版学特殊講義(B)B	2
情報出版学特殊講義(C)A	2
情報出版学特殊講義(C)B	2
情報出版学特殊講義(D)A	2
情報出版学特殊講義(D)B	2
日本語学特殊講義(A)A	2
日本語学特殊講義(A)B	2
日本語学特殊講義(B)A	2
日本語学特殊講義(B)B	2
日本語学特殊講義(C)A	2
日本語学特殊講義(C)B	2
日本語学特殊講義(D)A	2
日本語学特殊講義(D)B	2
古典文学講読(A)A	2
古典文学講読(A)B	2
古典文学講読(B)A	2
古典文学講読(B)B	2
古典文学講読(C)A	2
古典文学講読(C)B	2
古典文学講読(D)A	2
古典文学講読(D)B	2
近代文学講読(A)A	2
近代文学講読(A)B	2
近代文学講読(B)A	2
近代文学講読(B)B	2
近代文学講読(C)A	2
近代文学講読(C)B	2
情報出版学講読(A)A	2

情報出版学講読(A)B	2
情報出版学講読(B)A	2
情報出版学講読(B)B	2
情報出版学講読(C)A	2
情報出版学講読(C)B	2
日本語学講読(A)A	2
日本語学講読(A)B	2
日本語学講読(B)A	2
日本語学講読(B)B	2
日本語日本文学基礎演習A	2
日本語日本文学基礎演習B	2
日本語日本文学基礎演習C	2
日本語日本文学基礎演習D	2
古典文学演習ＩA	2
古典文学演習ＩB	2
近代文学演習ＩA	2
近代文学演習ＩB	2
情報出版学演習ＩA	2
情報出版学演習ＩB	2
日本語学演習ＩA	2
日本語学演習ＩB	2
古典文学演習Ⅱ	4
近代文学演習Ⅱ	4
情報出版学演習Ⅱ	4
日本語学演習Ⅱ	4
卒業論文	4
中国文学ＩA	2
中国文学ＩB	2
中国文学ⅡA	2
中国文学ⅡB	2
中国文学史A	2

中国文学史B	2
仏教文学A	2
仏教文学B	2
書道（書写を含む）A	2
書道（書写を含む）B	2
メディア論A	2
メディア論B	2
日本語教授法Ⅰ	2
日本語教授法Ⅱ	2
言語習得（発達）論A	2
言語習得（発達）論B	2
情報処理法Ⅰ	2
情報処理法Ⅱ	2
画像映像処理法Ⅰ	2
画像映像処理法Ⅱ	2
日本語教育実習A	1
日本語教育実習B	1
キャリア形成論	2
放送大学科目	30
特別講座	30

⑥　英語英米文学科

授業科目	単位数
英語圏文学概論A	2
英語圏文学概論B	2
英語学概論A	2
英語学概論B	2
英米文化概論A	2
英米文化概論B	2
英米文学特殊講義(A)A	2
英米文学特殊講義(A)B	2
英米文学特殊講義(B)A	2

英米文学特殊講義(B)B	2
英米文学特殊講義(C)A	2
英米文学特殊講義(C)B	2
英米文学特殊講義(D)A	2
英米文学特殊講義(D)B	2
英語学特殊講義(A)A	2
英語学特殊講義(A)B	2
英米文化特殊講義(A)A	2
英米文化特殊講義(A)B	2
英米文化特殊講義(B)A	2
英米文化特殊講義(B)B	2
英語英米文学基礎演習A	2
英語英米文学基礎演習B	2
英語英米文学基礎演習C	2
英語英米文学基礎演習D	2
English Listening A	1
English Listening B	1
English Academic Writing　ＩA	1
English Academic Writing　ＩB	1
英米文学講読(A)A	2
英米文学講読(A)B	2
英米文学講読(B)A	2
英米文学講読(B)B	2
英米文学講読(C)A	2
英米文学講読(C)B	2
英米文学講読(D)A	2
英米文学講読(D)B	2
英米文学講読(E)A	2
英米文学講読(E)B	2
英語学講読(A)A	2
英語学講読(A)B	2

英語学講読(B)A	2
英語学講読(B)B	2
英米文化講読(A)A	2
英米文化講読(A)B	2
英米文化講読(B)A	2
英米文化講読(B)B	2
英文学演習ＩA	2
英文学演習ＩB	2
米文学演習ＩA	2
米文学演習ＩB	2
英語学演習ＩA	2
英語学演習ＩB	2
英米文化演習ＩA	2
英米文化演習ＩB	2
英文学演習ⅡA	2
英文学演習ⅡB	2
米文学演習ⅡA	2
米文学演習ⅡB	2
英語学演習ⅡA	2
英語学演習ⅡB	2
英米文化演習ⅡA	2
英米文化演習ⅡB	2
卒業論文	4
英文学史A	2
英文学史B	2
米文学史A	2
米文学史B	2
英語発達史A	2
英語発達史B	2
英国文化史A	2
英国文化史B	2

米国文化史A	2
米国文化史B	2
言語学概論A	2
言語学概論B	2
英語音声学A	2
英語音声学B	2
Oral Communication IA	1
Oral Communication IB	1
Oral Communication ⅡA	1
Oral Communication ⅡB	1
Oral Communication ⅢA	1
Oral Communication ⅢB	1
English Academic Writing ⅡA	1
English Academic Writing ⅡB	1
英語圏文化論A	2
英語圏文化論B	2
イングリッシュ・レクチャーⅠ	2
イングリッシュ・レクチャーⅡ	2
国際文化交流研修	8
海外研修	4
English language （Ryukoku Intercultural Program）	10
Lecture （Ryukoku Intercultural Program）	4
Volunteer （Ryukoku Intercultural Program）	6
キャリア形成論	2
放送大学科目	30
特別講座	30

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

経済学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数

仏教の思想A	2	
仏教の思想B	2	
歎異抄の思想Ⅰ	2	
歎異抄の思想Ⅱ	2	
英語総合1(A)	1	
英語総合1(B)	1	
英語総合2(A)	1	
英語総合2(B)	1	
英語総合3(A)	1	
英語総合3(B)	1	
英語総合4(A)	1	
英語総合4(B)	1	
英語セミナーA1	2	
英語セミナーA2	2	
英語セミナーB1	2	
英語セミナーB2	2	
英語セミナーC1	2	
英語セミナーC2	2	
英語セミナーD1	2	
英語セミナーD2	2	
英語セミナーE1	2	
英語セミナーE2	2	
英語セミナーF1	2	
英語セミナーF2	2	
英語セミナーG1	2	
英語セミナーG2	2	
英語セミナーH1	2	
英語セミナーH2	2	
英語セミナーI1	2	
英語セミナーI2	2	
英語セミナーJ1	2	

英語セミナーJ2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
ドイツ語ⅢC	1
ドイツ語ⅢD	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
フランス語ⅢC	1
フランス語ⅢD	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
中国語ⅢC	1
中国語ⅢD	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
スペイン語ⅢC	1
スペイン語ⅢD	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1

コリア語ⅢC	1
コリア語ⅢD	1
ドイツ語セミナーＩA	2
ドイツ語セミナーＩB	2
ドイツ語セミナーＩC	2
ドイツ語セミナーＩD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーＩA	2
フランス語セミナーＩB	2
フランス語セミナーＩC	2
フランス語セミナーＩD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーＩA	2
中国語セミナーＩB	2
中国語セミナーＩC	2
中国語セミナーＩD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2

中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーⅠA	2
スペイン語セミナーⅠB	2
スペイン語セミナーⅠC	2
スペイン語セミナーⅠD	2
スペイン語セミナーⅡA	2
スペイン語セミナーⅡB	2
スペイン語セミナーⅡC	2
スペイン語セミナーⅡD	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
コリア語セミナーⅠA	2
コリア語セミナーⅠB	2
コリア語セミナーⅠC	2
コリア語セミナーⅠD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2
コリア語セミナーⅡC	2
コリア語セミナーⅡD	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2
コリア語コミュニケーションⅡ	2
海外中国語研修講座	2
ポルトガル語Ⅰ	2
ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2
ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2
ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
ラテン語Ⅰ	1

ラテン語Ⅱ	1
ギリシア語Ⅰ	1
ギリシア語Ⅱ	1
ペルシア語Ⅰ	2
ペルシア語Ⅱ	2
トルコ語Ⅰ	2
トルコ語Ⅱ	2
アラビア語Ⅰ	2
アラビア語Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
中国の思想A	2
中国の思想B	2
芸術の世界A	2
芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2

文章表現法A	2	
文章表現法B	2	
言語と文化	2	
歴史学入門	2	
日本の歴史A	4	
日本の歴史B	4	
日本の文化	4	
アジアの歴史A	4	
アジアの歴史B	4	
アジアの文化	2	
西洋の歴史A	4	
西洋の歴史B	2	
西洋の歴史C	2	
現代世界の歴史A	2	
現代世界の歴史B	2	
心理学	4	
心の科学A	2	
心の科学B	2	
応用心理学A	2	
応用心理学B	2	
教育学のすすめA	2	
教育学のすすめB	2	
現代社会と教育A	2	
現代社会と教育B	2	
教育原論A	2	
教育原論B	2	
学習・発達論A	2	
学習・発達論B	2	
人文科学セミナー	4	
大学論	2	
日本国憲法	2	

法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
現代社会の諸問題	2
地域論	2
企業と会計	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
データサイエンス・AI入門	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4
行列と行列式	4

数理統計学	4
数理と計算	2
数学の世界	4
数理と論証	2
宇宙の科学Ⅰ	4
宇宙の科学Ⅱ	2
地球科学のすすめ	2
地球科学	2
物理科学の世界	4
時間と空間の科学	2
エネルギー入門	2
自然科学史Ⅰ	2
自然科学史Ⅱ	2
科学論	2
技術論	2
平和学B	2
里山学	2
生物科学のすすめ	4
生命科学のすすめ	2
生命科学	2
生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2
動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4

野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
教養教育科目特別講義	4
特別講座	4
放送大学科目	4
English language （Ryukoku Intercultural Program）	12
Lecture （Ryukoku Intercultural Program）	6

(2) 専攻科目

① 現代経済学科

授業科目	単位数
現代と経済	2
ミクロ経済学入門Ⅰ	2
ミクロ経済学入門Ⅱ	2
マクロ経済学入門Ⅰ	2
マクロ経済学入門Ⅱ	2
統計学入門	2
経済社会論入門	2
経済数学	4
日本経済論	4
経済史	4

統計学	4	
ミクロ経済学A	2	
ミクロ経済学B	2	
マクロ経済学	4	
社会経済学	4	
財政学	4	
金融論	4	
経済政策	4	
国際経済学	4	
経済学史	4	
入門演習	2	
基礎演習Ⅰ	2	
基礎演習Ⅱ	2	
ゲーム理論	4	
経済成長と循環	2	
不確実性と情報の経済学	2	
行動経済学	2	
産業組織論	4	
ファイナンス理論	4	
企業金融論	4	
労働経済学	4	
ホスピタリティ・ビジネス論	2	
地域産業論A	2	
地域産業論B	2	
観光経済論	2	
サービス経済論A	2	
サービス経済論B	2	
中小企業論	2	
地域産業活性化プロジェクトⅠ	4	
地域産業活性化プロジェクトⅡ	2	
環境経済学	4	

総合政策論	4
公共経済学	4
社会政策A	2
社会政策B	2
租税論	2
都市経済学	2
NPO論	2
医療経済学	2
生活福祉論A	2
生活福祉論B	2
地方財政論	4
経済統計学	4
計量経済学A	2
計量経済学B	2
応用計量経済学	4
データサイエンス入門	4
データサイエンス	2
データ分析と問題解決	2
情報システム論	4
国際政治経済学	4
国際貿易政策	2
比較経済論A	2
比較経済論B	2
国際金融論	4
国際ビジネス論	2
中国経済論A	2
中国経済論B	2
ヨーロッパ経済論	4
アメリカ経済論	4
開発経済学A	2
開発経済学B	2

地域経済論	4
国際協力論	4
食・農・資源の経済論A	2
食・農・資源の経済論B	2
アジア経済論A	2
アジア経済論B	2
海外フィールド実習	4
アジア経済史	4
日本経済史A	2
日本経済史B	2
経済地理学A	2
経済地理学B	2
ヨーロッパ経済史	4
グローバル経済史A	2
グローバル経済史B	2
経済思想史	2
演習Ⅰ	2
演習Ⅱ	2
演習Ⅲ	2
演習Ⅳ（卒業研究含む）	6
経済英語Ⅰ	2
経済英語Ⅱ	2
経済英語Ⅲ	2
留学英語Ⅰ	4
留学英語Ⅱ	2
留学英語Ⅲ	4
留学英語Ⅳ	2
Business　Communication Ⅰ	2
Business　Communication Ⅱ	2
経済学の技法Ⅰ	2
経済学の技法Ⅱ	2

情報と経済	2	
社会調査の技法	2	
フィールドワークの技法	2	
簿記論Ⅰ	2	
簿記論Ⅱ	2	
経営学総論	4	
財務会計入門	2	
財務会計論	2	
商学総論	4	
中級商業簿記	2	
上級商業簿記	2	
工業簿記	2	
原価計算論	2	
政治学原理	4	
民法	2	
経済法	2	
行政法	4	
憲法	4	
労働法	2	
商法	2	
キャリア形成論Ⅰ	2	
キャリア形成論Ⅱ	2	
ファイナンシャル・プランニング入門Ⅰ	2	
ファイナンシャル・プランニング入門Ⅱ	2	
現代特別講義A	2	
現代特別講義B	2	
現代特別講義C	2	
現代特別講義D	2	
現代特別講義E	2	
現代特別講義F	2	
現代特別講義G	2	

現代特別講義H	2
現代特別講義I	2
現代特別講義J	4
現代特別講義K	4
国際特別講義A	4
国際特別講義B	2
選択特別講義A	2
選択特別講義B	2
選択特別講義C	2
選択特別講義D	2
選択特別講義E	2
選択特別講義F	2
放送大学科目	8
特別講座	24

② 国際経済学科

授業科目	単位数
現代と経済	2
ミクロ経済学入門Ⅰ	2
ミクロ経済学入門Ⅱ	2
マクロ経済学入門Ⅰ	2
マクロ経済学入門Ⅱ	2
統計学入門	2
経済社会論入門	2
経済数学	4
日本経済論	4
経済史	4
統計学	4
ミクロ経済学A	2
ミクロ経済学B	2
マクロ経済学	4
社会経済学	4

財政学	4
金融論	4
経済政策	4
国際経済学	4
経済学史	4
入門演習	2
基礎演習Ⅰ	2
基礎演習Ⅱ	2
国際政治経済学	4
国際貿易政策	2
比較経済論A	2
比較経済論B	2
国際金融論	4
国際ビジネス論	2
中国経済論A	2
中国経済論B	2
ヨーロッパ経済論	4
アメリカ経済論	4
開発経済学A	2
開発経済学B	2
地域経済論	4
国際協力論	4
食・農・資源の経済論A	2
食・農・資源の経済論B	2
アジア経済論A	2
アジア経済論B	2
海外フィールド実習	4
アジア経済史	4
日本経済史A	2
日本経済史B	2
経済地理学A	2

経済地理学B	2	
ヨーロッパ経済史	4	
グローバル経済史A	2	
グローバル経済史B	2	
経済思想史	2	
ゲーム理論	4	
経済成長と循環	2	
不確実性と情報の経済学	2	
行動経済学	2	
産業組織論	4	
ファイナンス理論	4	
企業金融論	4	
労働経済学	4	
ホスピタリティ・ビジネス論	2	
地域産業論A	2	
地域産業論B	2	
観光経済論	2	
サービス経済論A	2	
サービス経済論B	2	
中小企業論	2	
地域産業活性化プロジェクトⅠ	4	
地域産業活性化プロジェクトⅡ	2	
環境経済学	4	
総合政策論	4	
公共経済学	4	
社会政策A	2	
社会政策B	2	
租税論	2	
都市経済学	2	
NPO論	2	
医療経済学	2	

生活福祉論A	2
生活福祉論B	2
地方財政論	4
経済統計学	4
計量経済学A	2
計量経済学B	2
応用計量経済学	4
データサイエンス入門	4
データサイエンス	2
データ分析と問題解決	2
情報システム論	4
演習Ⅰ	2
演習Ⅱ	2
演習Ⅲ	2
演習Ⅳ（卒業研究含む）	6
経済英語Ⅰ	2
経済英語Ⅱ	2
経済英語Ⅲ	2
留学英語Ⅰ	4
留学英語Ⅱ	2
留学英語Ⅲ	4
留学英語Ⅳ	2
Business　Communication Ⅰ	2
Business　Communication Ⅱ	2
経済学の技法Ⅰ	2
経済学の技法Ⅱ	2
情報と経済	2
社会調査の技法	2
フィールドワークの技法	2
簿記論Ⅰ	2
簿記論Ⅱ	2

経営学総論	4	
財務会計入門	2	
財務会計論	2	
商学総論	4	
中級商業簿記	2	
上級商業簿記	2	
工業簿記	2	
原価計算論	2	
政治学原理	4	
民法	2	
経済法	2	
行政法	4	
憲法	4	
労働法	2	
商法	2	
キャリア形成論Ⅰ	2	
キャリア形成論Ⅱ	2	
ファイナンシャル・プランニング入門Ⅰ	2	
ファイナンシャル・プランニング入門Ⅱ	2	
現代特別講義A	2	
現代特別講義B	2	
現代特別講義C	2	
現代特別講義D	2	
現代特別講義E	2	
現代特別講義F	2	
現代特別講義G	2	
現代特別講義H	2	
現代特別講義I	2	
現代特別講義J	4	
現代特別講義K	4	
国際特別講義A	4	

国際特別講義B	2
選択特別講義A	2
選択特別講義B	2
選択特別講義C	2
選択特別講義D	2
選択特別講義E	2
選択特別講義F	2
放送大学科目	8
特別講座	24

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

経営学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3(A)	1
英語総合3(B)	1
英語総合4(A)	1
英語総合4(B)	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2
英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2

英語セミナーC2	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2
英語セミナーF1	2
英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
英語セミナーH1	2
英語セミナーH2	2
英語セミナーI1	2
英語セミナーI2	2
英語セミナーJ1	2
英語セミナーJ2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
ドイツ語ⅢC	1
ドイツ語ⅢD	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
フランス語ⅢC	1
フランス語ⅢD	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2

中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
中国語ⅢC	1
中国語ⅢD	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
スペイン語ⅢC	1
スペイン語ⅢD	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
コリア語ⅢC	1
コリア語ⅢD	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
ドイツ語セミナーⅠC	2
ドイツ語セミナーⅠD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠC	2
フランス語セミナーⅠD	2
フランス語セミナーⅡA	2

フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーⅠA	2
中国語セミナーⅠB	2
中国語セミナーⅠC	2
中国語セミナーⅠD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーⅠA	2
スペイン語セミナーⅠB	2
スペイン語セミナーⅠC	2
スペイン語セミナーⅠD	2
スペイン語セミナーⅡA	2
スペイン語セミナーⅡB	2
スペイン語セミナーⅡC	2
スペイン語セミナーⅡD	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
コリア語セミナーⅠA	2
コリア語セミナーⅠB	2
コリア語セミナーⅠC	2
コリア語セミナーⅠD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2

コリア語セミナーⅡC	2
コリア語セミナーⅡD	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2
コリア語コミュニケーションⅡ	2
海外中国語研修講座	2
ポルトガル語Ⅰ	2
ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2
ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2
ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
ラテン語Ⅰ	1
ラテン語Ⅱ	1
ギリシア語Ⅰ	1
ギリシア語Ⅱ	1
ペルシア語Ⅰ	2
ペルシア語Ⅱ	2
トルコ語Ⅰ	2
トルコ語Ⅱ	2
アラビア語Ⅰ	2
アラビア語Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2

宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
中国の思想A	2
中国の思想B	2
芸術の世界A	2
芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学入門	2
日本の歴史A	4
日本の歴史B	4
日本の文化	4
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学	4
心の科学A	2

心の科学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学のすすめA	2
教育学のすすめB	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
人文科学セミナー	4
大学論	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2

国際社会論	2	
現代社会の諸問題	2	
地域論	2	
現代社会と労働	2	
社会思想史	2	
英語で学ぶ日本の社会A	2	
英語で学ぶ日本の社会B	2	
データサイエンス・AI入門	2	
数学入門	2	
数学への旅	2	
確率・統計入門	2	
微分と積分	4	
行列と行列式	4	
数理統計学	4	
数理と計算	2	
数学の世界	4	
数理と論証	2	
宇宙の科学Ⅰ	4	
宇宙の科学Ⅱ	2	
地球科学のすすめ	2	
地球科学	2	
物理科学の世界	4	
時間と空間の科学	2	
エネルギー入門	2	
自然科学史Ⅰ	2	
自然科学史Ⅱ	2	
科学論	2	
技術論	2	
平和学B	2	
里山学	2	
生物科学のすすめ	4	

生命科学のすすめ	2
生命科学	2
生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2
動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4
野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
教養教育科目特別講義	2
English language （Ryukoku Intercultural Program）	12
Lecture （Ryukoku Intercultural Program）	6
Volunteer （Ryukoku Intercultural Program）	6

(2) 専攻科目

① 経営学科

授業科目	単位数
情報リテラシー	1
現代のビジネス	2
簿記入門	2
経営と情報	2
現代の企業会計	2
現代企業の成り立ち	2
現代社会と企業	2
経営とコンピュータ利用	2
マーケティングの基礎	2
企業の国際化	2
企業経営の管理	2
日本と世界の経済	2
初級商業簿記	2
経営管理論	2
経営戦略論	2
国際経営論	2
生産管理論	2
マーケティング論	2
マーケティング・リサーチ	2
人的資源管理論	2
組織行動論	2
経営組織論	2
商品学	2
商品開発論	2
経営学原理	2
中小企業経営論	2
ロジスティクス	2
国際経営戦略論	2
経営立地論	2

アジア企業経営論	2
経営意思決定論	2
経営思想を知る	2
財務会計入門	2
財務会計論	2
中級商業簿記	2
上級商業簿記	2
工業簿記	2
原価計算論	2
管理会計論	2
会計監査論	2
国際会計論	2
キャッシュフロー会計論	2
会計情報解読論	2
財務管理論	2
連結会計論	2
所得税法	2
法人税法	2
証券市場論	2
現代金融論	2
現代銀行論	2
株式会社論	2
企業統治論	2
企業倫理論	2
産業技術論	2
マクロ経済学	2
経済原論	2
経営史	2
流通システム論	2
日本経営史	2
日本経済論	2

多国籍企業論	2
国際比較経営史	2
国際比較社会論	2
国際比較経営論	2
国際流通論	2
中国ビジネス論	2
現代中国のビジネス	6
起業論A	2
起業論B	2
経営革新論	2
公共経営論	2
京都企業論	2
環境経営論	2
ものづくりの現場	2
地域と企業	4
民法	2
商法	2
会社法	2
労働法	2
経済法	2
経営データの分析A	2
経営データの分析B	2
経営情報システム論	2
プログラミングおよび実習A1	2
プログラミングおよび実習A2	2
プログラミングおよび実習B1	2
プログラミングおよび実習B2	2
経営情報活用論	2
意思決定の科学	2
地域企業論	2
経営学基礎論	2

ビジネスコミュニケーションA（英）	2
ビジネスコミュニケーションA（中国）	2
ビジネスコミュニケーションB（中国）	2
上級外国語A（ドイツ）	2
上級外国語B（ドイツ）	2
上級外国語C（ドイツ）	2
上級外国語D（ドイツ）	2
上級外国語A（フランス）	2
上級外国語B（フランス）	2
上級外国語C（フランス）	2
上級外国語D（フランス）	2
上級外国語A（中国）	2
上級外国語B（中国）	2
上級外国語C（中国）	2
上級外国語D（中国）	2
上級外国語A（スペイン）	2
上級外国語B（スペイン）	2
上級外国語C（スペイン）	2
上級外国語D（スペイン）	2
上級外国語A（コリア）	2
上級外国語B（コリア）	2
上級外国語C（コリア）	2
上級外国語D（コリア）	2
スポーツと経済	2
スポーツマネジメント論	2
スポーツ政策論	2
スポーツマーケティング論	2
特講・我が社の経営と京都	2
特講・映画・文化産業概論	2
特講・食農ビジネスのフロンティア	4
実践・グローバル時代の「多様性と調和」のマネジメント	2

実践・現場から学ぶ放送メディア論A	2
実践・現場から学ぶ放送メディア論B	4
実践・消費者問題を考える	2
実践・クリティカル・シンキング	2
実践・デジタルマーケティングの基礎	2
実践・プロジェクト演習	4
実践・社会課題発見演習	2
Global Understanding and Communication	4
京都市の産業と産業政策	2
フレッシャーズゼミ	2
基礎演習	4
演習	12
応用演習	2
協定特別演習Ⅰ	4
協定特別演習Ⅱ	4
協定特別演習Ⅲ	2
協定特別演習Ⅳ	2
特別講座	12
アジア政治論	4
中国政治論	2
アジア経済論A	2
アジア経済論B	2
中国経済論A	2
中国経済論B	2
国際金融論	4
ファイナンス理論	4
統計学	4
特別基礎演習	4
組織学習論	2
企業文明論	2
観光経営論	2

産業技術史	2
社会的企業論	2
ソーシャルマーケティング	2
キャリア実習・実習指導	2
キャリア実習・実習指導（大学コンソーシアム京都）	4

② 商学科

授業科目	単位数
情報リテラシー	1
社会調査入門	2
ベーシックアカウンティングⅠ	2
ベーシックマーケティング	2
ビジネスケーススタディA	2
ビジネスケーススタディB	2
プロジェクト入門	2
キャリア&ライフマネジメント	2
社会調査実践	2
フレッシャーズゼミ	2
アカデミックスキルズA	2
アカデミックスキルズB	2
ベーシックアカウンティングⅡ	2
流通システム論	2
ビジネスヒストリー入門	2
グローバルビジネスの基礎	2
ワークルール入門	2
プロジェクト実践	4
マーケティングリサーチ	2
コンテンツビジネス実践Ⅰ	2
起業家行動論	2
企業システム論	2
マーケティング論	2
消費者問題論	2

グローバルビジネス	2
ビジネスヒストリーA	2
経営立地論	2
ローカルビジネスのフロンティア	4
コンテンツビジネス実践Ⅱ	4
デザインマネジメント実践	4
社会データ分析	2
地域企業論	2
京都企業論	2
事業システム論	2
グローバルストラテジー	2
ソーシャルマーケティング	2
商品開発論	2
ビジネスヒストリーB	2
コンテンツビジネス論	2
食農ビジネスのフロンティア	4
地域と企業	4
京都企業の現場	2
デジタルマーケティング	2
空間データ分析	2
ケースで学ぶアカウンティング	2
ソーシャルビジネス論	2
グローバルマーケティング	2
ロジスティクス	2
中小企業経営論	2
地域資源論	2
ビジネスイノベーション	2
ケースで学ぶローカルファイナンス	2
アジア企業経営論	2
ケースで学ぶビジネスヒストリー	2
文献講読A	2

文献講読B	2
演習Ⅰ	4
演習Ⅱ（演習研究含む）	6
経営学基礎論	2
経営情報学Ⅰ	2
簿記入門	2
経営管理論	2
経営データ分析Ⅰ	2
初級商業簿記	2
財務諸表分析入門	2
経営意思決定論	2
経営情報システム論	2
中級商業簿記	2
財務会計入門	2
工業簿記	2
プログラミングⅠ	2
財務会計論	2
プログラミングⅡ	2
スポーツと経済	2
スポーツマネジメント論	2
スポーツ政策論	2
スポーツマーケティング論	2
Global Understanding and Communication	4
統計学	4
ファイナンス理論	4
アジア経済論A	2
アジア経済論B	2
中国経済論A	2
中国経済論B	2
国際金融論	4
商法	2

民法	2
会社法	2
労働法	2
経済法	2
中国政治論	2
アジア政治論	4
京都市の産業と産業政策	2
上級外国語A（ドイツ）	2
上級外国語B（ドイツ）	2
上級外国語C（ドイツ）	2
上級外国語D（ドイツ）	2
上級外国語A（フランス）	2
上級外国語B（フランス）	2
上級外国語C（フランス）	2
上級外国語D（フランス）	2
上級外国語A（中国）	2
上級外国語B（中国）	2
上級外国語C（中国）	2
上級外国語D（中国）	2
上級外国語A（スペイン）	2
上級外国語B（スペイン）	2
上級外国語C（スペイン）	2
上級外国語D（スペイン）	2
上級外国語A（コリア）	2
上級外国語B（コリア）	2
上級外国語C（コリア）	2
上級外国語D（コリア）	2
職業指導	4
キャリア実習・実習指導	2
キャリア実習・実習指導（大学コンソーシアム京都）	4

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他

の授業科目を設けることができる。

法学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3(A)	1
英語総合3(B)	1
英語総合4(A)	1
英語総合4(B)	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2
英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2
英語セミナーC2	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2
英語セミナーF1	2
英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
英語セミナーH1	2

英語セミナーH2	2
英語セミナーI1	2
英語セミナーI2	2
英語セミナーJ1	2
英語セミナーJ2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
ドイツ語ⅢC	1
ドイツ語ⅢD	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
フランス語ⅢC	1
フランス語ⅢD	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
中国語ⅢC	1
中国語ⅢD	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
スペイン語ⅢC	1
スペイン語ⅢD	1

コリア語Ⅰ	2	
コリア語Ⅱ	2	
コリア語ⅢA	1	
コリア語ⅢB	1	
コリア語ⅢC	1	
コリア語ⅢD	1	
ドイツ語セミナーⅠA	2	
ドイツ語セミナーⅠB	2	
ドイツ語セミナーⅠC	2	
ドイツ語セミナーⅠD	2	
ドイツ語セミナーⅡA	2	
ドイツ語セミナーⅡB	2	
ドイツ語セミナーⅡC	2	
ドイツ語セミナーⅡD	2	
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2	
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2	
フランス語セミナーⅠA	2	
フランス語セミナーⅠB	2	
フランス語セミナーⅠC	2	
フランス語セミナーⅠD	2	
フランス語セミナーⅡA	2	
フランス語セミナーⅡB	2	
フランス語セミナーⅡC	2	
フランス語セミナーⅡD	2	
フランス語コミュニケーションⅠ	2	
フランス語コミュニケーションⅡ	2	
中国語セミナーⅠA	2	
中国語セミナーⅠB	2	
中国語セミナーⅠC	2	
中国語セミナーⅠD	2	
中国語セミナーⅡA	2	

中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーⅠA	2
スペイン語セミナーⅠB	2
スペイン語セミナーⅠC	2
スペイン語セミナーⅠD	2
スペイン語セミナーⅡA	2
スペイン語セミナーⅡB	2
スペイン語セミナーⅡC	2
スペイン語セミナーⅡD	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
コリア語セミナーⅠA	2
コリア語セミナーⅠB	2
コリア語セミナーⅠC	2
コリア語セミナーⅠD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2
コリア語セミナーⅡC	2
コリア語セミナーⅡD	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2
コリア語コミュニケーションⅡ	2
海外中国語研修講座	2
ポルトガル語Ⅰ	2
ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2
ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2

ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
ラテン語Ⅰ	1
ラテン語Ⅱ	1
ギリシア語Ⅰ	1
ギリシア語Ⅱ	1
ペルシア語Ⅰ	2
ペルシア語Ⅱ	2
トルコ語Ⅰ	2
トルコ語Ⅱ	2
アラビア語Ⅰ	2
アラビア語Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
中国の思想A	2
中国の思想B	2
芸術の世界A	2
芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2

アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学入門	2
日本の歴史A	4
日本の歴史B	4
日本の文化	4
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学	4
心の科学A	2
心の科学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学のすすめA	2
教育学のすすめB	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2

学習・発達論B	2
人文科学セミナー	4
大学論	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会と福祉	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
現代社会の諸問題	2
地域論	2
企業と会計	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
データサイエンス・AI入門	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4
行列と行列式	4

数理統計学	4
数理と計算	2
数学の世界	4
数理と論証	2
宇宙の科学Ⅰ	4
宇宙の科学Ⅱ	2
地球科学のすすめ	2
地球科学	2
物理科学の世界	4
時間と空間の科学	2
エネルギー入門	2
自然科学史Ⅰ	2
自然科学史Ⅱ	2
科学論	2
技術論	2
平和学B	2
里山学	2
生物科学のすすめ	4
生命科学のすすめ	2
生命科学	2
生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2
動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4

野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
教養教育科目特別講義	4
特別講座	4
English language （Ryukoku Intercultural Program）	12
Lecture （Ryukoku Intercultural Program）	6

(2) 専攻科目

授業科目	単位数
裁判と人権	2
法と裁判	2
法哲学Ⅰ	2
法哲学Ⅱ	2
法社会学A	2
法社会学B	2
日本法制史A	2
日本法制史B	2
西洋法制史A	2
西洋法制史B	2
外国法Ⅰ	2
外国法Ⅱ	2

現代中国の法と社会	2
生命倫理と法	2
憲法Ⅰ	4
憲法Ⅱ	4
憲法Ⅲ	2
行政法Ⅰ	4
行政法Ⅱ	2
行政法Ⅲ	2
税法	2
労働と法	2
労働法Ⅰ	4
労働法Ⅱ	2
社会保障法	4
環境と法	2
宗教法	2
刑事法入門	2
刑法Ⅰ―A	2
刑法Ⅰ―B	2
刑法Ⅱ―A	2
刑法Ⅱ―B	2
刑事政策	2
刑事訴訟法Ⅰ	4
刑事訴訟法Ⅱ	2
少年法	2
国際環境法	2
国際法Ⅰ	4
国際法Ⅱ	2
国際法Ⅲ	2
民法Ⅰ―A	2
民法Ⅰ―B	2
民法Ⅰ―C	2

民法Ⅱ	4
民法Ⅲ	4
民法Ⅳ	2
民法Ⅴ―A	2
民法Ⅴ―B	2
消費者法	2
民事法発展ゼミⅠ	2
民事法発展ゼミⅡ	2
民事法発展ゼミⅢ	2
民事法発展ゼミⅣ	2
民事訴訟法Ⅰ	4
民事訴訟法Ⅱ	2
民事訴訟法Ⅲ	2
知的財産法	2
不動産登記法	2
商法Ⅰ	4
商法Ⅱ	2
商法Ⅲ	2
商法Ⅳ	2
経済法	2
国際取引法	2
国際私法	4
企業法務の実際	2
法律実務論A	2
法律実務論B	4
キャリアデザイン	2
司法実務特別講義	2
ワークショップ司法実務	2
法律事務実務Ⅰ	2
法律事務実務Ⅱ	2
法律事務実務Ⅲ	2

法律事務実務Ⅳ	2	
特別講義A	4	
特別講義B	4	
特別講義C	4	
特別講義D	2	
特別講義E	2	
特別講義F	2	
特別講義G	2	
特別講義H	2	
特別講義I	2	
特別講義J	2	
特別講義K	2	
特別講義L	2	
特別講義M	2	
特別講義N	2	
特別講義O	2	
特別講義P	2	
特別講義Q	2	
特別講義R	2	
現代社会と政治	2	
現代世界の政治	2	
現代世界の地域紛争	2	
政治学原論	4	
政治思想史A	2	
政治思想史B	2	
日本政治史	4	
西洋政治史	4	
マスコミ論Ⅰ	2	
マスコミ論Ⅱ	2	
行政学	2	
現代公務員論	2	

非営利非政府組織論	2
地方自治論	2
政策過程論	2
都市政策論	2
外交史	2
中国政治論	2
アメリカ政治論	2
ヨーロッパ政治論	2
中東政治論	2
国際政治論	4
アフリカ政治論A	2
アフリカ政治論B	2
開発援助論	2
アジア政治論	4
政治学特講A	2
政治学特講B	2
政治学特講C	2
政治学特講D	2
政治学特講E	2
政治学特講F	4
政治学特講G	2
環境政策論Ⅰ	2
環境政策論Ⅱ	2
スポーツ法学	2
スポーツ政策論	2
地域スポーツ論	2
国際関係論Ⅰ	2
国際関係論Ⅱ	2
現代国際関係史	2
国際ジャーナリズム論	2
ヨーロッパ研究A	2

ヨーロッパ研究B	2
ヨーロッパ研究C	2
ヨーロッパ研究D	2
東アジア研究A	2
東アジア研究B	2
東南アジア研究A	2
東南アジア研究B	2
北米研究A	2
北米研究B	2
中南米研究A	2
中南米研究B	2
政策学研究発展ゼミⅠ	4
政策学研究発展ゼミⅡ	4
政策学研究発展ゼミⅢ	4
政策学研究発展ゼミⅣ	4
政策学研究発展ゼミⅤ	4
国際研究発展ゼミⅠ	2
国際研究発展ゼミⅡ	2
国際研究発展ゼミⅢ	2
国際研究発展ゼミⅣ	2
国際研究発展ゼミⅤ	2
法律文献購読A	2
法律文献購読B	2
政治文献購読A	2
政治文献購読B	2
時事英語入門	2
時事英語発展	2
法政応用英語入門A	2
法政応用英語入門B	2
法政応用英語発展A	2
法政応用英語発展B	2

コミュニケーション英語A	2
コミュニケーション英語B	2
コミュニケーション英語C	2
コミュニケーション英語D	2
発展コミュニケーション英語	2
Volunteer （Ryukoku Intercultural Program）	6
基礎演習	2
法政入門演習	2
法政ブリッジセミナー	2
法政アクティブリサーチ	4
アドヴァンスト司法セミナーA	2
アドヴァンスト司法セミナーB	2
アドヴァンスト司法セミナーC	2
演習Ⅰ	4
演習Ⅱ	6
経済原論	4
財政学	4
社会政策A	2
社会政策B	2
経済政策	4
地域経済論	4
経済史	4
公共経済学	4
日本経済論	4
地方財政論	4
金融論	4
アジア経済論A	2
アジア経済論B	2
国際経済学	4
国際協力論	4
日本経済史A	2

日本経済史B	2
ヨーロッパ経済史	4
政策立案論	4
国際NGO論	4
経営学総論	4
財務会計入門	2
財務会計論	2
経営学原理	2
経営組織論	2
証券市場論	2
多国籍企業論	2
国際経営論	2
国際比較経営史	2
簿記論Ⅰ	2
簿記論Ⅱ	2
現代金融論	2
日本経営史	2
矯正概論	4
更生保護概論	4
成人矯正処遇	2
保護観察処遇	2
矯正教育学	4
矯正社会学	4
犯罪心理学	4
矯正医学	2
犯罪学	2
被害者学	4
青少年問題	2
日本史概説	4
外国史概説	4
倫理学概論	4

心理学概論	4
放送大学科目	8
特別講座	12

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

社会学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3(A)	1
英語総合3(B)	1
英語総合4(A)	1
英語総合4(B)	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2
英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2
英語セミナーC2	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2
英語セミナーF1	2

英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
英語セミナーH1	2
英語セミナーH2	2
英語セミナーI1	2
英語セミナーI2	2
英語セミナーJ1	2
英語セミナーJ2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
ドイツ語ⅢC	1
ドイツ語ⅢD	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
フランス語ⅢC	1
フランス語ⅢD	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
中国語ⅢC	1
中国語ⅢD	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2

スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
スペイン語ⅢC	1
スペイン語ⅢD	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
コリア語ⅢC	1
コリア語ⅢD	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
ドイツ語セミナーⅠC	2
ドイツ語セミナーⅠD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠC	2
フランス語セミナーⅠD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーⅠA	2

中国語セミナーＩＢ	2
中国語セミナーＩＣ	2
中国語セミナーＩＤ	2
中国語セミナーⅡＡ	2
中国語セミナーⅡＢ	2
中国語セミナーⅡＣ	2
中国語セミナーⅡＤ	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーＩＡ	2
スペイン語セミナーＩＢ	2
スペイン語セミナーＩＣ	2
スペイン語セミナーＩＤ	2
スペイン語セミナーⅡＡ	2
スペイン語セミナーⅡＢ	2
スペイン語セミナーⅡＣ	2
スペイン語セミナーⅡＤ	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
コリア語セミナーＩＡ	2
コリア語セミナーＩＢ	2
コリア語セミナーＩＣ	2
コリア語セミナーＩＤ	2
コリア語セミナーⅡＡ	2
コリア語セミナーⅡＢ	2
コリア語セミナーⅡＣ	2
コリア語セミナーⅡＤ	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2
コリア語コミュニケーションⅡ	2
海外中国語研修講座	2
ポルトガル語Ⅰ	2

ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2
ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2
ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
ラテン語Ⅰ	1
ラテン語Ⅱ	1
ギリシア語Ⅰ	1
ギリシア語Ⅱ	1
ペルシア語Ⅰ	2
ペルシア語Ⅱ	2
トルコ語Ⅰ	2
トルコ語Ⅱ	2
アラビア語Ⅰ	2
アラビア語Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
中国の思想A	2
中国の思想B	2
芸術の世界A	2

芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学入門	2
日本の歴史A	4
日本の歴史B	4
日本の文化	4
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学	4
心の科学A	2
心の科学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学のすすめA	2
教育学のすすめB	2
現代社会と教育A	2

現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
人文科学セミナー	4
大学論	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と法	2
現代社会と労働	2
現代社会の諸問題	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
地域論	2
企業と会計	2
社会思想史	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
データサイエンス・AI入門	2

数学入門	2	
数学への旅	2	
確率・統計入門	2	
微分と積分	4	
行列と行列式	4	
数理統計学	4	
数理と計算	2	
数学の世界	4	
数理と論証	2	
宇宙の科学Ⅰ	4	
宇宙の科学Ⅱ	2	
地球科学のすすめ	2	
地球科学	2	
物理科学の世界	4	
時間と空間の科学	2	
エネルギー入門	2	
自然科学史Ⅰ	2	
自然科学史Ⅱ	2	
科学論	2	
技術論	2	
平和学B	2	
里山学	2	
生物科学のすすめ	4	
生命科学のすすめ	2	
生命科学	2	
生態学のすすめ	4	
人類学のすすめ	4	
日本の自然	4	
生命誌	2	
植物の自然誌	2	
動物の自然誌	2	

民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4
野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ科学最前線	2
教養教育科目特別講義	2
English language （Ryukoku Intercultural Program）	12
Lecture （Ryukoku Intercultural Program）	6
Volunteer （Ryukoku Intercultural Program）	6

(2) 専攻科目

授業科目	単位数
基礎ゼミナールA	2
基礎ゼミナールB	2
社会学への招待	2
社会学概論	2
社会福祉学への招待	2
社会イノベーション実践論	2
共感とコミュニケーション	2
社会調査入門	2

社会統計学Ⅰ	2
ICTリテラシー実習A	1
ICTリテラシー実習B	1
公共社会学Ⅰ	2
公共社会学Ⅱ	2
社会学の歴史と理論	2
社会福祉原論	4
文化人類学	2
多様性の社会学	2
グローバルヒストリー	2
質的調査法	2
量的調査法	2
ソーシャルワークの基盤と専門職（共通）	2
社会参画技法	2
ICTリテラシー技法	2
逸脱と犯罪の社会学	2
ジェンダーと家族の社会学	2
教育社会学	2
階層と格差の社会学	2
地域発展論	2
政治経済学	2
市民社会の歴史と現在	2
環境社会学	2
歴史と記憶の社会学	2
差別と排除の社会学	2
宗教社会学	2
宗教学概論	4
人文地理学	4
社会探究実習	2
観光社会学	2
グローバリゼーションの社会学	2

集団とネットワークの社会学	2
地域社会学	2
子ども社会学	2
都市社会学	2
情報社会論	2
アートと社会	2
音楽社会学	2
文化と表象の社会学	2
国際文化論	2
カルチュラルスタディーズ	2
ポピュラーカルチャー論	2
文化とメディア	2
メディア論	2
メディア産業論	2
社会問題とメディア	2
リスクコミュニケーション論	2
メディアの社会学	2
ジャーナリズム論	2
ジャーナリズム倫理	2
共生のジャーナリズム	2
人権とメディア	2
デジタルメディア論	2
ネット映像技法	2
アジアのメディア	2
防災とメディア	2
調査報道論	2
メディア史	2
メディアの技術史	2
コピーライティング論	2
ドキュメンタリー理論	2
ドキュメンタリー実践Ⅰ	2

ドキュメンタリー実践Ⅱ	2
映画論	2
メディアコンテンツ技法Ⅰ	2
メディアコンテンツ技法Ⅱ	4
文章表現の技術（基礎）	2
文章表現の技術（発展）	2
メディア・リテラシー	2
ジャーナリズムの作文技術	2
インタビュー技法	2
広報コミュニケーション論	2
広告と社会	2
ラジオ番組制作	2
映像制作演習	2
健康とライフスタイル	2
健康と病の社会学	2
現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2
精神医学と精神医療	4
精神保健福祉制度論	2
精神保健福祉の原理	4
精神障害リハビリテーション論	2
現代生活と保健衛生	2
レクリエーション実技	1
アウトドアスポーツ演習A	2
アウトドアスポーツ演習B	2
クラブ活動演習	2
レクリエーション運営	2
地域とスポーツ	2
レクリエーション演習	2
スポーツ社会学	2
スポーツとビジネス	2

スポーツと身体	2	
障害者スポーツ論	2	
健康心理学	2	
ヒューマンパフォーマンス心理学	2	
スポーツ史	2	
スポーツと文化	2	
スポーツ組織と運営	2	
コーチング論	2	
スポーツメディア論	2	
スポーツ政策論	2	
刑事司法と福祉	2	
高齢者福祉論	2	
障害者福祉論	2	
社会福祉調査の基礎	2	
多文化共生論	2	
貧困に対する支援	2	
社会的企業論	2	
社会保障論	4	
医学概論	2	
心理学と心理的支援	2	
保健医療と福祉	2	
地域福祉論	4	
国際福祉論	2	
福祉とケアの社会学	2	
障害学	2	
ボランティア・NPO論	2	
児童福祉論	2	
ソーシャルワークの理論と方法（共通）	4	
喪失とグリーフケア	2	
権利擁護を支える法制度	2	
インクルーシブ教育（生涯学習支援基礎A）	2	

インクルーシブ教育（生涯学習支援基礎B）	2
インクルーシブ教育（ダンス・ムーブメント療法A）	2
インクルーシブ教育（ダンス・ムーブメント療法B）	2
インクルーシブ教育（音楽療法A）	2
インクルーシブ教育（音楽療法B）	2
海外フィールドワーク	2
社会共生演習A	2
社会共生演習B	2
ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	4
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2
社会共生実習A	2
社会共生実習B	2
ソーシャルワーク実習Ⅰ	6
精神保健福祉援助実習	6
社会統計学Ⅱ	2
多変量解析	2
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	4
ソーシャルワーク演習Ⅱ	4
ソーシャルワーク演習Ⅲ	4
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2
ソーシャルワーク実習Ⅱ	2
福祉サービスの組織と経営	2
精神保健福祉援助技術論	4
精神保健援助演習Ⅰ	2
精神保健援助演習Ⅱ	4
日本史概説	4
外国史概説	4

自然地理学	4
地理学（地誌）	4
経済原論	4
哲学概論	4
法学概論	4
政治学概論	4
キャリアデザイン論	2
キャリアプランニング論	2
プロジェクトマネジメント論	2
労働と暮らしの社会政策	2
労働法	2
プレゼンテーション技法	2
ファシリテーション技法	2
キャリア実習	2
特別講座（大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラム）	4
社会起業演習A	2
社会起業演習B	2
矯正・保護入門	2
矯正概論A	2
矯正概論B	2
矯正教育学A	2
矯正教育学B	2
矯正社会学A	2
矯正社会学B	2
犯罪心理学A	2
犯罪心理学B	2
成人矯正処遇	2
更生保護概論A	2
更生保護概論B	2
保護観察処遇	2
青少年問題	2

犯罪学	2
卒業論文演習A	2
卒業論文演習B	2
卒業論文	4

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

政策学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3(A)	1
英語総合3(B)	1
英語総合4(A)	1
英語総合4(B)	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2
英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2
英語セミナーC2	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2

英語セミナーF1	2
英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
英語セミナーH1	2
英語セミナーH2	2
英語セミナーI1	2
英語セミナーI2	2
英語セミナーJ1	2
英語セミナーJ2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
ドイツ語ⅢC	1
ドイツ語ⅢD	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
フランス語ⅢC	1
フランス語ⅢD	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
中国語ⅢC	1
中国語ⅢD	1
スペイン語Ⅰ	2

スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
スペイン語ⅢC	1
スペイン語ⅢD	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
コリア語ⅢC	1
コリア語ⅢD	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
ドイツ語セミナーⅠC	2
ドイツ語セミナーⅠD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠC	2
フランス語セミナーⅠD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2

中国語セミナーＩA	2
中国語セミナーＩB	2
中国語セミナーＩC	2
中国語セミナーＩD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーＩA	2
スペイン語セミナーＩB	2
スペイン語セミナーＩC	2
スペイン語セミナーＩD	2
スペイン語セミナーⅡA	2
スペイン語セミナーⅡB	2
スペイン語セミナーⅡC	2
スペイン語セミナーⅡD	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
コリア語セミナーＩA	2
コリア語セミナーＩB	2
コリア語セミナーＩC	2
コリア語セミナーＩD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2
コリア語セミナーⅡC	2
コリア語セミナーⅡD	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2
コリア語コミュニケーションⅡ	2
海外中国語研修講座	2

ポルトガル語Ⅰ	2
ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2
ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2
ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
ラテン語Ⅰ	1
ラテン語Ⅱ	1
ギリシア語Ⅰ	1
ギリシア語Ⅱ	1
ペルシア語Ⅰ	2
ペルシア語Ⅱ	2
トルコ語Ⅰ	2
トルコ語Ⅱ	2
アラビア語Ⅰ	2
アラビア語Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
中国の思想A	2
中国の思想B	2

芸術の世界A	2
芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学入門	2
日本の歴史A	4
日本の歴史B	4
日本の文化	4
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学	4
心の科学A	2
心の科学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学のすすめA	2
教育学のすすめB	2

現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
人文科学セミナー	4
大学論	2
法学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
現代社会の諸問題	2
地域論	2
企業と会計	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2

データサイエンス・AI入門	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4
行列と行列式	4
数理統計学	4
数理と計算	2
数学の世界	4
数理と論証	2
宇宙の科学Ⅰ	4
宇宙の科学Ⅱ	2
地球科学のすすめ	2
地球科学	2
物理科学の世界	4
時間と空間の科学	2
エネルギー入門	2
自然科学史Ⅰ	2
自然科学史Ⅱ	2
科学論	2
技術論	2
平和学B	2
里山学	2
生物科学のすすめ	4
生命科学のすすめ	2
生命科学	2
生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2

動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4
野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
教養教育科目特別講義	4
特別講座	6
English language （Ryukoku Intercultural Program）	12
Lecture （Ryukoku Intercultural Program）	6

(2) 専攻科目

授業科目	単位数
基礎演習Ⅰ	2
基礎演習Ⅱ	2
コミュニケーション・ワークショップ演習	2
演習Ⅰ	6
演習Ⅱ（卒業研究含む）	4
キャリア・コミュニケーション演習	2

グローカル戦略実践演習	2
企業のCSR実践演習	2
政策学研究発展演習Ⅰ	4
政策学研究発展演習Ⅱ	4
政策学研究発展演習Ⅲ	4
政策学研究発展演習Ⅳ	4
政策学研究発展演習Ⅴ	4
政策実践・探究演習ⅠA（国内）	4
政策実践・探究演習ⅠA（海外）	4
政策実践・探究演習ⅡA（国内）	4
政策実践・探究演習ⅡA（海外）	4
政策実践・探究演習ⅠB（国内）	4
政策実践・探究演習ⅠB（海外）	4
政策実践・探究演習ⅡB（国内）	4
政策実践・探究演習ⅡB（海外）	4
地域課題発見演習	4
政策学を学ぶ	2
現代社会の市民性を学ぶ	2
持続可能性と共生を学ぶ	2
情報処理を学ぶ	2
グローバル・シチズンシップ・エデュケーションA	2
グローバル・シチズンシップ・エデュケーションB	2
グローバル・シチズンシップ・エデュケーションC	2
グローバル・シチズンシップ・エデュケーションD	2
政策学入門（政治学）	2
政策学入門（経済学）	2
政策学入門（法律学）	2
行政学	2
政策学のための統計・数学	2
地方自治論	2
憲法Ⅰ	2

憲法Ⅱ	2	
環境経済学	2	
地域経済学	2	
財政学	2	
国際政治学	2	
経済学A（ミクロ経済学）	2	
経済学B（マクロ経済学）	2	
地域・都市政策総論	2	
環境政策総論	2	
地域公共人材総論	2	
地域ガバナンス論	2	
地方自治法	2	
都市計画論	2	
政策コミュニケーション論	2	
価値創造論	2	
地場産業論	2	
文章技法の基礎を学ぶ	2	
開発援助論	2	
地方財政論	2	
地域経済政策	2	
都市再生政策	2	
健康政策	2	
文化・観光政策	2	
コミュニティメディア政策	2	
景観・まちなみ保存政策	2	
比較地域政策論	2	
アジアの地域・都市政策	2	
欧州の環境政策	2	
アジアの環境政策	2	
科学技術政策	2	
政策史	2	

非営利非政府組織論	2
国際法	2
キャリアデザインのための企業研究	2
政策学のための文章技法	2
環境社会政策論	2
環境法政策	2
国際政治史	2
グローカル・コミュニケーション英語A	2
グローカル・コミュニケーション英語B	2
政策総合英語A	2
政策総合英語B	2
政策評価論	2
地域コミュニティ政策	2
比較社会政策	2
欧州の地域・都市政策	2
北米・中南米の地域・都市政策	2
交通運輸政策	2
保全生態学	2
環境社会学	2
政策過程論	2
公務員論	2
公共政策学	2
行政法	2
農村地域再生政策	2
環境エネルギー政策	2
社会的企業論	2
国際ビジネス論	2
地球環境政策論	2
言語政策	2
地域レジリエンス論	2
中国政治論	2

刑事政策	2
民法入門	2
ヨーロッパ政治論	2
国際環境法	2
行政争訟法	2
労働法入門	2
国家補償法	2
環境と法	2
放送メディア論A	2
放送メディア論B	4
映画文化産業論	2
初級商業簿記	2
矯正概論	4
更生保護概論	4
更生保護制度	2
成人矯正処遇	2
保護観察処遇	2
矯正教育学	4
矯正社会学	4
犯罪心理学	4
矯正医学	2
犯罪学	2
被害者学	4
矯正・保護入門	2
青少年問題	2
Volunteer （Ryukoku Intercultural Program）	6
キャリア実習・実習指導	2
留学生入門演習	2
地域公共人材特別講座	12
特別講座	12
放送大学科目	8

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

国際学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
中国の思想A	2
中国の思想B	2
芸術の世界A	2
芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2

文章表現法A	2	
文章表現法B	2	
言語と文化	2	
歴史学入門	2	
日本の歴史A	4	
日本の歴史B	4	
日本の文化	4	
アジアの歴史A	4	
アジアの歴史B	4	
アジアの文化	2	
西洋の歴史A	4	
西洋の歴史B	2	
西洋の歴史C	2	
現代世界の歴史A	2	
現代世界の歴史B	2	
心理学	4	
心の科学A	2	
心の科学B	2	
応用心理学A	2	
応用心理学B	2	
教育学のすすめA	2	
教育学のすすめB	2	
現代社会と教育A	2	
現代社会と教育B	2	
教育原論A	2	
教育原論B	2	
学習・発達論A	2	
学習・発達論B	2	
人文科学セミナー	4	
大学論	2	
日本国憲法	2	

法学のすすめ	2	
政治学のすすめ	2	
社会学のすすめ	2	
地理学のすすめ	2	
経済学のすすめ	2	
経営学のすすめ	2	
文化人類学のすすめ	2	
社会調査のすすめ	2	
社会統計学のすすめ	2	
人権論A	2	
人権論B	2	
現代社会とメディア	2	
現代社会と福祉	2	
現代社会と法	2	
環境と社会	2	
平和学A	2	
ジェンダー論	2	
国際社会論	2	
現代社会の諸問題	2	
地域論	2	
企業と会計	2	
現代社会と労働	2	
社会思想史	2	
英語で学ぶ日本の社会A	2	
英語で学ぶ日本の社会B	2	
データサイエンス・AI入門	2	
数学入門	2	
数学への旅	2	
確率・統計入門	2	
微分と積分	4	
行列と行列式	4	

数理統計学	4
数理と計算	2
数学の世界	4
数理と論証	2
宇宙の科学Ⅰ	4
宇宙の科学Ⅱ	2
地球科学のすすめ	2
地球科学	2
物理科学の世界	4
時間と空間の科学	2
エネルギー入門	2
自然科学史Ⅰ	2
自然科学史Ⅱ	2
科学論	2
技術論	2
平和学B	2
里山学	2
生物科学のすすめ	4
生命科学のすすめ	2
生命科学	2
生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2
動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4

野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
海外英語研修	2
教養教育科目特別講義	4

(2) 専攻科目

① 国際文化学科

授業科目	単位数
English Communication Ⅰ —Speaking	1
English Communication Ⅰ —Writing	1
English Communication Ⅰ —Reading	1
English Communication Ⅰ —Seminar A	2
English Communication Ⅰ —Seminar B	2
English Communication Ⅱ —Speaking	1
English Communication Ⅱ —Writing	1
English Communication Ⅱ —Reading	1
English Communication Ⅱ —Seminar A	2
English Communication Ⅱ —Seminar B	2
English Communication Ⅲ —Speaking	1
English Communication Ⅲ —Writing	1
English Communication Ⅲ —Reading	1

English Communication Ⅳ —Speaking	1
English Communication Ⅳ —Writing	1
English Communication Ⅳ —Reading	1
フランス語Ⅰ	3
フランス語Ⅱ	3
フランス語Ⅲ	3
フランス語Ⅳ	3
中国語Ⅰ	3
中国語Ⅱ	3
中国語Ⅲ	3
中国語Ⅳ	3
コリア語Ⅰ	3
コリア語Ⅱ	3
コリア語Ⅲ	3
コリア語Ⅳ	3
日本語Ⅰ	3
日本語Ⅱ	3
日本語Ⅲ	3
日本語Ⅳ	3
日本語セミナーA	2
日本語セミナーB	2
日本語セミナーC	2
日本語セミナーD	2
語学研修A（英語）	2
語学研修B（英語）	4
語学研修A（フランス語）	2
語学研修B（フランス語）	4
語学研修A（中国語）	2
語学研修B（中国語）	4
語学研修A（コリア語）	2
語学研修B（コリア語）	4

English language （Ryukoku Intercultural Program）	12
リサーチセミナーⅠ	2
リサーチセミナーⅡ	2
調査分析の基礎A	2
調査分析の基礎B	2
キャリアデザイン入門	2
東西文化交流入門	2
宗教学概論	2
自然人類学入門	2
環境共生論入門	2
都市計画入門	2
社会心理学	2
言語論A	2
宗教の世界史	2
東アジアの地域交流	2
社会学入門	2
文化人類学入門	2
映像文化入門	2
大衆文化入門	2
比較演劇入門	2
世界文学入門	2
比較文化入門	2
国際政治入門	2
観光学入門	2
日本語教育入門	2
国際文化学特別講義A	2
キャリア実習・実習指導	2
English Workshop A	2
English Workshop B	2
English Workshop C	2
English Workshop D	2

上級英語A	2
上級英語B	2
Advanced English A	2
Advanced English B	2
Advanced English C	2
Advanced English D	2
英語外書講読A	2
英語外書講読B	2
Exploring Cultures	2
フランス語セミナーⅠ	4
フランス語セミナーⅡ	4
フランス語セミナーⅢ	4
中国語セミナーⅠ	4
中国語セミナーⅡ	4
中国語セミナーⅢ	4
コリア語セミナーⅠ	4
コリア語セミナーⅡ	4
コリア語セミナーⅢ	4
日本語セミナーE	2
日本語セミナーF	2
日本語セミナーG	2
日本語セミナーH	2
ペルシア語セミナーⅠ	2
ペルシア語セミナーⅡ	2
トルコ語セミナーⅠ	2
トルコ語セミナーⅡ	2
アラビア語セミナーⅠ	2
アラビア語セミナーⅡ	2
アラビア語セミナーⅢ	2
スペイン語セミナーⅠ	2
スペイン語セミナーⅡ	2

ドイツ語セミナーⅠ	2
ドイツ語セミナーⅡ	2
ロシア語セミナーⅠ	2
ロシア語セミナーⅡ	2
ロシア語セミナーⅢ	2
ロシア語セミナーⅣ	2
ポルトガル語セミナーⅠ	2
ポルトガル語セミナーⅡ	2
ポルトガル語セミナーⅢ	2
ポルトガル語セミナーⅣ	2
実践フランス語A	2
実践フランス語B	2
実践フランス語C	2
実践フランス語D	2
実践中国語A	2
実践中国語B	2
実践中国語C	2
実践中国語D	2
実践コリア語A	2
実践コリア語B	2
実践コリア語C	2
実践コリア語D	2
比較宗教論A（仏教）	2
比較宗教論B（キリスト教）	2
比較宗教論C（イスラーム）	2
現代社会と宗教A	2
現代社会と宗教B	2
宗教と共生社会	2
宗教と民俗文化	2
宗教と芸術	2
国際関係と宗教	2

宗教文化の交流	2
アジアの宗教文化	2
中央アジアの文化	2
イスラームの歴史と文化	2
世界の宗教と日本	2
日本の宗教思想	2
比較宗教思想	2
日本語論文表現A	2
日本語論文表現B	2
日本語から見た歴史と文化	2
日本語教育実践	2
京ことばと京文化	2
音声学概論	2
比較言語学	2
日本の言語文化	2
日本の近現代と国際関係	2
日本の経済と社会	2
アジアの文化遺産	2
東アジアの古代文化	2
東北アジアの地域文化	2
東西文化交渉論	2
国際経済と日本	2
オセアニアと日本	2
世界と日本の民俗	2
都市計画	2
都市と住まい	2
住環境計画	2
環境人類学	2
環境保全論	2
言語論B	2
言語論C	2

NGO/NPO論	2
自然と文化	2
Race and Ethnicity入門	2
日本の思想	2
マイグレーション研究A（多文化共生社会）	2
マイグレーション研究B（社会統合論）	2
マイグレーション研究C（国際労働移動）	2
グローバル社会学	2
社会調査法	2
Exporting Japanese Culture	2
TVCMと社会	2
映像文化論	2
比較文化史	2
アメリカ映画論	2
表象文化論	2
アジアの大衆文化	2
Comparative Popular Culture Studies	2
現代ジャーナリズム論	2
情報化とプロパガンダ	2
情報文化論	2
情報技術と未来社会	2
芸術表現特殊講義A	2
芸術表現特殊講義B	2
芸術表現特殊講義C	2
芸術表現特殊講義D	2
芸術表現特殊講義E	2
芸術表現特殊講義F	2
芸術表現法A	2
芸術表現法B	2
芸術表現法C	2
グローバル・アートA	2

グローバル・アートB	2
グローバル・アートC	2
グローバル・アートD	2
グローバル・アートE	2
グローバル・アートF	2
グローバル・アートG	2
アート・マネジメントA	2
アート・マネジメントB	2
観光社会論	2
国際観光論	2
ホスピタリティ論	2
観光心理学	2
観光文化論A	2
観光文化論B	2
京都観光学A	2
京都観光学B	2
文化・観光政策	2
旅行の法律	2
旅行の契約	2
国内旅行の実務	2
海外旅行の実務	2
リサーチセミナーⅢ	2
海外研修（異文化交流）	2
専門演習A	2
専門演習B	2
卒論演習A	3
卒論演習B	3
国際文化Study Project A	2
国際文化Study Project B	2
国際文化Study Project C	2
国際文化Study Project D	2

グローバル時代のキャリアデザイン	2
国際文化学特別講義B	2
会話分析入門A	2
会話分析入門B	2
心理言語学	2
応用言語学	2
Contemporary Literature	2
国際関係入門	2
Introdiction to Sociolinguistics	2
Introduction to Cultural Anthropology	2
グローバリゼーションとアフリカ	2
グローバリゼーションと東アジア	2
グローバリゼーションと南アジア	2
グローバリゼーションとヨーロッパ	2
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2
国際政治経済学	2
異文化間コミュニケーション論	2
言語教育政策論	2
英語教育特殊研究	2
Career English	2
Critical Reading	2
Study Abroad Project A	6
Study Abroad Project B	6
Lecture（Ryukoku Intercultural Program）	6
Volunteer（Ryukoku Intercultural Program）	6

② グローバルスタディーズ学科

授業科目	単位数
英語(Reading) I	2
英語(Writing) I	2
英語（Oral Communication） I	2
英語(Reading) Ⅱ	2

英語(Writing)Ⅱ	2
英語（Oral Communication）Ⅱ	2
Business English through TOEIC（Basic A）	2
Business English through TOEIC（Basic B）	2
Academic English through IELTS（Basic A）	2
Academic English through IELTS（Basic B）	2
Business English through TOEIC（Advanced A）	2
Business English through TOEIC（Advanced B）	2
Academic English through IELTS（Advanced A）	2
Academic English through IELTS（Advanced B）	2
Career English	2
リサーチ方法論A	2
リサーチ方法論B	2
ITリテラシーA	2
ITリテラシーB	2
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズB	2
グローバルスタディーズC	2
グローバルスタディーズD	2
宗教学概論	2
会話分析入門A	2
会話分析入門B	2
言語習得論	2
異文化間コミュニケーション論	2
Contemporary Literature	2
Discussion ＆ Debate	2
Advanced Writing Strategies	2
Critical Reading	2
Introduction to Sociolinguistics	2
心理言語学	2
応用言語学	2

言語教育政策論	2
通訳・翻訳研究A	2
通訳・翻訳研究B	2
English for Global Studies	2
Global Englishes and Communication	2
英語教育特殊研究	2
国際関係入門	2
政治思想概論	2
国際開発協力論	2
グローバル・ヒストリー入門	2
Introduction to Cultural Anthropology	2
Globalization of Education	2
Postcolonialism	2
Sustainability Studies	2
ナショナリズム研究	2
国際政治経済学	2
多国籍企業論	2
安全保障論	2
文化遺産学	2
国際人権論	2
グローバリゼーションとエシックス	2
グローバル市民社会論	2
南アジアの言語	2
グローバリゼーションとアフリカ	2
グローバリゼーションと東アジア	2
グローバリゼーションと南アジア	2
グローバリゼーションとヨーロッパ	2
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2
グローバル・ガバナンス論	2
宗教文化学入門	2
グローバル・キャリア入門	2

キャリア実習・実習指導	2	
実践フランス語A	2	
実践フランス語B	2	
実践中国語A	2	
実践中国語B	2	
実践コリア語A	2	
実践コリア語B	2	
ペルシア語セミナーⅠ	2	
ペルシア語セミナーⅡ	2	
トルコ語セミナーⅠ	2	
トルコ語セミナーⅡ	2	
アラビア語セミナーⅠ	2	
アラビア語セミナーⅡ	2	
アラビア語セミナーⅢ	2	
スペイン語セミナーⅠ	2	
スペイン語セミナーⅡ	2	
ドイツ語セミナーⅠ	2	
ドイツ語セミナーⅡ	2	
自然人類学入門	2	
社会心理学	2	
宗教の世界史	2	
社会学入門	2	
文化人類学入門	2	
映像文化入門	2	
大衆文化入門	2	
世界文学入門	2	
比較文化入門	2	
English Workshop A	2	
English Workshop B	2	
English Workshop C	2	
English Workshop D	2	

上級英語A	2
上級英語B	2
Advanced English A	2
Advanced English B	2
Advanced English C	2
Advanced English D	2
東西文化交渉論	2
宗教文化の交流	2
宗教と共生社会	2
環境人類学	2
環境保全論	2
国際関係と宗教	2
言語論B	2
言語論C	2
NGO／NPO論	2
国際政治入門	2
都市計画	2
比較宗教思想	2
英語外書講読A	2
英語外書講読B	2
比較言語学	2
Exploring Culture	2
日本の経済と社会	2
マイグレーション研究C（国際労働移動）	2
国際経済と日本	2
Race and Ethnicity入門	2
オセアニアと日本	2
マイグレーション研究A（多文化共生社会）	2
Exporting Japanese Culture	2
観光学入門	2
観光社会論	2

国際観光論	2
ホスピタリティ論	2
観光心理学	2
観光文化論A	2
観光文化論B	2
グローバル化とキャリア形成	2
海外キャリア実践Ⅰ	2
海外キャリア実践Ⅱ	4
Study Abroad Project A	6
Study Abroad Project B	6
海外研修	4
プロジェクト演習	2
演習Ⅰ	2
演習Ⅱ	2
演習Ⅲ	2
演習Ⅳ	2
卒業論文	4

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

農学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3	1

英語総合4	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2
英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2
英語セミナーC2	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2
英語セミナーF1	2
英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
海外英語研修	2
ドイツ語ＩA	1
ドイツ語ＩB	1
ドイツ語ⅡA	1
ドイツ語ⅡB	1
フランス語ＩA	1
フランス語ＩB	1
フランス語ⅡA	1
フランス語ⅡB	1
中国語ＩA	1
中国語ＩB	1
中国語ⅡA	1
中国語ⅡB	1
コリア語ＩA	1
コリア語ＩB	1
コリア語ⅡA	1

コリア語ⅡB	1
ドイツ語セミナーＩA	2
ドイツ語セミナーＩB	2
フランス語セミナーＩA	2
フランス語セミナーＩB	2
中国語セミナーＩA	2
中国語セミナーＩB	2
コリア語セミナーＩA	2
コリア語セミナーＩB	2
哲学入門	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
宗教学のすすめ	2
宗教の世界	2
日本の文学M	2
日本の文学N	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
言語学入門	2
歴史入門	2
日本の歴史M	2
日本の歴史N	2
日本の文化	2
アジアの歴史M	2
アジアの歴史N	2
アジアの文化	2
西洋の歴史M	2

西洋の歴史N	2
心理学入門	2
心理学A	2
心理学B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
現代社会と労働	2
現代社会の諸問題	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
地域論	2

企業と会計	2
社会思想史	2
情報倫理	2
情報社会とメディア	2
データサイエンス・AI入門	2
生活の中の数学	2
生活の中の統計技術	2
生活の中の化学	2
生活の中の物理	2
生活の中の生物学	2
生活の中の地学	2
現代の技術	2
生命と科学	2
自然観察法	2
里山学	2
環境の科学	2
人類の科学	2
情報と人間	2
現代社会と栄養	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学A	1
スポーツ技術学B	1
スポーツ文化論	2
教養教育科目特別講義	8
English language （Ryukoku Intercultural Program）	12
Lecture （Ryukoku Intercultural Program）	6
Volunteer （Ryukoku Intercultural Program）	6

(2) 専攻科目

① 生命科学科

授業科目	単位数

農学概論	2
食と農の倫理	2
食の循環実習Ⅰ	2
食の循環実習Ⅱ	2
有機化学	2
分析化学	2
社会福祉論	2
食品の安全と法律	2
食と嗜好の科学	2
食の文化論	2
暮らしの中の食品学	2
身体のしくみと栄養	2
調理のサイエンス	2
日本・京滋の食料と農業	2
欧米の食料と農業	2
アジア・アフリカの食料と農業	2
日本の歴史と農業	2
世界の歴史と農業	2
科学史・農学史入門	2
くらしと経済	2
会社と農家のしくみ	2
事例に学ぶ食品マーケティング	2
大学の学びとキャリア	2
キャリア形成論	2
情報教育論	2
地学概論	2
物理学概論	2
化学概論	2
生物物理学	2
地学実験	2
物理学実験	1

生物物理学実習	1
入門ゼミ	2
基礎演習Ⅰ	2
基礎演習Ⅱ	2
生物学基礎	2
遺伝学Ⅰ	2
植物育種学	2
植物生理・生化学Ⅰ	2
作物学Ⅰ	2
収穫後生理学	2
植物病理学Ⅰ	2
身近な植物	2
森林生態学	2
雑草学Ⅰ	2
飢饉・救荒論	2
昆虫学Ⅰ	2
虫と農業	2
土壌学Ⅰ	2
微生物学Ⅰ	2
生物統計学	2
農業気象学	2
畜産学概論	2
水産学概論	2
農業環境工学	2
基礎生物学実習	2
基礎化学実習	2
遺伝学Ⅱ	2
分子育種学Ⅰ	2
分子育種学Ⅱ	2
花き野菜園芸学Ⅰ	2
果樹園芸学Ⅰ	2

分子生物学	2
植物生理・生化学Ⅱ	2
ゲノム情報学Ⅰ	2
ゲノム情報学Ⅱ	2
ゲノム工学	2
植物資源学Ⅰ	2
植物栄養学Ⅰ	2
植物―微生物相互作用学	2
線虫学Ⅰ	2
農薬学	2
昆虫学Ⅱ	2
微生物学Ⅱ	2
生命科学実習A	2
生命科学実習B	2
農学部キャリア実習A	2
農学部キャリア実習B	1
海外農業体験実習A	2
海外農業体験実習B	2
農学部特別実習A	2
農学部特別実習B	2
農学部特別実習C	1
農学部特別講義	2
総合演習Ⅰ	2
総合演習Ⅱ	2
総合演習Ⅲ	2
特別研究	6

② 農学科

授業科目	単位数
農学概論	2
食と農の倫理	2
食の循環実習Ⅰ	2

食の循環実習Ⅱ	2
有機化学	2
分析化学	2
社会福祉論	2
食品の安全と法律	2
食と嗜好の科学	2
食の文化論	2
暮らしの中の食品学	2
身体のしくみと栄養	2
調理のサイエンス	2
日本・京滋の食料と農業	2
欧米の食料と農業	2
アジア・アフリカの食料と農業	2
日本の歴史と農業	2
世界の歴史と農業	2
科学史・農学史入門	2
くらしと経済	2
会社と農家のしくみ	2
事例に学ぶ食品マーケティング	2
大学の学びとキャリア	2
キャリア形成論	2
情報教育論	2
地学概論	2
物理学概論	2
化学概論	2
生物物理学	2
地学実験	2
物理学実験	1
生物物理学実習	1
入門ゼミ	2
基礎演習Ⅰ	2

基礎演習Ⅱ	2
生物学基礎	2
遺伝学Ⅰ	2
植物育種学	2
植物生理・生化学Ⅰ	2
作物学Ⅰ	2
収穫後生理学	2
植物病理学Ⅰ	2
身近な植物	2
森林生態学	2
雑草学Ⅰ	2
飢饉・救荒論	2
虫と農業	2
土壌学Ⅰ	2
発酵醸造学Ⅰ	2
生物統計学	2
農業気象学	2
畜産学概論	2
水産学概論	2
農業環境工学	2
基礎生物学実習	2
基礎化学実習	2
植物資源学Ⅰ	2
植物資源学Ⅱ	2
分子育種学Ⅰ	2
分子育種学Ⅱ	2
作物学Ⅱ	2
花き野菜園芸学Ⅰ	2
花き野菜園芸学Ⅱ	2
果樹園芸学Ⅰ	2
果樹園芸学Ⅱ	2

雑草学Ⅱ	2
植物栄養学Ⅰ	2
植物栄養学Ⅱ	2
土壌学Ⅱ	2
応用昆虫学	2
植物病理学Ⅱ	2
線虫学Ⅰ	2
線虫学Ⅱ	2
農薬学	2
農場実習	2
農学専門実験	2
農学部キャリア実習A	2
農学部キャリア実習B	1
海外農業体験実習A	2
海外農業体験実習B	2
農学部特別実習A	2
農学部特別実習B	2
農学部特別実習C	1
農学部特別講義	2
総合演習Ⅰ	2
総合演習Ⅱ	2
総合演習Ⅲ	2
特別研究	6

③　食品栄養学科

授業科目	単位数
農学概論	2
食と農の倫理	2
食の循環実習Ⅰ	2
食の循環実習Ⅱ	2
社会福祉論	2
食品の安全と法律	2

食と嗜好の科学	2	
食の文化論	2	
収穫後生理学	2	
植物病理学Ⅰ	2	
身近な植物	2	
森林生態学	2	
雑草学Ⅰ	2	
飢饉・救荒論	2	
昆虫学Ⅰ	2	
虫と農業	2	
土壌学Ⅰ	2	
微生物学Ⅰ	2	
生物統計学	2	
農業気象学	2	
畜産学概論	2	
水産学概論	2	
農業環境工学	2	
農業を支える植物細胞の力	2	
分子から見た生命	2	
遺伝の考え方	2	
花と果物の科学	2	
植物栽培の考え方	2	
生活を支える微生物の力	2	
日本・京滋の食料と農業	2	
欧米の食料と農業	2	
アジア・アフリカの食料と農業	2	
日本の歴史と農業	2	
世界の歴史と農業	2	
科学史・農学史入門	2	
くらしと経済	2	
会社と農家のしくみ	2	

事例に学ぶ食品マーケティング	2	
大学の学びとキャリア	2	
キャリア形成論	2	
情報教育論	2	
地学概論	2	
物理学概論	2	
化学概論	2	
生物物理学	2	
生物物理学実習	1	
入門ゼミ	2	
管理栄養士基礎演習	2	
科学英語	2	
健康管理概論	2	
公衆衛生学Ⅰ	2	
公衆衛生学Ⅱ	2	
生化学	2	
分子栄養学	2	
解剖生理学	2	
運動生理学	2	
臨床医学概論	2	
臨床病態学	2	
微生物学	2	
食品化学	2	
食品学	2	
食品機能・加工論	2	
食品衛生学	2	
調理学	2	
有機化学	2	
分析化学	2	
基礎生物化学	2	
生化学実験	1	

解剖生理学実験	1	
栄養生理学実験	1	
微生物学実験	1	
食品学実験Ⅰ	1	
食品学実験Ⅱ	1	
食品加工学実習	1	
食品衛生学実験	1	
調理学実習Ⅰ	1	
調理学実習Ⅱ	1	
基礎栄養学	2	
応用栄養学	2	
ライフステージ栄養学	2	
栄養評価論	2	
スポーツ栄養学	2	
栄養教育論Ⅰ	2	
栄養教育論Ⅱ	2	
栄養カウンセリング論	2	
学校栄養指導論	2	
学校栄養実践論	2	
臨床栄養学Ⅰ	2	
臨床栄養学Ⅱ	2	
臨床栄養学Ⅲ	2	
臨床栄養管理学	2	
臨床栄養実践論	2	
公衆栄養学	2	
公衆栄養活動論	2	
栄養疫学	2	
給食経営管理論Ⅰ	2	
給食経営管理論Ⅱ	2	
管理栄養士総合演習	2	
臨地実習指導	1	

基礎栄養学実習	1
応用栄養学実習	1
栄養教育論実習	1
臨床栄養学実習Ⅰ	1
臨床栄養学実習Ⅱ	1
公衆栄養学実習	1
給食経営管理実習Ⅰ	1
給食経営管理実習Ⅱ	1
給食経営管理実習（校外）	1
臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）	1
臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	1
臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	2
特別臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）	1
特別臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	1
特別臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	1
農学部キャリア実習A	2
農学部キャリア実習B	1
海外農業体験実習A	2
海外農業体験実習B	2
農学部特別実習A	2
農学部特別実習B	2
農学部特別実習C	1
農学部特別講義	2
総合演習Ⅰ	2
総合演習Ⅱ	2
総合演習Ⅲ	2
特別研究	6

④　食料農業システム学科

授業科目	単位数
農学概論	2
食と農の倫理	2

食の循環実習Ⅰ	2
食の循環実習Ⅱ	2
収穫後生理学	2
植物病理学Ⅰ	2
身近な植物	2
森林生態学	2
雑草学Ⅰ	2
飢饉・救荒論	2
昆虫学Ⅰ	2
虫と農業	2
土壌学Ⅰ	2
微生物学Ⅰ	2
農業気象学	2
畜産学概論	2
水産学概論	2
農業環境工学	2
農業を支える植物細胞の力	2
分子から見た生命	2
遺伝の考え方	2
花と果物の科学	2
植物栽培の考え方	2
生活を支える微生物の力	2
社会福祉論	2
食品の安全と法律	2
食と嗜好の科学	2
食の文化論	2
暮らしの中の食品学	2
身体のしくみと栄養	2
調理のサイエンス	2
大学の学びとキャリア	2
キャリア形成論	2

情報教育論	2	
入門ゼミ	2	
SDGsと食料農業システム概論	2	
基礎演習	2	
くらしと経済	2	
会社と農家のしくみ	2	
事例に学ぶ食品マーケティング	2	
ミクロ経済学	2	
マクロ経済学	2	
数学基礎	2	
統計処理実習	2	
基礎統計学	2	
基礎経営学	2	
基礎会計学	2	
基礎社会学	2	
食料・農業経済学	2	
日本・京滋の食料と農業	2	
欧米の食料と農業	2	
アジア・アフリカの食料と農業	2	
日本の歴史と農業	2	
世界の歴史と農業	2	
科学史・農学史入門	2	
農業政策論	2	
地域農業経済論	2	
環境経済学	2	
熱帯農業論	2	
国際食料需給論	2	
国際農村発展論	2	
国際協力論	2	
アグリフードビジネス論	2	
農企業経営論	2	

フードビジネスマーケティング論	2	
フードビジネスファイナンス論	2	
農業組織団体論	2	
農業法律学	2	
食料流通システム論	2	
食と農の安全安心論	2	
農村社会学	2	
食料環境社会学	2	
ソーシャルキャピタル論	2	
地域マネジメント論	2	
比較食文化論	2	
比較地域文化論	2	
現代社会と食	2	
食料農業システム実習A	2	
食料農業システム実習B	2	
食料農業システム実習C	2	
食料農業システム実習D	2	
食料農業システム実習E	2	
食料農業システム実習F	2	
農学部キャリア実習A	2	
農学部キャリア実習B	1	
海外農業体験実習A	2	
海外農業体験実習B	2	
農学部特別実習A	2	
農学部特別実習B	2	
農学部特別実習C	1	
農学部特別講義	2	
総合演習 Ⅰ	2	
総合演習 Ⅱ	2	
総合演習 Ⅲ	2	
総合演習 Ⅳ	2	

特別研究	6

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

先端理工学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3	1
英語総合4	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2
英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2
英語セミナーC2	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2
英語セミナーF1	2
英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
海外英語研修	2

ドイツ語ＩA	1
ドイツ語ＩB	1
ドイツ語ⅡA	1
ドイツ語ⅡB	1
フランス語ＩA	1
フランス語ＩB	1
フランス語ⅡA	1
フランス語ⅡB	1
中国語ＩA	1
中国語ＩB	1
中国語ⅡA	1
中国語ⅡB	1
コリア語ＩA	1
コリア語ＩB	1
コリア語ⅡA	1
コリア語ⅡB	1
ドイツ語セミナーＩA	2
ドイツ語セミナーＩB	2
フランス語セミナーＩA	2
フランス語セミナーＩB	2
中国語セミナーＩA	2
中国語セミナーＩB	2
コリア語セミナーＩA	2
コリア語セミナーＩB	2
哲学入門	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
宗教学のすすめ	2
宗教の世界	2

日本の文学M	2
日本の文学N	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
言語学入門	2
歴史入門	2
日本の歴史M	2
日本の歴史N	2
日本の文化	2
アジアの歴史M	2
アジアの歴史N	2
アジアの文化	2
西洋の歴史M	2
西洋の歴史N	2
心理学入門	2
心理学A	2
心理学B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2

文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
現代社会と労働	2
現代社会の諸問題	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
地域論	2
企業と会計	2
社会思想史	2
情報倫理	2
情報社会とメディア	2
データサイエンス・AI入門	2
生活の中の数学	2
生活の中の統計技術	2
生活の中の化学	2
生活の中の物理	2
生活の中の生物学	2
生活の中の地学	2
現代の技術	2
生命と科学	2
自然観察法	2
里山学	2
植物の自然誌	2

環境の科学	2
人類の科学	2
情報と人間	2
現代社会と栄養	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学A	1
スポーツ技術学B	1
スポーツ文化論	2
教養教育科目特別講義	2
English language （Ryukoku Intercultural Program）	12
Lecture （Ryukoku Intercultural Program）	6
Volunteer （Ryukoku Intercultural Program）	6

(2) 専攻科目

① 数理・情報科学課程

授業科目	単位数
情報基礎	2
フレッシャーズセミナー	2
キャリア実習・実習指導	2
理工学のすすめ	2
ASEANグローバルプログラム	2
デザインシンキング	2
グローバル人材育成プログラム	2
プロジェクトリサーチⅠ	1
プロジェクトリサーチⅡ	2
先端理工キャリア実習Ⅰ	1
先端理工インターンシップⅠ	1
先端理工キャリア実習Ⅱ	2
先端理工インターンシップⅡ	2
プログラミング及び実習Ⅰ	1
数理情報基礎演習A	2

微積分及び演習Ⅰ	3	
線形代数及び演習Ⅰ	3	
数理情報基礎演習B	2	
情報と職業	2	
クラウドコンピューティング演習	2	
微積分及び演習Ⅱ	3	
線形代数及び演習Ⅱ	3	
データ分析	2	
プログラミング及び実習Ⅱ	2	
情報処理システムⅠ	2	
微分方程式Ⅰ	2	
物理と微分方程式及び演習	3	
確率統計Ⅰ	2	
数値計算法及び演習	3	
プログラミング及び実習Ⅲ	3	
情報処理システムⅡ	2	
プロジェクト演習	2	
フーリエ解析及び演習	2	
アルゴリズム及び演習Ⅰ	2	
シミュレーション及び演習	2	
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2	
微分方程式Ⅱ	2	
集合と論理	2	
質点系の力学	2	
多変量解析及び演習	3	
数理・情報科学の学びと社会	1	
数理情報演習	1	
複素解析Ⅰ	1	
位相入門Ⅰ	1	
代数入門Ⅰ	1	
幾何入門	1	

現象の数理モデルⅠ	1
拡散現象の数理Ⅰ	1
機械学習Ⅰ	1
オブジェクト指向及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅠ	1
複素解析Ⅱ	1
位相入門Ⅱ	1
代数入門Ⅱ	1
ベクトル解析入門	1
現象の数理モデルⅡ	1
拡散現象の数理Ⅱ	1
機械学習Ⅱ	1
グラフィックス及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅡ	1
応用幾何	1
波動現象の数理Ⅰ	1
確率統計Ⅱ	1
ネットワーク及び演習	2
言語と計算Ⅰ	1
最適化の数理Ⅰ	1
確率モデル及び演習	2
波動現象の数理Ⅱ	1
確率統計Ⅲ	1
言語と計算Ⅱ	1
最適化の数理Ⅱ	1
セミナーⅠ	4
セミナーⅡ	2
特別研究Ⅰ	2
特別研究Ⅱ	6
確率および統計・演習	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2

アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1
電子物性	1
半導体デバイス工学	1
光デバイス	1
ナノエレクトロニクス工学	1
伝送線路	1
高周波電子回路	1
組込みシステム	1
統計的機械学習	1
認知科学	1
群知能	1
画像情報処理	1
データサイエンス	1
電子材料	1
パワーエレクトロニクス	1
ニューラルネットワーク	1
知能ロボット	1
応用プログラミング・演習	1
人工知能	1
情報セキュリティ	1
アナログ電子回路	2
薄膜デバイス工学	2
電子工学	2
電磁波工学	1
符号理論	2
情報数学	1
計算機制御・演習	1
計測工学	1
回路設計・演習	1
結晶工学	2
量子力学	2

無線通信工学	2	
ディジタル信号処理・演習	2	
ネットワーク通信システム	2	
計算機アーキテクチャ	1	
材料力学Ⅰ	1	
流体工学Ⅰ	1	
材料力学Ⅱ	1	
流体工学Ⅱ	1	
振動工学Ⅰ	1	
材料力学Ⅲ	1	
基礎機械材料学	1	
粘性流体力学	1	
熱力学Ⅰ	1	
ディジタル電子制御Ⅰ	1	
機構学Ⅰ	1	
振動工学Ⅱ	1	
応用材料力学	1	
機械材料学	1	
航空流体力学	1	
熱力学Ⅱ	1	
ディジタル電子制御Ⅱ	1	
機構学Ⅱ	1	
弾性力学	1	
計算力学実習Ⅰ	1	
機械要素	1	
材料加工学	1	
航空・宇宙工学	1	
熱工学Ⅰ	1	
計測工学Ⅰ	1	
制御系設計論Ⅰ	1	
メカトロニクスⅠ	1	

ロボット実習	1
構造力学	1
機械設計	1
機械加工学	1
自動車工学	1
熱工学Ⅱ	1
計測工学Ⅱ	1
制御系設計論Ⅱ	1
メカトロニクスⅡ	1
バイオメカニクス	1
材料強度学Ⅰ	1
伝熱工学Ⅰ	1
ロボット工学Ⅰ	1
解析力学	1
材料強度学Ⅱ	1
伝熱工学Ⅱ	1
ロボット工学Ⅱ	1
化学と社会	2
資源・エネルギーと環境	2
化学と安全管理	2
生化学Ⅰ	1
量子材料科学Ⅰ	1
電気化学Ⅰ	1
結晶学入門Ⅰ	1
高分子化学Ⅰ	1
アドバンスト機器分析化学Ⅰ	1
分析化学	1
生化学Ⅱ	1
量子材料科学Ⅱ	1
電気化学Ⅱ	1
結晶学入門Ⅱ	1

高分子化学Ⅱ	1	
機器分析化学	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1	
化学工学	2	
アドバンスト環境化学Ⅰ	1	
循環系グリーンケミストリー	1	
半導体材料Ⅰ	1	
固体物性化学Ⅰ	1	
エネルギー変換工学Ⅰ	1	
医薬品のプロセス化学	1	
分子集合化学	1	
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1	
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1	
セラミックス材料工学Ⅰ	1	
界面化学	1	
食と分子科学	1	
半導体材料Ⅱ	1	
固体物性化学Ⅱ	1	
アドバンスト電気化学	1	
エネルギー変換工学Ⅱ	1	
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1	
セラミックス材料工学Ⅱ	1	
アドバンスト環境化学Ⅱ	1	
バイオマテリアルⅠ	1	
構造解析学	1	
光化学Ⅰ	1	
逆合成解析化学Ⅰ	1	
高分子構造材料物性Ⅰ	1	
高分子材料工学Ⅰ	1	
ナノマテリアル	1	
バイオマテリアルⅡ	1	

光化学Ⅱ	1	
逆合成解析化学Ⅱ	1	
高分子構造材料物性Ⅱ	1	
高分子材料工学Ⅱ	1	
反応工学	1	
ディジタル信号処理	2	
仮想メディアシステム	2	
情報とセキュリティ	2	
システムソフトウェア	2	
データベース	2	
ヒューマンコンピュータインタラクション	2	
コンピュータビジョン	2	
多様なプログラミング言語	2	
音声・音響メディア処理論	2	
環境としての情報技術	2	
言語メディア処理論	2	
CGとVR	2	
ニューロとAI	2	
データインテリジェンス	2	
ネットワーク構成論	2	
画像メディア処理論	2	
ソフトウェア開発法	2	
応用アルゴリズム	2	
環境実習ＩA	1	
地域環境概論A	1	
生物学概論	2	
環境生態工学概論	2	
地球環境概論A	1	
地域環境概論B	1	
地球環境概論B	1	
生態学概論Ⅰ	1	

SDGs概論	1	
水環境科学	1	
里山の生態学	1	
大気環境科学	1	
進化学	1	
生物資源利用	1	
生態学概論Ⅱ	1	
化学工学Ⅰ	1	
気象学	1	
土木工学Ⅰ	1	
測量学及び演習	2	
環境実習ⅡA	1	
自然の浄化機構	1	
環境社会学	1	
環境倫理学	1	
社会調査法及び演習	2	
保全生態学	1	
環境経済学	1	
生理生態学	1	
環境調査	1	
化学工学Ⅱ	1	
製図学及び演習	2	
土木工学Ⅱ	1	
環境政策論	1	
環境移動現象論	1	
廃棄物管理学Ⅰ	1	
環境微生物学	1	
環境計測学	1	
先端技術	1	
燃焼工学	1	
廃棄物管理学Ⅱ	1	

水理学	1
データサイエンス及び演習	1
土壌地質学	1
環境分析化学実験	1
水域生態学	1
排ガス処理工学	1
空気調和工学	1
資源循環論	1
水環境施設実験	1
廃棄物・大気環境施設実験	1
水処理工学	1
環境毒性学	1
地理情報学	1
資源管理学及び演習	1
群集生態学	1
水道工学	1
水処理施設設計	1
環境アセスメントB	1
下水道工学	1
廃棄物処理施設設計	1
数値計算法基礎及び演習	1
環境アセスメントA	1
景観生態学	1
微生物生態学	1
応用生態学	1

② 知能情報メディア課程

授業科目	単位数
情報基礎	2
フレッシャーズセミナー	2
キャリア実習・実習指導	2
理工学のすすめ	2

ASEANグローバルプログラム	2	
デザインシンキング	2	
グローバル人材育成プログラム	2	
プロジェクトリサーチⅠ	1	
プロジェクトリサーチⅡ	2	
先端理工キャリア実習Ⅰ	1	
先端理工インターンシップⅠ	1	
先端理工キャリア実習Ⅱ	2	
先端理工インターンシップⅡ	2	
メディア処理基礎	2	
ネットワーク基礎	2	
微分積分・演習	4	
情報システム基礎	2	
プログラミング基礎演習Ⅰ	2	
プログラミング基礎演習Ⅱ	2	
確率・統計	2	
ディジタル信号処理	2	
ソフトウェア基礎	2	
知的財産概論	2	
ハードウェア基礎	2	
仮想メディアシステム	2	
情報とセキュリティ	2	
線形代数・演習	4	
データ構造とアルゴリズム・演習	4	
システムソフトウェア	2	
情報学概論	2	
人間工学概論	2	
情報と職業	2	
情報数学基礎	2	
データベース	2	
クラウドコンピューティング演習	2	

ヒューマンコンピュータインタラクション	2	
多様なプログラミング言語	2	
コンピュータビジョン	2	
知能情報メディア演習	4	
音声・音響メディア処理論	2	
環境としての情報技術	2	
ニューロとAI	2	
言語メディア処理論	2	
CGとVR	2	
データインテリジェンス	2	
ネットワーク構成論	2	
実践プログラミング・演習	2	
科学技術計算・演習	2	
画像メディア処理論	2	
ソフトウェア開発法	2	
応用アルゴリズム	2	
ネットワークシステム・演習	4	
コラボレーション演習	4	
知能情報メディアセミナー	2	
科学技術英語	2	
特別研究	6	
アルゴリズム及び演習Ⅰ	2	
シミュレーション及び演習	2	
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2	
微分方程式Ⅱ	2	
質点系の力学	2	
多変量解析及び演習	3	
複素解析Ⅰ	1	
位相入門Ⅰ	1	
代数入門Ⅰ	1	
幾何入門	1	

現象の数理モデルⅠ	1
拡散現象の数理Ⅰ	1
確率モデル及び演習	2
オブジェクト指向及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅠ	1
機械学習Ⅰ	1
数理・情報科学の学びと社会	1
複素解析Ⅱ	1
位相入門Ⅱ	1
代数入門Ⅱ	1
ベクトル解析入門	1
現象の数理モデルⅡ	1
拡散現象の数理Ⅱ	1
グラフィックス及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅡ	1
機械学習Ⅱ	1
応用幾何	1
波動現象の数理Ⅰ	1
確率統計Ⅱ	1
ネットワーク及び演習	2
言語と計算Ⅰ	1
最適化の数理Ⅰ	1
波動現象の数理Ⅱ	1
確率統計Ⅲ	1
言語と計算Ⅱ	1
最適化の数理Ⅱ	1
確率および統計・演習	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1
電子物性	1
半導体デバイス工学	1

光デバイス	1
ナノエレクトロニクス工学	1
伝送線路	1
高周波電子回路	1
組込みシステム	1
統計的機械学習	1
認知科学	1
群知能	1
画像情報処理	1
データサイエンス	1
電子材料	1
パワーエレクトロニクス	1
ニューラルネットワーク	1
知能ロボット	1
応用プログラミング・演習	1
人工知能	1
情報セキュリティ	1
アナログ電子回路	2
薄膜デバイス工学	2
電子工学	2
電磁波工学	1
符号理論	2
情報数学	1
計算機制御・演習	1
計測工学	1
回路設計・演習	1
結晶工学	2
量子力学	2
無線通信工学	2
ディジタル信号処理・演習	2
ネットワーク通信システム	2

計算機アーキテクチャ	1	
材料力学Ⅰ	1	
流体工学Ⅰ	1	
材料力学Ⅱ	1	
流体工学Ⅱ	1	
振動工学Ⅰ	1	
材料力学Ⅲ	1	
基礎機械材料学	1	
粘性流体力学	1	
熱力学Ⅰ	1	
ディジタル電子制御Ⅰ	1	
機構学Ⅰ	1	
振動工学Ⅱ	1	
応用材料力学	1	
機械材料学	1	
航空流体力学	1	
熱力学Ⅱ	1	
ディジタル電子制御Ⅱ	1	
機構学Ⅱ	1	
弾性力学	1	
計算力学実習Ⅰ	1	
機械要素	1	
材料加工学	1	
航空・宇宙工学	1	
熱工学Ⅰ	1	
計測工学Ⅰ	1	
制御系設計論Ⅰ	1	
メカトロニクスⅠ	1	
ロボット実習	1	
構造力学	1	
機械設計	1	

機械加工学	1	
自動車工学	1	
熱工学Ⅱ	1	
計測工学Ⅱ	1	
制御系設計論Ⅱ	1	
メカトロニクスⅡ	1	
バイオメカニクス	1	
材料強度学Ⅰ	1	
伝熱工学Ⅰ	1	
ロボット工学Ⅰ	1	
解析力学	1	
材料強度学Ⅱ	1	
伝熱工学Ⅱ	1	
ロボット工学Ⅱ	1	
化学と社会	2	
資源・エネルギーと環境	2	
化学と安全管理	2	
生化学Ⅰ	1	
量子材料科学Ⅰ	1	
電気化学Ⅰ	1	
結晶学入門Ⅰ	1	
高分子化学Ⅰ	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅰ	1	
分析化学	1	
生化学Ⅱ	1	
量子材料科学Ⅱ	1	
電気化学Ⅱ	1	
結晶学入門Ⅱ	1	
高分子化学Ⅱ	1	
機器分析化学	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1	

化学工学	2
アドバンスト環境化学Ⅰ	1
循環系グリーンケミストリー	1
半導体材料Ⅰ	1
固体物性化学Ⅰ	1
エネルギー変換工学Ⅰ	1
医薬品のプロセス化学	1
分子集合化学	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1
セラミックス材料工学Ⅰ	1
界面化学	1
食と分子科学	1
半導体材料Ⅱ	1
固体物性化学Ⅱ	1
アドバンスト電気化学	1
エネルギー変換工学Ⅱ	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1
セラミックス材料工学Ⅱ	1
アドバンスト環境化学Ⅱ	1
バイオマテリアルⅠ	1
構造解析学	1
光化学Ⅰ	1
逆合成解析化学Ⅰ	1
高分子構造材料物性Ⅰ	1
高分子材料工学Ⅰ	1
ナノマテリアル	1
バイオマテリアルⅡ	1
光化学Ⅱ	1
逆合成解析化学Ⅱ	1
高分子構造材料物性Ⅱ	1

高分子材料工学Ⅱ	1
反応工学	1
環境実習ⅠA	1
地域環境概論A	1
生物学概論	2
環境生態工学概論	2
地球環境概論A	1
地域環境概論B	1
地球環境概論B	1
生態学概論Ⅰ	1
SDGs概論	1
水環境科学	1
里山の生態学	1
大気環境科学	1
進化学	1
生物資源利用	1
生態学概論Ⅱ	1
化学工学Ⅰ	1
気象学	1
土木工学Ⅰ	1
測量学及び演習	2
環境実習ⅡA	1
自然の浄化機構	1
環境社会学	1
環境倫理学	1
社会調査法及び演習	2
保全生態学	1
環境経済学	1
生理生態学	1
環境調査	1
化学工学Ⅱ	1

製図学及び演習	2	
土木工学Ⅱ	1	
環境政策論	1	
環境移動現象論	1	
廃棄物管理学Ⅰ	1	
環境微生物学	1	
環境計測学	1	
先端技術	1	
燃焼工学	1	
廃棄物管理学Ⅱ	1	
水理学	1	
データサイエンス及び演習	1	
土壌地質学	1	
環境分析化学実験	1	
水域生態学	1	
排ガス処理工学	1	
空気調和工学	1	
資源循環論	1	
水環境施設実験	1	
廃棄物・大気環境施設実験	1	
水処理工学	1	
環境毒性学	1	
地理情報学	1	
資源管理学及び演習	1	
群集生態学	1	
水道工学	1	
水処理施設設計	1	
環境アセスメントB	1	
下水道工学	1	
廃棄物処理施設設計	1	
数値計算法基礎及び演習	1	

環境アセスメントA	1
景観生態学	1
微生物生態学	1
応用生態学	1

③　電子情報通信課程

授業科目	単位数
情報基礎	2
フレッシャーズセミナー	2
キャリア実習・実習指導	2
理工学のすすめ	2
ASEANグローバルプログラム	2
デザインシンキング	2
グローバル人材育成プログラム	2
プロジェクトリサーチⅠ	1
プロジェクトリサーチⅡ	2
先端理工キャリア実習Ⅰ	1
先端理工インターンシップⅠ	1
先端理工キャリア実習Ⅱ	2
先端理工インターンシップⅡ	2
基礎数学Ⅰ・演習	2
情報通信基礎	2
計算機実習Ⅰ	1
基礎数学Ⅱ・演習	2
理数基礎Ⅰ・演習	2
基礎セミナー	2
線形代数学Ⅰ・演習	2
微分積分学Ⅰ・演習	2
電気回路基礎・演習	2
電子回路基礎・演習	1
微分積分学Ⅱ・演習	2
計算機実習Ⅱ	1

理数基礎Ⅱ・演習	2
線形代数学Ⅱ・演習	2
プログラミング法Ⅰ・演習	2
計算機システム基礎	2
ベクトル解析Ⅰ・演習	2
確率および統計・演習	2
物理・演習	1
プログラミング法Ⅱ・演習	1
ディジタル論理	2
電子情報通信実験Ⅰ	2
電気回路応用・演習	1
電磁気学基礎・演習	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2
ベクトル解析Ⅱ・演習	1
フーリエ解析	1
電子回路応用・演習	1
電磁気学応用・演習	1
通信工学基礎	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1
微分方程式とフーリエ変換	1
電子情報通信実験Ⅱ	2
特別講義	2
職業指導	4
クラウドコンピューティング演習	2
電子物性	1
半導体デバイス工学	1
統計的機械学習	1
認知科学	1
光デバイス	1
ナノエレクトロニクス工学	1
高周波電子回路	1

伝送線路	1
組込みシステム	1
群知能	1
画像情報処理	1
データサイエンス	1
電子材料	1
知能ロボット	1
人工知能	1
情報セキュリティ	1
ニューラルネットワーク	1
パワーエレクトロニクス	1
応用プログラミング・演習	1
情報数学	1
薄膜デバイス工学	2
電子工学	2
電磁波工学	1
符号理論	2
アナログ電子回路	2
計算機制御・演習	1
ディジタル信号処理・演習	2
計測工学	1
ネットワーク通信システム	2
回路設計・演習	1
結晶工学	2
量子力学	2
無線通信工学	2
計算機アーキテクチャ	1
専門基礎研究	2
応用セミナー	2
科学技術英語	2
特別研究	6

アルゴリズム及び演習Ⅰ	2	
シミュレーション及び演習	2	
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2	
微分方程式Ⅱ	2	
質点系の力学	2	
多変量解析及び演習	3	
複素解析Ⅰ	1	
位相入門Ⅰ	1	
代数入門Ⅰ	1	
幾何入門	1	
現象の数理モデルⅠ	1	
拡散現象の数理Ⅰ	1	
確率モデル及び演習	2	
オブジェクト指向及び演習	2	
データ構造とアルゴリズムⅠ	1	
機械学習Ⅰ	1	
数理・情報科学の学びと社会	1	
複素解析Ⅱ	1	
位相入門Ⅱ	1	
代数入門Ⅱ	1	
ベクトル解析入門	1	
現象の数理モデルⅡ	1	
拡散現象の数理Ⅱ	1	
グラフィックス及び演習	2	
データ構造とアルゴリズムⅡ	1	
機械学習Ⅱ	1	
応用幾何	1	
波動現象の数理Ⅰ	1	
確率統計Ⅱ	1	
ネットワーク及び演習	2	
言語と計算Ⅰ	1	

最適化の数理Ⅰ	1	
波動現象の数理Ⅱ	1	
確率統計Ⅲ	1	
言語と計算Ⅱ	1	
最適化の数理Ⅱ	1	
材料力学Ⅰ	1	
流体工学Ⅰ	1	
材料力学Ⅱ	1	
流体工学Ⅱ	1	
振動工学Ⅰ	1	
材料力学Ⅲ	1	
基礎機械材料学	1	
粘性流体力学	1	
熱力学Ⅰ	1	
ディジタル電子制御Ⅰ	1	
機構学Ⅰ	1	
振動工学Ⅱ	1	
応用材料力学	1	
機械材料学	1	
航空流体力学	1	
熱力学Ⅱ	1	
ディジタル電子制御Ⅱ	1	
機構学Ⅱ	1	
弾性力学	1	
計算力学実習Ⅰ	1	
機械要素	1	
材料加工学	1	
航空・宇宙工学	1	
熱工学Ⅰ	1	
計測工学Ⅰ	1	
制御系設計論Ⅰ	1	

メカトロニクスⅠ	1
ロボット実習	1
構造力学	1
機械設計	1
機械加工学	1
自動車工学	1
熱工学Ⅱ	1
計測工学Ⅱ	1
制御系設計論Ⅱ	1
メカトロニクスⅡ	1
バイオメカニクス	1
材料強度学Ⅰ	1
伝熱工学Ⅰ	1
ロボット工学Ⅰ	1
解析力学	1
材料強度学Ⅱ	1
伝熱工学Ⅱ	1
ロボット工学Ⅱ	1
化学と社会	2
資源・エネルギーと環境	2
化学と安全管理	2
生化学Ⅰ	1
量子材料科学Ⅰ	1
電気化学Ⅰ	1
結晶学入門Ⅰ	1
高分子化学Ⅰ	1
アドバンスト機器分析化学Ⅰ	1
分析化学	1
生化学Ⅱ	1
量子材料科学Ⅱ	1
電気化学Ⅱ	1

結晶学入門Ⅱ	1	
高分子化学Ⅱ	1	
機器分析化学	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1	
化学工学	2	
アドバンスト環境化学Ⅰ	1	
循環系グリーンケミストリー	1	
半導体材料Ⅰ	1	
固体物性化学Ⅰ	1	
エネルギー変換工学Ⅰ	1	
医薬品のプロセス化学	1	
分子集合化学	1	
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1	
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1	
セラミックス材料工学Ⅰ	1	
界面化学	1	
食と分子科学	1	
半導体材料Ⅱ	1	
固体物性化学Ⅱ	1	
アドバンスト電気化学	1	
エネルギー変換工学Ⅱ	1	
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1	
セラミックス材料工学Ⅱ	1	
アドバンスト環境化学Ⅱ	1	
バイオマテリアルⅠ	1	
構造解析学	1	
光化学Ⅰ	1	
逆合成解析化学Ⅰ	1	
高分子構造材料物性Ⅰ	1	
高分子材料工学Ⅰ	1	
ナノマテリアル	1	

バイオマテリアルⅡ	1
光化学Ⅱ	1
逆合成解析化学Ⅱ	1
高分子構造材料物性Ⅱ	1
高分子材料工学Ⅱ	1
反応工学	1
ディジタル信号処理	2
仮想メディアシステム	2
情報とセキュリティ	2
システムソフトウェア	2
データベース	2
ヒューマンコンピュータインタラクション	2
コンピュータビジョン	2
多様なプログラミング言語	2
音声・音響メディア処理論	2
環境としての情報技術	2
言語メディア処理論	2
CGとVR	2
ニューロとAI	2
データインテリジェンス	2
ネットワーク構成論	2
画像メディア処理論	2
ソフトウェア開発法	2
応用アルゴリズム	2
環境実習ＩA	1
地域環境概論A	1
生物学概論	2
環境生態工学概論	2
地球環境概論A	1
地域環境概論B	1
地球環境概論B	1

生態学概論Ⅰ	1
SDGs概論	1
水環境科学	1
里山の生態学	1
大気環境科学	1
進化学	1
生物資源利用	1
生態学概論Ⅱ	1
化学工学Ⅰ	1
気象学	1
土木工学Ⅰ	1
測量学及び演習	2
環境実習ⅡA	1
自然の浄化機構	1
環境社会学	1
環境倫理学	1
社会調査法及び演習	2
保全生態学	1
環境経済学	1
生理生態学	1
環境調査	1
化学工学Ⅱ	1
製図学及び演習	2
土木工学Ⅱ	1
環境政策論	1
環境移動現象論	1
廃棄物管理学Ⅰ	1
環境微生物学	1
環境計測学	1
先端技術	1
燃焼工学	1

廃棄物管理学Ⅱ	1
水理学	1
データサイエンス及び演習	1
土壌地質学	1
環境分析化学実験	1
水域生態学	1
排ガス処理工学	1
空気調和工学	1
資源循環論	1
水環境施設実験	1
廃棄物・大気環境施設実験	1
水処理工学	1
環境毒性学	1
地理情報学	1
資源管理学及び演習	1
群集生態学	1
水道工学	1
水処理施設設計	1
環境アセスメントB	1
下水道工学	1
廃棄物処理施設設計	1
数値計算法基礎及び演習	1
環境アセスメントA	1
景観生態学	1
微生物生態学	1
応用生態学	1

④　機械工学・ロボティクス課程

授業科目	単位数
情報基礎	2
フレッシャーズセミナー	2
キャリア実習・実習指導	2

理工学のすすめ	2
ASEANグローバルプログラム	2
デザインシンキング	2
グローバル人材育成プログラム	2
プロジェクトリサーチⅠ	1
プロジェクトリサーチⅡ	2
先端理工キャリア実習Ⅰ	1
先端理工インターンシップⅠ	1
先端理工キャリア実習Ⅱ	2
先端理工インターンシップⅡ	2
微分積分	1
基礎力学Ⅰ	1
微分方程式	1
基礎力学Ⅱ	1
機械工学・ロボティクス入門	1
数学・物理学演習Ⅰ	1
偏微分	1
線形代数Ⅰ	1
力学Ⅰ	1
重積分	1
線形代数Ⅱ	1
力学Ⅱ	1
数学・物理学演習Ⅱ	1
物理実験	2
職業指導	4
クラウドコンピューティング演習	2
確率・統計Ⅰ	1
フーリエ変換	1
電磁気学Ⅰ	1
機械力学Ⅰ	1
材料力学Ⅰ	1

流体工学Ⅰ	1	
アナログ電子制御Ⅰ	1	
確率・統計Ⅱ	1	
ラプラス変換	1	
電磁気学Ⅱ	1	
機械力学Ⅱ	1	
材料力学Ⅱ	1	
流体工学Ⅱ	1	
アナログ電子制御Ⅱ	1	
計算機プログラミング実習	2	
機械製図Ⅰ	2	
ベクトル解析	1	
振動工学Ⅰ	1	
材料力学Ⅲ	1	
粘性流体力学	1	
熱力学Ⅰ	1	
ディジタル電子制御Ⅰ	1	
制御工学Ⅰ	1	
機構学Ⅰ	1	
基礎機械材料学	1	
複素解析	1	
振動工学Ⅱ	1	
応用材料力学	1	
航空流体力学	1	
熱力学Ⅱ	1	
ディジタル電子制御Ⅱ	1	
制御工学Ⅱ	1	
機構学Ⅱ	1	
機械材料学	1	
計算機応用実習	2	
機械工学基礎実験	2	

機械製図Ⅱ	2	
計測工学Ⅰ	1	
弾性力学	1	
航空・宇宙工学	1	
熱工学Ⅰ	1	
制御系設計論Ⅰ	1	
計算力学実習Ⅰ	1	
機械工学・ロボティクス実験	1	
機械要素	1	
メカトロニクスⅠ	1	
先進材料プロセス学	1	
材料加工学	1	
材料力学実習	1	
ロボット実習	1	
熱・流体実習	1	
計測工学Ⅱ	1	
構造力学	1	
自動車工学	1	
熱工学Ⅱ	1	
制御系設計論Ⅱ	1	
計算力学実習Ⅱ	1	
機械設計	1	
メカトロニクスⅡ	1	
先進材料工学	1	
機械加工学	1	
材料力学・機械力学演習	1	
電子・制御演習	1	
バイオメカニクス	1	
材料強度学Ⅰ	1	
伝熱工学Ⅰ	1	
システム工学Ⅰ	1	

ロボット工学Ⅰ	1
熱・流体演習	1
解析力学	1
材料強度学Ⅱ	1
伝熱工学Ⅱ	1
システム工学Ⅱ	1
ロボット工学Ⅱ	1
設計製図	2
セミナー	2
科学技術英語	2
特別研究	6
アルゴリズム及び演習Ⅰ	2
シミュレーション及び演習	2
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2
微分方程式Ⅱ	2
質点系の力学	2
多変量解析及び演習	3
複素解析Ⅰ	1
位相入門Ⅰ	1
代数入門Ⅰ	1
幾何入門	1
現象の数理モデルⅠ	1
拡散現象の数理Ⅰ	1
確率モデル及び演習	2
オブジェクト指向及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅠ	1
機械学習Ⅰ	1
数理・情報科学の学びと社会	1
複素解析Ⅱ	1
位相入門Ⅱ	1
代数入門Ⅱ	1

ベクトル解析入門	1	
現象の数理モデルⅡ	1	
拡散現象の数理Ⅱ	1	
グラフィックス及び演習	2	
データ構造とアルゴリズムⅡ	1	
機械学習Ⅱ	1	
応用幾何	1	
波動現象の数理Ⅰ	1	
確率統計Ⅱ	1	
ネットワーク及び演習	2	
言語と計算Ⅰ	1	
最適化の数理Ⅰ	1	
波動現象の数理Ⅱ	1	
確率統計Ⅲ	1	
言語と計算Ⅱ	1	
最適化の数理Ⅱ	1	
確率および統計・演習	2	
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2	
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1	
電子物性	1	
半導体デバイス工学	1	
光デバイス	1	
ナノエレクトロニクス工学	1	
伝送線路	1	
高周波電子回路	1	
組込みシステム	1	
統計的機械学習	1	
認知科学	1	
群知能	1	
画像情報処理	1	
データサイエンス	1	

電子材料	1	
パワーエレクトロニクス	1	
ニューラルネットワーク	1	
知能ロボット	1	
応用プログラミング・演習	1	
人工知能	1	
情報セキュリティ	1	
アナログ電子回路	2	
薄膜デバイス工学	2	
電子工学	2	
電磁波工学	1	
符号理論	2	
情報数学	1	
計算機制御・演習	1	
計測工学	1	
回路設計・演習	1	
結晶工学	2	
量子力学	2	
無線通信工学	2	
ディジタル信号処理・演習	2	
ネットワーク通信システム	2	
計算機アーキテクチャ	1	
化学と社会	2	
資源・エネルギーと環境	2	
化学と安全管理	2	
生化学 I	1	
量子材料科学 I	1	
電気化学 I	1	
結晶学入門 I	1	
高分子化学 I	1	
アドバンスト機器分析化学 I	1	

分析化学	1
生化学Ⅱ	1
量子材料科学Ⅱ	1
電気化学Ⅱ	1
結晶学入門Ⅱ	1
高分子化学Ⅱ	1
機器分析化学	1
アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1
化学工学	2
アドバンスト環境化学Ⅰ	1
循環系グリーンケミストリー	1
半導体材料Ⅰ	1
固体物性化学Ⅰ	1
エネルギー変換工学Ⅰ	1
医薬品のプロセス化学	1
分子集合化学	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1
セラミックス材料工学Ⅰ	1
界面化学	1
食と分子科学	1
半導体材料Ⅱ	1
固体物性化学Ⅱ	1
アドバンスト電気化学	1
エネルギー変換工学Ⅱ	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1
セラミックス材料工学Ⅱ	1
アドバンスト環境化学Ⅱ	1
バイオマテリアルⅠ	1
構造解析学	1
光化学Ⅰ	1

逆合成解析化学Ⅰ	1
高分子構造材料物性Ⅰ	1
高分子材料工学Ⅰ	1
ナノマテリアル	1
バイオマテリアルⅡ	1
光化学Ⅱ	1
逆合成解析化学Ⅱ	1
高分子構造材料物性Ⅱ	1
高分子材料工学Ⅱ	1
反応工学	1
ディジタル信号処理	2
仮想メディアシステム	2
情報とセキュリティ	2
システムソフトウェア	2
データベース	2
ヒューマンコンピュータインタラクション	2
コンピュータビジョン	2
多様なプログラミング言語	2
音声・音響メディア処理論	2
環境としての情報技術	2
言語メディア処理論	2
CGとVR	2
ニューロとAI	2
データインテリジェンス	2
ネットワーク構成論	2
画像メディア処理論	2
ソフトウェア開発法	2
応用アルゴリズム	2
環境実習ＩA	1
地域環境概論A	1
生物学概論	2

環境生態工学概論	2	
地球環境概論A	1	
地域環境概論B	1	
地球環境概論B	1	
生態学概論Ⅰ	1	
SDGs概論	1	
水環境科学	1	
里山の生態学	1	
大気環境科学	1	
進化学	1	
生物資源利用	1	
生態学概論Ⅱ	1	
化学工学Ⅰ	1	
気象学	1	
土木工学Ⅰ	1	
測量学及び演習	2	
環境実習ⅡA	1	
自然の浄化機構	1	
環境社会学	1	
環境倫理学	1	
社会調査法及び演習	2	
保全生態学	1	
環境経済学	1	
生理生態学	1	
環境調査	1	
化学工学Ⅱ	1	
製図学及び演習	2	
土木工学Ⅱ	1	
環境政策論	1	
環境移動現象論	1	
廃棄物管理学Ⅰ	1	

環境微生物学	1
環境計測学	1
先端技術	1
燃焼工学	1
廃棄物管理学Ⅱ	1
水理学	1
データサイエンス及び演習	1
土壌地質学	1
水域生態学	1
環境分析化学実験	1
空気調和工学	1
資源循環論	1
水環境施設実験	1
廃棄物・大気環境施設実験	1
水処理工学	1
環境毒性学	1
地理情報学	1
資源管理学及び演習	1
群集生態学	1
排ガス処理工学	1
水処理施設設計	1
環境アセスメントB	1
水道工学	1
廃棄物処理施設設計	1
数値計算法基礎及び演習	1
環境アセスメントA	1
下水道工学	1
景観生態学	1
微生物生態学	1
応用生態学	1

⑤　応用化学課程

授業科目	単位数
情報基礎	2
フレッシャーズセミナー	2
キャリア実習・実習指導	2
理工学のすすめ	2
ASEANグローバルプログラム	2
デザインシンキング	2
グローバル人材育成プログラム	2
プロジェクトリサーチⅠ	1
プロジェクトリサーチⅡ	2
先端理工キャリア実習Ⅰ	1
先端理工インターンシップⅠ	1
先端理工キャリア実習Ⅱ	2
先端理工インターンシップⅡ	2
化学と社会	2
数学の基礎	2
化学の基礎	2
プロジェクト演習Ⅰ	2
資源・エネルギーと環境	2
物理の基礎	2
化学基礎実験	2
物理化学Ⅰ	2
有機化学Ⅰ	2
無機化学Ⅰ	2
物理基礎実験	2
物理化学実験	1
機器分析化学実験	1
物理化学Ⅱ	2
有機化学Ⅱ	2
無機化学Ⅱ	2
化学と安全管理	2

化学と情報処理	2	
地学概論	2	
生物学概論	2	
プロジェクト演習Ⅱ	2	
物理化学Ⅲ	2	
地学実験	2	
生物学実験	2	
化学の英語	2	
化学合成実験	2	
クラウドコンピューティング演習	2	
アドバンスト数学Ⅰ	1	
アドバンスト物理Ⅰ	1	
アドバンスト数学Ⅱ	1	
アドバンスト物理Ⅱ	1	
アドバンスト数学Ⅲ	1	
アドバンスト物理Ⅲ	1	
分析化学	1	
量子材料科学Ⅰ	1	
電気化学Ⅰ	1	
生化学Ⅰ	1	
結晶学入門Ⅰ	1	
高分子化学Ⅰ	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅰ	1	
アドバンスト数学Ⅳ	1	
アドバンスト物理Ⅳ	1	
機器分析化学	1	
量子材料科学Ⅱ	1	
電気化学Ⅱ	1	
生化学Ⅱ	1	
結晶学入門Ⅱ	1	
高分子化学Ⅱ	1	

アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1	
化学工学	2	
半導体材料Ⅰ	1	
固体物性化学Ⅰ	1	
エネルギー変換工学Ⅰ	1	
医薬品のプロセス化学	1	
分子集合化学	1	
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1	
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1	
セラミックス材料工学Ⅰ	1	
界面化学	1	
アドバンスト環境化学Ⅰ	1	
循環系グリーンケミストリー	1	
食と分子科学	1	
アドバンスト物質科学合成実験	2	
半導体材料Ⅱ	1	
固体物性化学Ⅱ	1	
アドバンスト電気化学	1	
エネルギー変換工学Ⅱ	1	
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1	
セラミックス材料工学Ⅱ	1	
アドバンスト環境化学Ⅱ	1	
構造解析学	1	
バイオマテリアルⅠ	1	
光化学Ⅰ	1	
逆合成解析化学Ⅰ	1	
高分子構造材料物性Ⅰ	1	
高分子材料工学Ⅰ	1	
ナノマテリアル	1	
バイオマテリアルⅡ	1	
光化学Ⅱ	1	

逆合成解析化学Ⅱ	1
高分子構造材料物性Ⅱ	1
高分子材料工学Ⅱ	1
反応工学	1
研究デザイン演習	2
科学技術英語	2
英語セミナー	2
特別研究	10
アルゴリズム及び演習Ⅰ	2
シミュレーション及び演習	2
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2
微分方程式Ⅱ	2
質点系の力学	2
多変量解析及び演習	3
複素解析Ⅰ	1
位相入門Ⅰ	1
代数入門Ⅰ	1
幾何入門	1
現象の数理モデルⅠ	1
拡散現象の数理Ⅰ	1
確率モデル及び演習	2
オブジェクト指向及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅠ	1
機械学習Ⅰ	1
数理・情報科学の学びと社会	1
複素解析Ⅱ	1
位相入門Ⅱ	1
代数入門Ⅱ	1
ベクトル解析入門	1
現象の数理モデルⅡ	1
拡散現象の数理Ⅱ	1

グラフィックス及び演習	2	
データ構造とアルゴリズムⅡ	1	
機械学習Ⅱ	1	
応用幾何	1	
波動現象の数理Ⅰ	1	
確率統計Ⅱ	1	
ネットワーク及び演習	2	
言語と計算Ⅰ	1	
最適化の数理Ⅰ	1	
波動現象の数理Ⅱ	1	
確率統計Ⅲ	1	
言語と計算Ⅱ	1	
最適化の数理Ⅱ	1	
確率および統計・演習	2	
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2	
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1	
電子物性	1	
半導体デバイス工学	1	
光デバイス	1	
ナノエレクトロニクス工学	1	
伝送線路	1	
高周波電子回路	1	
組込みシステム	1	
統計的機械学習	1	
認知科学	1	
群知能	1	
画像情報処理	1	
データサイエンス	1	
電子材料	1	
パワーエレクトロニクス	1	
ニューラルネットワーク	1	

知能ロボット	1
応用プログラミング・演習	1
人工知能	1
情報セキュリティ	1
アナログ電子回路	2
薄膜デバイス工学	2
電子工学	2
電磁波工学	1
符号理論	2
情報数学	1
計算機制御・演習	1
計測工学	1
回路設計・演習	1
結晶工学	2
量子力学	2
無線通信工学	2
ディジタル信号処理・演習	2
ネットワーク通信システム	2
計算機アーキテクチャ	1
材料力学Ⅰ	1
流体工学Ⅰ	1
材料力学Ⅱ	1
流体工学Ⅱ	1
振動工学Ⅰ	1
材料力学Ⅲ	1
基礎機械材料学	1
粘性流体力学	1
熱力学Ⅰ	1
ディジタル電子制御Ⅰ	1
機構学Ⅰ	1
振動工学Ⅱ	1

応用材料力学	1	
機械材料学	1	
航空流体力学	1	
熱力学Ⅱ	1	
ディジタル電子制御Ⅱ	1	
機構学Ⅱ	1	
弾性力学	1	
計算力学実習Ⅰ	1	
機械要素	1	
材料加工学	1	
航空・宇宙工学	1	
熱工学Ⅰ	1	
計測工学Ⅰ	1	
制御系設計論Ⅰ	1	
メカトロニクスⅠ	1	
ロボット実習	1	
構造力学	1	
機械設計	1	
機械加工学	1	
自動車工学	1	
熱工学Ⅱ	1	
計測工学Ⅱ	1	
制御系設計論Ⅱ	1	
メカトロニクスⅡ	1	
バイオメカニクス	1	
材料強度学Ⅰ	1	
伝熱工学Ⅰ	1	
ロボット工学Ⅰ	1	
解析力学	1	
材料強度学Ⅱ	1	
伝熱工学Ⅱ	1	

ロボット工学Ⅱ	1
ディジタル信号処理	2
仮想メディアシステム	2
情報とセキュリティ	2
システムソフトウェア	2
データベース	2
ヒューマンコンピュータインタラクション	2
コンピュータビジョン	2
多様なプログラミング言語	2
音声・音響メディア処理論	2
環境としての情報技術	2
言語メディア処理論	2
CGとVR	2
ニューロとAI	2
データインテリジェンス	2
ネットワーク構成論	2
画像メディア処理論	2
ソフトウェア開発法	2
応用アルゴリズム	2
環境実習ＩA	1
地域環境概論A	1
環境生態工学概論	2
地球環境概論A	1
地域環境概論B	1
地球環境概論B	1
生態学概論Ⅰ	1
SDGs概論	1
水環境科学	1
里山の生態学	1
大気環境科学	1
進化学	1

生物資源利用	1	
生態学概論Ⅱ	1	
化学工学Ⅰ	1	
気象学	1	
土木工学Ⅰ	1	
測量学及び演習	2	
環境実習ⅡA	1	
自然の浄化機構	1	
環境社会学	1	
環境倫理学	1	
社会調査法及び演習	2	
保全生態学	1	
環境経済学	1	
生理生態学	1	
環境調査	1	
化学工学Ⅱ	1	
製図学及び演習	2	
土木工学Ⅱ	1	
環境政策論	1	
環境移動現象論	1	
廃棄物管理学Ⅰ	1	
環境微生物学	1	
環境計測学	1	
先端技術	1	
燃焼工学	1	
廃棄物管理学Ⅱ	1	
水理学	1	
データサイエンス及び演習	1	
土壌地質学	1	
環境分析化学実験	1	
水域生態学	1	

排ガス処理工学	1
空気調和工学	1
資源循環論	1
水環境施設実験	1
廃棄物・大気環境施設実験	1
水処理工学	1
環境毒性学	1
地理情報学	1
資源管理学及び演習	1
群集生態学	1
水道工学	1
水処理施設設計	1
環境アセスメントB	1
下水道工学	1
廃棄物処理施設設計	1
数値計算法基礎及び演習	1
環境アセスメントA	1
景観生態学	1
微生物生態学	1
応用生態学	1

⑥　環境科学課程

授業科目	単位数
情報基礎	2
フレッシャーズセミナー	2
キャリア実習・実習指導	2
理工学のすすめ	2
ASEANグローバルプログラム	2
デザインシンキング	2
グローバル人材育成プログラム	2
プロジェクトリサーチⅠ	1
プロジェクトリサーチⅡ	2

先端理工キャリア実習Ⅰ	1
先端理工インターンシップⅠ	1
先端理工キャリア実習Ⅱ	2
先端理工インターンシップⅡ	2
環境実習ⅠA	1
地域環境概論A	1
生物学概論	2
地学概論	2
地学実験	2
環境生態工学概論	2
数学概論	2
化学概論	2
地域環境概論B	1
地球環境概論A	1
地球環境概論B	1
生態学概論Ⅰ	1
物理学概論	2
生物学実験	2
環境寄席	2
生態学概論Ⅱ	1
物理実験	2
化学実験	2
クラウドコンピューティング演習	2
SDGs概論	1
水環境科学	1
里山の生態学	1
大気環境科学	1
進化学	1
生物資源利用	1
化学工学Ⅰ	1
土木工学Ⅰ	1

測量学及び演習	2	
環境社会学	1	
環境倫理学	1	
環境経済学	1	
気象学	1	
環境調査	1	
社会調査法及び演習	2	
保全生態学	1	
生理生態学	1	
環境実習ⅡA	1	
自然の浄化機構	1	
化学工学Ⅱ	1	
製図学及び演習	2	
土木工学Ⅱ	1	
環境政策論	1	
環境移動現象論	1	
環境微生物学	1	
廃棄物管理学Ⅰ	1	
環境計測学	1	
先端技術	1	
数理生態学	1	
燃焼工学	1	
廃棄物管理学Ⅱ	1	
水理学	1	
データサイエンス及び演習	1	
土壌地質学	1	
個体群生態学	1	
水域生態学	1	
森林生態学	1	
環境分析化学実験	1	
環境毒性学	1	

排ガス処理工学	1
空気調和工学	1
資源循環論	1
地理情報学	1
資源管理学及び演習	1
群集生態学	1
水環境施設実験	1
環境実習ⅢA	1
廃棄物・大気環境施設実験	1
水処理工学	1
水道工学	1
水処理施設設計	1
環境アセスメントB	1
生態系生態学	1
下水道工学	1
廃棄物処理施設設計	1
環境アセスメントA	1
数値計算法基礎及び演習	1
景観生態学	1
微生物生態学	1
応用生態学	1
セミナーⅠ	2
セミナーⅡ	2
セミナーⅢ	2
特別研究	6
アルゴリズム及び演習Ⅰ	2
シミュレーション及び演習	2
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2
微分方程式Ⅱ	2
質点系の力学	2
多変量解析及び演習	3

複素解析Ⅰ	1
位相入門Ⅰ	1
代数入門Ⅰ	1
幾何入門	1
現象の数理モデルⅠ	1
拡散現象の数理Ⅰ	1
確率モデル及び演習	2
オブジェクト指向及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅠ	1
機械学習Ⅰ	1
数理・情報科学の学びと社会	1
複素解析Ⅱ	1
位相入門Ⅱ	1
代数入門Ⅱ	1
ベクトル解析入門	1
現象の数理モデルⅡ	1
拡散現象の数理Ⅱ	1
グラフィックス及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅡ	1
機械学習Ⅱ	1
応用幾何	1
波動現象の数理Ⅰ	1
確率統計Ⅱ	1
ネットワーク及び演習	2
言語と計算Ⅰ	1
最適化の数理Ⅰ	1
波動現象の数理Ⅱ	1
確率統計Ⅲ	1
言語と計算Ⅱ	1
最適化の数理Ⅱ	1
確率および統計・演習	2

アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2	
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1	
電子物性	1	
半導体デバイス工学	1	
光デバイス	1	
ナノエレクトロニクス工学	1	
伝送線路	1	
高周波電子回路	1	
組込みシステム	1	
統計的機械学習	1	
認知科学	1	
群知能	1	
画像情報処理	1	
データサイエンス	1	
電子材料	1	
パワーエレクトロニクス	1	
ニューラルネットワーク	1	
知能ロボット	1	
応用プログラミング・演習	1	
人工知能	1	
情報セキュリティ	1	
アナログ電子回路	2	
薄膜デバイス工学	2	
電子工学	2	
電磁波工学	1	
符号理論	2	
情報数学	1	
計算機制御・演習	1	
計測工学	1	
回路設計・演習	1	
結晶工学	2	

量子力学	2	
無線通信工学	2	
ディジタル信号処理・演習	2	
ネットワーク通信システム	2	
計算機アーキテクチャ	1	
材料力学基礎	2	
流体工学	2	
振動工学	2	
材料力学応用	2	
機械材料学	2	
粘性流体力学	1	
熱力学	2	
ディジタル電子制御	2	
機構学	2	
航空流体力学	1	
弾性構造力学	2	
計算力学実習	2	
機械要素	1	
機械加工学	2	
航空・宇宙工学	1	
熱工学	2	
計測工学Ⅰ	1	
制御系設計論	2	
メカトロニクス	2	
ロボット実習	1	
機械設計	1	
自動車工学	1	
計測工学Ⅱ	1	
バイオメカニクス	1	
材料強度学	2	
伝熱工学	2	

ロボット工学	2	
解析力学	1	
化学と社会	2	
資源・エネルギーと環境	2	
化学と安全管理	2	
生化学Ⅰ	1	
量子材料科学Ⅰ	1	
電気化学Ⅰ	1	
結晶学入門Ⅰ	1	
高分子化学Ⅰ	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅰ	1	
分析化学	1	
生化学Ⅱ	1	
量子材料科学Ⅱ	1	
電気化学Ⅱ	1	
結晶学入門Ⅱ	1	
高分子化学Ⅱ	1	
機器分析化学	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1	
化学工学	2	
アドバンスト環境化学Ⅰ	1	
循環系グリーンケミストリー	1	
半導体材料Ⅰ	1	
固体物性化学Ⅰ	1	
エネルギー変換工学Ⅰ	1	
医薬品のプロセス化学	1	
分子集合化学	1	
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1	
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1	
セラミックス材料工学Ⅰ	1	
界面化学	1	

食と分子科学	1
半導体材料Ⅱ	1
固体物性化学Ⅱ	1
アドバンスト電気化学	1
エネルギー変換工学Ⅱ	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1
セラミックス材料工学Ⅱ	1
アドバンスト環境化学Ⅱ	1
バイオマテリアルⅠ	1
構造解析学	1
光化学Ⅰ	1
逆合成解析化学Ⅰ	1
高分子構造材料物性Ⅰ	1
高分子材料工学Ⅰ	1
ナノマテリアル	1
バイオマテリアルⅡ	1
光化学Ⅱ	1
逆合成解析化学Ⅱ	1
高分子構造材料物性Ⅱ	1
高分子材料工学Ⅱ	1
反応工学	1
ディジタル信号処理	2
仮想メディアシステム	2
情報とセキュリティ	2
システムソフトウェア	2
データベース	2
ヒューマンコンピュータインタラクション	2
コンピュータビジョン	2
多様なプログラミング言語	2
音声・音響メディア処理論	2
環境としての情報技術	2

言語メディア処理論	2
CGとVR	2
ニューロとAI	2
データインテリジェンス	2
ネットワーク構成論	2
画像メディア処理論	2
ソフトウェア開発法	2
応用アルゴリズム	2

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

心理学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3(A)	1
英語総合3(B)	1
英語総合4(A)	1
英語総合4(B)	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2
英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2
英語セミナーC2	2

英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2
英語セミナーF1	2
英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
英語セミナーH1	2
英語セミナーH2	2
英語セミナーI1	2
英語セミナーI2	2
英語セミナーJ1	2
英語セミナーJ2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
ドイツ語ⅢC	1
ドイツ語ⅢD	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
フランス語ⅢC	1
フランス語ⅢD	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1

中国語ⅢB	1
中国語ⅢC	1
中国語ⅢD	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
スペイン語ⅢC	1
スペイン語ⅢD	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
コリア語ⅢC	1
コリア語ⅢD	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
ドイツ語セミナーⅠC	2
ドイツ語セミナーⅠD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠC	2
フランス語セミナーⅠD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2

フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーⅠA	2
中国語セミナーⅠB	2
中国語セミナーⅠC	2
中国語セミナーⅠD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーⅠA	2
スペイン語セミナーⅠB	2
スペイン語セミナーⅠC	2
スペイン語セミナーⅠD	2
スペイン語セミナーⅡA	2
スペイン語セミナーⅡB	2
スペイン語セミナーⅡC	2
スペイン語セミナーⅡD	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
コリア語セミナーⅠA	2
コリア語セミナーⅠB	2
コリア語セミナーⅠC	2
コリア語セミナーⅠD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2
コリア語セミナーⅡC	2

コリア語セミナーⅡD	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2
コリア語コミュニケーションⅡ	2
海外中国語研修講座	2
ポルトガル語Ⅰ	2
ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2
ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2
ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
ラテン語Ⅰ	1
ラテン語Ⅱ	1
ギリシア語Ⅰ	1
ギリシア語Ⅱ	1
ペルシア語Ⅰ	2
ペルシア語Ⅱ	2
トルコ語Ⅰ	2
トルコ語Ⅱ	2
アラビア語Ⅰ	2
アラビア語Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4

宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
中国の思想A	2
中国の思想B	2
芸術の世界A	2
芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学入門	2
日本の歴史A	4
日本の歴史B	4
日本の文化	4
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学	4
心の科学A	2
心の科学B	2

応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学のすすめA	2
教育学のすすめB	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
人文科学セミナー	4
大学論	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2

国際社会論	2
現代社会の諸問題	2
地域論	2
企業と会計	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
データサイエンス・AI入門	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4
行列と行列式	4
数理統計学	4
数理と計算	2
数学の世界	4
数理と論証	2
宇宙の科学Ⅰ	4
宇宙の科学Ⅱ	2
地球科学のすすめ	2
地球科学	2
物理科学の世界	4
時間と空間の科学	2
エネルギー入門	2
自然科学史Ⅰ	2
自然科学史Ⅱ	2
科学論	2
技術論	2
平和学B	2
里山学	2

生物科学のすすめ	4
生命科学のすすめ	2
生命科学	2
生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2
動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4
野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
教養教育科目特別講義	2
English language（Ryukoku Intercultural Program）	12
Lecture（Ryukoku Intercultural Program）	6
Volunteer（Ryukoku Intercultural Program）	6

(2)　専攻科目

授業科目	単位数
フレッシャーズゼミ	2
心理学基礎演習A	2
心理学基礎演習B	2
心理学基礎演習C	2
心理学概論	2
発達心理学	2
臨床心理学概論	2
心理学的支援法	2
心理学研究法概論	2
心理学統計法概論	2
心理的アセスメントⅠ	2
生涯発達と関係支援	2
心理学とデータサイエンス	2
キャリアと心理	2
キャリアデザイン論	2
人体の構造と機能及び疾病	2
心理学実験	1
神経・生理心理学	2
障害者・障害児心理学	2
福祉心理学	2
健康・医療心理学	2
教育・学校心理学	2
脳と心	2
乳幼児の発達	2
児童思春期精神医学	2
子どもの心理療法	2
高齢者の心理と福祉	2
仏教と心理学	2
コミュニティとシステム支援	2

ストレスマネジメント	2
チーム医療	2
チーム学校とシステム論	2
心理学の職業的展開	2
仕事と社会人Ⅰ	2
心理学プロジェクト社会連携演習	2
生涯発達臨床心理学	2
ライフサイクルとカウンセリング	2
家族療法とシステムズアプローチ	2
目からウロコのコミュニケーション学	2
心理学演習	2
卒業研究	4
知覚・認知心理学	2
精神疾患とその治療	2
感情・人格心理学	2
心理関係行政論	2
司法・犯罪心理学	2
産業・組織心理学	2
学習・言語心理学	2
社会・集団・家族心理学	2
量的心理学研究	2
質的心理学研究	2
生理学データと現場心理学（基礎）	2
臨床催眠学	2
生理学データと現場心理学（応用）	2
子育てとソーシャルサポート	2
音楽療法	2
ダンスセラピー	2
乳幼児の理解と支援実習	2
教育と心理支援	2
発達障害のアセスメント	2

心理的アセスメントII	2
不登校・いじめとスクールカウンセリング	2
青年心理と友人関係	2
思春期とジェンダー心理学	2
大人の発達障害	2
思春期の子ども理解と支援実習 I	2
中年期の危機とうつ	2
コミュニティ・アプローチ	2
愛着障害と親子関係	2
保育の心理学	2
障害児支援と療育	2
学童期の遊びと対人関係	2
発達障害と応用行動分析	2
思春期の子ども理解と支援実習 II	2
フォーカシングと体験過程療法	2
ひきこもりと精神的健康	2
認知行動療法	2
エンカウンターグループと回想法	2
ビハーラカウンセリング	2
死生観教育と心理療法	2
認知症の心と家族支援	2
高齢者の理解と支援実習	2
人格心理学と精神力動論	2
医療におけるシステムズアプローチ	2
緩和ケアとこころの治癒力	2
家族療法とコミュニケーション・アプローチ	2
学校システムにおける精神疾患と家族	2
不登校の解決と協働	2
発達障がいと家族	2
ひきこもりと家族支援	2
虐待と家族支援	2

ポジティブ心理学	2
コーチング心理学	2
コンサルテーション・リエゾン精神医学	2
構造派家族療法	2
保護者支援とチーム学校	2
コンサルテーション演習	2
特別支援とシステムズアプローチ	2
ブリーフセラピーとソリューション	2
非行と家族支援	2
オープン・ダイアローグ演習	2
キャリアカウンセリング	2
スポーツ心理学	2
スポーツ・メンタルリハーサル	2
マインドフルネス・ヨーガ	2
事例演習アドバンスI	2
事例演習アドバンスII	2
仕事と社会人Ⅱ	2
法学概論	4
政治学原理	4
経済原論	4
社会学概説	4
キャリア実習・実習指導	2
学外コンソーシアム実習	4

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

別表２　学部共通コース開設科目（第30条の２関係）

(1)　国際関係コース科目

授業科目	単位数
国際関係論Ⅰ	2
地域研究入門	2
中国語セミナーⅠA	2

中国語セミナーＩＢ	2
中国語セミナーＩＣ	2
中国語セミナーＩＤ	2
中国語セミナーⅡＡ	2
中国語セミナーⅡＢ	2
中国語セミナーⅡＣ	2
中国語セミナーⅡＤ	2
海外中国語研修講座	2
ドイツ語セミナーＩＡ	2
ドイツ語セミナーＩＢ	2
ドイツ語セミナーＩＣ	2
ドイツ語セミナーＩＤ	2
ドイツ語セミナーⅡＡ	2
ドイツ語セミナーⅡＢ	2
ドイツ語セミナーⅡＣ	2
ドイツ語セミナーⅡＤ	2
フランス語セミナーＩＡ	2
フランス語セミナーＩＢ	2
フランス語セミナーＩＣ	2
フランス語セミナーＩＤ	2
フランス語セミナーⅡＡ	2
フランス語セミナーⅡＢ	2
フランス語セミナーⅡＣ	2
フランス語セミナーⅡＤ	2
スペイン語セミナーＩＡ	2
スペイン語セミナーＩＢ	2
スペイン語セミナーＩＣ	2
スペイン語セミナーＩＤ	2
スペイン語セミナーⅡＡ	2
スペイン語セミナーⅡＢ	2
スペイン語セミナーⅡＣ	2

スペイン語セミナーⅡD	2
コリア語セミナーⅠA	2
コリア語セミナーⅠB	2
コリア語セミナーⅠC	2
コリア語セミナーⅠD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2
コリア語セミナーⅡC	2
コリア語セミナーⅡD	2
ポルトガル語Ⅰ	2
ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2
ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2
ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
英語セミナーH1	2
英語セミナーH2	2
英語セミナーJ1	2
英語セミナーJ2	2
英語コミュニケーションⅠ	2
英語コミュニケーションⅡ	2
Intercultural Discussion	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2

ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2
コリア語コミュニケーションⅡ	2
ヨーロッパ研究A	2
ヨーロッパ研究B	2
ヨーロッパ研究C	2
ヨーロッパ研究D	2
東アジア研究A	2
東アジア研究B	2
東南アジア研究A	2
東南アジア研究B	2
北米研究A	2
北米研究B	2
中南米研究A	2
中南米研究B	2
グローバル・サウス研究A	2
グローバル・サウス研究B	2
異文化研究A	2
異文化研究B	2
多文化映像論A	2
多文化映像論B	2
国際関係論Ⅱ	2
現代国際関係史	2
国際ジャーナリズム論	2
グローバル経済史A	2
グローバル経済史B	2
国際金融論	4

国際協力論	4	
アジア経済史	4	
ヨーロッパ経済史	4	
地域経済論	4	
アジア経済論A	2	
アジア経済論B	2	
比較経済論A	2	
比較経済論B	2	
開発経済学A	2	
開発経済学B	2	
ヨーロッパ経済論	4	
食・農・資源の経済論A	2	
食・農・資源の経済論B	2	
日本経済史A	2	
日本経済史B	2	
経済地理学A	2	
経済地理学B	2	
経済思想史	2	
社会調査の技法	2	
フィールドワークの技法	2	
グローバルビジネス	2	
多国籍企業論	2	
国際経営戦略論	2	
ビジネスヒストリーA	2	
社会データ分析	2	
アジア企業経営論	2	
国際法Ⅰ	4	
国際法Ⅱ	2	
国際法Ⅲ	2	
国際私法	4	
国際政治論	4	

アフリカ政治論A	2
アフリカ政治論B	2
国際取引法	2
開発援助論	2
中東政治論	2
アジア政治論	4
中国政治論	2
アメリカ政治論	2
ヨーロッパ政治論	2
国際環境法	2
文化・観光政策	2
比較地域政策論	2
アジアの地域・都市政策	2
欧州の地域・都市政策	2
北米・中南米の地域・都市政策	2
特別演習Ⅰ	4
特別演習Ⅱ	4
特別演習Ⅲ	4
演習Ⅰ	2
演習Ⅰ	4
演習Ⅰ	6
演習Ⅱ	2
演習Ⅱ（演習研究含む）	6
演習Ⅱ（卒業研究含む）	4
演習Ⅱ（卒業研究含む）	6
演習Ⅲ	2
演習Ⅳ（卒業研究含む）	6
学部共通特別講義A	2
学部共通特別講義B	2
学部共通特別講義C	2

(2) 英語コミュニケーションコース科目

授業科目	単位数
Oral Communication ⅠA	4
Oral Communication ⅠB	4
Oral Communication ⅡA	4
Oral Communication ⅡB	4
Writing Ⅰ	2
Writing Ⅱ	2
米国文化Ⅰ	2
英国文化Ⅰ	2
英国文化Ⅱ	2
米国文化Ⅱ	2
English in the World	2
文化比較	2
Intensive Reading	2
Reading Fluency	2
Communicative Grammar Ⅰ	2
英米事情	2
Business Writing	2
Critical Essay	2
Process Writing	2
Public Speaking	2
Debate and Discussion	2
Dynamics of Expression	2
Communicative Grammar Ⅱ	2
Intercultural Discussion	2
Global Understanding in English	4
海外研修	4
英語資格試験セミナー	2
Forum	2
Seminar Ⅰ	2
Seminar Ⅱ	2

卒業研究	4
学部共通特別講義Ⅰ	4
学部共通特別講義Ⅱ	4
学部共通特別講義Ⅲ	2
学部共通特別講義Ⅳ	2
学部共通特別講義Ⅴ	2

(3)　スポーツサイエンスコース科目

授業科目	単位数
身体運動の生理学	2
身体運動の機能解剖学	2
身体運動の制御と学習	2
現代スポーツ論	2
近代スポーツ史	2
スポーツ栄養学	2
スポーツと経済	2
スポーツマネジメント論	2
エクササイズテクニック	2
スポーツメディア論	2
スポーツ医学	2
スポーツ統計学	2
スポーツ政策論	2
健康スポーツ論	2
体力学	2
フィットネスプログラミングⅠ	2
スポーツ心理学Ⅰ	2
スポーツマーケティング論	2
スポーツ法学	2
バイオメカニクス	2
地域スポーツ論	2
スポーツトレーニング論	2
スポーツ文化論	2

フィットネスプログラミングⅡ	2
スポーツ心理学Ⅱ	2
特別演習Ⅰ	4
特別演習Ⅱ	4
特別演習Ⅲ	4
スポーツサイエンスコース特別講義（水泳）	2
スポーツサイエンスコース特別講義（スポーツビジネス）	2
キャリア入門（スポーツサイエンスコース）	2
スポーツキャリア実習	2

(4) 環境サイエンスコース科目

授業科目	単位数
環境学A	2
環境学B	2
環境と倫理	2
環境と経済	2
環境と法	2
環境管理論Ⅰ	2
環境管理論Ⅱ	2
環境政策論Ⅰ	2
環境政策論Ⅱ	2
コンピュータシステム論	4
生態学A	2
生態学B	2
地球と環境	2
環境地理学	2
自然保護論	2
化学物質と環境	2
シミュレーション技法	2
複雑系の科学	2
都市経済論	2
環境史	2

環境アセスメント論	2
地域環境論	2
気候と気象	2
生物共棲論	2
水界生態論	2
環境フィールドワーク	4
環境実践研究	2
開発経済学A	2
開発経済学B	2
産業技術論	2
国際環境法	2
持続可能な発展概論	2
景観・まちなみ保存政策	2
環境エネルギー政策	2
演習Ⅰ	4
演習Ⅱ	4
卒業研究	4
学部共通特別講義A	2
学部共通特別講義B	2
学部共通特別講義C	4

以上別表２に掲げる授業科目のほか，経済学部，経営学部，法学部及び政策学部教授会が教育上必要と認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

別表３　日本語科目及び日本事情に関する科目（第31条関係）

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
日本語		1	

別表４　教育職員免許状取得に関する科目（第32条関係）

(1)　文学部

	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育学概論	4
	教育心理学	2

	特別支援教育論	2
教科及び教科の指導法に関する科目	国語科教育法A	2
	国語科教育法B	2
	国語科教育法Ⅰ	2
	国語科教育法Ⅱ	2
	英語科教育法A	2
	英語科教育法B	2
	英語科教育法Ⅰ	2
	英語科教育法Ⅱ	2
	宗教科教育法A	2
	宗教科教育法B	2
	宗教科教育法Ⅰ	2
	宗教科教育法Ⅱ	2
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2
	体育実技	1

(2) 経済学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	法学概論	4
	倫理学概論	4
	心理学概論	4
	国際法Ⅰ	4
	国際政治論	4
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2

(3) 経営学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	商業科教育法Ⅰ	2
	商業科教育法Ⅱ	2
	法学概論	4
	日本政治史	4

	日本経済史A	2
	日本経済史B	2
	日本法制史A	2
	日本法制史B	2
	西洋法制史A	2
	西洋法制史B	2
	西洋政治史	4
	ヨーロッパ経済史	4
	グローバル経済史A	2
	グローバル経済史B	2
	アジア経済史	4
	経済地理学A	2
	経済地理学B	2
	倫理学概論	4
	心理学概論	4
	政治学原理	4
	国際政治論	4
	国際法Ⅰ	4
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2

(4) 法学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	日本経済史A	2
	日本経済史B	2
	ヨーロッパ経済史	4
	国際比較経営史	2
	日本経営史	2
	倫理学概論	4
	心理学概論	4
教育職員免許法施行規則	教職コンピュータ基礎	2

第66条の6に定める科目		

(5)　削除

(6)　政策学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	倫理学概論	4
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2
	体育実技	1

(7)　国際学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	英語科教育法A	2
	英語科教育法B	2
	英語科教育法Ⅰ	2
	英語科教育法Ⅱ	2
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2
	体育実技	1

(8)　農学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	理科教育法A	2
	理科教育法B	2
	理科教育法Ⅰ	2
	理科教育法Ⅱ	2
	農業科教育法Ⅰ	2
	農業科教育法Ⅱ	2
	職業指導	2
道徳，総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導，教育相談等に関する科目	生徒指導論（栄養教諭）	2
教育実践に関する科目	栄養教育実習指導Ⅰ	1

	栄養教育実習指導Ⅱ	1
	教職実践演習（栄養教諭）	2

(9)　先端理工学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	数学科教育法A	2
	数学科教育法B	2
	数学科教育法Ⅰ	2
	数学科教育法Ⅱ	2
	工業科教育法Ⅰ	2
	工業科教育法Ⅱ	2
	理科教育法A	2
	理科教育法B	2
	理科教育法Ⅰ	2
	理科教育法Ⅱ	2
	情報科教育法Ⅰ	2
	情報科教育法Ⅱ	2

(10)　心理学部

	授業科目	単位数
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2
	体育実技	1

(11)　共通開設科目

	授業科目	単位数	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2	文・経済・経営・法・社会・政策学部共通開設
	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2	文・経済・経営・法・社会・政策学部共通開設
	社会科・公民科教育法Ⅰ	2	文・経済・経営・法・社会・政策・心理学部共通開設
	社会科・公民科教育法Ⅱ	2	文・経済・経営・法・社会・政策・心理学部共通開設

	日本史概説	4	経済・経営・法・社会・政策学部共通開設
	外国史概説	4	経済・経営・法・社会・政策学部共通開設
	人文地理学	4	経済・経営・法・社会・政策学部共通開設
	自然地理学	4	経済・経営・法・社会・政策学部共通開設
	地理学（地誌）	4	経済・経営・法・社会・政策学部共通開設
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論A	2	全学共通開設
	教育原論B	2	全学共通開設
	教職論	2	全学共通開設
	学校教育社会学	2	全学共通開設
	教育社会学	2	経済・法・社会・政策・国際・心理学部共通開設
	教育課程論	2	全学共通開設
	学習・発達論A	2	全学共通開設
	学習・発達論B	2	全学共通開設
	特別支援教育概論	2	全学共通開設
道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	道徳教育指導法	2	全学共通開設
	総合的な学習の時間・特別活動論	2	全学共通開設
	教育の方法と技術（ICT活用含む）	2	全学共通開設
	生徒・進路指導論	2	全学共通開設
	教育相談	2	全学共通開設
教育実践に関する科目	教育実習指導Ⅰ	1	全学共通開設
	教育実習指導ⅡA	4	全学共通開設
	教育実習指導ⅡB	2	全学共通開設

	教職実践演習（中・高）	2	全学共通開設

(12)　その他

授業科目	単位数
介護等体験	2

別表５　削除

別表６　博物館学芸員資格取得に関する科目（第33条関係）

	授業科目	単位数
博物館学芸員に関する科目	生涯学習概論	2
	博物館概論	2
	博物館経営論	2
	博物館資料論	2
	博物館資料保存論	2
	博物館展示論	2
	博物館教育論	2
	博物館情報・メディア論	2
	博物館実習	3

別表７　本願寺派教師資格に関する科目（第33条の２関係）

(1)　文学部

	授業科目	単位数
	勤式	4
	宗門法規	2
	教化法	4

(2)　経済学部

経営学部

法学部

社会学部

政策学部

国際学部

心理学部

	授業科目	単位数

	真宗学概論	4
	仏教学概論	4
	真宗教団史	4
	勤式	4
	宗門法規	2
	教化法	4

(3)　農学部

	授業科目	単位数
	真宗学概論	4
	仏教学概論	4
	真宗史	4
	勤式	4
	宗門法規	2
	教化法	4

(4)　先端理工学部

	授業科目	単位数
	真宗学概論	4
	仏教学概論	4
	真宗史	4
	勤式	4
	宗門法規	2
	教化法	4

(5)　共通開設科目

	授業科目	単位数	備考
	（本山教師）仏教史	1	全学共通開設
	（本山教師）宗教概説	1	全学共通開設

別表８　削除

別表９　削除

別表10　図書館司書資格取得に関する科目（第33条の６関係）

	授業科目	単位数

図書館司書に関する科目	生涯学習概論	2
	図書館情報学概論	2
	図書館制度・経営論	2
	図書館サービス概論	2
	情報サービス論	2
	情報サービス実習A	1
	情報サービス実習B	1
	図書館情報資源概論	2
	図書館情報資源特論	2
	情報資源組織論	2
	情報資源組織実習A	1
	情報資源組織実習B	1
	児童サービス論	2
	図書・図書館史	2
	図書館基礎特論	2
	図書館サービス特論	2
	図書館情報技術論	2
	図書館実習	1
	図書館施設論	2
	図書館総合演習	2

別表11　学校図書館司書教諭資格取得に関する科目（第33条の７関係）

	授業科目	単位数
学校図書館司書教諭に関する科目	学校経営と学校図書館	2
	学校図書館メディアの構成	2
	学習指導と学校図書館	2
	読書と豊かな人間性	2
	情報メディアの活用	2

別表12　栄養士資格取得に関する科目（第33条の８関係）

	授業科目	単位数
栄養士に関する科目	健康管理概論	2

	公衆衛生学Ⅰ	2
	生化学	2
	生化学実験	1
	解剖生理学	2
	解剖生理学実験	1
	運動生理学	2
	微生物学	2
	食品化学	2
	食品学	2
	食品学実験Ⅰ	1
	食品学実験Ⅱ	1
	食品衛生学	2
	食品衛生学実験	1
	基礎栄養学	2
	基礎栄養学実習	1
	応用栄養学	2
	応用栄養学実習	1
	ライフステージ栄養学	2
	臨床栄養学Ⅰ	2
	臨床栄養学実習Ⅰ	1
	公衆栄養学	2
	公衆栄養学実習	1
	栄養教育論Ⅰ	2
	栄養教育論Ⅱ	2
	栄養教育論実習	1
	給食経営管理論Ⅰ	2
	給食経営管理実習Ⅰ	1
	給食経営管理実習（校外）	1
	調理学	2
	調理学実習Ⅰ	1

	調理学実習Ⅱ	1

別表13　管理栄養士受験資格取得に関する科目（第33条の９関係）

	授業科目	単位数
管理栄養士に関する科目	健康管理概論	2
	公衆衛生学Ⅰ	2
	公衆衛生学Ⅱ	2
	生化学	2
	生化学実験	1
	分子栄養学	2
	解剖生理学	2
	解剖生理学実験	1
	運動生理学	2
	栄養生理学実験	1
	臨床医学概論	2
	臨床病態学	2
	微生物学	2
	微生物学実験	1
	食品化学	2
	食品学	2
	食品学実験Ⅰ	1
	食品学実験Ⅱ	1
	食品加工学実習	1
	食品衛生学	2
	食品衛生学実験	1
	調理学	2
	調理学実習Ⅰ	1
	調理学実習Ⅱ	1
	基礎栄養学	2
	基礎栄養学実習	1
	応用栄養学	2

	応用栄養学実習	1
	ライフステージ栄養学	2
	栄養評価論	2
	栄養教育論Ⅰ	2
	栄養教育論Ⅱ	2
	栄養教育論実習	1
	栄養カウンセリング論	2
	臨床栄養学Ⅰ	2
	臨床栄養学Ⅱ	2
	臨床栄養学Ⅲ	2
	臨床栄養学実習Ⅰ	1
	臨床栄養学実習Ⅱ	1
	臨床栄養管理学	2
	公衆栄養学	2
	公衆栄養学実習	1
	公衆栄養活動論	2
	給食経営管理論Ⅰ	2
	給食経営管理論Ⅱ	2
	給食経営管理実習Ⅰ	1
	給食経営管理実習Ⅱ	1
	管理栄養士総合演習	2
	給食経営管理実習（校外）	1
	臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）	1
	臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	1
	臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	2

別表14　食品衛生管理者及び食品衛生監視員資格取得に関する科目（第33条の10関係）

	授業科目	単位数
食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する科目	分析化学	2
	有機化学	2
	生化学	2

	食品化学	2
	解剖生理学	2
	微生物学	2
	食品衛生学	2
	公衆衛生学Ⅰ	2
	公衆衛生学Ⅱ	2
	健康管理概論	2
	栄養疫学	2
	食品学	2
	食品機能・加工論	2
	基礎栄養学	2
	応用栄養学	2
	分子栄養学	2
	臨床病態学	2
	臨床医学概論	2
	公衆栄養学	2
	給食経営管理論Ⅰ	2

別表15　社会福祉士受験資格取得に関する科目（第33条の11関係）

	授業科目	単位数
社会福祉士に関する科目	医学概論	2
	心理学と心理的支援	2
	社会学と社会システム	2
	社会福祉原論	4
	社会福祉調査の基礎	2
	ソーシャルワークの基盤と専門職（共通）	2
	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2
	ソーシャルワークの理論と方法（共通）	4
	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	4
	地域福祉論	4
	福祉サービスの組織と経営	2

	社会保障論	4
	高齢者福祉論Ⅰ	2
	障害者福祉論Ⅰ	2
	児童福祉論Ⅰ	2
	貧困に対する支援	2
	保健医療と福祉	2
	権利擁護を支える法制度	2
	刑事司法と福祉	2
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	4
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	4
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	6
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	2

以上の表に掲げる実習演習科目の時間数及び履修方法については，別に定める。

別表16　精神保健福祉士受験資格取得に関する科目（第33条の12関係）

	授業科目	単位数
精神保健福祉士に関する科目	医学概論	2
	心理学と心理的支援	2
	社会学と社会システム	2
	社会福祉原論	4
	地域福祉論	4
	社会保障論	4
	権利擁護を支える法制度	2
	障害者福祉論Ⅰ	2
	刑事司法と福祉	2
	社会福祉調査の基礎	2
	精神医学と精神医療	4

	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2
	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2
	ソーシャルワークの基盤と専門職（共通）	2
	精神保健福祉の原理	4
	ソーシャルワークの理論と方法（共通）	4
	精神保健福祉援助技術論	4
	精神障害リハビリテーション論	2
	精神保健福祉制度論	2
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	2
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	4
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2
	精神保健福祉援助実習	6

以上の表に掲げる実習演習科目の時間数及び履修方法については，別に定める。

別表17　公認心理師受験資格取得に関する科目（第33条の13関係）

	授業科目	単位数
公認心理師に関する科目	公認心理師の職責	2
	心理演習	2
	心理実習A	2
	心理実習B	2

以上の表に掲げる実習科目の時間数及び履修方法については，別に定める。

○学部教授会規程

昭和38年４月１日

第１条　教授会は，次の事項（学則第64条）を審議決定する。ただし，全学部に決定を要する事項はこれを除く。

(1)　学生の入学，卒業及び課程の修了

(2)　学位の授与

(3)　前２号に掲げるもののほか，教育研究に関する重要な事項で，教授会の議決が必要なものとして学長が定めるもの

２　前項第３号に基づく事項は，次のとおりとする。

(1)　教育職員の人事に関する事項

(2)　学部長及び評議員の選考に関する事項

(3)　研究及び教授に関する事項

(4)　教育課程の編成，履修の方法及び試験に関する事項

(5)　学業評価に関する事項

(6)　学生の退学，休学，復学及び留学に関する事項

(7)　学生の補導厚生に関する事項

(8)　学部内諸規程の制定改廃に関する事項

(9)　学位称号に関する事項

(10)　その他学部における重要な事項

３　教授会は，前２項に規定するもののほか，学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項並びに学長から諮問された事項について，審議決定することができる。

第２条　教授会は，学則第63条に規定する教育職員をもって構成する。

２　事故のため引続き３カ月以上教授会に出席できない者があるときは，教授会の議を経て，その期間その者を構成員の員数から除外することができる。

第３条　学部長は，必要があると認めたときは，前条構成員以外の職員を教授会に出席させ報告又は意見を求めることができる。ただし，表決には加えない。

第４条　教授会は，学部長がこれを招集しその議長となる。

２　やむを得ない事情のため，学部長が欠席する場合は，予め学部長の指名した者が議長となってその職務を代行する。

第５条　学部長は，教授会構成員の３分の１以上の者から要求があった場合には，会議を招集しなければならない。

第６条　教授会は，構成員の３分の２以上の出席がなければ開くことができない。

第７条　教授会の議決は，出席者の過半数の同意によらなければならない。

２　可否同数のときは議長の決するところによる。

第８条　教育職員の人事に関する事項を審議する場合は，教授会構成員の３分の２以上の出席を必要とし，その議決は出席者の３分の２以上の同意によらなければならない。

第９条　本人の不利益に属する人事事項は，第６条に規定する教授会において審議し，その議決は，出席者の４分の３以上の同意によらなければならない。

第10条　前２条の人事の審議には，教育職員選考基準，職員懲戒手続規程等人事に関する諸規程を参照しなければならない。

第11条　第８条及び第９条の人事に関する事項を議する場合には，議長は当該者の退席をもとめることができる。

第12条　学部長は，次に掲げる事項については，教授会の意向を聞かなければならない。

(1)　予算の新規要求

(2)　予算の執行に関する事項

(3)　その他学部長が必要と認めた事項

第13条　学部長は，教授会の事務を処理するため，指名する事務職員を出席させることができる。

第14条　議事録は，学部長が保管し，構成員の要求があるときはこれを呈示しなければならない。

付　則

この規程は，昭和38年４月１日よりこれを実施する。

付　則（平成19年２月22日第８条改正）

この規程は，平成19年４月１日から施行する。

付　則（平成27年３月25日第１条改正）

この規程は，平成27年４月１日から施行する。

付　則（令和５年１月19日第１条，第10条改正）

この規程は，制定日（令和５年１月19日）から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

― 目次 ―

1　設置の趣旨及び必要性 2

2　学部・学科等の特色 12

3　学部・学科等の名称及び学位の名称 14

4　教育課程の編成の考え方及び特色 14

5　教育方法、履修指導方法及び卒業要件 27

6　多様なメディアを高度に利用して，授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画 35

7　編入学定員を設定する場合の具体的計画 37

8　企業実習や海外語学研修等の学外実習の具体的計画 37

9　取得可能な資格 38

10　入学者選抜の概要 38

11　教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色 42

12　研究の実施についての考え方、体制、取組 45

13　施設、設備等の整備計画 45

14　２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画 47

15　管理運営 48

16　自己点検・評価 48

17　情報の公表 50

18　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等 54

19　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 57

１　設置の趣旨及び必要性

１－１　龍谷大学及び学部等の沿革並びに社会情勢の変化

龍谷大学の創立は、寛永 16（1639）年に西本願寺に設置された教育機関「学寮」に遡る。爾来、浄土真宗の精神を建学の精神として、人間性豊かで深い学識と教養を備え、社会の発展向上に貢献する人材を養成することを目的において発展を遂げてきた。

現在は、文学部、経済学部、経営学部、法学部、先端理工学部、社会学部、国際学部、政策学部、農学部、心理学部の 10 学部をはじめとして、研究科を設置し、短期大学部を含めて、10 学部 1 短大 10 研究科を擁する総合大学となっている。

本学は、文学部単科大学から総合大学への展開を検討するにあたり、昭和 28（1953）年には商学部と経済学部の設置を構想していた。その後、昭和 32（1957）年には、商経学部（商業学科・経済学科）増設が決定されたが、昭和 36（1961）年に経済学部経済学科が開設され、商学は経済学科の教育内容に包括された。やがて実務に強い学生の育成が要望され、昭和 38（1963）年、経済学部内に経営学科が設置される。この経営学科が昭和 41（1966）年に学部となったのが、現在の経営学部経営学科である。

このように商学を淵源として発展してきた経営学部の特色は、「実践的かつ実学的素養を身につけさせ」、「激しい時代の変化に対応でき、社会から信頼される経営人を育成する」ことを目指す教育理念・目的に反映されている。そして、こうした教育理念・目的を実現するために、経営学部は「経営コース」と「会計コース」の 2 つのコースを設置し、さらに「経営コース」では「組織をリードする」、「市場と情報を活用する」、「世界へ羽ばたく」の 3 つの履修モデルを学生に示し、系統的な科目履修を推進している。

しかしながら、時代や社会の劇的な変化に対応しうる社会人基礎力を身につけた人間育成の実現を目指すカリキュラム改革の検討において、教育理念・目的をさらに具現化していくためには、それを二つの方向性で展開する必要性が示された。一つは、社会人基礎力の獲得と育成を主軸として、自らが属する組織の課題を発見し、解決のための戦略構築を行い、組織全体の成果を向上させる能力をもったスケールアップ志向型の人間育成の必要性である。そしてもう一つが、実践と知識の往還型教育を主軸として、市場や地域社会において継続的に新たな価値を創造し提供することのできるスタートアップ志向型の人間育成の必要性である。

１－２　龍谷大学経営学部商学科の設置の趣旨並びに必要性

そこで、経営学部は、上記 2 つのそれぞれ特徴の異なる方向性（スケールアップ志向型、スタートアップ志向型）を具現化するために 2 学科制を採り、演習中心の履修体系をベースに組織全体の成果を向上させられる能力をもった人間を育成する経営学科とともに、実践と知識の往還型教育により市場や地域社会において継続的に新たな価値を創造し提供することのできる人間を育成する商学科を設置することが適切であると判断した。

社会・経済的な環境の激変が常態化すると、一律的な解決策の持つ効力には限界があり、

むしろ具体的な社会課題を見出し、多様な立場や状況に応じて解決策を考えていくことが求められる。

こうした社会課題の解決を目指す熱意を現実化するよう力づけていくためには、それを事業創造やマーケティングの知識や手法で捉え直し、持続的な仕組みとして社会に実装していくことが必要である。それは地球規模で広がりを見せる社会課題にも応用可能なものとなる。

こういった社会的要請に応えるために、事業創造とマーケティングの知識と幅広い教養を身につけ、実践的な学びを通じて社会の諸課題を実証的に把握し、市場や地域社会において継続的に新たな価値を創造し提供することのできる人間を育成するために、経営学部商学科を設置する。

１－３　経営学部商学科において養成する人材像

本学では、建学の精神に基づき「龍谷大学の教育理念・目的」を定め、「学部・研究科の「教育理念・目的」と３つの方針（「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」）策定の基本方針」を策定している。

経営学部では上記に則り、「経営学部の教育理念・目的」を定め、そのもとに「経営学部商学科の教育理念・目的」と商学科の３つの方針を定めている。

（１）経営学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、経営学の理論を修得させることに加えて、実践的かつ実学的素養を身につけさせることを教育理念とする。また、激しい時代の変化に対応でき、社会から信頼される経営人を育成することを目的とする。

（２）経営学部商学科の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、事業創造とマーケティングの知識と幅広い教養を身につけ、実践的な学びを通じて社会の諸課題を実証的に把握し、市場や地域社会において継続的に新たな価値を創造し提供することのできる人間を育成することを目的とする。

（３）経営学部商学科の卒業認定・学位授与の方針［学士（経営学）］（ディプロマ・ポリシー）

経営学部及び経営学部商学科の教育理念・目的に基づき、以下の基本的な資質・能力を備えるに至った学生に学士（経営学）の学位を授与する。

［学生に保証する基本的な資質・能力］

（注）○：教養教育科目により保証する資質・能力　●：専攻科目により保証する資質・能力

①：建学の精神の具現化	○建学の精神の意義について理解している。
②:(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。 ●多様な人びととの対話を通じて、共創の基盤となるコミュニケーション能力を身につけている。 ●事業創造やマーケティングに関連する知識を幅広く多面的に身につけている。 ●歴史的経緯や地域の多様性を踏まえ、社会の諸課題を実証的に把握する技能を身につけている。
③:(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。 ●実践と知識を往還しながら思考・判断することで、自ら社会の諸課題を発見・探求できる。 ●専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深めることができる。 ●社会の諸課題の解決につながる新しいアイディアを主体的に生み出し、かたちにすることができる。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●価値の創造と提供のために、多様な人びとのアイディアを受容できる。 ●社会の諸課題の解決に向けた仕組みを、主体的に構想できる。 ●市場や地域社会と共に創造した価値を共有できる。

また、経営学部商学科では、2 年次第 2 学期から自由選択コースとして学部共通コース（「国際関係コース」「英語コミュニケーションコース」「スポーツサイエンスコース」「環境サイエンスコース」）を選択することができる。

［学部共通コース生への学生に保証する基本的な資質・能力］

①国際関係コース

①：建学の精神の具現化	―
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●世界の国・地域に関する幅広い知識と外国語による一定のコミュニケーション能力を身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を活用して、国際社会が直面する諸問題について多角的に思考・判断・考察するための能力を身につけている。
④:主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●異なる価値や文化に関心を抱き、それらを積極的に理解しようとする態度を身につけている。

②英語コミュニケーションコース

①：建学の精神の具現化	―
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●英語圏での日常生活に支障のない英語の技能を身につけている。 ●英語圏の言語や文化を理解し、国際的視野を備えている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	●異なる文化や価値観を理解した上で、英語で他者と意見交換できる柔軟な思考力・表現力を身につけている。
④:主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●自らもしくはチームで目標を定め、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる。

③スポーツサイエンスコース

①：建学の精神の具現化	―
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●現代のスポーツ関連領域で提起される諸問題について、的確に評価・分析するために、社会科学とスポーツ科学の知識や方法論とをあわせた複合的な視点を身につけている。 ●客観的な評価・分析を行える基礎的スキルを身につけている。

③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	●現代社会におけるスポーツ諸事象について学際的・多面的視点から理解・探求する思考力や判断力を身につけている。 ●導き出した見解を文章等にまとめ、発表し、議論することができる。 ●健康づくりや競技力向上のための指導といったスポーツの現場に必要なコミュニケーション能力やマネジメント能力の基礎的知識と応用力を身につけている。
④:主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●スポーツ諸事象を人間・社会への洞察にもとづいて理解し、スポーツを社会の発展のために役立てようとする意欲や態度を身につけている。

④環境サイエンスコース

①：建学の精神の具現化	―
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●環境問題発生のメカニズムを文献と現場から理解し、人と自然とが共存する資源循環型の持続可能な社会を構築するための知識を身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	●自然、社会、人文に関する幅広い知識･技能を活用して、持続可能な社会の実現のために環境学の視点から必要な技術や制度について思考･判断･考察するための能力を身につけている。
④:主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●人と自然とが共存する資源循環型の持続可能な社会の実現のために多様な人々と協働しながら主体的に行動する態度を身につけている。

[学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法]

・学部に 4 年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
・卒業認定を受けるためには、所定の 125 単位以上の単位数を必要とする。
・学部共通コース所属学生は、所属コースの修了条件を満たすこと。

教育理念・目的、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）との相関は、資料①「教育理念・目的、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針との相関」のとおりである。

（４）経営学部商学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経営学部商学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に明示したすべての学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学修環境・支援体制を整備する。

［経営学部商学科の教育内容］

（注）○：教養教育科目にかかる教育内容　●：専攻科目にかかる教育内容

①：建学の精神の具現化	○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。
②:(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。 ●多様な人びととの対話を通じて、共創の基盤となるコミュニケーション能力を身につけるために、必修科目として「アカデミックスキルズA」、履修指導科目として「情報リテラシー」、「フレッシャーズゼミ」、「アカデミックスキルズB」及び「キャリア&ライフマネジメント」を開講する。 ●事業創造やマーケティングに関連する知識を幅広く多面的に身につけるために、必修科目として「ビジネスケーススタディA」及び「ビジネスケーススタディB」、履修指導科目として「ベーシックマーケティング」、「ベーシックアカウンティングⅠ」を開講する。 ●歴史的経緯や地域の多様性を踏まえ、社会の諸課題を実証的に把握する技能を身につけるために、必修科目として「社会調査入門」を開講する。

③:(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2 年次配当(第 3・第 4 セメスター配当)の言語科目(英語及び英語以外の複数の外国語科目)を開講する。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2 年次配当(第 3・第 4 セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系)を開講する。 ●実践と知識を往還しながら思考・判断することで、自ら社会の諸課題を発見・探求できるようにするために、履修指導科目として「社会調査実践」を開講する。 ●専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深めるために、段階的・系統的に学べるよう選択科目として「マーケティング論」及び「地域企業論」などを開講する。 ●社会の諸課題の解決につながる新しいアイディアを主体的に生み出し、かたちにすることができるようにするために、履修指導科目として「プロジェクト入門」を開講する。
④:主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●価値の創造と提供のために、多様な人びとのアイディアを受容できるよう、2 年次(第 4 セメスター)より演習科目を開講する。 ●社会の諸課題の解決に向けた仕組みを、主体的に構想できるようにするために、「演習Ⅰ」及び「演習Ⅱ(演習研究を含む)」を開講する。 ●市場や地域社会と共に創造した価値を共有できるようにするために、「演習Ⅱ」に演習研究を位置づける。 ●生涯を通した持続的な就業力や自分らしい生き方を実現するための力を身につけるために、「ワークルール入門」及び「キャリア&ライフマネジメント」などのキャリア啓発やキャリア形成にかかる科目を開講する。

［学部共通コースの教育内容］

①国際関係コース

①：建学の精神の具現化	―
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を身につけるために、第 4 セメスターに必修科目（国際関係論Ⅰ、地域研究入門）と選択必修科目（コース指定外国語）を開講する。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を活用して、国際社会が直面する諸問題について多角的に思考・判断・考察するために、主に社会科学系を中心とした科目群として、選択科目 B 群を開講する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●異なる価値や文化に関心を抱き、それらを積極的に理解しようとする態度を身につけるために、地域研究科目（主として選択科目 A 群）を開講する。

②英語コミュニケーションコース

①：建学の精神の具現化	―
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●日常生活に支障のない英語の技能を身につけるために、「Oral Communication ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」「Writing Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として、また、「Communicative Grammar Ⅰ・Ⅱ」等を選択科目として配置する。 ●英語圏の言語や文化を、幅広い視野から理解し考えるために、文化的背景を学修できる科目・異文化理解を促す科目を配置する。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	●柔軟な思考力・表現力を身につけるために、「Process Writing」「Critical Essay」「Seminar Ⅰ・Ⅱ」等の科目を配置する。それらの科目担当者はネイティブスピーカーを中心に構成する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●自らもしくはチームで目標を定め、主体的に行動するために、「Public Speaking」「Intercultural Discussion」「Global Understanding in English」「海外研修」「Seminar Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究」を配置する。

③スポーツサイエンスコース

①：建学の精神の具現化	―
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●人文･社会科学系および自然科学系に大別されるスポーツ科学を学ぶ上での基礎となる科目を開講する。 ●特定のテーマに基づき学ぶ少人数科目を開講する。 ●スポーツにおける諸事象を客観的に分析･評価するための科目を開講する。
③:(④の基盤となる)「知識･技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力･表現力等の能力(「思考力･判断力・表現力」)」の発展・向上	●スポーツ科学の個別領域での課題や､その解決策を探る思考力・判断力を育成する科目を開講する。 ●課題の解決や解明に取り組む姿勢や態度､方法論を学ぶために実習を含む科目を開講する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●主体性と協働性を身につけるために、演習、キャリア入門（スポーツサイエンスコース）、スポーツキャリア実習(キャリア形成科目)を開講する。

④環境サイエンスコース

①：建学の精神の具現化	―
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●環境問題の現状および解決方法に関する知識を身につけるため、第四セメスターから、必修科目の「環境学 A」および人文・社会科学系と自然科学系科目からなる座学の選択必修科目を開講する。 ●環境問題を解決する技能を身につけるため、「シミュレーション技法」および「環境実践研究」などの実習科目を開講する。
③:(④の基盤となる)「知識･技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力･表現力等の能力(「思考力･判断力・表現力」)」の発展・向上	●自然、社会、人文に関する幅広い知識･技能を活用して､持続可能な社会の実現のために環境学の視点から必要な技術や制度について思考・判断・考察するため「環境学 B」「環境管理論Ⅰ・Ⅱ」などの科目を開講する。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●持続可能な社会の実現のために多様な人々と協働しながら主体的に行動する態度を身につけるため「生態学 A・B」「環境フィールドワーク」などの科目を開講する。

［教育方法］

・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。

・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

［学修成果の評価］

・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の 4 種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。

①筆答試験による評価

②レポート試験による評価

③実技試験による評価

④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

（５）入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学では、以下のとおり入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）を次のように掲げている。

［龍谷大学 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）］

龍谷大学の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）は、価値観が多様化する社会において、本学の建学の精神を体現するための意欲と各学部での教育に必要な適性を有した学生を、幅広く受け入れることを基本とします。

経営学部においては、龍谷大学の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）のもと、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、以下のとおり経営学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定めている。

［経営学部 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）］

経営学部では、学生のそれぞれの学修目標にあわせて、少人数の演習学修と、理論と実践を組み合わせたカリキュラムを提供することによって、変化の激しい時代に対応でき、社会から信頼される経営人（働くことを通して社会に貢献する人材）を育成することを目指している。

そのため、次のような人が入学することを求める。

①明確な目的意識と学修意欲をもった人

②さまざまな場面で基本的な能力として求められるコミュニケーション能力をもった人

③知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む人

なお、経営学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、本学の教育を受けるにふさわしい能力・適性などを備えた入学者を受け入れるために、学力の 3 要素「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を評価する入学試験を実施する。

１－４　組織として研究対象とする中心的な学問分野

経営学部商学科の教育理念・目的を達成するために、主に経営学、商学、会計学、農業経営学を中心に、経済地理学、社会学、宗教哲学、倫理学、教育学、言語学を学問分野とする。

２　学部・学科等の特色

２－１　教育の特色

経営学部商学科は、「建学の精神に基づいて、事業創造とマーケティングの知識と幅広い教養を身につけ、実践的な学びを通じて社会の諸課題を実証的に把握し、市場や地域社会において継続的に新たな価値を創造し提供することのできる人間を育成すること」を教育理念・目的としている。その上で、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、「事業創造コース」と「マーケティングコース」の２コースからなる履修モデルを設定している。

①事業創造コース

事業の創造と運営についての実践や知識を学び、社会の諸課題を実証的に把握するとともに、ビジョンを掲げ、周囲の人間を巻き込み、必要な資源を調達し、新たな価値の創造と共有及び地域・社会の発展に資する能力を身につける。

②マーケティングコース

マーケティングや流通についての実践や知識を学び、社会の諸課題を実証的に把握するとともに、その解決につながる新たな価値の提供を通じて、顧客の創造と維持及び地域・社会の発展に資する能力を身につける。

また、経営学部商学科では、上記の商学科の教育課程に併せて、深草キャンパスにおける学際的な教育課程である学部共通コース※の選択も可能とする。

※学部共通コース：経済学部・経営学部・法学部・政策学部・社会学部の学生が学部間を横断して受講可能なコース制度で、4 コース（「国際関係コース」「英語コミュニケーションコース」「スポーツサイエンスコース」「環境サイエンスコース」）を設置している。本コースは、履修を希望する学生の中から選考を行い、2 年次第 2 学期から各コースに所属し、所属学部・学科の卒業要件に加えて各コースでそれぞれ定める履修要件科目を修得することによって、コースを修了するものである。

ア．国際関係コース

国際社会が直面する諸問題や世界の各地域における人々の営みを、経済・経営・法・政策・社会学部の枠組みを越えて幅広くかつ専門的に学ぶことを目的としている。多様な学部学科や分野の教員が講義や演習を担当し、学生はそうした多彩な教員の指導のもとで現代世界の政治・経済・文化・社会のあり方を主体的に学習・研究していく。

イ．英語コミュニケーションコース

高度な英語力を有し、現代の国際社会の諸問題を解決することができる人材を育成することを目的としている。そのために、英語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを伸ばすことに加え、文化や文化の違いに関する知識を修得し理解を深めることも重視している。また、批判的に考える力や自ら進んで物事に取り組む力を高める機会も提供している。

ウ．スポーツサイエンスコース

経済・経営・法・政策・社会学部での社会科学的あるいは学際的な学びの上に、教養教育での学びに加え、スポーツ科学における人文科学系、社会科学系及び自然科学系の知識と応用力を身につけ、社会の課題を主体的に捉え解決を目指す人材（様々な分野に広がり重要度を増しつつあるスポーツビジネスやスポーツ行政などにおける経営・管理能力と企画・調整能力を兼ね備えた人材、スポーツ文化に関する多方面からの調査・研究の推進と、その成果に基づく幅広く奥深い知識と教養を身に付けた人材）を育成することを目的としている。

エ．環境サイエンスコース

理系や文系の枠を越えた幅広い視点を持ち、さまざまな環境問題の解決を目指す人材を育成することを目的としている。理系や文系の枠を越えて幅広い知識を身につけることができ、環境問題の原因や解決方法を座学で学ぶだけでなく、自然そのものに触れるフィールドワークや現実問題に取り組む実習系科目を通して学びを深めることを特徴とする。

３　学部・学科等の名称及び学位の名称

３－１　学部・学科の名称

経営学部商学科は、経営学部経営学科が包摂してきた商学の要素を基礎として展開するものである。経営学部として掲げる教育理念・目的のもと、「事業創造とマーケティングの知識と幅広い教養を身につけ、実践的な学びを通じて社会の諸課題を実証的に把握し、市場や地域社会において継続的に新たな価値を創造し提供することのできる人間を育成する」ことを、経営学部商学科の教育理念・目的とする。

また、そのような人間の育成を実現するために、マーケティングや流通、起業家行動、アカウンティングなどを対象とする学問領域に軸足を置いた教育課程を編成する。

これらを踏まえ、本学科を表現するのに最も適している分野・名称は「商学」であることから、学部・学科名称は次のとおりとする。

学部名称：経営学部
学科名称：商学科
英文名称：国際通用性等も鑑み、「Faculty of Business Administration・Department of Commerce」とする。

３－２　学位の名称

設置の趣旨や育成する人材像等を反映し、学位は「学士（経営学）」とする。英訳名称については、「Bachelor of Arts in Business Administration」とする。

４　教育課程の編成の考え方及び特色

４－１　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）と各授業科目の整合性について

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）のもとに授業科目を開設し、方針の各項目に定める内容を達成できるよう必修・選択必修科目を中心として主要授業科目を配当している。

なお、１－３で示した教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）の「専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深めるために、段階的・系統的に学べるよう選択科目として「マーケティング論」及び「地域企業論」などを開講する。」及び「生涯を通した持続的な就業力や自分らしい生き方を実現するための力を身につけることができるように、「ワークルール入門」及び「キャリア＆ライフマネジメント」などのキャリア啓発やキャリア形成にかかる科目を開講する。」に対する授業科目は、後述する履修モデルの選択や学生の生き方や働き方の選択に幅を持たせるために、主要授業科目としては位置づけていない。

（注）○：教養教育科目にかかる教育内容　●：専攻科目にかかる教育内容

◆：主要授業科目　※主要授業科目はすべて記載

教育課程編成・実施の方針 （カリキュラム・ポリシー）		対応する科目
①：建学の精神の具現化	○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。	◆仏教の思想A ◆仏教の思想B 歎異抄の思想Ⅰ 歎異抄の思想Ⅱ
②:(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。	◆英語総合1（A）・1（B） ◆英語総合2（A）・2（B） ◆ドイツ語Ⅰ・Ⅱ ◆フランス語Ⅰ・Ⅱ ◆中国語Ⅰ・Ⅱ ◆スペイン語Ⅰ・Ⅱ ◆コリア語Ⅰ・Ⅱ 他8科目
	○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。	人文科学系 ◆哲学入門 ◆哲学A ◆倫理学入門 ◆倫理学A ◆クリティカル・シンキング ◆宗教学入門 ◆宗教の世界A・B ◆中国の思想A・B ◆日本の文学A・B ◆アジアの文学A・B ◆西洋の文学A・B ◆文章表現法A・B ◆言語と文化 ◆日本の歴史A・B ◆アジアの歴史A・B ◆西洋の歴史A ◆現代世界の歴史A・B ◆心理学 ◆心の科学A・B

		◆教育学のすすめ A・B 社会科学系 ◆日本国憲法 ◆法学のすすめ ◆政治学のすすめ ◆社会学のすすめ ◆地理学のすすめ ◆経済学のすすめ ◆国際学のすすめ ◆文化人類学のすすめ ◆社会調査のすすめ ◆社会統計学のすすめ ◆人権論 A ◆人権論 B 英語で学ぶ日本の社会 A・B データサイエンス・AI 入門 自然科学系 ◆数学入門 ◆数学への旅 ◆確率・統計入門 ◆宇宙の科学 I ◆地球科学のすすめ ◆物理科学の世界 ◆時間と空間の科学 ◆自然科学史 I ◆生物科学のすすめ ◆生命科学のすすめ ◆生態学のすすめ ◆人類学のすすめ ◆環境学 ◆情報科学入門 他 7 科目 スポーツ科学系 ◆スポーツ技術学演習 現代社会とスポーツ 人間とスポーツ スポーツ科学最前線

	●多様な人びととの対話を通じて、共創の基盤となるコミュニケーション能力を身につけるために、必修科目として「アカデミックスキルズA」、履修指導科目として「情報リテラシー」、「フレッシャーズゼミ」、「アカデミックスキルズB」及び「キャリア＆ライフマネジメント」を開講する。	◆アカデミックスキルズA ◆情報リテラシー ◆フレッシャーズゼミ ◆アカデミックスキルズB ◆キャリア＆ライフマネジメント
	●事業創造やマーケティングに関連する知識を幅広く多面的に身につけるために、必修科目として「ビジネスケーススタディA」及び「ビジネスケーススタディB」、履修指導科目として「ベーシックマーケティング」、「ベーシックアカウンティングⅠ」を開講する。	◆ビジネスケーススタディA ◆ビジネスケーススタディB ◆ベーシックマーケティング ◆ベーシックアカウンティングⅠ
	●歴史的経緯や地域の多様性を踏まえ、社会の諸課題を実証的に把握する技能を身につけるために、必修科目として「社会調査入門」を開講する。	◆社会調査入門
③:(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の言語科目(英語及び英語以外の複数の外国語科目)を開講する。	◆英語総合3(A) ◆英語総合3(B) ◆英語総合4(A) ◆英語総合4(B) ◆ドイツ語ⅢA・B・C・D ◆フランス語ⅢA・B・C・D ◆中国語ⅢA・B・C・D ◆スペイン語ⅢA・B・C・D ◆コリア語ⅢA・B・C・D 他83科目

	○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。	人文科学系 20科目 社会科学系 11科目 自然科学系 20科目 スポーツ科学系 2科目
	●実践と知識を往還しながら思考・判断することで、自ら社会の諸課題を発見・探求できるようにするために、履修指導科目として「社会調査実践」を開講する。	◆社会調査実践
	●専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深めるために、段階的・系統的に学べるよう選択科目として「マーケティング論」及び「地域企業論」などを開講する。	マーケティング論 地域企業論 他27科目
	●社会の諸課題の解決につながる新しいアイディアを主体的に生み出し、かたちにすることができるようにするために、履修指導科目として「プロジェクト入門」を開講する。	◆プロジェクト入門
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●価値の創造と提供のために、多様な人びとのアイディアを受容できるよう、2年次（第4セメスター）より演習科目を開講する。	◆演習Ⅰ ◆演習Ⅱ（演習研究を含む）
	●社会の諸課題の解決に向けた仕組みを、主体的に構想できるようにするために、「演習Ⅰ」及び「演習Ⅱ（演習研究を含む）」を開講する。	◆演習Ⅰ ◆演習Ⅱ（演習研究を含む）

	●市場や地域社会と共に創造した価値を共有できるようにするために、「演習Ⅱ」に演習研究を位置づける。	◆演習Ⅱ（演習研究を含む）
	●生涯を通した持続的な就業力や自分らしい生き方を実現するための力を身につけるために、「ワークルール入門」及び「キャリア&ライフマネジメント」などのキャリア啓発やキャリア形成にかかる科目を開講する。	ワークルール入門 ◆キャリア＆ライフマネジメント 他２科目

①国際関係コース

教育課程編成・実施の方針 （カリキュラム・ポリシー）		対応する科目
①：建学の精神の具現化	―	―
②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を身につけるために、第 4 セメスターに必修科目（国際関係論Ⅰ、地域研究入門）と選択必修科目（コース指定外国語）を開講する。	◆国際関係論Ⅰ ◆地域研究入門 ◆中国語/ドイツ語/フランス語/スペイン語/コリア語セミナーⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD・ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD 他主要授業科目 30 科目
③：（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を活用して、国際社会が直面する諸問題について多角的に思考・判断・考察するために、主に社会科学系を中心とした科目群として、選択科目 B 群を開講する。	58 科目

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●異なる価値や文化に関心を抱き、それらを積極的に理解しようとする態度を身につけるために、地域研究科目（主として選択科目A群）を開講する。	◆特別演習Ⅰ ◆特別演習Ⅱ ◆特別演習Ⅲ 他地域研究科目24科目開講

②英語コミュニケーションコース

教育課程編成・実施の方針 （カリキュラム・ポリシー）		対応する科目
①：建学の精神の具現化	―	―
②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得	●日常生活に支障のない英語の技能を身につけるために、「Oral Communication ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」「Writing Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として、また、「Communicative Grammar Ⅰ・Ⅱ」等を選択科目として配置する。	◆Oral Communication ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB ◆Writing Ⅰ・Ⅱ ◆Communicative Grammar Ⅰ・Ⅱ
	●英語圏の言語や文化を、幅広い視野から理解し考えるために、文化的背景を学修できる科目・異文化理解を促す科目を配置する。	◆米国文化Ⅰ・Ⅱ ◆英国文化Ⅰ・Ⅱ
③：（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上	●柔軟な思考力・表現力を身につけるために、「Process Writing」「Critical Essay」「Seminar Ⅰ・Ⅱ」等の科目を配置する。それらの科目担当者はネイティブスピーカーを中心に構成する。	◆Process Writing ◆Critical Essay ◆Seminar Ⅰ・Ⅱ

④:主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●自らもしくはチームで目標を定め、主体的に行動するために、「Public Speaking」「Intercultural Discussion」「Global Understanding in English」「海外研修」「Seminar Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究」を配置する。	◆Public Speaking ◆Intercultural Discussion ◆Global Understanding in English ◆海外研修 ◆Seminar Ⅰ・Ⅱ ◆卒業研究

③スポーツサイエンスコース

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)		対応する科目
①:建学の精神の具現化	―	
②:(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●人文・社会科学系および自然科学系に大別されるスポーツ科学を学ぶ上での基礎となる科目を開講する。	◆現代スポーツ論 ◆近代スポーツ史 ◆身体運動の生理学 ◆身体運動の機能解剖学 ◆身体運動の制御と学習
	●特定のテーマに基づき学ぶ少人数科目を開講する。	◆特別演習Ⅰ
	●スポーツにおける諸事象を客観的に分析・評価するための科目を開講する。	◆スポーツマネジメント論 スポーツ統計学
③:(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	●スポーツ科学の個別領域での課題や、その解決策を探る思考力・判断力を育成する科目を開講する。	スポーツ栄養学 スポーツトレーニング論
	●課題の解決や解明に取り組む姿勢や態度、方法論を学ぶために実習を含む科目を開講する。	◆特別演習Ⅱ 体力学 フィットネスプログラミングⅠ フィットネスプログラミングⅡ

④:主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●主体性と協働性を身につけるために、演習、キャリア入門（スポーツサイエンスコース）、スポーツキャリア実習（キャリア形成科目）を開講する。	◆特別演習Ⅲ ◆キャリア入門（ｽﾎﾟｰﾂｻｲｴﾝｽｺｰｽ） ◆スポーツキャリア実習

④環境サイエンスコース

教育課程編成・実施の方針 （カリキュラム・ポリシー）		対応する科目
①:建学の精神の具現化	―	
②:（③の基礎となる）「知識・技能」の修得	●環境問題の現状および解決方法に関する知識を身につけるため、第四セメスターから、必修科目の「環境学 A」および人文・社会科学系と自然科学系科目からなる座学の選択必修科目を開講する。	◆環境学 A ◆環境と倫理 ◆環境と経済 ◆環境と法 ◆環境政策論 I
	●環境問題を解決する技能を身につけるため、「シミュレーション技法」および「環境実践研究」などの実習科目を開講する。	◆シミュレーション技法 ◆コンピュータシステム論 ◆化学物質と環境 ◆環境実践研究
③:（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上	●自然、社会、人文に関する幅広い知識・技能を活用して、持続可能な社会の実現のために環境学の視点から必要な技術や制度について思考・判断・考察するため「環境学 B」「環境管理論Ⅰ・Ⅱ」などの科目を開講する。	◆環境学 B ◆環境管理論Ⅰ・Ⅱ ◆演習Ⅰ・Ⅱ ◆卒業研究

④:主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●持続可能な社会の実現のために多様な人々と協働しながら主体的に行動する態度を身につけるため「生態学Ａ・B」「環境フィールドワーク」などの科目を開講する。	◆生態学Ａ・B ◆地球と環境 ◆環境地理学 ◆自然保護論 ◆環境フィールドワーク

４－２　１年間の授業期間や各授業科目の授業期間の設定の考え方について

本学における授業期間 35 週の内訳は次のとおりである。

期間名称	週数
・第 1 学期授業期間	15 週
・第 1 学期定期試験期間	1 週
・集中講義期間	3 週
・第 2 学期授業期間	15 週
・第 2 学期定期試験期間	1 週

授業の実施は通常の第 1 学期及び第 2 学期の授業期間での実施を基本とするものの、柔軟な時間割設定ができるよう、集中講義期間を 3 週間設定している。

また、経営学部商学科の授業は、セメスター制で開講する。セメスター制とは、半年を 1 学期とするもので、1 学年を、原則として 4 月～ 9 月末までを第 1 学期（前期）、10 月～翌年 3 月末までを第 2 学期（後期）の 2 学期に区分し、以後 4 学年までの計 8 学期にわたって教育課程の編成を行うものである。このような設定で十分な教育効果を確保している。

４－３　１単位時間設定の考え方

授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより、またはこれらの併用により行うものとするとされていることから（大学設置基準第 25 条第 1 項）、各授業科目を講義、演習、実験、実習もしくは実技に分け、講義・演習と実験・実習・実技で単位数の計算の方法を分けることとした。

単位計算上、1 つの授業 90 分を 2 時間として計算し、1 単位 45 時間の内訳は次のとおりである。

・講義・演習：授業時間・15 時間、授業外学習時間・30 時間

・実験・実習・実技：授業時間：30 時間、授業外学習時間 15 時間

講義・演習科目については、授業時間以外の予復習の時間が多分に必要であるとの認識から、講義・演習科目と実験・実習・実技科目とで計算方法を変えている。

４－４　履修順序（配当年次）の考え方

経営学部商学科の履修順序は、入学時からの学修の積み重ね（順次性）を考慮し、第１セメスターから第３セメスターを中心に配当する教養教育科目、専攻基礎科目、第２セメスター以降に幅広く開講される専攻専門科目に学びの進展に応じて配置する。第４セメスター以降は、学びの志向性に基づき、学科内もしくは学部共通コースでの専攻科目及び演習科目を履修する（資料②「経営学部 商学科 カリキュラム全体イメージ図」参照）。

４－５　科目区分の設定及び科目構成とその理由

経営学部商学科では、事業創造とマーケティングの知識と幅広い教養を身につけ、実践的な学びを通じて社会の諸課題を実証的に把握し、市場や地域社会において継続的に新たな価値を創造し提供することのできる人間を育成するために、履修の各段階において、事業創造とマーケティングの科目を自由に選択し、各自の目標にむかって系統的に学修できるような教育課程を体系的に編成している。

教育課程の編成は、4年間（8セメスター）にわたっており、その内容は「教養教育科目」と「専攻科目」で構成している。また、全ての科目を「必修科目」、「選択必修科目」、「選択科目」（履修指導科目とそれ以外）、「随意科目」（自由科目）のいずれかに指定している。

経営学部商学科における専攻科目は、「専攻基礎科目」と「専攻専門科目」に区分し、授業形態ごとに「演習科目」、「講義科目」に分類される。

＜授業科目区分＞

教養教育科目		全学部に共通開講し、幅広い教養を身につけることを趣旨とし、「仏教の思想」科目、言語科目、教養科目の３つの科目区分で編成している。
専攻科目		経営学部商学科及び学部共通コースの教育理念・目的に基づき、学科、コースの専門に関する科目で構成されている。
	専攻基礎科目	経営学部商学科の専門的な学びの基礎を身につける科目で、商学科の専攻科目のうち必修科目と選択科目（履修指導科目）にて編成している。フレッシャーズゼミ等の少人数の演習科目や第１セメスターから第３セメスターに配置される講義科目で、商学を学ぶうえで求められる基礎的な能力を修得し、商学の基礎となる知識・技能を身につける。
	専攻専門科目	経営学部商学科の専門を深める科目で、商学科の専攻科目のうち選択科目（履修指導科目以外）で編成している。社会における課題の発見及び解決とその過程に求められる資質・能力を身につける。

＜「必修科目」、「選択必修科目」、「選択科目」（履修指導科目とそれ以外）、「随意科目」（自由科目）＞

必修科目	卒業要件を満たすために必ず履修し単位を修得しなければならない科目。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができない。
選択必修科目	指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して単位を修得しなければならない科目。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができない。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができる。
選択科目	どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目。卒業要件上、一定の単位数を修得することが義務づけられ、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができない。また、選択科目のうち、必ず履修登録するよう指導している科目を「履修指導科目」として位置付けている。「履修指導科目」は以後の学修のために、指定されたセメスターにおいて必ず履修することとなる。
随意科目（自由科目）	主として各種の資格取得にかかわる科目であって、卒業要件とは関係がない科目。そのため、随意科目（自由科目）は教養教育科目、学部専攻科目の区分の外に置かれ、卒業要件単位数には含まれない。

＜授業形態＞

演習科目	学修者が自主的に設定した学修テーマに基づく発表やレポート作成、学生同士のディスカッション等を行い、主体性をもって多様な人々と協働する態度を発展・向上させる科目。具体的には、社会の諸課題の解決に向けた仕組みを、多様な人びとのアイディアを受容しつつ、主体的に構想し、市場や地域社会と共に創造した価値を共有する能力を身につける。
講義科目	知識・技能を修得し、それらを活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて探究するとともに、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力の発展・向上を目指す科目。特に、学生自身による現場や活動における気づきを醸成し、思考力・判断力・表現力等の能力の向上を重視する科目を「実践型科目」として位置付けている。

４－６　必修科目・選択科目・随意科目（自由科目）の構成とその理由

（１）教養教育科目

教養教育科目の履修を通して、グローバル社会で活躍するための基礎となる語学力と幅

広い教養知識、基本的な倫理観を醸成し、社会参加のための基礎力と人間力の涵養につなげることをめざす。

必修科目としては、本学の建学の精神に立脚する精神基盤である釈尊及び親鸞の思想を学ぶ「仏教の思想 A・B」を配置する。また、言語科目については、グローバル社会の中で必須のコミュニケーション・スキルである英語に関する科目として、「英語総合 1（A）、1（B）、2（A）、2（B）、3（A）、3（B）、4（A）、4（B）」を配置する。併せて、英語以外の外国語コミュニケーションの能力の向上を企図して、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・コリア語を「初修外国語」として位置づけ、それぞれ「Ⅰ、Ⅱ、ⅢA、ⅢB、ⅢC、ⅢD」の 6 科目を配置する。

その他、教養科目については、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」「スポーツ科学系科目」の 4 つの系列に分類され、各系列から偏りなく履修することを通じ、幅広い教養を身につけるカリキュラム設計とする。全ての教養科目は自由に選択できるが、そのうち、選択必修として「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置している基幹科目（学びの入門となる科目、各学問領域の基礎となる科目）の中から各 1 科目（2 単位）以上修得する必要がある。なお、「スポーツ科学系科目」及び 2 単位を超えて修得した基幹科目、基幹科目以外の教養科目、「初修外国語」以外の外国語科目については、選択科目として位置づけ、第 1 セメスターから第 4 セメスターまでに学生個々の興味や関心に応じて履修することとする。

（２）専攻科目

①専攻基礎科目

専攻基礎科目とは、経営学部商学科の専門的な学びの基礎を身につける科目で、商学科の専攻科目のうち必修科目と選択科目（履修指導科目）にて構成される。「フレッシャーズゼミ」等の少人数の演習科目や第 1 セメスターから第 3 セメスターに配置される講義科目で、商学を学ぶうえで求められる基礎的な能力を修得し、商学の基礎となる知識・技能を身につける。

必修科目としては、「フレッシャーズゼミ」「社会調査入門」「ビジネスケーススタディ A」「ビジネスケーススタディ B」を第 1 セメスターに、「アカデミックスキルズ A」を第 2 セメスターに配置し、経営学部商学科の専門的な学びの基礎を身につけることを可能とする。

また、選択科目（履修指導科目）としては、「情報リテラシー」「ベーシックアカウンティング Ⅰ」「ベーシックマーケティング」を第 1 セメスターに、「プロジェクト入門」を第 2 セメスターに、「アカデミックスキルズ B」「社会調査実践」「キャリア＆ライフマネジメント」を第 3 セメスターに配置し、商学を学ぶうえで求められる基礎的な能力を修得し、商学の基礎となる知識・技能を身につけることを可能とする。

②専攻専門科目

経営学部商学科の専門を深める科目で、商学科の専攻科目のうち選択科目（履修指導科目以外）で構成される。社会における課題の発見及び解決とその過程に求められる資質・能力を身につける科目。

専攻専門科目の全ての科目を選択科目として位置付けている。

・講義科目

講義科目は、知識・技能を修得し、それらを活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて探究するとともに、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力の発展・向上を目指す。特に、経営学部商学科では、学生自身による現場や活動における気づきを醸成し、思考力・判断力・表現力等の能力の向上を重視する科目を「実践型科目」として位置付けている。

第２セメスターから第７セメスターに実践型科目を含む講義科目を 39 科目配置し、学生自身の関心や知識・技能の習得を目指して、専門的な学修を進めていく。

・演習科目（演習研究を含む）

学修者が自主的に設定した学修テーマに基づく発表やレポート作成、学生同士のディスカッション等を行い、主体性をもって多様な人々と協働する態度を発展・向上させる科目。具体的には、社会の諸課題の解決に向けた仕組みを、多様な人びとのアイディアを受容しつつ、主体的に構想し、市場や地域社会と共に創造した価値を共有する能力を身につける。

そのために、「演習Ⅰ」を第４セメスターから第５セメスターに、「演習Ⅱ（演習研究含む）」を第６セメスターから第８セメスターにそれぞれ配置し、学生自身が関心に応じて演習を選択し、各分野に関連した演習課題を設定する（資料③「経営学部 商学科 開講専攻科目分類一覧」参照）。

５　教育方法、履修指導方法及び卒業要件

５－１　教育方法

「教養教育科目」、「専攻科目」からなる教育課程に配置された各科目については、その内容に応じて、講義・演習・実技・実習の形式で実施し、到達目標達成に向けて適切に指導する。

（１）教養教育科目

大学全体の方針に基づき、本学の建学の精神を学ぶために位置づけられた「仏教の思想」科目、英語を含む「言語科目」、及び人文科学系科目、社会科学系科目、自然科学系科目、スポーツ科学系科目からなる「教養科目」について、主に１年次・２年次（第

1セメスターから第4セメスター）に集中的に学ぶことによって、大学で学ぶ基盤となる能力の修得を念頭に指導する。

（２）専攻基礎科目

経営学部商学科における専門的な学びの基礎（大学での学びの基礎となる初年次教育を含む）を修得することを目的とした「専攻基礎科目」を、1年次から2年次（第1セメスターから第 3 セメスター）にフレッシャーズゼミ等の少人数の演習科目及び講義科目で開講し、基幹教員を中心とした各科目担当者が適切に指導する。

（３）専攻専門科目

経営学部商学科の専門を深める科目で、商学科の専攻科目のうち選択科目（履修指導科目以外）で構成される。社会における課題の発見及び解決とその過程に求められる資質・能力を身につける科目で開講し、基幹教員を中心とした各科目担当者が適切に指導する。

今般計画する経営学部商学科の入学定員は、学科全体で160名である。

専攻科目のうち、学科生全員が履修対象となる科目には、「フレッシャーズゼミ」「アカデミックスキルズA」「アカデミックスキルズB」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ（演習研究含む）」などがある。「フレッシャーズゼミ」「アカデミックスキルズA」「アカデミックスキルズB」は1クラス20名～25名程度を7クラス～8クラスで運営する。

また、「ビジネスケーススタディA」「ビジネスケーススタディB」など一部の専攻基礎科目における講義は学科生全員が受講するため、履修者数は 160 名程度となるが、質問カードや確認テスト等の活用により学生の理解度を各教員が把握し、それに応じた教育ができるように工夫する。

「演習Ⅱ（演習研究含む）」は学士課程における学修の集大成として研究活動を行い、論文等の成果物の評価によって単位を認定する科目であるが、20 名程度の学生を 1 名の基幹教員が担当する。

また、授業担当者全員が履修指導や学修指導の時間を確保しており、全学的に運用されている教学情報のポータルサイト（Ryukoku University System Integration Service）等で明示している。

５－２　履修指導方法

経営学部においては、基幹教員と事務職員が相互に連携しつつ、学生の興味・関心や希望、能力に応じて丁寧に履修指導を行う。その目的は、学生が自身の進路を見定め、そのために必要な各種の科目を円滑に履修し、卒業後の進路に向けた準備を効果的に行うことを支援することにある。

新学年の授業開始前のガイダンスにおいて、履修登録、成績、単位の取得等に関する全般的な履修指導を実施する。その際、経営学部の履修要項や履修モデル等の説明資料を配付し、それらを参照しながら履修登録や教育課程の内容等について理解促進を図る。

そのため、入学時やセメスター毎に基幹教員及び事務職員による履修ガイダンスを実施するとともに、教務課窓口において、基幹教員、事務職員が継続的に履修指導や学修指導を行う。学生が自由に相談できるよう、全教員によるオフィスアワーを実施する。

また、取得単位数が指定基準を下回る学生（単位僅少者）に対しては、半期に 1 回程度の個別指導により状況を把握したうえで、履修計画の再考を促す等、個々の事情に応じた指導を行うこととする。

これらの具体的な内容は、以下のとおりである。

①主な履修指導体制（「履修説明会」による指導（セメスター毎に実施）含む）

履修説明会は、毎年 4 月と 9 月に実施し、基幹教員と事務職員が履修の方法、留意点などについての指導を行う。特に入学直後に実施する説明会においては、1 年次からの履修計画の重要性などについて、詳細に説明する。また、その後の履修説明会においても、学年進行に応じ、必要な情報を周知していく。

履修モデルについては、各年次及びセメスターで履修するべき科目の具体例を新入生に提示することで 4 年間の学修の全体像や、専門分野への道筋を分かりやすく示す。併せて、カリキュラムマップは他学部同様、履修要項に掲載し、学修の目標やそのための履修のあり方を明確にする。

シラバスには、各授業の授業概要、到達目標、各回の授業計画や予習復習内容、教科書、参考書、成績評価基準等が明確に記されていることを周知し、選択科目についてはそれらを熟読して自らの学修目標の実現を助ける科目を適切に選択するように指導する。

履修登録や教務に関連した情報の提供は、全学的に運用されている教学情報のポータルサイト（Ryukoku University System Integration Service）により行う。履修指導や教務に関連した学生の疑問点に関しては、教務委員会が中心となり指導や助言を行う。

②「フレッシャーズゼミ」による指導（第 1 セメスター（入学時）に実施）

入学時に 20 名程度でクラスを構成した「フレッシャーズゼミ」の各クラスに主に基幹教員を担当者として配置し、大学生活上の様々なフォローアップを行う体制を構築する。学生一人ひとりの希望を聞き取りながら学修指導を行う。また、担当者は、随時コミュニケーションを取れる体制を構築し、必要に応じてアドバイスを行う。

③「アカデミックスキルズ A」「アカデミックスキルズ B」「キャリア＆ライフマネジメント」による指導（第 2・第 3 セメスター（1 年次・2 年次）に実施）

各指導教員は学生の履修状況や希望、将来的な展望を勘案しながら、細やかな指導及び

アドバイスを適切に行い、それぞれの学生が自身の興味関心とキャリアの関係について理解を深めるとともに、自己実現に向けた演習選択ができるよう基幹教員を中心とした効果的な指導を実施する。

５－３　卒業要件

経営学部商学科の卒業要件は、4 年以上在学し、教養教育科目から 32 単位以上【必修 8 単位（「仏教の思想」科目：4 単位/言語科目：4 単位）、選択必修 14 単位（言語科目：8 単位/人文科学系科目：2 単位/社会科学系科目：2 単位/自然科学系科目：2 単位）、選択科目 10 単位】、専攻科目から 69 単位以上（必修 8 単位、選択 61 単位）を修得し、合計 125 単位以上修得することとする。

■経営学部商学科

科目区分	種別	科目	単位数	卒業要件単位数
教養教育科目	必修	仏教の思想	4	32
		言語科目	4	
	選択必修	言語科目	8	
		人文科学系科目	2	
		社会科学系科目	2	
		自然科学系科目	2	
	選択	－	10	
専攻科目	必修	社会調査入門	2	8
		ビジネスケーススタディ A	2	
		ビジネスケーススタディ B	2	
		アカデミックスキルズ A	2	
	選択	－	－	61
フリーゾーン ※1				24
合　　計				125

※1　フリーゾーンとは、教養教育科目、専攻科目の区分を問わずに修得可能な領域である。ただし、随意科目（自由科目）は除く。

なお、学部共通コース生については、下表のとおりとなる。

■学部共通コース（自由選択コース）を選択した場合

（１）国際関係コース

科目区分	種別	科目	単位数	卒業要件単位数
教養教育科目	必修	仏教の思想	4	32
		言語科目	4	
	選択必修	言語科目	8	
		人文科学系科目	2	
		社会科学系科目	2	
		自然科学系科目	2	
	選択	―	10	
専攻科目	必修	社会調査入門	2	12
		ビジネスケーススタディ A	2	
		ビジネスケーススタディ B	2	
		アカデミックスキルズ A	2	
		コース科目：「国際関係論 I」「地域研究入門」	4	
	選択必修	コース科目：コース指定外国語	4	4
	選択	学科科目	25	61
		コース科目：選択 A 群	24	
		コース科目：選択 B 群	12	
フリーゾーン ※1				16
合　　計				125

（２）英語コミュニケーションコース

科目区分	種別	科目	単位数	卒業要件単位数
教養教育科目	必修	仏教の思想	4	32
		言語科目	4	
	選択必修	言語科目	8	
		人文科学系科目	2	
		社会科学系科目	2	
		自然科学系科目	2	
	選択	―	10	

専攻科目	必修	社会調査入門	2	28
		ビジネスケーススタディ A	2	
		ビジネスケーススタディ B	2	
		アカデミックスキルズ A	2	
		コース科目：Oral Communication Ⅰ A	4	
		コース科目：Oral Communication Ⅰ B	4	
		コース科目：Oral Communication Ⅱ A	4	
		コース科目：Oral Communication Ⅱ B	4	
		コース科目：Writing Ⅰ	2	
		コース科目：Writing Ⅱ	2	
	選択	学科科目	25	53
		コース科目	28	
フリーゾーン ※1				12
合　　計				125

（３）スポーツサイエンスコース

科目区分	種別	科目	単位数	卒業要件単位数
教養教育科目	必修	仏教の思想	4	40
		言語科目	4	
	選択必修	言語科目	8	
		人文科学系科目	2	
		社会科学系科目	2	
		自然科学系科目	2	
	選択	―	18	
専攻科目	必修	社会調査入門	2	8
		ビジネスケーススタディ A	2	
		ビジネスケーススタディ B	2	
		アカデミックスキルズ A	2	
	選択必修	コース科目：特別演習 Ⅰ	10 ※①、②それぞれから１科目以上含む	10
		コース科目：①人文・社会科学系科目		
		コース科目：②自然科学系科目		
	選択	学科科目	25	55
		コース科目	30	

フリーゾーン ※1	12
合　　計	125

（４）環境サイエンスコース

科目区分	種別	科目	単位数	卒業要件単位数
教養教育科目	必修	仏教の思想	4	32
		言語科目	4	
	選択必修	言語科目	8	
		人文科学系科目	2	
		社会科学系科目	2	
		自然科学系科目	2	
	選択	－	10	
専攻科目	必修	社会調査入門	2	12
		ビジネスケーススタディ A	2	
		ビジネスケーススタディ B	2	
		アカデミックスキルズ A	2	
		コース科目：環境学 A、環境学 B	4	
	選択必修	コース科目：選択必修 A 群	各群 4 単位を含み 12	12
		コース科目：選択必修 B 群		
	選択	学科科目	25	57
		コース科目	32	
フリーゾーン ※1				12
合　　計				125

５－４　履修モデル

経営学部商学科では、「事業創造コース」と「マーケティングコース」の２コースからなる履修モデルを設定する。

（１）履修モデル①（資料④「経営学部商学科 事業創造コース 履修モデル」参照）

事業創造コースは、事業の創造と運営についての実践や知識を学び、社会の諸課題を実証的に把握するとともに、ビジョンを掲げ、周囲の人間を巻き込み、必要な資源を調達し、新たな価値の創造と共有及び地域・社会の発展に資する能力を身につけるコースである。新たなビジネスを生み出そうとする新規事業開発者、これまでにないサービスやビジネスの開発を通じて社会課題の解決を図る起業家などを進路として想定し、事業活動における価値

創造プロセスの全体像を理解できるようになるための科目を配置する。

（２）履修モデル②（資料⑤「経営学部商学科 マーケティングコース 履修モデル」参照）

マーケティングコースは、マーケティングや流通についての実践や知識を学び、社会の諸課題を実証的に把握するとともに、その解決につながる新たな価値の提供を通じて、顧客の創造と維持及び地域・社会の発展に資する能力を身につけるコースである。

新たな市場創造に取り組むマーケターやブランド・マネージャー、実効性のある新しい課題解決手法を模索する事業企画担当者などを進路として想定し、組織の枠を越えて多様な主体間の関係性を構築・発展させることで、地域社会にも新しい価値を提示することができるための科目を配置する。

５－５　履修科目の登録上限

経営学部商学科では、各セメスターにおける履修登録制限単位数は予習・復習を含む学修時間の確保を考慮のうえ各年次で以下のとおり定め、学生が 4 年間にわたって計画的に授業科目を履修するよう指導する。

＜履修登録制限単位数＞

年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
セメスター	1	2	3	4	5	6	7	8
単位	23	22	22	22	22	22	48	

５－６　他大学等における授業科目の履修

本学が加盟している「大学コンソーシアム京都」においては、京都地域を中心とした 48 の大学・短期大学が単位互換包括協定を締結している。また経営学部では、東洋大学経営学部との間で単位互換のための相互学生交流プログラムに関わる協定を締結している。

これら各々に用意されている科目のうち、その教育内容が本学経営学部商学科の開設科目に相当するものについては、これを同学部の開設科目として読み替えることとする。なお、履修要件等の詳細については、別途履修要項に定めることとする。

５－７　留学生の在籍管理の方法や入学後の履修指導、生活指導等

正規学生として留学生を受け入れる。在籍管理の方法としては、入学時において国外からの入学者に対しては、在留資格認定証明書を代理申請し、然るべき在留資格の取得を支援する。国内からの入学者に対しては、入学時に在留カードコピーの提出を求め、在留資格及び在留期間を把握する。その上で、在学期間中は各留学生の在留期間を定期的に確認し、更新が必要な留学生に対しては、更新手続きの案内を行う。

また、入学後の履修指導、生活指導に関しては、留学生担当として事務職員 2 名を配置し、入学時オリエンテーションにおける履修・生活指導のみならず、年に複数回生活相談の場を設けることで、組織的な支援を行う。

全学的な支援体制として、本学の国際化事業を担当する「グローバル教育推進センター」と協力し、学修面や生活面の支援体制を構築している。また、留学生寮にはチューターを配置し、日常生活をサポートする体制を構築している。

なお、本学では、留学生が万一、退学や除籍となった場合は、文部科学省の指導に基づき帰国手続きをサポートするなど、留学生の適切な受入及び在籍管理を徹底している。

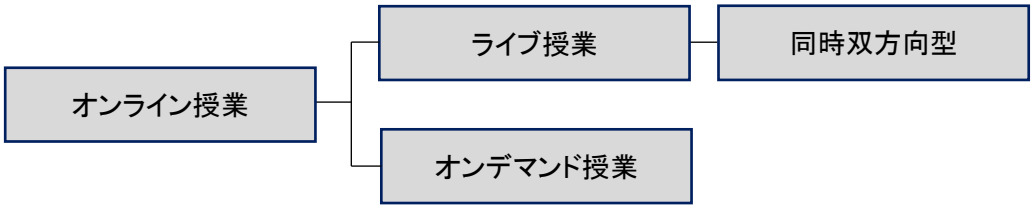
６　多様なメディアを高度に利用して，授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、対面にて授業を行う科目のほか、一部においてインターネット環境を利用してオンライン上で授業を行う科目を開設している。

（１）オンライン授業の形態

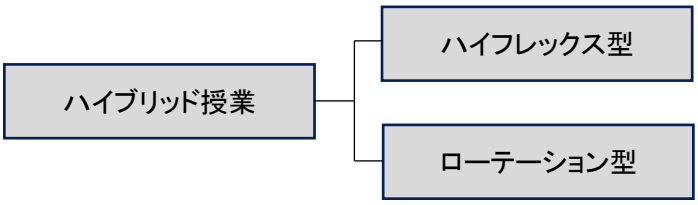
①オンライン授業の実施形態

本学では、次のようにオンライン授業の実施形態を区分している。



②オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態

オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態として、ハイブリッド授業がある。



（２）オンライン授業の定義

①オンライン授業

本学におけるオンライン授業とは、インターネットを介して、文字・音声・静止画・動画等の多様な情報を、当該授業を行う教室等以外の場所にいる学生に対して配信し、設問解答や意見交換などを実施することにより、学修を進めていくもので、標準的な 1 コマ

（1 回分）のすべてを上記のような方法を用いて行う授業を指す。
＜ライブ授業＞
上記オンライン授業の一形態としてライブ授業がある。ライブ授業とは、オンライン授業のうち、同時かつ双方向（教員と学生）で授業を行うものを指す。ライブ授業を詳細に分類すると「同時双方向型」と「同時一方向」に分かれるが、本学においては、双方向性が確保できる「同時双方向型」を指す。
＜オンデマンド授業＞
上記オンライン授業の一形態としてオンデマンド授業がある。オンデマンド授業とは、オンライン授業のうち、予め収録した授業（動画・音声）や音声付 PowerPoint 動画等を配信し、あわせて課題指示等を行うものを指す。

②ハイブリッド授業

オンライン授業と対面授業を組み合わせた授業形態としてハイブリッド授業がある。ハイブリッド授業には、2 つの形態（ハイフレックス型、ローテーション型）がある。
＜ハイフレックス型＞
対面授業をライブ配信することにより、オンラインとしても行う授業のことを指す。
（例）対面希望の学生とオンライン希望の学生を 2 グループに分けて実施する授業。
＜ローテーション型＞
全開講回数のうち、各回によって対面とオンラインを使い分ける授業のことを指す。
（例）全 15 回のうち、4 回目～11 回目をオンラインで実施し、その他は対面で実施する授業。

（3）オンライン授業科目

①オンライン授業科目とは

オンライン授業として実施する科目のうち、オンラインでの授業回数など一定の要件を満たした科目は開講学部等において「オンライン授業科目」として位置づけている。なお、選定にあたっては資料⑥「龍谷大学オンライン授業実施要件」にもとづき行っている。

②オンライン授業科目の履修要件

オンライン授業科目は、60 単位を上限に卒業要件単位数として単位認定される。60 単位を超えて修得したオンライン授業科目は随意科目（自由科目）として取り扱う。

＜龍谷大学学則＞（抜粋） 第 25 条の 2　授業は，講義，演習，実験，実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。 2　前項の授業は，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所

で履修させることができる。
3 第 34 条の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、前項の授業の方法により修得する単位数は 60 単位を超えないものとする。

7 編入学定員を設定する場合の具体的計画

令和 9（2027）年度より編入学生を受け入れる。編入学定員は 2 名とする。

編入学生の既修得単位は、入学時に他大学・短期大学・高等専門学校において修得した単位のうち、本学の開設授業科目と単位数が同等以上で名称や内容に類似性があり、本学の開設授業科目として読替えが可能である科目について単位認定を行う。

教務委員が編入学生一人ひとりの単位修得状況を精査したうえで単位認定の可否を判断し、その妥当性について教務委員会で審議し、教授会で単位認定を承認する。

教育上の配慮として、入学時にオリエンテーションを実施し、本学の教育全般について理解促進を図る（資料⑦「編入学生履修モデル」参照）。

8 企業実習や海外語学研修等の学外実習の具体的計画

8－1 RYUKOKU キャリア・スタート・プログラム（キャリア実習・実習指導）

企業・行政機関等において行う学外（国内）実習として、全学共通で「RYUKOKU キャリア・スタート・プログラム（キャリア実習・実習指導)」（実習期間原則 5 日間以上）を実施する。

（1）実習先の確保の状況

実習先は本学のキャリアセンターが確保する。実習先の確保にあたっては、これまでの実習生の受入れ実績を踏まえ、受入れ承諾の見込がある企業・団体等に対して要項を郵送するとともに、本学卒業生の在籍企業を中心に訪問するなどして実習先の確保を図る（資料⑧「RYUKOKU キャリア・スタート・プログラム（キャリア実習・実習指導）受入先一覧」参照）。

（2）実習先との連携体制

実習期間には、新規の受入れ先を中心に担当教員が訪問するなどして連携を密に取りつつ対応する。併せて、学生からの実習報告を確認しながら学生の状況に合わせた支援を行う。また、不測の事態に備えて、実習中の事故等を対象とする保険に加入するとともに、緊急対応体制を整える。

（3）成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、事前・事後学修及び実習先での学修状況に基づき、プログラム担当教員からの成績評価をもとに行い、教授会で単位認定を承認する。

８－２　RI プログラム（Ryukoku Intercultural Program）

学外（海外）実習として、本学海外拠点を利用した独自の留学プログラム RI プログラム（Ryukoku Intercultural Program）を実施する。

（１）実習先の確保の状況

実習先は、本学海外拠点である RUBeC（米国カリフォルニア州バークレー）及び RUHO（米国ハワイ州ホノルル）である。

（２）実習先との連携体制

RUBeC は、カリフォルニア州バークレーの浄土真宗センター内にあり、学生の留学サポートや教職員の研究活動をサポートしている。教室や宿泊施設を有する。RUHO はハワイ州ホノルルの仏教研究所（BSC）内にあり、BSC の連携のもと学生及び教職員の拠点として活動を行っている。

（３）成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、RI プログラム種別に応じて、プログラム担当者からの成績表をもとに行う。「English language （Ryukoku Intercultural Program）」「Lecture （Ryukoku Intercultural Program）」「Volunteer（Ryukoku Intercultural Program）」があり、RUBeC 教務会議及び教務委員会での成績承認手続を経て、教授会で単位認定を承認する。

（４）その他特記事項

留学期間は在学期間に算入される。

９　取得可能な資格

経営学部商学科では、卒業要件に含まれる科目に加えて、教職関連科目を履修することで、高等学校教諭一種免許状（商業）の取得を可能とする。同様に、卒業要件単位に含まれる科目に加えて、浄土真宗本願寺派教師資格科目を履修することで、民間資格である浄土真宗本願寺派教師資格の受験資格の取得を可能とする。なお、取得にあたっては、随意科目（自由科目）の履修が一部必要となっている。

資格の名称	国家資格	民間資格	
高等学校教諭一種免許状（商業）	○		資格取得が可能
本願寺派教師資格		○	受験資格の取得が可能

１０　入学者選抜の概要

１０－１　選抜方法

１−３に記載した経営学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学力試験をはじめ、大学入学共通テストなどを入試ごとに組み合わせて入学者選抜を実施する。また、入学者選抜の多様化を図るため、以下で説明する複数の選抜方法を取り入れる。

選抜方法	選抜方式別 アドミッション・ポリシー	募集人員
■一般選抜入学試験 前期日程・中期日程・後期日程において実施する。	各学部での教育に必要とされる総合的な基礎学力を有した受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、本学独自の筆記試験において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。	前期日程：48 名 中期日程：18 名 後期日程：5 名
■共通テスト利用入学試験 大学入学共通テストを受験した者を対象に、前期日程・中期日程・後期日程の 3 期に分けて実施する。	各学部の方針に基づいた教科・科目や配点を設定することにより、各学部での教育に必要とされる総合的な基礎学力を有した受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、大学入学共通テストの成績を活用して「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。	前期日程：13 名 中期日程：5 名 後期日程：2 名
■公募推薦入学試験 2 教科型公募推薦入試を実施する。	本学へ明確な志向と熱意を有し、各学部での教育に必要とされる総合的な基礎学力および適性を有した受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、本学独自の筆記試験や提出書類において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。	2 教科型公募推薦入試：18 名
専門高校対象入試を実施する。	高等学校の専門教育を主とする学科や総合学科の出身者を対象として、各学部での実践的な学びにおいてリーダーシップを発揮することのできる受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および本学独自の筆記試験において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。	専門高校対象入試：4 名

■龍谷大学付属平安高校推薦入学試験 龍谷大学付属平安高等学校との信頼関係にもとづき、学生募集枠を設定し、実施する。	浄土真宗本願寺派の宗門校である本学付属校での学びを通し、本学の建学の精神を理解しようとする意欲や、入学後の学修および学生生活に関する明確な志向を持ち、それにふさわしい能力を有した受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および小論文において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。	10名
■教育連携校推薦入学試験、関係校推薦入学試験 教育連携校、関係校との信頼関係にもとづき、それぞれ学生募集枠を設定し、実施する。	浄土真宗本願寺派の宗門校での学びを通し、本学の建学の精神を理解しようとする意欲や、入学後の学修および学生生活に関する明確な志向を持ち、それにふさわしい能力を有した受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および小論文において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。	教育連携校推薦入学試験：7名 関係校推薦入学試験：5名
■指定校推薦入学試験 各高等学校との信頼関係にもとづき、それぞれ学生募集枠を設定し、実施する。	本学の建学の精神を理解しようとする意欲や、入学後の学修および学生生活に関する明確な志向を持ち、それにふさわしい能力を有した受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および小論文において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。	15名

■総合型選抜入学試験〔スポーツ活動選抜、文化・芸術・社会活動選抜〕 スポーツの振興や国際的なスポーツ交流を目的として、スポーツの分野において優れた能力と実績を有するとともに、経営学部の教育理念に共感できる者を選抜する入試を実施する。また、文化活動・芸能活動・ボランティア等の社会活動、各種検定等の面において顕著な実績を有するとともに、経営学部の教育理念に共感できる者を選抜する入試を実施する。	一定の学力を有するとともに、スポーツや文化・芸術・社会活動等の分野において優れた能力と実績を有し、自主的に行動でき、リーダーシップを発揮することのできる受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および小論文において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。	7名
■帰国生徒特別入学試験 保護者の海外勤務その他の事情により、外国の教育を受けて帰国した者を受け入れるための入試を実施する。	海外での貴重な経験と知識を有した帰国生徒を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および小論文において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。	若干名
■外国人留学生入学試験 多様な文化を背景にした者で、経営学部の教育理念に共感できる者を受け入れるため、外国人留学生のための入試を実施する。	本学で学び得た能力を活かして国際的に活躍することを志す外国人学生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類（日本留学試験の成績を含む）において「知識・技能」を、面接において「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。	3名

１０－２　留学生の受入れ方策等具体的な計画（履修指導方法，教育上の配慮等を含む）、日本語能力等の資格要件や経費支弁能力の確認方法，在籍管理方法

日本語能力の資格要件については出願書類として「日本留学試験」（日本学生支援機構）の成績通知書の写しもしくは、成績確認書を求めており、それにより確認している。

経費支弁能力については入学願書に記載を求めており、面接時に確認している。

入学後の具体的な計画については５－７に記載している。

１０－３　選抜体制

経営学部商学科の入学定員は 160 名である。なお、募集人員の比率は、一般選抜（一般選抜入学試験、共通テスト利用入学試験）56.9%、学校推薦型選抜（公募推薦入学試験、龍谷大学付属平安高校推薦入学試験、教育連携校推薦入学試験、関係校推薦入学試験、指定校推薦入学試験）36.9%、総合型選抜（総合型選抜入学試験、スポーツ活動選抜入学試験、文化・芸術・社会活動選抜入学試験）4.4%、その他（帰国生徒特別入学試験、外国人留学生入学試験）1.9%である。

一般選抜入学試験、共通テスト利用入学試験及び公募推薦入学試験は、入試部を中心とした全学体制で実施し、経営学部教授会で合否判定を行う。

また、公募推薦入学試験以外の学校推薦型選抜及び総合型選抜については、経営学部が実施し、経営学部教授会が合否判定を行う。

１０－４　編入学制度

経営学部商学科では、3 年次に編入学制度を設ける。3 年次編入学定員は 2 名とし、令和 9（2027）年度入試から実施する。経営学部の専門課程の履修に必要な素養について試験を課し、経営学部教授会が合否判定を行う。

１１　教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

１１－１　教員配置の基本的考え方

本学では、「龍谷大学の教育研究組織の編制原理」（資料⑨「教育研究組織の編制原理」参照）を定め、建学の精神を具現化し、教育理念・目的を実現するために「本学の求める教員像と教員組織の編成方針」（資料⑩「求める教員像と教員組織の編成方針」参照）を以下のとおり定めている。

> 本学は、「建学の精神を尊重するとともに、教育活動を始めとする業務に意欲的に取り組む意志を有する者」を求める教員像とする。
>
> また、「龍谷大学の教育理念・目的」を実現するために、「学部・研究科の「教育理念・目的」と 3 つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」及び「学生支援の方針」（「学生支援の方針」（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」「留学生支援の方針」「障

がい学生支援の方針」））に基づき、「教育職員選考基準」と各学部等が定める教員人事に関する規程に則り、教員組織を編成する。

この方針のもと、経営学部及び経営学部商学科の「教育理念・目的」を達成するために、基幹教員は、本学の「教育職員選考基準」（資料⑪「教育職員選考基準（抜粋）」参照）に照らして任用する。

経営学部商学科の教員編成にあたっては、現在の経営学部経営学科から15名をもって編成する。

１１－２　中核となる科目や必修科目における教員配置

１１－２－１　教養教育科目

教養教育科目のうち、必修科目は「仏教の思想A、B」と「英語総合1（A）、1（B）、2（A）、2（B）」である。「仏教の思想A、B」（本学の建学の精神を学ぶための必修科目）に関しては、基幹教員以外の教員が担当する。また、グローバル社会において欠くことのできない英語教育「英語総合1（A）、1（B）、2（A）、2（B）、3（A）、3（B）、4（A）、4(B)」については、本学深草キャンパスで実施されている従前の教育プログラムに照らし、少人数教育（1クラス30名～40名程度）を実現可能とする数の基幹教員もしくは基幹教員以外の教員を配置する。

１１－２－２　専攻科目

専攻科目の必修科目及び選択科目（履修指導科目）については、基幹教員を配置している。また、「フレッシャーズゼミ」や「アカデミックスキルズA」、「アカデミックスキルズB」、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ（演習研究含む）」といった少人数の演習科目についても、全科目とも基幹教員を配置している。専攻科目では、基幹教員を中心に科目を担当することで、基礎から発展まで一貫した指導体制を構築することが可能となり、体系的な教育の展開と学修の質を担保する。また、一部科目ではその他教員が担当することになるが、基幹教員が中心となって担当者をコーディネートすることによって、有機的な連携体制の構築が可能となる。

１１－３　実務経験のある教員の配置

実務経験のある基幹教員を配置することは、経営学部商学科において掲げた教育理念・目的、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を履行する上で不可欠であるとともに、その実務経験を十分に授業に活かした授業展開をするなど実務と理論をつなぐ観点からも重要である。そのため、民間企業等において実務経験を積んだ基幹教員を配置する。

１１－４　教育研究実施組織の研究分野と研究体制

経営学部商学科を編成する基幹教員の研究対象分野は、経営学、商学、会計学、農業経営学を中心に、経済地理学、社会学、宗教哲学、倫理学、教育学、言語学の分野となる。

教員個々の研究活動は日本経営学会、組織学会、日本商業学会、日本会計学研究学会、日本農業経営学会、経済地理学会、日本社会学会など、それぞれの所属学会を中心に行われている。また、「龍谷大学経営学会」（本学研究部所管）に基幹教員の多くが所属し、研究活動に取り組んでいる。

１１－５　教育研究実施組織の年齢構成

本学の定年年齢は「職員定年規程」において、教授は満 68 歳、准教授・講師・助教・助手は満 65 歳に達した年度末である旨が定められている。

基幹教員を集計した場合、学科完成年度末（令和 11（2029）年 3 月 31 日）時点における年齢構成は、下表のとおりとなる。70 歳代：0 名、60 歳代：6 名、50 歳代：7 名、40 歳代：2 名となっている。

今後の教員補充に関しては、専門領域等も勘案しながら、年齢層に著しい偏りが生じないように、積極的に若い世代の教員も採用し、経験豊富な教員と相乗効果によって、より活発な教学組織となることを目指す（資料⑫「職員定年規程」参照）。

年　齢	70 歳以上	65-69 歳	60-64 歳	50-59 歳	40-49 歳	30-39 歳	合計
人　数	0 名	3 名	3 名	7 名	2 名	0 名	15 名

また、基幹教員の職階構成は下表のとおりである。職階構成のバランスは良く、後継の育成という観点からも望ましい構成だと判断している。

職階	教授	准教授	講師	助教
人数	8 名	6 名	1 名	0 名

１１－６　教員及び事務職員等相互の適切な役割分担の下での協働や組織的な連携体制

経営学部商学科の教員組織については、基幹教員により構成される経営学部教授会において、学則第 64 条に規定されている教育研究に関する重要な事項で教授会の審議決定が必要な事項を審議することを規定している。

経営学部教授会の審議決定にあたっての事務は、事務組織規程第 24 条の 4 に定める学部教務課が担当することを規定している。

このように教員と事務職員の役割を規程に明確にし、教職協働による運営体制を構築している。

また、大学全体の教学運営に係る主要な会議（全学教学政策会議、教学会議）も教員と事務職員で構成しており、教職協働による運営体制を構築している。

１２　研究の実施についての考え方、体制、取組

本学は、単に歴史や伝統だけにとらわれることなく、「高度化」「多様化」をキーワードに 21 世紀の科学技術と文化を創造しうる独創的な世界水準の研究を目指している。

本学の建学の精神の礎となっている「仏教」を中心とする伝統的・歴史的な研究資源を活かした研究、最先端の研究環境のもとで次代の科学技術を創造する研究、地域社会やグローバル社会とのつながりのもとでの研究など、未来を見据えて、社会から求められる学術文化の振興に取り組んでいる。また、先端的な研究だけでなく、基盤的な研究も積極的にサポートしていくことにより、人材育成や社会連携等のすそ野の広い研究が行われる大学を目指している。

研究組織としては、資料⑬「龍谷大学研究活動に関する指針」、「人間・科学・宗教総合研究センターの編成原理」及び「付置研究所の編成原理」に基づき、人間・科学・宗教総合研究センター、世界仏教文化研究センター及び 4 つの付置研究所（社会科学研究所、科学技術共同研究センター、国際社会文化研究所、食と農の総合研究所）を編制している。また、学問水準の向上及び教育の充実発展を図るため、資料⑭「研究員規程」に基づき、一定期間研究に専念できる「研究員制度」を設けている。

これら研究活動を支援するため、資料⑮「研究支援の方針」に基づき、事務組織として研究部を設置し、深草・大宮・瀬田の 3 キャンパスそれぞれに事務室・研究サポート室等の拠点を設け、研究活動の促進に資する環境の整備を進め、研究支援ガイドの充実を図るなど、研究支援体制の向上を図っている。

URA（University Research Administrator）を任用するため、令和 5 年度（2023 年度）中に関連規程を整備した。令和 6 年度（2024 年度）には、先ず自然科学系学部を対象に主に産官学連携を担当する URA3 名を配置した。今後、更に URA を増員（任用）することを計画しており、人文科学系学部、社会科学系学部を対象とすることも検討している。また、研究活動をサポートする技術職員として、PC サポート 3 名（深草・大宮担当 2 名、瀬田担当 1 名）を配置している。

１３　施設、設備等の整備計画

１３－１　校地、運動場の整備計画

経営学部商学科は深草キャンパスで教育研究を行う。なお、一部科目については大宮キャンパス（京都市下京区）で教育研究を行う。

深草キャンパスは、現在 154,698.60 ㎡の校地面積を有し、7 学部（文学部（主に 1 年次・2 年次）、経済学部、経営学部、法学部、政策学部、国際学部、心理学部（主に 1 年次・2 年次））、5 研究科（経営学研究科、経済学研究科、法学研究科、政策学研究科、国際学研究科）を設置している。多数の教室や演習室、図書館、情報処理実習室に加え、保健管理センター、こころの相談室、学生食堂等の施設のほか、福利厚生施設を含む各種施設を整備しており、経営学部商学科設置後も、既設学部等とは十分に共用可能である。

深草キャンパスにおける学生の休息・談話スペースについては、主に 3 号館、4 号館、22 号館の地階に食堂を設けるとともに、成就館にカフェレストラン、中央広場にベンチ等を配置している。また、教室棟のホールなどに適宜机・椅子を設置する等、オープンな空間の確保に留意している。

大宮キャンパスは、現在 20,200.09 ㎡の校地面積を有し、文学部の 3 年次・4 年次及び文学研究科、実践真宗学研究科を設置している。多数の教室、演習室、図書館、情報処理実習室に加え、保健管理センター、こころの相談室、学生食堂等の施設のほか、福利厚生施設を含む各種施設を整備しており、経営学部商学科設置後も、他学部等と十分に共用可能である。

大宮キャンパスにおける学生が休息や談話するスペースについては、キャンパス内の清和館 1 階食堂や 2 階の談話室、清風館の地階のラウンジや 2 階の談話室を備えている。また、西黌新棟の 1 階ロビーではオープンな談話スペースを設けている。

運動場については、深草キャンパス近隣に南大日グラウンド（スクールバスで約 15 分程度）を有するほか、深草キャンパス内に体育館（メインフロアー、トレーニング室 9 室）、専精館（第 2 体育館、メインフロアー、トレーニング室 4 室）及びテニスコートを設けている。

１３－２　校舎等施設の整備計画

校舎等の施設は、既存施設を活用するとともに深草キャンパス・大宮キャンパス共に、新棟を整備し令和 7（2025）年 4 月から供用を開始する。深草キャンパス新棟には、講義室 48 室、研究室 51 室、研究プロジェクト室 6 室等を整備する。また、大宮キャンパス新棟には、講義室 2 室、演習室 6 室、研究室 21 室、付置相談室、カフェ等を整備する。

既存施設は、科目の配置状況やその授業形態を踏まえたうえで必要な教室を確保する。現在、深草キャンパス（新棟除く）では、講義室 103 室、演習室 120 室、実験・実習室 29 室、情報処理室 15 室及びセルフラーニング室 1 室（パソコン 760 台設置）が整備されており、大宮キャンパス（新棟を除く）では講義室 18 室、演習室 27 室、実験・実習室 14 室、情報処理実習室 5 室及びセルフラーニング室 1 室（パソコン 207 台設置）が整備されている。これらの施設を既設学部等と共同で利用する予定であり、校地・校舎面積も大学設置基準上の面積を充足している。

研究室については個室であり、オフィスアワーなど学生の教育上の情報管理等の機密性の観点から、プライバシーが確保される環境が十分に整備されている。

１３－３　図書等の資料及び図書館の整備計画

3 つのキャンパス（京都市：深草・大宮、滋賀県大津市：瀬田）を有する本学は、キャンパス毎に図書館を設置し、それぞれ、キャンパスの学部・研究科等に即した分野の蔵書構成をとっている。3 館の蔵書数は、令和 5（2023）年度末で約 2,340,000 冊であり、経営学部の学生は、深草図書館を主として利用することとなる。

深草図書館は、経済学部、経営学部、法学部、政策学部、国際学部、社会学部に対応した社会科学系の学習・研究用図書、雑誌に加え、文学部及び心理学部 1 年次・2 年次生に対応した人文科学系の基本図書を重点的に収集している。また、深草キャンパスでは、教養教育科目が集中的に開講されていることから、一般教養に関する図書も幅広く所蔵している。同館の蔵書数は、図書約 1,062,000 冊、雑誌約 9,000 種類、視聴覚資料約 40,000 点である（資料⑯「学術雑誌等一覧」参照）。

上記の図書や雑誌等の紙媒体資料に加え、現在、180 種類のオンラインデータベース（電子ジャーナルを含む）や電子書籍の電子媒体資料も一部を除き、学内・学外から利用可能である。

深草図書館は、和顔館（地下 2 階地上 3 階建て）と 8 号館（地下 2 階地上 5 階建て）に加え、書庫として紫光館（地下 1 階地上 5 階建て）から成っている。和顔館は、事務室をはじめとする管理スペース、開架、閲覧席、AV&PC コーナー、サービスカウンターや飲食可能なリーディングテラス等を、8 号館は、雑誌閲覧室と書庫（学術雑誌や製本雑誌収蔵）をそれぞれ有し、一体として機能している。閲覧席数は、両館あわせて約 1,400 席（AV&PC コーナー、インターネット端末を含む）である。

また、図書館内には、ナレッジコモンズとして、図書館の多様な所蔵資料を積極的に活用しながら主体的かつ協調的に学び合うオープンスペースである「ナレッジスクエア」と複数人での発表やグループ学習等に最適な「グループワークルーム」を設置している。

開館時間については、学生の積極的な学修支援のために、通常授業期間の平日は 22 時、土曜・日曜日は 17 時まで開館している。また、相互協力については、学内 3 図書館間の相互貸借、文献複写サービスをはじめとして、他大学図書館との相互貸借・文献複写サービス、大学コンソーシアム京都共通閲覧システム、私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会共通閲覧証協定に参加等、他大学図書館等関係機関との協力も積極的に行っている。

１４　２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

上述のとおり、本学は、大学本部がある深草キャンパス（京都市伏見区）以外に、大宮キャンパス（京都市下京区）及び瀬田キャンパス（滋賀県大津市）の 3 つのキャンパスを有している。

経営学部商学科は、4 年間深草キャンパスで教育研究を行うが、大宮キャンパスで次の科目を開講することとしている。

■教養教育科目

科目名	開講期	履修方法
ラテン語Ⅰ	3 セメ	選択
ラテン語Ⅱ	4 セメ	選択
ギリシア語Ⅰ	3 セメ	選択
ギリシア語Ⅱ	4 セメ	選択

■本願寺派教師資格課程科目（随意科目（自由科目））

科目名	開講期	履修方法
（本山教師）仏教史	1セメ	選択
（本山教師）宗教概説	1セメ	選択

両キャンパス間は、スクールバスを利用することにより、約15分で移動可能である。教養教育科目については選択科目であり、時間割編成上の支障は生じない。本願寺派教師資格課程科目については、随意科目（自由科目）であり夏期集中講義で実施するため、時間割編成上の支障は生じない。

いずれの科目においても基幹教員が担当しないが、教養教育科目については、教養教育センターのもとに科目部会が設置されて、科目編成及びその運営を担っている。また当該科目を管轄する初修外国語科目部会には、経営学部商学科所属の基幹教員が構成員として、その運営等に関与している。また、本願寺派教師資格課程科目（随意科目（自由科目））については、当該科目担当者は文学部の基幹教員である。授業担当者は、経営学部商学科所属の基幹教員ではないが、経営学部商学科所属の基幹教員が運営にかかわっていたり、他学部基幹教員よって運営がなされるため、支障がない。

１５　管理運営

龍谷大学学則第64条にもとづき教授会を設置する。本教授会は、経営学部教授会規程にもとづき教授、准教授、講師を構成員とする。また、教授会における審議・決定事項として、（1）教育職員の人事に関する事項、（2）学部長及び評議員の選考に関する事項、（3）研究及び教授に関する事項、（4）教育課程の編成、履修の方法及び試験に関する事項、（5）学業評価に関する事項、（6）学生の退学、休学、復学及び留学に関する事項、（7）学生の補導厚生に関する事項、（8）学部内諸規程の制定改廃に関する事項、（9）学位称号に関する事項、（10）その他学部における重要な事項が定められている。

本教授会は学部長が招集し議長となり、構成員の3分の2以上の出席により成立することとし、月2回程度の開催を予定している。

なお、教授会の円滑な運営を図るため、学部長、教務主任、研究主任、キャリア主任、学生生活主任等からなる執行部会議を設け、教授会の議題の精選、審議事項の調整を図っている。

１６　自己点検・評価

本学では、建学の精神にもとづく特色ある教育研究活動等を展開し、私立大学としての自主性、自律性を重んじつつ、有為の人材を育成するとともに、学術文化の向上や社会の発展に貢献することを目指している。その実現のため、教育・研究の向上を図り、自らの活動を

点検・評価し、独自の方法で教育研究の質を自ら保証すること（内部質保証）が重要であると認識している。

こうした認識のもと、龍谷大学学則第 1 条の 2 に、「本学は教育研究の向上をはかり、前条の目的を達成するため、自らの点検・評価を行う」と定めるとともに、「内部質保証に関する方針」を定めている。本方針は、「1 基本的な考え方」「2 内部質保証の推進に責任を負う組織」「3 組織としての自己点検・評価」及び「4 教員個人の諸活動に対する自己点検」の 4 項目で構成し、本学の内部質保証システムを明示している。具体的には、「組織としての自己点検・評価（以下、「組織の自己点検・評価」）」及び「教員個人の諸活動に対する自己点検（以下、「教員活動自己点検」）」の 2 つの制度で内部質保証を推進している。

組織の自己点検・評価では、「大学評価に関する規程」に基づき、全学的な自己点検・評価の体制を整備している。具体的には、大学評価に関する重要事項を審議・決定するため、大学執行部である部局長会の下に全学大学評価会議を設置し、その下に、大学評価に関する具体的な事項を審議・決定する大学評価委員会を設置している。さらに、すべての学部等に自己点検・評価委員会を設置し、日常的な評価・改善活動を行う体制を整えている。点検・評価項目については、基本的には公益財団法人大学基準協会の点検・評価項目に準拠しつつ、本学独自の点検・評価項目も加えている。毎年度、すべての学内組織が自らの判断と責任においてその諸活動について点検・評価を行い、その結果を「自己点検・評価シート」にまとめ、大学評価委員会による点検・評価を経て、全学大学評価会議が評価結果を決定し、学内各組織にフィードバックし、改善及び向上を図るものである。

教員活動自己点検では、各教員が、教育、研究、社会貢献、大学管理運営の 4 領域において、年度始めに基本方針を定めた後、年度末までに諸活動について自己点検を行い、自ら改善及び向上に取り組み、教育研究活動等を活性化させることを目指している。

自己点検・評価の結果公表については、「内部質保証に関する方針」、「大学評価に係る公表の方針」、自己点検・評価の実施体制、関連規程、制度概要とともに、大学全体に係る自己点検・評価シートと自己点検・評価によって顕在化した全学的課題の一覧をホームページに掲載している。また、認証評価の評価結果、点検・評価報告書についてもホームページで公表している。

本学は、令和 3（2021）年 3 月に、公益財団法人大学基準協会から大学基準に適合しているとの認定を受けた。評価結果においては、適合認定のほか、大学の諸活動に対して、「長所」7 件、「改善課題」8 件の提言を受けた。「長所」については、さらなる伸長方策を、「改善課題」については、改善計画を策定し、本学の内部質保証システムの中で、さらに改善・改革を重ねるスパイラルアップ（好循環）を生み出せるよう取り組んでいるところである。「改善課題」として提言された課題については、令和 6（2024）年 7 月末までに、公益財団法人大学基準協会に「改善報告書」を提出する。

経営学部も自己点検・評価委員会を設置し、本学の内部質保証システムに基づき、「組織としての自己点検・評価」と「教員活動自己点検」を実施し、学部理念や目標に照らし、教

育研究活動等の課題改善や質の向上を図っていく。

１７　情報の公表

本学では、在学生・保護者・卒業生・受験生等に向けて、大学の情報（大学の使命、目的、大学の運営状況、教育・研究活動等）を積極的に発信している。特に大学の基本情報については、平成 23（2011）年 4 月 1 日施行の学校教育法施行規則等の一部改正（教育情報の公表の義務化）を踏まえ、情報の公表に関する規程を整備し、また、これにもとづき「情報公表（基礎データ）」のページを本学ホームページ内に新たに設置し、法人並びに教育情報の積極的な公表に努めている。具体的な内容は以下のとおりである。

（１）大学の教育研究上の目的に関すること

本学の「寄附行為」、「建学の精神、使命及び理念」に関する情報をホームページ内に掲載し、本学の教育研究上の目的に関する情報を公表している。

①「学校法人龍谷大学寄附行為」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学則・諸規程等に関する情報 ＞ 1．学校法人龍谷大学寄附行為
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/rules202306/reiki_honbun/i600RG00000001.html

②「建学の精神、使命及び理念」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 建学の精神
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/spirit.html

（２）教育研究上の基本組織に関すること

法人運営を行う役員・評議員のほか、本学の役職者、教育研究組織、研究関連組織、事務組織等に関する情報をホームページ内に掲載している。

①「役員・役職者一覧」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 組織 ＞ 役員・役職一覧 ＞ 龍谷大学役職者
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/office_list_02.html

②「教育研究組織」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 組織 ＞ 教育研究組織図
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/education.html

③「研究関連組織」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 組織 ＞ 研究関連組織図
https://www.kenkyubu.ryukoku.ac.jp/branches/

④「事務組織」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 組織 ＞ 事務組織図
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/office.html

（３）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教員データベース内に、教員組織や各教員が有する学位・業績等の情報を掲載している。また、教員数については、職階・男女・年齢別の情報をホームページ内に掲載している。

①「教員データベース」
HOME ＞ 教員データベース
https://rdb.ryukoku.ac.jp/

②「教員数（職階別・男女別数）」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学校法人及び学校の基本情報（建学の精神、沿革、組織、学生数・教員数等）＞ 教員数（職階別・男女別数）
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_1.html

③「教員数（年齢別数）」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学校法人及び学校の基本情報（建学の精神、沿革、組織、学生数・教員数等）＞ 教員数（年齢別数）
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_2.html

（４）入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

学部ごとに定める入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）をホームページ内の「教育活動に関する情報」に、入学者数・収容定員・在学生数等をホームページ内の「学部・学科・専攻、大学院研究科等の入学者数・編入学者数」にそれぞれ掲載している。また、卒業生数・修了生数をホームページ内の「学位授与数」に、就職者や進学者数等、就職に関する情報をホームページ内の「就職・進路決定率」にそれぞれ掲載している。

①「教育活動に関する情報」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 教育活動に関する情報
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

②「学部・学科・専攻、大学院研究科等の入学者数・編入学者数」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学生数・入学定員・入学者数・収容定員等
https://www.ryukoku.ac.jp/about/factbook.html

③「学位授与数」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学校法人及び学校の基本情報（建学の精神、沿革、組織、学生数・教員数等）＞学位授与数
https://www.ryukoku.ac.jp/about/factbook_09.html

④「就職・進路決定率」
HOME ＞ 就職支援 ＞ 就職関連統計資料 ＞ 就職・進路決定率
https://career.ryukoku.ac.jp/statistical/index.html#gyoshu

（５）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

授業科目ごとに、その授業方法、内容、年間（半期）の授業計画等に関する情報をホームページ内の「シラバス」に掲載している。

①「シラバス」
本学ウェブサイト（https://www.ryukoku.ac.jp/）下部「Web シラバス」
https://syllabus.ws.ryukoku.ac.jp/acrsw/Syld110/SYLD110Init.do?id=795112611692936774701735484 8

（６）学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

成績評価の方法・基準等に関する情報をホームページ内の「学修の成果に係る評価」に掲載している。

①「学修の成果に係る評価」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学修の成果に係る評価
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/record.html

②「各学部の卒業要件単位数」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 教育活動に関する情報 ＞ 6.卒業要件単位数の内訳と授与する学位 ・各学部の卒業要件単位数
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

③「各研究科の修了要件単位数」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 教育活動に関する情報 ＞ 6.卒業要件単位数の内訳と授与する学位 ・各研究科の修了要件単位数
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

（７）校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

ホームページ内の「校地・校舎等の施設・設備に関する情報」に、関連する情報を掲載している。

①「校地・校舎等の施設・設備に関する情報」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ） ＞ 校地・校舎等の施設・設備に関する情報
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_08.html

（８）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料・施設費・入学金等の学費、並びにその他諸会費に関する情報をホームページ内に掲載している。さらに、次年度の学費について保護者向けに通知すること等により、学生から徴収する費用についての情報を公表している。

①「学費」
HOME ＞ 学生生活 ＞ 学費・奨学金 ＞ 学費
https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/expense/school.html

（９）大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

本学が実施している学生生活全般に関する情報をホームページ内の「学生生活・課外活動に関する情報」に、就職支援や進路選択に関する情報をホームページ内の「進路・就職に関する情報」にそれぞれ掲載している。

①「学生生活・課外活動に関する情報」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学生生活・

課外活動に関する情報
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_05.html

②「進路・就職に関する情報」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 進路・就職支援に関する情報
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_07.html

（１０）その他
①「認証評価結果」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 認証評価
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/appraisal.html

②「自己点検・評価」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 自己点検・評価（内部質保証）
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/evaluation/evaluation.html

③「学則・諸規程等」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学則・諸規程等に関する情報
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_11.html

④「財務及び経営に関する情報」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 財務情報
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/finance.html

対外的な情報発信については、大学の広報機能の強化・充実を目的として策定した「広報基本戦略」にもとづき、マスメディア等に対して積極的な情報発信を行っている。
また、受験生向けの大学案内誌、本学学生・教職員の活躍や特色ある取り組みを紹介する広報誌『龍谷』等により、幅広いステークホルダーに対する情報発信を展開している。

１８　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等
１８－１　授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修の計画
（１）大学全体におけるＦＤ活動への取り組み
本学では、学修支援・教育開発センターを設置し、教学マネジメントを支える機関として、また、FD ならびに教学 IR を推進する機関として位置づけている。

学修支援・教育開発センターは、教育改善活動と学修支援からなる全学的な活動を積極的に推進し、大学全体の教育の質及び教育力のさらなる向上を図るため、高等教育の動向変化に対応しながら、以下の事業に取り組んでいる。

（２）教育活動における交流・研修事業

文教政策の動向等を踏まえ、社会性・話題性のあるテーマを設定して「FD フォーラム」を企画・開催し、学外にも公開している。また、学内教職員の FD 活動に関する啓発と交流を図るため「FD 研修会」の実施や、大学全体の FD 以外にも各学部・研究科の FD 活動の取組状況や成果を全学で共有するために「FD 報告会」を開催し、教学資源の共有と FD の普及を図っている。

さらに、本大学に初めて着任した教員を対象に、本学の教育理念をはじめ、本学の教育研究活動支援に関する各種サービスの利用方法等についての研修を実施している。

（３）教育開発・研究事業

①オンライン教育に関する情報収集・共有

「龍谷大学オンライン授業実施要件」に基づき、各教学主体が展開するオンライン授業科目を選定し、教育の質の維持、さらなる向上を目的とした検証を実施するとともに、検証結果を全学で共有している。

②ICT 活用教育の推進

授業における「LMS（manaba course）」の利用促進のため、LMS の概要のほか、LMS の実演を含めた授業を行うにあたり必要な事項について説明を行っている。

また、ICT を活用した教育のグッドプラクティスを募集し、教育の高度化と手法の共有を図ることを目的として「龍谷 ICT 教育賞」を設けて、優れた取組を称賛するとともに、全学に優れたノウハウを共有している。

③指定プロジェクト及び自己応募研究プロジェクト

新たな教育手法の開発研究のための事業として、学修支援・教育開発センターが指定するテーマに基づく「指定研究プロジェクト」と、学内公募による「自己応募研究プロジェクト」を実施し、教育改善や教材開発等を図る取組に対して経費の支援を行っている。これらのプロジェクトの研究成果について、FD 報告会やポスター展示を実施し、全学に公開・共有している。

（４）教育改善活動支援事業

①アセスメントテスト

学生の学修成果の可視化指標の一つとしてアセスメントテスト（GPS-Academic）

を実施している。

受検結果については、個々の回答や各学部の要望を踏まえてデータを可視化し、学生の成長度合いの測定や学修状況の確認を行っている。これらのデータは教育改善をはじめ、退学予防や入試戦略の検討に活用している。

また、学生個人の回答結果をもとに作成される「学生面談カルテ」についても、学生の学修指導等への活用を進めている。

②学生による学期末の授業アンケート

授業を担当する教員個人又は各教学主体の教育改善活動を支援するため「学生による学期末の授業アンケート」を実施している。なお、本アンケートは原則として、講義科目は実施することとし、演習・実習等の科目や研究科科目についても各教学主体の判断に基づき実施している。

また、アンケート結果の集計・分析結果を全学で共有し、現状の把握及び経年比較を行っている。

③教学 IR（Institutional Research）の推進

「龍谷大学における教学 IR の定義」（平成 29（2017）年度策定）に基づき、上述のアセスメントテスト、授業アンケートや、各種調査、大学 IR コンソーシアム学生調査等のデータの可視化を実施している。

これらのデータについては、「教育の質向上」「3 ポリシーの実質化」を主な目的として令和 3（2021）年度に策定された「龍谷大学アセスメントプラン」の指標データとして提供し、大学全体レベルでの AP、CP 及び DP の検証を進めている。

（５）学内外との連携、情報収集・発信

①各学部・研究科との連携

各学部・研究科の取り組みに関する情報交換・共有を図るため、「学部 FD 協議会」及び「大学院 FD 協議会」を開催している。

②他大学等との連携

全国私立大学 FD 連携フォーラム、（社）私立大学連盟、（財）大学コンソーシアム京都、（社）大学 IR コンソーシアム等が主催する各種フォーラムや研修会、講演会等に参加するとともに、企画検討するための委員としても参画している

③情報収集・調査

学修支援・教育開発センターが中心となり、文教政策等、高等教育をめぐる動向についての情報収集を行い、各教学責任主体等に提供し、教育改革・改善を支援している。

１８－２　大学職員に必要な知識・技能の習得及び向上の取組み

本学では、令和２（2020）年に制定した「学校法人龍谷大学スタッフ・ディベロップメント（SD） 実施基本方針（以下「基本方針」という。）」において、SD の目的を「建学の精神の具現化、教育理念・目的の実現に向け、教職員が、教育研究活動および管理運営における職責を適切かつ効果的に遂行するために求められる能力を向上させること」と定めている。

法人及び大学・短期大学部、付属校の運営を担う全ての教職員を SD の対象とし、教育職員、事務職員それぞれの職務や職責に応じて、教育研究活動及び管理運営の適切かつ効果的な遂行のために必要な能力を開発するために SD を実施している。

具体的には、ボード・デベロップメント（BD）研修、大学の長期計画に関するワークショップ、建学の精神に関する研修、人権研修、ハラスメント研修、情報セキュリティに関する研修等があり、参加対象を教育職員、事務職員に区分せず、全学的かつ組織的に実施している。

上記に加えて、事務職員については、キャリア形成に向けて、事務職員に求められる必要な知識と技能を計画的・継続的に修得するために各種の研修制度を用意している。

研修の目的としては、学校法人龍谷大学就業規則及び事務職員研修規程において、「職員は、その職責遂行のため自発的に研修に励み、かつ、法人の行う研修をうけなければならない」、「研修は、教育と訓練によって、必要な知識と技能を修得させ、事務職員の資質向上と自己啓発を促し、業務の推進を計る人材を養成することを目的とする」、「研修は、長期的な人材養成の一環として、継続的・計画的に行うものとし、事務職員の自主的な研修についても、これを奨励するものとする」と規定されている。事務職員は、本学の目標である「教育」「研究」「社会連携」を深く理解し、大学目標の実現を積極的に遂行するスタッフであることを認識し、その業務の遂行にあたっては、自ら担当する業務が諸政策遂行の一環業務であることを常に意識し、他の業務担当者との連携をはかり教学と経営の両視点からの政策を提案し得るよう、一業務分野の第一人者として専門知識向上に努めるとともに、マネジメント能力を育成するよう支援するための各種研修を実施している。

なお、具体的には、各事務職員の資格に応じた「資格別研修」、本学が加盟する私立大学連盟等が主催する研修会に参加する「選抜研修」、部署内の業務改善や知識の修得を目指す「部署別研修」等のプログラムを用意している。

１９　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

１９－１　教育課程内の取組

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援、留学生支援、障がい学生支援の５つの方針からなる「学生支援の方針」を定め、全ての学生に対して支援を行っている。

社会的・職業的自立に関する指導等については、本学のキャリア支援の方針に基づき、経営学部商学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）のなかに「生涯を通した持続的な就業力や自分らしい生き方を実現するための力を身につけるために、「ワークルール入門」及び「キャリア＆ライフマネジメント」などのキャリア啓発やキャリア形成にかかる科目を開講する。」と明示し、学生のキャリア形成を支援する。具体的には次のような取り組みを行うとともに、その他の商学に関わる専門的な科目においてもキャリア啓発・形成を意識した教育を実施する。

（１）「ビジネスケーススタディ A」（第１セメスター）

必修科目として、第１セメスターに開講する。ビジネスについての興味関心を高めるとともに基礎的な知識の習得を目指す。

（２）「ビジネスケーススタディ B」（第１セメスター）

必修科目として、第１セメスターに開講する。さまざまな企業のケーススタディを通して、多様な企業経営のあり方を知るとともに、自分自身はどのような企業に興味があるのか、また企業経営のどのような側面に関心があるのかなど、自己理解を深めることを目的とする。

（３）「ワークルール入門」（第２セメスター）

選択科目として、第２セメスターに開講する。私たちの生活にとって不可欠な存在である企業の雇用・労働の問題に焦点をあてて、「ワーク・ルール」（＝働く際に知っておくべき法律等）を学ぶことを目的とする。

（４）「キャリア＆ライフマネジメント」（第３セメスター）

選択科目（履修指導科目）として、第３セメスターに開講する。就職活動やキャリア教育にとどまらない、ライフマネジメント全般についての理解を深めることを目的とする。

上記の体系的な学びを２年次から始まる「演習Ⅰ」（第4～第５セメスター）及び３年次から始まる「演習Ⅱ（演習研究含む）」（第6～第８セメスター）に結実させることにより、自らの専門性を確立・完成させ、自身が目指すキャリアが実現できるよう指導する。

１９－２　教育課程外の取組

本学はキャリアセンターと学部等が連携・協力し、学生のキャリア形成に資する種々の取組を実施している。具体的な内容は次のとおりであり、経営学部においてもキャリア形成に資する同様の取組を実施する。

1 年次では将来の進路を考えるためのガイダンスを、2 年次では職業観や勤労観の醸成、自己を見つめ直す機会の提供を目的としたガイダンスを実施している。3 年次・4 年次では進路・就職活動の段階に合わせたガイダンスや採用選考対策のセミナーを開催している。また、資格取得を目指す学生に対しては、外部の専門学校や資格試験予備校と提携しながら、資格取得・就職支援のための講座を開講している。

この他にも、グローバルキャリアを志す学生に対応したプログラムの展開や、学生自身が自己の成長を認識することを可能にするアセスメントテストの実施など、総合的な進路・就職支援を行っている。以上のような、多様な支援プログラムを実施するとともに、履修登録システムと連動した「就職状況把握システム」を運用し、全卒業年次生のデータを集積している。これにより、進路・就職活動が滞っている学生を把握し、活動状況に応じて適切な支援を行っている。また、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、face to face の面談を重視し、それぞれの学生の状況を踏まえたきめ細やかで丁寧な支援を行っている。なお、面談には、主にキャリアコンサルタント資格を有する職員が対応している。

さらに、大学院生、留学生、障がいのある学生、課外活動に取り組む学生等に対しては、学生の個々の資質に応じて、それぞれの特性を踏まえた進路・就職支援を展開している。

１９－３　適切な体制の整備について

本学では、各学部にキャリア主任を置き、キャリア主任がキャリアセンターと学部を繋ぐ役割を果たすことで、教育課程内で体系的なキャリア教育を展開できるようにしている。学内の支援組織については、「全学キャリア政策会議」、「キャリア支援会議」、「学部キャリア委員会」がその任に当たっている。

全学キャリア政策会議は、全学的なキャリア支援政策の策定や推進に関する事項を審議する。担当副学長を議長とする本会議において必要と判断した事項は、各学部長を構成員とする部局長会等に諮り、学部と大学全体との有機的な連携を図っている。

キャリア支援会議は、キャリア支援の問題について全学的に協議・調整を行う。本会議には、学部キャリア主任が委員として参加することで、各学部とキャリアセンターが支援上の諸課題を共有しながら、キャリア支援の円滑な推進を図っている。

学部キャリア委員会は、学部のキャリア教育及び就職支援を推進するため、学部ごとに設置された組織である。経営学部のキャリア委員会には、キャリア主任をはじめ、キャリアセンター職員等が委員として参加し、学部におけるキャリア教育について検討するとともに、キャリアセンターと就職支援の有機的な連携・推進を図る。なお、キャリアセンターにおいては、各学部担当の職員を配置し、それぞれの特徴に応じたキャリア支援を展開している。

このように適切な体制を整備し、学生のキャリア形成、そしてめざすキャリアの実現を支援する。

以上

設置の趣旨等を記載した書類

【資料目次】

資料① 教育理念・目的、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針との相関

資料② 経営学部 商学科 カリキュラム全体イメージ図

資料③ 経営学部 商学科 開講専攻科目分類一覧

資料④ 経営学部商学科 事業創造コース 履修モデル

資料⑤ 経営学部商学科 マーケティングコース 履修モデル

資料⑥ 龍谷大学 オンライン授業実施要件

資料⑦ 編入学生履修モデル

資料⑧ RYUKOKU キャリア・スタート・プログラム（キャリア実習・実習指導）受入先一覧

資料⑨ 龍谷大学の教育研究組織の編制原理

資料⑩ 本学の求める教員像と教員組織の編成方針

資料⑪ 教育職員選考基準（抜粋）

資料⑫ 職員定年規程

資料⑬ 龍谷大学研究活動に関する指針

資料⑭ 研究員規程

資料⑮ 研究支援の方針

資料⑯ 学術雑誌等一覧

資料①

教育理念・目的、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針との相関

経営学部及び商学科の教育理念・目的

（経営学部）
建学の精神に基づいて、経営学の理論を修得させることに加えて、実践的かつ実学的素養を身につけさせることを教育理念とする。また、激しい時代の変化に対応でき、社会から信頼される経営人を育成することを目的とする。
（商学科）
経営学部の教育理念・目的のもと、以下のとおり経営学部商学科の教育理念・目的を定めている。
建学の精神に基づいて、事業創造とマーケティングの知識と幅広い教養を身につけ、実践的な学びを通じて社会の諸課題を実証的に把握し、市場や地域社会において継続的に新たな価値を創造し提供することのできる人間を育成することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（DP）

①卒業認定・学位授与の方針文

経営学部及び経営学部商学科の教育理念・目的に基づき、以下の基本的な資質・能力を備えるに至った学生に学士（経営学）の学位を授与する。

②学生に保証する基本的な資質・能力

○ 教養教育科目により保証する資質・能力　● 専攻科目により保証する資質・能力

（建学の精神の具現化）	（知識・技能の修得）	（課題解決のために必要な力の育成）	（主体的な学修態度の醸成）
○建学の精神の意義について理解している。	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。 ●多様な人びととの対話を通じて、共創の基盤となるコミュニケーション能力を身につけている。 ●事業創造やマーケティングに関連する知識を幅広く多面的に身につけている。 ●歴史的経緯や地域の多様性を踏まえ、社会の諸課題を実証的に把握する技能を身につけている。	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。 ●実践と知識を往還しながら思考・判断することで、自ら社会の諸課題を発見・探求できる。 ●専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深めることができる。 ●社会の諸課題の解決につながる新しいアイディアを主体的に生み出し、かたちにすることができる。	●価値の創造と提供のために、多様な人びとのアイディアを受容できる。 ●社会の諸課題の解決に向けた仕組みを、主体的に構想できる。 ●市場や地域社会と共に創造した価値を共有できる。

③学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

・学部に 4 年以上在学し，所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し，学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
・卒業認定を受けるためには，所定の125単位以上の単位数を必要とする。
・学部共通コース所属学生は，所属コースの修了条件を満たすこと。

教育課程編成・実施の方針（CP）

①教育課程編成・実施の方針文

経営学部商学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に明示したすべての学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学修環境・支援体制を整備する。

②教育内容

○ 教養教育科目にかかる教育内容　● 専攻科目にかかる教育内容

（建学の精神の具現化）	（知識・技能の修得）	（課題解決のために必要な力の育成）	（主体的な学修態度の醸成）
○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。 ●多様な人びととの対話を通じて、共創の基盤となるコミュニケーション能力を身につけるために、必修科目として「アカデミックスキルズＡ」、履修指導科目として「情報リテラシー」、「フレッシャーズゼミ」、「アカデミックスキルズＢ」及び「キャリア＆ライフマネジメント」を開講する。 ●事業創造やマーケティングに関連する知識を幅広く多面的に身につけるために、必修科目として「ビジネスケーススタディＡ」及び「ビジネスケーススタディＢ」、履修指導科目として「ベーシックマーケティング」、「ベーシックアカウンティングⅠ」を開講する。 ●歴史的経緯や地域の多様性を踏まえ、社会の諸課題を実証的に把握する技能を身につけるために、必修科目として「社会調査入門」を開講する。	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。 ●実践と知識を往還しながら思考・判断することで、自ら社会の諸課題を発見・探求できるようにするために、履修指導科目として「社会調査実践」を開講する。 ●専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深めるために、段階的・系統的に学べるよう選択科目として「マーケティング論」及び「地域企業論」などを開講する。 ●社会の諸課題の解決につながる新しいアイディアを主体的に生み出し、かたちにすることができるようにするために、履修指導科目として「プロジェクト入門」を開講する。	●価値の創造と提供のために、多様な人びとのアイディアを受容できるよう、2年次（第4セメスター）より演習科目を開講する。 ●社会の諸課題の解決に向けた仕組みを、主体的に構想できるようにするために、「演習Ⅰ」及び「演習Ⅱ（演習研究を含む）」を開講する。 ●市場や地域社会と共に創造した価値を共有できるようにするために、「演習Ⅱ」に演習研究を位置づける。 ●生涯を通した持続的な就業力や自分らしい生き方を実現するための力を身につけるために、「ワークルール入門」及び「キャリア＆ライフマネジメント」などのキャリア啓発やキャリア形成にかかる科目を開講する。

経営学部 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経営学部では、学生のそれぞれの学修目標にあわせて、少人数の演習学修と、理論と実践を組み合わせたカリキュラムを提供することによって、変化の激しい時代に対応でき、社会から信頼される経営人（働くことを通して社会に貢献する人材）を育成することを目指しています。
そのため、次のような人が入学することを求めています。
１．明確な目的意識と学修意欲をもった人
２．さまざまな場面で基本的な能力として求められるコミュニケーション能力をもった人
３．知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む人
ついては、高等学校等での学習では、国語や外国語の習得によりコミュニケーション能力を磨き、また社会科科目の幅広い習得により知的好奇心を高めることを望みます。

＜学部独自入学試験における入学者受入れの方針＞

公募推薦入学試験 〔専門高校等対象〕	高等学校の専門教育を主とする学科や総合学科の出身者を対象として、各学部での実践的な学びにおいてリーダーシップを発揮することのできる受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および本学独自の筆記試験において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。
総合型選抜入学試験 〔スポーツ活動選抜〕 総合型選抜入学試験 〔文化・芸術・社会活動選抜〕	一定の学力を有するとともに、スポーツや文化・芸術・社会活動等の分野において優れた能力と実績を有し、自主的に行動でき、リーダーシップを発揮することのできる受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および小論文において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。
付属校推薦入学試験	浄土真宗本願寺派の宗門校である本学付属校での学びを通し、本学の建学の精神を理解しようとする意欲や、入学後の学修および学生生活に関する明確な志向を持ち、それにふさわしい能力を有した受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類において「知識・技能」を、面接において「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。
教育連携校推薦入学試験 関係校推薦入学試験	浄土真宗本願寺派の宗門校での学びを通し、本学の建学の精神を理解しようとする意欲や、入学後の学修および学生生活に関する明確な志向を持ち、それにふさわしい能力を有した受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および本学独自の筆記試験や小論文において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。
指定校推薦入学試験	本学の建学の精神を理解しようとする意欲や、入学後の学修および学生生活に関する明確な志向を持ち、それにふさわしい能力を有した受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および小論文において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。
帰国生徒特別入学試験	海外での貴重な経験と知識を有した帰国生徒や中国引揚者等子女を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類や小論文、本学独自の筆記試験において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。
外国人留学生入学試験	本学で学び得た能力を活かして国際的に活躍することを志す外国人学生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類（日本留学試験の成績を含む）において「知識・技能」を、面接において「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。
3年次編入学・転入学試験	各学部での専門教育に必要とされる総合的な学力を有した学生や社会人を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および本学独自の筆記試験や小論文において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。
指定校推薦編入学試験	本学の建学の精神を理解しようとする意欲や、入学後の専門教育に係る学修および学生生活に関する明確な志向を持ち、それにふさわしい能力を有した学生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類や小論文において主に「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において主に「主体性・多様性・協働性」を総合的に評価します。

＜各入学試験において重視するポイント＞　　◎：特に重視する　〇：重視する

入試区分	知識 技能	思考力 判断力 表現力	主体性 多様性 協働性
一般選抜入学試験	◎	〇	―
大学入学共通テスト利用入学試験	◎	〇	―
公募推薦入学試験〔2教科型〕	◎	〇	―
公募推薦入学試験〔専門高校等対象〕	〇	◎	◎
総合型選抜入学試験〔スポーツ活動選抜〕 総合型選抜入学試験〔文化・芸術・社会活動選抜〕	〇	〇	◎
付属校推薦入学試験	〇	〇	◎
教育連携校推薦入学試験	〇	〇	◎
関係校推薦入学試験	〇	〇	◎
指定校推薦入学試験	〇	〇	◎
帰国生徒特別入学試験	〇	〇	◎
外国人留学生入学試験	〇	〇	◎
3年次編入学・転入学試験	〇	◎	〇
指定校推薦編入学試験	〇	〇	◎

専攻科目として、学部共通コース科目（自由選択コース）を設置し、コース所属学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、体系的な教育課程を編成・展開している。

◆国際関係コース

要素	卒業認定・学位授与の方針（DP）	教育課程編成・実施の方針（CP）
	■学生に保証する基本的な資質・能力	**■教育内容**
建学の精神の具現化	―	―
「知識・技能」の修得	●世界の国・地域に関する幅広い知識と外国語による一定のコミュニケーション能力を身につけている。	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を身につけるために、第４セメスターに必修科目（国際関係論Ⅰ、地域研究入門）と選択必修科目（コース指定外国語）を開講する。
「思考力・判断力・表現力」の発展・向上	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を活用して、国際社会が直面する諸問題について多角的に思考・判断・考察するための能力を身につけている。	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を活用して、国際社会が直面する諸問題について多角的に思考・判断・考察するために、主に社会科学系を中心とした科目群として、選択科目B群を開講する。
「主体性・多様性・協働性」の発展・向上	●異なる価値や文化に関心を抱き、それらを積極的に理解しようとする態度を身につけている。	●異なる価値や文化に関心を抱き、それらを積極的に理解しようとする態度を身につけるために、地域研究科目（主として選択科目A群）を開講する。

◆英語コミュニケーションコース

要素	卒業認定・学位授与の方針（DP）	教育課程編成・実施の方針（CP）
	■学生に保証する基本的な資質・能力	**■教育内容**
建学の精神の具現化	―	―
「知識・技能」の修得	●英語圏での日常生活に支障のない英語の技能を身につけている。	●日常生活に支障のない英語の技能を身につけるために、「Oral Communication ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ」「Writing Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として、また、「Communicative Grammar Ⅰ・Ⅱ」等を選択科目として配置する。
	●英語圏の言語や文化を理解し、国際的視野を備えている。	●英語圏の言語や文化を、幅広い視野から理解し考えるために、文化的背景を学修できる科目・異文化理解を促す科目を配置する。
「思考力・判断力・表現力」の発展・向上	●異なる文化や価値観を理解した上で、英語で他者と意見交換できる柔軟な思考力・表現力を身につけている。	●柔軟な思考力・表現力を身につけるために、「Process Writing」「Critical Essay」「Seminar Ⅰ・Ⅱ」等の科目を配置する。それらの科目担当者はネイティブスピーカーを中心に構成する。
「主体性・多様性・協働性」の発展・向上	●自らもしくはチームで目標を定め、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる。	●自らもしくはチームで目標を定め、主体的に行動するために、「Public Speaking」「Intercultural Discussion」「Global Understanding in English」「海外研修」「Seminar Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究」を配置する。

◆スポーツサイエンスコース

要素	卒業認定・学位授与の方針（DP）	教育課程編成・実施の方針（CP）
	■学生に保証する基本的な資質・能力	**■教育内容**
建学の精神の具現化	―	―
「知識・技能」の修得	●現代のスポーツ関連領域で提起される諸問題について、的確に評価・分析するために、社会科学とスポーツ科学の知識や方法論とをあわせた複合的な視点を身につけている。	●人文・社会科学系および自然科学系に大別されるスポーツ科学を学ぶ上での基礎となる科目を開講する。 ●特定のテーマに基づき学ぶ少人数科目を開講する。
	●客観的な評価・分析を行える基礎的スキルを身につけている。	●スポーツにおける諸事象を客観的に分析・評価するための科目を開講する。
「思考力・判断力・表現力」の発展・向上	●現代社会におけるスポーツ諸事象について学際的・多面的視点から理解・探求する思考力や判断力を身につけている。 ●導き出した見解を文章等にまとめ、発表し、議論することができる。 ●健康づくりや競技力向上のための指導といったスポーツの現場に必要なコミュニケーション能力やマネジメント能力の基礎的知識と応用力を身につけている。	●スポーツ科学の個別領域での課題や、その解決策を探る思考力・判断力を育成する科目を開講する。 ●課題の解決や解明に取り組む姿勢や態度、方法論を学ぶために実習を含む科目を開講する。
「主体性・多様性・協働性」の発展・向上	●スポーツ諸事象を人間・社会への洞察にもとづいて理解し、スポーツを社会の発展のために役立てようとする意欲や態度を身につけている。	●主体性と協働性を身につけるために、演習、キャリア入門（スポーツサイエンスコース）、スポーツキャリア実習（キャリア形成科目）を開講する。

◆環境サイエンスコース

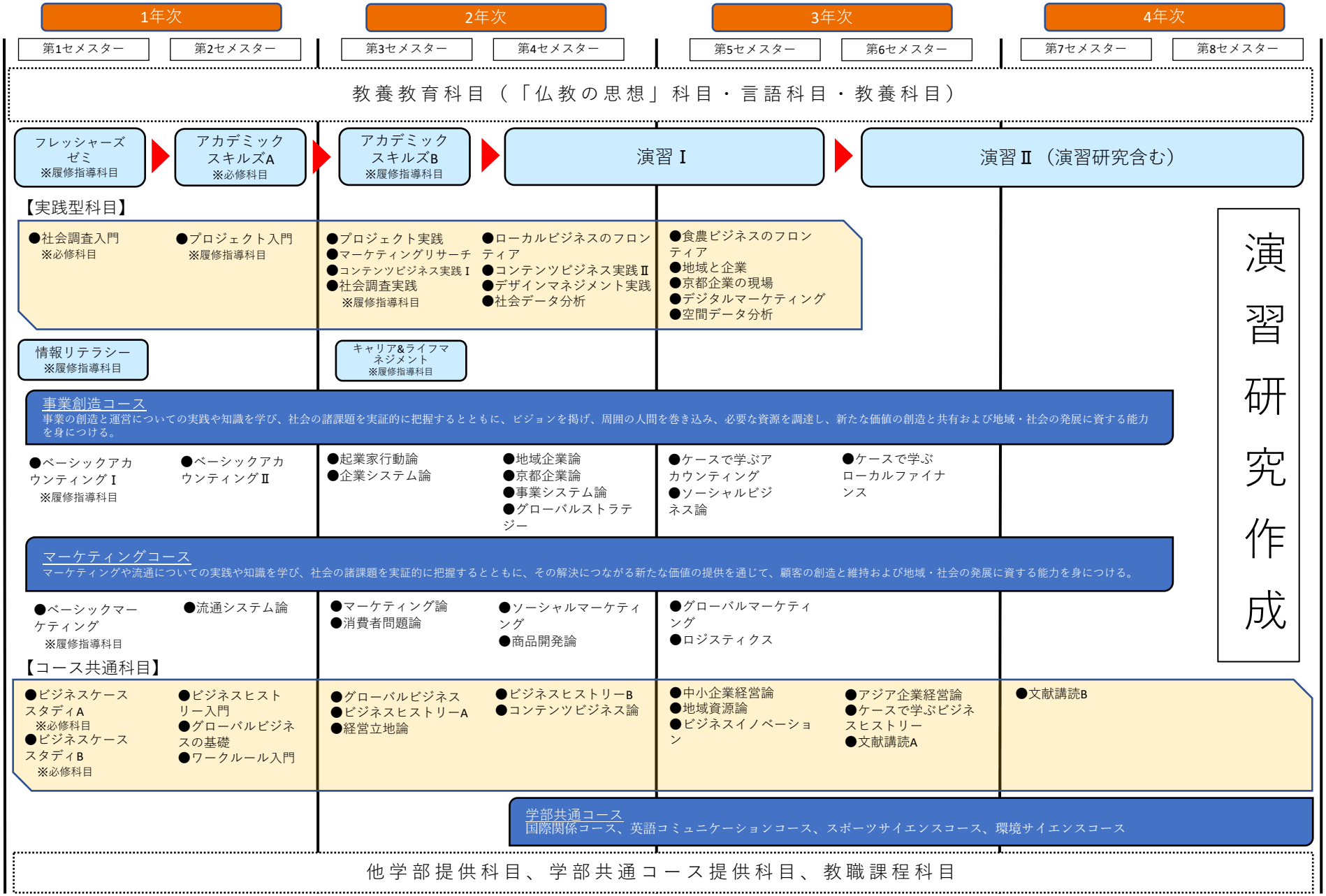
要素	卒業認定・学位授与の方針（DP）	教育課程編成・実施の方針（CP）
	■学生に保証する基本的な資質・能力	**■教育内容**
建学の精神の具現化	―	―
「知識・技能」の修得	●環境問題発生のメカニズムを文献と現場から理解し、人と自然とが共存する資源循環型の持続可能な社会を構築するための知識を身につけている。	●環境問題の現状および解決方法に関する知識を身につけるため、第四セメスターから、必修科目の「環境学A」および人文・社会科学系と自然科学系科目からなる座学の選択必修科目を開講する。 ●環境問題を解決する技能を身につけるため、「シミュレーション技法」および「環境実践研究」などの実習科目を開講する。
「思考力・判断力・表現力」の発展・向上	●自然、社会、人文に関する幅広い知識･技能を活用して、持続可能な社会の実現のために環境学の視点から必要な技術や制度について思考・判断・考察するための能力を身につけている。	●自然、社会、人文に関する幅広い知識･技能を活用して、持続可能な社会の実現のために環境学の視点から必要な技術や制度について思考・判断・考察するため「環境学B」「環境管理論Ⅰ・Ⅱ」などの科目を開講する。
「主体性・多様性・協働性」の発展・向上	●人と自然とが共存する資源循環型の持続可能な社会の実現のために多様な人々と協働しながら主体的に行動する態度を身につけている。	●持続可能な社会の実現のために多様な人々と協働しながら主体的に行動する態度を身につけるため「生態学A・B」「環境フィールドワーク」などの科目を開講する。

■コース修了に必要とされる単位数及びコース修了認定の方法

・所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、各コース運営委員会が修了を認定する。
・修了認定を受けるためには、所定の44単位（国際関係コース）、48単位（英語コミュニケーションコース、環境サイエンスコース）、40単位（スポーツサイエンスコース）以上の単位数を必要とする。

経営学部 商学科 カリキュラム全体イメージ図

資料②



経営学部 商学科 開講専攻科目分類一覧

資料③

◎：必修科目、●：選択科目（履修指導科目）、○：選択科目

区分	授業区分	卒業要件	授業科目	単位
基礎科目	◎	8単位必修	社会調査入門	2
	◎		ビジネスケーススタディＡ	2
	◎		ビジネスケーススタディＢ	2
	◎		アカデミックスキルズＡ	2
	●	選択61単位以上修得	情報リテラシー	1
	●		ベーシックアカウンティングⅠ	2
	●		ベーシックマーケティング	2
	●		プロジェクト入門	2
	●		キャリア＆ライフマネジメント	2
	●		社会調査実践	2
	●		フレッシャーズゼミ	2
	●		アカデミックスキルズＢ	2
専門科目	○		ベーシックアカウンティングⅡ	2
	○		流通システム論	2
	○		ビジネスヒストリー入門	2
	○		グローバルビジネスの基礎	2
	○		ワークルール入門	2
	○		プロジェクト実践	4
	○		マーケティングリサーチ	2
	○		コンテンツビジネス実践Ⅰ	2
	○		起業家行動論	2
	○		企業システム論	2
	○		マーケティング論	2
	○		消費者問題論	2
	○		グローバルビジネス	2
	○		ビジネスヒストリーＡ	2
	○		経営立地論	2
	○		ローカルビジネスのフロンティア	4
	○		コンテンツビジネス実践Ⅱ	4
	○		デザインマネジメント実践	4
	○		社会データ分析	2
	○		地域企業論	2
	○		京都企業論	2
	○		事業システム論	2
	○		グローバルストラテジー	2
	○		ソーシャルマーケティング	2
	○		商品開発論	2
	○		ビジネスヒストリーＢ	2

◎：必修科目、●：選択科目（履修指導科目）、○：選択科目

区分	授業区分	卒業要件	授業科目	単位
専門科目	○	選択61単位以上修得	コンテンツビジネス論	2
	○		食農ビジネスのフロンティア	4
	○		地域と企業	4
	○		京都企業の現場	2
	○		デジタルマーケティング	2
	○		空間データ分析	2
	○		ケースで学ぶアカウンティング	2
	○		ソーシャルビジネス論	2
	○		グローバルマーケティング	2
	○		ロジスティクス	2
	○		中小企業経営論	2
	○		地域資源論	2
	○		ビジネスイノベーション	2
	○		ケースで学ぶローカルファイナンス	2
	○		アジア企業経営論	2
	○		ケースで学ぶビジネスヒストリー	2
	○		文献講読Ａ	2
	○		文献講読Ｂ	2
	○		演習Ⅰ	4
	○		演習Ⅱ（演習研究含む）	6
	○		経営学基礎論	2
	○		経営情報学Ⅰ	2
	○		簿記入門	2
	○		経営管理論	2
	○		経営データ分析Ⅰ	2
	○		初級商業簿記	2
	○		財務諸表分析入門	2
	○		経営意思決定論	2
	○		経営情報システム論	2
	○		中級商業簿記	2
	○		財務会計入門	2
	○		工業簿記	2
	○		プログラミングⅠ	2
	○		財務会計論	2
	○		プログラミングⅡ	2
	○		スポーツと経済	2
	○		スポーツマネジメント論	2
	○		スポーツ政策論	2
	○		スポーツマーケティング論	2
	○		Global Understanding and Communication	4
	○		統計学	4

◎：必修科目、●：選択科目（履修指導科目）、○：選択科目

区分	授業区分	卒業要件	授業科目	単位
専門科目	○	選択61単位以上修得	ファイナンス理論	4
	○		アジア経済論A	2
	○		アジア経済論B	2
	○		中国経済論A	2
	○		中国経済論B	2
	○		国際金融論	4
	○		商法	2
	○		民法	2
	○		会社法	2
	○		労働法	2
	○		経済法	2
	○		中国政治論	2
	○		アジア政治論	4
	○		京都市の産業と産業政策	2
	○		上級外国語Ａ（ドイツ）	2
	○		上級外国語Ｂ（ドイツ）	2
	○		上級外国語Ｃ（ドイツ）	2
	○		上級外国語Ｄ（ドイツ）	2
	○		上級外国語Ａ（フランス）	2
	○		上級外国語Ｂ（フランス）	2
	○		上級外国語Ｃ（フランス）	2
	○		上級外国語Ｄ（フランス）	2
	○		上級外国語Ａ（中国）	2
	○		上級外国語Ｂ（中国）	2
	○		上級外国語Ｃ（中国）	2
	○		上級外国語Ｄ（中国）	2
	○		上級外国語Ａ（スペイン）	2
	○		上級外国語Ｂ（スペイン）	2
	○		上級外国語Ｃ（スペイン）	2
	○		上級外国語Ｄ（スペイン）	2
	○		上級外国語Ａ（コリア）	2
	○		上級外国語Ｂ（コリア）	2
	○		上級外国語Ｃ（コリア）	2
	○		上級外国語Ｄ（コリア）	2
	○		職業指導	4
	○		キャリア実習・実習指導	2
	○		キャリア実習・実習指導（大学コンソーシアム京都）	4

学部共通コース（自由選択コース）科目分類一覧

■ 国際関係コース

区分	卒業要件	授業科目	単位	グループ
必修	必修	国際関係論Ⅰ	2	
		地域研究入門	2	
コース指定外国語	同一グループから4単位選択必修	中国語セミナーⅠA	2	①
		中国語セミナーⅠB	2	
		中国語セミナーⅠC	2	
		中国語セミナーⅠD	2	
		中国語セミナーⅡA	2	
		中国語セミナーⅡB	2	
		中国語セミナーⅡC	2	
		中国語セミナーⅡD	2	
		海外中国語研修講座	2	
		ドイツ語セミナーⅠA	2	②
		ドイツ語セミナーⅠB	2	
		ドイツ語セミナーⅠC	2	
		ドイツ語セミナーⅠD	2	
		ドイツ語セミナーⅡA	2	
		ドイツ語セミナーⅡB	2	
		ドイツ語セミナーⅡC	2	
		ドイツ語セミナーⅡD	2	
		フランス語セミナーⅠA	2	③
		フランス語セミナーⅠB	2	
		フランス語セミナーⅠC	2	
		フランス語セミナーⅠD	2	
		フランス語セミナーⅡA	2	
		フランス語セミナーⅡB	2	
		フランス語セミナーⅡC	2	
		フランス語セミナーⅡD	2	
		スペイン語セミナーⅠA	2	④
		スペイン語セミナーⅠB	2	
		スペイン語セミナーⅠC	2	
		スペイン語セミナーⅠD	2	
		スペイン語セミナーⅡA	2	
		スペイン語セミナーⅡB	2	
		スペイン語セミナーⅡC	2	
		スペイン語セミナーⅡD	2	
		コリア語セミナーⅠA	2	⑤
		コリア語セミナーⅠB	2	
		コリア語セミナーⅠC	2	
		コリア語セミナーⅠD	2	
		コリア語セミナーⅡA	2	
		コリア語セミナーⅡB	2	
		コリア語セミナーⅡC	2	
		コリア語セミナーⅡD	2	

区分	卒業要件	授業科目	単位	グループ
コース指定外国語	同一グループから4単位選択必修	ポルトガル語Ⅰ	2	⑥
		ポルトガル語Ⅱ	2	
		ポルトガル語ⅢA	2	
		ポルトガル語ⅢB	2	
		ロシア語Ⅰ	2	⑦
		ロシア語Ⅱ	2	
		ロシア語ⅢA	2	
		ロシア語ⅢB	2	
		英語セミナーD1	2	⑧
		英語セミナーD2	2	
		英語セミナーG1	2	
		英語セミナーG2	2	
		英語セミナーH1	2	
		英語セミナーH2	2	
		英語セミナーJ1	2	
		英語セミナーJ2	2	
		英語コミュニケーションⅠ	2	
		英語コミュニケーションⅡ	2	
		Intercultural Discussion	2	
		中国語コミュニケーションⅠ	2	⑨
		中国語コミュニケーションⅡ	2	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	2	⑩
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	2	
		スペイン語コミュニケーションⅠ	2	⑪
		スペイン語コミュニケーションⅡ	2	
		フランス語コミュニケーションⅠ	2	⑫
		フランス語コミュニケーションⅡ	2	
		コリア語コミュニケーションⅠ	2	⑬
		コリア語コミュニケーションⅡ	2	
選択A群	24単位選択必修	ヨーロッパ研究A	2	
		ヨーロッパ研究B	2	
		ヨーロッパ研究C	2	
		ヨーロッパ研究D	2	
		東アジア研究A	2	
		東アジア研究B	2	
		東南アジア研究A	2	
		東南アジア研究B	2	
		北米研究A	2	
		北米研究B	2	
		中南米研究A	2	
		中南米研究B	2	
		グローバル・サウス研究A	2	
		グローバル・サウス研究B	2	
		異文化研究A	2	
		異文化研究B	2	
		多文化映像論A	2	

区分	卒業要件	授業科目	単位
選択A群	24単位選択必修	多文化映像論B	2
		国際関係論Ⅱ	2
		現代国際関係史	2
		国際ジャーナリズム論	2
		特別演習Ⅰ	4
		特別演習Ⅱ	4
		特別演習Ⅲ	4
		学部共通特別講義Ａ	2
		学部共通特別講義Ｂ	2
		学部共通特別講義Ｃ	2
選択B群	12単位選択必修	グローバル経済史A	2
		グローバル経済史B	2
		国際金融論	4
		国際協力論	4
		アジア経済史	4
		ヨーロッパ経済史	4
		地域経済論	4
		アジア経済論A	2
		アジア経済論B	2
		比較経済論A	2
		比較経済論B	2
		開発経済学A	2
		開発経済学B	2
		ヨーロッパ経済論	4
		食・農・資源の経済論A	2
		食・農・資源の経済論B	2
		日本経済史A	2
		日本経済史B	2
		経済地理学A	2
		経済地理学B	2
		経済思想史	2
		社会調査の技法	2
		フィールドワークの技法	2
		グローバルビジネス	2
		多国籍企業論	2
		国際経営戦略論	2
		ビジネスヒストリーＡ	2
		社会データ分析	2
		アジア企業経営論	2
		国際法Ⅰ	4
		国際法Ⅱ	2
		国際法Ⅲ	2
		国際私法	4
		国際政治論	4
		アフリカ政治論A	2
		アフリカ政治論B	2

区分	卒業要件	授業科目	単位
選択B群	12単位選択必修	国際取引法	2
		開発援助論	2
		中東政治論	2
		アジア政治論	4
		中国政治論	2
		アメリカ政治論	2
		ヨーロッパ政治論	2
		国際環境法	2
		文化・観光政策	2
		比較地域政策論	2
		アジアの地域・都市政策	2
		欧州の地域・都市政策	2
		北米・中南米の地域・都市政策	2
		演習Ⅰ	2
		演習Ⅰ	4
		演習Ⅰ	6
		演習Ⅱ	2
		演習Ⅱ(演習研究含む)	6
		演習Ⅱ(卒業研究含む)	4
		演習Ⅱ(卒業研究含む)	6
		演習Ⅲ	2
		演習Ⅳ(卒業研究含む)	6

■ 英語コミュニケーションコース

区分	卒業要件	授業科目	単位
必修	20単位必修	Oral Communication ⅠA	4
		Oral Communication ⅠB	4
		Oral Communication ⅡA	4
		Oral Communication ⅡB	4
		Writing Ⅰ	2
		Writing Ⅱ	2
選択	28単位選択	米国文化Ⅰ	2
		英国文化Ⅰ	2
		英国文化Ⅱ	2
		米国文化Ⅱ	2
		English in the World	2
		文化比較	2
		Intensive Reading	2
		Reading Fluency	2
		Communicative Grammar Ⅰ	2
		英米事情	2
		Business Writing	2
		Critical Essay	2
		Process Writing	2
		Public Speaking	2
		Debate and Discussion	2

区分	卒業要件	授業科目	単位
選択	28単位選択	Dynamics of Expression	2
		Communicative Grammar Ⅱ	2
		Intercultural Discussion	2
		Global Understanding in English	4
		海外研修	4
		英語資格試験セミナー	2
		Forum	2
		Seminar Ⅰ	2
		Seminar Ⅱ	2
		卒業研究	4
		学部共通特別講義Ⅰ	4
		学部共通特別講義Ⅱ	4
		学部共通特別講義Ⅲ	2
		学部共通特別講義Ⅳ	2
		学部共通特別講義Ⅴ	2

■ スポーツサイエンスコース

区分	卒業要件	授業科目	単位	備考
選択必修	4科目10単位選択必修	身体運動の生理学	2	1科目選択必修
		身体運動の機能解剖学	2	
		身体運動の制御と学習	2	
		現代スポーツ論	2	1科目選択必修
		近代スポーツ史	2	
		特別演習Ⅰ	4	
選択	30単位選択	スポーツ栄養学	2	
		スポーツと経済	2	
		スポーツマネジメント論	2	
		エクササイズテクニック	2	
		スポーツメディア論	2	
		スポーツ医学	2	
		スポーツ統計学	2	
		スポーツ政策論	2	
		健康スポーツ論	2	
		体力学	2	
		フィットネスプログラミングⅠ	2	
		スポーツ心理学Ⅰ	2	
		スポーツマーケティング論	2	
		スポーツ法学	2	
		バイオメカニクス	2	
		地域スポーツ論	2	
		スポーツトレーニング論	2	
		スポーツ文化論	2	
		フィットネスプログラミングⅡ	2	
		スポーツ心理学Ⅱ	2	
		特別演習Ⅱ	4	
		特別演習Ⅲ	4	

区分	卒業要件	授業科目	単位	備考
選択	30単位選択	スポーツサイエンスコース特別講義(水泳)	2	
		スポーツサイエンスコース特別講義(スポーツビジネス)	2	
		キャリア入門(スポーツサイエンスコース)	2	
		スポーツキャリア実習	2	

■ **環境サイエンスコース**

区分	卒業要件	授業科目	単位	備考
必修	4単位必修	環境学A	2	
		環境学B	2	
選択必修A群	各群4単位を含み12単位選択必修	環境と倫理	2	4単位選択必修
		環境と経済	2	
		環境と法	2	
		環境管理論Ⅰ	2	
		環境政策論Ⅰ	2	
		コンピュータシステム論	4	
選択必修B群		生態学A	2	4単位選択必修
		生態学B	2	
		地球と環境	2	
		環境地理学	2	
		自然保護論	2	
		化学物質と環境	2	
選択	32単位選択	環境管理論Ⅱ	2	
		環境政策論Ⅱ	2	
		シミュレーション技法	2	
		複雑系の科学	2	
		都市経済論	2	
		環境史	2	
		環境アセスメント論	2	
		地域環境論	2	
		気候と気象	2	
		生物共棲論	2	
		水界生態論	2	
		環境フィールドワーク	4	
		環境実践研究	2	
		開発経済学A	2	
		開発経済学B	2	
		産業技術論	2	
		国際環境法	2	
		持続可能な発展概論	2	
		景観・まちなみ保存政策	2	
		環境エネルギー政策	2	
		演習Ⅰ	4	
		演習Ⅱ	4	
		卒業研究	4	
		学部共通特別講義A	2	
		学部共通特別講義B	2	
		学部共通特別講義C	4	

資料④

◆経営学部商学科 事業創造コース 履修モデル

〔卒業後の進路〕 公務員、高等学校教員、大学院進学、NPO・NGO、社会的企業、起業家、その他一般企業など

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				修得単位数
		第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター		第4セメスター		第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A ◎	2	仏教の思想B ◎	2													32
	言語科目	英語総合1(A)◎	1	英語総合2(A)◎	1	英語総合3 (A) ●	1	英語総合4 (A) ●	1									
		英語総合1(B)◎	1	英語総合2(B)◎	1	英語総合3 (B) ●	1	英語総合4 (B) ●	1									
		フランス語Ⅰ●	2	フランス語Ⅱ●	2													
	人文科学系科目			宗教の世界B●	2			芸術の世界B	2									
	社会科学系科目	社会学のすすめ●	2			ジェンダー論	2											
	自然科学系科目	数学への旅●	2			科学論	2	情報科学Ⅰ	2									
	スポーツ科学系科目			現代社会とスポーツ	2													
専攻科目	基礎科目	フレッシャーズゼミ〇	2	アカデミックスキルズA◎	2	アカデミックスキルズB〇	2											23
		情報リテラシー〇	1	プロジェクト入門〇	2	社会調査実践〇	2											
		ビジネスケーススタディA◎	2			キャリア＆ライフマネジメント〇	2											
		ビジネスケーススタディB◎	2															
		社会調査入門◎	2															
		ベーシックアカウンティングⅠ〇	2															
		ベーシックマーケティング〇	2															
	専門科目			ワークルール入門	2	プロジェクト実践	4	演習Ⅰ	2	演習Ⅰ	2	演習Ⅱ(演習研究含む)	2	演習Ⅱ(演習研究含む)	2	演習Ⅱ(演習研究含む)	2	70
				ビジネスヒストリー入門	2	消費者問題論	2	社会データ分析	2	空間データ分析	2	文献講読A	2	文献講読B	2			
				グローバルビジネスの基礎	2	起業家行動論	2	事業システム論	2	中小企業経営論	2	アジア企業経営論	2					
				ベーシックアカウンティングⅡ	2	企業システム論	2	京都企業論	2	地域資源論	2	ケースで学ぶローカルファイナンス	2					
								地域企業論	2	ビジネスイノベーション	2	ケースで学ぶビジネスヒストリー	2					
								グローバルストラテジー	2	地域と企業	4							
								ローカルビジネスのフロンティア	4	京都企業の現場	2							
										ケースで学ぶアカウンティング	2							
										ソーシャルビジネス論	2							
修得単位数		23		22		22		22		20		10		4		2		125

◎:必修科目 〇:履修指導科目 ●:選択必修科目

資料⑤

◆経営学部商学科 マーケティングコース 履修モデル

〔卒業後の進路〕 公務員、高等学校教員、大学院進学、NPO・NGO、その他一般企業など

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				修得単位数
		第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター		第4セメスター		第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A ◎	2	仏教の思想B ◎	2													32
	言語科目	英語総合1(A)◎	1	英語総合2(A)◎	1	英語総合3 (A) ●	1	英語総合4 (A) ●	1									
		英語総合1(B)◎	1	英語総合2(B)◎	1	英語総合3 (B) ●	1	英語総合4 (B) ●	1									
		フランス語Ⅰ●	2	フランス語Ⅱ●	2													
	人文科学系科目			宗教の世界B●	2			芸術の世界B	2									
	社会科学系科目	社会学のすすめ●	2			ジェンダー論	2											
	自然科学系科目	数学への旅●	2			科学論	2	情報科学Ⅰ	2									
	スポーツ科学系科目			現代社会とスポーツ	2													
専攻科目	基礎科目	フレッシャーズゼミ〇	2	アカデミックスキルズA◎	2	アカデミックスキルズB〇	2											23
		情報リテラシー〇	1	プロジェクト入門〇	2	社会調査実践〇	2											
		ビジネスケーススタディA◎	2			キャリア＆ライフマネジメント〇	2											
		ビジネスケーススタディB◎	2															
		社会調査入門◎	2															
		ベーシックアカウンティングⅠ〇	2															
		ベーシックマーケティング〇	2															
	専門科目			ワークルール入門	2	プロジェクト実践	4	演習Ⅰ	2	演習Ⅰ	2	演習Ⅱ(演習研究含む)	2	演習Ⅱ(演習研究含む)	2	演習Ⅱ(演習研究含む)	2	70
				ビジネスヒストリー入門	2	消費者問題論	2	社会データ分析	2	空間データ分析	2	文献講読A	2	文献講読B	2			
				グローバルビジネスの基礎	2	マーケティング論	2	事業システム論	2	中小企業経営論	2	アジア企業経営論	2					
				流通システム論	2	マーケティングリサーチ	2	京都企業論	2	地域資源論	2	ケースで学ぶローカルファイナンス	2					
								商品開発論	2	ビジネスイノベーション	2	ケースで学ぶビジネスヒストリー	2					
								ソーシャルマーケティング	2	食農ビジネスのフロンティア	4							
								デザインマネジメント実践	4	デジタルマーケティング	2							
										グローバルマーケティング	2							
										ロジスティクス	2							
修得単位数		23		22		22		22		20		10		4		2		125

◎:必修科目 〇:履修指導科目 ●:選択必修科目

資料⑥

龍谷大学 オンライン授業実施要件（第２版）

2023（令和 5）年 10 月 13 日
教　学　会　議
教　養　教　育　会　議
学修支援・教育開発センター会議

本学におけるオンライン授業は、各教学主体の責任において、対象授業の選定、授業設計、授業運営を行っていただく必要があります。とりわけ、オンライン授業を実施するにあたっては、「多様なメディアを高度に利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもの」であり、「大学において、面接（対面）授業に相当する教育効果を有すると認めたものである」という観点が重要となります。

「龍谷大学 オンライン授業実施要件」は、以下の法令や規程等を前提にして、現時点の内容として策定しています。

１．大学設置基準第 25 条第 2 項及び第 3 項／短期大学設置基準第 11 条第 2 項及び第 3 項
「大学は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる」

２．平成 13 年文部科学省告示第 51 号（メディア授業告示）
「多様なメディアを高度に利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもので、（中略）大学において、面接授業に相当する教育効果を有すると認めたものであること」「メディア授業告示第 1 号（同時双方向型）」、「メディア授業告示第 2 号（オンデマンド型）」

３．大学設置基準第 32 条第 5 項／短期大学設置基準第 18 条
「卒業の要件として修得すべき 124 単位（短大：62 単位）のうち、（中略）修得する単位数は 60 単位（短大：30 単位）を超えないものとする」

４．龍谷大学学則（第 25 条の 2）／龍谷大学短期大学部学則（第 6 条の 2）
「多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる」
「卒業の要件として修得すべき単位数のうち、（中略）単位数は 60 単位（短大：30 単位）を超えないものとする」

５．大学・高専における遠隔教育の実施に関するガイドライン
（令和 5 年 3 月 28 日周知 文部科学省 高等教育局 専門教育課 大学教育・入試課）
※遠隔教育の利点と課題を踏まえ、遠隔教育の質保証や、面接授業と遠隔授業を効果的に組み合わせたハイブリッド型教育の確立に資することを目的に、大学等における遠隔教育について専門的な知見を有する有識者の協力を得て策定。

今後、法令や規程等が改正された場合や、オンライン授業の実施により、実態と齟齬が判明した場合など、必要に応じて実施要件を改訂する場合があります。

Ⅰ　オンライン授業について

本学では、対面にて授業を行う科目のほか、一部においてインターネット環境を利用してオンライン上で授業を行う科目があります。

1　オンライン授業形態

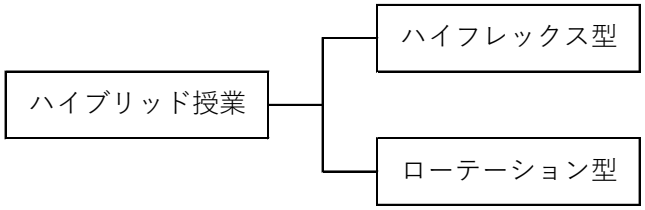
(1) オンライン授業の実施形態

本学では、次のようにオンライン授業の実施形態を区分しています。



(2) オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態

オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態として、ハイブリッド授業があります。



2　オンライン授業に関する用語の定義

(1) オンライン授業

本学における「オンライン授業」とは、インターネット環境を利用して、文字・音声・静止画・動画等の多様な情報を、当該授業を行う教室等以外の場所にいる学生に対して配信し、設問解答や意見交換などの機会を確保して学修を進めていくもので、標準的な 1 コマ（1 回分）のすべてを以下の形態で行う授業を指します。

なお、全授業回数のうち、半数以上を、インターネット環境を利用してオンライン上で行う授業は「オンライン授業」となります。

①ライブ授業

ライブ授業とは、オンライン授業のうち、同時かつ双方向（教員と学生）で授業を行うものを指します。ライブ授業を詳細に分類すると「同時双方向型」と「同時一方向型」に分かれますが、本学においては、双方向性が確保できる「同時双方向型」を指します。

②オンデマンド授業

オンライン授業のうち、予め収録した授業（動画・音声）や音声付 PowerPoint 動画等を配信

し、あわせて課題指示等を行うものを指します。

（2）ハイブリッド授業

オンライン授業と対面授業を組み合わせた授業形態を指します。ハイブリッド授業には、ハイフレックス型とローテーション型の 2 つの型があります。

①ハイフレックス型

対面授業をライブ配信することにより、オンライン授業としても実施する授業のことを指します。学生は対面授業またはオンライン授業として受講します。

（例）対面希望の学生とオンライン希望の学生を 2 グループに分けて実施する授業。

②ローテーション型

全授業回数のうち、各回によって対面とオンラインを使い分ける授業のことを指します。また、「ブレンド型（ブレンデッド型）授業」と呼ばれることもあります。

（例）全 15 回のうち、4 回目～11 回目をオンラインで実施し、その他は対面で実施する授業。

（3）オンライン授業科目

本実施要件にもとづき、各教学主体が選定したオンライン授業を「オンライン授業科目」と称しています。当該科目は、各教学主体におけるカリキュラム上の必要性から配置されるという基本的な考え方にもとづき、授業単位ではなく科目単位で各教学主体があらかじめ設定することになります。複数クラス開講される科目の場合は、原則として、すべてのクラスがオンライン授業科目となります。

すべての授業回をオンライン授業（ライブ授業・オンデマンド授業）で実施する科目のほか、対面授業と組み合わせて実施する授業科目（ハイブリッド授業）も選定の対象となります。

全授業回数のうち、半数以上をオンラインで行う授業は「オンライン授業科目」として選定する必要があります。

なお、「オンライン授業科目」については、学則（龍谷大学学則第 25 条の 2／龍谷大学短期大学部学則第 6 条の 2）に準じ、卒業要件単位として 60 単位（短大：30 単位）を超えない範囲で認定することになるため、実施科目ならびに履修者を把握しておく必要があります。

（4）授業コンテンツ

授業にて学生に提供する、教材や動画等の資料全般を、授業コンテンツと称します。

Ⅱ　オンライン授業実施要件

オンライン授業の実施に関する要件をつぎのとおり定めます。オンライン授業の質を保証するために必要な事項です。

授業担当者においては、これらにもとづき授業の設計や運営を行っていただくとともに、対面授業に相当する教育効果が担保されるよう適宜チェックをおこない、授業の質の保証に努めることが求められます。

１．オンライン授業共通（ライブ・オンデマンド・ハイブリッド授業）の実施要件と留意事項

(1) オンライン授業共通の実施要件

① 文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱っていること（文字のみ、音声のみの授業は不適です）。

② 対面授業に相当する教育効果を有すること。

③ 授業時間割にそって、定められた曜講時に実施すること。オンデマンド授業については、同曜講時に受講（視聴）を開始させること。

④ オンライン授業科目の成績評価は、学生のキャンパス間移動及び教室配当等の関係から、原則として、対面による定期試験以外の方法で行うよう配慮すること。

⑤ シラバスにおいて、当該科目がオンライン授業科目であることを示し、受講にあたっての諸注意・連絡事項等を記載すること。

＜シラバスへの主な記載事項（例）＞

授業形態（ライブ授業、オンデマンド授業、ハイブリッド授業）、オンライン授業として実施するねらい、受講のための準備事項、受講方法（manaba 等）、受講中のルール、質問の受付・回答の方法、成績評価の方法　など

※これらの事項については、対面授業と異なる点に鑑み、第 1 回目の授業までに学生に周知されるよう、配慮してください。

⑥ LMS （Learning Management System）の manaba やオンライン会議システムを活用して、授業担当者と学生の質疑応答の機会（manaba「個別指導コレクション」のコレクション作成・編集許可設定を「教員・学生」にすることを推奨）や学生同士の意見交換の機会を確保すること。

⑦ LMS の manaba を活用して、受講生が授業コンテンツにアクセスでき、かつ課題提出ができること。

⑧ 授業中に respon を活用したり、授業後にアンケートを取ったりするなど、学生の受講状況（出席状況）や理解度の把握に努めること。

⑨ 板書の映像配信や PowerPoint 等の画面共有を行う場合は、画角の調整や文字の大きさに留意し、授業コンテンツは事前に配付するなど、受講者の理解促進に努めること（ダウンロードを要する授業コンテンツは、できるだけ前日までに公開すること）。

⑩ 授業期間中に適宜アンケート等を実施し、授業コンテンツを見直したり、小テスト等をこまめに実施し理解度を把握したり、適宜改善を図るなど、学修者の視点に立った授業運営を行い、授業の質の向上に努めること。

⑪ 授業における質疑応答、アンケートや小テスト等の結果を踏まえ、受講生に対してフィードバックを行うこと。

⑫ 受講学生へ本学所定の授業アンケートを必ず実施し、その結果を踏まえて授業内容に関する自己点検を行い、点検結果を各教学主体で共有すること。

⑬ 各教学主体は、オンライン授業の質向上を目的として各オンライン授業科目の実施状況を適宜視聴するなどして把握し、グッドプラクティスを各教学主体及び全学で共有するよう努めること。

(2) オンライン授業共通の留意事項

① 障がいのある学生は、授業に参加するための情報の取得や利活用ならびに円滑に意思疎通を図ることに障壁を抱えていることがあります。オンライン授業科目の受講方法等について、可能な限りシラバスに記載することで、授業選択のミスマッチを防ぐとともに、適切な合理的配慮につながります。詳細は「シラバス作成の手引き」をご確認ください。

② 授業コンテンツの作成にあたり他人の著作物を利用する場合は、著作権法に基づき適切に対応してください。本学は、管理協会（SARTLAS）に補償金を支払っており、個別に著作者の許諾を得る手続きを取らずとも授業目的に限りインターネット環境を利用して送信することが可能ですが、必要と認められる限度内の利用であっても、著作権者や著作隣接権者の利益を不当に害することは制度の対象外となります（例えば、著作物の作者の氏名を改変・削除したり、著作物を作者の意に反して改変・歪曲したり、損なったりする行為等）。

③ 各教員にとって、授業等において学生の反応を確認し、学生との交流機会を持つことは重要です。各教学主体は所属教員（専任教員および特別任用教員）が担当する科目の対面授業とオンライン授業のバランスも考慮し、担当授業コマ数のすべてがオンライン授業とならないようにオンライン授業科目を選定してください。

2．ライブ授業の実施要件と留意事項

(1) ライブ授業の実施要件

① ライブ授業は録画し、後日一定期間（1 週間を目途）オンデマンド配信するなど、学生の通信環境や繰り返し学習ができるよう配慮すること。

② 録画したライブ授業のオンデマンド配信について、配信する（しない）ことや、オンデマンドによる出席を認める（認めない）ことは、授業担当者がそれぞれに判断し、受講生に周知すること。

(2) ライブ授業の留意事項

① 授業運営上、学生を画面に登場させる場合、顔出し自体を忌避する学生がいることを想定することや、背景等の映り込みからプライバシーが守られるよう学生に注意することなど、配慮が必要です。また、肖像権やプライバシー保護の関係から、画面のスクリーンショットや録画を禁止するなど、受講上の注意を学生に指示してください。

② ライブ授業を録画する際は、受講生の映り込みなど、プライバシーに配慮いただき、ダウンロードできないよう設定してください。

3．オンデマンド授業の実施要件と留意事項

(1) オンデマンド授業の実施要件

① 1 週間ごとに配信し、かつ、1 週間（もしくは一定期間を設定）ごとに受講状況及び課題対応（学生からの提出）を確認すること（受講状況の把握の例：respon を活用したり、授業後にアンケートを取ったりするなど）。

② 全授業回数のすべてをオンデマンド授業とするのではなく、同時双方向性を確保するため、ライブ授業とオンデマンド授業を組み合わせることや、対面授業とオンデマンド授業とを組み合わせたハイブリッド授業の実施に努めること。

(2) オンデマンド授業の留意事項

① オンデマンド授業は、授業時間割どおりの 90 分をひとまとまりとして実施する必要はなく、小分けにして授業コンテンツを提供することができます。ただし、小分けにした場合でも、ひとまとまりが、対面における 1 回あたりの授業に相当するよう、授業コンテンツを用意してください。また、その 1 回分相当の学修内容をシラバスの「講義計画」において明示してください。

② 設問に対する解答や添削指導、質疑応答の機会を設けるなど、双方向性を確保したうえで学生への指導が十分となるよう留意してください。例えば、教科書を読んでレポートを課すだけの授業は要件を満たしません。

③ これまでのオンライン授業の自己点検において、「オンデマンド授業は学生と教員による同時双方向のやりとりが難しい」旨の指摘があります。オンデマンド授業では、授業を開講する曜講時を活用して学生からの質問を受け付ける機会を確保したり、学生への個別指導の機会に充てたりするなど、学生と教員との同時双方向性が確保できるように工夫してください。
その観点から、すべての授業回数をオンデマンド授業として実施するのではなく、ライブ授業とオンデマンド授業とを組み合わせることや、対面授業とオンデマンド授業とを組み合わせたハイブリッド授業とすることなどを推奨します。

4．ハイブリッド授業（ハイフレックス型・ローテーション型）の実施要件と留意事項

(1) ハイブリッド授業の実施要件

① ハイフレックス型の場合には、板書や質疑応答等、対面で参加している学生とオンラインで参加している学生の両方に目配りし、学生が置き去りにならないよう配慮すること。

② ローテーション型の場合には、例えば、知識伝達型の授業回はオンデマンド授業により実施し、グループワーク等を中心とする授業回は対面授業により実施するなど、オンデマンド授業と対面授業とを効果的に組み合わせて実施すること。

(2) ハイブリッド授業の留意事項

① 対面授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド授業を実施する場合、オンライン授業の実施形態にあわせて、「Ⅱ　オンライン授業実施要件」に記載している各授業の要件を満たしてください。
また、ローテーション型においては、各回で授業の実施形態が異なることになるため、学生に混乱が生じないようシラバスや manaba で丁寧に連絡するようにしてください。

Ⅲ オンライン授業科目の実施フローおよび質の向上に向けた取り組み

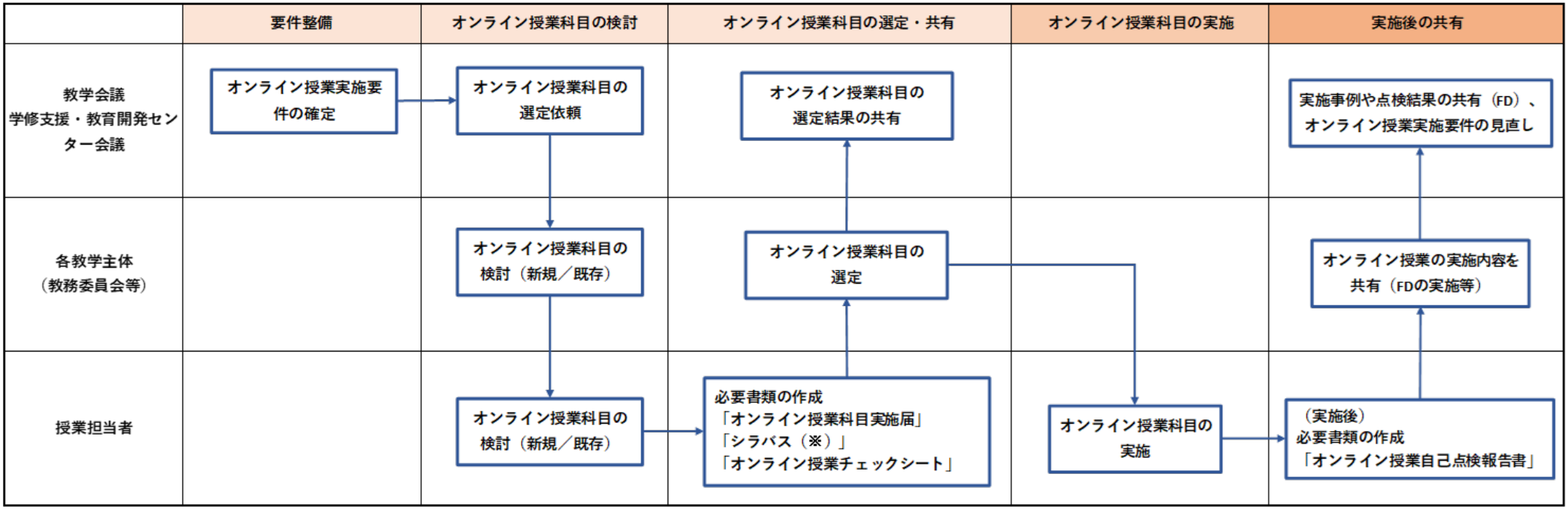
オンライン授業改善とあわせて実施事例の共有という FD 活動につなげることが重要です。

したがって、オンライン授業科目の担当者が自己の活動を点検して学内で共有するとともに、各教学主体においても実施状況を把握し、授業の質向上に努めることが重要です。

これらのことから、オンライン授業科目の実施にあたっては、以下のフローにそって、運用することとします。

※図：「オンライン授業科目の選定および実施フロー」を参照。

＜オンライン授業科目の選定および実施フロー＞



（※）シラバスが未作成の場合は、「シラバス作成の手引き」を参照の上、必須項目（到達目標、講義方法、成績評価方法　等）を記載した別紙を添付（様式自由）。

（参考）

１． オンライン授業形態別のメリットとデメリット

2022 年度に実施した自己点検結果をもとに作成

※2023 年度 合同会議（教学会議・教養教育会議・学修支援・教育開発センター会議）資料（2023 年 5 月 12 日開催）

	メリット	デメリット
ライブ授業	・Meet のブレークアウトセッション機能により、多数の受講生がいる授業でも小グループのディスカッションができ、対面よりも１人１人の参加度が向上する ・チャット機能を用いて、受講者間でも意見を共有することができる	・画質等により、学生の表情等が読みづらい ・録画していない場合、配信状況に問題が生じると、視聴し直すことができない
オンデマンド授業	・講義動画を何度も視聴することができるため、受講生自身のペースで学習を深めることができる ・海外など地理的に離れた場所にいて、時差もある研究者の最新の研究を踏まえた講義が提供できる ・教員から manaba 等を通じて連絡があり、指示や課題等に関する内容が理解しやすい	・学生の集中力が持続しない／学習姿勢に課題があると思われる ・学習状況／理解度が把握しきれない ・意見交換する場／受講生同士の交流の機会がもちにくい ・学習習慣や自律性の欠ける学生には講義計画に沿った授業の受講が難しい場合がある
ハイブリッド授業	・Meet のチャット機能や respon のコメント機能等を活用することで多くの質問を受けることができる ・対面授業及びオンライン授業の両方のメリットを受けることができる	・各回で授業実施形態が異なるため、混乱が生じないよう、シラバスや manaba で丁寧に連絡する必要がある ・対面授業及びオンライン授業の両方のデメリットがあてはまる

以上

資料⑦-1

◆経営学部商学科 事業創造コース 編入学生履修モデル

〔卒業後の進路〕 公務員、高等学校教員、大学院進学、NPO・NGO、社会的企業、起業家、その他一般企業など

科目区分		1年次		2年次		3年次				4年次				修得単位数
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター		
教養教育科目	「仏教の思想」科目					仏教の思想A ◎	2	仏教の思想B ◎	2					4
	言語科目													
	人文科学系科目													
	社会科学系科目													
	自然科学系科目													
	スポーツ科学系科目													
専攻科目	基礎科目					情報リテラシー〇	1							5
						ビジネスケーススタディA◎	2							
						ビジネスケーススタディB◎	2							
	専門科目					演習Ⅰ	2	演習Ⅱ（演習研究含む）	2	演習Ⅱ（演習研究含む）	2	演習Ⅱ（演習研究含む）	2	54
						空間データ分析	2	文献講読A	2	文献講読B	2	京都企業論	2	
						中小企業経営論	2	ケースで学ぶローカルファイナンス	2	ケースで学ぶアカウンティング	2			
						地域資源論	2	地域企業論	2	ソーシャルビジネス論	2			
						ビジネスイノベーション	2	グローバルストラテジー	2	消費者問題論	2			
						地域と企業	4	ワークルール入門	2	起業家行動論	2			
								ビジネスヒストリー入門	2	京都企業の現場	2			
								グローバルビジネスの基礎	2	企業システム論	2			
								ローカルビジネスのフロンティア	4					
修得単位数		62				21		22		16		4		125

出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、62単位を超えない範囲で認定する。

◎:必修科目 〇:履修指導科目 ●:選択必修科目

資料⑦-2

◆経営学部商学科 マーケティングコース 編入学生履修モデル

〔卒業後の進路〕 公務員、高等学校教員、大学院進学、NPO・NGO、その他一般企業など

科目区分		1年次		2年次		3年次				4年次				修得単位数
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター		
教養教育科目	「仏教の思想」科目					仏教の思想A ◎	2	仏教の思想B ◎	2					4
	言語科目													
	人文科学系科目													
	社会科学系科目													
	自然科学系科目													
	スポーツ科学系科目													
専攻科目	基礎科目					情報リテラシー〇	1							5
						ビジネスケーススタディA◎	2							
						ビジネスケーススタディB◎	2							
	専門科目					演習Ⅰ	2	演習Ⅱ（演習研究含む）	2	演習Ⅱ（演習研究含む）	2	演習Ⅱ（演習研究含む）	2	54
						空間データ分析	2	文献講読A	2	文献講読B	2	社会データ分析	2	
						中小企業経営論	2	アジア企業経営論	2	グローバルマーケティング	2			
						地域資源論	2	ケースで学ぶローカルファイナンス	2	ロジスティクス	2			
						ビジネスイノベーション	2	ケースで学ぶビジネスヒストリー	2	マーケティングリサーチ	2			
						食農ビジネスのフロンティア	4	京都企業論	2	京都企業の現場	2			
								商品開発論	2	デジタルマーケティング	2			
								ソーシャルマーケティング	2	マーケティング論	2			
								デザインマネジメント実践	4					
修得単位数		62				21		22		16		4		125

出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、62単位を超えない範囲で認定する。

◎:必修科目 〇:履修指導科目 ●:選択必修科目

資料⑧

RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム（キャリア実習・実習指導）受入先一覧

No.	企業・団体名	受入予定人数
1	株式会社ＪＡＬナビア	5
2	日本オーチス・エレベータ株式会社	1
3	株式会社イシダ	8
4	エバオン株式会社	2
5	株式会社チクマ	2
6	株式会社ジェイ・エス・ビー	3
7	株式会社エコ・プラン	3
8	森トラスト・ホテルズ＆リゾーツ株式会社	3
9	株式会社アウルコーポレーション	2
10	富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社	1
11	学校法人龍谷大学　龍谷大学付属平安中学・高等学校	1
12	株式会社花浄院	5
13	株式会社ＳＣ鳥取	5
14	ＨＯＳ株式会社	1
15	一般財団法人大阪スポーツみどり財団	4
16	一般社団法人山と海の郷さいかい	2
17	NPO法人雪浦あんばんね	4
18	公益財団法人京都府公園公社	2
19	一般財団法人大阪教育文化振興財団	2
20	特定非営利活動法人ひらかた環境ネットワーク会議	3
21	株式会社ベネッセスタイルケア	3
22	社会福祉法人みささぎ会	2
23	社会福祉法人京都福祉サービス協会	2
24	高見株式会社（ＴＡＫＡＭＩ　ＢＲＩＤＡＬ）	1
25	森合精機株式会社	2
26	株式会社遊文舎	1
27	中島工業株式会社	5
28	ヨシモトポール株式会社	2
29	大塚産業マテリアル株式会社	3
30	株式会社ロマンライフ	2
31	ヤナセ製油株式会社	1
32	株式会社レイマック	2
33	京都信用保証協会	1
34	ＳＭＢＣ日興証券株式会社	3
35	株式会社アイビ建築	3
36	株式会社きんでん	1

No.	企業・団体名	受入予定人数
37	安全索道株式会社	2
38	影近設備工業株式会社	2
39	大和電設工業株式会社	1
40	協和テクノロジィズ株式会社	2
41	株式会社フジタ	2
42	枚方市役所	1
43	湖南広域行政組合	5
44	近江八幡市役所	2
45	東近江市役所	2
46	松原市役所	1
47	株式会社日吉	1
48	株式会社たけでん	1
49	ニシムラ株式会社	2
50	三谷商事株式会社	1
51	株式会社エスワイシステム	2
52	株式会社OVO	2
53	フルタニ産業株式会社	2
54	株式会社トロワ	3
55	吉川運輸株式会社（吉川ロジスティクスグループ）	2
56	株式会社サカイ引越センター	2
57	シミズ薬品株式会社	3
58	生活協同組合コープしが	2
59	株式会社セントラルフルーツ	2
60	株式会社平和堂	5
61	株式会社京滋マツダ	2
62	奈良トヨタ株式会社	3
63	ネッツトヨタ滋賀株式会社	10
64	株式会社関西マツダ	2
65	株式会社ホンダモビリティ近畿　Ｈｏｎｄａ　Ｃａｒｓ兵庫	3
66	株式会社ヤマダヤ	2
	合計：	165

資料⑨

■教育研究組織の編制原理

＜龍谷大学の教育研究組織の編制原理＞

本学は「浄土真宗の精神」を「建学の精神」とし、「龍谷大学学則」第１章第１条において「本学は教育基本法及び学校教育法にしたがい，浄土真宗の精神に基づく大学として，広く知識を授けるとともに，深く専門の諸学科を教授研究し，併せて有為の人材を養成することを目的とする」と定めている。また、「龍谷大学大学院学則」第１章第１条において「本学大学院は，人文，社会及び自然に関する学術の理論及び応用を教授研究しその深奥を究めること，又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことをもって，文化の進展に寄与することを目的とする」と定めている。

本学は、この目的を達成するために、教育研究組織を以下の方針等に基づき編制している。

教育組織は、「龍谷大学の教育理念・目的」を実現するために、「学部・研究科の「教育理念・目的」と３つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」及び「学生支援の方針」（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」「留学生支援の方針」「障がい学生支援の方針」）に基づき、10 学部・10 研究科を編制している。

研究組織は、「龍谷大学研究活動に関する指針」と「研究支援の方針」に基づき、人間・科学・宗教総合研究センターと世界仏教文化研究センター及び４つの付置研究所等を編制している。

上記の教育研究組織の環境整備は、「教育研究等に係る施設設備に関する整備方針」に基づき実施している。

資料⑩

■求める教員像と教員組織の編成方針

＜龍谷大学の求める教員像と教員組織の編成方針＞

建学の精神を具現化し、教育理念・目的を実現するために、本学の求める教員像と教員組織の編成方針を以下のとおり定める。

本学は、「建学の精神を尊重するとともに、教育活動を始めとする業務に意欲的に取り組む意志を有する者」を求める教員像とする。

また、「龍谷大学の教育理念・目的」を実現するために、「学部・研究科の「教育理念・目的」と３つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」及び「学生支援の方針」（「学生支援の方針」(「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」「留学生支援の方針」「障がい学生支援の方針」)）に基づき、「教育職員選考基準」と各学部等が定める教員人事に関する規程に則り、教員組織を編成する。

以　上

資料⑪

○教育職員選考基準（抜粋）

平成６年３月 10 日

第１章　通則
（目的）
第１条　専任教育職員（以下「専任教員」という。）の採用及び昇任の選考は，この基準によって行う。
（運用上の原則）
第２条　本基準は，全学的に定める標準基準であり，運用にあたっては，各学部の事情を考慮しつつすすめることとする。
（選考の原則）
第３条　第１条の選考は，人格，経歴及び教育・研究・社会的業績等を総合的に考慮して行う。
（採用及び昇任の基準）
第４条　教授の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。
(1)　博士の学位を有し，研究上の業績を有する者
(2)　大学卒業後14年以上，大学における研究歴又は教育歴を有する者
(3)　前２号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者
(4)　専攻分野について，教育上，研究上又は実務上の特に優れた知識，能力及び実績を有する者
２　准教授の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。
(1)　大学卒業後５年以上，大学における研究歴又は教育歴を有する者
(2)　前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者
(3)　修士の学位を有する者
(4)　専攻分野について，教育上，研究上又は実務上の優れた知識，能力及び実績を有する者
３　講師の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。
(1)　修士の学位を有する者又は大学卒業後２年以上の研究歴を有する者
(2)　前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者
(3)　その他特殊な専攻分野について教育上，研究上又は実務上の知識及び能力を有する者
４　助教の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。
(1)　修士の学位を有する者又は大学卒業後２年以上の研究歴を有する者
(2)　前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者
(3)　専攻分野について教育上，研究上又は実務上の知識及び能力を有する者
５　助手の選考は，次の各号のいずれかに該当する者を対象として行う。
(1)　学士の学位を有する者
(2)　前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者
６　各学部は，第２条の趣旨にのっとり，前５項各号の基準を標準として，選考に関して別に定めることができる。

第5条～第22条　　（省略）

資料⑫

○職員定年規程

昭和 54 年 2 月 9 日

第1条　この規程は,「学校法人龍谷大学就業規則」第40条に基づき，本学専任職員の定年について規定する。
第2条　教育職員の定年は，教授については満68歳とし，准教授・講師・助教・助手については満65歳とする。
2　事務職員の定年は，満65歳とする。
第3条　定年による退職期日は，定年に達した当該年度末とする。
第4条　退職手当の支給については，別に定める。

付　則
1　この規程は，昭和54年4月1日から施行する。ただし，将来の情勢の推移を考慮して，施行の年度から10年以内に再検討するものとする。
2　「文学部・短期大学部教育職員停年規程」及び「事務職員停年規程」は廃止する。

付　則(昭和62年5月19日第2条第2項，第3項改正・追加)
この規程は，昭和62年5月19日から施行する。

付　則(昭和63年1月13日第2条改正)
この規程は，昭和63年1月13日から施行する。

付　則(平成4年1月16日題名改正)
この規程は，平成4年1月16日から施行する。
＜参考＞
(評議会議事録に次の事項を記載する)
龍谷大学職員定年規程の一部を改正する規程(制定昭和62年5月19日)に規定する「教育研究上の特別な事情」とは，新学部の設置を意味するものとする。また，第2条第2項は，昭和70年3月31日に廃止するものとする。

付　則(平成16年3月25日第2条改正)
この規程は，平成16年3月25日から施行する。

付　則(平成19年2月22日第2条改正)
この規程は，平成19年4月1日から施行する。

資料⑬

○龍谷大学研究活動に関する指針

平成 25 年 6 月 6 日

龍谷大学は，建学の精神の具現化を通して，心豊かな人間を育成するとともに，学術文化の振興や豊かな社会づくり，世界の平和と発展に貢献することを使命としている。

ついては，下記のとおり本学の研究者の研究活動に関する指針を定めることにより，本学の研究活動を適正かつ円滑に遂行し，社会からの信頼を確保・維持する。

記

（定義）

1 研究者とは，本学において研究活動に従事するすべての者をいう。

（責務）

2 研究者は，自らが生み出す専門知識や技術の質を確保するとともに新たな知見を創造し，これらの成果を広く社会に提供することにより，社会の発展に寄与するように努める。

（法令等の遵守）

3 研究者は，関係する法令，本学の諸規程，学会等の指針を遵守して，研究活動を行い，研究費の適正な執行に努める。

（公正性）

4 研究者は，研究の遂行及び成果の発表や特許出願等においては，捏造，改ざん，盗用等，研究者としての倫理に反する行為は行わない。

（個人情報の保護）

5 研究者は，研究活動に関わって収集した個人情報を含む資料等の管理に万全を期すとともに，研究遂行上知り得た個人情報を本人の同意なしに他に漏らさない。

（研究環境の維持）

6 研究者は，人権の尊重と相互信頼に努め，快適に研究活動できる環境を維持するよう努める。

（研究対象等への配慮）

7 研究者は，研究への協力者の人格，人権を尊重し，福利に配慮する。動物等に対しては，建学の精神を踏まえ真摯な態度でこれを扱う。

（安全への配慮）

8 研究者は，研究活動を行う上で，事故等が発生しないよう安全の配慮に努める。

（利益相反）

9 研究者は，本学における研究者としての責務と，個人的な利益，あるいは本学以外の組織に対する責務との衝突・相反に十分に留意し，利益相反による弊害が生じないよう努める。

以　上

資料⑭

○研究員規程

平成元年2月23日

（目的）

第1条　この規程は，学問水準の向上及び教育の充実発展を計るため，一定期間研究に専念する専任教育職員（以下「研究員」という。）について，必要な事項を定めることを目的とする。

（研究員の種類）

第2条　研究員の種類は，次の各号に掲げるとおりとする。

(1)　国外研究員及び国内研究員　国外・国内の大学等において研究調査に専念する者

(2)　短期国外研究員及び短期国内研究員　国外・国内の大学等において研究調査に専念する者

(3)　特別研究員　研究調査又は研修に専念する者

(4)　交換研究員　外国の大学又は研究機関との協定に基づき，研究者を相互に交換することにより，学術の国際的交流の推進を計る目的で派遣する者

2　交換研究員については，外国の大学又は研究機関との協定書に基づき実施する。

（研究期間）

第3条　研究員として発令を受ける期間（以下「研究期間」という。）は，次の各号に定めるとおりとする。

(1)　国外研究員及び国内研究員　6カ月間以上1年以内

(2)　短期国外研究員及び短期国内研究員　1カ月以上6カ月未満

(3)　特別研究員　6カ月間以上1年以内

2　国外研究員及び短期国外研究員については，原則として，研究期間中の一時帰国は認めない。ただし，学長がやむを得ない事情により一時帰国が必要であると認めた場合は，この限りではない。

（研究員の数）

第4条　各種研究員の数は，別表1に掲げるとおりとし，「基盤枠」「特別枠」「全学枠」に分けて運用する。

2　基盤枠とは，一定の期間ごとに各学部に割り当てられた研究員数のことをいう。

3　特別枠とは，学科，課程増等による学部教員数の大幅な変動による学部間格差を解消する

ため，長期又は短期の国内外研究員について，基盤枠に加算し各学部に割り当てられた研究員数のことをいう。

4　全学枠とは，基盤枠及び特別枠とは別に，本学における研究を推進させることを目的とし，全学から募集する研究員数のことをいう。

5　各学部における研究員種類ごとの基盤枠の人数について，別表3の交換比率に基づき，交換することができるものとする。

（各年度の研究員数の決定）

第4条の2　年度毎の基盤枠及び特別枠の研究員数については，教育課程に支障をきたさないことを条件とし，各学部教授会（以下「教授会」という。）で決定するものとする。ただし，別表1の定める期間内の研究員数を超えてはならない。

2　年度毎の全学枠の研究員数については，原則4名とする。

（研究員資格）

第5条　研究員となることができる者は，次の各号に定めるとおりとする。ただし，全学枠を利用し研究員となる者は，この限りではない。

(1)　国外研究員及び国内研究員　本学の専任教育職員として3年以上通常勤務した者又は特別研究員終了後4年を経過した者。

(2)　短期国外研究員及び短期国内研究員　本学の専任教育職員として3年以上通常勤務した者。

(3)　特別研究員　本学の専任教育職員として10年以上勤務した者。

2　前項の規定にかかわらず既に研究員の経験がある者で，第12条に規定する研究員の義務を履行していない場合は，原則として研究員に応募することはできない。

（基盤枠及び特別枠の研究員数の報告）

第5条の2　教授会は，別に定める期日までに，次年度の基盤枠及び特別枠の研究員数を決定し，研究部に報告しなければならない。

（研究員の募集）

第6条　研究員の募集は，前条の報告を受け，全学研究運営会議（以下「運営会議」という。）の審議・決定に基づき，研究部が行う。

（研究員の申請）

第7条　研究員となることを希望する者は，所定の様式により研究計画書を添付して，当該教育職員の所属する教授会の議を経て学長に申請するものとする。

（研究員の決定）

第8条　前条の申請を受けた学長は，運営会議に諮って研究員を決定する。

（旅費及び教育研究費の支給）

第9条　研究員には，旅費（別表2に定める支給基準により支給）及び教育研究費を支給する。ただし，特別研究員の旅費及び第10条の規定によって研究期間の延長を受けた者の当該延長期間にかかる旅費は，支給しない。

（研究期間の延長）

第10条　研究員（短期国外研究員及び短期国内研究員，特別研究員を除く。）は，その目的達成のために特別な必要がある場合は，所属の学部長を通じて学長あてに研究期間の延長を願出ることができる。

2　前項の願出は，申請した研究期間終了時までに，所定の書式によりその理由を証する書類等を付して行うものとする。

（期間延長の決定）

第11条　前条の願い出を受けた学部長は，教授会に諮って研究期間延長の可否についての意見（教学に対する手だて等を含めた）を付して，学長に上申するものとする。

2　前項の上申を受けた学長は，運営会議の議を経て，研究期間延長の可否を決定する。

（研究員の義務）

第12条　研究員は，研究期間の終了後，研究期間の2倍に相当する期間は本学に勤務し，研究成果を教育研究に還元するものとする。

2　研究員は，研究期間終了後6カ月以内に研究経過報告書を学長に提出するものとする。

3　研究員は，研究期間終了後1年以内に研究成果報告会，2年以内に著書又は学術雑誌等により，研究成果を公表するものとする。

4　研究員が前2項に定める期限よりも前に退職する場合は，退職日をその期限とする。

（取消し）

第13条　学長は，研究員が病気その他の事由により，研究員としての目的を達成することができないと認める場合は，運営会議の議により，当該研究員に対して研究員の取消しをすることができる。

（旅費等の返還）

第14条　研究員は，前条の規定により研究員を取消された場合は，研究期間の残余に相当する旅費及び教育研究費を返還しなければならない。

2　学長は第12条に規定する研究員の義務のいずれかに違反した者に対し，すでに支給した旅費及び教育研究費の全部の返還を求めることができる。

3　研究員が研究期間の途中で自己都合により退職する場合は，すでに支給を受けた旅費及び教育研究費の全額を返還するものとする。

（旅費の返還免除等）

第15条　前条の規定により旅費の返還義務を負う研究員の所属する教授会は，特別な事情があると認めるときは，その事情を付して学長に対して返還すべき旅費の一部又は全部の返還免除を願出ることができる。

2　前項の願出を受けた学長は，運営会議に諮って返還免除の可否又は返還を免除する金額を決定する。

（細則）

第16条　この規程の施行に必要な細則は，運営会議の議を経て学長が定める。

（事務処理）

第17条　この規程に伴う事務処理は，研究部が行う。

付　則

1　この規程は，平成元年4月1日から施行する。

2　この規程の施行に伴い，研究員規程（昭和61年5月20日施行）は，廃止する。

3　この規程施行の日において，従前の研究員規程により研究員を命じられている者は，なお従前の規程による。

付　則（平成6年3月17日第2条，第3条，第5条～第7条，第9条～第12条，別表2改正）

1　この規程は，平成6年4月1日から施行する。

2　この規程の施行に伴い，短期国外研究員規程（平成5年4月1日施行）は廃止する。

3　この規程施行の日において，従前の研究員規程により研究員を命じられている者は，なお従前の規程による。

付　則（平成6年5月19日第４条，別表1改正）

この規程は，平成6年４月１日から施行する。

付　則（平成7年7月27日別表1改正）

この規程は，平成7年7月27日から施行する。

付　則（平成8年7月25日別表1改正）

この規程は，平成8年4月1日から施行する。

付　則（平成11年1月21日別表2改正）

この規程は，平成11年4月1日から施行する。

付　則（平成11年11月25日別表１改正）

この規程は，平成12年4月1日から施行する。

付　則（平成12年4月20日第2条改正）

この規程は，平成12年4月1日から施行する。

付　則（抄）（平成13年9月27日第6条，第17条改正）

1　この規程は，平成13年4月1日から施行する。

付　則（平成15年7月24日別表1改正）

この規程は，平成16年4月1日から施行する。

付　則（平成16年3月25日第6条，第8条，第11条，第13条，第15条～第17条改正）

この規程は，平成16年4月1日から施行する。

付　則（平成17年1月13日第4条～第6条，別表1改正，第4条の2，第5条の2新設）

1　この規程は，平成17年4月1日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず，平成17・18年度の研究員の募集等については，なお従前の例による。

3　平成19年度以降の研究員数の割当については，3年毎に見直すこととする。

付　則（平成19年5月17日第5条，第5条の2，第12条，第14条改正）

この規程は，平成19年4月1日から施行し，平成20年度研究員に申請する者から適用する。

付　則（平成23年3月24日第3条，別表1改正）

この規程は，平成23年4月1日から施行する。

付　則（平成28年3月10日第4条，別表1改正，別表3新設）

1　この規程は，平成29年4月1日から施行する。

2　別表1の国際文化学部から国際学部への学部名称の改正規定については，平成27年4月1日から適用する。

付　則（平成29年3月22日別表1改正）

この規程は，平成29年4月1日から施行する。

付　則（令和2年2月27日第4条，別表1改正）

この規程は，令和2年4月1日から施行する。

付　則（令和2年3月5日別表2改正）

この規程は，令和2年4月1日から施行する。

付　則（令和3年2月25日第1条，第3条～第5条，第12条，別表1改正）

1　この規程は，令和3年4月1日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず，第1条及び第5条を除く改正規定は，令和4年度の研究員から適

用し，令和3年度以前の研究員は，なお従前の例による。

付　則（令和5年6月22日別表1改正）

この規程は，制定日（令和5年6月22日）から施行し，令和5年4月1日から適用する。

別表1　年度別研究員数表（第4条関係）

（単位：人）

学部	研究員種類	令和4年度～令和8年度合計			
		基盤枠	特別枠	小計	全学枠
文学部	国外研究員及び国内研究員	10	0	19	20
	短期国外研究員及び短期国内研究員	9			
	特別研究員	8	―	8	
	小計	27	0	27	
経済学部	国外研究員及び国内研究員	8	0	14	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	6			
	特別研究員	6	―	6	
	小計	20	0	20	
経営学部	国外研究員及び国内研究員	5	0	9	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	4			
	特別研究員	4	―	4	
	小計	13	0	13	
法学部	国外研究員及び国内研究員	8	0	15	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	7			
	特別研究員	6	―	6	
	小計	21	0	21	
社会学部	国外研究員及び国内研究員	7	0	13	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	6			
	特別研究員	6	―	6	
	小計	19	0	19	
政策学部	国外研究員及び国内研究員	4	1	9	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	4			

	特別研究員	3	―	3	
	小計	11	1	12	
国際学部	国外研究員及び国内研究員	6	0	11	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	5			
	特別研究員	5	―	5	
	小計	16	0	16	
農学部	国外研究員及び国内研究員	7	2	15	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	6			
	特別研究員	6	―	6	
	小計	19	2	21	
先端理工学部	国外研究員及び国内研究員	14	0	26	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	12			
	特別研究員	11	―	11	
	小計	37	0	37	
心理学部	国外研究員及び国内研究員	2	0	4	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	2			
	特別研究員	2	―	2	
	小計	6	0	6	
短期大学部	国外研究員及び国内研究員	2	0	4	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	2			
	特別研究員	2	―	2	
	小計	6	0	6	
全学合計	国外研究員及び国内研究員	73	3	139	20
	短期国外研究員及び短期国内研究員	63			
	特別研究員	59	―	59	
	合計	195	3	198	20
	総計	―	―		218

① 令和4年度～令和8年度の研究員数については本表に従う。

② 基盤枠・特別枠の研究員は5年間で総数管理し，5年間の範囲内では学部の実情に応じて研究員の人数調整が出来る等の柔軟な実施を行うことが出来る。

別表2　研究員の旅費及び教育研究費の支給基準表

研究員の種類	支給基準	支給額
国外研究員	旅費及び教育研究費を海外出張旅費規程等により計算	総額300万円を上限とする
国内研究員	旅費及び教育研究費を国内出張旅費規程等により計算	総額100万円を上限とする
短期国外研究員	旅費，日当及び宿泊費を海外出張旅費規程により計算	総額180万円を上限とする
短期国内研究員	旅費，日当及び宿泊費を国内出張旅費規程により計算	総額20万円を上限とする

別表3　研究員種類を跨いだ数の交換（第4条関係）

交換方法	交換比率
国外研究員及び国内研究員を短期国外研究員及び短期国内研究員に交換	国外研究員及び国内研究員1名　→　短期国外研究員及び短期国内研究員2名
短期国外研究員及び短期国内研究員を国外研究員及び国内研究員に交換	短期国外研究員及び短期国内研究員3名　→　国外研究員及び国内研究員1名
特別研究員を短期国外研究員及び短期国内研究員に交換	特別研究員1名　→　短期国外研究員及び短期国内研究員1名
短期国外研究員及び短期国内研究員を特別研究員に交換	短期国外研究員及び短期国内研究員2名　→　特別研究員1名
国外研究員及び国内研究員を特別研究員に交換	国外研究員及び国内研究員1名　→　特別研究員2名
特別研究員を国外研究員及び国内研究員に交換	特別研究員3名　→　国外研究員及び国内研究員1名
短期国外研究員及び短期国内研究員と特別研究員を合わせて国外研究員及び国内研究員に交換	短期国外研究員及び短期国内研究員と特別研究員合計3名　→　国外研究員及び国内研究員1名

資料⑮

○研究支援の方針

平成27年2月26日

総合大学としての多様性と学際性を生かし、伝統と地域を基盤にした特色ある研究や国際水準の強みのある研究などに取り組み、国際的な学術文化の向上と科学技術の振興、地域社会の発展に寄与するために、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

・強みのある研究と特色のある研究の推進 本学の強みや特色のある研究分野について、学内に研究拠点を設け、次世代の研究者の養成や研究環境の整備等を推進・支援する。

・研究者への支援充実 本学研究者が研究をより一層推進できる体制を確保するとともに、個人研究や共同研究など各分野における基盤的研究の強化を図るために、各付置研究所等の研究活動を推進・支援する。

・外部資金獲得支援体制の充実 外部資金の獲得を研究者個人の努力だけに任せるのではなく、組織的に支援する。

・社会への発信力強化 研究成果や研究活動内容の広報活動を活発に行い、本学の研究に対する社会的評価を向上させる

学術雑誌等一覧

資料⑯

No	タイトル等	和洋区分
1	愛知学院大学論叢. 商学研究 / 愛知学院大学商学会 [編]. -- 6巻1号 (1958)-. -- 愛知学院大学商学会, 1958.	和
2	茨城県史研究 / 茨城県史編さん委員会編集. -- 1号 ([昭40.3])-100号 (2016.3). -- 茨城県, 1965.	和
3	大阪産業大学産業研究所所報 / 大阪産業大学産業研究所 [編]. -- No. 1 (1978.3)-42号 (2019.12). -- 大阪産業大学産業研究所, 1978.	和
4	オーストラリア研究紀要 / 追手門学院大学オーストラリア研究所. -- 1号 (1975.3)-41号 (2015.12). -- 追手門学院大学オーストラリア研究所, 1975.	和
5	会計学研究 = Accounting study / 専修大学会計学研究所 [編集]. -- Vol. 1 (1976. 3)-. -- プランニング・センター, 1976.	和
6	化学経済 / 化学経済研究所. -- (昭29)-. -- 化学経済研究所, 1954.	和
7	化學工業. -- 1卷1號 (昭25. 2)-. -- 小峰工業出版, 1950.	和
8	關西大學商學論集 / 關西大學商學會 [編輯]. -- 昭和30年11月 (昭30.11)-昭和30年11月 (昭30.11) ; 1卷1號 (昭31.4)-. -- 關西大學, 1955.	和
9	企業會計 = Accounting. -- 1卷1號 (1949)-. -- 中央經濟社, 1949.	和
10	技術と人間. -- 1巻1号 (1972.春)-1巻4号 (1973.冬) ; 5号 (1973.春)-8号 (1974.冬) ; 3巻1号 (1974.4)-34巻7号 (2005.8・9). -- アグネ, 1972.	和
11	経営史学 / 経営史学会編集. -- 1巻1号 (昭41.6)-. -- 東京大学出版会, 1966.	和
12	経営志林 / 法政大学経営学会. -- 1巻1号 (昭39.4)-. -- 法政大学経営学会, 1964.	和
13	經營と經濟 : 長崎工業經營專門學校大東亞經濟研究所年報 / 長崎工業經營專門學校大東亞經濟研究所 [編]. -- 25年1冊 (昭19.6)-. -- 長崎工業經營專門學校大東亞經濟研究所, 1944.	和
14	経営論集 / 東洋大学経営研究所 [編]. -- 1号 (1975.6)-. -- 東洋大学経営研究所, 1975.	和
15	経営論集 / 明治大学経営学研究所. -- 1輯 (1953.11)-24集 (昭37.3) ; 10巻1号 (昭37.9)-. -- 明治大学経営学研究所, 1953.	和
16	大阪経済法科大学経済学論集 / 大阪経済法科大学経済学会. -- 1号 (昭52.3)-. -- 大阪経済法科大学, 1977.	和
17	工場管理 / 日刊工業新聞社 [編]. -- 1巻1号 (昭30.1)-. -- 日刊工業新聞社, 1955.	和
18	甲南經営研究 / 甲南大学経営学会 [編]. -- 6巻1號 (昭40.6)-. -- 甲南大学経営学会, 1965.	和
19	駒大経営研究 / 駒沢大学経営研究所. -- Vol. 1, no. 1 (昭44)-. -- 駒沢大学経営研究所, 19--.	和
20	産業経営 / 早稲田大学産業経営研究所 [編]. -- 創刊[1]号 (1975)-. -- 早稲田大学産業経営研究所, 1975.	和
21	産業経営研究 / 日本大学経済学部産業経営研究所. -- No. 1 (1980)-. -- 日本大学経済学部産業経営研究所, 1981.	和
22	産業経営研究所報 / 九州産業大学[産業経営研究所]. -- 1 (1966)-. -- 九州産業大学産業経営研究所, 1966.	和
23	社会学評論 / 日本社会学会編. -- 1巻1號 (1950)- = 1 (1950)-. -- 有斐閣, 1950.	和
24	同志社大學大學院商學論集 / 同志社大学大学院商学論集編集委員会. -- 創刊[1]号 ([1966.12])-. -- 同志社大学大学院商学研究科院生会, 1966.	和
25	月刊消費者 = Consumer. -- 41号 (昭38.1)-no. 620 (2011.4). -- 日本消費者協会, 1963.	和
26	西洋史學 / 日本西洋史學會編. -- 1 (1948)-. -- 比叡書房, 1948.	和
27	世界 / 岩波書店 [編]. -- 1号 (昭21.1)-. -- 岩波書店, 1946.	和
28	専修経営学論集 / 専修大学学会. -- 1号 (1965.11)-. -- 専修大学学会, 1965.	和
29	専修経営研究年報 / 専修大学経営研究所 [編]. -- No. 1 (1976)-no. 35 (2010). -- 専修大学経営研究所, 1977.	和

No	タイトル等	和洋区分
30	専修商学論集 / 専修大学学会. -- 1号 (1965.12)-. -- 専修大学学会, 1965.	和
31	創価経営論集 / 創価大学経営学会 [編集]. -- 1巻1号 (1977.1)-39巻1・2・3合併号 (2015.3). -- 創価大学経営学会, 1977.	和
32	地域開発 / 日本地域開発センター. -- 1号 (昭39.10)-. -- 日本地域開発センター, 1964.	和
33	千葉商大論叢 / 千葉商科大学国府台学会 [編]. -- 13巻5号 (昭51.3)- = 通巻32号 (昭51.3)-. -- 千葉商科大学国府台学会, 1976.	和
34	地方史研究 / 地方史研究協議会. -- 創刊[1]号 (1951.3)-24号 (1956.12) ; 7巻1号 (1957.2)-. -- 地方史研究協議会, 1951.	和
35	中小企業季報 / 大阪経済大学中小企業経営研究所. -- 1972, no. 1 (1972)-. -- 大阪経済大学中小企業経営研究所, 1972.	和
36	同志社商學 / 同志社大學商學會 [編輯]. -- 1巻1號 ([昭24.9])-. -- 同志社大學商學會, 1949.	和
37	日本歴史 = The Nippon-rekishi. -- 1巻1號 (昭21.6)-2巻5號 ([昭22.12]) ; 通巻10號 (1948.2)-. -- 日本歴史社, 1946.	和
38	農業經濟研究 / 農業經濟學會編輯. -- 1巻1號 (大14.4.1)-. -- 岩波書店, 1925.	和
39	農業と經濟 / 農業と經濟社 [編]. -- 1巻1號 ([昭9.4])-. -- 農業と經濟社, 1934.	和
40	ヒストリア / 大阪歴史學會 [編]. -- 1號 ([昭26.9])-. -- 柳原書店, 1951.	和
41	一橋大學研究年報. 商學研究 / 一橋大學一橋學會編. -- 1 (1953)-46 (2006). -- 一橋大學, 1954.	和
42	広島経済大学経済研究論集 / 広島経済大学経済学会. -- 1巻1号 (1978. 6)- = 通冊17号 (1978. 6)-. -- 広島経済大学経済学会, 1978.	和
43	廣島大學經濟論叢 / 廣島大學經濟學會 [編]. -- 1巻1号 (昭52.7)-. -- 広島大学経済学会, 1977.	和
44	福岡大学商学論叢 / 福岡大学研究所 [編]. -- 1巻1号 (昭31.7)- = [通巻1号] (昭31.7)-. -- 福岡大学研究所, 1956.	和
45	福山大学経済学論集 / 福山大学経済学研究会 [編]. -- 1巻1号 (1976.1)-. -- 福山大学経済学研究会, 1976.	和
46	保險學雜誌. -- 290號 ([大10.6])-. -- 保險學會, 1921.	和
47	三田商学研究 / 慶應義塾大学商学部. -- 1巻1号 (1958.4)-. -- 慶應義塾大学商学部, 1958.	和
48	明大商學論叢 / 明治大學商學研究所. -- 1巻1号 (大15. 6)-34巻3号 (昭19. 5) ; 1巻1号 (昭24. 10)-1巻6号 (昭26. 3) ; 35巻1号 (昭26. 7)-. -- 明治大學雜誌部, 1926.	和
49	横浜経営研究 / 横浜国立大学経営学会. -- 1巻1号 (1980.9)-. -- 横浜国立大学経営学会, 1980.	和
50	横浜商科大学紀要 / 横浜商科大学 [編]. -- 1巻 ([昭52.9])-. -- 横浜商科大学, 1977.	和
51	理想 / 理想社. -- 1年1號 ([昭2.4])-49年12冊 (昭50.12) ; 512号 (昭51.1)-. -- 理想社, 1927.	和
52	立命館経営学 / 立命館大学経営学会 [編集]. -- 1巻1号 (昭37.10)-. -- 立命館大学人文科学研究所, 1962.	和
53	立命館大学人文科学研究所紀要 / 立命館大学人文科学研究所. -- 1 (1953)-. -- 立命館大学人文科学研究所, 1953.	和
54	勞働科學 : 國民の生活と勤勞とに関する綜合的研究 / 日本勞働科學研究所 [編]. -- 17巻10號 (昭15.10)-. -- 日本勞働科學研究所出版部, 1940.	和
55	労働の科学 = Science of labour / 勞研・勞働科學研究會 [編]. -- 4巻[4/5]號 (1949.5)-. -- 勞働科學研究所内勞働科學研究會, 1949.	和
56	歴史學研究 / 歴史學研究會 [編]. -- 1巻1號 ([昭8].11)-11巻7號 ([昭16].7/8) ; 91號 (昭16.9)-. -- 歴史學研究會, 1933.	和
57	証券経済学会年報 / 証券経済学会 [編]. -- 1号 (昭43.2)-. -- 証券経済学会事務局, 1968.	和
58	公正取引 / 公正取引研究協会. -- 創刊號 (昭25.3)-. -- 公正取引研究協会, 1950.	和
59	研究年報 : 青大ジャーナル / 青森大学産業研究所 [編]. -- 2号 (1978.11)-2号 (1978.11) ; V. 2, no. 2 (1979.3)-32巻 (2010.3) = 通巻3号 (1979.3)-通巻53号 (2010.3). -- 青森大学産業研究所, 1978.	和

No	タイトル等	和洋区分
60	税經セミナー / 税務經理協会 [編]. -- 創刊号 (1956.11)-76号 (1962.9) ; V. 7, no. 11 (1962.10)-58巻10号 (2013.9) = 通巻77号 (1962.10)-通巻880号 (2013.9). -- 税務経理協会, 1956.	和
61	公益事業研究 = Journal of public utility economics. -- 1巻1號 (昭24.3)-. -- 公益事業學會, 1949.	和
62	會計 / 日本會計學會編纂. -- 1巻1号 (大6.4)-. -- 森山書店, 1917.	和
63	産業経理 / 産業經理協會編輯. -- 6巻1號 (昭21.10)-. -- 産業經理協會, 1946.	和
64	日経ビジネス = Nikkei business. -- 1巻1号 (1969.10)-1巻12号 (1970.9) ; 13号 (1970.9)-. -- 日経マグロウヒル社, 1969.	和
65	商工金融 = Co-operative finance for commerce and industry / 商工組合中央金庫 [編]. -- 1巻1號 (昭13.6)- ; 1巻1号 (昭26.12)-37巻3号 (昭62.3) ; 62年度1号 (1987.4)-63年度9号 (1988.12) ; 1989年1月号 (1989.1)-1990年3月号 (1990.3) ; 40巻4号 (1990.4)-. -- 商工組合中央金庫, 1938.	和
66	週刊ダイヤモンド / ダイヤモンド社 [編]. -- 56巻10号 (1968.2.26)-. -- ダイヤモンド社, 1968.	和
67	損害保険研究 / 損害保険事業研究所 [編]. -- 1巻1號 ([昭10.8])-. -- 損害保険事業研究所, 1935.	和
68	税經通信 / 税務經理協會 [編]. -- 1巻1号 (昭21.1)-. -- 税務經理協會, 1946.	和
69	情報処理 / 情報処理学会 [編] = / Information Processing Society of Japan. -- Vol. 1, no. 1 (1960.7)-. -- オーム社, 1960.	和
70	月刊経営士 / 日本経営士会 [編]. -- 192号 (1968.10)-. -- 日本経営士会, 1968.	和
71	東北学院大学経理研究所紀要 / 東北学院大学経理研究所 [編]. -- 創刊[1]号 (1985.3)-13号 (2006.3). -- 東北学院大学経理研究所, 1985.	和
72	労務管理通信 / 労働法令協会. -- Vol. 1, no. 1 (昭36.5)-v. 35, no. 8 (1995.3). -- 労働法令協会, 1961.	和
73	駒沢大学大学院商学研究 / 駒沢大学大学院商学研究科. -- 創刊号 (昭46.6)-, 1971.	和
74	西南学院大学大学院経営学研究論集 / 西南学院大学大学院 [編]. -- 1号 (昭57.9)-61号 (平27.1). -- 西南学院大学大学院, 1982.	和
75	西南学院大学大学院法学研究論集 / 西南学院大学大学院 [編]. -- 1号 (昭57.12)-30号 (平27.1). -- 西南学院大学大学院, 1982.	和
76	専修大学商学研究所報 / 専修大学商学研究所 [編]. -- 1号 (1970.3)-130号 (1999.3) ; 31巻1号 (1999.8)- = 通巻131号 (1999.8)-. -- 専修大学商学研究所, 1970.	和
77	朝日大学経営論集 / 朝日大学経営学部 [編]. -- 1巻1号 (昭62.1)-. -- 朝日大学経営学部, 1987.	和
78	経営情報学部論集 / 中部大学経営情報学部. -- 1巻1号 (1985.1)-. -- 中部大学経営情報学部, 1985.	和
79	中央大学経済研究所年報 / 中央大学経済研究所. -- 1号 (1970)-. -- 中央大学経済研究所, 1970.	和
80	中央学院大学商経論叢. -- 1巻1号 (昭61.10)-. -- 中央学院大学商学部, 1986.	和
81	中小企業と組合 / 全国中小企業等協同組合中央会. -- 13巻4号 (1958.4)-. -- 全国中小企業等協同組合中央会, 1958.	和
82	月刊民商. -- 27巻1号 (1985. 1)-. -- 全国商工団体連合会, 1985.	和
83	北星学園大学経済学部北星論集 / 北星学園大学[経済学部] [編]. -- 21号 (1983)-. -- 北星学園大学, 1984.	和
84	JICPAジャーナル / 日本公認会計士協会編集 = / the Japanese Institute of Certified Public Accountants. -- 1巻1号 (1989.4)-18巻12号 (2006.12) = 通巻405号 (1989.4)-通巻617号 (2006.12). -- 第一法規出版, 1989.	和
85	旬刊経理情報. -- No. 1 (1973.9)-. -- 中央経済社, 1973.	和
86	情報処理学会論文誌 / 情報処理学会 [編] = Transactions of Information Processing Society of Japan / Information Processing Society of Japan. -- Vol. 20, no. 1 (Jan. 1979)-v. 49, no. 3 (Mar. 2008). -- 情報処理学会, 1979.	和
87	会計人コース. -- 1巻1号 (1966.1)-55巻10号 (2020.8). -- 中央経済社, 1966.	和

No	タイトル等	和洋区分
88	経済人 / 関西経済連合会. -- 3巻10号 (昭24.10)-. -- 関西経済連合会, 1949.	和
89	企業会計. 別冊 / 中央経済社. -- 1号 ([昭52.12])-. -- 中央経済社, 1977.	和
90	産業経営研究 : 熊本商科大学付属産業経営研究所所報 / 熊本商科大学付属産業経営研究所. -- 創刊号 (1983.3)-. -- 熊本商科大学付属産業経営研究所, 1983.	和
91	クォータリー日経商品情報 / 日本経済新聞社 [編]. -- 1号 (1978.第3四半期)-164号 (2019.第2四半期). -- 日本経済新聞社データバンク局商品情報部, 1978.	和
92	釧路公立大学紀要. 社会科学研究 / 釧路公立大学. -- 創刊号 (1989.3)-. -- 釧路公立大学, 1989.	和
93	宮崎産業経営大学経営学論集 / 宮崎産業経営大学経営学会 [編]. -- 宮崎産業経営大学経営学会, 198-.	和
94	南山経営研究 / 南山大学経営学会 [編]. -- 1巻1号 (1986.4)-36巻3号 (2022.3). -- 南山大学経営学会, 1986.	和
95	労務研究 / 日本労務研究会. -- 1巻1号 (昭23.1)-60巻3号 (平19.3). -- 日本労務研究会, 1948.	和
96	流通科学大学論集. 流通・経営編 / 流通科学大学学術研究会 [編]. -- 1巻1号 (Mar. 1989)-30巻2号 (2018.1). -- 流通科学大学学術研究会, 1989.	和
97	信託研究奨励金論集 / 信託協会 [編]. -- 1号 ([昭60])-. -- 信託協会, 1985.	和
98	産業セミナー年報 / 関西大学経済・政治研究所 [編]. -- 1985 (1985)-2005 (2005). -- 関西大学経済・政治研究所, 1985.	和
99	高千穂論叢 / 高千穂商科大学商学会. -- 昭和28年1集 (昭28)-昭和63年度3 (昭63) ; 24巻1号 (平1.6)-. -- 高千穂商科大学商学会, 1953.	和
100	税制研究 / 税制経営研究会 [編]. -- -no. 82 (2022.9). -- 税制経営研究会, 196-.	和
101	会計検査研究 / 会計検査院 [編]. -- No. 1 (1989.8)-. -- 会計検査院事務総長官房上席審議室調査官(研究担当), 1989.	和
102	松山大学論集 / 松山大学学術研究会. -- 1巻1号 (平1.4)- = 通巻188号 (平1.4)-. -- 松山大学学術研究会, 1989.	和
103	経営と情報 : 静岡県立大学・経営情報学部/学報. -- Vol. 1, no. 1 (Mar. 1989)-31巻2号 (Mar. 2019). -- 静岡県立大学・経営情報学部, 1989.	和
104	科学史研究. 第II期 / 日本科学史学会編集. -- 1巻1冊 (1962.1-3)-1巻4冊 (1962.10-12) = No. 61 (1962.1-3)-no. 64 (1962.10-12) ; No. 65 (1963.1-3)-no. 84 (1967.10-12) ; 7巻, no. 85 (1968.春)-52巻, no. 268 (2013.冬). -- 岩波書店, 1962.	和
105	関西学院商学研究 / 関西学院大学大学院商学研究科研究生. -- 創刊号 (昭48. 3)-. -- 関西学院大学大学院商学研究科研究生, 1973.	和
106	Deutsche Zeitschrift für Philosophie. -- 1. Jahrg. (1953)-. -- Akademie Verlag, 1953.	洋
107	Gewerkschaftliche Monatshefte. -- 1 (1950)-55. Jahrg., Heft 11/12 (Nov./Dez. 2004). -- Bund-Verlag, 1950.	洋
108	Harvard business review / Graduate School of Business Administration, Harvard University. -- Vol. 1, no. 1 (Oct. 1922)-. -- A. W. Shaw, 1922.	洋
109	Human organization / Society for Applied Anthropology. -- Vol. 8, no. 1 (1949)-, 1949.	洋
110	Human resource management / Graduate School of Business Administration, University of Chicago. -- Vol. 11, no. 1 (spring 1972)-. -- John Wiley, 1972.	洋
111	Schmalenbachs Zeitschrift für betriebswirtschaftliche Forschung. -- 16. Jahrg., Heft 1 (Jan. 1964)-. -- Westdeutscher Verlag, 1964.	洋
112	Abacus : a journal of accounting and business studies. -- Vol. 1, no. 1 (Sept. 1965)-. -- Sydney University Press, 1965.	洋

No	タイトル等	和洋区分
113	The accountant : a medium of communication between accountants in all parts of the United Kingdom. -- Vol. 1, no. 1 (Oct. 1874)-v. 194, no. 5792 (1986) ; No. 5793 (1987)-. -- G. Berridge, 1874.	洋
114	The accounting review / American Association of University Instructors in Accounting. -- Vol. 1, no. 1 (Mar. 1926)-. -- American Association of University Instructors in Accounting, 1926.	洋
115	The American journal of sociology. -- Vol. 1, no. 1 (July 1895)-. -- University of Chicago Press, 1896.	洋
116	Annals of the American Academy of Political and Social Science. -- Vol. 1, no. 1 (July 1890)-. -- Published by A.L. Hummel for the American Academy of Political and Social Science, 1890.	洋
117	Accounting, organizations and society. -- Vol. 1 (1976)-. -- Pergamon Press, 197-.	洋
118	Atlantic economic journal / Atlantic Economic Society. -- 1 (1973)-, 1973.	洋
119	Betriebswirtschaftliche Forschung und Praxis. -- 1. Jahrg., 1 (1949)-. -- Hecknersverlag, 1949.	洋
120	Die Betriebswirtschaft : Zeitschrift für Handelswissenschaft und Handelspraxis. -- 23. Jahrg., Heft. 1 (Jan. 1930)-. -- C.E. Poeschel, 1930.	洋
121	Business history. -- Vol. 1, no. 1 (Dec. 1958)-. -- Liverpool University Press, 1958.	洋
122	Consumer reports. -- Vol. 7, no. 6 (June 1942)-. -- Consumers Union of U.S., 1942.	洋
123	Dædalus : proceedings of the American Academy of Arts and Sciences. -- Vol. 86, no. 1 (May 1955)-. -- American Academy of Arts and Sciences, 1955.	洋
124	Eastern European Economics : selected articles from scholarly journal of Eastern Europe in English translation. -- Vol. 1, no. 1 (1962)-. -- International Arts and Sciences Press, 1962.	洋
125	Economic development and cultural change. -- [Vol. 1 (Mar. 1952)]-. -- [University of Chicago Press], 1952.	洋
126	Économie appliquée : archives de l'Institut de science économique appliquée. -- [T. 1], no 1 (janv./mars 1948)-T. 68, no 3 (sept. 2015). -- Presses Universitaires de France, 1948.	洋
127	Explorations in economic history / Graduate Program in Economic History. -- 7 (1969)-. -- Kent State University Press, 1969.	洋
128	Économie et comptabilité. -- 14. année, no. 49 (mars 1960)-42. année, no. 163 (juin 1988) ; No. 164 (sept./oct. 1988)-. -- Institut français des experts comptables, 1960.	洋
129	European journal of operational research / Association of European Operational Research Societies. -- Vol. 1 (1977)-. -- North-Holland Pub., 1977.	洋
130	Federal reserve bulletin / United States Board of Governors of the Federal Reserve System. -- Vol. 1, no. 1 (May 1915)-. -- G.P.O., 1915.	洋
131	The financial analysts journal / the National Federation of Financial Analysts Societies. -- Vol. 16, no. 1 (Jan./Feb. 1960)-. -- National Federation of Financial Analysts Societies, 1960.	洋
132	Financial management / Financial Management Association. -- [Vol. 1] (1972)-. -- Financial Management Association, 1972.	洋
133	Indian economic journal : the quarterly journal of the Indian Economic Association. -- Vol. 1, no. 1 (July 1953)-. -- School of Economics and Sociology, University of Bombay, 1953.	洋
134	Industrial and labor relations review. -- Vol. 1, no. 1 (Oct. 1947)-. -- New York State School of Industrial and Labor Relations, Cornell University, 1947.	洋
135	Industrial relations : a journal of economy and society / Institute of Industrial Relations, University of California. -- Vol. 1, no. 1 (Oct. 1961)-. -- Institute of Industrial Relations, Univesity of California, 1961.	洋
136	The international journal of accounting. -- Vol. 24, no. 1 (1989)-. -- Springer International, 1989.	洋

No	タイトル等	和洋区分
137	Interfaces. -- Vol. 1, no. 4 (June 1971)-v. 48, no. 6 (Nov./Dec. 2018). -- Institute of Management Sciences, 1971.	洋
138	The journal of accountancy. -- Vol. 1, no. 1 (Nov. 1905)-v. 232, no. 6 (Dec. 2021). -- Accountancy Pub. Co., 1905.	洋
139	Journal of accounting research. -- Vol. 1, no. 1 (spring 1963)-. -- Institute of Professional Accounting, Graduate School of Business, University of Chicago, 1963.	洋
140	Journal of agricultural economics / Agricultural Economics Society. -- Vol. 11, no. 1 (1954)-. -- Agricultural Economic Society, 1954.	洋
141	The journal of applied psychology. -- Vol. 1, no. 1 (Mar. 1917)-. -- Florence Chandler, 1917.	洋
142	Journal of marketing / American Marketing Association. -- Vol. 1, no. 1 (July 1936)-. -- [American Marketing Association], 1936.	洋
143	Journal of marketing research : JMR / American Marketing Association. -- Vol. 1, no. 1 (Feb. 1964)-. -- American Marketing Association, 1964.	洋
144	The journal of modern history / University of Chicago. -- Vol. 1, no. 1 (Mar. 1929)-. -- University of Chicago Press, 1929.	洋
145	Journal of money, credit and banking. -- Vol. 1, no. 1 (Feb. 1969)-. -- Ohio University Press, 1969.	洋
146	Journal of Negro history. -- Vol. 1 (1916)-. -- Association for the Study of Negro Life and History, 1916.	洋
147	Journal of retailing / New York University, School of Retailing. -- Vol. 1 (1925)-. -- New York University, Institute of Retail Management, 1925.	洋
148	The journal of social psychology : political, racial, and differential psychology. -- Vol. 1, no. 1 (Feb. 1930)-. -- Clark University Press, 1930.	洋
149	The Journal of applied behavioral science / NTL Institute for Applied Behavioral Science. -- Vol. 1, no. 1 (Jan. 1965)-. -- National Training Laboratories, NEA, 1965.	洋
150	Journal of business finance & accounting. -- Vol. 1, no. 1 (spring 1974)-. -- B. Blackwell, 1974.	洋
151	Journal of the Academy of Marketing Science. -- Vol. 1, no. 1 (spring 1973)-. -- Academy of Marketing Science, 1973.	洋
152	Journal of accounting & economics. -- Vol. 1, no. 1 (Mar. 1979)-. -- North-Holland Publishing, 1979.	洋
153	Journal of European industrial training. -- 1 (1977)-. -- MCB Publications, 1977.	洋
154	Keio business review / Society of Business and Commerce, Keio University. -- 1 (1962)-. -- Society of Business and Commerce, Keio University, 1962.	洋
155	Mathematics of operations research / Operations Research Society of America. -- 1 (Feb. 1976)-. -- Institute of Management Sciences, 197-.	洋
156	Osteuropa Wirtschaft / Deutschen Gesellschaft für Osteruopakunde. -- (1956)-, 1956.	洋
157	The Review of economics and statistics / President and fellows of Harvard College. -- Vol. 30, no. 1 (Feb. 1948)-. -- Harvard University, 1948.	洋
158	Revue économique. -- [T.] 1 (mai 1950)-. -- A. Colin, 1950.	洋
159	Revue historique. -- T. 1 (janv./juin 1876)-. -- Germer Baillière, 1876.	洋
160	R & D management. -- Vol. 1, no. 1 (Oct. 1970)-. -- Basil Blackwell, 1970.	洋
161	Revue française de comptabilité. Nouv. sér. -- No 1 (1971)-. -- Conseil supérieur de l'ordre des experts comptables et des comptables agréés, 1971.	洋

No	タイトル等	和洋区分
162	Science & society : a Marxian quarterly. -- Vol. 1, no. 1 (fall 1936)-. -- Science and Society, 1936.	洋
163	Social forces. -- Vol. 4, no. 1 (Sept. 1925)-. -- University of North Carolina Press, 1925.	洋
164	Der Spiegel. -- 1. Jahrg., Nr. 1 (4. Jan. 1947)-47. Jahrg., Nr. 43 (25. Okt. 1993) ; 1993, Nr. 44 (1. 11. 1993)-2018, Nr. 12 (17. 3. 2018) ; 71. Jahrg., Heft 13 (24. März 2018)-. -- R. Augstein, 1947.	洋
165	S.A.M. advanced management journal. -- Vol. 34, no. 1 (Jan. 1969)-. -- Society for Advancement of Management, 1969.	洋
166	Social sciences / Academy of Sciences, U.S.S.R. -- 1 (1970)-, 1970.	洋
167	Textile history. -- Vol. 1, no. 1 (Dec. 1968)-. -- David & Chales, 1968.	洋
168	Die Wirtschaftsprüfung : Zeitschrift für Betriebs- und Finanzwirtschaft. -- Jahrg. 1, Nr. 1 (1. Apr. 1948)-. -- C.E. Poeschel, 1948.	洋
169	Zeitschrift für Betriebswirtschaft. -- 1. Jahrg. (1924)-. -- Industrieverlag Spaeth & Linde, 1924.	洋
170	Zeitschrift für Unternehmensgeschichte. -- 22. Jahrg., Heft 1 ([1977])-. -- Franz Steiner, 1977.	洋
171	Chemical and engineering news. -- Vol. 20, no. 1 (Jan. 10, 1942)-. -- American Chemical Society, 1942.	洋
172	Fuzzy sets and systems : an international journal. -- Vol. 1, no. 1 ([Jan.] 1978)-. -- North-Holland, 1978.	洋
173	Hydrocarbon processing. -- Vol. 45, no. 6 (June 1966)-. -- Gulf, 1966.	洋
174	Modern plastics international. -- Vol. 1 (1971)-. -- McGraw-Hill, 1971.	洋
175	Auditing. -- Vol. 1, no. 1 (summer 1981)-. -- Auditing Section of the American Accounting Association, 1981.	洋
176	Banking world. -- Vol. 1, no. 1 (July 1983)-v. 13, no. 6 (June 1995). -- Published for the Institute of Bankers by Waterlow Publishers Ltd., 1983.	洋
177	The Rand journal of economics. -- Vol. 15, no. 1 (Spring 1984)-. -- Rand Corporation, 1984.	洋
178	The accounting historians journal. -- Vol. 4, no. 1 (spring 1977)-. -- Academy of Accounting Historians, 1977.	洋
179	Business week. -- No. 688 (1942)-. -- McGraw-Hill, 1942.	洋
180	The CPA journal. -- Vol. 45, no. 12 (Dec. 1975)-. -- New York State Society of Certified Public Accountants, 1975.	洋
181	Industrial management + data systems. -- 1980, no. 9 (Sept. 1980)-1989, no. 7 (1989) ; V. 90, no. 1 (1990)-. -- MCB Publications, 1980.	洋
182	The journal of business / the School of Business of the University of Chicago. -- Vol. 27, no. 2 (Apr. 1954)-v. 79, no. 6 (Nov. 2006). -- University of Chicago Press, 1954.	洋
183	Management science : application and theory / Institute of Management Sciences. -- Vol. 23, no. 4 (Dec. 1976)-. -- Institute of Management Sciences, 1976.	洋
184	Organizational behavior and human decision processes : a journal of fundamental research and theory in applied psychology. -- Vol. 35, no. 1 (Feb. 1985)-. -- Academic Press, 1985.	洋
185	WSI Mitteilungen : Zeitschrift des Wirtschafts- und Sozialwissenschaftlichen Instituts des Deutschen Gewerkschaftsbundes GmbH. -- Jahrg. 25, Heft 4 (Apr. 1972)-. -- Bund-Verlag, 1972.	洋
186	Indian journal of economics. -- Vol. 1, pt. 1 (Jan. 1916)- = Serial no. 1 (Jan. 1916)-. -- University of Allahabad, Dept. of Economics, 1916.	洋
187	地域研究ジャーナル / 松山大学総合研究所 [編]. -- 創刊[1]号 (平1.9)-. -- 松山大学総合研究所, 1989.	和
188	松山大学総合研究所所報 / 松山大学総合研究所. -- 10号 (1989)-. -- 松山大学総合研究所, 1989.	和

No	タイトル等	和洋区分
189	資源環境対策 = Journal of resources and environment. -- 28巻1号 (1992.1)-48巻6号 (2012.6) = 通巻344号 (1992.1)-通巻661号 (2012.6). -- 公害対策技術同友会, 1992.	和
190	経済情報学論集 / 姫路獨協大学経済情報学会 [編]. -- 創刊 [1] 号 (1991.3)-. -- 姫路獨協大学経済情報学会, 1991.	和
191	日本労働研究雑誌 / the Japan Institute of Labour. -- Vol. 32, no. 1 (Jan. 1990)- = No. 364 (Jan. 1990)-. -- 日本労働研究機構, 1990.	和
192	商学研究 : 東京国際大学大学院商学研究科 / 東京国際大学大学院商学研究科紀要編集委員会編. -- 創刊号(1991. 2)-25号(2014.9). -- 東京国際大学, 1991.	和
193	Regional studies. -- Vol. 1, no. 1 (1967)-. -- Pergamon Press, 1967.	洋
194	慶應商学論集 = Keio business and commerce review / 慶應商学論集編集委員会 [編]. -- 創刊[1]号 (1987)-3号 (1989) ; 4巻1号 (1990)-. -- 慶應商学論集編集委員会, 1989.	和
195	国際経営論集 / 神奈川大学経営学部. -- 1号 (1990.3)-. -- 神奈川大学経営学部, 1990.	和
196	国際経営フォーラム = International business and management forum / 神奈川大学国際経営研究所 [編集]. -- 1号 (1990)-. -- 神奈川大学国際経営研究所, 1990.	和
197	石巻専修大学経営学研究 / 石巻専修大学経営学会. -- 1巻1号 (1990.2)-. -- 石巻専修大学, 1990.	和
198	QCサークル : 職場とQC. -- No. 307 (1988. 1)-. -- 日本科学技術連盟, 1988.	和
199	經濟研究. -- 1955年1期 (1955)- = 總1號 (1955)-. -- 科學出版社, 1955.	和
200	九州産業大学経営学論集 / 九州産業大学経営学会 [編]. -- 1巻1号 (1990)-最終[29巻1]号 (2019). -- 九州産業大学経営学会, 1990.	和
201	International journal of production research / American Institute of Industrial Engineers. -- Vol. 1 (1961)-. -- Institution of Production Engineers, 1961.	洋
202	IFO Schnelldienst / IFO Institut für Wirtschaftforschung. -- (1948)-, 19--.	洋
203	Review / Fernand Braudel Center for the Study of Economies, Historical Systems, and Civilizations. -- Vol. 1, no. 1 (summer 1977)-. -- Fernand Braudel Center for the Study of Economies, Historical Systems, and Civilizations, 1977.	洋
204	Journal of accounting, auditing & finance. New series / Ross Institute of New York University. -- Vol. 1, no. 1 (winter 1986)-. -- Greenwood Press, 1986.	洋
205	Public accounting report : the newsletter of the profession. -- Vol. 1, no. 1 (Jan. 1978)-. -- [Professional Pub.], 1978.	洋
206	Die Mitbestimmung. -- 28. Jahrg., Heft 1 (Jan. 1982)-. -- Hans-Böckler-Stiftung, 1982.	洋
207	Accounting and business research / Institute of Chartered Accountants in England and Wales. -- 1 (1970)-. -- Institute of Chartered Accountants in England and Wales, 1970.	洋
208	Journal of accounting and public policy. -- Vol. 1, no. 1 (fall 1982)-. -- North Holland, 1982.	洋
209	Journal of economics = Zeitschrift für Nationalökonomie. -- Vol. 46, no. 1 (1986)-. -- Springer-Verlag, 1986.	洋
210	Journal of international marketing and marketing research. -- Vol. 1, no. 1 (Feb. 1976)-v. 36, no. 3 (Oct. 2011). -- European Marketing Association, -2011, 1976.	洋
211	International journal of maritime history. -- Vol. 1, no. 1 (June 1989)-. -- Maritime Studies Research Unit, 1989.	洋
212	立正大学産業経営研究所年報. -- [1号] (昭57)-. -- 立正大学産業経営研究所, 1982.	和
213	産業研究 / 高崎経済大学附属産業研究所. -- 25巻1号 (平1.10.31)- = 通巻[34]号 (平1.10.31)-. -- 高崎経済大学附属産業研究所, 1989.	和
214	Australian economic history review. -- Vol. 7, no. 1 (Mar. 1967)-. -- Sydney University Press, 1967.	洋
215	Discrete applied mathematics. -- 1 (1979)-, 1979.	洋

No	タイトル等	和洋区分
216	Forbes. -- Forbes, 191-.	洋
217	Human systems management. -- Vol. 1, no. 1 (Feb. 1980)-. -- North-Holland, 1980.	洋
218	Journal of international business studies. -- Vol. 1, no. 1 (spring 1970)-. -- Academy of International Business and Rutgers Graduate School of Business Administration at Newark N.J., 1970.	洋
219	Labor history. -- Vol. 1, no. 1 (winter 1960)-. -- Tamiment Institute, 1960.	洋
220	Mergers & acquisitions : the journal of corporate venture. -- Vol. 1, no. 1 (fall 1965)-. -- Mergers & Acquisitions, 1965.	洋
221	Organizational dynamics : a quarterly review of behavioral and management sciences. -- Vol. 1, no. 1 (summer 1972)-. -- American Management Association, 1972.	洋
222	Reviews in American history : a quarterly journal of criticism. -- Vol. 1, no. 1 (Mar. 1973)-. -- Redgrave Informations Resources, 1973.	洋
223	Wochenbericht / Deutsches Institut für Wirtschaftsforschung. -- 14 (1941)-, 1941.	洋
224	Amerasia journal : a joint quarterly publication of the UCLA Asian American Studies Center and the Yale Asian American Students Association / Asian American Studies Center, University of California, Los Angeles. -- Vol. 1, no. 1 (Mar. 1971)-, 1971.	洋
225	Decision support systems : the international journal. -- Vol. 1, no. 1 (Jan. 1985)-. -- North-Holland, 1985.	洋
226	Eastern economic journal. -- Vol. 1, no. 1 (Jan. 1974)-. -- Eastern Economic Association, 1974.	洋
227	International journal of research in marketing : official journal of the European Marketing Academy. -- Vol. 1, no. 1 (1984)-. -- North-Holland, 1984.	洋
228	The Journal of business strategy. -- Vol. 1, no. 1 (summer 1980)-. -- Warren, Gorham & Lamont, 1980.	洋
229	Journal of macromarketing. -- Vol. 1, no. 1 (spring 1981)-. -- Business Research Division, Graduate School of Business Administration, University of Colorado, 1981.	洋
230	Journal of accounting literature. -- Vol. 1 (spring 1982)-. -- Published for the Accounting Research Center, University of Florida, by the Society of Accounting Research Digest, 1982.	洋
231	Journal of the Japanese and international economies. -- Vol. 1, no. 1 (Mar. 1987)-. -- Academic Press, 1987.	洋
232	Journal of financial intermediation : JFI. -- Vol. 1, no. 1 (Mar. 1990)-. -- Academic Press, 1990.	洋
233	Osaka City University business review. -- No. 1 (1987)-no. 21 (2010). -- Society of Business Research, Faculty of Business, Osaka City University, 1987.	洋
234	Betrieb und Wirtschaft : Zeitschrift für Rechnungswesen, Steuern, Wirtschafts-, Arbeits- und Sozialrecht im Betrieb. -- 45. Jahrg., Heft 1 (Jan. 1991)-58. Jahrg., Heft 12 ([Juni] 2004). -- Verlag Neue Wirtschafts-Briefe, 1991.	洋
235	慶應経営論集 / 慶應義塾経営管理学会 [編集]. -- 1巻1号 (1979.4)-. -- 慶應義塾経営管理学会, 1979.	和
236	オホーツク産業経営論集 / 東京農業大学産業経営学会. -- 1巻1号 (1990.3)-. -- 東京農業大学産業経営学会, 1990.	和
237	Fuji business review : フジ・ビジネス・レビュー / 富士短期大学経営研究所. -- Vol. 1, no. 1 (1991.3)-v. 18 (2008.3) = 1号 (1991.3)-29号 (2008.3) ; 1号 (2009.3)-5号 (2013.3). -- 富士短期大学, 1991.	和
238	産業経済研究所紀要 / 中部大学産業経済研究所 [編]. -- 1号 (1991.3)-27号 (2017.7). -- 中部大学, 1991.	和

No	タイトル等	和洋区分
239	京都学園大学経営学部論集 / 京都学園大学経営学部学会 [編]. -- 1巻1号 (平3.12)-24巻2号 (平27.3). -- 京都学園大学経営学部学会, 1991.	和
240	愛知学院大学論叢. 経営学研究 / 愛知学院大学経営学会 [編集]. -- 1巻1・2合併号 (1991.9)-. -- 愛知学院大学経営学会, 1991.	和
241	中京経営研究 / [中京大学経営学部編]. -- 創立記念[1]号 ([平4.2])-. -- 中京大学経営学会, 1992.	和
242	作新経営論集 = Sakushin business review / 作新学院大学経営学部 [編]. -- 1号 (1992.3)-19号 (2010.3). -- 作新学院大学経営学部, 1992.	和
243	流通科学大学論集. 経済・経営情報編 : university of marketing and distribution sciences / 流通科学大学学術研究会 [編]. -- 1巻1号 (1992.9)-19巻2号 (2011.1). -- 流通科学大学学術研究会, 1992.	和
244	情報学研究 : 朝日大学経営学部電子計算機室年報 / 朝日大学経営学部電子計算機室 [編]. -- 1巻1号 (平3)-. -- 朝日大学経営学部電子計算機室, 1992.	和
245	東京大学社会情報研究所調査研究紀要 = The research bulletin of the Institute of Socio-Information and Communication Studies, the University of Tokyo / 東京大学社会情報研究所. -- No. 1 (1992)-no. 21 (2004). -- 東京大学社会情報研究所, 1992.	和
246	Fiber organon. -- Vol. 60, no. 4 (Apr. 1989)-. -- Fiber Economics Bureau, 1989.	洋
247	龍谷大学経営学論集 / 龍谷大学経営学会. -- 32巻1号 (1992.6)-. -- 龍谷大学経営学会, 1992.	和
248	Review of financial economics : RFE. -- Vol. 1, no. 1 (fall 1991)-. -- Division of Business and Economic Research, College of Business Administration, University of New Orleans, 1991.	洋
249	日経流通新聞 = Nikkei marketing journal = MJ. -- 日本経済新聞社.	和
250	週刊ダイヤモンド. 別冊. -- ダイヤモンド社, 1---.	和
251	別冊化學工業. -- Vol. 1, no. 1 (Aug. 1957)-. -- 化学工業社, 1957.	和
252	数学セミナー. -- 30巻5号 (1991.4)- = 通巻354号 (1991.4)-. -- 日本評論社, 1991.	和
253	Journal of occupational and organizational psychology. -- Vol.65, pt.1 (Mar. 1992)-. -- British Psychological Society, 1992.	洋
254	標準化と品質管理. -- Vol. 17, no. 4 (1964.4)-73巻11号 (2020.11). -- 日本規格協会, 1964.	和
255	有価証券報告書総覧 / 2部.地方.外国.店頭銘柄.	和
256	Business insight : the journal for deeper insights into business = 季刊ビジネス・インサイト / 現代経営学研究学会 [編]. -- 1巻1号 (spring 1993)- = No. 01 (spring 1993)-. -- 現代経営学研究学会, 1993.	和
257	経営論集 / 文京女子大学経営学部 [編]. -- 1巻1号 (平3.12)-. -- 文京女子大学, 1991.	和
258	流通情報 / 流通経済研究所 [編]. -- -no. 477 (2009.3) ; V. 41, no. 1 (2009)- = No. 478 (2009)-. -- 流通経済研究所, 196-.	和
259	月刊税経通信. [第2別冊]付録, 税務法令通達月報 / 税務経理協会 [編]. -- [Vol. 15, no.] 8 (1960.8)-v. 73, no. 14 (2018.12) = [通巻190号] (1960.8)-1047号 (2018.12). -- 税務経理協会, 1960.	和
260	國學院商学 / 國學院大學栃木短期大學商学会 [編]. -- 創刊[1]号 (平3.3)-23号 (平26.3). -- 國學院大學栃木短期大學商学会, 1991.	和
261	有価証券報告書提出会社名簿 / 大蔵省証券局企業財務課 [編]. -- -昭和63年版 (昭63) ; 平成元年版 (平1)-. -- 大蔵省印刷局, 19--.	和
262	福井県立大学論集. -- 創刊[1]号 (1992.12)-. -- 福井県立大学, 1992.	和
263	Contemporary accounting research : the journal of the Canadian Academic Accounting Association = Recherche comptable contemporaine : la revue de l'Association canadienne des professeurs de comptabilité. -- Vol. 1, no. 1 (fall 1984)-. -- Canadian Academic Accounting Association, 1984.	洋

No	タイトル等	和洋区分
264	Zeitschrift für Betriebswirtschaft. Ergänzungsheft. -- -5/99 (1999) ; 1/2000 (2000)-4/2004 (2004). -- Betriebswirtschaftlicher Verlag Dr. Th. Gabler, 19--.	洋
265	International review of economics & finance. -- JAI Press, 199-.	洋
266	The European journal of the history of economic thought. -- Vol. 1, no. 1 (autumn 1993)-. -- Routledge Journals, 1993.	洋
267	龍谷大学経営学論集. 学生論集 / 龍谷大学経営学会 [編]. -- 32号 (1993.3)-. -- 龍谷大学経営学会, 1993.	和
268	Research in maritime history. -- No. 1 (1991)-. -- International Maritime Economic History Association, 1991.	洋
269	Research in maritime history. -- No. 1 (1991)-. -- International Maritime Economic History Association, 1991.	洋
270	白鷗ビジネスレビュー = Hakuoh business review / 白鷗大学ビジネス開発研究所[編]. -- 1巻1号 (1992.3)-. -- 白鷗大学ビジネス開発研究所, 1992.	和
271	経営情報研究 : 摂南大学経営情報学部論集 / 摂南大学経営情報学部紀要「経営情報研究」編集委員会 [編集]. -- 1巻1号 (1994.2)-. -- 摂南大学経営情報学部紀要「経営情報研究」編集委員会, 1994.	和
272	California management review / Graduate School of Business Administration, University of California. -- Vol. 5, no. 1 (fall 1962)-. -- Graduate School of Business Administration, University of California, 1962.	洋
273	Économie et politique. Nouvelle série : revue marxiste d'économie. -- No 1 (mai 1977)-no 271・272 (déc. 1999) = No 274 (mai 1977)-no 544・545 (déc. 1999) ; no 546 (janv. 2000)-. -- Revue économie et politique, 1977.	洋
274	SEC docket / Securities and Exchange Commission. -- Vol. 1, no. 1 (Feb. 1973)-. -- Securities and Exchange Commission, 197-.	洋
275	Strategic management journal. -- Vol. 1, no. 1 (Jan./Mar. 1980)-. -- Wiley, 1980.	洋
276	European journal of political economy = Europäische Zeitschrift für politische Ökonomie. -- Vol. 1, no. 1 (1985)-. -- VVF, 1985.	洋
277	The European accounting review. -- Vol. 1, no. 1 (May 1992)-. -- Routledge, 1992.	洋
278	MIS quarterly : management information systems. -- Vol. 1, no. 1 (Mar. 1977)-. -- Society for Management Information Systems, 1977.	洋
279	賃金・労務通信 / 労働法令協会 [編]. -- Vol. 48, no. 9 (1995.4.5)-v. 64, no. 8 (2011.3.25) = 通巻1494号 (1995.4.5)-通巻2052号 (2011.3.25). -- 労働法令協会, 1995.	和
280	二松学舎大学國際政経論集 / 二松学舎大学国際政治経済学部. -- 1号 (1993.7)-. -- 二松学舎大学国際政治経済学部, 1993.	和
281	国公労調査時報 / 日本国家公務員労働組合共斗会議. -- 1号 (昭37.12)-632号 (2015.8). -- 日本国家公務員労働組合共斗会議, 1962.	和
282	追手門経済・経営研究 / 追手門学院大学. -- 1号 (平6.3)-. -- 追手門学院大学, 1994.	和
283	経済情報学研究 / 姫路獨協大学経済情報学会 = Econoinformatics / the Association of Econoinformatics, Himeji Dokkyo University. -- No. 1 (平5.12)-. -- 姫路獨協大学経済情報学会, 1993.	和
284	滋賀大学経済学部研究年報. -- Vol. 1 (1994)-. -- 滋賀大学経済学部, 1995.	和
285	群馬大学社会情報学部研究論集 / 群馬大学社会情報学部 [編]. -- 創刊号 (1995)-. -- 群馬大学社会情報学部, 1995.	和
286	Jahrbuch für Wirtschaftswissenschaften = Review of economics. -- Bd. 46, Heft 1 (1995)-. -- Vandenhoeck & Ruprecht, 1995.	洋

No	タイトル等	和洋区分
287	クレジット研究 : クレジット研究所レポート = Consumer credit research. -- No. 1 (1989.3)-no. 41 (2009.3). -- 日本クレジット産業協会クレジット研究所, 1989.	和
288	税務会計研究 / 税務会計研究学会. -- 創刊 [1] 号 (平2.9)-. -- 税務会計研究学会, 1990.	和
289	九州国際大学経営経済論集 / 九州国際大学経済学会 [編]. -- 1巻1号 (1994.12)-23巻1・2合併号 (2017.3). -- 九州国際大学経済学会, 1994.	和
290	経営管理研究所紀要 / 愛知学院大学経営管理研究所 [編集]. -- 1号 (1995.2)-. -- 愛知学院大学経営管理研究所, 1995.	和
291	情報研究 : 関西大学総合情報学部紀要. -- 1号 (1995.3)-. -- 関西大学, 1995.	和
292	経営経理 / 国士舘大学経営研究所 [編]. -- 8号 (昭63.3)-41号 (平23.3). -- 国士館大学経営研究所, 1988.	和
293	経済経営論集 / 名古屋経済大学・市邨学園短期大学経済・経営研究会 [編集]. -- 1巻1号 (1993.12)-21巻1・2合併号 (2014.3). -- 名古屋経済大学・市邨学園短期大学経済・経営研究会, 1993.	和
294	流通研究 : 愛知学院大学流通科学研究所所報 / 愛知学院大学流通科学研究所 [編]. -- 1号 (1995.3)-. -- 愛知学院大学流通科学研究所, 1995.	和
295	環境と経営 : 静岡産業大学論集 / 静岡産業大学経営学会 [編]. -- 1巻1号 (1995.3)-. -- 静岡産業大学経営学会, 1995.	和
296	Information & management : the international journal of management processes and systems. -- Vol. 1, no. 1 (Nov. 1977)-. -- North-Holland Publishing, 1977.	洋
297	週刊経営財務. -- 1267号 (1976.3)-. -- 税務研究会, 1976.	和
298	Accountancy. -- Vol. 50, no. 542 (Oct. 1938)-v. 161, no. 1505 (Dec. 2018). -- Society of Incorporated Accountants and Auditors, 1938.	洋
299	Computerworld : the newsweekly for the computer community. -- CW Communications, 196-.	洋
300	The Cato journal. -- Vol. 1, no. 1 (spring 1981)-. -- Cato Institute, 1981.	洋
301	The Japanese economic review : the journal of the Japan Association of Economics and Econometrics. -- Vol. 46, no. 1 (Mar. 1995)-. -- Blackwell, 1995.	洋
302	商学論叢 / 日本大学大学院商学研究会. -- 1号 (昭51)-32号 (2008.3) ; 1巻1号 (2008.9)- = 通巻33号 (2008.9)-, 1976.	和
303	大阪学院大学流通・経営科学論集 / 大阪学院大学流通・経営科学学会. -- 20巻1号 (1994.6)-33巻3号 (2008.3). -- 大阪学院大学流通・経営科学学会, 1994.	和
304	四国大学経営情報研究所年報 / 四国大学経営情報研究所 [編]. -- 1号 (平7.12)-. -- 四国大学経営情報研究所, 1995.	和
305	追手門経営論集 / 追手門学院大学経営学会 [編集]. -- 1巻1号 (1995.12)-. -- 追手門学院大学経営学会, 1995.	和
306	The British accounting review : the journal of the British Accounting Association. -- Vol. 16, no. 1 (1984)-. -- British Accounting Association, 1984.	洋
307	Wirtschaftswoche. -- 27. Jahrg., Nr. 10 (1973)-50. Jahrg., Nr. 9 (1996) ; 96, 10 (Feb. 29, 96)-. -- ZEIT-Verlag Gmbh, 1973.	洋
308	International journal of operations & production management. -- Vol. 1, no. 1 (1980)-. -- MCB Publications, 1980.	洋
309	Journal of business ethics : JBE. -- Vol. 1, no. 1 (Feb. 1982)-. -- D. Reidel Pub. Co., 1982.	洋
310	Financial executive : FE. -- Vol. 3, no. 1 (Jan. 1987)-. -- Financial Executives Institute, 1987.	洋
311	The journal of corporate accounting & finance. -- Vol. 1, no. 1 (autumn 1989)-. -- Executive Enterprises, 1989.	洋
312	Accounting today. -- Faulkner & Gray Inc., 1987.	洋

No	タイトル等	和洋区分
313	CA magazine. -- Vol. 98, no. 1053 (Apr. 1994)-v. 123, issue 1354 (Dec. 2019/Jan. 2020) ; Feb. 2020 (Feb. 2020)-. -- Institute of Chartered Accountants of Scotland, 1994.	洋
314	Business week. -- Asian ed. -- -no. 1275 (Jan. 9 & 16, 2006) = -no. 3946 (Jan. 9 & 16, 2006). -- McGraw-Hill, 19--.	洋
315	Mathematical methods of operations research. -- Vol. 43, issue 1 (1996)-. -- Physica-Verlag, 1996.	洋
316	日本経営学会誌 = Journal of business management / 日本経営学会編集. -- No. 1 (Apr. 1997)-. -- 千倉書房, 1997.	和
317	化学と教育 = Chemical education / 日本化学会 [編]. -- Vol. 35, no. 1 (1987.2)-. -- 日本化学会, 1987.	和
318	Journal of world business : JWB. -- Vol. 32, no. 1 (spring 1997)-. -- JAI Press, 1997.	洋
319	投資信託 / 証券投資信託協会 [編] = Report on investment trusts / the Investment Trusts Association. -- 441号 (平9.7)-. -- 証券投資信託協会, 1997.	和
320	Systems research and behavioral science. -- Vol. 14, no. 1 (Jan./Feb. 1997)-. -- John Wiley, 1997.	洋
321	Journal of international financial management & accounting. -- Vol. 1, no. 1 (spring 1989)-. -- Basil Blackwell, 1989.	洋
322	International accounting bulletin. -- Issue no. 1 (July 1983)-. -- M. Lafferty, 1983.	洋
323	BNA's banking report. -- Vol. 48, no. 1 (Jan. 5, 1987)-. -- Bureau of National Affairs, 1987.	洋
324	International journal of auditing : IJA. -- Vol. 1, no. 1 (Feb. 1997)-. -- John Wiley, 1997.	洋
325	月刊監査研究 / 日本内部監査協会. -- 1巻1号 (1975.4)-. -- 日本内部監査協会, 1975.	和
326	社会と倫理 / 南山大学社会倫理研究所 [編集]. -- 5号 (1998)-. -- 南山大学社会倫理研究所, 1998.	和
327	The Review of financial studies. -- Vol. 1, no. 1 (spring 1988)-. -- Published by Oxford University Press for the Society for Financial Studies, 1988.	洋
328	月刊監査役 / 日本監査役協会. -- 1号 (昭44.5)-. -- 日本監査役協会, 1969.	和
329	Review of quantitative finance and accounting. -- Vol. 1, no. 1 (Jan. 1991)-. -- Kluwer Academic Publishers, 1991.	洋
330	Stanford journal of law, business & finance. -- Vol. 1, no. 1 (fall 1994)-. -- Stanford Law School, 1994.	洋
331	Accounting horizons. -- Vol. 1, no. 1 (Mar. 1987)-. -- American Accounting Association, 1987.	洋
332	Production and operations management : an international journal of the Production and Operations Management Society / POMS. -- Production and Operations Management Society, 199-.	洋
333	The Academy of Management review / Academy of Management. -- Vol. 1, no. 1 (Jan. 1976)-. -- Academy of Management, 1976.	洋
334	Strategic finance : leadership strategies in accounting, finance and information management. -- Vol. 80, no. 9 (Mar. 1999)-. -- Institute of Management Accountants, 1999.	洋
335	緑の読本 / 公害対策技術同友会 [編]. -- [シリーズ 1] ([1985])-. -- 公害対策技術同友会, 1985.	和
336	福井県立大学経済経営研究 / 「福井県立大学経済経営研究」編集委員会 [編集]. -- No. 1 (1996.3)-. -- 福井県立大学経済学部, 1996.	和
337	ジェトロセンサー : 国際ビジネス情報 = Jetro sensor. -- 34巻396号 (1984.10)-67巻803号 (2017.10). -- 日本貿易振興会, 1984.	和
338	岡山商大社会総合研究所報 / 岡山商科大学社会総合研究所 [編]. -- 20号 (1999.10)-. -- 岡山商科大学社会総合研究所, 1999.	和

No	タイトル等	和洋区分
339	CMA management : for strategic business ideas. -- Vol. 73, no. 1 (Feb. 1999)-Vol. 84, no. 7 (Nov. 2010). -- CMA Canada, 1999.	洋
340	桃山学院大学総合研究所紀要 / 桃山学院大学総合研究所 [編]. -- Vol. 23, no. 1 (1997.9)-. -- 桃山学院大学総合研究所, 1997.	和
341	公益法人 / 公益法人協会 [編集]. -- 1巻1号 (昭47.11)-. -- 公益法人協会, 1972.	和
342	大阪産業大学経営論集 / 大阪産業大学学会 [編]. -- 1巻1号 (1999.10)-. -- 大阪産業大学学会, 1999.	和
343	銀行実務. -- 30巻4号 (Apr. 2000)-37巻10号 (Oct. 2007) = 492号 (Apr. 2000)-581号 (Oct. 2007). -- BSIエデュケーション, 2000.	和
344	龍谷ビジネスレビュー : 龍谷大学大学院経営学研究科紀要. -- 1号 (2000.3)-. -- 龍谷大学大学院経営学研究科編集委員会, 2000.	和
345	Enterprise & society : the international journal of business history. -- Published by Oxford University Press for the Business History Conference, 200-.	洋
346	同志社政策科学研究 = Doshisha University policy & management / 同志社大学大学院総合政策科学会 [編]. -- 1巻[1号] (1999.10)-. -- 同志社大学大学院総合政策科学研究科総合政策科学会, 1999.	和
347	MIT Sloan management review. -- Vol. 42, no. 2 (winter 2001)-. -- MIT Sloan School of Management, 2001.	洋
348	Journal of the American Society for Information Science and Technology : JASIST. -- Vol. 52, no. 1 (Jan. 2001)-v. 64, no. 12 (Dec. 2013). -- John Wiley, 2001.	洋
349	Corporate taxation. -- Vol. 28, no. 2 (Mar./Apr. 2001)-. -- Warren, Gorham & Lamont, 2001.	洋
350	Mergent industrial manual. -- 2001 (2001)-. -- Mergent, 2001.	洋
351	Corporate news reports monthly. -- Mergent, 199-.	洋
352	クオリティマネジメント = Quality management / 日本科学技術連盟 [編]. -- 53巻1号 (2002.1)-62巻12号 (2011.12) = 通巻686号 (2002.1)-通巻805号 (2011.12). -- 日本科学技術連盟, 2002.	和
353	Twin plant news : TP. -- Vol. 1, no. 1 (Aug. 1985)-. -- Nibbe, Hernandez and Associates, 1985.	洋
354	Quality progress : the monthly magazine of the American Society for Quality Control / the American Society for Qualiry Control. -- Vol. 1, no. 1 (1968)-. -- American Society for Quality Control, Inc., 1968.	洋
355	研究年報 / 名古屋学院大学総合研究所 [編]. -- 13 (2000)-. -- 名古屋学院大学総合研究所, 2000.	和
356	Harvard business review : Diamondハーバード・ビジネス・レビュー. -- [日本版]. -- 25巻6号 (2000.11)- = 通巻146号 (2000.11)-. -- Harvard business review, 2000.	和
357	経済trend : 月刊・経済トレンド / 日本経済団体連合会 [編]. -- 50巻6号 (July 2002)-60巻3号 (2012.3). -- 日本経済団体連合会, 2002.	和
358	Journal of African American history. -- Vol. 87 (winter 2002)-. -- Association for the Study of African American Life and History, 2002.	洋
359	京都マネジメント・レビュー / 京都産業大学マネジメント研究会 [編]. -- 1号 (2002.6)-. -- 京都産業大学, 2002.	和
360	Keio SFC journal. -- Vol. 1, no. 1 (2002)-. -- 慶應義塾大学湘南藤沢学会, 2002.	和
361	Which?. -- Consumers' Association, 195-.	洋
362	Asian business & management. -- Vol. 1, no. 1 (Apr. 2002)-. -- Palgrave, 2002.	洋
363	北九州市立大学商経論集 / 北九州市立大学経済学会 [編集]. -- 37巻1号 (2001.9)-. -- 北九州市立大学経済学会, 2001.	和
364	九州国際大学国際商学論集 / 九州国際大学国際商学会 [編]. -- 12巻1号 (2000.11)-16巻1・2合併号 (2005.1) = 通巻15号 (2000.11)-通巻27号 (2005.1). -- 九州国際大学国際商学会, 2000.	和

No	タイトル等	和洋区分
365	名城論叢 / 名城大学経済・経営学会 [編]. -- 1巻1号 (2000.9)-. -- 名城大学経済・経営学会, 2000.	和
366	京都産業學研究 : 京都産業学センター年報 / 京都産業学センター ; 龍谷大学大学院経営学研究科 [編]. -- 創刊[1]号 (2003.3)-. -- 京都産業学センター, 2003.	和
367	Gesundheits- und Sozialpolitik. -- 57. Jahrg., Heft 1/2 (Jan./Feb. 2003)-. -- Nomos Verlagsgesellschaft, 2003.	洋
368	企業研究 / 中央大学企業研究所 [編集]. -- 1号 (2002)- = 通巻23号 (2002)-. -- 中央大学出版部, 2002.	和
369	広島大学マネジメント研究 / 広島大学マネジメント学会 [編]. -- 創刊号 (2001.3)-. -- 広島大学マネジメント学会, 2001.	和
370	にじ : 協同組合経営研究誌 / 協同組合経営研究所 [編]. -- No. 596 (2003. 5)-. -- 協同組合経営研究所, 2003.	和
371	Total quality management & business excellence. -- Vol. 14, no. 1 (Jan. 2003)-. -- Routledge, 2003.	洋
372	社会システム研究 / 立命館大学社会システム研究所 [編]. -- 1号 (1999.3)-. -- 立命館大学社会システム研究所, 1999.	和
373	北海学園大学経営論集 / 北海学園大学経営学会 [編]. -- 1巻1号 (2003.6)- = 通巻1号 (2003.6)-. -- 北海学園大学経営学会, 2003.	和
374	Dealerscope. -- Vol. 42, no. 3 (Mar. 2000)-. -- North American Pub. Co., 2000.	洋
375	The TQM magazine. -- -v. 19, no. 6 (2007). -- MCB University Press, 198-.	洋
376	Industrial engineer : IE. -- Vol. 35, no. 1 (Jan. 2003)-. -- Institute of Industrial Engineers, 2003.	洋
377	Journal of relationship marketing. -- Vol. 1, no. 1 (2002)-. -- Best Business Books, 2002.	洋
378	Review of accounting studies. -- Vol. 1, no. 1 (Mar. 1996)-. -- Kluwer Academic, 1996.	洋
379	Scandinavian journal of management. -- Vol. 4, no. 1/2 (1988)-. -- Pergamon Press, 1988.	洋
380	Statistical supplement to the Federal Reserve bulletin. -- Vol. 1, no. 1 (Jan. 2004)-. -- Board of Governors of the Federal Reserve System, 2004.	洋
381	中央大学企業研究所研究活動年報 / 中央大学企業研究所 [編集]. -- 2001年度 (2001)-. -- 中央大学出版部, 2002.	和
382	Neuerscheinungsdienst : ND / Die Deutsche Bibliothek. -- Jahrg. 2004, Heft 01 (2. Jan. 2004)-. -- MVB Marketing- und Verlagsservice des Buchhandels, 2004.	洋
383	浜松大学研究論集 / 浜松大学経営情報学部・国際経済学部 [編]. -- 17巻1号 (2004.6)-25巻1号 (2012.12) = 通巻31号 (2004.6)-通巻46号 (2012.12). -- 浜松大学, 2004.	和
384	Journal of retailing and consumer services. -- Vol. 1, no. 1 (July 1994)-. -- Butterworth-Heinemann, 1994.	洋
385	Rethinking Marxism. -- Association for Economic and Social Analysis, 19--.	洋
386	中京企業研究 / 中京大学企業研究所 [編]. -- No. 25 (2003.12)-. -- 中京大学企業研究所, 2003.	和
387	Accounting in Europe. -- Vol. 1 (Sept. 2004)-. -- Routledge, 2004.	洋
388	Modern plastics worldwide. -- Vol. 82, no. 1 (Jan. 2005)-. -- Canon Communications LLC, 2005.	洋
389	東京大学大学院情報学環情報学研究. 調査研究編 = Research survey reports in information studies. Interfaculty initiative in information studies, the University of Tokyo / 東京大学大学院情報学環 [編]. -- No. 22 (2005)-. -- 東京大学大学院情報学環, 2005.	和
390	Deutsche Nationalbibliografie. Reihe A, Monografien und Periodika des Verlagsbuchhandels, Wöchentliches Verzeichnis / Die Deutsche Bibliothek. -- Jahrg. 2004, A01 (2. Jan. 2004)-. -- MVB Marketing- und Verlagsservice des Buchhandels, 2004.	洋

No	タイトル等	和洋区分
391	Deutsche Nationalbibliografie. Reihe B, Monografien und Periodika außerhalb des Verlagsbuchhandels, Wöchentliches Verzeichnis / Die Deutsche Bibliothek. -- Jahrg. 2004, B01 (2. Jan. 2004)-. -- MVB Marketing- und Verlagsservice des Buchhandels, 2004.	洋
392	Deutsche Nationalbibliografie. Reihe C, Karten, Vierteljährliches Verzeichnis / die Deutsche Bibliothek. -- Jahrg. 2004, C01 (März 2004)-. -- MVB Marketing- und Verlagsservice des Buchhandels, 2004.	洋
393	京都産業学センター ・ 企業研究. シリーズA. -- 2003 (2004.3)-2012 (2013.3). -- 龍谷大学大学院経営学研究科付置機関・京都産業学センター, 2003.	和
394	九州国際大学国際関係学論集 / 九州国際大学国際関係学会 [編]. -- 1巻1・2合併号 (2006.1)-11巻1・2合併号 (2016.3). -- 九州国際大学国際関係学会, 2006.	和
395	専修ビジネス・レビュー / 専修大学商学研究所 [編] = Senshu business review / the Research Institute of Commerce of Senshu University. -- Vol. 1, no. 1 (2006)-. -- 専修大学商学研究所, 2006.	和
396	会計プロフェッション = Accounting profession / 青山学院大学大学院会計プロフェッション研究学会 [編]. -- 1 (2005)-. -- 青山学院大学大学院会計プロフェッション研究学会, 2006.	和
397	ビジネス&アカウンティングレビュー = Business & accounting review / 関西学院大学[編]. -- 1巻1号 (2006.3)-. -- 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科, 2006.	和
398	会計論叢 / 明治大学大学院会計専門職研究科 [編]. -- 1号 (2006.3)-. -- 明治大学大学院会計専門職研究科, 2006.	和
399	The international journal of human resource management. -- Vol. 1, no. 1 (June 1990)-. -- Routledge Journals, 1990.	洋
400	会計・監査ジャーナル : 日本公認会計士協会機関誌 : 公認会計士と企業・法人を結ぶ情報誌. -- 19巻1号 (2007.1)- = 通巻618号 (2007.1)-. -- 第一法規, 2007.	和
401	Hitotsubashi review of commerce and management = 一橋商学論叢 / 一橋商学会 [編]. -- Vol. 1, no. 1 (May 2006)-. -- 白桃書房, 2006.	和
402	東北学院大学経営・会計研究 / 東北学院大学経理研究所 [編]. -- 14号 (2007.3)-. -- 東北学院大学経理研究所, 2007.	和
403	Spatial economic analysis : the journal of the Regional Studies Association, Regional Science Association International British and Irish Section. -- Routledge, 200-.	洋
404	セミナー年報 / 関西大学経済・政治研究所 [編]. -- 2006 (2006)-. -- 関西大学経済・政治研究所, 2007.	和
405	現代社会と会計 / 関西大学大学院会計研究科 [編集]. -- No. 1 (2007.3)-. -- 関西大学大学院会計研究科, 2007.	和
406	Journal of accountancy, economics and law. -- No. 1 (Mar. 2007)-. -- School of Accountancy Graduate School of Kansai University, 2007.	洋
407	ファイナンシャルコンプライアンス : ガバナンス・リスク・コンプライアンスの総合誌. -- 37巻11号 ([平19].11)-41巻4号 ([平23].4) = 通巻582号 [平19].11)-623号 ([平23].4). -- 銀行研修社, 2007.	和
408	Journal of world history : official journal of the World History Association. -- Vol. 1, no. 1 (spring 1990)-. -- University of Hawaii Press, 1990.	洋
409	日経ヴェリタス = The Nikkei veritas. -- 日本経済新聞社, 2008.	和
410	The TQM journal : the international review of organizational improvement. -- Vol. 20, no. 1 (2008)-. -- Emerald Group Publishing Limited, 2008.	洋

No	タイトル等	和洋区分
411	情報処理学会論文誌 : 論文誌ジャーナル / 情報処理学会 = IPSJ journal / Information Processing Society of Japan. -- [CD-ROM版]. -- Vol. 49, no. 4 (Apr. 2008)-v. 54, no. 3 (Mar. 2013). -- 情報処理学会, 2008. w.	和
412	びわこ経済論集 / 滋賀大学大学院経済経営研究会 [編]. -- 2巻1号 (2003.10)- = 通巻2号 (2003.10)-. -- 滋賀大学大学院経済経営研究会, 2003.	和
413	情報処理学会論文誌トランザクション / 情報処理学会 [編]. -- CD-ROM版. -- 平成20年度1 (平20)-. -- 情報処理学会, 2008. w.	和
414	大阪学院大学流通・経営学論集 = Review of distribution, communication and business administration / 大阪学院大学流通・経営学会 [編]. -- 34巻1号 (2008.7)-39巻2号 (2014.3). -- 大阪学院大学流通・経営学会, 2008.	和
415	Zeitschrift für Betriebswirtschaft. Special issue. -- 1/2005 (2005)-4/2013 (2013). -- Betriebswirtschaftlicher Verlag Dr. Th. Gabler, 2005.	洋
416	立教ビジネスレビュー = Rikkyo business review / 立教大学経営学部 [編]. -- Vol. 1 (2008.6)-8号 (2015.7). -- 立教経営学会, 2008.	和
417	イノベーション・マネジメント = Journal of innovation management. -- No. 1 (spring 2004)-. -- 法政大学イノベーションマネジメント研究センター, 2004.	和
418	日本経営倫理学会誌 = Journal of Japan Society for Business Ethics Study / 日本経営倫理学会. -- 1号 (1994.3)-. -- 日本経営倫理学会, 1994.	和
419	大証金融商品取引法研究会 / 大阪証券取引所 [編]. -- 1号 (2010.3)-12号 (2013.12). -- 大阪証券取引所, 2010.	和
420	マネジメント・ジャーナル = Management journal / 神奈川大学国際経営研究所 [編]. -- Vol. 1 (2009.3)-v. 5 (2013.3). -- 神奈川大学国際経営研究所, 2009.	和
421	現代ディスクロージャー研究 / ディスクロージャー研究学会 [編] = / JARDIS. -- No. 1 (2000.6)-. -- ディスクロージャー研究学会, 2000.	和
422	Schmalenbach business review : SBR. -- Vol. 52, no. 1 (2000.1)-v. 67, no. 4 (Oct. 2015) ; V. 17, no. 1 (Apr. 2016)-v. 18, no. 4 (Oct. 2017) ; V. 70, no. 1 (Feb. 2018)-. -- Verlagsgruppe Handelsblatt, 2000.	洋
423	銀行実務. -- 41巻5号 (2011.5)- = 通巻624号 (2011.5)-. -- 銀行研修社, 2011.	和
424	桜美林論考. ビジネスマネジメントレビュー / 桜美林大学経済・経営学系 [編]. -- 創刊[1]号 (2010.3)-. -- 桜美林大学, 2010.	和
425	流通科学大学論集. 経済・情報・政策編 / 流通科学大学学術研究会 [編]. -- 20巻1号 (2011.7)-26巻2号 (2018.1). -- 流通科学大学学術研究会, 2011.	和
426	CCR : consumer credit review. -- 1号 (2011.3)-. -- 日本クレジット協会クレジット研究所, 2011.	和
427	GIS next : ジー・アイ・エス・ネクスト : 地理情報から空間IT社会を切り拓く. -- 創刊[1]号 (2002.10)-. -- クリエイト・クルーズ, 2002.	和
428	月刊経団連 / 日本経済団体連合会 [編]. -- 60巻4号 (2012.4)-. -- 日本経済団体連合会, 2012.	和
429	専修マネジメント・ジャーナル / 専修大学経営研究所 [編] = Senshu management journal / the Institute of Business Administration, Senshu University. -- Vol. 1, no. 1&2 (2011)-. -- 専修大学経営研究所, 2012.	和
430	プロフェッショナル会計学研究年報 / 青山学院大学大学院「プロフェッショナル会計学研究年報」編集委員会 [編]. -- 1号 (2007)-. -- [青山学院大学大学院]「プロフェッショナル会計学研究年報」編集委員会, 2008.	和
431	都市経営 : 福山市立大学都市経営学部紀要. -- 1号 (2012)-. -- 福山市立大学都市経営学部, 2012.	和
432	European journal of training and development. -- Vol. 36, no. 1 (2012)-, 2012.	洋

No	タイトル等	和洋区分
433	日中環境産業 = Japan-China environmental industry. -- 48巻7号 (2012.7)-49巻4号 (2013.3) = 通巻662号 (2012.7)-通巻671号 (2013.3). -- 環境コミュニケーションズ, 2012.	和
434	Territory, politics, governance / Regional Studies Association. -- Vol. 1, no. 1 (May 2013)-. -- Taylor & Francis, 2013.	洋
435	CMA magazine. -- Vol. 85, no. 1 ([2011])-v. 87, no. 6 (Nov./Dec. 2013). -- Certified Management Accountants of Canada (CMA Canada), 2011.	洋
436	Management & organizational history : M&OH. -- SAGE, 200-.	洋
437	環境パートナーズ = Environment partners. -- 49巻5号 (2013.4)-49巻8号 (2013.7) = 通巻672号 (2013.4)-通巻675号 (2013.7). -- 環境コミュニケーションズ, 2013.	和
438	国士舘大学経営研究所紀要 / 国士舘大学経営研究所 [編]. -- 42号 (平24.3)-. -- 国士舘大学経営研究所, 2012.	和
439	消費経済研究 / 日本消費経済学会 [編]. -- 1号 (2012)- = 通巻33号 (2012)-. -- 日本消費経済学会事務局, 2012.	和
440	大阪学院大学商・経営学論集 = Review of commerce and business administration / 大阪学院大学商・経営学会 [編]. -- 40巻1号 (2014.9)-40巻2号 (2015.3). -- 大阪学院大学商・経営学会, 2014.	和
441	科学史研究. [第III期] = Journal of history of science, Japan. [Series III] / 日本科学史学会編集. -- 53巻, no. 269 (2014.4)-. -- 日本科学史学会, 2014.	和
442	日本取引所金融商品取引法研究. -- 1号 (2015.10)-. -- 日本取引所グループ, 2015.	和
443	Kokko : こっこう. -- 創刊号 (2015.9)-. -- 堀之内出版, 2015.	和
444	西南学院大学大学院研究論集. -- 1号 (2015.8)-. -- 西南学院大学大学院, 2015.	和
445	金沢学院大学紀要 / 金沢学院大学 [編] = / Kanazawa Gakuin University. -- 15号 (平29.3)-. -- 金沢学院大学, 2017.	和
446	京都産業学センター・事例研究シリーズ / 龍谷大学・京都産業学センター・事例研究シリーズ編集委員会 [編]. -- 2013年度 (2014.3)- = 11号 (2014.3)-. -- 龍谷大学・京都産業学センター.	和
447	九州国際大学国際・経済論集 / 九州国際大学現代ビジネス学会 [編]. -- 創刊[1]号 (2018.3)-. -- 九州国際大学現代ビジネス学会, 2018.	和
448	産業経済探究 = The inquiry into industry and economics / 中部大学産業経済研究所 [編集]. -- 1号 (2018.5)-. -- 中部大学産業経済研究所, 2018.	和

龍谷大学経営学部商学科

学生の確保の見通し等を記載した書類

令和 6（2024）年 4 月

－ 目 次 －

（１） 新設組織の概要 3

①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）
②新設組織の特色

（２）人材需要の社会的な動向等..... 4

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析
②中長期的な１８歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析
③新設組織の主な学生募集地域
④既設組織の定員充足の状況

（３）学生確保の見通し 7

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果
　ア　既設組織における取組とその目標
　イ　新設組織における取組とその目標
　ウ　当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数
②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）
　ア　競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性
　イ　競合校の入学志願動向等
　ウ　新設組織において定員を充足できる根拠等
　エ　学生納付金等の金額設定の理由
③先行事例分析
④学生確保に関する見通し
⑤人材需要に関する見通し

（４）新設組織の定員設定の理由..... 15

（１）新設組織の概要

①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

本学は、既設の経営学部経営学科における教育研究の成果と人材養成の実績を基盤として、令和７（2025）年４月に経営学部「商学科」を設置する。これは、経営学部を現行の１学科から２学科へ改組することで、教学内容をさらに充実・発展させる計画である。

新設組織	入学定員	３年次 編入学定員	収容定員	所在地 （教育研究を行うキャンパス）
龍谷大学　経営学部 商学科	160 名	２名	644 名	京都府京都市伏見区 深草塚本町 67

②新設組織の特色

新設組織は、経営学部経営学科が包摂してきた商学の要素を基礎として展開するもので「建学の精神に基づいて、事業創造とマーケティングの知識と幅広い教養を身につけ、実践的な学びを通じて社会の諸課題を実証的に把握し、市場や地域社会において継続的に新たな価値を創造し提供することのできる人間を育成すること」を教育理念・目的としている。この教育理念・目的の達成に資する卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）のもと、「事業創造コース」と「マーケティングコース」の２コースからなる履修モデルを設定している。

「事業創造コース」では、事業の創造と運営についての実践や知識を学び、社会の諸課題を実証的に把握するとともに、ビジョンを掲げ、周囲の人間を巻き込み、必要な資源を調達し、新たな価値の創造と共有および地域・社会の発展に資する能力を身につける人間を育成する。

一方、「マーケティングコース」では、マーケティングや流通についての実践や知識を学び、社会の諸課題を実証的に把握するとともに、その解決につながる新たな価値の提供を通じて、顧客の創造と維持および地域・社会の発展に資する能力を身につける人間を育成する。

これらの人間育成を実現するために、マーケティングや流通、起業家行動、アカウンティングなどを対象とする学問領域に軸足を置いた教育課程を編成する。

学びの特色としては、学生自身による現場や活動における気づきを醸成し、思考力・判断力・表現力等の能力の向上を重視する科目を「実践型科目」として位置付け、講義科目において知識・技能を修得し、それらを活用して自ら現場に出向き課題を発見し、その解決に向けて探究するとともに、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力の発展・向上を目指す、実践と知識の往還型教育を展開することが挙げられる。

なお、新設組織の設置にあわせて、令和７（2025）年度に既設組織である経営学部経営学

科における定員を以下のとおり変更する計画であり、具体的には経営学科の入学定員を 139 名（収容定員 560 名）減員する。

○変更前

令和 6（2024）年度	入学定員	3 年次 編入学定員	収容定員	所在地 （教育研究を行うキャンパス）
龍谷大学　経営学部 経営学科【既設組織】	**519 名**	**5 名**	**2,086 名**	京都府京都市伏見区 深草塚本町 67

↓

○変更後

令和 7（2025）年度	入学定員	3 年次 編入学定員	収容定員	所在地 （教育研究を行うキャンパス）
龍谷大学　経営学部 経営学科【既設組織】	**380 名**	**3 名**	**1,526 名**	京都府京都市伏見区 深草塚本町 67
龍谷大学　経営学部 商学科　【新設組織】	160 名	2 名	644 名	

（２）人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

日本政府は令和 4（2022）年 11 月、「スタートアップは、社会的課題を成長のエンジンに転換して、持続可能な経済社会を実現する」とした「スタートアップ育成 5 か年計画[1]」を発表した。また、令和 5（2023）年 6 月、政府における「経済財政運営と改革の基本方針 2023[2]」（いわゆる「骨太方針」）において、「スタートアップの推進と新たな産業構造への転換」が引き続き重点分野に置かれ、スタートアップ育成に向けた政府の取り組みが一層進められている。これらの政策における重要な柱の 1 つとして、「スタートアップ創出に向けた人材・ネットワークの構築」が掲げられており、先進諸外国に比してスタートアップ創出に資する人材に乏しいといった課題に対し、高等教育機関である大学が果たすべき役割は大きい。また、大学において社会的起業家（インパクトスタートアップ）に関する教育プログラムの開発やネットワークづくり等を行うなど、社会的起業家を育成する教育拠点づくりや社会的起業家を志す若手人材を輩出する必要性も高まっている。

[1] https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/kaigi/dai13/shiryou1.pdf
[2] https://www.cao.go.jp/press/new_wave/20230626.html

新設組織を設置する深草キャンパスが立地する京都府及び京都市は、伝統産業や 100 年以上の歴史を持つ老舗企業に加え、京セラ、日本電産、村田製作所、オムロン、島津製作所といった世界に名だたるオンリーワン企業を数多く輩出してきたイノベーションの創出拠点である。近年は、行政、経済団体、産業支援機関、大学、金融機関等が一体となり、オール京都で起業家を生み育てる環境を整備するとともに、スタートアップ・エコシステムを推進する「京都スタートアップ・エコシステム推進協議会[3]」が発足し、起業家の育成・支援を推進している。加えて、京都には、京都リサーチパークや京都市成長産業創造センター、KOIN（Kyoto Open Innovation Network）、京都信用金庫 QUESTION などのインキュベーション施設やコワーキングスペース、レンタルスペース、コミュニティキッチンといった新たな価値を創造する共創施設が集積しており、京都を起点に起業家が生み育てられ、それらの人材が近畿圏や全国に輩出されるといった仕組みが整いつつある。このような基盤を持つ京都エリアは、とりわけ、事業創造とマーケティングの知識を有する人材への需要が高いといえる。

新設組織は、既述のとおり、「建学の精神に基づいて、事業創造とマーケティングの知識と幅広い教養を身につけ、実践的な学びを通じて社会の諸課題を実証的に把握し、市場や地域社会において継続的に新たな価値を創造し提供することのできる人間を育成すること」を教育理念・目的として掲げるとともに、「事業創造コース」と「マーケティングコース」の 2 コースからなる履修モデルを設定し、実践と知識の往還型教育などを特徴とする。これはまさに、社会・時代の要請に応えた教学展開であり、国・地域の需要に応えた有為な人材の輩出を可能とする構想である。

②中長期的な１８歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

学校基本調査を基にリクルート進学総研が分析した「18 歳人口予測」によれば、全国の 18 歳人口は、令和 7（2025）年の 109.1 万人から令和 16（2034）年の 100.6 万人へと約 8.5 万人程度減少する見込みとなっている。新設組織が立地する近畿圏は、同じく令和 7（2025）年の 17.9 万人から令和 16（2034）年の 16.3 万人へと、1.6 万人程度減少する見込みである。これは令和 7（2025）年を 100%とした場合、令和 16（2034）年は 90.7%となり、9%程度減少することになる（資料１参照）。

地域的動向について、同調査によると、近畿圏の大学進学率は平成 26（2014）年の 52.8%から令和 5（2023）年の 63.3%へと過去 10 年間で 10.5 ポイント上昇し、全国の大学進学率（全国の大学進学率は 10 年間で 8.8 ポイント上昇）を上回る上昇幅となっている（資料２参照）。同調査における過去 10 年間の地元残留率について、近畿圏は平成 26（2014）年の 44.7%から令和 5（2023）年の 47.9%へと増加傾向にあり、地元志向の高まりが窺える（資料３参照）。

[3] https://kyotostartup.jp

これらの状況を踏まえ、人口減少は緩やかに進むものの、近畿圏は関東圏とともに、18 歳人口の規模が大きいエリアであり、大学進学率や、大学進学者の地元残留率の上昇に鑑みれば、新設組織の定員充足は可能であると考えている。

③新設組織の主な学生募集地域

新設組織の学生募集地域は、主として近畿圏を設定している。令和 5（2023）年度における既設組織の都道府県別志願者数を見ると、最も多いのは大阪府（全志願者数に占める割合は 39.3%）、次いで京都府（14.3%）、滋賀県（12.3%）、兵庫県（8.1%）、奈良県（6.9%）の順となっており、志願者数の上位 5 府県はすべて近畿圏に位置し、この 5 府県で全志願者の約 80.8%を占めていることがわかる（資料 4 参照）。

さらに、令和 5（2023）年度学校基本調査の「出身高校の所在地県別入学者数」から、新設組織が置かれる京都府の大学への入学状況を見ると、高校生が進学する上位 5 府県は、京都府、大阪府、滋賀県、兵庫県、奈良県の順ですべて近畿圏の府県となっている（別紙 1 参照）。本学既設組織の志願状況と、京都府に位置する大学への高校生の入学実績において、上位の府県はほぼ重複していることから、新設組織の学生募集地域の設定は妥当といえる。

また、新設組織が立地する「京都府における定員充足状況」及び新設組織の学問分野が含まれる「社会科学系学部の定員充足状況」について、日本私立学校振興・共催事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」を基に分析すると、安定して定員を充足していることが確認できる（別紙 1 参照）。

④既設組織の定員充足の状況

本学は、10 学部（文学部、経済学部、経営学部、法学部、社会学部、政策学部、国際学部、農学部、先端理工学部、心理学部）及び 10 研究科を擁する総合大学である。

各学部等の過去 5 年間の志願者数（延べ人数）は、資料 5 のとおり、年々増加傾向にある。令和 4（2022）年度入試に 89,203 名であった大学全体の志願者数は、令和 5（2023）年度入試では 90,694 名（前年度比 101.7%）と多くの志願者数を確保した。

また、各学部等の過去 5 年間の入学定員充足率（平均）は、別紙 2 のとおり、先端理工学部環境生態工学課程を除き、いずれの学部も 0.95 倍を上回る値であることから、安定的な入学者数を維持しているといえる。

なお、先端理工学部環境生態工学課程に関する学生確保の具体的な取組として、令和 7（2025）年度に「環境科学課程」へ名称変更するとともに、入学定員を現在の 103 名から 88 名へ 15 名減じる計画をしている。これらの取組により、同課程の定員充足は十分に達成できると考えている。

（３）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア　既設組織における取組とその目標

既設学部で実施している主な PR 活動は、「オープンキャンパスの実施」及び「大学案内誌の配布」が挙げられる。過去 2 年間の実績から、これらの効果を評価すると、オープンキャンパスに参加した受験対象者（約 1,650 名）の入学率は約 9%で平均入学者数は約 150 名、大学案内誌を配布した受験対象者（約 6,300 名）の入学率は約 3.5%で平均入学者数は約 220 名となっている（別紙３参照）。

さらに近年は、「公式アプリを活用した高校生への情報発信」を強化している。本アプリは、オープンキャンパス等のスケジュール管理機能や資料請求機能を備え、学部の学びや受験対策用の動画を視聴できるなど、高校生にとって利便性の高いツールとなっており、学生確保における重要性を増している。過去 2 年間の実績では、本アプリ登録者のうち受験対象者（約 7,800 名）の入学率は約 2.5%であり、平均入学者数は約 190 名となっている（別紙３参照）。

一人の受験生が複数の PR 活動の対象となることがあるため、取組別の入学者数には一定の重複はあるものの、既存組織の入学定員充足状況は、先述（２）の④のとおり、安定しており、これらの PR 活動は学生確保において有効な取組であると評価できる。

イ　新設組織における取組とその目標

新設組織における学生募集のための PR 活動は、先述のとおり、既存組織における有効性の高い取組を中心に実施する方針である。加えて、新設組織を紹介するリーフレット等を送付することで志願者層の拡大を図るとともに、オープンキャンパスへの参加や大学案内誌の請求、公式アプリの登録を促していく。具体的な PR 活動の実施計画・目標等は、次のとおりである。

〇リーフレット・ダイレクトメールの送付について

令和 5（2023）年度に実施したオープンキャンパスでは、新設組織を紹介するリーフレットを 3,000 部作成し、プログラム参加者に対して構想内容についての情報提供を行った。また、同年 12 月には、新設組織設置時（令和 7（2025）年度）に入学生となる高校生を対象にダイレクトメール 8,000 通を送付した。新設組織を紹介するリーフレットやダイレクトメールは、令和 6（2024）年度も同規模の送付を予定しており、多様な学問領域に関心の高い高校生に対して継続的にアプローチする予定である。

〇オープンキャンパスの実施について

令和 6（2024）年度は、計 6 回（3/24,8/3, 8/4, 8/24, 8/25,9/22）のオープンキャンパス

を開催し、新設組織の紹介を行う予定である。年間を通じた経営学部受験対象者の参加は、過去 2 年間の実績（別紙 3）を踏まえ、少なくとも同程度となる約 1,650 名を目標とする。なお、すでに開催した 3/24 のオープンキャンパスでは、全体で約 3,000 名の参加があり、うち約 800 名が経営学部紹介イベントへ参加した。

〇大学案内誌の配布について

令和 6（2024）年度は、大学案内誌に新設組織の構想内容を掲載し、過去 2 年間の実績と同程度となる経営学部受験対象者約 6,300 名への配布を目標とする（別紙 3 参照）。オープンキャンパス等のイベントで配布するとともに、資料請求者への郵送をおこなう。主として近畿、北陸、中国・四国、東海、九州を対象とした高校訪問時（年間約 250 校）にも活用し、高校教員への情報提供に活用する。

〇公式アプリの活用について

公式アプリについては、過去 2 年間の実績と同程度となる文系学部受験対象者約 7,800 名の登録を目標とし、新たな動画や受験対策コンテンツの追加（約 30 本）による機能充実を図り、学生確保に結び付けていく（別紙 3 参照）。オープンキャンパス等で公式アプリの利用案内をおこない、SNS での発信の際にはダウンロードページへのリンクを常設するなど、登録促進するための取組を強化する。

ウ　当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

中長期的に 18 歳人口の減少は進むものの、新設組織においては、志願者層拡大に向けた PR 活動を行うことで学生募集力の強化を見込むことができるため、取組ごとの受験対象者数は過去 2 年間の実績をもとに新設組織と既設組織の入学定員で按分した（別紙 3 を参照）。

令和 6（2024）年度に実施する主たる取組及び見込まれる入学者数は、次のとおりである。

〇オープンキャンパスの実施について

約 1,650 名の参加を目標として、新設組織と既設組織の入学定員（160 名：380 名）で按分すると、新設組織には約 480 名の受験対象者を見込んでいる。入学率約 9%から予想される入学者数は約 43 名（新設組織の入学定員 160 名のうち約 27%）である。

〇大学案内誌の配布について

約 6,300 名への配布を目標として、新設組織と既設組織の入学定員（160 名：380 名）で按分すると、新設組織には約 1,860 名の受験対象者を見込んでいる。入学率約 3.5%から予想される入学者数は約 65 名（新設組織の入学定員 160 名のうち約 41%）である。

〇公式アプリの活用について

約 7,800 名の本学文系学部受験対象者の登録を目標として、新設組織と既設組織の入学定員（160 名：380 名）で按分すると、新設組織には約 2,310 名の受験対象者を見込んでいる。入学率約 2.5%から予想される入学者数は約 57 名（新設組織の入学定員 160 名のうち約 36%）である。

一人の受験生が複数の PR 活動の対象となることがあるため、取組別の入学者の見込み数には一定の重複はあるものの、新設組織の入学定員（160 名）の学生確保の見通しは立つと考える。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア　競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

新設組織の競合校として、京都産業大学経営学部マネジメント学科及び近畿大学経営学部商学科を設定する。設定理由としては、学校種が同じであり、所在地も同じ近畿圏に立地し、学生募集地域も重複する点、学問分野も商学を対象としている点が挙げられる。また、河合塾「2024 年度入試難易予想ランキング表（2024/1/17 更新版）」によると、偏差値帯 45.0～50.0 に位置付けられている。以上のことから類似性が高いと考える。

〇教育内容と方法

現在、我が国では、急激な少子高齢化の進行に伴う本格的な人口減少時代を迎えるなか、地球温暖化をはじめとする環境問題、感染症、人口、食料、エネルギー、災害など地球規模で広がりを見せる社会課題にも直面しており、社会を取り巻く環境は一層不確実さを増している。これらの課題を解決するためには、経済活動の効率化だけでなく、企業が事業を通じて社会的な課題を解決する CSV（共通価値の創造）や、ビジネスの領域に存在しながらも経済利益の追求を第一とせず、社会課題の解決に軸足を置くソーシャルビジネスを通じた持続可能性や社会貢献といった観点から課題解決を目指す意識が高まってきている。

大学における商学教育は、現代社会の課題に対応できる人材を育成するために重要な役割を担っているが、従来の商学教育では、経営、会計、マーケティングなどの知識やスキルを習得することに重点が置かれてきた。しかし、現代社会においては、これらの知識やスキルに加えて、社会課題を見出し、多様な人々との対話を通じて新たな価値を創造し、社会課題解決に向けた仕組みを構想するとともに、市場や地域社会と共に創造した価値を共有する力が求められている。

本学の新設組織は、1 学年 160 名という比較的少ない人数の利点を生かし、1 年次から 4 年次まで切れ目のない少人数での演習科目を展開する。具体的には、1 年次から 2 年次（第 1 セメスターから第 3 セメスター）に「フレッシャーズゼミ」や「アカデミックスキルズＡ」、「アカデミックスキルズＢ」を演習形式で学生全員が履修し、その後の 2 年次から 4 年

次（第４セメスターから第８セメスター）にかけて「演習Ⅰ」及び「演習Ⅱ（演習研究を含む)」を履修することとなる。

また、学生自身による現場や活動における気づきを醸成し、思考力・判断力・表現力等の能力の向上を重視する「実践型科目」を配置することにより、実践と知識の往還型教育を主軸として、市場や地域社会で継続的に新たな価値を創造し提供することのできるスタートアップ志向型の人間育成をおこなう。

これら新設組織における教育課程を通じて、主体性を持って多様な人々と協働する態度を発展・向上させ、社会の諸課題の解決に向けた仕組みを構想し、市場や地域社会と共に創造した価値を共有する能力を身につけることができる点で優位性があると考えている。

〇入試（競合校の受験時期、入学手続時期との関係）

受験時期に大きな違いはなく、いずれの大学も、一般選抜のほか、総合型選抜、学校推薦型選抜、専門学科・総合学科卒業生選抜等の機会を設定し、多様な入試方法の工夫がなされている。入学手続時期に関しては、本学は一般選抜等一部の日程において、主に国公立大学の受験を予定している受験生の経済的負担軽減を目的に、入学手続の延納制度を設定しており、この点は優位な点である。

〇学生納付金、奨学制度などの修学支援の内容

学生納付金（初年度納入金）の比較において、本学は 1,101,000 円であるのに対し、競合校の金額は、同程度（1,073,000 円）または本学より高額（1,355,000 円）の設定となっており、本学の学生確保においての影響は小さいと考える。

また、奨学制度について、本学は、障がいがある学生のうち学業成績及び人物が優秀で修学の熱意が顕著な者を対象とした独自の給付奨学金を充実させており、この点において優位性があるといえる。

〇就職支援の内容

本学は、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を一体的に捉え、キャリアセンターがワンストップで取り組む体制を構築し、シームレスなキャリア支援を行っている。また、低年次生向けの教育プログラムの充実策の一つとして、経済同友会インターンシップを実施し、日本を代表する優良企業での就業体験を通じて、学生のキャリア意識の涵養やチャレンジ精神の醸成を推進している。これらの点は優位であるといえる。

〇取得できる資格

教職や図書館司書等を目指すための課程を用意しており、本学と競合校で大きな違いはない。

イ　競合校の入学志願動向等

旺文社発行の「2024 年度版 蛍雪時代特別編集大学の真の実力」によると、競合校の過去 3 年間の入学志願状況等は次のとおりであり、安定的に学生確保がおこなわれている。このことから、類似性の高い本学の新設組織においても定員充足が見込めると判断する。

京都産業大学経営学部マネジメント学科

年度	入学定員数	入学志願者数	合格者数	入学者総数	定員充足率	平均定員充足率
2021	670	8,975	2,389	692	**103.3%**	**102.8%**
2022	670	7,735	2,646	674	**100.6%**	
2023	670	8,649	2,291	701	**104.6%**	

近畿大学経営学部※

年度	入学定員数	入学志願者数	合格者数	入学者総数	定員充足率	平均定員充足率
2021	1,180	29,199	6,459	1,256	**106.4%**	**103.5%**
2022	1,180	35,495	7,593	1,404	**119.0%**	
2023	1,180	36,730	5,423	1,004	**85.1%**	

※商学科の入学志願者数及び合格者数が確認できなかったため、経営学部全体の入学志願状況を記載する。

ウ　新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

上記のとおり、競合校はいずれも過去 3 年間における平均定員充足率は 100%を超えていることから、説明を省略する。

エ　学生納付金等の金額設定の理由

学生納付金の設定にあたっては、大学の健全な運営と新設組織の教育・研究の充実に鑑み、次のとおり設定した。

大学・学部・学科・専攻	入学金	授業料	教育充実費等（諸会費は除く）	初年度合計
龍谷大学経営学部商学科	260,000	841,000	0	**1,101,000**

なお、新設組織が競合すると考えられる近隣大学の経営・商学系学部・学科の学生納付金（初年度納入金）は次のとおりである。初年度納付金を比較すると、本学は安価な金額であ

り、合理的な設定であると考えている。

大学・学部・学科・専攻	入学金	授業料	教育充実費等 （諸会費は除く）	初年度合計
近畿大学経営学部商学科	250,000	1,105,000	0	1,355,000
立命館大学経営学部経営学科	200,000	1,056,800	0	1,256,800
関西大学商学部商学科	260,000	930,000	0	1,190,000
同志社大学商学部商学科	200,000	763,000	163,000	1,126,000
京都産業大学経営学部 マネジメント学科	200,000	745,000	128,000	1,073,000

※他大学における上記学費は、各大学のホームページ掲載情報に基づく。

③先行事例分析

今般の届出は、短期大学から四年制の大学に改組する場合には該当せず、また、修業年限や学生納付金などの条件変更も生じないため、説明を省略する。

④学生確保に関する見通し

○新設組織と同等とする既設組織の実績を用いることの妥当性について

新設組織は、既設の経営学部経営学科における教学資源や実績を基盤として、経営学部内に新たに設置するものであり、経営学部を現行の 1 学科から 2 学科へ改組することから、主として既設の経営学科を志望する層が、令和 7（2025）年度以降、新設組織である商学科を志望することが予想される。加えて、新設組織は、既設組織と同様に深草キャンパス（京都府京都市）に立地するため、学生募集地域は同一である。

これらの点から、新設組織の学生定員設定の妥当性や、定員充足できる理由を説明する上で、既設組織の実績を用いることは妥当であると考える。

○既設組織の志願者数からみる学生確保の見通し

既設組織の過去 5 年間の志願者数は、隔年現象が見られるものの総じて増加傾向にある。平成 31（2019）年度入試に 8,736 名であった志願者数は、令和 5（2023）年度入試では 9,984 名と 1,248 名増加し、志願倍率は 19.2 倍と、多くの志願者数と高い倍率を維持している（資料 5 を参照）。

このため、経営学部に新設組織（入学定員 160 名）を設置したとしても、定員充足は十分に達成できると考えている。

〇新設組織が対象とする学問分野の志願者数

新設組織では、「事業創造コース」と「マーケティングコース」の 2 コース（履修モデル）を柱に、実践的な学びを通じて社会の諸課題を実証的に把握し、市場や地域社会において継続的に新たな価値を創造し提供することのできる人間を育成する。既設組織における実績を基盤に新たな教学内容を展開する計画であるため、志願者層の拡大を見込んでいる。

日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、令和 5（2023）年度における全国の「商学部」の志願者数は114,493名（前年度比103.7%）、また、「経営学部」の志願者数は249,399名（前年度比100.2%）と安定した志願者数を維持していることがわかる（別添：資料6）。

また、河合塾が実施した令和 5（2023）年度第 2 回全統共通テスト模試から近畿圏における系統別の志望者数をみると、「経営系統」は 17,957 名、また、「商・会計・他系統」は 11,993 名であった（資料 7 参照）。

これらの点から、新設組織が対象とする商学・経営学系統の志願者は多数存在しており、入学定員の充足は十分に可能であると判断している。

〇近畿圏内における学生流入出状況

令和 5（2023）年度の学校基本調査を用いて、新設組織が立地する京都府の流出入状況を分析する。資料 8 は、近畿圏内の学生流出入状況を府県別に示したものであり、京都府は流入者数が 26,754 名であるのに対し、流出者数は 7,561 名と大幅な流入超過の状況にある。近畿圏は関東圏とともに、高校の生徒数（大学進学者数）の規模が大きいエリアでもあり、安定的な学生確保が見込まれる。

〇大学全体の志願状況と社会的評価

大手の進学支援関連企業が採用する豊島継男事務所の統計では、令和 5（2023）年度入試における私立大学一般選抜入学試験志願者順位において、本学は前年度（令和 4（2022）年度入試の 12 位）から順位を上げ、全国 11 位となった。令和 2（2020）年度入試の 16 位から大きく順位を上げて以降、一度も順位を下げておらず、順位が上位の大学でさえ大幅に志願者が減少する環境下において、受験生から志願される大学としてのポジションを確立している（資料 9 参照）。

また、株式会社リクルートマーケティングパートナーズが毎年実施している「進学ブランド調査」でも、令和 5（2023）年度における本学全体の「志願度」は、関西エリアで 10 位であった（資料 10 参照）。過去 5 年間を見ても本学は常に 10 位以内に位置している。さらに、新設組織が属する「経済・経営・商分野における志願度」では、関西エリアで 8 位であ

り、受験生からの志願度は高い状況にあるといえる（資料 11 参照）。

以上の状況を踏まえ、18 歳人口が減少していく厳しい環境は続くものの、新設組織においては、安定した学生確保が充分に可能であると考える。

⑤人材需要に関する見通し

新設組織において養成する人物像は、以下の 2 点に集約される。

- 事業の創造と運営についての実践や知識を学び、社会の諸課題を実証的に把握するとともに、ビジョンを掲げ、周囲の人間を巻き込み、必要な資源を調達し、新たな価値の創造と共有および地域・社会の発展に資する能力を備える人物
- マーケティングや流通についての実践や知識を学び、社会の諸課題を実証的に把握するとともに、その解決につながる新たな価値の提供を通じて、顧客の創造と維持および地域・社会の発展に資する能力を備える人物

経団連が行った「採用と大学改革への期待に関するアンケート[4]」（令和 4（2022）年 1 月 18 日付公表）によれば、企業の求める人材像と採用動向として 8 割の企業が「主体性」、「チームワーク・リーダーシップ・協調性」を挙げ、特に期待する能力は、「課題設定・解決能力」、「論理的思考力」、「創造力」が上位となっている。これらはいずれも Society 5.0 において求められる能力として、産学協議会において産学間の認識が一致したものであるが、新設組織で養成する人物像と合致する。

また、「スタートアップの力で社会課題解決と経済成長を加速する[5]」（経済産業省、令和 6（2024）年 2 月 21 日公表）において、スタートアップは新たな社会課題を解決する主体として重要とされ、社会課題解決・社会貢献の担い手として期待されている。

さらに、「未来人材ビジョン[6]」（経済産業省、令和 4（2022）年 5 月 31 日付公表）では、「現在は「注意深さ・ミスがないこと」、「責任感・まじめさ」が重視されるが、将来は「問題発見力」、「的確な予測」、「革新性（新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力）」が一層求められる」こと、さらには、「次の社会を形づくる若い世代に対しては、「常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力」、「夢中を手放さず一つのことを掘り下げていく姿勢」、「グローバルな社会課題を解決する意欲」、「多様性を受容し他者と協働する能力」といった、根源的な意識・行動面に至る能力や姿勢が求められる」とされている。これらのことからも、新設組織において養成する人物像と多くの点で合致しており、社会的な人材需

[4] https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/004_kekka.pdf
[5] https://www.meti.go.jp/policy/newbusiness/kaisetsushiryou_2024.pdf
[6] https://www.meti.go.jp/press/2022/05/20220531001/20220531001-1.pdf

要の要請にも十分に応えられるものであるといえる。

さらに新設組織は、既設の経営学部経営学科における教学資源や実績を基盤として、経営学部内に新たに設置するものであるが、既設組織の卒業年次生のうち、就職・進学希望者に対する進路決定率の過去 5 年間平均は 97.5%と高い水準を安定的に維持している（資料 12 参照）。また、既設組織に対する求人状況については、令和 6（2024）年 3 月卒業生への求人実績は 17,879 件となり、年々増加傾向にある（令和 3（2021）年 3 月卒：14,780 件、令和 4（2022）年 3 月卒：14,065 件、令和 5（2023）年 3 月卒：15,896 件）。令和 6（2024）年 3 月卒業生の求人倍率は約 35 倍となり、充分な進路先の確保を見込んでいる。

学生への進路支援にあたっては、学部とキャリアセンターの有機的な連携によって、一体的なキャリア支援（キャリア教育、進路・就職支援等）の体制を構築しており、きめ細やかな支援を実施することで、就職先を確実に確保できるものと考えている。

（４）新設組織の定員設定の理由

現状として、既存組織である経営学部経営学科の入学定員は 519 名であるが、安定的に学生確保をおこなえている。新設組織の経営学部商学科では入学定員を 160 名と設定し、それに合わせて既設組織の入学定員を 139 名減員する計画である。18 歳人口の減少は緩やかに進むものの、近畿圏における大学進学率や大学進学者の地元残留率の上昇、新設組織が立地する京都府における大幅な学生流入超過、さらには、（１）～（３）で説明したように社会の要請に応える教学内容を展開することで新たな志願者層の獲得が期待できることから、新設組織の定員充足は十分に可能であると考えている。以上の点から、新設組織の定員設定は合理性の高いものであると判断する。

以　上

学生の確保の見通し等を記載した書類

【資料目次】

資料 1　18 歳人口予測

資料 2　大学進学率推移

資料 3　大学入学者地元残留率

資料 4　龍谷大学経営学部 都道府県別入学者数（過去 5 年間）

資料 5　龍谷大学志願者数（延べ人数）推移（過去 5 年間）

資料 6　主な学部別の志願者・入学者動向（大学）

資料 7　私立大学詳細系統別志望者数（近畿地区）

資料 8　近畿圏内における学生流入出状況

資料 9　私立大学 一般選抜入学試験志願者 上位 30 大学(令和元～令和 5 年度入試)

資料 10　進学ブランド力調査 志願度（令和元～令和 5 年度・関西エリア）

資料 11　進学ブランド力調査 分野別志願度（令和 5 年度・関西エリア）

資料 12　龍谷大学経営学部経営学科 進路決定率

別紙 1　新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 2　既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）

別紙 3　既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績

資料 1

【 省 略 】

1（書類等の題名）

資料 1　18 歳人口予測

2（出典）

株式会社リクルート　リクルート進学総研　マーケットリポート

3（引用範囲）

18 歳人口の推移

4（その他の説明）

上記のデータを加工し、18 歳人口の推移を表にまとめた。

以　上

資料２

【　省　略　】

１（書類等の題名）

資料２　大学進学率推移

２（出典）

株式会社リクルート　リクルート進学総研　マーケットリポート

３（引用範囲）

大学進学率の推移

４（その他の説明）

上記のデータを加工し、大学進学率の推移を表にまとめた。

以　上

資料３

【　省　略　】

１（書類等の題名）

資料３　大学入学者地元残留率

２（出典）

株式会社リクルート　リクルート進学総研　マーケットリポート

３（引用範囲）

大学入学者地元残留率の推移

４（その他の説明）

上記のデータを加工し、大学入学者地元残留率の推移をグラフにまとめた。

以　上

資料 4

【 省 略 】

１（書類等の題名）

資料4　龍谷大学経営学部 都道府県別入学者数（過去5 年間）

２（出典）

本学入試部所持データ

３（その他の説明）

本内容は、学内資料（学外秘）であり【省略】とする。

以　上

資料5

龍谷大学志願者数（延べ人数）推移（過去5年間）

学部・学科・課程・専攻		平成31年度 入試	令和2年度 入試	令和3年度 入試	令和4年度 入試	令和5年度 入試	前年度差	前年度比
文学部	真宗学科	1,001	1,178	1,167	1,359	1,303	▲ 56	95.9%
	仏教学科	1,064	1,079	1,162	1,378	1,142	▲ 236	82.9%
	哲学専攻	1,232	1,248	1,368	1,623	1,515	▲ 108	93.3%
	教育学専攻	719	1,349	1,181	1,472	1,069	▲ 403	72.6%
	臨床心理学科※2	2,139	2,681	2,606	-	-	-	-
	日本史学専攻	1,908	2,387	2,505	2,628	2,607	▲ 21	99.2%
	東洋史学専攻	897	1,281	1,014	1,355	1,245	▲ 110	91.9%
	仏教史学専攻	628	649	786	963	893	▲ 70	92.7%
	文化遺産学専攻	939	807	1,268	1,186	1,266	80	106.7%
	日本語日本文学科	2,294	2,782	2,758	2,575	2,545	▲ 30	98.8%
	英語英米文学科	1,192	1,274	1,533	1,928	1,984	56	102.9%
文学部　合計		14,013	16,715	17,348	16,467	15,569	▲ 898	94.5%
経済学部※1		8,903	9,926	9,798	11,137	10,311	▲ 826	92.6%
経営学部		8,736	9,687	8,826	9,781	9,984	203	102.1%
法学部		6,306	6,946	8,030	7,803	5,996	▲ 1,807	76.8%
社会学部	社会学科	3,749	4,181	4,430	4,670	6,673	2,003	142.9%
	ｺﾐｭﾆﾃｨﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	1,701	2,295	2,174	2,758	3,563	805	129.2%
	現代福祉学科	1,828	2,027	2,664	2,485	3,628	1,143	146.0%
社会学部　合計		7,278	8,503	9,268	9,913	13,864	3,951	139.9%
政策学部		6,095	5,371	5,436	7,006	7,339	333	104.8%
国際学部	国際文化学科	4,122	4,461	4,537	4,692	4,788	96	102.0%
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ学科	1,520	1,485	2,287	2,246	2,239	▲ 7	99.7%
国際学部　合計		5,642	5,946	6,824	6,938	7,027	89	101.3%
農学部	生命科学科（旧：植物生命科学科）	1,146	924	1,185	1,603	1,931	328	120.5%
	農学科（旧：資源生物科学科）	1,608	1,541	1,581	1,533	1,535	2	100.1%
	食品栄養学科	1,177	1,316	1,371	1,332	1,410	78	105.9%
	食料農業ｼｽﾃﾑ学科	1,722	1,386	1,333	1,896	2,128	232	112.2%
農学部　合計		5,653	5,167	5,470	6,364	7,004	640	110.1%
先端理工学部 （旧：理工学部）	数理・情報科学課程	1,310	1,325	1,055	1,258	1,025	▲ 233	81.5%
	知能情報メディア課程	1,520	1,368	1,481	1,536	1,360	▲ 176	88.5%
	電子情報通信課程	1,529	1,475	1,545	1,607	1,448	▲ 159	90.1%
	機械工学・ﾛﾎﾞﾃｨｸｽ課程	2,065	1,795	1,590	1,820	1,509	▲ 311	82.9%
	応用化学課程	1,105	1,185	991	1,262	1,227	▲ 35	97.2%
	環境生態工学課程	858	788	617	657	1,073	416	163.3%
先端理工学部　合計		8,387	7,936	7,279	8,140	7,642	▲ 498	93.9%
心理学部※3		-	-	-	5,654	5,958	304	105.4%
大学　合計		71,013	76,197	78,279	89,203	90,694	1,491	101.7%

※1　経済学部現代経済学科及び国際経済学科は一括募集入試
※2　令和5年度 学生募集停止
※3　令和5年度 開設

資料６

【　省　略　】

１（書類等の題名）

資料６　主な学部別の志願者・入学者動向（大学）

２（出典）

日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

３（引用範囲）

入学定員、志願者数、入学者数及び入学定員充足率

以　上

資料７

【　省　略　】

１（書類等の題名）

資料7　私立大学詳細系統別志望者数（近畿地区）

２（出典）

河合塾グループ KEIアドバンス 2023年度第2回全統共通テスト模試（7月実施）
志望動向（近畿地区）

以　上

資料８

【　省　略　】

１（書類等の題名）

資料8　近畿圏内における学生流入出状況

２（出典）

学校基本調査「出身高校の所在地県別 入学者数」

３（引用範囲）

近畿圏における「出身高校の所在地県別 入学者数」

4（その他の説明）

上記のデータを加工し、近畿２府４県の学生流入出状況を図表及びグラフにまとめた。

以　上

資料９

【　省　略　】

１（書類等の題名）

資料９　私立大学 一般選抜入学試験志願者 上位 30 大学（令和元～令和 5 年度入試）

２（出典）

豊島継男事務所 一般選抜志願状況レポート

以　上

資料 10

【 省 略 】

１（書類等の題名）

資料 10　進学ブランド力調査 志願度（令和元～令和５年度・関西エリア）

２（出典）

株式会社リクルート リクルート進学総研　進学ブランド力調査

以　上

資料 11

【 省 略 】

１（書類等の題名）

資料 11　進学ブランド力調査 分野別志願度（令和 5 年度・関西エリア）

２（出典）

株式会社リクルート リクルート進学総研　進学ブランド力調査 2023

以　上

資料12

龍谷大学経営学部経営学科　進路決定率

	平成30(2018) 年度卒業	令和元(2019) 年度卒業	令和2(2020) 年度卒業	令和3(2021) 年度卒業	令和4(2022) 年度卒業	5年間平均
卒業者	513	497	505	471	471	491.4
就職・進学等 希望者①	513	495	501	468	456	486.6
進路 決定者数②	507	493	487	445	440	474.4
進路決定率 対希望者 ②/①	98.8%	99.6%	97.2%	95.1%	96.5%	**97.5%**

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙１

〇出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位５都道府県）※直近年度

	都道府県名	人　　数	構成比
1	京都府	8,641人	24.4%
2	大阪府	6,849人	19.4%
3	滋賀県	3,106人	8.8%
4	兵庫県	2,690人	7.6%
5	奈良県	1,542人	4.4%
	全　　体	35,395人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

〇新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地（都道府県）	充足率		
		令和３年度	令和４年度	令和５年度
1	京都府	99.32%	101.30%	101.37%

※２校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

〇新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和３年度	令和４年度	令和５年度
1	社会科学系学部（大学）	101.56%	102.73%	102.70%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

別紙２

【　省　略　】

１（書類等の題名）

別紙２　既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

２（出典）

本学入試部所持データ

３（その他の説明）

志願者数（実人数）は、学内資料（学外秘）であり【省略】とする。

以　上

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙3

①募集を行った学科等名称及び取組の名称： 龍谷大学経営学部志望層におけるオープンキャンパス（3月、8月、9月開催）への参加状況

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	5222人	4488人	①取組概要 オープンキャンパスを開催し、当該学部を志望する受験者層に対して、該当学部またはそれに類する学びを紹介するイベントを実施している。 ＜主なイベント内容＞ 学部の学び紹介、模擬講義、施設紹介、在学生との交流、個別相談など ＜開催時期＞ R4年度入試対象（R2開催）：計6回開催（3/27、8/6、8/7、8/20、8/21、9/25） R5年度入試対象（R3開催）：計6回開催（3/26、8/5、8/6、8/26、8/27、9/24） ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 過去のオープンキャンパス実績より、既設組織の受験対象者数（過去2年平均約1,650人）を新設組織と既設組織の入学定員（160人：380人）で按分すると、新設組織には約480人の受験対象者が見込まれる。 既設組織の過去2年間における入学率（約9%）から予想される新設組織の入学者数は約43人である。 よって、本取組により、新設組織の入学定員160人のうち、約27%の入学者を確保できると考える。 ③（a）のうち、当該入試年度の受験対象者（b）に該当すると判断した基準 オープンキャンパスの参加者が回答したアンケート結果から、受験対象となる高校3年生および既卒生を抽出した。
うち受験対象者数(b)	1782人	1527人	
うち受験者数(c)	718人	652人	
うち入学者数(d)	160人	145人	
（受験率 c/b）	40.3%	42.7%	
（入学率 d/b）	9.0%	9.5%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称： 龍谷大学経営学部希望者に対する大学案内・学部紹介等の資料送付

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	12894人	15335人	①取組概要 当該学部を希望する受験生に対して、大学や学部の学び・特色、入試情報を掲載した資料を送付し、オープンキャンパス等のイベント参加や出願へ結びつける（集計対象期間は当該年度の4月～3月）。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 過去の資料送付実績より、既設組織の受験対象者数（過去2年平均約6,300人）を新設組織と既設組織の入学定員（160人：380人）で按分すると、新設組織には約1,850人の受験対象者が見込まれる。 既設組織の過去2年間における入学率（約3.5%）から予想される新設組織の入学者数は約64人である。 よって、本取組により、新設組織の入学定員160人のうち、約40%の入学者を確保できると考える。 ③（a）のうち、当該入試年度の受験対象者（b）に該当すると判断した基準 資料送付希望者が申込時に回答したアンケート結果から、受験対象となる高校3年生および既卒生を抽出した。
うち受験対象者数(b)	6043人	6731人	
うち受験者数(c)	1092人	1464人	
うち入学者数(d)	176人	269人	
（受験率 c/b）	18.1%	21.8%	
（入学率 d/b）	2.9%	4.0%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称： 龍谷大学経営学部志望層に対する学部紹介・入試対策コンテンツの発信

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	26623人	24270人	①取組概要 本学独自の受験生向けアプリ登録者に対して、学部紹介や入試対策に役立つコンテンツを配信し、本学への理解促進や期待感の醸成を図っている。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 過去の受験生向けアプリ登録実績より、既設組織の受験対象者数（過去2年平均約7,800人）を新設組織と既設組織の入学定員（160人：380人）で按分すると、新設組織には約2,300人の受験対象者が見込まれる。 既設組織の過去2年間における入学率（約2.5%）から予想される新設組織の入学者数は約57人である。 よって、本取組により、新設組織の入学定員160人のうち、約36%の入学者を確保できると考える。 ③（a）のうち、当該入試年度の受験対象者（b）に該当すると判断した基準 アプリ登録時にユーザーが回答したアンケート結果から、受験対象となる高校3年生および既卒生を抽出した。
うち受験対象者数(b)	8652人	7116人	
うち受験者数(c)	1114人	867人	
うち入学者数(d)	204人	178人	
（受験率 c/b）	12.9%	12.2%	
（入学率 d/b）	2.4%	2.5%	

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　　員　　名　　簿

学　長　又　は　校　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
-	学長	ｲﾘｻﾜ　ﾀｶｼ 入澤　崇 ＜平成29年4月＞		修士 (文学) ※		龍谷大学　学長 （平成29.4～令和7.3）

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
1	基（主専）	教授	エンドウ アキコ 遠藤　明子 ＜令和7年4月＞		修士（商学）		フレッシャーズゼミ ベーシックマーケティング 社会調査入門 アカデミックスキルズA プロジェクト入門 流通システム論 アカデミックスキルズB ソーシャルマーケティング 演習Ⅰ 演習Ⅱ(演習研究含む)	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1前 1前 1前 1後 1後 1後 2前 2後 2後～3前 3後～4後	2 2 2 2 2 2 2 2 4 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （令和6.4）	○				5日	
2	基（主専）	教授	キシタ テツヒロ 木下　徹弘 ＜令和7年4月＞		博士（経済学）		フレッシャーズゼミ ベーシックアカウンティングⅠ アカデミックスキルズA アカデミックスキルズB アジア企業経営論 文献講読A 文献講読B	○ ○ ○ ○ 	1前 1前 1後 2前 3後 3後 4前	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成9.4）	○				5日	
3	基（主専）	教授	クニシゲ ユタカ 國重　裕 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		フレッシャーズゼミ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○	1前 2後～3前 3後～4前 4後	2 4 4 4	1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成17.4）	○				5日	
4	基（主専）	教授	クワツカ ケンタロウ 鍬塚　賢太郎 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		地理学のすすめ 経営立地論 社会調査実践 地域論 演習Ⅰ 環境地理学　※ 演習Ⅱ(演習研究含む)	○ ○ ○ ○ ○	1前 2前 2前 2前 2後～3前 2後 3後～4後	6 2 2 4 4 1.76 6	3 1 1 2 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成23.4）	○				5日	
5	基（主専）	教授	タケウチ ツナフミ 竹内　綱史 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		宗教の世界A 宗教学入門 アカデミックスキルズA 宗教の世界B アカデミックスキルズB 人文科学セミナー 大学論　※	○ ○ ○ ○ ○ 	1前 1前 1後 1後 2前 2通 2前	4 8 2 4 2 4 0.67	2 2 1 2 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成21.4）	○				5日	
6	基（主専）	教授	ハヤシ ナオキ 林　尚毅 ＜令和7年4月＞		博士（経営学）		フレッシャーズゼミ アカデミックスキルズA グローバルビジネスの基礎 アカデミックスキルズB グローバルビジネス グローバルストラテジー 演習Ⅰ 演習Ⅱ(演習研究含む)	○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後～3前 3後～4後	2 2 2 2 2 2 4 6	1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成22.4）	○				5日	
7	基（主専）	教授	フジオカ アキコ 藤岡　章子 ＜令和7年4月＞		博士（経済学）		プロジェクト入門 プロジェクト実践 マーケティングリサーチ　※ マーケティング論 ローカルビジネスのフロンティア 演習Ⅰ 商品開発論 食農ビジネスのフロンティア 地域資源論 演習Ⅱ(演習研究含む)	○ ○ ○	1後 2前 2前 2前 2後 2後～3前 2後 3前 3前 3後～4後	2 2 0.13 2 2 4 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成12.4）	○				5日	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
8	基（主専）	教授	ﾎｿｶﾜ ﾀｶｼ 細川　孝 ＜令和7年4月＞		修士（経営学）		フレッシャーズゼミ	○	1前	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成12.4）	○				5日	
							アカデミックスキルズA	○	1後	2	1							
							ワークルール入門		1後	2	1							
							アカデミックスキルズB	○	2前	2	1							
							企業システム論		2前	2	1							
							消費者問題論		2前	1	1							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							京都企業論　※		2後	1.60	1							
							京都企業の現場		3前	2	1							
							演習Ⅱ(演習研究含む)	○	3後～4後	6	1							
9	基（主専）	准教授	ｱｷﾊﾞ ﾌﾄｼ 秋庭　太 ＜令和7年4月＞		博士（経営学）		ビジネスケーススタディA	○	1前	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （平成22.4）	○				5日	
							フレッシャーズゼミ	○	1前	2	1							
							教養教育科目特別講義　※		1前	0.13	1							
							情報リテラシー	○	1前	1	1							
							アカデミックスキルズB	○	2前	2	1							
							キャリア＆ライフマネジメント　※	○	2前	0.93	1							
							起業家行動論		2前	2	1							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							地域企業論		2後	2	1							
							演習Ⅱ(演習研究含む)	○	3後～4後	6	1							
10	基（主専）	准教授	ﾂﾏｷ ｼﾝｺﾞ 妻木　進吾 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		社会調査のすすめ	○	1前	4	2	龍谷大学 経営学部 准教授 （平成25.4）	○				5日	
							人権論A	○	1前	2	1							
							現代社会の諸問題　※		2前	0.13	1							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							社会データ分析		2後	2	1							
							演習Ⅱ(演習研究含む)	○	3後～4後	6	1							
11	基（主専）	准教授	ﾆｼｶﾜ ﾋﾛｼ 西川　浩司 ＜令和7年4月＞		修士（経営学）※		フレッシャーズゼミ	○	1前	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （平成9.4）	○				5日	
							アカデミックスキルズA	○	1後	2	1							
							ビジネスヒストリー入門		1後	2	1							
							アカデミックスキルズB	○	2前	2	1							
							ビジネスヒストリーA		2前	2	1							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							ケースで学ぶビジネスヒストリー		3後	2	1							
							演習Ⅱ(演習研究含む)	○	3後～4後	6	1							
12	基（主専）	准教授	ﾎﾜｲﾄ ｼｮｰﾝ･ｱﾗﾝ ホワイト　ショーン・アラン ＜令和7年4月＞		Ph.D. in Education （ｱﾒﾘｶ合衆国）		Oral Communication ⅠA	○	2後	4	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （平成22.4）	○				5日	
							Global Understanding in English		3前	8	2							
							Oral Communication ⅡA	○	3前	4	1							
							Global Understanding and Communication		3後	4	1							
							Seminar Ⅰ	○	3後	2	1							
							Seminar Ⅱ	○	4前	2	1							
							卒業研究	○	4後	4	1							
13	基（主専）	准教授	ﾏﾅﾍﾞ ｸﾆﾋﾛ 眞鍋　邦大 ＜令和7年4月＞		博士（農学）		ビジネスケーススタディB	○	1前	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （令和4.4）	○				5日	
							プロジェクト入門	○	1後	2	1							
							キャリア＆ライフマネジメント　※	○	2前	1.07	1							
							プロジェクト実践		2前	2	1							
							ローカルビジネスのフロンティア		2後	2	1							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							食農ビジネスのフロンティア		3前	2	1							
							地域と企業		3前	4	1							
							演習Ⅱ(演習研究含む)	○	3後～4後	6	1							
14	基（主専）	准教授	ﾔﾏｵｶ ｶﾅｺ 山岡　華菜子 ＜令和7年4月＞		博士（言語文化学）		アカデミックスキルズA	○	1後	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （令和3.4）	○				5日	
							英語総合3(B)	○	2前	1	1							
							英語総合4(B)	○	2後	1	1							
15	基（主専）	講師	ｿ ﾐﾝｼﾞｮﾝ 徐　旼廷 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		コリア語Ⅰ	○	1前	2	1	龍谷大学 経営学部 講師 （令和5.4）	○				5日	
							フレッシャーズゼミ	○	1前	2	1							
							コリア語Ⅱ	○	1後	2	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
16	その他	教授	ｱﾍﾞ ﾀﾞｲｽｹ 阿部　大輔 ＜令和8年10月＞		博士（工学）		演習Ⅰ 景観・まちなみ保存政策　※ 文化・観光政策 欧州の地域・都市政策 演習Ⅱ（卒業研究含む）	○ ○	2後～3後 2後 2後 3前 4通	6 1.07 2 2 4	1 1 1 1 1	龍谷大学 政策学部 教授 （平成23.4）						
17	その他	教授	ｱﾝﾄﾞｳ ｼﾝｼﾞﾛｳ 安藤　真次郎 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ 特別演習Ⅰ スペイン語セミナーⅡC スペイン語セミナーⅡD 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 2後～3前 3前 3後 3後～4前 4後	2 2 4 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 文学部 教授 （平成10.4）						
18	その他	教授	ｲﾃｰﾖﾝ 李　態妍 ＜令和8年10月＞		博士（経済学）		環境と経済	○	2後	2	1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成13.4）						
19	その他	教授	ｲｼｻﾞｷ ﾏﾅﾌﾞ 石崎　学 ＜令和7年4月＞		修士（法学）※		日本国憲法	○	1前	2	1	龍谷大学 法学部 教授 （平成22.4）						
20	その他	教授	ｲﾃﾞ ｹﾝｼﾞ 井手　健二 ＜令和7年4月＞		修士（経営情報学） ※		簿記入門		1前	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成25.4）						
21	その他	教授	ｲﾉｳｴ　ｹﾝｼﾞｭﾝ 井上　見淳 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		仏教の思想A 仏教の思想B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 社会学部 教授 （平成23.4）						
22	その他	教授	ｲﾏｲ ｱﾂｼ 今井　敦 ＜令和7年4月＞		Doctor der Philosophie （ｵｰｽﾄﾘｱ）		ドイツ語Ⅰ 西洋の文学A ドイツ語Ⅱ 西洋の文学B ドイツ語セミナーⅡA ドイツ語セミナーⅡB	○ ○ ○ ○ 	1前 1前 1後 1後 3前 3後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成23.4）						
23	その他	教授	ｲﾏｶﾞﾜ ﾖｼﾌﾐ 今川　嘉文 ＜令和8年4月＞		博士（法学）		商法 会社法	 	2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 法学部 教授 （平成24.4）						
24	その他	教授	ｲﾏﾑﾗ ｷﾖｼ 今村　潔 ＜令和8年10月＞		文学修士		Intensive Reading Writing Ⅰ Writing Ⅱ 英米事情 学部共通特別講義Ⅰ Seminar Ⅰ 学部共通特別講義Ⅲ Seminar Ⅱ 卒業研究	 ○ ○ ○ ○ ○	2後 2後 3前 3前 3前 3後 3後 4前 4後	4 2 2 4 4 2 2 2 4	2 1 1 2 1 1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成4.4）						
25	その他	教授	ｲﾜﾀ ﾋﾛｼ 岩田　浩 ＜令和8年4月＞		商学修士※		経営意思決定論		2前	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成27.4）						
26	その他	教授	ｳｼｵ ﾋﾛﾔ 牛尾　洋也 ＜令和7年4月＞		法学修士※		里山学　※		1前	0.13	1	龍谷大学 法学部 教授 （平成4.4）						
27	その他	教授	ｵｵﾊﾗ ﾓﾘｷ 大原　盛樹 ＜令和8年10月＞		博士（経済学）		演習Ⅰ 中国経済論A 中国経済論B 演習Ⅱ 演習Ⅲ 演習Ⅳ（卒業研究含む）	○ ○ ○ ○	2後 2後 2後 3前 3後 4前～4後	2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成22.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
28	その他	教授	ｵｶﾀﾞ ﾉﾘﾕｷ 岡田　典之 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		英語総合1(B) 英語総合2(B) 英語セミナーD1 英語セミナーD2	○ ○	1前 1後 3前 3後	1 1 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 文学部 教授 （平成21.4）						
29	その他	教授	ｵｶﾓﾄ ｹﾝｽｹ 岡本　健資 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		大学論　※ 持続可能な発展概論　※		2前 2後	0.40 0.13	1 1	龍谷大学 政策学部 教授 （平成21.4）						
30	その他	教授	ｵｸﾉ ﾂﾈﾋｻ 奥野　恒久 ＜令和7年4月＞		修士（法学）※		教養教育科目特別講義　※ 日本国憲法 人権論B 現代社会の諸問題　※	 ○ ○ 	1前 1前 1後 2前	0.13 4 2 0.67	1 2 1 1	龍谷大学 政策学部 教授 （平成23.4）						
31	その他	教授	ｵﾁｱｲ ﾀｹﾋｺ 落合　雄彦 ＜令和8年10月＞		修士（法学）※		国際関係論Ⅰ 地域研究入門 特別演習Ⅰ アフリカ政治論A アフリカ政治論B 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○ ○	2後 2後 2後～3前 3前 3前 3後～4前 4後	4 4 4 2 2 4 4	2 2 1 1 1 1 1	龍谷大学 法学部 教授 （平成14.4）						
32	その他	教授	ｶｼﾞﾜｷ ﾕｳｼﾞ 梶脇　裕二 ＜令和7年4月＞		博士（商学）		経営学基礎論		1前	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成22.4）						
33	その他	教授	ｶﾄﾞｵｶ ｹﾝｲﾁ 角岡　賢一 ＜令和7年4月＞		文学修士		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成7.4）						
34	その他	教授	ｶﾗｲｽｺｽ　ｱﾝﾄﾆｵｽ カライスコス　アントニオス ＜令和8年10月＞		博士（法学）		民法		2後	2	1	龍谷大学 法学部 教授 （令和5.4）						
35	その他	教授	ｶﾜｲ ﾐｶ 河合　美香 ＜令和7年4月＞		博士（スポーツ医学）		スポーツ技術学演習 人間とスポーツ 健康とスポーツ	○ 	1前 1前 2前	14 4 4	7 2 2	龍谷大学 法学部 教授 （平成19.4）						
36	その他	教授	ｶﾜｼﾏ ﾉﾌﾞﾋﾛ 川島　伸博 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		西洋の文学A 西洋の文学B 英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 法学部 教授 （平成24.4）						
37	その他	教授	ｸﾆﾏﾂ ﾕﾀｶ 國松　豊 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		人類学のすすめ 自然誌実習 人間の生物学Ⅰ 人間の生物学Ⅱ	○ 	1前 2前 2前 2後	12 4 2 2	3 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成26.4）						
38	その他	教授	ｸﾗﾌﾁｯｸ ﾏﾘｳｼｭ ｺﾝﾗｯﾄﾞ クラフチック　マリウシュ　コンラッド ＜令和7年4月＞		博士（経済学）		経済学のすすめ ヨーロッパ経済論 国際金融論	○ 	1前 2後 3前	2 4 4	1 1 1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成18.4）						
39	その他	教授	ｺｾ ﾊｼﾞﾒ 小瀬　一 ＜令和9年4月＞		社会学修士※		アジア経済史		3前	4	1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成3.10）						
40	その他	教授	ｺﾅｶﾞﾔ ﾀﾞｲｽｹ 小長谷　大介 ＜令和7年4月＞		博士（学術）		自然科学史Ⅰ 物理科学の世界 自然科学史Ⅱ 平和学B 環境史	○ ○ 	1前 1前 2前 2前 3後	4 4 2 2 2	2 1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成14.4）						
41	その他	教授	ｺﾏﾂ ﾄﾓｺ 小松　知子 ＜令和7年4月＞		修士（学術）		日本語	○	1前	8	8	龍谷大学 経営学部 教授 （平成26.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
42	その他	教授	ｻｶﾓﾄ ﾏｻﾉﾘ 坂本　雅則 ＜令和7年10月＞		博士（経済学）		経営管理論		1後	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成16.4）						
43	その他	教授	ｻｸﾗｲ ｼﾞﾛｳ 櫻井　次郎 ＜令和7年4月＞		博士（学術）		環境学 演習Ⅰ 環境政策論Ⅰ 環境フィールドワーク　※ 環境学B 環境管理論Ⅰ 環境政策論Ⅱ 演習Ⅱ 卒業研究	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1前 2後～3前 2後 2後～3前 3前 3前 3前 3後～4前 4後	4 4 2 0.40 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 政策学部 教授 （令和4.4）						
44	その他	教授	ｻｻｷ ｼﾞｭﾝ 佐々木　淳 ＜令和9年4月＞		博士（経済学）		日本経済史A 日本経済史B		3前 3前	2 2	1 1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成10.4）						
45	その他	教授	ｻｻｷ ﾋﾛｵ 佐々木　浩雄 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		スポーツ文化史 近代スポーツ史 スポーツ文化論 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	 ○ ○ ○ ○	2前 2後 3後 2後～3前 3後～4前 4後	2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 文学部 教授 （平成19.4）						
46	その他	教授	ｻﾄｳ ｶｽﾞﾋﾛ 佐藤　和弘 ＜令和7年4月＞		文学修士※		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語セミナーⅠA ドイツ語セミナーⅠB 学部共通特別講義B 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後 2後 2後～3前 3後～4前 4後	2 2 2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 法学部 教授 （平成12.4）						
47	その他	教授	ｻﾉ ﾄｳｾｲ 佐野　東生 ＜令和8年4月＞		博士（法学）		ペルシア語Ⅰ アラビア語Ⅰ ペルシア語Ⅱ アラビア語Ⅱ	 	2前 2前 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 国際学部 教授 （平成14.4）						
48	その他	教授	ｼﾏﾀﾞ ﾖｼﾋﾛ 嶋田　佳広 ＜令和9年4月＞		博士（法学）		労働法		3前	2	1	龍谷大学 法学部 教授 （令和3.4）						
49	その他	教授	ｼﾏﾊﾞﾔｼ ｼｮｳｼﾞ 嶋林　昭治 ＜令和7年4月＞		修士（社会学）／ 修士（英語教育）		英語総合1(A) 英語総合2(A)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成14.4）						
50	その他	教授	ｼﾐｽﾞ ﾏﾕｺ 清水　万由子 ＜令和8年4月＞		博士（地球環境学）		環境と社会		2前	2	1	龍谷大学 政策学部 教授 （平成24.10）						
51	その他	教授	ﾀｶﾊﾀ ｼｹﾞｶﾂ 高畑　重勝 ＜令和8年10月＞		修士（法学）		京都市の産業と産業政策		2後	2	1	龍谷大学 政策学部 教授 （令和5.4）						
52	その他	教授	ﾀｷﾓﾄ ﾏｻﾄ 瀧本　眞人 ＜令和7年4月＞		Ph.D in Translation and Interpreting Studies （オーストラリア）		教養教育科目特別講義　※		1前	0.93	1	龍谷大学 国際学部 教授 （平成25.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
53	その他	教授	ﾀｸﾞﾁ ﾘﾂｵ 田口　律男 ＜令和7年4月＞		文学修士※		日本の文学A 文章表現法A 日本の文学B 文章表現法B 現代社会の諸問題　※ 日本の文学C	○ ○ ○ ○	1前 1前 1後 1後 2前 2前	4 4 4 4 0.13 4	1 2 1 2 1 2	龍谷大学 経済学部 教授 （平成12.10）						
54	その他	教授	ﾀｹｲ ﾋﾛｼ 武井　寛 ＜令和7年4月＞		法学修士※		教養教育科目特別講義　※		1前	0.13	1	龍谷大学 法学部 教授 （令和元.9）						
55	その他	教授	ﾀｹｳﾁ ﾏｻﾋｺ 竹内　真彦 ＜令和7年4月＞		博士（学術）		中国の思想A 中国の思想B アジアの文化 海外中国語研修講座 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2前 2後～3前 3後～4前 4後	2 2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成13.4）						
56	その他	教授	ﾀﾏｷ ｺｳｼﾞ 玉木　興慈 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		(本山教師)宗教概説		1前	1	1	龍谷大学 文学部 教授 （平成14.4）						
57	その他	教授	ﾃｼﾏ ﾋﾃﾞｷ 手嶋　英貴 ＜令和7年4月＞		Doktor Der Philosophie （ﾄﾞｲﾂ）		アジアの文学A アジアの文学B 文章表現法A 文章表現法B 人文科学セミナー	○ ○ ○ ○	1前 1前 1前 1後 2通	4 4 2 2 4	2 2 1 1 1	龍谷大学 法学部 教授 （令和3.4）						
58	その他	教授	ﾃﾗｶﾜ ｼﾛｳ 寺川　史朗 ＜令和7年4月＞		修士（法学）※		日本国憲法	○	1前	2	1	龍谷大学 法学部 教授 （平成24.4）						
59	その他	教授	ﾄﾞｰﾙﾄﾝ ﾌﾗﾝｸ ドールトン　フランク ＜令和7年4月＞		応用言語学博士 （ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ）		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成13.4）						
60	その他	教授	ﾅｶﾉ ﾋﾛﾕｷ 中野　寛之 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		宇宙の科学Ⅰ 物理科学の世界 宇宙の科学Ⅱ 大学論　※	○ ○	1前 1前 2前 2前	8 4 4 0.27	2 1 2 1	龍谷大学 法学部 教授 （平成29.4）						
61	その他	教授	ﾅｶﾞﾐﾈ ﾄｼﾉﾌﾞ 長嶺　寿宣 ＜令和8年10月＞		Ph.D in Composition and TESOL （ｱﾒﾘｶ合衆国）		教育課程論 介護等体験 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導ⅡA 教育実習指導ⅡB 教職実践演習(中・高)		2後 3前 4前 4前 4前 4後	2 2 1 4 2 4	1 1 1 1 1 2	龍谷大学 国際学部 教授 （令和2.4）						
62	その他	教授	ﾅｶﾓﾄ ｶｽﾞﾋｺ 中本　和彦 ＜令和8年10月＞		博士（学校教育学）		教育課程論 介護等体験 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導ⅡA 教育実習指導ⅡB 教職実践演習(中・高)		2後 3前 4前 4前 4前 4後	2 2 1 4 2 4	1 1 1 1 1 2	龍谷大学 法学部 教授 （令和元.4）						
63	その他	教授	ﾆｼｵｶ ﾋｻﾐﾂ 西岡　久充 ＜令和7年4月＞		博士（工学）		キャリア実習・実習指導 キャリア実習・実習指導(大学コンソーシアム京都)		1通 1通	2 4	1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成25.4）						
64	その他	教授	ﾆｼｶﾜ ﾖｼｱｷ 西川　芳昭 ＜令和8年10月＞		博士（農学）		食・農・資源の経済論A 食・農・資源の経済論B		2後 2後	2 2	1 1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成25.4）						
65	その他	教授	ﾊｼｸﾞﾁ ﾕｳｶ 橋口　豊 ＜令和8年10月＞		博士（法学）		演習Ⅰ 演習Ⅱ(卒業研究含む)	○ ○	2後～3前 3後～4後	4 6	1 1	龍谷大学 法学部 教授 （平成14.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
66	その他	教授	ﾊｼﾓﾄ ﾏｻｺ 橋本　雅子 ＜令和8年4月＞		体育学士		教職論 生徒・進路指導論 介護等体験 総合的な学習の時間・特別活動論 道徳教育指導法		2前 2前 3前 3前 3後	4 2 2 2 2	2 1 1 1 1	龍谷大学 短期大学部 教授 （平成27.4）						
67	その他	教授 （学部長）	ﾊｾｶﾞﾜ ﾀｶｼ 長谷川　岳史 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		仏教の思想A 仏教の思想B アジアの文化	○ ○	1前 1後 2前	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成13.4）						
68	その他	教授	ﾊｯﾄﾘ ｹｲｲﾁﾛｳ 服部　圭郎 ＜令和8年10月＞		博士（総合政策）		景観・まちなみ保存政策　※ 北米・中南米の地域・都市政策		2後 3前	0.93 2	1 1	龍谷大学 政策学部 教授 （平成30.4）						
69	その他	教授	ﾊﾏﾅｶ ｼﾝｺﾞ 濱中　新吾 ＜令和8年10月＞		博士（政治学）		演習Ⅰ 中東政治論 アジア政治論 演習Ⅱ(卒業研究含む)	○ ○	2後～3前 3前 3後 3後～4後	4 2 4 6	1 1 1 1	龍谷大学 法学部 教授 （平成28.4）						
70	その他	教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾀﾂｵ 原田　太津男 ＜令和8年4月＞		修士（経済学）		国際社会論		2前	2	1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成25.4）						
71	その他	教授	ﾋﾛｾ ｼﾞｭﾝ 廣瀬　純 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語セミナーⅠC 人文科学セミナー 特別演習Ⅰ フランス語セミナーⅡC フランス語セミナーⅡB フランス語セミナーⅡD 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2通 2後～3前 3前 3後 3後 3後～4前 4後	2 2 2 4 4 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成16.4）						
72	その他	教授	ﾌｶｵ ﾏｻﾀｶ 深尾　昌峰 ＜令和9年10月＞		修士（教育学）		ケースで学ぶローカルファイナンス		3後	2	1	龍谷大学 政策学部 教授 （平成22.4）						
73	その他	教授	ﾌｼﾞｷ ｼﾞｭﾝｼﾞ 藤木　潤司 ＜令和7年4月＞		修士（商学）※		初級商業簿記 財務会計入門 財務会計論		1後 2前 2後	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成16.4）						
74	その他	教授	ﾌｼﾞﾀ ｶｽﾞﾋﾛ 藤田　和弘 ＜令和7年4月＞		博士（学術）		データサイエンス・AI入門		1前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平成16.4）						
75	その他	教授	ﾌﾅﾀﾞ ｻﾄｼ 船田　智史 ＜令和8年10月＞		博士（理学）		学部共通特別講義A		2後	2	1	龍谷大学 政策学部 教授 （令和4.4）						
76	その他	教授	ﾏｴｶﾜ ﾀｶﾌﾐ 前川　貴史 ＜令和7年10月＞		Ph.D in linguis-tics （ｲｷﾞﾘｽ）		海外英語研修		1後	4	2	龍谷大学 社会学部 教授 （平成25.4）						
77	その他	教授	ﾏｽﾀﾞ ﾔｽﾋｺ 増田　靖彦 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		大学論　※ ヨーロッパ研究B		2前 3前	0.27 2	1 1	龍谷大学 心理学部 教授 （平成24.4）						
78	その他	教授	ﾏﾂｲ ﾘｭｳｺﾞ 松居　竜五 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		大学論　※		2前	0.27	1	龍谷大学 国際学部 教授 （平成13.4）						
79	その他	教授	ﾏﾂｳﾗ ｻﾄｺ 松浦　さと子 ＜令和7年4月＞		博士（学術）		社会学のすすめ 現代社会とメディア 現代社会の諸問題	○	1前 2前 2前	8 2 2	4 1 1	龍谷大学 政策学部 教授 （平成14.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
80	その他	教授	ﾏﾂｵ ﾋﾃﾞﾔ 松尾　秀哉 ＜令和8年10月＞		博士（学術）		演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1	龍谷大学 法学部 教授 （平成30.4）						
							演習Ⅱ(卒業研究含む)	○	3後～4後	6	1							
81	その他	教授	ﾏﾂｼﾏ ﾔｽｶﾂ 松島　泰勝 ＜令和8年4月＞		博士（経済学）		現代社会の諸問題　※		2前	0.13	1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成20.4）						
							地域経済論		2後	4	1							
82	その他	教授	ﾏﾅﾅｶﾞ ｹｲｺ 松永　敬子 ＜令和8年10月＞		修士（体育学）		特別演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成20.4）						
							スポーツキャリア実習	○	3後	2	1							
							スポーツマネジメント論	○	3前	2	1							
							キャリア入門(スポーツサイエンスコース)	○	3前	2	1							
							スポーツサイエンスコース特別講義(スポーツビジネス)		3後	2	1							
							スポーツサイエンスコース特別講義(水泳)		3後	2	1							
							スポーツマーケティング論		3後	2	1							
							特別演習Ⅱ	○	3後～4前	4	1							
							特別演習Ⅲ	○	4後	4	1							
83	その他	教授	ﾏﾄﾊﾞ ﾉﾌﾞﾀｶ 的場　信敬 ＜令和8年10月＞		Ph.D in Urban and Regional Studies （ｲｷﾞﾘｽ）		持続可能な発展概論　※		2後	1.87	1	龍谷大学 政策学部 教授 （平成23.4）						
84	その他	教授	ﾐﾊﾗ ﾘｭｳｼ 三原　龍志 ＜令和7年4月＞		教育学士		日本語	○	1前	4	4	龍谷大学 文学部 教授 （平成23.4）						
85	その他	教授	ﾐﾔｳﾗ ﾄﾐﾔｽ 宮浦　富保 ＜令和7年4月＞		農学博士		里山学　※		1前	0.13	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平成14.4）						
86	その他	教授	ﾑﾗｾ ﾌﾐｺ 村瀬　文子 ＜令和7年4月＞		Doctor of Philosophy （ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		英語総合1(A)	○	1前	1	1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成29.4）						
							英語総合2(A)	○	1後	1	1							
							英語総合3(A)	○	2前	1	1							
							英語総合4(A)	○	2後	1	1							
87	その他	教授	ﾒﾍﾞｯﾄﾞ ｼｪﾘﾌ メベッド　シェリフ ＜令和7年4月＞		博士（文学）		英語セミナーI1		1前	2	1	龍谷大学 法学部 教授 （平成26.4）						
							英語セミナーI2		1後	2	1							
							Oral Communication ⅠA	○	2後	4	1							
							Oral Communication ⅠB	○	2後	4	1							
							米国文化Ⅰ	○	2後	2	1							
							Intercultural Discussion	○	3前	2	1							
							Oral Communication ⅡA	○	3前	4	1							
							Oral Communication ⅡB	○	3前	4	1							
							米国文化Ⅱ	○	3前	2	1							
							Intercultural Discussion	○	3後	2	1							
							Seminar Ⅰ	○	3後	2	1							
							Seminar Ⅱ	○	4前	2	1							
							卒業研究	○	4後	4	1							
88	その他	教授	ﾔｽﾀﾞ ｹｲｼ 安田　圭史 ＜令和8年4月＞		Master en Artes Liberales （ｽﾍﾟｲﾝ）		スペイン語ⅢA	○	2前	1	1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成22.4）						
							スペイン語ⅢB	○	2後	1	1							
							特別演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							スペイン語セミナーⅡA		3前	2	1							
							スペイン語セミナーⅡB		3後	2	1							
							特別演習Ⅱ	○	3後～4前	4	1							
							特別演習Ⅲ	○	4後	4	1							
89	その他	教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾀｸﾍｲ 山田　卓平 ＜令和8年10月＞		修士（法学）		演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1	龍谷大学 法学部 教授 （平成23.4）						
							国際法Ⅰ		2後	4	1							
							国際取引法		3前	2	1							
							国際法Ⅱ		3前	2	1							
							演習Ⅱ(卒業研究含む)	○	3後～4後	6	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
90	その他	教授	ﾔﾜﾀ ｺｳｲﾁ 八幡　耕一 ＜令和8年4月＞		博士（国際広報メディア）		現代社会の諸問題　※		2前	0.13	1	龍谷大学 国際学部 教授 （平成23.4）						
91	その他	教授	ﾛｻﾞｰﾃｨ ｻｲﾓﾝ ロザーティ　サイモン ＜令和7年4月＞		M.A. TESOL （ｲｷﾞﾘｽ）		English language (Ryukoku Intercultural Program)		1前	12	1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成元.10）						
							Lecture (Ryukoku Intercultural Program)		1前	6	1							
							Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)		1前	6	1							
							Oral Communication ＩA	○	2後	4	1							
							英国文化Ⅰ	○	2後	2	1							
							海外研修	○	2後	8	2							
							Oral Communication ⅡA	○	3前	4	1							
							英語セミナーJ1		3前	2	1							
							英語セミナーJ2		3後	2	1							
							英国文化Ⅱ	○	3前	2	1							
							Seminar Ⅰ	○	3後	2	1							
							Seminar Ⅱ	○	4前	2	1							
							卒業研究	○	4後	4	1							
92	その他	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｴｲｼﾞ 渡辺　英児 ＜令和9年4月＞		博士（体育学）		スポーツ心理学Ⅰ		3前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平成15.4）						
							スポーツ心理学Ⅱ		3後	2	1							
93	その他	准教授	ｱﾗｲ ｼﾞｭﾝ 新井　潤 ＜令和7年10月＞		理学修士		情報科学実習		1後	4	1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成9.4）						
							情報科学入門	○	2前	2	1							
							情報科学Ⅰ		2後	2	1							
							コンピュータシステム論	○	3前	4	1							
							情報科学Ⅱ		3前	2	1							
							シミュレーション技法	○	3後	2	1							
94	その他	准教授	ｲﾄｳ ﾀｶﾖｼ 伊藤　貴祥 ＜令和7年4月＞		言語学博士（韓国）		コリア語Ⅰ	○	1前	2	1	龍谷大学 法学部 准教授 （平成29.4）						
							コリア語Ⅱ	○	1後	2	1							
							特別演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							コリア語セミナーⅡC		3前	2	1							
							コリア語セミナーⅡD		3後	2	1							
							特別演習Ⅱ	○	3後～4前	4	1							
							特別演習Ⅲ	○	4後	4	1							
95	その他	准教授	ｳ　ｹﾝ 于　健 ＜令和9年4月＞		博士（経営学）		国際経営戦略論		3前	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （令和4.4）						
96	その他	准教授	ｳｴﾔﾏ ﾐｶ 上山　美香 ＜令和8年10月＞		博士（経済学）		開発経済学A		2後	2	1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成24.4）						
							開発経済学B		2後	2	1							
97	その他	准教授	ｳｽｲ ﾄﾓｺ 碓井　智子 ＜令和7年4月＞		博士（人間・環境学）		英語総合1(B)	○	1前	1	1	龍谷大学 政策学部 准教授 （平成27.4）						
							英語総合2(B)	○	1後	1	1							
							Communicative Grammar Ⅰ	○	2後	2	1							
							Communicative Grammar Ⅱ	○	3前	2	1							
98	その他	准教授	ｳﾁﾀﾞ ｼﾞｭﾝｼﾝ 内田　准心 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		(本山教師)仏教史　※		1前	0.63	1	龍谷大学 文学部 准教授 （平成30.4）						
99	その他	准教授	ｳﾒｻﾞﾜ ﾄｼﾋﾛ 梅澤　俊浩 ＜令和8年4月＞		博士（商学）		工業簿記		2前	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （平成31.4）						
100	その他	准教授	ｶﾐﾔ ﾕｳｽｹ 神谷　祐介 ＜令和8年10月＞		博士（国際公共政策）		国際協力論		2後	4	1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成26.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
101	その他	准教授	ｶﾔｷ ﾉﾘﾔ 栢木　紀哉 ＜令和7年4月＞		博士（工学）/ 博士（学校教育学）		経営情報学Ⅰ 経営データ分析Ⅰ プログラミングⅠ プログラミングⅡ		1前 1後 2後 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 准教授 （令和4.4）						
102	その他	准教授	ｶﾜﾅｶ ﾀﾞｲｽｹ 川中　大輔 ＜令和7年4月＞		修士（社会デザイン学）		教養教育科目特別講義　※		1前	0.13	1	龍谷大学 社会学部 准教授 （平成29.4）						
103	その他	准教授	ｷﾉｼﾀ ﾉﾘｱｷ 木下　謙朗 ＜令和7年4月＞		博士（日本語教育学）		言語と文化 日本語	○ ○	1前 1前	2 8	1 8	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成27.4）						
104	その他	准教授	ｷｮ ｽﾐ 許　秀美 ＜令和8年4月＞		博士（言語文化学）		コリア語ⅢC コリア語セミナーⅠA コリア語ⅢD コリア語セミナーⅠB 特別演習Ⅰ 東アジア研究B 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○ ○	2前 2前 2後 2後 2後～3前 3前 3後～4前 4後	1 2 1 2 4 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 心理学部 准教授 （平成25.4）						
105	その他	准教授	ｸﾄﾞｳ ｶｽﾞﾔ 工藤　和也 ＜令和7年4月＞		博士（言語学）		英語セミナーG1 英語総合1(B) 英語セミナーG2 英語総合2(B)	 ○ ○	1前 1前 1後 1後	2 1 2 1	1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成26.4）						
106	その他	准教授	ｸﾎﾞ ﾄｼﾋｻ 久保　利久 ＜令和7年4月＞		博士（数学）		確率・統計入門 数学への旅 微分と積分 数学の世界 数理統計学 大学論　※	○ ○	1前 1前 1前 2前 2前 2前	4 4 4 4 4 0.27	2 2 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成28.4）						
107	その他	准教授	ｺﾏｻ ﾋﾛﾉﾘ 小正　浩徳 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		教養教育科目特別講義　※		1前	0.13	1	龍谷大学 心理学部 准教授 （平成24.4）						
108	その他	准教授	ｻｻｷ ﾀﾞｲｺﾞ 佐々木　大悟 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		歎異抄の思想Ⅰ 歎異抄の思想Ⅱ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 短期大学部 准教授 （平成26.4）						
109	その他	准教授	ｼｵﾉｻﾞｷ ｼﾝﾔ 塩野﨑　信也 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		トルコ語Ⅰ トルコ語Ⅱ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 文学部 准教授 （平成29.4）						
110	その他	准教授	ｼﾌﾞﾔ ﾘｮｳ 渋谷　亮 ＜令和7年4月＞		博士（人間科学）		教育学のすすめA 教育学のすすめB 教育原論A 現代社会と教育A 人文科学セミナー 教育原論B 現代社会と教育B	○ ○	1前 1後 2前 2前 2通 2後 2後	2 2 4 2 4 4 2	1 1 2 1 1 2 1	龍谷大学 文学部 准教授 （平成31.4）						
111	その他	准教授	ｼﾏﾈ ﾖｼｴ 島根　良枝 ＜令和8年10月＞		修士（経済学）		アジア経済論A アジア経済論B		2後 2後	2 2	1 1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成22.9）						
112	その他	准教授	ｾﾊﾞﾀ ﾊｼﾞﾒ 瀬畑　源 ＜令和8年10月＞		博士（社会学）		演習Ⅰ 演習Ⅱ(卒業研究含む)	○ ○	2後～3前 3後～4後	4 6	1 1	龍谷大学 法学部 准教授 （令和2.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
113	その他	准教授	ﾀﾆｶﾞｷ ﾀｹﾄ 谷垣　岳人 ＜令和7年4月＞		修士（工学）※		生態学のすすめ 日本の自然　※ 里山学　※ 生命誌 演習Ⅰ 学部共通特別講義C 環境フィールドワーク　※ 環境実践研究 演習Ⅱ 卒業研究	○ ○ ○ ○ ○ ○	1前 1前 1前 2前 2後～3前 2後 2後～3前 3前 3後～4前 4後	8 0.80 0.13 4 4 4 1.07 4 4 4	2 2 1 2 1 1 1 2 1 1	龍谷大学 政策学部 准教授 （平成18.4）						
114	その他	准教授	ﾀﾝﾉ ｹﾝｲﾁ 丹野　研一 ＜令和7年4月＞		博士（農学）		生物科学のすすめ 里山学　※ 自然誌実習　※ 植物の自然誌 演習Ⅰ 環境フィールドワーク　※ 演習Ⅱ 卒業研究	○ ○ ○ ○ ○	1前 1前 2前 2前 2後～3前 2後～3前 3後～4前 4後	12 1.20 0.53 2 4 1.07 4 4	3 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 文学部 准教授 （平成30.4）						
115	その他	准教授	ﾂﾊﾞｷﾊﾗ ｱﾔｺ 椿原　敦子 ＜令和7年4月＞		博士（人間科学）		里山学　※		1前	0.13	1	龍谷大学 社会学部 准教授 （平成28.4）						
116	その他	准教授	ﾃｼﾏ ﾔｽﾉﾌﾞ 手嶋　泰伸 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		日本の歴史A 日本の歴史B 大学論　※ 歴史学入門 日本の文化	○ ○ 	1前 1後 2前 2前 2後	4 4 0.40 4 4	1 1 1 2 1	龍谷大学 文学部 准教授 （令和2.4）						
117	その他	准教授	ﾃﾞﾌﾞﾅｰﾙ ﾐﾛｼｭ デブナール　ミロシュ ＜令和7年4月＞		博士（文学）		英語で学ぶ日本の社会A		1前	2	1	龍谷大学 国際学部 准教授 （平成29.4）						
118	その他	准教授	ﾃﾞﾝ ｴﾝ 田　園 ＜令和8年10月＞		博士（経済学）		ファイナンス理論		2後	4	1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成23.4）						
119	その他	准教授	ﾄｳﾔﾏ ｶｵﾙ 東山　薫 ＜令和7年4月＞		博士（心理学）		心の科学A 心理学 心の科学B 学習・発達論A 人文科学セミナー 学習・発達論B	○ ○ ○ 	1前 1前 1後 2前 2通 2後	2 8 2 2 4 2	1 2 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成27.4）						
120	その他	准教授	ﾅｶｷ ｱｲ 中木　愛 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		中国語セミナーⅡC 中国語セミナーⅡD	 	3前 3後	2 2	1 1	龍谷大学 文学部 准教授 （平成23.4）						
121	その他	准教授	ﾅｶﾀ ﾕｳｺ 中田　裕子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		アジアの歴史A 現代社会の諸問題　※	○ 	1前 2前	4 0.53	1 1	龍谷大学 農学部 准教授 （平成27.4）						
122	その他	准教授	ﾆｭｳﾔ ｼｭｳｲﾁ 入谷　秀一 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		哲学入門 倫理学入門 人文科学セミナー 大学論　※	○ ○ 	1前 1前 2通 2前	8 4 4 0.67	4 2 1 1	龍谷大学 文学部 准教授 （平成28.4）						
123	その他	准教授	ﾉｳﾐ ｼﾞｭﾝｼ 能美　潤史 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		大学論　※ 歎異抄の思想Ⅰ 歎異抄の思想Ⅱ	 	2前 2前 2後	0.40 2 2	1 1 1	龍谷大学 法学部 准教授 （平成26.4）						
124	その他	准教授	ﾉﾛ ｾｲ 野呂　靖 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		(本山教師)仏教史　※ 教養教育科目特別講義　※	 	1前 1前	0.38 0.13	1 1	龍谷大学 心理学部 准教授 （平成23.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
125	その他	准教授	ﾊﾏｸﾞﾁ ｼｮｳｺ 濵口　晶子 ＜令和7年4月＞		修士（法学）※		日本国憲法	○	1前	2	1	龍谷大学 法学部 准教授 （平成23.4）						
126	その他	准教授	ﾊﾏﾀﾞ ﾀｶﾖｼ 濵田　崇嘉 ＜令和8年4月＞		修士（商学）※		財務諸表分析入門 中級商業簿記		1後 2前	2 2	1 1	龍谷大学 経営学部 准教授 （平成21.4）						
127	その他	准教授	ﾋﾒﾀﾞ ｼﾝﾔ 姫田　慎也 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 短期大学部 准教授 （平成26.4）						
128	その他	准教授	ﾋﾙｶﾘ ﾏｻﾕｷ 蛭川　雅之 ＜令和7年10月＞		Ph.D. in Economics （ｱﾒﾘｶ合衆国）		統計学		1後	4	1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成30.4）						
129	その他	准教授	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾀｶﾄ 藤原　崇人 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		アジアの歴史A アジアの歴史B 人文科学セミナー 歴史学入門	○ ○	1前 1後 2通 2前	4 4 4 4	1 1 1 2	龍谷大学 文学部 准教授 （平成31.4）						
130	その他	准教授	ﾏｴﾀﾞ ｱｷﾋﾛ 前田　哲宏 ＜令和7年4月＞		修士（学校教育学）		英語総合1(A) 英語総合2(A)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 文学部准教授 （平成31.4）						
131	その他	准教授	ﾏﾂﾊﾀ ﾅｵｺ 松畑　尚子 ＜令和7年4月＞		修士（体育学）※		スポーツ技術学演習 現代社会とスポーツ 現代スポーツ論 特別演習Ⅰ スポーツ政策論 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 2後 2後～3前 3前 3後～4前 4後	6 4 2 4 2 4 4	3 2 1 1 1 1 1	龍谷大学 法学部 准教授 （平成28.4）						
132	その他	准教授	ﾑﾗｶﾐ ﾘｮｳ 村上　亮 ＜令和7年4月＞		博士（歴史学）		西洋の歴史A 西洋の歴史B 大学論　※ 西洋の歴史C	○ ○	1前 2前 2前 2後	8 4 0.40 4	2 2 1 2	龍谷大学 法学部 准教授 （令和6.4）						
133	その他	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾏｺﾄ 山田　誠 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		環境学 地球科学のすすめ 日本の自然　※ 自然誌実習　※ 演習Ⅰ 学部共通特別講義B 環境学A 環境フィールドワーク　※ 環境地理学　※ 演習Ⅱ 卒業研究	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1前 1前 1前 2前 2後～3前 2後 2後 2後～3前 2後 3後～4前 4後	8 4 0.54 0.80 4 2 2 1.47 0.27 4 4	2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成29.4）						
134	その他	講師	ｱｶｵ　ﾐﾂﾊﾙ 赤尾　光春 ＜令和8年10月＞		博士（学術）		ヨーロッパ研究A		2後	2	1	国立民族学博物館 特任助教 （令和4.10）						
135	その他	講師	ｱｻｶ　ﾄﾓｷ 朝香　知己 ＜令和8年4月＞		博士（神学）		ジェンダー論		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						
136	その他	講師	ｱﾀﾞﾑｽ　ｷｰｽ　ｳｴｽﾞﾘｰ アダムス　キース　ウエズリー ＜令和8年10月＞		Master in　Hisotry (Ancient and nvironmental) （カナダ）		Oral Communication ⅠB Debate and Discussion Oral Communication ⅡB Process Writing 学部共通特別講義Ⅴ	○ ○ ○ 	2後 3前 3前 3前 3後	4 4 4 4 2	1 2 1 2 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
137	その他	講師	ﾌﾀﾔ　ﾐｴｺ 顕谷　美枝子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成15.4）						
138	その他	講師	ｲ　ｼﾞｮﾝﾋｮﾝ 李　姃炫 <令和7年4月>		博士（言語文化学）		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
139	その他	講師	ｲｶﾞﾗｼ　ﾉﾘｺ 五十嵐　徳子 ＜令和8年4月＞		博士（言語文化学）		ロシア語Ⅰ ロシア語Ⅱ		2前 2後	2 2	1 1	天理大学 国際学部 教授 （平成27.4）						
140	その他	講師	ｲｸｼﾏ　ﾋﾛｺ 生島　弘子 <令和8年4月>		博士（文学）		倫理学B		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成30.4）						
141	その他	講師	ｲｹｵ　ﾔｽｼ 池尾　靖志 ＜令和8年4月＞		修士（国際関係学）		平和学A		2前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成18.4）						
142	その他	講師	ｲｹﾀﾞ　ﾏﾘｱ イケダ　マリア ＜令和7年4月＞		博士（経済学）		英語で学ぶ日本の社会B		1前	2	1	京都産業大学 経済学部 准教授 （平成28.4）						
143	その他	講師	ｲｹﾊﾀ　ﾁｶｺ 池端　千賀子 ＜令和7年10月＞		博士（アメリカ研究）		英語資格試験セミナー		1後	2	1	大阪公立大学 特任講師 （令和4.4）						
144	その他	講師	ｲｹﾏ　ｼｭﾝｽｹ 池間　俊祐 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		仏教の思想A 仏教の思想B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
145	その他	講師	ｲｻﾞﾜ　ｷﾖｼ 井澤　清 ＜令和8年4月＞		文学修士※		ラテン語Ⅰ ラテン語Ⅱ		2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						
146	その他	講師	ｲｼｲ　ﾀﾞｲｽｹ 石井　大輔 <令和9年4月>		博士（学術）		ヨーロッパ研究D		3前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成24.4）						
147	その他	講師	ｲｼｲ　ﾓﾄｺ 石井　素子 ＜令和8年4月＞		修士（教育学）※		フランス語ⅢC フランス語ⅢD	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成9.4）						
148	その他	講師	ｲｿﾉ　ｼｮｳｺﾞ 磯野　将吾 ＜令和8年10月＞		修士(経済学)		ヨーロッパ経済史		2後	4	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
149	その他	講師	ｲｿﾉ　ﾖｼﾐ 磯野　吉美 ＜令和7年4月＞		修士（言語・文化学）		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成12.4）						
150	その他	講師	ｲﾀｸﾗ ｶｽﾞﾅﾘ 板倉　一成 ＜令和8年10月＞		学士（経済学）		コンテンツビジネス論　※		2後	0.53	1	株式会社ディレクターズ・ユニブ 代表取締役 （平成20.7）						
151	その他	講師	ｲﾁﾊﾗ　ﾏｻｺ 一原　雅子 ＜令和9年4月＞		博士（地球環境学）		環境アセスメント論		3前	2	1	総合地球環境学研究所京都気候変動適応センター 研究員 （令和3.10）						
152	その他	講師	ｲﾃﾞ　ｼﾝﾔ 井出　真也 ＜令和8年4月＞		修士（法学）※		国際社会論 国際法Ⅲ		2前 3後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成20.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
153	その他	講師	ｲﾄｳ　ｼｮｳｴｲ 伊藤　正栄 ＜令和8年4月＞		修士（文学）		英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成12.4）						
154	その他	講師	ｲﾄｳ　ﾄﾓﾕｷ 伊藤　倫之 ＜令和9年4月＞		博士（医学）		スポーツ医学		3前	2	1	愛知学院大学 健康科学部 教授 （令和5.4）						
155	その他	講師	ｲﾄｳ　ﾋﾄｼ 伊藤　均 ＜令和8年10月＞		文学修士※		環境と倫理	○	2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成27.4）						
156	その他	講師	ｲﾉｳｴ　ｹｲｺ 井上　惠子 ＜令和7年4月＞		博士（学術）		スポーツ技術学演習	○	1前	8	4	龍谷大学 非常勤講師 （平成11.4）						
157	その他	講師	ｲﾉｳｴ　ﾚｲｺ 井上　玲子 ＜令和7年4月＞		修士（日本語教育学）		日本語	○	1前	4	4	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
158	その他	講師	ｲﾏｲ　ｹｲｽｹ 今井　啓介 ＜令和7年4月＞		修士（スポーツ科学）		スポーツ技術学演習	○	1前	12	6	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						
159	その他	講師	ｲﾏﾑﾗ　ﾀｶｵ 今村　隆男 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		英語総合1(A) 英語総合2(A)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	和歌山大学 教育学部 教授 (平成16.4)						
160	その他	講師	ｲﾜｻｷ　ﾀｹﾄ 岩崎　豪人 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		クリティカル・シンキング	○	1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成13.4）						
161	その他	講師	ｳｴﾆｼ　ﾏｺﾄ 上西　実 ＜令和7年4月＞		修士（理学）		日本の自然　※ 里山学　※ 自然誌実習　※ 野外観察法 生態学A 水界生態論	 ○ 	1前 1前 2前 2前 2後 3前	2.14 0.13 1.87 2 2 2	2 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成15.4）						
162	その他	講師	ｳｴﾆｼ　ﾔｽﾕｷ 上西　泰之 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		アジアの歴史A	○	1前	4	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
163	その他	講師	ｳｴﾉ　ﾘｭｳﾍｲ 上野　隆平 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		仏教の思想A 仏教の思想B 仏教学概論	○ ○ 	1前 1後 2通	2 2 4	1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成26.4）						
164	その他	講師	ｳｴﾊﾗ　ﾔｽﾉﾌﾞ 上原　尉暢 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 4	1 2	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						
165	その他	講師	ｳｼﾈ　ﾔｽﾋﾛ 牛根　靖裕 ＜令和7年10月＞		博士（文学）		アジアの歴史B	○	1後	4	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成30.4）						
166	その他	講師	ｳﾁﾀﾞ　ﾕｷ 内田　有紀 ＜令和7年4月＞		博士（言語文化学）		英語総合1(A) 言語と文化 英語総合2(A)	○ ○ ○	1前 1前 1後	1 2 1	1 1 1	龍谷大学 法学部 講師 （平成29.4）						
167	その他	講師	ｳﾘｭｳ　ｱﾂﾖ 瓜生　濃世 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成15.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
168	その他	講師	オ　インジェ 呉　仁済 ＜令和7年4月＞		修士（法学）※		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
169	その他	講師	ｵｳ　ｱｼﾝ 王　亜新 ＜令和7年4月＞		修士（経済学）※		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成22.4）						
170	その他	講師	ｵｵｼﾊﾞ　ﾘﾎ 大芝　理穂 ＜令和7年4月＞		修士（法学）		日本国憲法 現代社会と法	○	1前 2前	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.4）						
171	その他	講師	ｵｵﾀ　ﾕｶ 太田　由佳 ＜令和8年10月＞		博士（人間・環境学）		自然科学史Ⅱ		2前	2	1	日本学術振興会特別研究員 RPD （令和4.4）						
172	その他	講師	ｵｵﾀﾆ　ﾀｹﾌﾐ 大谷　岳文 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		哲学A 論理学	○	1前 2前	2 4	1 2	龍谷大学 非常勤講師 （平成5.4）						
173	その他	講師	ｵｵﾂｶ　ﾔｽﾋｻ 大塚　泰寿 ＜令和8年10月＞		博士（法学）		学部共通特別講義Ａ 国際環境法 国際関係論Ⅱ		2後 2後 3前	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成18.4）						
174	その他	講師	ｵｵﾊﾞ　ｺﾞﾛｳ 大場　吾郎 ＜令和8年10月＞		ph.D in Mass Communication （アメリカ合衆国）		異文化研究A 国際ジャーナリズム論		2後 3前	2 2	1 1	佛教大学 社会学部 教授 （平成27.4）						
175	その他	講師	ｵｵﾑﾗ　ｶｽﾞﾏｻ 大村　和正 〈令和9年4月〉		博士（学術）		ヨーロッパ政治論		3前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成21.4）						
176	その他	講師	ｵｶﾞｼﾜ　ﾋﾛﾄｼ 小柏　裕俊 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		フランス語セミナーＩＡ フランス語セミナーＩＣ フランス語セミナーＩＢ フランス語セミナーＩＤ		2前 2前 2後 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成27.4）						
177	その他	講師	ｵｶﾓﾄ　ﾀﾞｲｽｹ 岡本　大典 ＜令和8年4月＞		学士（法学）		スポーツと人権・平和 スポーツ法学		2前 3後	2 2	1 1	松柏法律事務所 パートナー （平成27.1）						
178	その他	講師	ｵｶﾞﾜ　ﾋﾛｶｽﾞ 小河　寛和 ＜令和8年4月＞		文学碩士 （大韓民国）		コリア語ⅢA コリア語ⅢB	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.4）						
179	その他	講師	ｵｶﾞﾜ　ﾏｻｼ 小川　雅志 ＜令和8年10月＞		修士（教育学）		身体運動の機能解剖学 特別演習Ⅰ エクササイズテクニック スポーツトレーニング論 バイオメカニクス 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○	2後 2後～3前 3前 3後 3後 3後～4前 4後	2 4 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
180	その他	講師	ｵｸ(ﾀﾅﾀﾞ)　ﾅｵｺ 奥（金田）　尚子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		英語総合1(A) 英語総合2(A)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成15.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
181	その他	講師	ｵｸﾊﾞﾔｼﾘｭﾋﾛ 奥林　礼寛 ＜令和7年10月＞		修士（商学）		ベーシックアカウンティングⅡ		1後	2	1	アーム税理士法人 税理士 （平成25.4）						
182	その他	講師	ｵｻﾞｷ ﾄﾓｺ 尾崎　智子 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		現代社会の諸問題　※		2前	0.13	1	龍谷大学 農学部 講師 （令和4.4）						
183	その他	講師	ｵｻﾀﾞ　ｷﾖｼ 長田　希好 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		英語総合1(A) 英語総合2(A) 英語総合3(B) 英語総合4(B)	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成12.4）						
184	その他	講師	ｵﾁｱｲ　ｶｵﾘ 落合　芳 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成28.4）						
185	その他	講師	ｵﾉﾂﾞｶ　ﾖｼﾐﾂ 小野塚　佳光 ＜令和8年10月＞		経済学修士※		比較経済論B 比較経済論A		2後 3前	2 2	1 1	同志社大学 経済学部 教授 （平成6.4）						
186	その他	講師	ｶ　ｾｲﾒｲ 夏　世明 ＜令和9年4月＞		博士（技術革新的経営）		社会調査の技法		3前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
187	その他	講師	ｶｷﾓﾄ　ﾖｼﾐ 柿本　佳美 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		倫理学A	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成17.4）						
188	その他	講師	ｶｻｲ　ｴﾘｺ 葛西　映吏子 ＜令和7年4月＞		博士（社会学）		社会学のすすめ ジェンダー論	○	1前 2前	6 2	3 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成28.4）						
189	その他	講師	ｶｼﾞﾀ　ﾏﾅﾌﾞ 梶田　学 ＜令和7年4月＞		教育学士		日本の自然　※		1前	0.80	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
190	その他	講師	ｶｼﾓﾄ　ﾖｼｶｽﾞ 樫本　喜一 ＜令和8年10月＞		博士（人間科学）		技術論		2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.4）						
191	その他	講師	ｶﾂﾗ　ﾏｻﾐﾁ 桂　正道 ＜令和7年4月＞		学士（文学）		宗門法規		1前	2	1	浄土真宗本願寺派 寺院活動支援部長 （平成31.4）						
192	その他	講師	ｶﾄｳ　ｼﾝｺﾞ 加藤　真悟 ＜令和7年4月＞		学士（文学）		教化法　※		1通	0.67	1	浄土真宗本願寺派 自然寺代表役員 （平成12.10）						
193	その他	講師	ｶﾄｳ　ﾔｽｺ 加藤　泰子 ＜令和7年4月＞		博士（アメリカ研究）		社会調査のすすめ	○	1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成28.4）						
194	その他	講師	ｶﾄﾞﾜｷ　ｺｳﾒｲ 門脇　浩明 ＜令和8年4月＞		Ph.D. Biological Sciences （米国）		民族の自然誌		2前	2	1	京都大学 白眉センター 特定准教授 （平成30.4）						
195	その他	講師	ｶﾅﾓﾘ　ｴﾘ 金森　絵里 ＜令和9年4月＞		博士（経済学）		ケースで学ぶアカウンティング		3前	2	1	立命館大学 経営学部 教授 （平成12.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
196	その他	講師	カネコ アキコ 金子　あき子 ＜令和7年4月＞		博士（経済学）		教養教育科目特別講義　※		1前	0.13	1	龍谷大学 農学部 講師 （平成31.4）						
197	その他	講師	カネコ（セト） レイ 金子（瀬戸）麗 ＜令和8年4月＞		博士（人間科学）		学校教育社会学		2前	4	2	日本学術振興会 特別研究員 PD （令和5.4）						
198	その他	講師	カミノ ヤスユキ 神野　恭行 ＜令和7年4月＞		外国語学修士		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語ⅢA 中国語ⅢB	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成2.4）						
199	その他	講師	カメイ タイキ 亀井　大樹 ＜令和8年10月＞		修士（経済学）		ビジネスヒストリーB		2後	2	1	同志社大学 商学部 助教 （令和3.4）						
200	その他	講師	ガ゛ルシア アルバ゛レス アンド゛レス ガルシア　アルバレス アンドレス ＜令和7年4月＞		修士（応用言語学） 修士（スペイン語教授法学）		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ スペイン語ⅢC スペイン語セミナーⅠC スペイン語ⅢD スペイン語セミナーⅠD	○ ○ ○ ○ 	1前 1後 2前 2前 2後 2後	2 2 1 2 1 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成30.4）						
201	その他	講師	カワイ ヒロユキ 川合　宏之 ＜令和9年4月＞		博士（心理学）		商業科教育法Ⅰ		3前	2	1	流通科学大学 商学部 教授 （令和5.4）						
202	その他	講師	カワカツ ミキコ 川勝　美早子 ＜令和8年10月＞		修士（社会学）		京都企業論　※		2後	0.13	1	株式会社島津製作所 創業記念資料館 学芸員 （平成15.4）						
203	その他	講師	カワキタ ジュンコ 河北　純子 ＜令和7年4月＞		修士（学術）		スポーツ技術学演習	○	1前	8	4	龍谷大学 非常勤講師 （平成26.4）						
204	その他	講師	カワサキ ヤスシ 河崎　靖 ＜令和7年4月＞		文学修士※		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	京都大学大学院人間・環境学研究科 教授 （平成21.4）						
205	その他	講師	カワタ゛ ミカゼ゛ 川田　美風 ＜令和8年4月＞		博士（理学）		人類進化学		2前	4	2	京都大学大学院 理学研究科　助教 （令和5.4）						
206	その他	講師	カワバ゛タ コウイチ 川端　浩一 ＜令和8年10月＞		修士（スポーツ科学）		身体運動の生理学 フィットネスプログラミングⅠ 特別演習Ⅰ 健康スポーツ論 体力学 フィットネスプログラミングⅡ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○	2後 3前 2後～3前 3前 3前 3後 3後～4前 4後	2 2 4 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	宝塚医療大学 和歌山保健医療学部 講師 （令和2.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
207	その他	講師	カワモト　サトシ 川元　恵史 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		真宗教団史		1通	4	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.4）						
208	その他	講師	カン　グン 韓　軍 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成23.4）						
209	その他	講師	カンベ　ヒデヒコ 神戸　秀彦 ＜令和8年10月＞		法学修士※		環境と法	○	2後	2	1	関西学院大学 大学院司法研究科 教授 （平成22.4）						
210	その他	講師	キクカワ　マサコ 菊川　雅子 ＜令和7年4月＞		修士（アメリカ研究） M.A. in American Studies （米国）		英語セミナーA1 英語セミナーA2 英語総合3(A) 英語総合4(A)	 ○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
211	その他	講師	キシダ　サオリ 岸田　早織 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
212	その他	講師	キシモト　タカシ 岸本　貴士 ＜令和9年4月＞		博士（社会福祉学）		ソーシャルビジネス論		3前	2	1	尼崎医療生活協同組合 総務部長 （令和2.4）						
213	その他	講師	キタ　ルメ 喜多　留女 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		英語総合1(A) 英語総合1(B) 英語総合2(A) 英語総合2(B)	○ ○ ○ ○	1前 1前 1後 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成9.4）						
214	その他	講師	キタダ　リョウスケ 北田　了介 ＜令和9年4月＞		博士（経済学）		経済思想史		3前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
215	その他	講師	キタノ　ユウコ 北野　裕子 ＜令和8年10月＞		博士（文学）		京都企業論　※		2後	0.27	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成23.4）						
216	その他	講師	キタミネ　ヒロシ 北岑　大至 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		真宗学概論		2通	4	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和元.9）						
217	その他	講師	キド　アツコ 木戸　敦子 ＜令和8年4月＞		博士（言語文化）		英語総合3(B) 英語総合4(B)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成25.9）						
218	その他	講師	キド　ヨシノブ 木戸　好信 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		英語総合3(B) 英語総合4(B)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成24.4）						
219	その他	講師	キノシタ　ヒデオ 木下　英雄 ＜令和7年4月＞		博士（経済学）		社会統計学のすすめ	○	1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成14.4）						
220	その他	講師	キノシタ　ミキ 木下　実紀 ＜令和8年10月＞		博士（言語文化学）		グローバル・サウス研究A グローバル・サウス研究B	 	2後 3前	2 2	1 1	京都大学 白眉センター 特定助教 （令和6.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
221	その他	講師	キム　ジョンホ 金　情浩 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		コリア語コミュニケーションⅠ コリア語コミュニケーションⅡ	○ ○	2後 3前	2 2	1 1	京都女子大学 文学部 准教授 （平成27.4）						
222	その他	講師	キム　ヨンチャン 金　容贊 ＜令和8年4月＞		博士（国際関係学）		平和学A		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成25.4）						
223	その他	講師	キリムラ　タカシ 桐村　喬 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		空間データ分析		3前	2	1	京都産業大学 文化学部 准教授 （令和5.4）						
224	その他	講師	クォン　セミ 権　世美 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成26.4）						
225	その他	講師	クラシナ　カズキ 倉科　一希 ＜令和8年10月＞		Ph.D（History） 〈アメリカ合衆国〉		アメリカ政治論		2後	2	1	同志社大学 グローバル地域学部 教授 （令和4.4）						
226	その他	講師	クワガキ　ユタカ 桒垣　豊 ＜令和8年4月＞		工学修士		環境と社会		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成25.4）						
227	その他	講師	ゴ　エイキョク 呉　英玉 ＜令和7年4月＞		学士 （漢語言文学教育） （中国） 修士（文学）※		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語セミナーⅠA 中国語セミナーⅠB	○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成24.4）						
228	その他	講師	コウ　イエン 高　岩 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成21.4）						
229	その他	講師	コウモト　ヤスコ 河本　恭子 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		生命科学のすすめ　※ 生命科学	○	1前 1後	0.93 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
230	その他	講師	ゴトウ　ケイジ 後藤　桂治 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		確率・統計入門 数理と計算	○	1前 2前	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平成27.4）						
231	その他	講師	コバヤシ　ナオアキ 小林　直明 ＜令和9年4月＞		修士（言語・文化学）※		異文化研究B		3前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
232	その他	講師	コバヤシ　マサキ 小林　正樹 ＜令和8年4月＞		博士（経営情報学）		経営情報システム論		2前	2	1	摂南大学 経営学部 教授 （令和5.4）						
233	その他	講師	コマタ　タカヒロ 小俣　貴洋 ＜令和7年4月＞		修士（スポーツ健康科学）		スポーツ技術学演習	○	1前	8	4	京都先端科学大学 健康医療学部 嘱託講師 （令和5.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
234	その他	講師	ｺﾞｰﾏﾝ　ｼﾞｮﾝ ゴーマン　ジョン ＜令和8年4月＞		Bachelor of Arts in Soviet Studies (USA) Masters in Film Studies (Ireland)		英語セミナーE1		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成16.4）						
							英語総合3(B)	○	2前	1	1							
							Writing Ⅰ	○	2後	2	1							
							英語セミナーE2		2後	2	1							
							英語総合4(B)	○	2後	1	1							
							文化比較		2後	4	2							
							Dynamics of Expression		3前	4	2							
							Writing Ⅱ	○	3前	2	1							
235	その他	講師	ｻｲ ｼｭﾝｾｲ 崔　舜星 ＜令和7年4月＞		博士（情報科学）		データサイエンス・AI入門		1前	8	4	龍谷大学 心理学部 講師 （令和5.4）						
							社会統計学のすすめ	○	1前	4	2							
236	その他	講師	ｻｶｲ（ﾊｼｸﾞﾁ）ﾒｸﾞﾐ 坂井（橋口）めぐみ ＜令和7年4月＞		博士（学術）		科学論		2前	2	1	日本学術振興会特別研究員 RPD （令和4.4）						
237	その他	講師	ｻｶｶﾞﾐ　ﾏｻｱｷ 阪上　雅昭 ＜令和7年4月＞		理学博士		時間と空間の科学	○	1前	2	1	京都大学大学院人間・環境学研究科 教授 （平成8.4）						
							エネルギー入門		2前	4	2							
238	その他	講師	ｻｶﾀ　ｺﾉﾐ 坂田　彩 ＜令和8年10月＞		修士（言語文化）※		スペイン語コミュニケーションⅠ	○	2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成23.4）						
							スペイン語コミュニケーションⅡ	○	3前	2	1							
239	その他	講師	ｻｸﾗｷﾞ　ﾖｳｺ 櫻木　陽子 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		中国語Ⅰ	○	1前	1	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成20.4）						
							中国語Ⅱ	○	1後	1	1							
240	その他	講師	ｻｻﾉ ﾅｶﾞﾄｼ 佐々野　詠淑 ＜令和7年4月＞		博士（数理学）		行列と行列式 数学入門 数学の世界 数理と論証	○	1前 1前 2前 2前	4 4 4 4	1 2 1 2	龍谷大学 心理学部 講師 （令和5.4）						
241	その他	講師	ｻﾄｳ　ﾅﾂｷ 佐藤　夏樹 ＜令和7年10月＞		博士（文学）		現代世界の歴史B	○	1後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成24.9）						
242	その他	講師	ｻﾄｳ　ﾏｽﾐ 佐藤　万寿美 ＜令和7年4月＞		工学士		教職コンピュータ基礎		1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
243	その他	講師	ｻﾄｳ　ﾘｮｳｽｹ 佐藤　良輔 ＜令和7年4月＞		博士（学術）		政治学のすすめ	○	1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （令和元.9）						
244	その他	講師	ｻﾅﾀﾞ　ﾐﾂﾙ 真田　満 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		英語総合3(B)	○	2前	1	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成10.4）						
							英語総合4(B)	○	2後	1	1							
245	その他	講師	ｻﾉ　ﾐｴｺ 佐野　三枝子 ＜令和7年4月＞		文学博士 （大韓民国）		コリア語Ⅰ	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成11.9）						
							コリア語Ⅱ	○	1後	2	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
246	その他	講師	ｻﾙｶﾞﾛﾛ ﾙﾃﾞｨ サルガロロ　ルディ ＜令和7年4月＞		Doctorat en droit, economie et administration, mention sciences juridiques, specialite droit public （フランス）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語セミナーⅡA	○ ○	1前 1後 3前	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.4）						
247	その他	講師	ｻﾜ ﾕｳｽｹ 澤　祐介 ＜令和8年4月＞		修士（理学）		野外観察法		2前	2	1	公益財団法人 山階鳥類研究所 研究員 （令和2.6）						
248	その他	講師	ｻﾜﾀﾞ ﾘｭｳｿﾞｳ 澤田　隆三 ＜令和8年4月＞		学士（社会学）		コンテンツビジネス実践Ⅰ コンテンツビジネス実践Ⅱ		2前 2後	2 4	1 1	株式会社毎日放送 報道局 エグゼクティブ チーフ・プロ デューサー （昭和60.4）						
249	その他	講師	ｼﾉﾀﾞ ﾅｵﾋｻ 信田　尚久 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		哲学B		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成27.4）						
250	その他	講師	ｼﾉﾊﾗ ﾐｴ 篠原　美江 ＜令和8年10月＞		博士（国際関係学）		多国籍企業論		2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.4）						
251	その他	講師	ｼﾏ ﾕｳｺ 島　由子 ＜令和7年4月＞		博士（言語文化学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語セミナーⅠC 中国語セミナーⅠD	○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						
252	その他	講師	ｼﾏ ﾚｲｺ 島　令子 ＜令和8年4月＞		修士（言語学）		英語セミナーB1 English in the World Writing Ⅰ 英語セミナーB2 Writing Ⅱ	 ○ ○	2前 2後 2後 2後 3前	2 4 2 2 2	1 2 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成18.4）						
253	その他	講師	ｼﾏﾀﾞ ﾅﾎｺ 嶋田　菜穂子 ＜令和7年4月＞		修士（人間文化学） ※		環境学 地域環境論	○	1前 3前	4 2	1 1	総合地球環境学 研究所 研究員 （令和3.3）						
254	その他	講師	ｼﾐｽﾞ ｸﾘｺ 清水　久莉子 ＜令和8年4月＞		修士（教育学）		芸術の世界A 芸術の世界B		2前 2後	4 4	2 2	京都市立芸術大学 特任講師 （令和4.4）						
255	その他	講師	ｼｭｳ ｼｭﾝ 周　俊 ＜令和8年10月＞		博士（学術）		中国政治論		2後	2	1	同志社大学大学院 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ 研究科助教 (令和5.4)						
256	その他	講師	ｼｭﾚｽﾀ ・ﾏﾉｼﾞｭ シュレスタ　・マノジュ ＜令和9年4月＞		博士（学術）		Forum		3前	2	1	甲南大学 経営学部 教授 （平成12.4）						
257	その他	講師	ｼｮｳｼﾞ ﾋﾛﾄ 庄子　博人 ＜令和9年4月＞		博士（スポーツ科学）		スポーツと経済		3前	2	1	同志社大学 スポーツ健康科学 部 准教授 (平成31.4)						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
258	その他	講師	シライシ　カツタカ 白石　克孝 ＜令和8年10月＞		法学修士		比較地域政策論		2後	2	1	龍谷大学 政策学部 教授 （昭和63.4）						
259	その他	講師	シラサキ　アイ 白﨑　藍 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
260	その他	講師	シラサキ　キョウゾウ 白﨑　恭三 ＜令和9年10月＞		工学士		環境管理論Ⅱ	○	3後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
261	その他	講師	シン　ドンス 申　東洙 ＜令和7年4月＞		修士（日本学） （大韓民国）		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
262	その他	講師	シンノ　マモル 新野　守 ＜令和7年4月＞		教育学修士		スポーツ技術学演習 現代社会とスポーツ	○	1前 1後	6 2	3 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成15.4）						
263	その他	講師	スガタ　コウイチ 菅田　浩一 ＜令和8年4月＞		修士（文学）		英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
264	その他	講師	スギモト　フミコ 杉本　史子 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成15.4）						
265	その他	講師	スケスエ　ヒトミ 祐末　ひとみ ＜令和9年10月＞		修士（スポーツ科学）		地域スポーツ論		3後	2	1	びわこ学院大学 教育福祉学部 講師 （平成30.4）						
266	その他	講師	スズキ　ヒロオ 鈴木　啓央 ＜令和7年4月＞		博士（心理学）		スポーツ技術学演習 スポーツ科学最前線 健康とスポーツ 身体運動の制御と学習 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○ ○	1前 1前 2前 2後 2後～3前 3後～4前 4後	12 2 4 2 4 4 4	6 1 2 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 講師 （平成29.4）						
267	その他	講師	スズキ　ミオ 鈴木　美央 ＜令和8年10月＞		博士（工学）		デザインマネジメント実践		2後	4	1	東京理科大学 経営学部 講師 （令和2.4）						
268	その他	講師	スズキ　ミコ 鈴木　美湖 ＜令和7年4月＞		修士（英文学）		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
269	その他	講師	スドウ　アキコ 須藤　明子 ＜令和7年4月＞		博士（獣医学）		日本の自然　※		1前	0.80	2	株式会社イーグレット・オフィス 専務取締役 （平成10.10）						
270	その他	講師	スミクラ　ヒロノブ 隅倉　浩信 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		仏教の思想A 仏教の思想B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
271	その他	講師	セキ トモヒロ 関　智宏 ＜令和9年4月＞		博士（経営学）		ビジネスイノベーション 中小企業経営論		3前 3前	2 2	1 1	同志社大学 商学部 教授 （平成27.4）						
272	その他	講師	セノオ　トモノリ 妹尾　知則 ＜令和7年4月＞		修士（法学）		日本国憲法 現代社会と労働	○	1前 2前	4 2	2 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成19.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
273	その他	講師	ｾﾘｭｳ　ｼﾝｺﾞ 瀬領　真悟 ＜令和9年10月＞		法学修士		経済法		3後	2	1	同志社大学 法学部 教授 （H15.4）						
274	その他	講師	ｾﾝｶﾞ　ﾕｶ 千賀　由佳 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		中国語セミナーⅡA 中国語セミナーⅡB		3前 3後	2 2	1 1	龍谷大学 法学部 講師 （令和2.4）						
275	その他	講師	ｿﾝ　ｳﾆｮﾝ 宋　嶸蓉 ＜令和8年4月＞		博士（政策科学）		コリア語ⅢC コリア語ⅢD	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成27.4）						
276	その他	講師	ﾀｶﾀﾞ　ﾄｼｼﾞ 高田　敏司 ＜令和8年4月＞		学士（社会学）		現代社会と福祉		2前	2	1	京都新聞編集局 次長兼報道部長 （平成27.10）						
277	その他	講師	ﾀｶﾊｼ　ﾏﾅﾌﾞ 高橋　学 ＜令和7年4月＞		修士(外国語学）※		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成26.4）						
278	その他	講師	ﾀｶﾔﾅｷﾞ　ｱﾂｼ 高柳　敦 ＜令和7年4月＞		博士（農学）		里山学　※ 自然保護論	 ○	1前 2後	0.13 2	1 1	京都大学大学院 農学研究科 准教授 （令和元.11）						
279	その他	講師	ﾀｷｶﾞﾜ　ｸﾆﾖｼ 滝川　国芳 ＜令和8年10月＞		博士（医療福祉学）		特別支援教育概論		2後	4	2	京都女子大学 発達教育学部 教授 （平成31.4）						
280	その他	講師	ﾀｹｳﾁ　ﾂﾖｼ 竹内　剛 ＜令和9年4月＞		博士（理学）		生物共棲論		3前	2	1	大阪公立大学 大学院農学研究科 研究員 （平成25.4）						
281	その他	講師	ﾀｹｼﾀ　ｼｭｳ 竹下　柊 ＜令和9年4月＞		修士（臨床心理学）※		教育相談		3前	2	1	龍谷大学 短期大学部 講師 （令和4.4）						
282	その他	講師	ﾀｹﾐ　ﾃﾂﾔ 竹見　哲也 ＜令和8年10月＞		博士（理学）		気候と気象		2後	2	1	京都大学 防災研究所 教授 （令和3.4）						
283	その他	講師	ﾀｼﾞﾏ　ﾄｵﾙ 但馬　亨 ＜令和7年4月＞		修士（学術）		数学への旅 数学入門 科学論	○ ○ 	1前 1前 2前	4 4 2	2 2 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成21.4）						
284	その他	講師	ﾀﾁﾊﾞﾅ　ﾀﾂﾔ 立花　達也 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		哲学A	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
285	その他	講師	ﾀﾅｶ　ｱﾂｺ 田中　敦子 ＜令和8年4月＞		博士（言語文化）		英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成11.4）						
286	その他	講師	ﾀﾅｶ　ｼｮｳｼﾞ 田中　祥司 ＜令和8年4月＞		経営管理修士（専門職）		マーケティングリサーチ　※		2前	1.87	1	摂南大学 経営学部 准教授 （平成30.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
287	その他	講師	ﾀﾅｶ　ﾅｵ 田中　直 ＜令和7年4月＞		博士（国際関係学）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語ⅢC ドイツ語ⅢD	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
288	その他	講師	ﾀﾅｶ　ﾉﾌﾞﾕｷ 田中　延幸 ＜令和9年10月＞		修士（商学）※		商業科教育法Ⅱ		3後	2	1	大阪学院大学 短期大学部 教授 （平成27.4）						
289	その他	講師	ﾀﾆｸﾞﾁ　ﾔｽﾋｻ 谷口　裕久 ＜令和7年4月＞		修士（国際学）		文化人類学のすすめ	○	1前	4	2	大阪観光大学 国際交流学部 教授 （平成27.4）						
290	その他	講師	ﾀﾏｷ　ｼﾝﾀ 玉木　晋太 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）※		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	2 2	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平成30.4）						
291	その他	講師	ﾀﾑﾗ　ｻｲｺ 田村　彩子 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
292	その他	講師	ﾀﾑﾗ　ﾀｲｲﾁ 田村　太一 〈令和8年10月〉		博士（経済学）		グローバル経済史B グローバル経済史A		2後 3前	2 2	1 1	流通経済大学 経済学部 教授 （令和5.4）						
293	その他	講師	ﾁﾄｳｼｮ ﾘｻ 地頭所　里紗 ＜令和8年10月＞		博士（商学）		演習Ⅰ グローバルマーケティング 演習Ⅱ（卒業研究含む）	○ ○	2後～3後 3前 4通	6 2 4	1 1 1	龍谷大学 政策学部 講師 （令和2.4）						
294	その他	講師	ﾂｲｼﾞﾊﾞﾙ ﾋﾃﾐ 築地原　尚美 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		英語総合1(A) 英語総合2(A)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.4）						
295	その他	講師	ﾂｶﾀﾞ　ﾘｮｳﾀ 塚田　亮太 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		中国語ⅢC 中国語ⅢD	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成9.4）						
296	その他	講師	ﾂｶﾞﾜ ｼｭｳｲﾁ 津川　修一 ＜令和9年4月＞		博士（Toulouse School of Economics・経済学） （ﾌﾗﾝｽ）		都市経済論		3前	2	1	龍谷大学 経済学部 講師 （令和4.4）						
297	その他	講師	ﾂｶﾞﾜ ﾖｳｽｹ 都河　陽介 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		仏教の思想A 仏教の思想B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成5.4）						
298	その他	講師	ﾂｼﾞ　ｼｮｳｺ 辻　祥子 ＜令和9年4月＞		博士（理学）		生態学B	○	3前	2	1	京都大学 農学研究科 研究員 （令和3.4）						
299	その他	講師	ﾂﾂｲ　ｶﾖｺ 筒井　香代子 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成22.4）						
300	その他	講師	ﾂﾙﾀ ｹﾝｼﾞ 鶴田　健二 ＜令和7年4月＞		博士（農学）		日本の自然　※		1前	0.80	2	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 研究員 (令和2.7)						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
301	その他	講師	ﾃｲ　ｱｲﾘ 鄭　愛莉 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成19.4）						
302	その他	講師	ﾃﾗｻﾜ ﾀﾞｲﾅ 寺澤　大奈 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						
303	その他	講師	ﾃﾗﾓﾄ　ｾｲｼ 寺本　聖史 ＜令和7年4月＞		準学士		勤式　※		1通	1.07	1	浄土真宗本願寺派 勤式指導所講師 （平成7.4）						
304	その他	講師	ﾄｳ　ｶﾝ 佟　岩 ＜令和8年4月＞		修士（教育学）		中国語セミナーＩＡ 中国語コミュニケーションⅠ 中国語セミナーＩＢ 中国語コミュニケーションⅡ	 ○ ○	2前 2後 2後 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成10.4）						
305	その他	講師	ﾄｳｺｳ　ﾋﾛﾋﾃﾞ 東光　博英 ＜令和8年4月＞		文学修士		ポルトガル語Ⅰ ポルトガル語Ⅱ ポルトガル語ⅢA ポルトガル語ⅢB	 	2前 2後 3前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （昭和62.4）						
306	その他	講師	ﾄｼｵｶ　ﾄﾓﾐ 年岡　智見 ＜令和7年4月＞		修士（人間・環境学）※		英語総合1(A) 英語総合1(B) 英語総合2(A) 英語総合2(B)	○ ○ ○ ○	1前 1前 1後 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成22.4）						
307	その他	講師	ﾄﾖﾀ　ﾖｳｽｹ 豊田　陽介 ＜令和9年4月＞		修士 （社会学）		環境エネルギー政策		3前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成24.4）						
308	その他	講師	ﾄﾞﾗｸﾞﾅ　ﾗﾙｶ　ﾏﾘｱ ドラグナ　ラルカ マリア ＜令和7年4月＞		博士（人間科学）※		英語総合1(A) 英語総合2(A) Writing Ⅰ 英語セミナーH1 Business Writing 英語セミナーH2 Writing Ⅱ	○ ○ ○ ○	1前 1後 2後 3前 3前 3前 3前	1 1 2 2 4 2 2	1 1 1 1 2 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成25.4）						
309	その他	講師	ﾅｲﾄｳ　ﾖｳｺ 内藤　陽子 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		日本の自然　※		1前	0.80	2	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						
310	その他	講師	ﾅｵｲ　ﾘﾖ 直井　里予 ＜令和9年4月＞		博士（地域研究）		多文化映像論B		3前	2	1	国際ファッション 専門職大学 講師 （令和5.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
311	その他	講師	ﾅｶｲ　ｻｵﾘ 中井　咲織 ＜令和8年10月＞		修士（理学）		地球と環境	○	2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
312	その他	講師	ﾅｶﾞｲ ﾀﾂｵ 永井　達夫 ＜令和7年4月＞		文学修士		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成3.4）						
313	その他	講師	ﾅｶｵ　ｻﾁｺ 中尾　幸子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成25.4）						
314	その他	講師	ﾅｶｶﾞﾜ　ｱｷﾗ 中川　昭 ＜令和8年4月＞		Master in TESOL （米国）		英語総合3(B) 英語総合4(B)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成12.4）						
315	その他	講師	ﾅｶｶﾞﾜ　ｵｵｷ 中川　大城 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		教化法　※		1通	0.80	1	浄土真宗本願寺派得度習礼教師教修講師 （平成28.4）						
316	その他	講師	ﾅｶｶﾞﾜ　ﾖｼﾕｷ 中川　義行 ＜令和8年4月＞		博士（理学）		現代社会の諸問題		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成12.4）						
317	その他	講師	ﾅｶｶﾞﾜ ﾘｷ 中川　理季 ＜令和8年4月＞		修士（社会学）		社会調査実践	○	2前	2	1	公益財団法人世界人権問題研究センター 専任研究員 （令和4.4）						
318	その他	講師	ﾅｶﾆｼ　ﾔｽｼ 中西　康 ＜令和9年10月＞		法学士		国際私法		3後	4	1	京都大学大学院 法学研究科 教授 （平成18.4）						
319	その他	講師	ﾅｶﾉ　ﾕｳｷ 中野　悠希 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		ロシア語ⅢA ロシア語ⅢB		3前 3後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
320	その他	講師	ﾅｶﾐﾁ ｶｽﾞｼ 中道　一心 ＜令和8年10月＞		博士（商学）		事業システム論		2後	2	1	同志社大学 商学部 教授 （平成28.4）						
321	その他	講師	ﾅｶﾑﾗ　ｲﾙｿﾝ 中村　一成 ＜令和8年10月＞		学士（文学）		多文化映像論A		2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成30.4）						
322	その他	講師	ﾅｶﾑﾗ　ﾁｻｺ 中村　秩祥子 ＜令和8年4月＞		博士（学術） Graduate Diploma in TESOL （オーストラリア）		英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成13.4）						
323	その他	講師	ﾅｶﾑﾗ　ﾋﾛｺ 中村　裕子 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		英語総合3(B) 英語総合4(B)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
324	その他	講師	ﾅﾗﾓﾄ　ﾏｻﾋﾛ 楢本　昌広 ＜令和7年4月＞		学士（工学）		勤式　※		1通	1.33	1	龍谷山本願寺式務部課長 （令和3.4）						
325	その他	講師	ﾅﾘﾄﾐ　ｼｭｳﾄ 成冨　守登 ＜令和7年4月＞		修士（法学）		法学のすすめ	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
326	その他	講師	ﾅﾙｺ　ｱﾂｼ 成子　篤 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		時間と空間の科学 複雑系の科学	○	1前 3前	8 2	4 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						
327	その他	講師	ﾆｼ　ﾅｵﾐ 西　直美 ＜令和8年10月＞		博士（グローバル社会研究）		東南アジア研究A		2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						
328	その他	講師	ﾆｼｴ　ﾋﾄﾅﾙ 西江　仁徳 ＜令和8年4月＞		博士（理学）		動物の自然誌		2前	4	2	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 特任研究員 （令和2.10）						
329	その他	講師	ﾆｼｶﾜ　ｶｽﾞｼﾞ 西川　一二 ＜令和8年4月＞		博士（心理学）		学習・発達論A 学習・発達論B		2前 2後	2 2	1 1	大阪商業大学 総合経営学部 専任講師 (令和5.4)						
330	その他	講師	ﾆｼﾔｺ　ｾｲｲﾁﾛｳ 西迫　成一郎 ＜令和7年4月＞		社会学修士※		心の科学A 心の科学B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 人文学部 准教授 （平成12.4）						
331	その他	講師	ﾆｼﾉﾄｳｲﾝ ﾊﾙﾐ 西洞院　遥美 ＜令和7年4月＞		修士（言語文化学）		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ スペイン語セミナーⅠA スペイン語セミナーⅠB	○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成24.4）						
332	その他	講師	ﾆｼﾊﾗ　ｼｹﾞｷ 西原　茂樹 ＜令和9年4月＞		博士（社会学）		スポーツメディア論		3前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成23.4）						
333	その他	講師	ﾆｼﾑﾗ　ﾅｵﾄ 西村　直登 ＜令和7年4月＞		博士（現代アジア研究）		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.9）						
334	その他	講師	ﾆｼﾑﾗ　ﾌﾐﾀｹ 西村　文武 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		化学物質と環境	○	3前	2	1	京都大学大学院 工学研究科 准教授 （平成19.4）						
335	その他	講師	ﾆｼﾔﾏ　ｼｭﾝｲﾁ 西山　俊一 ＜令和7年4月＞		修士（経営学）※		教職コンピュータ基礎		1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成9.4）						
336	その他	講師	ﾈｸﾞﾛﾝ　ﾛﾍﾞﾙﾄ ネグロン　ロベルト ＜令和7年4月＞		博士（情報科学）		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成13.4）						
337	その他	講師	ﾈｷﾞ　ｶﾂﾋｺ 根田　克彦 ＜令和8年10月＞		博士(理学)		経済地理学B 経済地理学A		2後 3前	2 2	1 1	奈良教育大学 社会科教育講座 教授 （平成6.4）						
338	その他	講師	ﾉｶﾞﾐ ｹｲｺ 野上　慶子 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		応用心理学A 応用心理学B		2前 2後	2 2	1 1	独立行政法人日本学術振興会 特別研究員 （令和5.4）						
339	その他	講師	ﾉﾀﾞ　ﾖｳ 野田　葉 ＜令和8年10月＞		修士（法学）		現代国際関係史 国際政治論		2後 3後	2 4	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成9.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
340	その他	講師	パク　シンチャ 朴　伸次 ＜令和7年4月＞		Master of Arts (Sociology) from Department of Sociology （アメリカ）		国際学のすすめ	○	1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成30.4）						
341	その他	講師	パク　ミギョン 朴　美暻 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		現代社会とメディア		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成28.4）						
342	その他	講師	ハクショウ　ポール ハクショウ　ポール ＜令和8年4月＞		Masters of Education (M.Ed) （アメリカ）		英語セミナーC1 英語セミナーC2		2前 2後	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平成16.4）						
343	その他	講師	ババ　アヤカ 馬場　綾香 ＜令和8年10月＞		博士（学術）		ドイツ語コミュニケーションⅠ ドイツ語コミュニケーションⅡ	○ ○	2後 3前	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
344	その他	講師	ハヤシ　ヒカル 林　光 ＜令和8年10月＞		博士（学術）		開発援助論		2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						
345	その他	講師	ハヤシダ　ヒデキ 林田　秀樹 ＜令和9年4月＞		修士（経済学）		東南アジア研究B		3前	2	1	同志社大学 人文科学研究所 教授 （平成9.4）						
346	その他	講師	パン　ホカユン 潘　宝燕 〈令和9年4月〉		博士（経営学）		産業技術論		3前	2	1	龍谷大学 経営学部 講師 （令和6.4）						
347	その他	講師	パン　ホンリ 潘　宏立 ＜令和8年10月＞		博士（文学）		東アジア研究A		2後	2	1	京都文教大学 総合社会学部 教授 （平成24.4）						
348	その他	講師	ヒグチ セイ 樋口　聖 ＜令和9年4月＞		工学博士		デジタルマーケティング		3前	2	1	Voice4u株式会社 CTO （平成30.7）						
349	その他	講師	ピナウ　ハイケ ピナウ　ハイケ ＜令和8年4月＞		Magister Artium （ドイツ）		ドイツ語セミナーⅠA ドイツ語セミナーⅠB ドイツ語セミナーⅡC ドイツ語セミナーⅡD		2前 2後 3前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	京都外国語大学 外国語学部 准教授 （平成25.4）						
350	その他	講師	ヒョウ　エン 馮　艶 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成5.4）						
351	その他	講師	ヒラオカ　タカヒロ 平岡　敬浩 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		数学への旅 数学入門	○ ○	1前 1前	4 4	2 2	立命館大学 理工系基礎教育 専任講師 （令和6.4）						
352	その他	講師	フクモト　タカシ 福元　崇志 ＜令和8年10月＞		修士（文学）		芸術の世界B		2後	2	1	国立国際美術館 主任研究員 （平成27.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
353	その他	講師	ﾌｼﾞｲ　ｱｷﾋﾛ 藤井　晶宏 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		英語総合1(A) 英語総合2(A) 英語セミナーF1 英語セミナーF2	○ ○	1前 1後 2前 2後	1 1 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成5.4）						
354	その他	講師	ﾌｼﾞｵｶ　ﾏｻｷ 藤岡　真樹 ＜令和7年4月＞		博士（人間・環境学）		現代世界の歴史A	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成20.4）						
355	その他	講師	ﾌｼﾞﾓﾄ　ｱﾂｺ 藤本　厚子 ＜令和7年4月＞		修士（応用英語）		英語総合1(A) 英語総合2(A)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						
356	その他	講師	ﾌｼﾞﾓﾄ　ｱﾂｼ 藤本　篤 ＜令和7年4月＞		修士（アメリカ研究）		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
357	その他	講師	ﾌｾ　ｼｽﾞｶ 布施　静香 ＜令和8年4月＞		博士（理学）		植物の自然誌		2前	2	1	京都大学大学院 理学研究科 助教 （平成25.12）						
358	その他	講師	ﾌﾅｷ　ﾃﾂｵ 舟木　徹男 ＜令和8年4月＞		博士（人間・環境学）		社会思想史		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成20.4）						
359	その他	講師	ﾌﾞﾘｯｼﾞﾏﾝ・ﾊﾟｰｸ ブリッジマン・パーク ＜令和7年4月＞		B.A. Social Sciences -Majored Psychology（Canada） Masters of Education -TESOL（Australia）		英語総合1(A) 英語総合2(A)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成15.4）						
360	その他	講師	ﾍﾟｸ　ｽｼﾞﾝ 白　秀珍 ＜令和7年4月＞		修士（人間科学）※		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語セミナーⅡA コリア語セミナーⅡB	○ ○	1前 1後 3前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
361	その他	講師	ﾍﾔ　ﾏﾁｺ 部矢　祥子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		日本の文学A 日本の文学B	○ ○	1前 1後	4 4	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （昭和63.4）						
362	その他	講師	ﾎｿｶﾜ　ﾕｳｺ 細川　祐子 ＜令和7年4月＞		文学修士		英語総合1(B) 英語総合2(B) 英語総合3(A) 英語総合3(B) 英語総合4(A) 英語総合4(B)	○ ○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2前 2後 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成18.4）						
363	その他	講師	ﾎﾘｲｴ　ﾕｷﾖ 堀家　由妃代 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		教育学のすすめA 教育学のすすめB	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	佛教大学 教育学部 准教授 （平成19.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
364	その他	講師	ﾎﾞﾙﾄﾞｳﾆｬｸ　ｴﾄﾞﾜﾙﾄﾞ ボルドゥニャク　エドワルド ＜令和8年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ⅢA ドイツ語ⅢB	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
365	その他	講師	ﾎﾞｰﾚﾝ　ﾀﾘｰｻ ボーレン　タリーサ ＜令和8年10月＞		修士（日本研究） （アメリカ合衆国）		Intensive Reading Oral Communication ⅠB Reading Fluency Oral Communication ⅡB 学部共通特別講義Ⅱ	 ○ ○ 	2後 2後 2後 3前 3後	4 4 4 4 4	2 1 2 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						
366	その他	講師	ﾎﾞﾜﾄｰ　ﾊﾟﾄﾘｽ ボワトー　パトリス ＜令和7年4月＞		映画学士 （フランス）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語セミナーⅠA フランス語セミナーⅠB	○ ○ 	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成7.4）						
367	その他	講師	ﾏｷﾉﾀ　ﾕｷｺ 巻下　由紀子 ＜令和8年4月＞		修士（言語文化学）		英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
368	その他	講師	ﾏﾂｵｶ　ｴﾘｺ 松岡　絵梨子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						
369	その他	講師	ﾏﾂﾀﾞ　ｼｹﾞｷ 松田　繁樹 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		スポーツ統計学		3前	2	1	滋賀大学 教育学部 教授 （平成27.4）						
370	その他	講師	ﾏﾂﾀﾞｲﾗ　ﾅｵﾔ 松平　尚也 ＜令和8年10月＞		修士（農学）		フィールドワークの技法		2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.9）						
371	その他	講師	ﾏﾂﾊﾞ　ﾏｺﾄ 松葉　真 ＜令和8年10月＞		修士（栄養学）※		スポーツ栄養学		2後	2	1	園田学園女子大学 人間健康学部 教授 （令和3.4）						
372	その他	講師	ﾏﾂﾊﾞﾗ　ﾌﾐ 松原　史 ＜令和7年4月＞		博士（人間・環境学）		芸術の世界A		2前	2	1	北野天満宮 北野文化研究所 室長 （平成30.4）						
373	その他	講師	ﾏﾂﾓﾄ　ﾏｻｵ 松本　雅生 ＜令和7年10月＞		博士（理学）		情報科学実習		1後	8	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成24.4）						
374	その他	講師	ﾏﾂﾓﾘ　ﾐｷｺ 松盛　美紀子 ＜令和8年10月＞		修士（アメリカ研究）		北米研究A 北米研究B	 	2後 3前	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
375	その他	講師	ﾏﾙﾔﾏ　ﾋﾃﾞﾕｷ 丸山　英幸 ＜令和7年4月＞		博士 （人間・環境学）		哲学A	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成27.4）						
376	その他	講師	ﾐｳﾗ　ﾏｻｷ 三浦　正樹 ＜令和8年4月＞		教育方法学修士		学習・発達論A 学習・発達論B	 	2前 2後	2 2	1 1	芦屋大学 臨床教育学部 教授 （平成5.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
377	その他	講師	ﾐｶﾐ　ﾃｲｼﾞ 三上　禎次 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		日本の自然　※ 地球科学 自然誌実習　※		1前 1後 2前	1.34 4 0.80	2 2 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成22.4）						
378	その他	講師	ﾐｿﾞｳﾁ ｹｲｽｹ 溝内　啓介 ＜令和8年4月＞		専門士（農業専門課程）		消費者問題論		2前	1	1	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都 事務局長 （令和元.10）						
379	その他	講師	ﾐﾔｵ　ﾓﾄｺ 宮尾　元子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		英語総合1(B) 英語総合2(B) 英語総合3(B) 英語総合4(B)	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成3.4）						
380	その他	講師	ﾐﾔｻﾞｷ ﾀｶﾏｻ 宮崎　崇将 ＜令和9年4月＞		博士（経営学）		ロジスティクス		3前	2	1	追手門学院大学 経営学部 准教授 （平成31.4）						
381	その他	講師	ﾐﾔﾍﾞ　ﾏｻﾌﾐ 宮部　雅文 ＜令和7年4月＞		学士（文学）		教化法　※		1通	1.33	1	浄土真宗本願寺派布教使課程指導員 （平成24.4）						
382	その他	講師	ﾐｮｳｼﾞｮｳ　ﾏﾓﾙ 明星　守 ＜令和8年10月＞		芸術学士		学部共通特別講義Ｃ		2後	2	1	神戸北野異人館風見鶏の館　ラインの館副館長 （平成26.1）						
383	その他	講師	ミン　ジフン 閔　智焄 ＜令和7年4月＞		博士（政策科学）		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語ⅢA コリア語ⅢB	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	1 1 1 1	立命館大学 衣笠総合研究機構 助教 （令和元.11）						
384	その他	講師	ﾑﾗｲ　ﾐﾉﾙ 村井　実 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		教職コンピュータ基礎		1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成8.4）						
385	その他	講師	ﾑﾗｵｶ ﾋﾄｼ 村岡　倫 ＜令和8年4月＞		文学修士※		現代社会の諸問題　※		2前	0.13	1	龍谷大学 文学部 教授 （平成8.4）						
386	その他	講師	ﾓﾓｿﾞﾉ　ﾋﾛﾅﾘ 桃園　裕成 ＜令和7年4月＞		文学士		勤式　※		1通	1.60	1	浄土真宗本願寺派 僧侶養成部 勤式担当 （平成31.4）						
387	その他	講師	ﾓﾘ　ｷﾐﾖ 森　貴実代 ＜令和7年4月＞		修士（外国語教育学）		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語セミナーＩＣ コリア語セミナーＩＤ	○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成8.4）						
388	その他	講師	ﾓﾘ　ﾋｻﾖｼ 森　久佳 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		教育の方法と技術（ICT活用を含む）		3前	2	1	京都女子大学 発達教育学部 教授 （令和3.4）						
389	その他	講師	ﾓﾘﾓﾄ　ｾｲｲﾁ 森本　誠一 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		倫理学A	○	1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成27.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
390	その他	講師	モリモト　ヨシオ 森本　芳生 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		教育学のすすめA 教育学のすすめB	○ ○	1前 1後	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平成11.4）						
391	その他	講師	モリワキ　トウセイ 森脇　透青 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		宗教の世界A 宗教の世界B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
392	その他	講師	ヤスムラ　ケイコ 安村　恵子 ＜令和8年4月＞		文学修士※		倫理学B		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成5.4）						
393	その他	講師	ヤナセ コウ 簗瀬　康 ＜令和7年4月＞		修士（人間健康科学）		スポーツ技術学演習	○	1前	8	4	同志社大学 健康スポーツ科学部 助教 (令和3.4)						
394	その他	講師	ヤマグチ　ショウ 山口　尚 ＜令和8年4月＞		博士（人間・環境学）		哲学B		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
395	その他	講師	ヤマグチ　タケシ 山口　威 ＜令和7年4月＞		修士（文学） 修士（人間・環境学） DEA（文学研究）（フランス）		西洋の文学A 西洋の文学B フランス語コミュニケーションⅠ フランス語コミュニケーションⅡ	○ ○ ○ ○	1前 1後 2後 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
396	その他	講師	ヤマズミ　トオル 山澄　亨 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		現代世界の歴史A 現代世界の歴史B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	椙山女学園大学 現代マネジメント学部 教授 （平成22.4）						
397	その他	講師	ヤマダ　ヤエコ 山田　弥生子 ＜令和8年10月＞		博士（スポーツ科学）		特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○	2後～3前 3後～4前 4後	4 4 4	1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
398	その他	講師	ヤマモト　カオリ 山本　かおり ＜令和8年４月＞		修士（文学）※		英語総合3(B) 英語総合4(B)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						
399	その他	講師	ヤマモト ケイコ 山本　桂子 ＜令和9年4月＞		社会学修士		職業指導		3通	4	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成11.4）						
400	その他	講師	ユラ ヤスト 由良　泰人 ＜令和8年10月＞		準学士（映像）		コンテンツビジネス論　※		2後	0.53	1	大阪電気通信大学 総合情報学部 教授 （平成15.4）						
401	その他	講師	ヨウ　トウ 楊　濤 ＜令和7年4月＞		英語教育修士※		英語セミナーA1 英語セミナーA2 学部共通特別講義Ⅳ		1前 1後 3後	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成14.4）						
402	その他	講師	ヨウ　リ 楊　莉 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		中国語ⅢA 中国語ⅢB	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
403	その他	講師	ヨコチ ユキコ 横地　由起子 ＜令和8年10月＞		学士（文学）		コンテンツビジネス論　※		2後	0.94	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成26.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
404	その他	講師	ﾖｼｶﾜ　ｱﾔｺ 吉川　絢子 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	○ ○	1前 1後	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
405	その他	講師	ﾖｼﾀﾞ　ﾀｲﾗ 吉田　平 ＜令和7年4月＞		修士（人間環境学）		スポーツ技術学演習	○	1前	8	4	大阪産業大学 男子バスケットボールコーチ （令和元.4）						
406	その他	講師	ﾖｼﾀﾞ(ｵｵﾊﾗ)　ﾀｶｼ 吉田（大原）卓司 ＜令和8年4月＞		法学修士※		生徒・進路指導論		2前	2	1	藍野大学 医療保健学部 教授 （令和5.10）						
407	その他	講師	ﾖｼﾂﾞﾐ　ﾐｷ 吉積　巳貴 ＜令和8年10月＞		博士（地球環境学）		アジアの地域・都市政策		2後	2	1	立命館大学 食マネジメント学部 教授 （平成30.4）						
408	その他	講師	ﾖｼﾉ　ﾀﾂﾔ 吉野　達也 ＜令和8年10月＞		修士（言語文化）		中南米研究A 中南米研究B		2後 3前	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						
409	その他	講師	ﾗﾌｨｯﾄ　ﾗﾌｧｴﾙ ラフィット　ラファエル ＜令和7年4月＞		日本文化・言語専攻 修士 （フランス） フランス語教育専攻言語学修士 （フランス）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語ⅢA フランス語ⅢB フランス語セミナーＩＤ	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後 2後	2 2 1 1 2	1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
410	その他	講師	ﾘﾃｲ 李　婷 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語ⅢC 中国語ⅢD	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
411	その他	講師	ﾘ ﾖﾝｷﾞﾙ 李　庸吉 ＜令和7年4月＞		博士（法律学）		法学のすすめ	○	1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成23.4）						
412	その他	講師	ﾘｯﾌﾙ　ﾅｻﾝ　ﾏｲｹﾙ リッフル　ナサン　マイケル ＜令和8年10月＞		Masterof Arts Teaching English to Young Leaners （アメリカ合衆国）		Oral Communication ＩA Oral Communication ＩB Critical Essay Oral Communication ⅡA Oral Communication ⅡB Public Speaking	○ ○ ○ ○ ○ ○	2後 2後 3前 3前 3前 3前	4 4 4 4 4 4	1 1 2 1 1 2	龍谷大学 非常勤講師 （平成19.4）						
413	その他	講師	ﾘｭｳ　ﾊﾞｲﾚｲ 劉　梅玲 ＜令和7年4月＞		博士（社会文化）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成23.4）						
414	その他	講師	ﾛ ﾎｳ 呂　芳 ＜令和7年4月＞		博士（比較社会文化）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
415	その他	講師	ﾛｻﾞｰﾃｨ　ｻﾗ ロザーティサラ・Ｙ. ＜令和8年10月＞		Postgradeuate Certificate of Education in English for Secondary Schools （イギリス）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	○ ○	2後 3前	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成2.4）						
416	その他	講師	ﾛﾍﾟｽ　ﾊﾟｿｽ　ﾌｧﾝ　ﾎｾ ロペス　パソス フアン　ホセ ＜令和8年10月＞		Doctor en Filosofia （スペイン）		ヨーロッパ研究C		2後	2	1	天理大学 国際学部 准教授 （平成27.4）						
417	その他	講師	ﾜｹ　ｼｭｳｺﾞｳ 和氣　秀剛 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		教化法　※		1通	1.20	1	中央仏教学院 学校教育部講師 （平成31.4）						
418	その他	講師	ﾜﾀﾞ　ﾄｼﾋﾛ 和田　利博 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		ギリシア語Ⅰ ギリシア語Ⅱ		2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成30.4）						
419	その他	講師	ﾜﾀﾞ　ﾓﾄﾔｽ 和田　資康 ＜令和8年4月＞		博士（言語学）		ドイツ語セミナーＩＣ ドイツ語セミナーＩＤ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.4）						
420	その他	講師	ﾜﾀﾞ　ﾕｳｺ 和田　七夕子 ＜令和7年4月＞		博士 （バイオサイエンス）		生命科学のすすめ　※	○	1前	3.07	2	奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科助教 （平成16.4）						
421	その他	助教	ｻﾉ ｱｷﾗ 佐野　彰 ＜令和7年4月＞		博士（情報科学）		教養教育科目特別講義　※		1前	0.13	1	龍谷大学 先端理工学部 助教 （平成12.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
1	基（主専）	教授	エンドウ アキコ 遠藤　明子 ＜令和7年4月＞		修士（商学）		フレッシャーズゼミ	○	1前	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 （令和6.4）	○				5日	
							ベーシックマーケティング	○	1前	2	1							
							社会調査入門	○	1前	2	1							
							アカデミックスキルズＡ	○	1後	2	1							
							プロジェクト入門	○	1後	2	1							
							流通システム論		1後	2	1							
							アカデミックスキルズＢ	○	2前	2	1							
							ソーシャルマーケティング		2後	2	1							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							演習Ⅱ(演習研究含む)	○	3後～4後	6	1							
2	基（主専）	教授	キシタ テツヒロ 木下　徹弘 ＜令和7年4月＞		博士（経済学）		フレッシャーズゼミ	○	1前	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成9.4）	○				5日	
							ベーシックアカウンティングⅠ	○	1前	2	1							
							アカデミックスキルズＡ	○	1後	2	1							
							アカデミックスキルズＢ	○	2前	2	1							
							アジア企業経営論		3後	2	1							
							文献講読Ａ		3後	2	1							
							文献講読Ｂ		4前	2	1							
3	基（主専）	教授	クニシゲ ユタカ 國重　裕 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		フレッシャーズゼミ	○	1前	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成17.4）	○				5日	
							特別演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							特別演習Ⅱ	○	3後～4前	4	1							
							特別演習Ⅲ	○	4後	4	1							
4	基（主専）	教授	クワツカ ケンタロウ 鍬塚　賢太郎 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		地理学のすすめ	○	1前	6	3	龍谷大学 経営学部 教授 （平成23.4）	○				5日	
							経営立地論		2前	2	1							
							社会調査実践	○	2前	2	1							
							地域論		2前	4	2							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							環境地理学　※	○	2後	1.76	1							
							演習Ⅱ(演習研究含む)	○	3後～4後	6	1							
5	基（主専）	教授	タケウチ フトフミ 竹内　綱史 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		宗教の世界Ａ	○	1前	4	2	龍谷大学 経営学部 教授 （平成21.4）	○				5日	
							宗教学入門	○	1前	8	2							
							アカデミックスキルズＡ	○	1後	2	1							
							宗教の世界Ｂ	○	1後	4	2							
							アカデミックスキルズＢ	○	2前	2	1							
							人文科学セミナー		2通	4	1							
							大学論　※		2前	0.67	1							
6	基（主専）	教授	ハヤシ ナオキ 林　尚毅 ＜令和7年4月＞		博士（経営学）		フレッシャーズゼミ	○	1前	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成22.4）	○				5日	
							アカデミックスキルズＡ	○	1後	2	1							
							グローバルビジネスの基礎		1後	2	1							
							アカデミックスキルズＢ	○	2前	2	1							
							グローバルビジネス		2前	2	1							
							グローバルストラテジー		2後	2	1							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							演習Ⅱ(演習研究含む)	○	3後～4後	6	1							
7	基（主専）	教授	フジオカ アキコ 藤岡　章子 ＜令和7年4月＞		博士（経済学）		プロジェクト入門	○	1後	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成12.4）	○				5日	
							プロジェクト実践		2前	2	1							
							マーケティングリサーチ　※		2前	0.13	1							
							マーケティング論		2前	2	1							
							ローカルビジネスのフロンティア		2後	2	1							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							商品開発論		2後	2	1							
							食農ビジネスのフロンティア		3前	2	1							
							地域資源論		3前	2	1							
							演習Ⅱ(演習研究含む)	○	3後～4後	6	1							

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
8	基（主専）	教授	ﾎｿｶﾜ ﾀｶｼ 細川　孝 ＜令和7年4月＞		修士（経営学）		フレッシャーズゼミ	○	1前	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成12.4）	○				5日	
							アカデミックスキルズＡ	○	1後	2	1							
							ワークルール入門		1後	2	1							
							アカデミックスキルズＢ	○	2前	2	1							
							企業システム論		2前	2	1							
							消費者問題論		2前	1	1							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							京都企業論　※		2後	1.60	1							
							京都企業の現場		3前	2	1							
							演習Ⅱ(演習研究含む)	○	3後～4後	6	1							
9	基（主専）	准教授	ｱｷﾊﾞ ﾌﾄｼ 秋庭　太 ＜令和7年4月＞		博士（経営学）		ビジネスケーススタディＡ	○	1前	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （平成22.4）	○				5日	
							フレッシャーズゼミ	○	1前	2	1							
							教養教育科目特別講義　※		1前	0.13	1							
							情報リテラシー	○	1前	1	1							
							アカデミックスキルズＢ	○	2前	2	1							
							キャリア＆ライフマネジメント　※	○	2前	0.93	1							
							起業家行動論		2前	2	1							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							地域企業論		2後	2	1							
							演習Ⅱ(演習研究含む)	○	3後～4後	6	1							
10	基（主専）	准教授	ﾂﾏｷ ｼﾝｺﾞ 妻木　進吾 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		社会調査のすすめ	○	1前	4	2	龍谷大学 経営学部 准教授 （平成25.4）	○				5日	
							人権論A	○	1前	2	1							
							現代社会の諸問題　※		2前	0.13	1							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							社会データ分析		2後	2	1							
							演習Ⅱ(演習研究含む)	○	3後～4後	6	1							
11	基（主専）	准教授	ﾆｼｶﾜ ﾋﾛｼ 西川　浩司 ＜令和7年4月＞		修士（経営学）※		フレッシャーズゼミ	○	1前	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （平成9.4）	○				5日	
							アカデミックスキルズＡ	○	1後	2	1							
							ビジネスヒストリー入門		1後	2	1							
							アカデミックスキルズＢ	○	2前	2	1							
							ビジネスヒストリーＡ		2前	2	1							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							ケースで学ぶビジネスヒストリー		3後	2	1							
							演習Ⅱ(演習研究含む)	○	3後～4後	6	1							
12	基（主専）	准教授	ﾎﾜｲﾄ ｼｮｰﾝ･ｱﾗﾝ ホワイト　ショーン・アラン ＜令和7年4月＞		Ph.D. in Education （ｱﾒﾘｶ合衆国）		Oral Communication ⅠA	○	2後	4	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （平成22.4）	○				5日	
							Global Understanding in English		3前	8	2							
							Oral Communication ⅡA	○	3前	4	1							
							Global Understanding and Communication		3後	4	1							
							Seminar Ⅰ	○	3後	2	1							
							Seminar Ⅱ	○	4前	2	1							
							卒業研究	○	4後	4	1							
13	基（主専）	准教授	ﾏﾅﾍﾞ ｸﾆﾋﾛ 眞鍋　邦大 ＜令和7年4月＞		博士（農学）		ビジネスケーススタディＢ	○	1前	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （令和4.4）	○				5日	
							プロジェクト入門	○	1後	2	1							
							キャリア＆ライフマネジメント　※	○	2前	1.07	1							
							プロジェクト実践		2前	2	1							
							ローカルビジネスのフロンティア		2後	2	1							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							食農ビジネスのフロンティア		3前	2	1							
							地域と企業		3前	4	1							
							演習Ⅱ(演習研究含む)	○	3後～4後	6	1							
14	基（主専）	准教授	ﾔﾏｵｶ ｶﾅｺ 山岡　華菜子 ＜令和7年4月＞		博士（言語文化学）		アカデミックスキルズＡ	○	1後	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （令和3.4）	○				5日	
							英語総合3(B)	○	2前	1	1							
							英語総合4(B)	○	2後	1	1							

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
15	基（主専）	講師	ｼｮ ｼﾝｼﾞｮﾝ 徐　旼廷 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		コリア語Ⅰ フレッシャーズゼミ コリア語Ⅱ	○ ○ ○	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 経営学部 講師 （令和5.4）	○				5日	
16	その他	教授	ｱﾍﾞ ﾀﾞｲｽｹ 阿部　大輔 ＜令和8年10月＞		博士（工学）		演習Ⅰ 景観・まちなみ保存政策　※ 文化・観光政策 欧州の地域・都市政策 演習Ⅱ（卒業研究含む）	○ ○	2後～3後 2後 2後 3前 4通	6 1.07 2 2 4	1 1 1 1 1	龍谷大学 政策学部 教授 （平成23.4）						
17	その他	教授	ｱﾝﾄﾞｳ ｼﾝｼﾞﾛｳ 安藤　真次郎 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ 特別演習Ⅰ スペイン語セミナーⅡC スペイン語セミナーⅡD 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 2後～3前 3前 3後 3後～4前 4後	2 2 4 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 文学部 教授 （平成10.4）						
18	その他	教授	ｲ ﾃｰﾖﾝ 李　態妍 ＜令和8年10月＞		博士（経済学）		環境と経済	○	2後	2	1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成13.4）						
19	その他	教授	ｲﾝｻﾞｷ ﾏﾅﾌﾞ 石埼　学 ＜令和7年4月＞		修士（法学）※		日本国憲法	○	1前	2	1	龍谷大学 法学部 教授 （平成22.4）						
20	その他	教授	ｲﾃﾞ ｹﾝｼﾞ 井手　健二 ＜令和7年4月＞		修士（経営情報学） ※		簿記入門		1前	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成25.4）						
21	その他	教授	ｲﾉｳｴ　ｹﾝｼﾞｭﾝ 井上　見淳 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		仏教の思想A 仏教の思想B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 社会学部 教授 （平成23.4）						
22	その他	教授	ｲﾏｲ ｱﾂｼ 今井　敦 ＜令和7年4月＞		Doctor der Philosophie （ｵｰｽﾄﾘｱ）		ドイツ語Ⅰ 西洋の文学A ドイツ語Ⅱ 西洋の文学B ドイツ語セミナーⅡA ドイツ語セミナーⅡB	○ ○ ○ ○ 	1前 1前 1後 1後 3前 3後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成23.4）						
23	その他	教授	ｲﾏｶﾞﾜ ﾖｼﾌﾐ 今川　嘉文 ＜令和8年4月＞		博士（法学）		商法 会社法	 	2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 法学部 教授 （平成24.4）						
24	その他	教授	ｲﾏﾑﾗ ｷﾖｼ 今村　潔 ＜令和8年10月＞		文学修士		Intensive Reading Writing Ⅰ Writing Ⅱ 英米事情 学部共通特別講義Ⅰ Seminar Ⅰ 学部共通特別講義Ⅲ Seminar Ⅱ 卒業研究	 ○ ○ ○ ○ ○	2後 2後 3前 3前 3前 3後 3後 4前 4後	4 2 2 4 4 2 2 2 4	2 1 1 2 1 1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成4.4）						
25	その他	教授	ｲﾜﾀ ﾋﾛｼ 岩田　浩 ＜令和8年4月＞		商学修士※		経営意思決定論		2前	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成27.4）						
26	その他	教授	ｳｼｵ ﾋﾛﾔ 牛尾　洋也 ＜令和7年4月＞		法学修士※		里山学　※		1前	0.13	1	龍谷大学 法学部 教授 （平成4.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
27	その他	教授	オオハラ モリキ 大原　盛樹 ＜令和8年10月＞		博士（経済学）		演習Ⅰ 中国経済論A 中国経済論B 演習Ⅱ 演習Ⅲ 演習Ⅳ（卒業研究含む）	○ ○ ○ ○	2後 2後 2後 3前 3後 4前～4後	2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成22.4）						
28	その他	教授	ｵｶﾀﾞ ﾉﾘﾕｷ 岡田　典之 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		英語総合1(B) 英語総合2(B) 英語セミナーD1 英語セミナーD2	○ ○ 	1前 1後 3前 3後	1 1 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 文学部 教授 （平成21.4）						
29	その他	教授	ｵｶﾓﾄ ｹﾝｽｹ 岡本　健資 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		大学論　※ 持続可能な発展概論　※	 	2前 2後	0.40 0.13	1 1	龍谷大学 政策学部 教授 （平成21.4）						
30	その他	教授	ｵｸﾉ ﾂﾈﾋｻ 奥野　恒久 ＜令和7年4月＞		修士（法学）※		教養教育科目特別講義　※ 日本国憲法 人権論B 現代社会の諸問題　※	 ○ ○ 	1前 1前 1後 2前	0.13 4 2 0.67	1 2 1 1	龍谷大学 政策学部 教授 （平成23.4）						
31	その他	教授	ｵﾁｱｲ ﾀｹﾋｺ 落合　雄彦 ＜令和8年10月＞		修士（法学）※		国際関係論Ⅰ 地域研究入門 特別演習Ⅰ アフリカ政治論A アフリカ政治論B 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○ ○	2後 2後 2後～3前 3前 3前 3後～4前 4後	4 4 4 2 2 4 4	2 2 1 1 1 1 1	龍谷大学 法学部 教授 （平成14.4）						
32	その他	教授	ｶｼﾞﾜｷ ﾕｳｼﾞ 梶脇　裕二 ＜令和7年4月＞		博士（商学）		経営学基礎論		1前	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成22.4）						
33	その他	教授	ｶﾄﾞｵｶ ｹﾝｲﾁ 角岡　賢一 ＜令和7年4月＞		文学修士		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成7.4）						
34	その他	教授	ｶﾗｲｽｺｽ　ｱﾝﾄﾆｵｽ カライスコス　アントニオス ＜令和8年10月＞		博士（法学）		民法		2後	2	1	龍谷大学 法学部 教授 （令和5.4）						
35	その他	教授	ｶﾜｲ ﾐｶ 河合　美香 ＜令和7年4月＞		博士（スポーツ医学）		スポーツ技術学演習 人間とスポーツ 健康とスポーツ	○ 	1前 1前 2前	14 4 4	7 2 2	龍谷大学 法学部 教授 （平成19.4）						
36	その他	教授	ｶﾜｼﾏ ﾉﾌﾞﾋﾛ 川島　伸博 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		西洋の文学A 西洋の文学B 英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 法学部 教授 （平成24.4）						
37	その他	教授	ｸﾆﾏﾂ ﾕﾀｶ 國松　豊 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		人類学のすすめ 自然誌実習 人間の生物学Ⅰ 人間の生物学Ⅱ	○ 	1前 2前 2前 2後	12 4 2 2	3 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成26.4）						
38	その他	教授	ｸﾗﾌﾁｯｸ ﾏﾘｳｼｭ ｺﾝﾗｯﾄﾞ クラフチック　マリウシュ　コンラッド ＜令和7年4月＞		博士（経済学）		経済学のすすめ ヨーロッパ経済論 国際金融論	○ 	1前 2後 3前	2 4 4	1 1 1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成18.4）						
39	その他	教授	ｺｾ ﾊｼﾞﾒ 小瀬　一 ＜令和9年4月＞		社会学修士※		アジア経済史		3前	4	1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成3.10）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
40	その他	教授	ｺﾅｶﾞﾔ ﾀﾞｲｽｹ 小長谷　大介 ＜令和7年4月＞		博士（学術）		自然科学史Ⅰ 物理科学の世界 自然科学史Ⅱ 平和学B 環境史	○ ○	1前 1前 2前 2前 3後	4 4 2 2 2	2 1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成14.4）						
41	その他	教授	ｺﾏﾂ ﾄﾓｺ 小松　知子 ＜令和7年4月＞		修士（学術）		日本語	○	1前	8	8	龍谷大学 経営学部 教授 （平成26.4）						
42	その他	教授	ｻｶﾓﾄ ﾏｻﾉﾘ 坂本　雅則 ＜令和7年10月＞		博士（経済学）		経営管理論		1後	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成16.4）						
43	その他	教授	ｻｸﾗｲ ｼﾞﾛｳ 櫻井　次郎 ＜令和7年4月＞		博士（学術）		環境学 演習Ⅰ 環境政策論Ⅰ 環境フィールドワーク　※ 環境学B 環境管理論Ⅰ 環境政策論Ⅱ 演習Ⅱ 卒業研究	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1前 2後～3前 2後 2後～3前 3前 3前 3前 3後～4前 4後	4 4 2 0.40 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 政策学部 教授 （令和4.4）						
44	その他	教授	ｻｻｷ ｼﾞｭﾝ 佐々木　淳 ＜令和9年4月＞		博士（経済学）		日本経済史A 日本経済史B		3前 3前	2 2	1 1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成10.4）						
45	その他	教授	ｻｻｷ ﾋﾛｵ 佐々木　浩雄 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		スポーツ文化史 近代スポーツ史 スポーツ文化論 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○	2前 2後 3後 2後～3前 3後～4前 4後	2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 文学部 教授 （平成19.4）						
46	その他	教授	ｻﾄｳ ｶｽﾞﾋﾛ 佐藤　和弘 ＜令和7年4月＞		文学修士※		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語セミナーⅠA ドイツ語セミナーⅠB 学部共通特別講義B 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後 2後 2後～3前 3後～4前 4後	2 2 2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 法学部 教授 （平成12.4）						
47	その他	教授	ｻﾉ ﾄｳｾｲ 佐野　東生 ＜令和8年4月＞		博士（法学）		ペルシア語Ⅰ アラビア語Ⅰ ペルシア語Ⅱ アラビア語Ⅱ		2前 2前 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 国際学部 教授 （平成14.4）						
48	その他	教授	ｼﾏﾀﾞ ﾖｼﾋﾛ 嶋田　佳広 ＜令和9年4月＞		博士（法学）		労働法		3前	2	1	龍谷大学 法学部 教授 （令和3.4）						
49	その他	教授	ｼﾏﾊﾞﾔｼ ｼｮｳｼﾞ 嶋林　昭治 ＜令和7年4月＞		修士（社会学）／ 修士（英語教育）		英語総合1(A) 英語総合2(A)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成14.4）						
50	その他	教授	ｼﾐｽﾞ ﾏﾕｺ 清水　万由子 ＜令和8年4月＞		博士（地球環境学）		環境と社会		2前	2	1	龍谷大学 政策学部 教授 （平成24.10）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
51	その他	教授	ﾀｶﾊﾀ ｼｹﾞｶﾜ 高畑　重勝 ＜令和8年10月＞		修士（法学）		京都市の産業と産業政策		2後	2	1	龍谷大学 政策学部 教授 （令和5.4）						
52	その他	教授	ﾀｷﾓﾄ ﾏｻﾄ 瀧本　眞人 ＜令和7年4月＞		Ph.D in Translation and Interpreting Studies （オーストラリア）		教養教育科目特別講義　※		1前	0.93	1	龍谷大学 国際学部 教授 （平成25.4）						
53	その他	教授	ﾀｸﾞﾁ ﾘﾂｵ 田口　律男 ＜令和7年4月＞		文学修士※		日本の文学A 文章表現法A 日本の文学B 文章表現法B 現代社会の諸問題　※ 日本の文学C	○ ○ ○ ○	1前 1前 1後 1後 2前 2前	4 4 4 4 0.13 4	1 2 1 2 1 2	龍谷大学 経済学部 教授 （平成12.10）						
54	その他	教授	ﾀｹｲ ﾋﾛｼ 武井　寛 ＜令和7年4月＞		法学修士※		教養教育科目特別講義　※		1前	0.13	1	龍谷大学 法学部 教授 （令和元.9）						
55	その他	教授	ﾀｹｳﾁ ﾏｻﾋｺ 竹内　真彦 ＜令和7年4月＞		博士（学術）		中国の思想A 中国の思想B アジアの文化 海外中国語研修講座 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2前 2後～3前 3後～4前 4後	2 2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成13.4）						
57	その他	教授	ﾃｼﾏ ﾋﾃﾞｷ 手嶋　英貴 ＜令和7年4月＞		Doktor Der Philosophie （ﾄﾞｲﾂ）		アジアの文学A アジアの文学B 文章表現法A 文章表現法B 人文科学セミナー	○ ○ ○ ○	1前 1前 1前 1後 2通	4 4 2 2 4	2 2 1 1 1	龍谷大学 法学部 教授 （令和3.4）						
58	その他	教授	ﾃﾗｶﾜ ｼﾛｳ 寺川　史朗 ＜令和7年4月＞		修士（法学）※		日本国憲法	○	1前	2	1	龍谷大学 法学部 教授 （平成24.4）						
59	その他	教授	ﾄﾞｰﾙﾄﾝ ﾌﾗﾝｸ ドールトン　フランク ＜令和7年4月＞		応用言語学博士 （ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ）		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成13.4）						
60	その他	教授	ﾅｶﾉ ﾋﾛﾕｷ 中野　寛之 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		宇宙の科学Ⅰ 物理科学の世界 宇宙の科学Ⅱ 大学論　※	○ ○	1前 1前 2前 2前	8 4 4 0.27	2 1 2 1	龍谷大学 法学部 教授 （平成29.4）						
61	その他	教授	ﾅｶﾞﾐﾈ ﾄｼﾉﾌﾞ 長嶺　寿宣 ＜令和8年10月＞		Ph.D in Composition and TESOL （ｱﾒﾘｶ合衆国）		教育課程論 介護等体験 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導ⅡA 教育実習指導ⅡB 教職実践演習(中・高)		2後 3前 4前 4前 4前 4後	2 2 1 4 2 4	1 1 1 1 1 2	龍谷大学 国際学部 教授 （令和2.4）						
62	その他	教授	ﾅｶﾓﾄ ｶｽﾞﾋｺ 中本　和彦 ＜令和8年10月＞		博士（学校教育学）		教育課程論 介護等体験 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導ⅡA 教育実習指導ⅡB 教職実践演習(中・高)		2後 3前 4前 4前 4前 4後	2 2 1 4 2 4	1 1 1 1 1 2	龍谷大学 法学部 教授 （令和元.4）						
63	その他	教授	ﾆｼｵｶ ﾋｻﾐﾂ 西岡　久充 ＜令和7年4月＞		博士（工学）		キャリア実習・実習指導 キャリア実習・実習指導(大学コンソーシアム京都)		1通 1通	2 4	1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成25.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
64	その他	教授	ﾆｼｶﾜ ﾖｼｱｷ 西川　芳昭 ＜令和8年10月＞		博士（農学）		食・農・資源の経済論A 食・農・資源の経済論B		2後 2後	2 2	1 1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成25.4）						
65	その他	教授	ﾊｼｸﾞﾁ ﾕﾀｶ 橋口　豊 ＜令和8年10月＞		博士（法学）		演習Ⅰ 演習Ⅱ(卒業研究含む)	○ ○	2後～3前 3後～4後	4 6	1 1	龍谷大学 法学部 教授 （平成14.4）						
66	その他	教授	ﾊｼﾓﾄ ﾏｻｺ 橋本　雅子 ＜令和8年4月＞		体育学士		教職論 生徒・進路指導論 介護等体験 総合的な学習の時間・特別活動論 道徳教育指導法		2前 2前 3前 3前 3後	4 2 2 2 2	2 1 1 1 1	龍谷大学 短期大学部 教授 （平成27.4）						
67	その他	教授 （学部長）	ﾊｾｶﾞﾜ ﾀｹｼ 長谷川　岳史 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		仏教の思想A 仏教の思想B アジアの文化	○ ○	1前 1後 2前	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成13.4）						
68	その他	教授	ﾊｯﾄﾘ ｹｲｲﾁﾛｳ 服部　圭郎 ＜令和8年10月＞		博士（総合政策）		景観・まちなみ保存政策　※ 北米・中南米の地域・都市政策		2後 3前	0.93 2	1 1	龍谷大学 政策学部 教授 （平成30.4）						
69	その他	教授	ﾊﾏﾅｶ ｼﾝｺﾞ 濱中　新吾 ＜令和8年10月＞		博士（政治学）		演習Ⅰ 中東政治論 アジア政治論 演習Ⅱ(卒業研究含む)	○ ○	2後～3前 3前 3後 3後～4後	4 2 4 6	1 1 1 1	龍谷大学 法学部 教授 （平成28.4）						
70	その他	教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾀﾂｵ 原田　太津男 ＜令和8年4月＞		修士（経済学）		国際社会論		2前	2	1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成25.4）						
71	その他	教授	ﾋﾛｾ ｼﾞｭﾝ 廣瀬　純 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語セミナーⅠC 人文科学セミナー 特別演習Ⅰ フランス語セミナーⅡC フランス語セミナーⅡB フランス語セミナーⅡD 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2通 2後～3前 3前 3後 3後 3後～4前 4後	2 2 2 4 4 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成16.4）						
72	その他	教授	ﾌｶｵ ﾏｻﾀｶ 深尾　昌峰 ＜令和9年10月＞		修士（教育学）		ケースで学ぶローカルファイナンス		3後	2	1	龍谷大学 政策学部 教授 （平成22.4）						
73	その他	教授	ﾌｼﾞｷ ｼﾞｭﾝｼﾞ 藤木　潤司 ＜令和7年4月＞		修士（商学）※		初級商業簿記 財務会計入門 財務会計論		1後 2前 2後	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成16.4）						
74	その他	教授	ﾌｼﾞﾀ ｶｽﾞﾋﾛ 藤田　和弘 ＜令和7年4月＞		博士（学術）		データサイエンス・AI入門		1前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平成16.4）						
75	その他	教授	ﾌﾅﾀﾞ ｻﾄｼ 船田　智史 ＜令和8年10月＞		博士（理学）		学部共通特別講義A		2後	2	1	龍谷大学 政策学部 教授 （令和4.4）						
76	その他	教授	ﾏｴｶﾜ ﾀｶﾌﾐ 前川　貴史 ＜令和7年10月＞		Ph.D in linguis-tics （ｲｷﾞﾘｽ）		海外英語研修		1後	4	2	龍谷大学 社会学部 教授 （平成25.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
77	その他	教授	ﾏｽﾀﾞ ﾔｽﾋｺ 増田　靖彦 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		大学論　※		2前	0.27	1	龍谷大学 心理学部 教授 （平成24.4）						
							ヨーロッパ研究B		3前	2	1							
78	その他	教授	ﾏﾂｲ ﾘｭｳｺﾞ 松居　竜五 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		大学論　※		2前	0.27	1	龍谷大学 国際学部 教授 （平成13.4）						
79	その他	教授	ﾏﾂｳﾗ ｻﾄｺ 松浦　さと子 ＜令和7年4月＞		博士（学術）		社会学のすすめ	○	1前	8	4	龍谷大学 政策学部 教授 （平成14.4）						
							現代社会とメディア		2前	2	1							
							現代社会の諸問題		2前	2	1							
80	その他	教授	ﾏﾂｵ ﾋﾃﾞﾔ 松尾　秀哉 ＜令和8年10月＞		博士（学術）		演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1	龍谷大学 法学部 教授 （平成30.4）						
							演習Ⅱ(卒業研究含む)	○	3後～4後	6	1							
81	その他	教授	ﾏﾂｼﾏ ﾔｽｶﾂ 松島　泰勝 ＜令和8年4月＞		博士（経済学）		現代社会の諸問題　※		2前	0.13	1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成20.4）						
							地域経済論		2後	4	1							
82	その他	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ｹｲｺ 松永　敬子 ＜令和8年10月＞		修士（体育学）		特別演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1	龍谷大学 経営学部 教授 （平成20.4）						
							スポーツキャリア実習	○	3後	2	1							
							スポーツマネジメント論	○	3前	2	1							
							キャリア入門(スポーツサイエンスコース)	○	3前	2	1							
							スポーツサイエンスコース特別講義(スポーツビジネス)		3後	2	1							
							スポーツサイエンスコース特別講義(水泳)		3後	2	1							
							スポーツマーケティング論		3後	2	1							
							特別演習Ⅱ	○	3後～4前	4	1							
							特別演習Ⅲ	○	4後	4	1							
83	その他	教授	ﾏﾄﾊﾞ ﾉﾌﾞﾀｶ 的場　信敬 ＜令和8年10月＞		Ph.D in Urban and Regional Studies （ｲｷﾞﾘｽ）		持続可能な発展概論　※		2後	1.87	1	龍谷大学 政策学部 教授 （平成23.4）						
84	その他	教授	ﾐﾊﾗ ﾘｭｳｼ 三原　龍志 ＜令和7年4月＞		教育学士		日本語	○	1前	4	4	龍谷大学 文学部 教授 （平成23.4）						
85	その他	教授	ﾐﾔｳﾗ ﾄﾐﾔｽ 宮浦　富保 ＜令和7年4月＞		農学博士		里山学　※		1前	0.13	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平成14.4）						
86	その他	教授	ﾑﾗｾ ﾌﾐｺ 村瀬　文子 ＜令和7年4月＞		Doctor of Philosophy （ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		英語総合1(A)	○	1前	1	1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成29.4）						
							英語総合2(A)	○	1後	1	1							
							英語総合3(A)	○	2前	1	1							
							英語総合4(A)	○	2後	1	1							
87	その他	教授	ﾒﾍﾞｯﾄﾞ ｼｪﾘﾌ メベッド　シェリフ ＜令和7年4月＞		博士（文学）		英語セミナーI1		1前	2	1	龍谷大学 法学部 教授 （平成26.4）						
							英語セミナーI2		1後	2	1							
							Oral Communication ⅠA	○	2後	4	1							
							Oral Communication ⅠB	○	2後	4	1							
							米国文化Ⅰ	○	2後	2	1							
							Intercultural Discussion	○	3前	2	1							
							Oral Communication ⅡA	○	3前	4	1							
							Oral Communication ⅡB	○	3前	4	1							
							米国文化Ⅱ	○	3前	2	1							
							Intercultural Discussion	○	3後	2	1							
							Seminar Ⅰ	○	3後	2	1							
							Seminar Ⅱ	○	4前	2	1							
							卒業研究	○	4後	4	1							

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
88	その他	教授	ﾔｽﾀﾞ ｹｲｼ 安田　圭史 ＜令和8年4月＞		Master en Artes Liberales （ｽﾍﾟｲﾝ）		スペイン語ⅢA	○	2前	1	1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成22.4）						
							スペイン語ⅢB	○	2後	1	1							
							特別演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							スペイン語セミナーⅡA		3前	2	1							
							スペイン語セミナーⅡB		3後	2	1							
							特別演習Ⅱ	○	3後～4前	4	1							
							特別演習Ⅲ	○	4後	4	1							
89	その他	教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾀｸﾍｲ 山田　卓平 ＜令和8年10月＞		修士（法学）		演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1	龍谷大学 法学部 教授 （平成23.4）						
							国際法Ⅰ		2後	4	1							
							国際取引法		3前	2	1							
							国際法Ⅱ		3前	2	1							
							演習Ⅱ（卒業研究含む）	○	3後～4後	6	1							
90	その他	教授	ﾔﾜﾀ ｺｳｲﾁ 八幡　耕一 ＜令和8年4月＞		博士（国際広報メディア）		現代社会の諸問題　※		2前	0.13	1	龍谷大学 国際学部 教授 （平成23.4）						
91	その他	教授	ﾛｻﾞｰﾃｨ ｻｲﾓﾝ ロザーティ　サイモン ＜令和7年4月＞		M.A. TESOL （ｲｷﾞﾘｽ）		English language (Ryukoku Intercultural Program)		1前	12	1	龍谷大学 経済学部 教授 （平成元.10）						
							Lecture (Ryukoku Intercultural Program)		1前	6	1							
							Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)		1前	6	1							
							Oral Communication ⅠA	○	2後	4	1							
							英国文化Ⅰ	○	2後	2	1							
							海外研修	○	2後	8	2							
							Oral Communication ⅡA	○	3前	4	1							
							英語セミナーJ1		3前	2	1							
							英語セミナーJ2		3後	2	1							
							英国文化Ⅱ	○	3前	2	1							
							Seminar Ⅰ	○	3後	2	1							
							Seminar Ⅱ	○	4前	2	1							
							卒業研究	○	4後	4	1							
92	その他	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｴｲｼﾞ 渡辺　英児 ＜令和9年4月＞		博士（体育学）		スポーツ心理学Ⅰ		3前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平成15.4）						
							スポーツ心理学Ⅱ		3後	2	1							
93	その他	准教授	ｱﾗｲ ｼﾞｭﾝ 新井　潤 ＜令和7年10月＞		理学修士		情報科学実習		1後	4	1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成9.4）						
							情報科学入門	○	2前	2	1							
							情報科学Ⅰ		2後	2	1							
							コンピュータシステム論	○	3前	4	1							
							情報科学Ⅱ		3前	2	1							
							シミュレーション技法	○	3後	2	1							
94	その他	准教授	ｲﾄｳ ﾀｶﾖｼ 伊藤　貴祥 ＜令和7年4月＞		言語学博士（韓国）		コリア語Ⅰ	○	1前	2	1	龍谷大学 法学部 准教授 （平成29.4）						
							コリア語Ⅱ	○	1後	2	1							
							特別演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							コリア語セミナーⅡC		3前	2	1							
							コリア語セミナーⅡD		3後	2	1							
							特別演習Ⅱ	○	3後～4前	4	1							
							特別演習Ⅲ	○	4後	4	1							
95	その他	准教授	ｳ ｹﾝ 于　健 ＜令和9年4月＞		博士（経営学）		国際経営戦略論		3前	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （令和4.4）						
96	その他	准教授	ｳｴﾔﾏ ﾐｶ 上山　美香 ＜令和8年10月＞		博士（経済学）		開発経済学A		2後	2	1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成24.4）						
							開発経済学B		2後	2	1							

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
97	その他	准教授	ｳｽｲ ﾄﾓｺ 碓井　智子 ＜令和7年4月＞		博士（人間・環境学）		英語総合1(B) 英語総合2(B) Communicative Grammar Ⅰ Communicative Grammar Ⅱ	○ ○ ○ ○	1前 1後 2後 3前	1 1 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 政策学部 准教授 （平成27.4）						
99	その他	准教授	ｳﾒｻﾞﾜ ﾄｼﾋﾛ 梅澤　俊浩 ＜令和8年4月＞		博士（商学）		工業簿記		2前	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （平成31.4）						
100	その他	准教授	ｶﾐﾔ ﾕｳｽｹ 神谷　祐介 ＜令和8年10月＞		博士（国際公共政策）		国際協力論		2後	4	1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成26.4）						
101	その他	准教授	ｶﾔｷ ﾉﾘﾔ 栢木　紀哉 ＜令和7年4月＞		博士（工学）/ 博士（学校教育学）		経営情報学Ⅰ 経営データ分析Ⅰ プログラミングⅠ プログラミングⅡ		1前 1後 2後 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 准教授 （令和4.4）						
102	その他	准教授	ｶﾜﾅｶ ﾀﾞｲｽｹ 川中　大輔 ＜令和7年4月＞		修士（社会デザイン学）		教養教育科目特別講義　※		1前	0.13	1	龍谷大学 社会学部 准教授 （平成29.4）						
103	その他	准教授	ｷﾉｼﾀ ﾉﾘｱｷ 木下　謙朗 ＜令和7年4月＞		博士（日本語教育学）		言語と文化 日本語	○ ○	1前 1前	2 8	1 8	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成27.4）						
104	その他	准教授	ｷｮ ｽﾐ 許　秀美 ＜令和8年4月＞		博士（言語文化学）		コリア語ⅢC コリア語セミナーⅠA コリア語ⅢD コリア語セミナーⅠB 特別演習Ⅰ 東アジア研究B 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○ ○	2前 2前 2後 2後 2後～3前 3前 3後～4前 4後	1 2 1 2 4 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 心理学部 准教授 （平成25.4）						
105	その他	准教授	ｸﾄﾞｳ ｶｽﾞﾔ 工藤　和也 ＜令和7年4月＞		博士（言語学）		英語セミナーG1 英語総合1(B) 英語セミナーG2 英語総合2(B)	 ○ ○	1前 1前 1後 1後	2 1 2 1	1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成26.4）						
106	その他	准教授	ｸﾎﾞ ﾄｼﾋｻ 久保　利久 ＜令和7年4月＞		博士（数学）		確率・統計入門 数学への旅 微分と積分 数学の世界 数理統計学 大学論　※	○ ○	1前 1前 1前 2前 2前 2前	4 4 4 4 4 0.27	2 2 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成28.4）						
107	その他	准教授	ｺﾏｻ ﾋﾛﾉﾘ 小正　浩徳 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		教養教育科目特別講義　※		1前	0.13	1	龍谷大学 心理学部 准教授 （平成24.4）						
108	その他	准教授	ｻｻｷ ﾀﾞｲｺﾞ 佐々木　大悟 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		歎異抄の思想Ⅰ 歎異抄の思想Ⅱ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 短期大学部 准教授 （平成26.4）						
109	その他	准教授	ｼｵﾉｻﾞｷ ｼﾝﾔ 塩野﨑　信也 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		トルコ語Ⅰ トルコ語Ⅱ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 文学部 准教授 （平成29.4）						
110	その他	准教授	ｼﾌﾞﾔ ﾘｮｳ 渋谷　亮 ＜令和7年4月＞		博士（人間科学）		教育学のすすめA 教育学のすすめB 教育原論A 現代社会と教育A 人文科学セミナー 教育原論B 現代社会と教育B	○ ○	1前 1後 2前 2前 2通 2後 2後	2 2 4 2 4 4 2	1 1 2 1 1 2 1	龍谷大学 文学部 准教授 （平成31.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
111	その他	准教授	シマネ ヨシエ 島根　良枝 ＜令和8年10月＞		修士（経済学）		アジア経済論A		2後	2	1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成22.9）						
							アジア経済論B		2後	2	1							
112	その他	准教授	セバタ ハジメ 瀬畑　源 ＜令和8年10月＞		博士（社会学）		演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1	龍谷大学 法学部 准教授 （令和2.4）						
							演習Ⅱ(卒業研究含む)	○	3後～4後	6	1							
113	その他	准教授	タニガキ タケト 谷垣　岳人 ＜令和7年4月＞		修士（工学）※		生態学のすすめ	○	1前	8	2	龍谷大学 政策学部 准教授 （平成18.4）						
							日本の自然　※		1前	0.80	2							
							里山学　※		1前	0.13	1							
							生命誌		2前	4	2							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							学部共通特別講義C		2後	4	1							
							環境フィールドワーク　※	○	2後～3前	1.07	1							
							環境実践研究	○	3前	4	2							
							演習Ⅱ	○	3後～4前	4	1							
							卒業研究	○	4後	4	1							
114	その他	准教授	タンノ ケンイチ 丹野　研一 ＜令和7年4月＞		博士（農学）		生物科学のすすめ	○	1前	12	3	龍谷大学 文学部 准教授 （平成30.4）						
							里山学　※		1前	1.20	1							
							自然誌実習　※		2前	0.53	1							
							植物の自然誌		2前	2	1							
							演習Ⅰ	○	2後～3前	4	1							
							環境フィールドワーク　※	○	2後～3前	1.07	1							
							演習Ⅱ	○	3後～4前	4	1							
							卒業研究	○	4後	4	1							
115	その他	准教授	ツバキハラ アツコ 椿原　敦子 ＜令和7年4月＞		博士（人間科学）		里山学　※		1前	0.13	1	龍谷大学 社会学部 准教授 （平成28.4）						
116	その他	准教授	テシマ ヤスノブ 手嶋　泰伸 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		日本の歴史A	○	1前	4	1	龍谷大学 文学部 准教授 （令和2.4）						
							日本の歴史B	○	1後	4	1							
							大学論　※		2前	0.40	1							
							歴史学入門		2前	4	2							
							日本の文化		2後	4	1							
117	その他	准教授	デブナール ミロシュ デブナール　ミロシュ ＜令和7年4月＞		博士（文学）		英語で学ぶ日本の社会A		1前	2	1	龍谷大学 国際学部 准教授 （平成29.4）						
118	その他	准教授	デン エン 田　園 ＜令和8年10月＞		博士（経済学）		ファイナンス理論		2後	4	1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成23.4）						
119	その他	准教授	トウヤマ カオル 東山　薫 ＜令和7年4月＞		博士（心理学）		心の科学A	○	1前	2	1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成27.4）						
							心理学	○	1前	8	2							
							心の科学B	○	1後	2	1							
							学習・発達論A		2前	2	1							
							人文科学セミナー		2通	4	1							
							学習・発達論B		2後	2	1							
120	その他	准教授	ナカキ アイ 中木　愛 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		中国語セミナーⅡC		3前	2	1	龍谷大学 文学部 准教授 （平成23.4）						
							中国語セミナーⅡD		3後	2	1							
121	その他	准教授	ナカタ ユウコ 中田　裕子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		アジアの歴史A	○	1前	4	1	龍谷大学 農学部 准教授 （平成27.4）						
							現代社会の諸問題　※		2前	0.53	1							

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
122	その他	准教授	ﾆｭｳﾔ ｼｭｳｲﾁ 入谷　秀一 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		哲学入門 倫理学入門 人文科学セミナー 大学論　※	○ ○	1前 1前 2通 2前	8 4 4 0.67	4 2 1 1	龍谷大学 文学部 准教授 （平成28.4）						
123	その他	准教授	ﾉｳﾐ ｼﾞｭﾝｼ 能美　潤史 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		大学論　※ 歎異抄の思想Ⅰ 歎異抄の思想Ⅱ		2前 2前 2後	0.40 2 2	1 1 1	龍谷大学 法学部 准教授 （平成26.4）						
124	その他	准教授	ﾉﾛ ｾｲ 野呂　靖 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		教養教育科目特別講義　※		1前	0.13	1	龍谷大学 心理学部 准教授 （平成23.4）						
125	その他	准教授	ﾊﾏｸﾞﾁ ｼｮｳｺ 濵口　晶子 ＜令和7年4月＞		修士（法学）※		日本国憲法	○	1前	2	1	龍谷大学 法学部 准教授 （平成23.4）						
126	その他	准教授	ﾊﾏﾀﾞ ﾀｶﾖｼ 濵田　崇嘉 ＜令和8年4月＞		修士（商学）※		財務諸表分析入門 中級商業簿記		1後 2前	2 2	1 1	龍谷大学 経営学部 准教授 （平成21.4）						
127	その他	准教授	ﾋﾒﾀﾞ ｼﾝﾔ 姫田　慎也 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 短期大学部 准教授 （平成26.4）						
128	その他	准教授	ﾋﾙｶﾜ ﾏｻﾕｷ 蛭川　雅之 ＜令和7年10月＞		Ph.D. in Economics （ｱﾒﾘｶ合衆国）		統計学		1後	4	1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成30.4）						
129	その他	准教授	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾀｶﾄ 藤原　崇人 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		アジアの歴史A アジアの歴史B 人文科学セミナー 歴史学入門	○ ○	1前 1後 2通 2前	4 4 4 4	1 1 1 2	龍谷大学 文学部 准教授 （平成31.4）						
130	その他	准教授	ﾏｴﾀﾞ ﾃﾂﾋﾛ 前田　哲宏 ＜令和7年4月＞		修士（学校教育学）		英語総合1(A) 英語総合2(A)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 文学部准教授 （平成31.4）						
131	その他	准教授	ﾏﾂﾊﾀ ﾅｵｺ 松畑　尚子 ＜令和7年4月＞		修士（体育学）※		スポーツ技術学演習 現代社会とスポーツ 現代スポーツ論 特別演習Ⅰ スポーツ政策論 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 2後 2後～3前 3前 3後～4前 4後	6 4 2 4 2 4 4	3 2 1 1 1 1 1	龍谷大学 法学部 准教授 （平成28.4）						
132	その他	准教授	ﾑﾗｶﾐ ﾘｮｳ 村上　亮 ＜令和7年4月＞		博士（歴史学）		西洋の歴史A 西洋の歴史B 大学論　※ 西洋の歴史C	○ ○	1前 2前 2前 2後	8 4 0.40 4	2 2 1 2	龍谷大学 法学部 准教授 （令和6.4）						
133	その他	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾏｺﾄ 山田　誠 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		環境学 地球科学のすすめ 日本の自然　※ 自然誌実習　※ 演習Ⅰ 学部共通特別講義B 環境学A 環境フィールドワーク　※ 環境地理学　※ 演習Ⅱ 卒業研究	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1前 1前 1前 2前 2後～3前 2後 2後 2後～3前 2後 3後～4前 4後	8 4 0.54 0.80 4 2 2 1.47 0.27 4 4	2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 准教授 （平成29.4）						
134	その他	講師	ｱｶｵ ﾐﾂﾊﾙ 赤尾　光春 ＜令和8年10月＞		博士（学術）		ヨーロッパ研究A		2後	2	1	国立民族学博物館 特任助教 （令和4.10）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
135	その他	講師	ｱｻｶ　ﾄﾓｷ 朝香　知己 ＜令和8年4月＞		博士（神学）		ジェンダー論		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						
136	その他	講師	ｱﾀﾞﾑｽ　ｷｰｽ　ｳｴｽﾞﾘｰ アダムス　キース　ウエズリー ＜令和8年10月＞		Master in Hisotry (Ancient and nvironmental) （カナダ）		Oral Communication ⅠB Debate and Discussion Oral Communication ⅡB Process Writing 学部共通特別講義Ⅴ	○ ○ ○ 	2後 3前 3前 3前 3後	4 4 4 4 2	1 2 1 2 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						
137	その他	講師	ｱﾗｷ　ﾐｴｺ 顯谷　美枝子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成15.4）						
138	その他	講師	ｲ　ｼﾞｮﾝﾋｮﾝ 李　延炫 <令和7年4月>		博士（言語文化学）		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
139	その他	講師	ｲｶﾞﾗｼ　ﾉﾘｺ 五十嵐　徳子 ＜令和8年4月＞		博士（言語文化学）		ロシア語Ⅰ ロシア語Ⅱ	 	2前 2後	2 2	1 1	天理大学 国際学部 教授 （平成27.4）						
140	その他	講師	ｲｸｼﾏ　ﾋﾛｺ 生島　弘子 <令和8年4月>		博士（文学）		倫理学B		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成30.4）						
141	その他	講師	ｲｹｵ　ﾔｽｼ 池尾　靖志 ＜令和8年4月＞		修士（国際関係学）		平和学A		2前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成18.4）						
142	その他	講師	ｲｹﾀﾞ　ﾏﾘｱ イケダ　マリア ＜令和7年4月＞		博士（経済学）		英語で学ぶ日本の社会B		1前	2	1	京都産業大学 経済学部 准教授 （平成28.4）						
143	その他	講師	ｲｹﾊﾀ　ﾁｶｺ 池端　千賀子 ＜令和7年10月＞		博士（アメリカ研究）		英語資格試験セミナー		1後	2	1	大阪公立大学 特任講師 （令和4.4）						
144	その他	講師	ｲｹﾏ　ｼｭﾝｽｹ 池間　俊祐 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		仏教の思想A 仏教の思想B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
146	その他	講師	ｲｼｲ　ﾀﾞｲｽｹ 石井　大輔 <令和9年4月>		博士（学術）		ヨーロッパ研究D		3前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成24.4）						
147	その他	講師	ｲｼｲ　ﾓﾄｺ 石井　素子 ＜令和8年4月＞		修士（教育学）※		フランス語ⅢC フランス語ⅢD	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成9.4）						
148	その他	講師	ｲｿﾉ　ｼｮｳｺﾞ 磯野　将吾 ＜令和8年10月＞		修士(経済学)		ヨーロッパ経済史		2後	4	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
149	その他	講師	ｲｿﾉ　ﾖｼﾐ 磯野　吉美 ＜令和7年4月＞		修士（言語・文化学）		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成12.4）						
150	その他	講師	ｲﾀｸﾗ　ｶｽﾞﾅﾘ 板倉　一成 ＜令和8年10月＞		学士（経済学）		コンテンツビジネス論　※		2後	0.53	1	株式会社ディレクターズ・ユニブ 代表取締役 （平成20.7）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
151	その他	講師	ｲﾁﾊﾗ　ﾏｻｺ 一原　雅子 ＜令和9年4月＞		博士（地球環境学）		環境アセスメント論		3前	2	1	総合地球環境学研究所京都気候変動適応センター研究員（令和3.10）						
152	その他	講師	ｲﾃﾞ　ｼﾝﾔ 井出　真也 ＜令和8年4月＞		修士（法学）※		国際社会論 国際法Ⅲ		2前 3後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成20.4）						
153	その他	講師	ｲﾄｳ　ｼｮｳｴｲ 伊藤　正栄 ＜令和8年4月＞		修士（文学）		英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成12.4）						
154	その他	講師	ｲﾄｳ　ﾄﾓﾕｲ 伊藤　倫之 ＜令和9年4月＞		博士（医学）		スポーツ医学		3前	2	1	愛知学院大学 健康科学部 教授 （令和5.4）						
155	その他	講師	ｲﾄｳ　ﾋﾄｼ 伊藤　均 ＜令和8年10月＞		文学修士※		環境と倫理	○	2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成27.4）						
156	その他	講師	ｲﾉｳｴ　ｹｲｺ 井上　惠子 ＜令和7年4月＞		博士（学術）		スポーツ技術学演習	○	1前	8	4	龍谷大学 非常勤講師 （平成11.4）						
157	その他	講師	ｲﾉｳｴ　ﾚｲｺ 井上　玲子 ＜令和7年4月＞		修士（日本語教育学）		日本語	○	1前	4	4	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
158	その他	講師	ｲﾏｲ　ｹｲｽｹ 今井　啓介 ＜令和7年4月＞		修士（スポーツ科学）		スポーツ技術学演習	○	1前	12	6	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						
159	その他	講師	ｲﾏﾑﾗ ﾀｶｵ 今村　隆男 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		英語総合1(A) 英語総合2(A)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	和歌山大学 教育学部 教授 (平成16.4)						
160	その他	講師	ｲﾜｻｷ　ﾀｹﾄ 岩崎　豪人 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		クリティカル・シンキング	○	1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成13.4）						
161	その他	講師	ｳｴﾆｼ　ﾏｺﾄ 上西　実 ＜令和7年4月＞		修士（理学）		日本の自然　※ 里山学　※ 自然誌実習　※ 野外観察法 生態学A 水界生態論	 ○ 	1前 1前 2前 2前 2後 3前	2.14 0.13 1.87 2 2 2	2 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成15.4）						
162	その他	講師	ｳｴﾆｼ　ﾔｽﾕｷ 上西　泰之 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		アジアの歴史A	○	1前	4	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
163	その他	講師	ｳｴﾉ　ﾘｭｳﾍｲ 上野　隆平 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		仏教の思想A 仏教の思想B 仏教学概論	○ ○ 	1前 1後 2通	2 2 4	1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成26.4）						
164	その他	講師	ｳｴﾊﾗ　ﾔｽﾉﾌﾞ 上原　尉暢 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 4	1 2	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						
165	その他	講師	ｳｼﾈ　ﾔｽﾋﾛ 牛根　靖裕 ＜令和7年10月＞		博士（文学）		アジアの歴史B	○	1後	4	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成30.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
166	その他	講師	ｳﾁﾀﾞ ﾕｷ 内田　有紀 ＜令和7年4月＞		博士（言語文化学）		英語総合1(A) 言語と文化 英語総合2(A)	○ ○ ○	1前 1前 1後	1 2 1	1 1 1	龍谷大学 法学部 講師 （平成29.4）						
167	その他	講師	ｳﾘｭｳ ｱﾂﾖ 瓜生　濃世 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成15.4）						
168	その他	講師	ｵ ｲﾝｼﾞｪ 呉　仁済 ＜令和7年4月＞		修士（法学）※		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
169	その他	講師	ｵｳ ｱﾝｼﾝ 王　亜新 ＜令和7年4月＞		修士（経済学）※		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成22.4）						
170	その他	講師	ｵｵｼﾊﾞ ﾘﾎ 大芝　理穂 ＜令和7年4月＞		修士（法学）		日本国憲法 現代社会と法	○	1前 2前	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.4）						
171	その他	講師	ｵｵﾀ ﾕｶ 太田　由佳 ＜令和8年10月＞		博士（人間・環境学）		自然科学史Ⅱ		2前	2	1	日本学術振興会特別研究員 RPD （令和4.4）						
172	その他	講師	ｵｵﾀﾆ ﾀｹﾌﾐ 大谷　岳文 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		哲学A 論理学	○	1前 2前	2 4	1 2	龍谷大学 非常勤講師 （平成5.4）						
173	その他	講師	ｵｵﾂｶ ﾔｽﾋｻ 大塚　泰寿 ＜令和8年10月＞		博士（法学）		学部共通特別講義Ａ 国際環境法 国際関係論Ⅱ		2後 2後 3前	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成18.4）						
174	その他	講師	ｵｵﾊﾞ ｺﾞﾛｳ 大場　吾郎 ＜令和8年10月＞		ph.D in Mass Communication （アメリカ合衆国）		異文化研究A 国際ジャーナリズム論		2後 3前	2 2	1 1	佛教大学 社会学部 教授 （平成27.4）						
175	その他	講師	ｵｵﾑﾗ ｶｽﾞﾏｻ 大村　和正 〈令和9年4月〉		博士（学術）		ヨーロッパ政治論		3前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成21.4）						
176	その他	講師	ｵﾀﾞｼｸ ﾋﾛﾄｼ 小柏　裕俊 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		フランス語セミナーＩＡ フランス語セミナーＩＣ フランス語セミナーＩＢ フランス語セミナーＩＤ		2前 2前 2後 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成27.4）						
177	その他	講師	ｵｶﾓﾄ ﾀﾞｲｽｹ 岡本　大典 ＜令和8年4月＞		学士（法学）		スポーツと人権・平和 スポーツ法学		2前 3後	2 2	1 1	松柏法律事務所 パートナー （平成27.1）						
178	その他	講師	ｵﾀﾞﾜ ﾋﾛｶｽﾞ 小河　寛和 ＜令和8年4月＞		文学碩士 （大韓民国）		コリア語ⅢA コリア語ⅢB	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
179	その他	講師	ｵｶﾞﾜ　ﾏｻｼ 小川　雅志 ＜令和8年10月＞		修士（教育学）		身体運動の機能解剖学 特別演習Ⅰ エクササイズテクニック スポーツトレーニング論 バイオメカニクス 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○	2後 2後～3前 3前 3後 3後 3後～4前 4後	2 4 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
180	その他	講師	ｵｸ(ｶﾈﾀﾞ)　ﾅｵｺ 奥（金田）　尚子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		英語総合1(A) 英語総合2(A)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成15.4）						
181	その他	講師	ｵｸﾊﾞﾔｼ ﾘｭｳﾋﾛ 奥林　礼寛 ＜令和7年10月＞		修士（商学）		ベーシックアカウンティングⅡ		1後	2	1	アーム税理士法人 税理士 （平成25.4）						
182	その他	講師	ｵｻﾞｷ ﾄﾓｺ 尾崎　智子 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		現代社会の諸問題　※		2前	0.13	1	龍谷大学 農学部 講師 （令和4.4）						
183	その他	講師	ｵｻﾀﾞ　ｷﾖｼ 長田　希好 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		英語総合1(A) 英語総合2(A) 英語総合3(B) 英語総合4(B)	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成12.4）						
184	その他	講師	ｵﾁｱｲ　ｶｵﾘ 落合　芳 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成28.4）						
185	その他	講師	ｵﾉﾂﾞｶ　ﾖｼﾐﾂ 小野塚　佳光 ＜令和8年10月＞		経済学修士※		比較経済論B 比較経済論A		2後 3前	2 2	1 1	同志社大学 経済学部 教授 （平成6.4）						
186	その他	講師	ｶ　ｾｲﾒｲ 夏　世明 ＜令和9年4月＞		博士（技術革新的経営）		社会調査の技法		3前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
187	その他	講師	ｶｷﾓﾄ　ﾖｼﾐ 柿本　佳美 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		倫理学A	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成17.4）						
188	その他	講師	ｶｻｲ　ｴﾘｺ 葛西　映吏子 ＜令和7年4月＞		博士（社会学）		社会学のすすめ ジェンダー論	○	1前 2前	6 2	3 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成28.4）						
189	その他	講師	ｶｼﾞﾀ　ﾏﾅﾌﾞ 梶田　学 ＜令和7年4月＞		教育学士		日本の自然　※		1前	0.80	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
190	その他	講師	ｶｼﾓﾄ　ﾖｼｶｽﾞ 樫本　喜一 ＜令和8年10月＞		博士（人間科学）		技術論		2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.4）						
191	その他	講師	ｶﾂﾗ　ﾏｻﾐﾁ 桂　正道 ＜令和7年4月＞		学士（文学）		宗門法規		1前	2	1	浄土真宗本願寺派 寺院活動支援部長 （平成31.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
192	その他	講師	ｶﾄｳ　ｼﾝｺﾞ 加藤　真悟 ＜令和7年4月＞		学士（文学）		教化法　※		1通	0.67	1	浄土真宗本願寺派自然寺代表役員（平成12.10）						
193	その他	講師	ｶﾄｳ　ﾔｽｺ 加藤　泰子 ＜令和7年4月＞		博士（アメリカ研究）		社会調査のすすめ	○	1前	4	2	龍谷大学非常勤講師（平成28.4）						
194	その他	講師	ｶﾄﾞﾜｷ　ｺｳﾒｲ 門脇　浩明 ＜令和8年4月＞		Ph.D. Biological Sciences（米国）		民族の自然誌		2前	2	1	京都大学白眉センター特定准教授（平成30.4）						
195	その他	講師	ｶﾅﾓﾘ　ｴﾘ 金森　絵里 ＜令和9年4月＞		博士（経済学）		ケースで学ぶアカウンティング		3前	2	1	立命館大学経営学部教授（平成12.4）						
196	その他	講師	ｶﾈｺ ｱｷｺ 金子　あき子 ＜令和7年4月＞		博士（経済学）		教養教育科目特別講義　※		1前	0.13	1	龍谷大学農学部講師（平成31.4）						
197	その他	講師	ｶﾈｺ（ｾﾄ）ﾚｲ 金子（瀬戸）麗 ＜令和8年4月＞		博士（人間科学）		学校教育社会学		2前	4	2	日本学術振興会特別研究員 PD（令和5.4）						
198	その他	講師	ｶﾐﾉ　ﾔｽﾕｷ 神野　恭行 ＜令和7年4月＞		外国語学修士		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語ⅢA 中国語ⅢB	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学非常勤講師（平成2.4）						
199	その他	講師	ｶﾒｲ ﾀｲｷ 亀井　大樹 ＜令和8年10月＞		修士（経済学）		ビジネスヒストリーB		2後	2	1	同志社大学商学部助教（令和3.4）						
200	その他	講師	ｶﾞﾙｼｱ ｱﾙﾊﾞﾚｽ ｱﾝﾄﾞﾚｽ ガルシア　アルバレス　アンドレス ＜令和7年4月＞		修士（応用言語学） 修士（スペイン語教授法学）		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ スペイン語ⅢC スペイン語セミナーⅠC スペイン語ⅢD スペイン語セミナーⅠD	○ ○ ○ ○ 	1前 1後 2前 2前 2後 2後	2 2 1 2 1 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学非常勤講師（平成30.4）						
201	その他	講師	ｶﾜｲ　ﾋﾛﾕｷ 川合　宏之 ＜令和9年4月＞		博士（心理学）		商業科教育法Ⅰ		3前	2	1	流通科学大学商学部教授（令和5.4）						
202	その他	講師	ｶﾜｶﾂ ﾐｻｺ 川勝　美早子 ＜令和8年10月＞		修士（社会学）		京都企業論　※		2後	0.13	1	株式会社島津製作所創業記念資料館学芸員（平成15.4）						
203	その他	講師	ｶﾜｷﾀ　ｼﾞｭﾝｺ 河北　純子 ＜令和7年4月＞		修士（学術）		スポーツ技術学演習	○	1前	8	4	龍谷大学非常勤講師（平成26.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
204	その他	講師	ｶﾜｻｷ　ﾔｽｼ 河崎　靖 ＜令和7年4月＞		文学修士※		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	京都大学大学院人間・環境学研究科教授 （平成21.4）						
205	その他	講師	ｶﾜﾀﾞ　ﾐｶｾﾞ 川田　美風 ＜令和8年4月＞		博士（理学）		人類進化学		2前	4	2	京都大学大学院理学研究科　助教 （令和5.4）						
206	その他	講師	ｶﾜﾊﾞﾀ　ｺｳｲﾁ 川端　浩一 ＜令和8年10月＞		修士（スポーツ科学）		身体運動の生理学 フィットネスプログラミングⅠ 特別演習Ⅰ 健康スポーツ論 体力学 フィットネスプログラミングⅡ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○	2後 3前 2後～3前 3前 3前 3後 3後～4前 4後	2 2 4 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	宝塚医療大学和歌山保健医療学部 講師 （令和2.4）						
207	その他	講師	ｶﾜﾓﾄ　ｻﾄｼ 川元　惠史 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		真宗教団史		1通	4	1	龍谷大学非常勤講師 （令和4.4）						
208	その他	講師	ｶﾝ　ｸﾞﾝ 韓　軍 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学非常勤講師 （平成23.4）						
209	その他	講師	ｶﾝﾍﾞ　ﾋﾃﾞﾋｺ 神戸　秀彦 ＜令和8年10月＞		法学修士※		環境と法	○	2後	2	1	関西学院大学大学院司法研究科教授 （平成22.4）						
210	その他	講師	ｷｸｶﾜ　ﾏｻｺ 菊川　雅子 ＜令和7年4月＞		修士（アメリカ研究） M.A. in American Studies （米国）		英語セミナーA1 英語セミナーA2 英語総合3(A) 英語総合4(A)	 ○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学非常勤講師 （平成31.4）						
211	その他	講師	ｷｼﾀﾞ　ｻｵﾘ 岸田　早織 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学非常勤講師 （令和5.4）						
212	その他	講師	ｷｼﾓﾄ ﾀｶｼ 岸本　貴士 ＜令和9年4月＞		博士（社会福祉学）		ソーシャルビジネス論		3前	2	1	尼崎医療生活協同組合 総務部長 （令和2.4）						
213	その他	講師	ｷﾀ　ﾙﾒ 喜多　留女 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		英語総合1(A) 英語総合1(B) 英語総合2(A) 英語総合2(B)	○ ○ ○ ○	1前 1前 1後 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学非常勤講師 （平成9.4）						
214	その他	講師	ｷﾀﾀﾞ　ﾘｮｳｽｹ 北田　了介 ＜令和9年4月＞		博士（経済学）		経済思想史		3前	2	1	龍谷大学非常勤講師 （令和3.4）						
215	その他	講師	ｷﾀﾉ ﾕｳｺ 北野　裕子 ＜令和8年10月＞		博士（文学）		京都企業論　※		2後	0.27	1	龍谷大学非常勤講師 （平成23.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
216	その他	講師	ｷﾀﾐﾈ　ﾋﾛｼ 北峯　大至 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		真宗学概論		2通	4	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和元.9）						
217	その他	講師	ｷﾄﾞ　ｱﾂｺ 木戸　敦子 ＜令和8年4月＞		博士（言語文化）		英語総合3(B) 英語総合4(B)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成25.9）						
218	その他	講師	ｷﾄﾞ　ﾖｼﾉﾌﾞ 木戸　好信 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		英語総合3(B) 英語総合4(B)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成24.4）						
219	その他	講師	ｷﾉｼﾀ ﾋﾃﾞｵ 木下　英雄 ＜令和7年4月＞		博士（経済学）		社会統計学のすすめ	○	1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成14.4）						
220	その他	講師	ｷﾉｼﾀ　ﾐｷ 木下　実紀 ＜令和8年10月＞		博士（言語文化学）		グローバル・サウス研究A グローバル・サウス研究B		2後 3前	2 2	1 1	京都大学 白眉センター 特定助教 （令和6.4）						
221	その他	講師	ｷﾑ　ｼﾞｮﾝﾎ 金　情浩 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		コリア語コミュニケーションⅠ コリア語コミュニケーションⅡ	○ ○	2後 3前	2 2	1 1	京都女子大学 文学部 准教授 （平成27.4）						
222	その他	講師	ｷﾑ　ﾖﾝﾁｬﾝ 金　容贊 ＜令和8年4月＞		博士（国際関係学）		平和学A		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成25.4）						
223	その他	講師	ｷﾘﾑﾗ ﾀｶｼ 桐村　喬 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		空間データ分析		3前	2	1	京都産業大学 文化学部 准教授 （令和5.4）						
224	その他	講師	ｸｫﾝ　ｾﾐ 権　世美 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成26.4）						
225	その他	講師	ｸﾗﾅ　ｶｽﾞｷ 倉科　一希 ＜令和8年10月＞		Ph.D（History） 〈アメリカ合衆国〉		アメリカ政治論		2後	2	1	同志社大学 グローバル地域学部 教授 （令和4.4）						
226	その他	講師	ｸﾘｶﾞｷ　ﾕﾀｶ 栗垣　豊 ＜令和8年4月＞		工学修士		環境と社会		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成25.4）						
227	その他	講師	ｺﾞ　ｴｲｷｮｸ 呉　英玉 ＜令和7年4月＞		学士 （漢語言文学教育） （中国） 修士（文学）※		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語セミナーＩＡ 中国語セミナーＩＢ	○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成24.4）						
228	その他	講師	ｺｳ　ｲｴﾝ 高　岩 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成21.4）						
229	その他	講師	ｺｳﾓﾄ　ﾔｽｺ 河本　恭子 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		生命科学のすすめ　※ 生命科学	○	1前 1後	0.93 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
230	その他	講師	ｺﾞﾄｳ　ｹｲｼﾞ 後藤　桂治 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		確率・統計入門 数理と計算	○	1前 2前	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平成27.4）						
231	その他	講師	ｺﾊﾞﾔｼ　ﾅｵｱｷ 小林　直明 ＜令和9年4月＞		修士（言語・文化学）※		異文化研究B		3前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
232	その他	講師	ｺﾊﾞﾔｼ　ﾏｻｷ 小林　正樹 ＜令和8年4月＞		博士（経営情報学）		経営情報システム論		2前	2	1	摂南大学 経営学部 教授 （令和5.4）						
233	その他	講師	ｺﾏﾀ　ﾀｶﾋﾛ 小俣　貴洋 ＜令和7年4月＞		修士（スポーツ健康科学）		スポーツ技術学演習	○	1前	8	4	京都先端科学大学 健康医療学部 嘱託講師 （令和5.4）						
234	その他	講師	ｺﾞｰﾏﾝ　ｼﾞｮﾝ ゴーマン　ジョン ＜令和8年4月＞		Bachelor of Arts in Soviet Studies（USA） Masters in Film Studies（Ireland）		英語セミナーE1 英語総合3(B) Writing Ⅰ 英語セミナーE2 英語総合4(B) 文化比較 Dynamics of Expression Writing Ⅱ	 ○ ○ ○ ○	2前 2前 2後 2後 2後 2後 3前 3前	2 1 2 2 1 4 4 2	1 1 1 1 1 2 2 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成16.4）						
235	その他	講師	ｻｲ ｼｭﾝｾｲ 崔　舜星 ＜令和7年4月＞		博士（情報科学）		データサイエンス・AI入門 社会統計学のすすめ	 ○	1前 1前	8 4	4 2	龍谷大学 心理学部 講師 （令和5.4）						
236	その他	講師	ｻｶｲ（ﾊｼｸﾞﾁ）ﾒｸﾞﾐ 坂井（橋口）めぐみ ＜令和7年4月＞		博士（学術）		科学論		2前	2	1	日本学術振興会特別研究員 RPD （令和4.4）						
237	その他	講師	ｻｶｶﾐ　ﾏｻｱｷ 阪上　雅昭 ＜令和7年4月＞		理学博士		時間と空間の科学 エネルギー入門	○ 	1前 2前	2 4	1 2	京都大学大学院人間・環境学研究科 教授 （平成8.4）						
238	その他	講師	ｻｶﾀ　ｺﾉﾐ 坂田　彩 ＜令和8年10月＞		修士（言語文化）※		スペイン語コミュニケーションⅠ スペイン語コミュニケーションⅡ	○ ○	2後 3前	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成23.4）						
239	その他	講師	ｻｸﾗｷﾞ　ﾖｳｺ 櫻木　陽子 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成20.4）						
240	その他	講師	ｻｻﾉ ﾅｶﾞﾄｼ 佐々野　詠淑 ＜令和7年4月＞		博士（数理学）		行列と行列式 数学入門 数学の世界 数理と論証	 ○ 	1前 1前 2前 2前	4 4 4 4	1 2 1 2	龍谷大学 心理学部 講師 （令和5.4）						
241	その他	講師	ｻﾄｳ　ﾅﾂｷ 佐藤　夏樹 ＜令和7年10月＞		博士（文学）		現代世界の歴史B	○	1後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成24.9）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
242	その他	講師	ｻﾄｳ　ﾏｽﾐ 佐藤　万寿美 ＜令和7年4月＞		工学士		教職コンピュータ基礎		1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
243	その他	講師	ｻﾄｳ　ﾘｮｳｽｹ 佐藤　良輔 ＜令和7年4月＞		博士（学術）		政治学のすすめ	○	1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （令和元.9）						
244	その他	講師	ﾏﾅﾀﾞ　ﾐﾂﾙ 真田　満 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		英語総合3(B) 英語総合4(B)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成10.4）						
245	その他	講師	ｻﾉ　ﾐｴｺ 佐野　三枝子 ＜令和7年4月＞		文学博士 （大韓民国）		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成11.9）						
246	その他	講師	ｻﾙｶﾞﾛ　ﾙﾃﾞｨ サルガロ　ルディ ＜令和7年4月＞		Doctorat en droit, economie et administration, mention sciences juridiques, specialite droit public （フランス）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語セミナーⅡA	○ ○	1前 1後 3前	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.4）						
247	その他	講師	ｻﾜ　ﾕｳｽｹ 澤　祐介 ＜令和8年4月＞		修士（理学）		野外観察法		2前	2	1	公益財団法人 山階鳥類研究所 研究員 （令和2.6）						
248	その他	講師	ｻﾜﾀﾞ　ﾘｭｳｿﾞｳ 澤田　隆三 ＜令和8年4月＞		学士（社会学）		コンテンツビジネス実践Ⅰ コンテンツビジネス実践Ⅱ		2前 2後	2 4	1 1	株式会社毎日放送 報道局 エグゼクティブ チーフ・プロ デューサー （昭和60.4）						
249	その他	講師	ｼﾉﾀﾞ　ﾅｵﾋｻ 信田　尚久 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		哲学B		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成27.4）						
250	その他	講師	ｼﾉﾊﾗ　ﾐｴ 篠原　美江 ＜令和8年10月＞		博士（国際関係学）		多国籍企業論		2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.4）						
251	その他	講師	ｼﾏ　ﾕｳｺ 島　由子 ＜令和7年4月＞		博士（言語文化学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語セミナーⅠC 中国語セミナーⅠD	○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						
252	その他	講師	ｼﾏ　ﾚｲｺ 島　令子 ＜令和8年4月＞		修士（言語学）		英語セミナーB1 English in the World Writing Ⅰ 英語セミナーB2 Writing Ⅱ	○ ○	2前 2後 2後 2後 3前	2 4 2 2 2	1 2 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成18.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
253	その他	講師	ｼﾏﾀﾞ　ﾅﾎｺ 嶋田　菜穂子 ＜令和7年4月＞		修士（人間文化学） ※		環境学 地域環境論	○	1前 3前	4 2	1 1	総合地球環境学研究所 研究員 （令和3.3）						
254	その他	講師	ｼﾐｽﾞ　ｸﾘｺ 清水　久莉子 ＜令和8年4月＞		修士（教育学）		芸術の世界A 芸術の世界B		2前 2後	4 4	2 2	京都市立芸術大学特任講師 （令和4.4）						
255	その他	講師	ｼｭｳ ｼｭﾝ 周　俊 ＜令和8年10月＞		博士（学術）		中国政治論		2後	2	1	同志社大学大学院ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ研究科助教 (令和5.4)						
256	その他	講師	ｼｭﾚｽﾀ　・ﾏﾉｼﾞｭ シュレスタ　・マノジュ ＜令和9年4月＞		博士（学術）		Forum		3前	2	1	甲南大学 経営学部 教授 （平成12.4）						
257	その他	講師	ｼｮｳｼﾞ　ﾋﾛﾄ 庄子　博人 ＜令和9年4月＞		博士（スポーツ科学）		スポーツと経済		3前	2	1	同志社大学 スポーツ健康科学部 准教授 (平成31.4)						
258	その他	講師	ｼﾗｲｼ　ｶﾂﾀｶ 白石　克孝 ＜令和8年10月＞		法学修士		比較地域政策論		2後	2	1	龍谷大学 政策学部 教授 （昭和63.4）						
259	その他	講師	ｼﾗｻｷ　ｱｲ 白崎　藍 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
260	その他	講師	ｼﾗｻｷ　ｷｮｳｿﾞｳ 白崎　恭三 ＜令和9年10月＞		工学士		環境管理論Ⅱ	○	3後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
261	その他	講師	ｼﾝ　ﾄﾞﾝｽ 申　東洙 ＜令和7年4月＞		修士（日本学） （大韓民国）		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
262	その他	講師	ｼﾝﾉ　ﾏﾓﾙ 新野　守 ＜令和7年4月＞		教育学修士		スポーツ技術学演習 現代社会とスポーツ	○	1前 1後	6 2	3 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成15.4）						
263	その他	講師	ｽｶﾞﾀ　ｺｳｲﾁ 菅田　浩一 ＜令和8年4月＞		修士（文学）		英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
264	その他	講師	ｽｷﾞﾓﾄ　ﾌﾐｺ 杉本　史子 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成15.4）						
265	その他	講師	ｽｴｽｴ　ﾋﾄﾐ 祐末　ひとみ ＜令和9年10月＞		修士（スポーツ科学）		地域スポーツ論		3後	2	1	びわこ学院大学 教育福祉学部 講師 （平成30.4）						
266	その他	講師	ｽｽﾞｷ ﾋﾛｵ 鈴木　啓央 ＜令和7年4月＞		博士（心理学）		スポーツ技術学演習 スポーツ科学最前線 健康とスポーツ 身体運動の制御と学習 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○ ○ ○	1前 1前 2前 2後 2後～3前 3後～4前 4後	12 2 4 2 4 4 4	6 1 2 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 講師 （平成29.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
267	その他	講師	ｽｽﾞｷ ﾐｵ 鈴木　美央 ＜令和8年10月＞		博士（工学）		デザインマネジメント実践		2後	4	1	東京理科大学 経営学部 講師 （令和2.4）						
268	その他	講師	ｽｽﾞｷ ﾐｺ 鈴木　美湖 ＜令和7年4月＞		修士（英文学）		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
269	その他	講師	ｽﾄﾞｳ ｱｷｺ 須藤　明子 ＜令和7年4月＞		博士（獣医学）		日本の自然　※		1前	0.80	2	株式会社イーグレット・オフィス 専務取締役 （平成10.10）						
270	その他	講師	ｽﾐｸﾗ ﾋﾛﾉﾌﾞ 隅倉　浩信 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		仏教の思想A 仏教の思想B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
271	その他	講師	ｾｷ ﾄﾓﾋﾛ 関　智宏 ＜令和9年4月＞		博士（経営学）		ビジネスイノベーション 中小企業経営論		3前 3前	2 2	1 1	同志社大学 商学部 教授 （平成27.4）						
272	その他	講師	ｾﾉｵ ﾄﾓﾉﾘ 妹尾　知則 ＜令和7年4月＞		修士（法学）		日本国憲法 現代社会と労働	○	1前 2前	4 2	2 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成19.4）						
273	その他	講師	ｾﾘｮｳ ｼﾝｺﾞ 瀬領　真悟 ＜令和9年10月＞		法学修士		経済法		3後	2	1	同志社大学 法学部 教授 （H15.4）						
274	その他	講師	ｾﾝｶﾞ ﾕｶ 千賀　由佳 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		中国語セミナーⅡA 中国語セミナーⅡB		3前 3後	2 2	1 1	龍谷大学 法学部 講師 （令和2.4）						
275	その他	講師	ｿﾝ ｳﾆｮﾝ 宋　鰓誉 ＜令和8年4月＞		博士（政策科学）		コリア語ⅢC コリア語ⅢD	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成27.4）						
276	その他	講師	ﾀｶﾀﾞ ﾄｼｼﾞ 高田　敏司 ＜令和8年4月＞		学士（社会学）		現代社会と福祉		2前	2	1	京都新聞編集局 次長兼報道部長 （平成27.10）						
277	その他	講師	ﾀｶﾊｼ ﾏﾅﾌﾞ 高橋　学 ＜令和7年4月＞		修士(外国語学）※		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成26.4）						
278	その他	講師	ﾀｶﾔﾅｷﾞ ｱﾂｼ 高柳　敦 ＜令和7年4月＞		博士（農学）		里山学　※ 自然保護論	○	1前 2後	0.13 2	1 1	京都大学大学院 農学研究科 准教授 （令和元.11）						
279	その他	講師	ﾀｷｶﾞﾜ ｸﾆﾖｼ 滝川　国芳 ＜令和8年10月＞		博士（医療福祉学）		特別支援教育概論		2後	4	2	京都女子大学 発達教育学部 教授 （平成31.4）						
280	その他	講師	ﾀｹｳﾁ ﾂﾖｼ 竹内　剛 ＜令和9年4月＞		博士（理学）		生物共棲論		3前	2	1	大阪公立大学 大学院農学研究科 研究員 （平成25.4）						
281	その他	講師	ﾀｹｼﾀ ｼｭｳ 竹下　柊 ＜令和9年4月＞		修士（臨床心理学）※		教育相談		3前	2	1	龍谷大学 短期大学部 講師 （令和4.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
282	その他	講師	ﾀｹﾐ　ﾃﾂﾔ 竹見　哲也 ＜令和8年10月＞		博士（理学）		気候と気象		2後	2	1	京都大学 防災研究所 教授 （令和3.4）						
283	その他	講師	ﾀｼﾞﾏ　ﾄｵﾙ 但馬　亨 ＜令和7年4月＞		修士（学術）		数学への旅 数学入門 科学論	○ ○	1前 1前 2前	4 4 2	2 2 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成21.4）						
284	その他	講師	ﾀﾁﾊﾞﾅ　ﾀﾂﾔ 立花　達也 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		哲学A	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
285	その他	講師	ﾀﾅｶ　ｱﾂｺ 田中　敦子 ＜令和8年4月＞		博士（言語文化）		英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成11.4）						
286	その他	講師	ﾀﾅｶ ｼｮｳｼﾞ 田中　祥司 ＜令和8年4月＞		経営管理修士（専門職）		マーケティングリサーチ　※		2前	1.87	1	摂南大学 経営学部 准教授 （平成30.4）						
287	その他	講師	ﾀﾅｶ　ﾅｵ 田中　直 ＜令和7年4月＞		博士（国際関係学）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語ⅢC ドイツ語ⅢD	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
288	その他	講師	ﾀﾅｶ　ﾉﾌﾞﾕｷ 田中　延幸 ＜令和9年10月＞		修士（商学）※		商業科教育法Ⅱ		3後	2	1	大阪学院大学 短期大学部 教授 （平成27.4）						
289	その他	講師	ﾀﾆｸﾞﾁ　ﾔｽﾋｻ 谷口　裕久 ＜令和7年4月＞		修士（国際学）		文化人類学のすすめ	○	1前	4	2	大阪観光大学 国際交流学部 教授 （平成27.4）						
290	その他	講師	ﾀﾏｷ　ｼﾝﾀ 玉木　晋太 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）※		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	2 2	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平成30.4）						
291	その他	講師	ﾀﾑﾗ　ｻｲｺ 田村　彩子 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
292	その他	講師	ﾀﾑﾗ　ﾀｲｲﾁ 田村　太一 （令和8年10月）		博士（経済学）		グローバル経済史B グローバル経済史A		2後 3前	2 2	1 1	流通経済大学 経済学部 教授 （令和5.4）						
293	その他	講師	ﾁﾄｳｼｮ ﾘｻ 地頭所　里紗 ＜令和8年10月＞		博士（商学）		演習Ⅰ グローバルマーケティング 演習Ⅱ（卒業研究含む）	○ ○	2後～3後 3前 4通	6 2 4	1 1 1	龍谷大学 政策学部 講師 （令和2.4）						
294	その他	講師	ﾂｲｼﾞﾊﾞﾙ ﾋｻﾐ 築地原　尚美 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		英語総合1(A) 英語総合2(A)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.4）						
295	その他	講師	ﾂｶﾀﾞ　ﾘｮｳﾀ 塚田　亮太 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		中国語ⅢC 中国語ⅢD	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成9.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
296	その他	講師	ﾂｶﾞﾜ ｼｭｳｲﾁ 津川　修一 ＜令和9年4月＞		博士（Toulouse School of Economics・経済学） （ﾌﾗﾝｽ）		都市経済論		3前	2	1	龍谷大学 経済学部 講師 （令和4.4）						
297	その他	講師	ﾂｶﾞﾜ ﾖｳｽｹ 都河　陽介 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		仏教の思想A 仏教の思想B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成5.4）						
298	その他	講師	ﾂｼﾞ　ｼｮｳｺ 辻　祥子 ＜令和9年4月＞		博士（理学）		生態学B	○	3前	2	1	京都大学 農学研究科 研究員 （令和3.4）						
299	その他	講師	ﾂﾂｲ　ｶﾖｺ 筒井　香代子 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成22.4）						
300	その他	講師	ﾂﾙﾀ ｹﾝｼﾞ 鶴田　健二 ＜令和7年4月＞		博士（農学）		日本の自然　※		1前	0.80	2	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 研究員 (令和2.7)						
301	その他	講師	ﾃｲ　ｱｲﾘ 鄭　愛莉 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成19.4）						
302	その他	講師	ﾃﾗｻﾜ ﾀﾞｲﾅ 寺澤　大奈 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						
303	その他	講師	ﾃﾗﾓﾄ　ｾｲｼ 寺本　聖史 ＜令和7年4月＞		準学士		勤式　※		1通	1.07	1	浄土真宗本願寺派 勤式指導所講師 （平成7.4）						
304	その他	講師	ﾄｳ　ｶﾝ 佟　岩 ＜令和8年4月＞		修士（教育学）		中国語セミナーⅠA 中国語コミュニケーションⅠ 中国語セミナーⅠB 中国語コミュニケーションⅡ	 ○ ○	2前 2後 2後 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成10.4）						
305	その他	講師	ﾄｳｺｳ　ﾋﾛﾋﾃﾞ 東光　博英 ＜令和8年4月＞		文学修士		ポルトガル語Ⅰ ポルトガル語Ⅱ ポルトガル語ⅢA ポルトガル語ⅢB	 	2前 2後 3前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （昭和62.4）						
306	その他	講師	ﾄｼｵｶ　ﾄﾓﾐ 年岡　智見 ＜令和7年4月＞		修士（人間・環境学）※		英語総合1(A) 英語総合1(B) 英語総合2(A) 英語総合2(B)	○ ○ ○ ○	1前 1前 1後 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成22.4）						
307	その他	講師	ﾄﾖﾀ　ﾖｳｽｹ 豊田　陽介 ＜令和9年4月＞		修士 （社会学）		環境エネルギー政策		3前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成24.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
308	その他	講師	ﾄﾞﾗｸﾞﾅ　ﾗﾙｶ　ﾏﾘｱ ドラグナ　ラルカ マリア ＜令和7年4月＞		博士（人間科学）※		英語総合1(A) 英語総合2(A) Writing Ⅰ 英語セミナーH1 Business Writing 英語セミナーH2 Writing Ⅱ	○ ○ ○ ○	1前 1後 2後 3前 3前 3前 3前	1 1 2 2 4 2 2	1 1 1 1 2 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成25.4）						
309	その他	講師	ﾅｲﾄｳ　ﾖｳｺ 内藤　陽子 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		日本の自然　※		1前	0.80	2	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						
310	その他	講師	ﾅｵｲ　ﾘﾖ 直井　里予 ＜令和9年4月＞		博士（地域研究）		多文化映像論B		3前	2	1	国際ファッション専門職大学 講師 （令和5.4）						
311	その他	講師	ﾅｶｲ　ｻｷﾘ 中井　咲織 ＜令和8年10月＞		修士（理学）		地球と環境	○	2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
312	その他	講師	ﾅｶﾞｲ　ﾀﾂｵ 永井　達夫 ＜令和7年4月＞		文学修士		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成3.4）						
313	その他	講師	ﾅｶｵ　ｻﾁｺ 中尾　幸子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成25.4）						
314	その他	講師	ﾅｶｶﾞﾜ　ｱｷﾗ 中川　昭 ＜令和8年4月＞		Master in TESOL （米国）		英語総合3(B) 英語総合4(B)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成12.4）						
315	その他	講師	ﾅｶｶﾞﾜ　ｵｵｷ 中川　大城 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		教化法　※		1通	0.80	1	浄土真宗本願寺派得度習礼教師教修講師 （平成28.4）						
316	その他	講師	ﾅｶｶﾞﾜ　ﾖｼﾕｷ 中川　義行 ＜令和8年4月＞		博士（理学）		現代社会の諸問題		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成12.4）						
317	その他	講師	ﾅｶｶﾞﾜ ﾘｷ 中川　理季 ＜令和8年4月＞		修士（社会学）		社会調査実践	○	2前	2	1	公益財団法人世界人権問題研究センター 専任研究員 （令和4.4）						
318	その他	講師	ﾅｶﾆｼ　ﾔｽｼ 中西　康 ＜令和9年10月＞		法学士		国際私法		3後	4	1	京都大学大学院法学研究科 教授 （平成18.4）						
319	その他	講師	ﾅｶﾉ　ﾕｳｷ 中野　悠希 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		ロシア語ⅢA ロシア語ⅢB		3前 3後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
320	その他	講師	ﾅｶﾐﾁ ｶｽﾞｼ 中道　一心 ＜令和8年10月＞		博士（商学）		事業システム論		2後	2	1	同志社大学 商学部 教授 （平成28.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
321	その他	講師	ﾅｶﾑﾗ　ｲﾙｿﾝ 中村　一成 ＜令和8年10月＞		学士（文学）		多文化映像論A		2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成30.4）						
322	その他	講師	ﾅｶﾑﾗ　ﾁｻｺ 中村　秩祥子 ＜令和8年4月＞		博士（学術） Graduate Diploma in TESOL （ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）		英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成13.4）						
323	その他	講師	ﾅｶﾑﾗ　ﾋﾛｺ 中村　裕子 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		英語総合3(B) 英語総合4(B)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
324	その他	講師	ﾅﾗﾓﾄ　ﾏｻﾋﾛ 楢本　昌広 ＜令和7年4月＞		学士（工学）		勤式　※		1通	1.33	1	龍谷山本願寺式務部課長 （令和3.4）						
325	その他	講師	ﾅﾘﾄﾐ　ｼｭｳﾄ 成富　守登 ＜令和7年4月＞		修士（法学）		法学のすすめ	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
326	その他	講師	ﾅﾙｺ　ｱﾂｼ 成子　篤 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		時間と空間の科学 複雑系の科学	○	1前 3前	8 2	4 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						
327	その他	講師	ﾆｼ　ﾅｵﾐ 西　直美 ＜令和8年10月＞		博士（グローバル社会研究）		東南アジア研究A		2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						
328	その他	講師	ﾆｼｴ　ﾋﾄﾅﾙ 西江　仁徳 ＜令和8年4月＞		博士（理学）		動物の自然誌		2前	4	2	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 特任研究員 （令和2.10）						
329	その他	講師	ﾆｼｶﾜ　ｶｽﾞｼﾞ 西川　一二 ＜令和8年4月＞		博士（心理学）		学習・発達論A 学習・発達論B		2前 2後	2 2	1 1	大阪商業大学 総合経営学部 専任講師 (令和5.4)						
330	その他	講師	ﾆｼｻｺ　ｾｲｲﾁﾛｳ 西迫　成一郎 ＜令和7年4月＞		社会学修士※		心の科学A 心の科学B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 人文学部 准教授 （平成12.4）						
331	その他	講師	ﾆｼﾉﾄｳｲﾝ　ﾊﾙﾐ 西洞院　遥美 ＜令和7年4月＞		修士（言語文化学）		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ スペイン語セミナーⅠA スペイン語セミナーⅠB	○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成24.4）						
332	その他	講師	ﾆｼﾊﾗ　ｼｹﾞｷ 西原　茂樹 ＜令和9年4月＞		博士（社会学）		スポーツメディア論		3前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成23.4）						
333	その他	講師	ﾆｼﾑﾗ　ﾅｵﾄ 西村　直登 ＜令和7年4月＞		博士（現代アジア研究）		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.9）						
334	その他	講師	ﾆｼﾑﾗ　ﾌﾐﾀｹ 西村　文武 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		化学物質と環境	○	3前	2	1	京都大学大学院 工学研究科 准教授 （平成19.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
335	その他	講師	ﾆｼﾔﾏ　ｼｭﾝｲﾁ 西山　俊一 ＜令和7年4月＞		修士（経営学）※		教職コンピュータ基礎		1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成9.4）						
336	その他	講師	ﾈｸﾞﾛﾝ　ﾛﾍﾞﾙﾄ ネグロン　ロベルト ＜令和7年4月＞		博士（情報科学）		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成13.4）						
337	その他	講師	ﾈｷﾞﾀ　ｶﾂﾋｺ 根田　克彦 ＜令和8年10月＞		博士(理学)		経済地理学B 経済地理学A		2後 3前	2 2	1 1	奈良教育大学 社会科教育講座 教授 （平成6.4）						
338	その他	講師	ﾉｶﾞﾐ ｹｲｺ 野上　慶子 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		応用心理学A 応用心理学B		2前 2後	2 2	1 1	独立行政法人日本学術振興会 特別研究員 （令和5.4）						
339	その他	講師	ﾉｶﾞﾖｳ 野田　葉 ＜令和8年10月＞		修士（法学）		現代国際関係史 国際政治論		2後 3後	2 4	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成9.4）						
340	その他	講師	ﾊﾟｸ　ｼﾝﾁｬ 朴　伸次 ＜令和7年4月＞		Master of Arts (Sociology) from Department of Sociology （アメリカ）		国際学のすすめ	○	1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成30.4）						
341	その他	講師	ﾊﾟｸ　ﾐｷﾞｮﾝ 朴　美暻 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		現代社会とメディア		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成28.4）						
342	その他	講師	ﾊｸｼｮｳ　ﾎﾟｰﾙ ハクショウ　ポール ＜令和8年4月＞		Masters of Education (M.Ed) （アメリカ）		英語セミナーC1 英語セミナーC2		2前 2後	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平成16.4）						
343	その他	講師	ﾊﾞﾊﾞ　ｱﾔｶ 馬場　綾香 ＜令和8年10月＞		博士（学術）		ドイツ語コミュニケーションⅠ ドイツ語コミュニケーションⅡ	○ ○	2後 3前	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
344	その他	講師	ﾊﾔｼ　ﾋｶﾙ 林　光 ＜令和8年10月＞		博士（学術）		開発援助論		2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						
345	その他	講師	ﾊﾔｼﾀﾞ　ﾋﾃﾞｷ 林田　秀樹 ＜令和9年4月＞		修士（経済学）		東南アジア研究B		3前	2	1	同志社大学 人文科学研究所 教授 （平成9.4）						
346	その他	講師	ﾊﾝ ﾎｳﾝ 潘　宝燕 〈令和9年4月〉		博士（経営学）		産業技術論		3前	2	1	龍谷大学 経営学部 講師 （令和6.4）						
347	その他	講師	ﾊﾝ　ﾎﾝﾘ 潘　宏立 ＜令和8年10月＞		博士（文学）		東アジア研究A		2後	2	1	京都文教大学 総合社会学部 教授 （平成24.4）						
348	その他	講師	ﾋｸﾞﾁ ｾｲ 樋口　聖 ＜令和9年4月＞		工学博士		デジタルマーケティング		3前	2	1	Voice4u株式会社 CTO （平成30.7）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
349	その他	講師	ﾋﾞﾅｳ　ﾊｲｹ ビナウ　ハイケ ＜令和8年4月＞		Magister Artium（ドイツ）		ドイツ語セミナーＩＡ ドイツ語セミナーＩＢ ドイツ語セミナーⅡＣ ドイツ語セミナーⅡＤ		2前 2後 3前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	京都外国語大学 外国語学部 准教授 （平成25.4）						
350	その他	講師	ﾋｮｳ　ｴﾝ 馮　艶 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成5.4）						
351	その他	講師	ﾋﾗｵｶ　ﾀｶﾋﾛ 平岡　敬浩 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		数学への旅 数学入門	○ ○	1前 1前	4 4	2 2	立命館大学 理工系基礎教育 専任講師 （令和6.4）						
352	その他	講師	ﾌｸﾓﾄ　ﾀｶｼ 福元　崇志 ＜令和8年10月＞		修士（文学）		芸術の世界B		2後	2	1	国立国際美術館 主任研究員 （平成27.4）						
353	その他	講師	ﾌｼﾞｲ　ｱｷﾋﾛ 藤井　晶宏 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		英語総合1(A) 英語総合2(A) 英語セミナーF1 英語セミナーF2	○ ○	1前 1後 2前 2後	1 1 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成5.4）						
354	その他	講師	ﾌｼﾞｵｶ　ﾏｻｷ 藤岡　真樹 ＜令和7年4月＞		博士（人間・環境学）		現代世界の歴史A	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成20.4）						
355	その他	講師	ﾌｼﾞﾓﾄ　ｱﾂｺ 藤本　厚子 ＜令和7年4月＞		修士（応用英語）		英語総合1(A) 英語総合2(A)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						
356	その他	講師	ﾌｼﾞﾓﾄ　ｱﾔｼ 藤本　篤 ＜令和7年4月＞		修士（アメリカ研究）		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
357	その他	講師	ﾌｾ　ｼｽﾞｶ 布施　静香 ＜令和8年4月＞		博士（理学）		植物の自然誌		2前	2	1	京都大学大学院 理学研究科 助教 （平成25.12）						
358	その他	講師	ﾌﾅｷ　ﾃﾂｵ 舟木　徹男 ＜令和8年4月＞		博士（人間・環境学）		社会思想史		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成20.4）						
359	その他	講師	ﾌﾞﾘｯｼﾞﾏﾝ・ﾊﾟｰｸ ブリッジマン・パーク ＜令和7年4月＞		B.A. Social Sciences -Majored Psychology（Canada） Masters of Education -TESOL（Australia）		英語総合1(A) 英語総合2(A)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成15.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
360	その他	講師	ﾍﾟｸ ｽｼﾞﾝ 白　秀珍 ＜令和7年4月＞		修士（人間科学）※		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語セミナーⅡA コリア語セミナーⅡB	○ ○	1前 1後 3前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
361	その他	講師	ﾍﾔ ﾏﾁｺ 部矢　祥子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		日本の文学A 日本の文学B	○ ○	1前 1後	4 4	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （昭和63.4）						
362	その他	講師	ﾎｿｶﾜ ﾕｳｺ 細川　祐子 ＜令和7年4月＞		文学修士		英語総合1(B) 英語総合2(B) 英語総合3(A) 英語総合3(B) 英語総合4(A) 英語総合4(B)	○ ○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2前 2後 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成18.4）						
363	その他	講師	ﾎﾘｲｴ ﾕｷﾖ 堀家　由妃代 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		教育学のすすめA 教育学のすすめB	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	佛教大学 教育学部 准教授 （平成19.4）						
364	その他	講師	ﾎﾞﾙﾄﾞｩﾆｬｸ ｴﾄﾞﾜﾙﾄﾞ ボルドゥニャク　エドワルド ＜令和8年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ⅢA ドイツ語ⅢB	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
365	その他	講師	ﾎﾞｰﾚﾝ ﾀﾘｰｻ ボーレン　タリーサ ＜令和8年10月＞		修士（日本研究） （アメリカ合衆国）		Intensive Reading Oral Communication ⅠB Reading Fluency Oral Communication ⅡB 学部共通特別講義Ⅱ	 ○ ○ 	2後 2後 2後 3前 3後	4 4 4 4 4	2 1 2 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						
366	その他	講師	ﾎﾞﾜﾄｰ ﾊﾟﾄﾘｽ ボワトー　パトリス ＜令和7年4月＞		映画学士 （フランス）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語セミナーⅠA フランス語セミナーⅠB	○ ○ 	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成7.4）						
367	その他	講師	ﾏｷｼﾀ ﾕｷｺ 巻下　由紀子 ＜令和8年4月＞		修士（言語文化学）		英語総合3(A) 英語総合4(A)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
368	その他	講師	ﾏﾂｵｶ ｴﾘｺ 松岡　絵梨子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		英語総合1(B) 英語総合2(B)	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
369	その他	講師	ﾏﾂﾀﾞ　ｼｹﾞｷ 松田　繁樹 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		スポーツ統計学		3前	2	1	滋賀大学 教育学部 教授 （平成27.4）						
370	その他	講師	ﾏﾂﾀﾞｲﾗ　ﾅｵﾔ 松平　尚也 ＜令和8年10月＞		修士（農学）		フィールドワークの技法		2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.9）						
371	その他	講師	ﾏﾂﾊﾞ　ﾏｺﾄ 松葉　真 ＜令和8年10月＞		修士（栄養学）※		スポーツ栄養学		2後	2	1	園田学園女子大学 人間健康学部 教授 （令和3.4）						
372	その他	講師	ﾏﾂﾊﾞﾗ　ﾌﾐ 松原　史 ＜令和7年4月＞		博士（人間・環境学）		芸術の世界A		2前	2	1	北野天満宮 北野文化研究所 室長 （平成30.4）						
373	その他	講師	ﾏﾂﾓﾄ　ﾏｻｵ 松本　雅生 ＜令和7年10月＞		博士（理学）		情報科学実習		1後	8	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成24.4）						
374	その他	講師	ﾏﾂﾓﾘ　ﾐｷｺ 松盛　美紀子 ＜令和8年10月＞		修士（アメリカ研究）		北米研究A 北米研究B		2後 3前	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
375	その他	講師	ﾏﾙﾔﾏ　ﾋﾃﾞﾕｷ 丸山　英幸 ＜令和7年4月＞		博士 （人間・環境学）		哲学A	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成27.4）						
376	その他	講師	ﾐｳﾗ　ﾏｻｷ 三浦　正樹 ＜令和8年4月＞		教育方法学修士		学習・発達論A 学習・発達論B		2前 2後	2 2	1 1	芦屋大学 臨床教育学部 教授 （平成5.4）						
377	その他	講師	ﾐｶﾐ　ﾃｲｼﾞ 三上　禎次 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		日本の自然　※ 地球科学 自然誌実習　※		1前 1後 2前	1.34 4 0.80	2 2 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成22.4）						
378	その他	講師	ﾐｿﾞｳﾁ ｹｲｽｹ 溝内　啓介 ＜令和8年4月＞		専門士（農業専門課程）		消費者問題論		2前	1	1	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都 事務局長 （令和元.10）						
379	その他	講師	ﾐﾔｵ　ﾓﾄｺ 宮尾　元子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		英語総合1(B) 英語総合2(B) 英語総合3(B) 英語総合4(B)	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成3.4）						
380	その他	講師	ﾐﾔｻﾞｷ ﾀｶﾏｻ 宮崎　崇将 ＜令和9年4月＞		博士（経営学）		ロジスティクス		3前	2	1	追手門学院大学 経営学部 准教授 （平成31.4）						
381	その他	講師	ﾐﾔﾍﾞ　ﾏｻﾌﾐ 宮部　雅文 ＜令和7年4月＞		学士（文学）		教化法　※		1通	1.33	1	浄土真宗本願寺派布教使課程指導員 （平成24.4）						
382	その他	講師	ﾐｮｳｼﾞｮｳ　ﾏﾓﾙ 明星　守 ＜令和8年10月＞		芸術学士		学部共通特別講義C		2後	2	1	神戸北野異人館風見鶏の館　ラインの館副館長 （平成26.1）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
383	その他	講師	ミン　ジフン 閔　智焄 ＜令和7年4月＞		博士（政策科学）		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語ⅢA コリア語ⅢB	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	1 1 1 1	立命館大学 衣笠総合研究機構 助教 （令和元.11）						
384	その他	講師	ﾑﾗｲ　ﾐﾉﾙ 村井　実 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		教職コンピュータ基礎		1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成8.4）						
385	その他	講師	ﾑﾗｵｶ ﾋﾄｼ 村岡　倫 ＜令和8年4月＞		文学修士※		現代社会の諸問題　※		2前	0.13	1	龍谷大学 文学部 教授 （平成8.4）						
386	その他	講師	ﾓﾓｿﾞﾉ　ﾋﾛﾅﾘ 桃園　裕成 ＜令和7年4月＞		文学士		勤式　※		1通	1.60	1	浄土真宗本願寺派 僧侶養成部 勤式担当 （平成31.4）						
387	その他	講師	ﾓﾘ　ｷﾐﾖ 森　貴実代 ＜令和7年4月＞		修士（外国語教育学）		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語セミナーＩＣ コリア語セミナーＩＤ	○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成8.4）						
388	その他	講師	ﾓﾘ　ﾋｻﾖｼ 森　久佳 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		教育の方法と技術（ICT活用を含む）		3前	2	1	京都女子大学 発達教育学部 教授 （令和3.4）						
389	その他	講師	ﾓﾘﾓﾄ　ｾｲｲﾁ 森本　誠一 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		倫理学A	○	1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成27.4）						
390	その他	講師	ﾓﾘﾓﾄ　ﾖｼｵ 森本　芳生 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		教育学のすすめA 教育学のすすめB	○ ○	1前 1後	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平成11.4）						
391	その他	講師	ﾓﾘﾜｷ　ﾄｳｾｲ 森脇　透青 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		宗教の世界A 宗教の世界B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
392	その他	講師	ﾔｽﾑﾗ　ｹｲｺ 安村　恵子 ＜令和8年4月＞		文学修士※		倫理学B		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成5.4）						
393	その他	講師	ﾔﾅｾ ｺｳ 簗瀬　康 ＜令和7年4月＞		修士（人間健康科学）		スポーツ技術学演習	○	1前	8	4	同志社大学 健康スポーツ科学部 助教 (令和3.4)						
394	その他	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ　ｼｮｳ 山口　尚 ＜令和8年4月＞		博士（人間・環境学）		哲学B		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
395	その他	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ　ﾀｹｼ 山口　威 ＜令和7年4月＞		修士（文学） 修士（人間・環境学） DEA（文学研究）（フランス）		西洋の文学A 西洋の文学B フランス語コミュニケーションⅠ フランス語コミュニケーションⅡ	○ ○ ○ ○	1前 1後 2後 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
396	その他	講師	ﾔﾏｽﾞﾐ　ﾄｵﾙ 山澄　亨 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		現代世界の歴史A 現代世界の歴史B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	椙山女学園大学 現代マネジメント学部 教授 （平成22.4）						
397	その他	講師	ﾔﾏﾀﾞ　ﾔｴｺ 山田　弥生子 ＜令和8年10月＞		博士（スポーツ科学）		特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	○ ○ ○	2後～3前 3後～4前 4後	4 4 4	1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
398	その他	講師	ﾔﾏﾓﾄ　ｶｵﾘ 山本　かおり ＜令和8年４月＞		修士（文学）※		英語総合3(B) 英語総合4(B)	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成29.4）						
399	その他	講師	ﾔﾏﾓﾄ ｹｲｺ 山本　桂子 ＜令和9年4月＞		社会学修士		職業指導		3通	4	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成11.4）						
400	その他	講師	ﾕﾗ ﾔｽﾄ 由良　泰人 ＜令和8年10月＞		準学士（映像）		コンテンツビジネス論　※		2後	0.53	1	大阪電気通信大学 総合情報学部 教授 （平成15.4）						
401	その他	講師	ﾖｳ　ﾄｳ 楊　涛 ＜令和7年4月＞		英語教育修士※		英語セミナーA1 英語セミナーA2 学部共通特別講義Ⅳ		1前 1後 3後	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成14.4）						
402	その他	講師	ﾖｳ　ﾘ 楊　莉 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		中国語ⅢA 中国語ⅢB	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和6.4）						
403	その他	講師	ﾖｺﾁ ﾕｷｺ 横地　由起子 ＜令和8年10月＞		学士（文学）		コンテンツビジネス論　※		2後	0.94	1	龍谷大学 非常勤講師 （平成26.4）						
404	その他	講師	ﾖｼｶﾜ　ｱﾔｺ 吉川　絢子 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	○ ○	1前 1後	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （令和3.4）						
405	その他	講師	ﾖｼﾀﾞ ﾀｲﾗ 吉田　平 ＜令和7年4月＞		修士（人間環境学）		スポーツ技術学演習	○	1前	8	4	大阪産業大学 男子バスケットボールコーチ （令和元.4）						
406	その他	講師	ﾖｼﾀﾞ (ｵｵﾊﾗ) ﾀｶｼ 吉田（大原）卓司 ＜令和8年4月＞		法学修士※		生徒・進路指導論		2前	2	1	藍野大学 医療保健学部 教授 （令和5.10）						
407	その他	講師	ﾖｼﾂﾞﾐ　ﾐｷ 吉積　巳貴 ＜令和8年10月＞		博士（地球環境学）		アジアの地域・都市政策		2後	2	1	立命館大学 食マネジメント学部 教授 （平成30.4）						
408	その他	講師	ﾖｼﾉ　ﾀﾂﾔ 吉野　達也 ＜令和8年10月＞		修士（言語文化）		中南米研究A 中南米研究B		2後 3前	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
409	その他	講師	ﾗﾌｨｯﾄ ﾗﾌｧｴﾙ ラフィット　ラファエル ＜令和7年4月＞		日本文化・言語専攻修士（フランス） フランス語教育専攻言語学修士（フランス）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語ⅢA フランス語ⅢB フランス語セミナーⅠD	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後 2後	2 2 1 1 2	1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成31.4）						
410	その他	講師	ﾘﾃｲ 李　婷 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語ⅢC 中国語ⅢD	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
411	その他	講師	ﾘ ﾖﾝｷﾞﾙ 李　庸吉 ＜令和7年4月＞		博士（法律学）		法学のすすめ	○	1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平成23.4）						
412	その他	講師	ﾘｯﾌﾙ ﾅｻﾝ ﾏｲｹﾙ リッフル　ナサン　マイケル ＜令和8年10月＞		Masterof Arts Teaching English to Young Leaners（アメリカ合衆国）		Oral Communication ⅠA Oral Communication ⅠB Critical Essay Oral Communication ⅡA Oral Communication ⅡB Public Speaking	○ ○ ○ ○ ○ ○	2後 2後 3前 3前 3前 3前	4 4 4 4 4 4	1 1 2 1 1 2	龍谷大学 非常勤講師 （平成19.4）						
413	その他	講師	ﾘｭｳ ﾊﾞｲﾚｲ 劉　梅玲 ＜令和7年4月＞		博士（社会文化）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成23.4）						
414	その他	講師	ﾛ ｵｳ 呂　芳 ＜令和7年4月＞		博士（比較社会文化）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	○ ○	1前 1後	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （令和5.4）						
415	その他	講師	ﾛｻﾞｰﾃｨ ｻﾗ ロザーティサラ・Y. ＜令和8年10月＞		Postgradeuate Certificate of Education in English for Secondary Schools（イギリス）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	○ ○	2後 3前	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成2.4）						
416	その他	講師	ﾛﾍﾟｽ ﾊﾟｿｽ ﾌｧﾝ ﾎｾ ロペス　パソス フアン　ホセ ＜令和8年10月＞		Doctor en Filosofia（スペイン）		ヨーロッパ研究C		2後	2	1	天理大学 国際学部 准教授 （平成27.4）						
417	その他	講師	ﾜｹ ｼｭｳｺﾞｳ 和氣　秀剛 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		教化法　※		1通	1.20	1	中央仏教学院 学校教育部講師 （平成31.4）						
419	その他	講師	ﾜﾀﾞ ﾓﾄﾔｽ 和田　資康 ＜令和8年4月＞		博士（言語学）		ドイツ語セミナーⅠC ドイツ語セミナーⅠD		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和4.4）						

別記様式第３号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
420	その他	講師	ﾜﾀﾞ　ﾕﾘｺ 和田　七夕子 ＜令和7年4月＞		博士 （バイオサイエンス）		生命科学のすすめ　※	○	1前	3.07	2	奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科助教 （平成16.4）						
421	その他	助教	ｻﾉ ｱｷﾗ 佐野　彰 ＜令和7年4月＞		博士（情報科学）		教養教育科目特別講義　※		1前	0.13	1	龍谷大学 先端理工学部 助教 （平成12.4）						

別記様式第３号（その２の１）

大宮学舎

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（経営学部商学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
56	その他	教授	タマキ コウジ 玉木　興慈 ＜令和7年4月＞		修士（文学）※		(本山教師)宗教概説		1前	1	1	龍谷大学 文学部 教授 （平成14.4）						
98	その他	准教授	ウチダ ジュンシン 内田　准心 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		(本山教師)仏教史　※		1前	0.63	1	龍谷大学 文学部 准教授 （平成30.4）						
124	その他	准教授	ノロ セイ 野呂　靖 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		(本山教師)仏教史　※		1前	0.38	1	龍谷大学 心理学部 准教授 （平成23.4）						
145	その他	講師	イザワ キヨシ 井澤　清 ＜令和8年4月＞		文学修士※		ラテン語Ⅰ ラテン語Ⅱ		2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令和2.4）						
418	その他	講師	ワダ トシヒロ 和田　利博 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		ギリシア語Ⅰ ギリシア語Ⅱ		2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平成30.4）						

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基幹教員の年齢構成・学位保有状況										
職　　位	学　　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　　計	備　　考
教　　授	博　　士	人	人	人	3人	2人	1人	人	6人	
	修　　士	人	人	人	1人	人	1人	人	2人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博　　士	人	人	1人	3人	1人	人	人	5人	
	修　　士	人	人	人	人	人	1人	人	1人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　　師	博　　士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　　教	博　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　　計	博　　士	人	人	2人	6人	3人	1人	人	12人	
	修　　士	人	人	人	1人	人	2人	人	3人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	